美通遺跡（みとおしいせき）Ａ・Ｃ区

— 一般国道139号（都留バイパス）建設に伴う発掘調査報告書 —

２０１１．３

山 梨 県 教 育 委 員 会
国土交通省　関東地方整備局

美通遺跡 A・C 区空中写真

美通遺跡 C 区北側からの遠景写真

美通遺跡 A 区 1 からの遠景写真

美通遺跡Ａ区１全景

美通遺跡Ａ区２-１・３全景

美通遺跡 A 区 2 - 1 ～ 3 全景

美通遺跡 A 区 2 南からの遠景写真

美通遺跡 C 区全景

美通遺跡 C 区南側からリニア実験線を望む

美通遺跡 A 区 2-1　猿形土製品

美通遺跡 A 区 2-3　３号竪穴住居跡カマド出土

美通遺跡 A 区 1　２号竪穴住居跡

美通遺跡 A 区 1　２・３号掘立柱建物跡

美通遺跡 C 区 37 号土坑出土

美通遺跡 C 区 65 号土坑出土

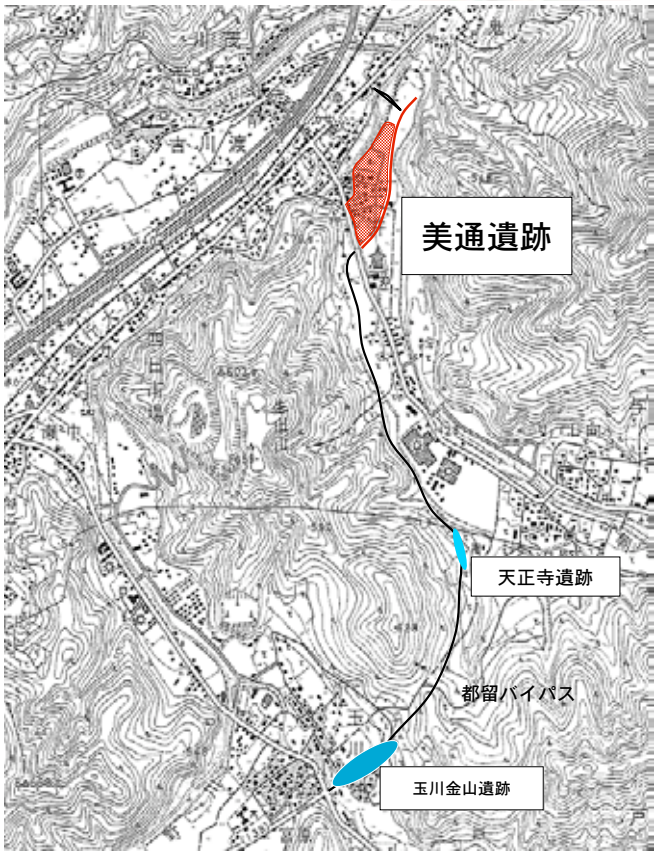
美通遺跡 C 区 12 号ピット出土

あらまし（A・C 区）

美通遺跡は、縄文時代の遺跡として知られていました。この遺跡の東側に、国道 139 号のバイパス（通称都留バイパス）が建設されることになりました。道路や建物を造るときには、その周りに土に埋まった文化財（埋蔵文化財）があるかどうか、確認する必要があります。本格的な工事が始まる前に、遺跡の確認調査が行われ、住居跡や土器の破片、8,000 年前の富士山の噴火で流れ出た溶岩など、いろいろなものが発見されました。この発見から、バイパス予定地は美通遺跡の一部と確認でき、本格的な発掘調査を行うことになりました。調査の結果、Ａ・Ｃ区では住居跡 12 軒、掘立て柱建物跡３軒、土坑約 200 基、溝状遺構約 80 条、集石土坑６基、配石遺構６基、ピット約 190 基の遺構と縄文時代・弥生時代・奈良時代から近世までの遺物が沢山発見されました。

遺跡の周辺

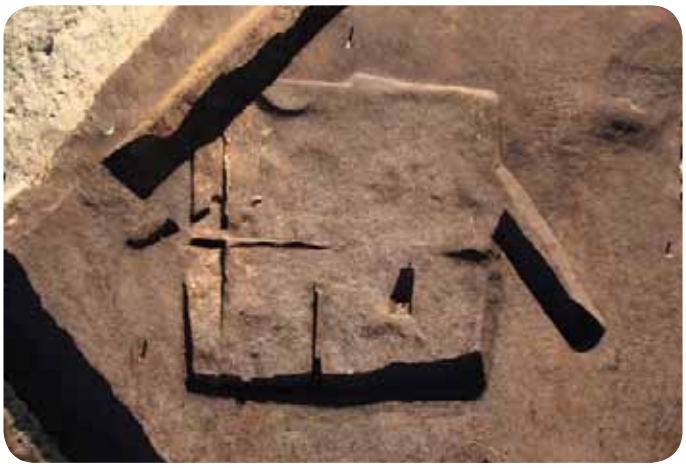
遺跡の南西方向には生出山があります。国道 139 号側と井倉地内に生出神社が奉られ、昔から人々にとって重要な役割をもった山でした。この生出山の西側を流れる菅野川と遺跡の東側を流れる朝日川が合流する段丘上に美通遺跡はあります。周辺には、遺跡が数多く存在していて、生出山にもかつては、弥生時代の遺跡がありました。朝日川の対岸には、九鬼Ⅰ・Ⅱ遺跡などもあります。美通遺跡は縄文時代の遺跡として登録されていましたが、今回の発掘調査で、縄文時代のほか、弥生時代・奈良・平安時代・中世と、人々の営みが続いていたことがわかりました。ここでは、発見された遺構や遺物について説明していきます。



美通遺跡の位置と都留バイパス

A 区１の発掘調査

A 区１は、工事予定地のなかで、最も南に位置します。県道 35 号線とバイパスが交差する部分に近い場所です。ここでは、奈良時代から平安時代の住居跡が５軒、掘立柱建物跡が３軒、土坑・溝などが発見されました。



２号住居跡は、一辺が６ｍの奈良時代の建物跡です。西側の壁にカマドがあるので家と考えられます。カマドのそばから、静岡方面で作られた胴の丸いカメが発見されました。

２号掘立柱建物跡は平安時代の建物跡です。６本の柱を使っています。他の柱の穴を観察してみると穴の中に平らな石が入るものもありました。この石の入るピットを結ぶと、３号掘立柱建物跡になりました。

A 区２－１の発掘調査

A 区 2-1 は、A 区 1 や A 区 2-3 より 1 段下がった地形で、朝日川の旧河川が発見されました。川原石と砂っぽい土壌のなかから、猿形土製品や短刀が埋葬されたお墓などが見つかっています。

猿形土製品

出土短刀

しっぽ

　猿形土製品は、山梨県内で４例目の出土となります。遺構に伴っていないため、時期ははっきりしませんが、数少ない遺物の貴重な発見となりました。
一見、人形とも思えますが、おしりにしっぽがついているので、猿形と考えています。

A 区２－２の発掘調査

A 区 2- ２は、B 区と隣接しています。A 区２－１に近いあたりは、旧河川の流れた跡で深く河原石が堆積していました。、B 区に近いあたりでは土坑や、近世の竪穴遺構・ため池遺構など、陶磁器を出土する遺構が多いことが特徴です。

１号土坑礫出土状況

４号竪穴遺構礫出土状況

A 区２－３の発掘調査

A 区 2-3 は、A 区１と道路を挟んで位置しています。ここでも、奈良時代から平安時代の住居跡が３軒、土坑・溝などが発見されました。住居のカマドも掘削されずのこっていました。

３号住居跡は、北側の壁の中央にカマドがあります。カマドの焚き口近くから、須恵器の蓋が逆さに２つ発見されました。カマドを使わなくなるときにお祭りをしたあとかもしれません。

２号住居跡のカマドです。３号住居跡と同じ北側の壁の中央付近に作られています。カマドは家の壁際に作り、焚き口は家の中にあります。カマドが作られる場所は時代によって異なります。

C 区南側の発掘調査

C 区は、用水路を挟んで調査区が北と南に分かれています。その南側では、平安時代の住居跡４軒、土坑・溝・焼土がたくさん発見されました。なかでも、調査区北側の一部分に、13 世紀頃の遺物を出土する土坑などが、発見されたことは貴重な資料となりました。

37 号土坑在地産陶器カメ

31 号土坑　短刀

65 号土坑　瀬戸産鉄釉小壺

31 号土坑は、人骨を伴った遺構であるためお墓と考えています。出土した歯は、青年(16 ～ 20 歳程度)に達していない若い人のもでした。また､65 号土坑から出土した小壺は、１３世紀頃に作られた瀬戸焼きに似ていいます。土坑の土を分析してみると、13 世紀末～ 14 世紀後半の頃のお墓の可能性がでてきました。

C 区北側の発掘調査

C 区北側は、今回の調査区域の最北端の位置になります。南側と同じ土坑や溝も見つかっていますが、縄文時代早期から前期にかけての住居跡や集石土坑・縄文土器や石器の発見が注目されます。また、遺構は見つかりませんでしたが、弥生時代の遺物包含層が確認できたことは重要です。

２号集石土坑２面

２号集石土坑最下層の礫

約６，５００年ほど前の深鉢型土器

A・C 区の発掘調査

各調査区の特徴を、南から順に説明してみると、様々な時代の遺構・遺物が発見されていて驚きます。A 区 1 ・A 区 2-3 の奈良・平安時代、A 区 2-1・2 は古墳時代から近世まで、C 区では縄文時代・弥生時代・中世など。

遺跡がある井倉地内は、日当たりも良く水も豊かな場所であり、昔から人間の営みが絶えることのない場所であったことがわかりました。

道路が完成すると、玉川方面から田野倉方面に向かう途中、国道 139 号に合流する手前には、リニアモーターカーの実験線が正面に広がります。時々、リニアモーターカーの姿も見る事が出来るかもしれません。縄文時代からこの土地で営まれている生活は、交通の利便性が高まるとともに、変化していきます。現在は、水田や畑が多い静かな地域ですが、バイパス開通後に、どのように変化していくのでしょうか。

序　文

本書は、一般国道１３９号（都留バイパス）の建設工事に伴い、平成20年度から22年度にかけて発掘調査を行った美通遺跡Ａ区とＣ区の調査報告書です。

美通遺跡は、都留市井倉地内に位置しており、遺跡の中を通過する都留バイパス南北約600ｍのルート上を、南側からＡ区、Ｂ区、Ｃ区の３地区に分けて発掘調査を行いました。

調査の結果、Ａ区では奈良～平安時代の住居跡８軒、掘建柱建物跡３棟、土坑93基、溝36条、旧河道１流、近世の竪穴遺構５基、ため池遺構１基などを調査しています。Ｃ区では縄文時代早期～前期の住居跡１軒、集石土坑６基、平安時代の住居跡３軒、土坑116基、溝51条、焼土跡24基と13～14世紀の墓と思われる遺構２基などを検出しました。

縄文時代の美通遺跡で際立っているのは集石土坑の検出です。石材の選択や住居跡との関係が今後検討すべき課題であります。弥生時代ではＢ区で墓と思われる土坑を検出していますが、Ｃ区では包含層を調査しました。奈良時代の住居跡は県内でも比較的少なく、都留バイパスでは玉川金山遺跡に続く発見となります。平安時代の住居跡はＡ区とＣ区離れて発見されております。時期も少し違うため別の集落跡であった可能性があります。特にＡ区で発見された礎板石を持つ掘建柱建物跡は、数少ない事例であります。Ｃ区では13～14世紀の墓と思われる遺構を検出しており、特に31号土坑は人骨と短刀を持つもので、歯の分析から青年に達しないものであることが判明しております。また、Ａ区の旧河道からは猿形土製品という愛らしい出土遺物もあります。

美通遺跡は都留バイパス建設工事に先立つものでありますから、この都留市井倉地区に約600ｍに及ぶトレンチを入れたことになります。特に約8,000年前に富士山から流れ下った猿橋溶岩が、遺跡内に数箇所に渡って見られました。大きな災害と地形の改変をもたらしたことが容易に推定されます。溶岩流のない場所を選んで縄文時代早期から近世まで遺跡を営んでいたことがわかります。

別冊となる「美通遺跡Ｂ区」の調査報告書とともに、本報告書が地域や本県の歴史・文化財の学習や研究に、貢献できれば幸いに思います。

最後に、国土交通省関東地方整備局をはじめ、調査にあたって御協力をいただいた関係者、関係機関に厚く御礼申し上げます。

２０１１年３月

山梨県埋蔵文化財センター
所長　小野　正文

例　　言

1．本書は美通遺跡Ａ・Ｃ区の発掘調査報告書である。

2．調査は、一般国道 139 号（都留バイパス）建設工事に伴い、国土交通省関東地方整備局から山梨県教育委員会が委託を受け、発掘調査・整理作業・報告書作成を山梨県埋蔵文化財センターが実施した。

3．遺跡の所在地は、山梨県都留市井倉地内である。

4．調査主体　山梨県教育委員会

調査機関　山梨県埋蔵文化財センター

平成 21 年度　所長　小野　正文
次長　渡辺　晶夫
調査研究課長　出月　洋文
調査第１担当　リーダー　高野玄明
調査第３担当　リーダー　小林健二

平成 22 年度　所長　小野　正文
次長　平賀　孝雄
調査研究課長　出月　洋文
調査第３担当　リーダー　吉岡広樹

5．調査担当　Ａ区1・Ｃ区・・・・副主査文化財主事　笠原みゆき・主任文化財主事　堀込紀之
Ａ区２－1～３・・・副主査文化財主事　石井明・主任文化財主事　依田幸浩

6．本書の原稿執筆は、第２章遺跡の位置と環境と第３章Ａ・Ｃ区の出土石器を塩谷季風（埋蔵文化財センター臨時職員）が、第３章遺構・遺物のＡ区２については依田幸浩が、第４章自然化学分析を（株）パリノサーヴェイ（千葉博俊ほか）が行い、そのほかの執筆・編集は笠原みゆきがおこなった。また、発掘調査の写真撮影は、Ａ区1・Ｃ区を笠原・堀込が、Ａ区2-1～３を依田・石井が行い、報告書掲載に伴う遺物の撮影は、スタジオ・トータルアイが行った。

7．発掘調査は、平成 21 年6月 29 日から平成 21 年 12 月 25 日まで行い、整理作業については、平成 22 年1月6日から3月 18 日の基礎的整理作業と、平成 22 年6月1日から平成２３年3月 18 日まで本格的整理作業・報告書作成をおこなった。なお、調査区ごとの調査期間は、第1章発掘調査の経緯に詳細は記載してある。

8．整理作業については、埋蔵文化財センターでおこなった。

9．本書にかかる出土品および記録図面・写真・出土遺物・デジタル化したデータなどは、一括して山梨県埋蔵文化財センターに保管してある。

10．発掘調査に係る調整機関は山梨県教育委員会学術文化材課で、調整担当は正木季洋である。

11．発掘調査の基準となった基準点測量５m間隔のグリッド杭打ち・基準標高測量は昭和測量に委託し、遺跡の空中撮影及び平面図の図化は東京航業研究所に委託した。また、発掘調査・整理作業では、（株）シン技術コンサルの遺跡管理システムを導入し、発掘調査時には、デジタルカメラ撮影からデジタル計測による平面図・断面図の図化の委託をおこなった。自然科学分析については、AMS 年代測定・リン分析・樹種同定などはパリノ・サーヴェイ株式会社へ、金属製品の保存処理は、（財）山梨文化財研究所に委託した。

12．発掘調査期間中には、都留文科大学非常勤講師　上杉陽氏に火山灰および土層の堆積状態を観察していただき、ご指導していただいた。また、発掘調査・報告書作成にあたり、以下の方々にご教示・ご協力などを賜った。記して感謝申し上げたい。（順不同、敬称略）

森屋雅幸（都留市教育委員会）、福田正人（元大月市教育委員会）、保坂康夫（県立考古博物館）

凡　　例

１．文章中に記載した「竪穴遺構」は、「竪穴住居跡」とは内容を異にするものである。

２．遺構名などの略号は、竪穴住居跡を住居跡、配石遺構を配石、集石土坑を集石、溝状遺構を溝、焼土遺構を焼土などと表記することがある。

３．遺構および遺物の縮尺はつぎのとおりである。

住居跡　１：４０　１：８０

カマド　１：４０　１：３０

土坑・溝・ピット　１：４０　１：６０　１：３０

土器　　１：３

金属製品　１：３　１：２

石器　　１：３　１：２　１：６

４．遺物の注記は、Ａ区１とＣ区は「09.美トオシＣ区　PJ １」のように、年度、遺跡名、調査区、遺物番号の順に記し、Ａ区２では、「美通 A2-3　３住　１４」のように、遺跡名、調査区、遺構名、遺物番号の順になっている。

５．掲載した遺物は、遺構からの出土を優先し、遺構外の遺物も大きめの破片や、特徴的なものを選択している。遺物の実測図の縮尺は、上記３で示したとおりである。遺跡全体図は国土座標とした。各遺構平面図中の方位は、すべて座標の北に合わせてある。

６．遺構図版中の遺物番号は、遺物図版番号に対応している。遺構図中の断面図脇にある数値は標高をしめす。

７．焼土は　　、炭化材は　　のスクリントーンを使用して表記している。遺物図版中の遺物断面を黒く塗りつぶしているものは須恵器を示す。遺物図版中の遺物番号は、写真図版・観察表・文章中の表記に一致している。

８．写真図版については、検出された遺構の完掘状況をほぼ掲載し、必要に応じて、断面、遺物出土状況を掲載した。

９．俯瞰写真の縮尺については、特に縮尺を設定していない。

10．土層説明における土色表示は、農林水産省水産技術会議事務局監修の『新版　標準土色帳』を使用した。

11．本報告書中で使用した地図は、国土地理院発行の 1/25.000 地図を使用した。

12．遺構・遺物の一覧表における（数値）は推定値である。

目　　次

第１章　序
例言
凡例
本文目次
挿図目次
表目次
図版目次
第１章　経過 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査の目的と課題 …… 1
　第３節　発掘調査の経過 …… 2
　第４節　室内整理等の経過 …… 3
第２章　遺跡の位置と環境 …… 4
　第１節　地理的環境 …… 4
　第２節　歴史的環境 …… 4 ～ 5
第３章　調査の方法と成果 …… 8
　第１節　調査の方法 …… 8
　第２節　層序 …… 8
　第３節　遺構と遺物 …… 9
第４章　自然科学的分析 …… 69
第５章　総括 …… 89
写真図版
報告書抄録
奥付

挿図目次

第　１図　美通遺跡周辺の遺跡分布図
第　２図　美通遺跡位置図
第　３図　美通遺跡Ｃ区土層断面図
第　４図　美通遺跡調査区位置図（S=1/300）
第　５図　美通遺跡Ａ区１全体図（S=1/300）
第　６図　美通遺跡Ａ区２全体図（S=1/300）折り込み
第　７図　美通遺跡Ｃ区全体図（S=1/400）折り込み
第　８図　Ａ区１　遺構平面図及び断面図（１号住居跡）
第　９図　Ａ区１　遺構平面図及び断面図（２号住居跡）
第１０図　Ａ区１　遺構平面図及び断面図（１・２号住居跡遺物分布図）
第１１図　Ａ区１　遺構平面図及び断面図（３号住居跡）
第１２図　Ａ区１　遺構平面図及び断面図（４号住居跡）
第１３図　Ａ区１　遺構平面図及び断面図（５号住居跡）
第１４図　Ａ区１　遺構平面図及び断面図（１～１０号土坑）
第１５図　Ａ区１　遺構平面図及び断面図（１１～２１号土坑、４・９号溝状遺構）
第１６図　Ａ区１　遺構平面図及び断面図（２２～３７号土坑）
第１７図　Ａ区１　遺構平面図及び断面図（１～３・５・６号溝状遺構、２５号土坑）
第１８図　Ａ区１　遺構平面図及び断面図（7～8・10～18号溝状遺構）
第１９図　Ａ区１　遺構平面図及び断面図（１号掘立柱建物跡とピット群）
第２０図　Ａ区１　遺構平面図及び断面図（２号掘立柱建物跡）
第２１図　Ａ区１　遺構平面図及び断面図（２・３号掘立柱建物跡と１号柱穴列）
第２２図　Ａ区１　遺構平面図及び断面図（１・２号配石遺構）
第２３図　Ａ区2-1　遺構平面図及び断面図（全体図など）
第２４図　Ａ区2-1　遺構平面図及び断面図（礫検出状況）
第２５図　Ａ区2-1　遺構平面図及び断面図（１・２号土坑、１・２号溝、人骨（短刀）検出状況）
第２６図　Ａ区2-1　遺構平面図及び断面図（サブトレンチセクション）
第２７図　Ａ区2-2　遺構平面図及び断面図（１～３・５・６・２１号土坑、１・２号溝状遺構）
第２８図　Ａ区2-2　遺構平面図及び断面図（４・７～１０号土坑、３・４溝状遺構）
第２９図　Ａ区2-2　遺構平面図及び断面図（１１号～１８号土坑）
第３０図　Ａ区2-2　遺構平面図及び断面図（１９・２０号土坑、５～１０号溝状遺構、１号ピット）
第３１図　Ａ区2-2　遺構平面図及び断面図（１１号溝状遺構、１～４号竪穴遺構）
第３２図　Ａ区2-3　遺構平面図及び断面図（１号住居跡）
第３３図　Ａ区2-3　遺構平面図及び断面図（２号住居跡
第３４図　Ａ区2-3　遺構平面図及び断面図（３号住居跡）
第３５図　Ａ区2-3　遺構平面図及び断面図（３号住居跡内土坑・カマド前礫集中・カマド周辺出土遺物）
第３６図　Ａ区2-3　遺構平面図及び断面図（１～１１号土坑）

第３７図　A 区 2-3　遺構平面図および断面図（１２～１８号土坑、３・４・６号溝状遺構）
第３８図　A 区 2-3　遺構平面図および断面図（２０～２４・２６～２８号土坑）
第３９図　A 区 2-3　遺構平面図および断面図（２９・３０・３２号土坑、１・２・５溝状遺構）
第４０図　C 区　遺構平面図および断面図（１・２号住居跡）
第４１図　C 区　遺構平面図および断面図（2・4 号住居跡カマド、3 号住居跡）
第４２図　C 区　遺構平面図および断面図（１～１３号土坑）
第４３図　C 区　遺構平面図および断面図（１４～２８号土坑）
第４４図　C 区　遺構平面図および断面図（２９・３０・３３～３６・３９～４４号土坑、10・11 号溝状遺構）
第４５図　C 区　遺構平面図および断面図（４５号～５６号土坑）
第４６図　C 区　遺構平面図および断面図（５７号～６７・６９・７２・８９号土坑）
第４７図　C 区　遺構平面図および断面図（７３号～７９・８１～８３・１０４号土坑、３０・４２号溝状遺構）
第４８図　C 区　遺構平面図および断面図（８４号～８８・９１～９６・１１２号土坑）
第４９図　C 区　遺構平面図および断面図（９８号～１０３、１０５～１１０号土坑、５１号溝状遺構）
第５０図　C 区　遺構平面図および断面図（１１３号・１１４・１１６～１１８号土坑、ピット群）
第５１図　C 区　遺構平面図および断面図（３１土・３７・３８号土坑）
第５２図　C 区　遺構平面図および断面図（1 号～6・8・9・１３号溝状遺構）
第５３図　C 区　遺構平面図および断面図（１４～１６・１８～２１・２５～２７号溝状遺構）
第５４図　C 区　遺構平面図および断面図（22・27 ～ 29・31 ～ 34・36・37 号溝状遺構、22 号焼土遺構）
第５５図　C 区　遺構平面図および断面図（35・39・41・43 ～ 47 号溝状遺構、71・90 号土坑）
第５６図　C 区　遺構平面図および断面図（38・48 ～ 50 号溝状遺構、111 号土坑、16 号焼土遺構）
第５７図　C 区　遺構平面図および断面図（1 ～ 7・10・12 ～ 14・17・18・23・24 号焼土遺構）
第５８図　C 区　遺構平面図および断面図（1 号配石遺構 1 面・２面）
第５９図　C 区　遺構平面図および断面図（1 号配石遺構 3 面、11 号焼土、２・3 号配石遺構）
第６０図　C 区　遺構平面図および断面図（１・２号集石土坑）
第６１図　C 区　遺構平面図および断面図（３・４・６号集石土坑）
第６２図　C 区　遺構平面図および断面図（５号集石土坑）
第６３図　A 区 1　出土遺物（1 号住居跡・２号住居跡）
第６４図　A 区 1　出土遺物（2 号住居跡）
第６５図　A 区 1　出土遺物（2 号住居跡）
第６６図　A 区 1　出土遺物（2 号住居跡）
第６７図　A 区 1　出土遺物（3 号～ 5 号住居跡）
第６８図　A 区 1　出土遺物（2・3・11・18 ～ 20・28・29 号土坑、3・4・5 号溝状遺構）
第６９図　A 区 1　出土遺物（9・11 号溝状遺構、1・3 ピット、1 号配石遺構、遺構外）
第７０図　A 区 1・A 区 2-1　出土遺物（遺構外）
第７１図　A 区 2-2　出土遺物（1 号土坑、３・４号竪穴遺構）
第７２図　A 区 2-2　出土遺物（4 号竪穴遺構、石垣）
第７３図　A 区 2-2・A 区 2-3　出土遺物（A 区 2-2 はタメ池状遺構、遺構外、A 区 2-3 は 1 号住居跡）
第７４図　A 区 2-3　出土遺物（2 号住居跡）
第７５図　A 区 2-3　出土遺物（3 号住居跡）

第７６図　Ａ区 2-3　出土遺物（遺構外、Ａ区２出土金属製品）
第７７図　Ｃ区　出土遺物（４号住居跡、31・37・65 号土坑、12 ピット、遺構外出土金属製品）
第７８図　Ｃ区　出土遺物（縄文土器１）
第７９図　Ｃ区　出土遺物（縄文土器２）
第８０図　Ｃ区　出土遺物（縄文土器３）
第８１図　Ｃ区　出土遺物（弥生土器）
第８２図　Ａ・Ｃ区　出土遺物（打製石斧・磨製石斧・磨石）
第８３図　Ａ・Ｃ区　出土遺物（磨石、敲き石、石鏃、石匙、磨製石鏃）
第８４図　Ａ・Ｃ区　出土遺物（砥石、石臼、台石、碁石、おはじき）
第８５図　Ｃ区　出土遺物（礫器）
第８６図　Ｃ区　出土遺物（礫器・剥版）
第８７図　Ｃ区　出土遺物（礫器・剥版・スクレイパー）

表目次

第１表　美通遺跡周辺の遺跡
第２表　ピット計測一覧表
第３表　出土遺物観察表
第４表　出土石器一覧表

図版目次

巻頭図版１
巻頭図版２
巻頭図版３
巻頭図版４
巻頭図版５
巻頭図版６
巻頭図版７
巻頭図版８
巻頭図版９
巻頭図版１０

図版１　Ａ区１遺構
図版２　Ａ区１遺構
図版３　Ａ区１遺構
図版４　Ａ区１遺構
図版５　Ａ区１遺構
図版６　Ａ区１遺構
図版７　Ａ区１遺構
図版８　Ａ区１遺構
図版９　Ａ区１遺構
図版１０　Ａ区１遺構

自然科学分析　表・図版目次

第１表　放射性炭素年代測定結果および暦年較正結果
第２表　樹種同定結果
第３表　種実同定結果
第４表　リン分析結果
第５章　骨同定結果
第１図　美通遺跡（Ａ区２）の腐食含量・リン酸含量の相関 (上段) および美通遺跡（Ａ区１・Ｃ区）の各土坑のリン酸含量（下段）
第２図　須恵器片（09 美トオシ Ａ区１－ PS49）内面黒色物質の SEM-EDS 分析結果
図版１　炭化材（１）
図版２　炭化材（２）
図版３　炭化材（３）・炭化物
図版４　炭化材（４）
図版５　炭化材（５）・種実遺体
図版６　種実遺体
図版７　須恵器・黒色物質・出土骨

図版１１　Ａ区１遺構
図版１２　Ａ区１遺構
図版１３　Ａ区１遺構
図版１４　Ａ区１遺構
図版１５　Ａ区１遺構
図版１６　Ａ区１遺構
図版１７　Ａ区２遺構 -1
図版１８　Ａ区２遺構 -2
図版１９　Ａ区２遺構 - ３
図版２０　Ａ区２遺構 - ４
図版２１　Ａ区２遺構 - ５
図版２２　Ａ区２遺構 - ６
図版２３　Ａ区２遺構 - ７
図版２４　Ａ区２遺構 - ８
図版２５　Ａ区２遺構 - ９
図版２６　Ａ区２遺構 - １０
図版２７　Ａ区２遺構 - １１
図版２８　Ａ区２遺構 - １２
図版２９　Ａ区２遺構 - １３
図版３０　Ａ区２遺構 - １４
図版３１　Ａ区２遺構 - １５
図版３２　Ａ区２遺構 - １６
図版３３　Ａ区２遺構 - １７
図版３４　Ｃ区遺構―１
図版３５　Ｃ区遺構―２
図版３６　Ｃ区遺構―３
図版３７　Ｃ区遺構―４
図版３８　Ｃ区遺構―５
図版３９　Ｃ区遺構―６
図版４０　Ｃ区遺構―７
図版４１　Ｃ区遺構―８
図版４２　Ｃ区遺構―９
図版４３　Ｃ区遺構―１０
図版４４　Ｃ区遺構―１１
図版４５　Ｃ区遺構―１２
図版４６　Ｃ区遺構―１３
図版４７　Ｃ区遺構―１４
図版４８　Ｃ区遺構―１５
図版４９　Ｃ区遺構―１６
図版５０　Ｃ区遺構―１７
図版５１　Ｃ区遺構―１８
図版５２　Ｃ区遺構―１９
図版５３　Ｃ区遺構―２０
図版５４　Ｃ区遺構―２１
図版５５　Ｃ区遺構―２２
図版５６　Ｃ区遺構―２３
図版５７　Ｃ区遺構―２４
図版５８　Ｃ区遺構―２５
図版５９　Ｃ区遺構―２６
図版６０　Ｃ区遺構―２７
図版６１　Ｃ区遺構―２８
図版６２　Ｃ区遺構―２９
図版６３　Ｃ区遺構―３０
図版６４　遺物―１
図版６５　遺物―２
図版６６　遺物―３
図版６７　遺物―４
図版６８　遺物―５
図版６９　遺物―６
図版７０　遺物―７
図版７１　遺物―８
図版７２　遺物―９
図版７３　遺物―１０
図版７４　遺物―１１
図版７５　遺物―１２
図版７６　遺物―１３
図版７７　遺物―１４
図版７８　遺物―１５
図版７９　遺物―１６

第１章　経過

第１節　調査に至る経過

美通遺跡の発掘調査は、一般国道 139 号線のバイパス建設を原因とする。遺跡の周辺には、中央高速道路富士五湖線・富士急行線・国道 139 号線が平行して南北に通っており、これに県道 35 号線が直行する。国道 139 号線は、道幅が狭いため交通渋滞が著しい。特に、国道と県道が交差する付近には、都留市立禾生第一小学校が隣接していて、大型車両の交通量も多いことから、安全面が問題視され、環境改善が急務となっていた。

美通遺跡は周知の埋蔵文化財包蔵地であり、工事予定区域は遺跡の東側数十メートルと隣接している。そのため、工事対象面積、約 650 m× 18 m（11,700㎡）で未買収地を除く 10,040㎡の試掘調査が、平成 19 年７月 18 日～ 27 日まで行われた。調査は、未買収地を挟んで南側をＡ区、北側をＢ区とし、Ａ区に９本、Ｂ区に 14 本トレンチ面積約 510㎡で実施された。その結果、Ａ区では、第１～３・第９号トレンチで遺構・遺物が確認され、特に第９号トレンチからは、古墳時代末から奈良時代の住居跡１軒･同時代の土坑１基･時期不明の土坑１基、土師器などが発見された。また、Ｂ区では、第１～ 10・16 ～ 18 号トレンチで、縄文土器片・須恵器片・灰釉陶器片が発見され、特に、第 15 号トレンチでは敷石住居跡が発見された。この結果をもとに、平成 19 年８月 16 日付けで美通遺跡の範囲変更届けが出され、従来の遺跡範囲に、都留バイパス建設予定地を含む広範囲が追加された。そして、平成 20 年度には、Ｂ区の中央から北側部分の発掘調査が行われた。Ｂ区については、山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第 275 集を参照のこと。

都留バイパス建設予定地では、用地交渉の確認が出来たところから随時、調査を進める方向にあり、平成 21 年１月 21 日から 27 日に、Ｂ区北側、Ｃ区とした対象面積 2,900㎡の試掘調査を行った。トレンチは、15 本設定し、北側から調査を行った。その結果、調査区を南北に流れる用水路を挟んで南側から、縄文時代の集石土坑や遺物が発見され、北側では、時期不明の焼土遺構や土坑が２３基確認された。このため、Ｃ区も発掘調査の対象となった。そして、その結果をもとに、平成 21 年６月 29 日～ 12 月 25 日まで、Ａ区・Ｂ区３・Ｃ区の発掘調査が実施された。発掘調査を実施するにあたりＡ区２は、未買収地であったために試掘のできなかった区域であり、本調査の直前にトレンチを設定し、重機で試掘調査を行うというものであった。工事の日程に合わせるため、随時、発掘調査を進めた結果、調査区が細分されてしまい、Ａ区は１・２、Ｂ区は１・２・３・４、となり、さらに、調査の都合上、Ａ区２が１・２・３と区分けされ発掘調査が進められた。

現在、都留バイパスは都留市十日市場付近で国道 139 号線から分岐し、都留文科大学前をとおり、都留市玉川まで開通している。平成 16 年度から４年の間、玉川金山遺跡・天正寺遺跡の発掘調査が行われ、平成 20・21 年度の美通遺跡の調査終了後、管野川に新たに造られた橋をわたり、ふじスイミングスクール駐車場脇から 139 号線に接続する予定である。

第２節　調査の目的と課題

本調査は、周知の遺跡として古くから知られる美通遺跡の発掘調査である。平成 19・20 年度に試掘調査を行い、遺構・遺物が確認されたため本調査となった。試掘調査は、県道 35 号線に接続する南側から、約 650 m の工事予定地内と広範囲であり、その結果も、Ａ区１では古墳時代から奈良時代の住居跡や土坑、Ｂ区では敷石住居跡や縄文土器片が、Ｃ区では縄文時代の集石遺構や平安時代以降の焼土遺構や溝・土坑など多くの遺構・遺物が確認された。

美通遺跡は縄文時代の遺跡であり、登録されていた遺跡範囲に工事予定地が隣接する形であった。このため、試掘調査後、遺跡の範囲は追加され、工事予定地内を含む形で再登録された。また、平成 20 年度のＣ区への試掘調査や、平成 22 年８月 27 日に行った、Ｃ区よりさらに北側の地点を含めて、平成 22 年 10 月 21 日には、再度、遺跡範囲の登録がおこなわれ、現在では都留バイパスの路線を含む広範囲な登録になっている。

そこで、今回の調査では、追加登録された範囲の正確な内容の把握とその確定を課題として発掘調査を行った。

第３節　発掘調査の経過

発掘調査は、平成 21 年６月 29 日～ 12 月 25 日まで、６ヶ月間実施した。調査区ごとの調査期間は、以下のとおりである。

Ａ区１　　平成 21 年 11 月１日～ 12 月 25 日
Ａ区２- １　平成 21 年６月 29 日～８月 11 日、11 月４日～２月９日
Ａ区２- ２　平成 21 年 12 月７日～ 12 月 25 日
Ａ区２- ３　平成 21 年 10 月 19・20 日（表土はぎ）、11 月２日～ 12 月 14 日
Ｃ区　　平成 21 年６月 29 日～ 11 月８日

・調査に係わる事務手続き

発掘調査に際しては、文化財保護法に基づく手続きの他に、発掘調査の経過に係わる報告をおこなった。それらの事務手続きは以下のとおりである。また、文化財保護法第 99 条第２項に基づく発見通知は、山梨県教育委員会に提出した後、学術文化財課から所轄の警察署に提出された。

平成 21 年６月 29 日　文化財保護法第 99 条第２項に基づく発掘通知を山梨県教育委員会教育長に提出
平成 22 年１月 15 日　文化財保護法第 100 条第２項に基づく発見通知を山梨県教育委員会教育長に提出
平成 22 年１月 21 日　発掘調査の終了報告を山梨県教育委員会教育長に提出
平成 22 年３月 11 日　発掘調査・整理作業の実績報告書を山梨県教育委員会教育長に提出

・調査体制

調査主体　山梨県教育委員会
調査機関　山梨県埋蔵文化財センター
所長　小野正文
次長　渡辺晶夫（平成 21 年度）、平賀孝雄（平成 22 年度）
調査研究課長　出月洋文
調査第１担当　リーダー　高野玄明
調査第３担当　リーダー　小林健二
Ａ区１･Ｃ区 … 副主査文化財主事　笠原みゆき･主任文化財主事　堀込紀之　塩屋風季(平成 22 年度)
Ａ区 2-1 ～３… 副主査文化財主事　石井明・主任文化財主事　依田幸浩

発掘調査非常勤嘱託職員

Ａ区１・Ｃ区
阿佐美博資・天野美津子・石井昇・奥脇光夫・小林信平・佐藤安彦・椿孝二・遠木常久・本庄えりか・渡辺めぐみ・渡邊洋一・山田正之・佐藤小織・青柳良子・岡田友美・山本弘子・清水光一・小澤みどり・石倉千春・田中奈津代・高尾和美・飯田亮太・間中愛・廣橋里香・宮下恭輔・川手勇太・井上健治・熊谷美奈・高部博志・佐藤和子・設楽なつみ・山下翔平・岩榮恵理沙・渡邊智子

Ａ区２
赤塚美弥子・飯寄停・入倉大東・大友由貴・岡弥幸・斧田文夫・小林昭子・小林清子・小林正彦・佐藤あさ子・佐藤専・志村均・鈴木英夫・中野猪一郎・野表達雄・三井孝明・武藤美子・村野貴恵子・森田晋二

第４節　室内整理等の経過

室内整理は、平成 22 年１月６日から３月 26 日まで、山梨県埋蔵文化財センターにて基礎的整理をおこなった。作業内容は、遺物の洗浄・注記、遺構内での遺物接合作業、一部の復元作業と、現場で作成した遺構の測量図・遺物の実測図や現地で撮影してきた写真の整理などをおこなった。また、現場の空中写真から全体図を作成する業務委託の校正、特殊な遺構のデジタル測量図の図面校正、現場で測量した光波測量のデータ管理などの作業も

おこなった。

平成 22 年 6 月 2 日から平成 22 年 3 月 18 日まで、山梨県埋蔵文化財センターにおいて本格的整理・報告書作成にむけて作業をおこなった。基礎的整理作業での遺物の接合は短期間であったため、遺構から出土した遺物について接合作業を補足した。接合作業と同時に、遺物観察を行い、実測する遺物の選別作業を進め、これと平行して遺構内などから出土した礫類の観察も行い、計測などをおこなった。選別した遺物は、調査区ごとに実測番号をつけ順次、実測作業をおこなった。遺構については、遺物の実測作業終了後、第二原図の作成を行い、その後、遺物・遺構ともトレース・図版組みと作業を進めた。また、遺物については、スタジオ・トータルアイに委託し、報告書掲載用の写真撮影を 2 日間おこなった。

平成 21 年度には、発掘調査で発見された遺構内土壌・出土炭化物などから、年代測定・リン分析・樹種同定などの自然科学分析をおこなった。平成 22 年度は、整理作業を進めたなかで、土器に塗布された物質の分析や、昨年度の分析結果をうけ、再度、追加試料を選定したものなどの分析を行った。

整理作業非常勤嘱託職員

平成 21 年度　熊谷正博・中沢美恵・矢崎緑・川手勇太・山本三重子

平成 22 年度　斉藤律子・清水真弓・中沢美恵

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

美通遺跡は、山梨県都留市井倉地内に位置している。美通遺跡は河岸段丘上に立地しており、遺跡東側に朝日川が、遺跡西側に菅野川が流れ、美通遺跡北側へ至ると桂川に合流する。

都留市は山梨県東部にある郡内地域に位置しており、地理的環境が甲府市などを含む山梨県中西部の国中地域とは大きく異なる。山梨県東部地域の地形は、山地と山間を流れる河川による開析が形成した平地に大別でき、都留市もやはり山地が多くの面積を占め、平地は少ない。これらの特徴は郡内地域の特徴であり、美通遺跡周辺の地理的環境も同様である。

都留市域の中央部北西寄りに、富士五湖の１つ山中湖を水源とする桂川が流下している。桂川は大月市内で東流する笹子川と合流し、神奈川県内で相模川となって相模湾へと注ぐ。美通遺跡は桂川支流の朝日川の左岸に位置し、標高およそ 413 ～ 418 m、北に緩やかに傾斜する河岸段丘面に立地している。また桂川とその支流域には河岸段丘が発達しており、美通遺跡の北方には桂川流域の河岸段丘では最大級の平坦地である大原台地がある。美通遺跡を含む桂川流域の地形形成過程において、河川による洗掘や磨食などの地形を変化させる作用を強く受けた地域であると考えられる。

更新世から含めて地形形成過程を概観すると、都留市は日本列島を南北に分断する中央地溝帯と呼ばれるフォッサ・マグナの中央部に位置しており、隆起帯と沈降帯が繰り返す場となった。やがて全体として隆起を続けて、４～３万年前以降になると、特に激しく隆起し、極めて急峻な山地と渓谷が形成された。

山梨県東部地域のもう１つの特徴として、都留市南側に立地する富士山を起源とする火山灰が厚く堆積した地域であり、火山泥流や溶岩などからの影響を大きく受けていることが挙げられる。また火山灰は富士山を起源のものだけではなく広域火山灰も認められている。都留市内でも約 8000 ～ 8500 年前に流出したとされる猿橋溶岩が認められており、また美通遺跡 B 区 1 では縄状溶岩が確認された。桂川を流下した猿橋溶岩は大月市猿橋まで達しており、桂川流域に大きな影響を与えたと考えられている。

第２節　歴史的環境

都留市内における埋蔵文化財に係わる調査・報告は郷土史研究家や大学の研究室によって戦前から行われている。大月市出身の仁科義男は東京帝国大学教授坪井正五郎博士を介し、明治 41 年東京人類学会に加わり「甲州考古余滴」という論文を著したが本格的な学術調査を行うには至らなかった。

大正期に入ると、富士吉田市出身で教諭をやっていた羽田一成が南都留郡の考古学事情を「甲斐通信」と題し、『考古学雑誌』巻 16、17、18 の３回にわたり遺跡、遺物を紹介している。

昭和期には羽田一成は国史講習会の『甲斐史壇』昭和元年正月号に「神社と石器との関係」と題して、南都留郡下の石棒、石器などが神格化された地名を発表した。

昭和３年には仁科義男と羽田一成が東京帝国大学編『日本石器時代人民遺物発見地名表第５版』に南北都留郡下の遺跡として、仁科が 44 ヶ所、羽田が 76 ヶ所を報告しており、これらの報告は戦後の遺跡調査の基盤となった。都留市内出土の遺構・遺物についての学術的報告を戦後最初に行ったのが山本寿々雄である。昭和 27 年法能天神山から耕作中に敷石遺構が発見され、山本は甲府第一高等学校郷土研究部考古班の応援を得て調査を行い、その成果を『日本考古学年報』No.5 で調査概要を報告した。

昭和 39 年９月には都留市教育委員会が発掘主体者となり、同市の遺物包含地である古渡の発掘調査を実施した。遺構の大部分は桂川の出水によって削り取られ流失したあとであったが、県下初の地方公共団体による考古調査であり、文化財保護法施行以来地方団体が行った最初の事例として評価されている。

美通遺跡北側の中谷遺跡（周辺遺跡分布図 No.24）から昭和 47 年には都留文科大学考古学研究会によって、配石遺構内出土の耳飾りをつけた土偶が出土し、昭和 52 年と 53 年の２回にわたり東京国立博物館の特別展覧

会に特別出品された。

美通遺跡南西側にある生出山山頂遺跡（周辺遺跡分布図 No.36）は昭和 52 年に採石工事の拡大に伴い、遺跡破壊のおそれがあるため都留市教育委員会が日本大学考古学研究会の応援を得て発掘調査を実施し、すでに削平された地点からは弥生土器片や平安時代の遺物を採集し、その付近からは縄文時代早期の住居 1 軒を発掘する成果を上げた。

山梨県教育委員会によって昭和 37 年に実施された「埋蔵文化財包含地調査」では 34 ヶ所の遺跡が報告され、昭和 46 年に再度実施した「山梨県埋蔵文化財包含地分布調査」では都留市内全域を踏査し、57 ヶ所の遺跡を確認、登録した。

昭和 56 年に刊行された『全国遺跡地図　山梨県』では都留市内に 60 ヶ所の遺跡が報告され、平成 11 年度に山梨県教育委員会がまとめた遺跡一覧によると、都留市内には 99 ヶ所の遺跡が登録されている。

美通遺跡の周辺にある遺跡としては、直近の遺跡では北側に縄文時代・奈良時代・平安時代の散布地である前ヶ久保遺跡（No.33）が確認されている。九鬼Ⅰ遺跡（No.31）は縄文時代・奈良時代・平安時代の散布地で、九鬼Ⅱ遺跡（No.32）は縄文時代前期・中期・後期・平安時代・近世の遺物が確認され、縄文時代と思われる竪穴住居 1 軒、平安時代及びそれ以降の住居跡 14 軒が検出された。

さらに北には前述の桂川の河岸段丘で最大級の平坦地である大原台地がある。大原台地周辺の集落跡としては、中谷遺跡（No.24）、大原中溝遺跡（No.25）、中溝遺跡（No.26）などがある。中谷遺跡は桂川に注ぐ高川が近くに流れ、調査は第 3 次に渡り合わせて縄文時代後期・晩期の住居 8 軒や配石遺構、土偶などが検出された。大原台地中央部に立地する中溝遺跡では縄文時代早期末と中期中葉の住居 6 軒の集落跡が検出されている。

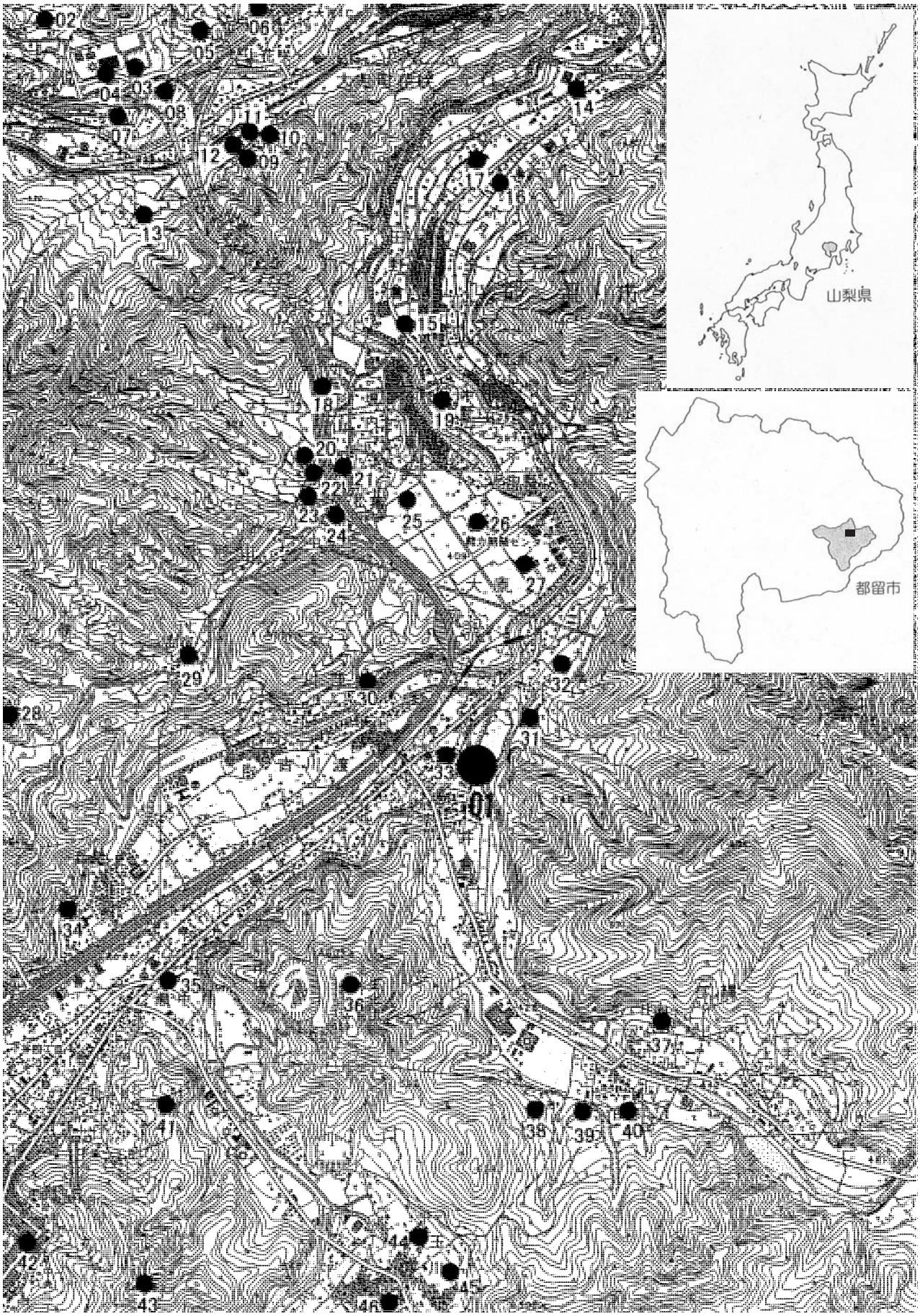
美通遺跡の南、生出山東南部に連なる斜面に天正寺遺跡（No.38）、またその周辺に日影松原遺跡（No.39）、与縄日向遺跡（No.37）、城館跡のある与縄城跡（No.40）がある。天正寺遺跡では縄文時代の土坑、弥生時代中期の住居が 1 軒、中世以降の畑跡が検出された。

美通遺跡北側で朝日川、桂川に合流する菅野川の右岸と生出山南西部に挟まれるような位置に玉川遺跡（No.44）、玉川金山遺跡（No.45）、宮原遺跡（No.46）がある。玉川遺跡は縄文時代と古墳時代の散布地であり、宮原遺跡は縄文時代の散布地である。玉川金山遺跡は縄文時代早期の住居 1 軒と奈良時代の竪穴住居 8 軒と掘立柱建物跡 3 軒、中世～近世の墓坑が検出された集落跡である。

美通遺跡周辺の遺跡は第 1 表をもとに概観すると、未発掘調査の散布地を含め縄文時代の遺跡が多く認められる地域と考えられる。

参考文献

都留市教育委員会　1973 『中谷遺跡』
都留市教育委員会　1981 『中溝遺跡』
都留市教育委員会　1981 『中谷・宮脇遺跡』
都留市教育委員会　1986 『都留市史』 資料編　地史・考古
山梨県　1998 『山梨県史』 資料編 1　原始・古代 1　考古（遺跡）
山梨県　1999 『山梨県史』 資料編 2　原始・古代 2　考古（遺構・遺物）
山梨県　2004 『山梨県史』 通史編 1　原始・古代 1
山梨県教育委員会　1975 『山梨県中央道埋蔵文化財包含地発掘調査報告書－大月市地内 2 －』
山梨県教育委員会　1995 『中溝・揚久保遺跡』 山梨県埋蔵文化財センター調査報告第 115 集
山梨県教育委員会　1995 『中谷遺跡』 山梨県埋蔵文化財センター調査報告第 116 集
山梨県教育委員会　1996 『九鬼Ⅱ遺跡』 山梨県埋蔵文化財センター調査報告第 118 集
山梨県教育委員会　1999 『原平遺跡』 山梨県埋蔵文化財センター調査報告第 160 集
山梨県教育委員会　2007 『天正寺遺跡』 山梨県埋蔵文化財センター調査報告第 248 集
山梨県教育委員会　2009 『玉川金山遺跡』 山梨県埋蔵文化財センター調査報告第 261 集



第１図　美通遺跡　周辺の遺跡分布図

No.	遺跡名	種別	時代
01	美通遺跡	集落跡	縄文
02	錢神遺跡	散布地	縄文
03	原平Ａ遺跡	集落跡	縄文・弥生・奈良・平安・中世・近世
04	原平Ｂ遺跡	集落跡	縄文・弥生・奈良・平安・中世・近世
05	西ノ上Ａ遺跡	散布地	縄文・平安
06	後林遺跡	土坑群	縄文
07	前沢内屋敷遺跡	古墳	古墳
08	坂田古墳	古墳	古墳
09	遅郷１遺跡	散布地	縄文
10	遅郷２遺跡	散布地	縄文
11	遅郷３遺跡	散布地	縄文
12	遅郷４遺跡	散布地	縄文
13	幸ノ田遺跡	散布地	縄文
14	堰遺跡	散布地	縄文
15	横道Ａ遺跡	散布地	縄文
16	下門原遺跡	散布地	縄文
17	横道Ｂ遺跡	散布地	縄文
18	下畑本郷遺跡	散布地	縄文
19	足ノ口遺跡	散布地	縄文
20	下畑下原遺跡	散布地	縄文
21	寺門Ｂ遺跡	散布地	縄文
22	宮脇遺跡	散布地	縄文・平安
23	中谷入遺跡	散布地	縄文・平安
24	中谷遺跡	集落跡	縄文・古墳・奈良
25	大原中溝遺跡	集落跡	縄文・古墳
26	中溝遺跡	集落跡	縄文
27	沖大原遺跡	散布地	縄文
28	大日影遺跡	散布地	縄文・平安
29	古谷戸遺跡	散布地	縄文
30	亀石遺跡	散布地	縄文・平安
31	九鬼Ⅰ遺跡	散布地	縄文・奈良・平安
32	九鬼Ⅱ遺跡	集落跡	縄文・平安
33	前ヶ久保遺跡	散布地	縄文・奈良・平安
34	横吹遺跡	散布地	縄文
35	山梨遺跡	散布地	縄文
36	生出山山頂遺跡	集落跡	縄文・弥生・平安
37	与縄日向遺跡	散布地	縄文
38	天正寺遺跡	集落跡	縄文・弥生・中世
39	日影松原遺跡	散布地	縄文
40	与縄城跡	城館跡	中世
41	深田遺跡	散布地	縄文・古墳
42	谷村城	城館跡	中世
43	谷村の烽火台	城館跡	中世
44	玉川遺跡	散布地	縄文・古墳
45	玉川金山遺跡	集落跡	縄文・奈良・中世
46	宮原遺跡	散布地	縄文

第１表　美通遺跡周辺の遺跡一覧表

第３章　調査の方法と成果

第１節　調査の方法

平成 19・20 年度の試掘調査をもとに、遺構確認面まで重機による表土剥ぎを行った。その後、測量のための基準杭２～３点、地形・面積にあわせて標高杭を各区に設置した。C 区北側の未買収用地の北東隅を起点とて、世界測地系座標に合わせた５m 間隔のグリッドを設定した。グリッドの名称は東西方向に東からアルファベット A で始まり、南北方向に北から数字１を始まりとした。アルファベット Z のあとは、Z・AA・AB・AC・・・とした。遺構・遺物の確認は、鋤簾を使い人力で行い、検出された遺構については、半截して土壌の堆積状態を確認した。遺物などが出土した場合には、必要に応じて微細図を作成した。遺構の平面図および遺物の取り上げには、光波測量によるトータルステーションを導入し、現場での作業効率を図った。しかし、遺構の断面図については人力で計測した。作業の経過・遺構の記録等の写真撮影は、随時行い、デジタルカメラ、３５㎜フィルムリバーサル・白黒、カラープリントの４種類で撮影している。また、集石のような複雑な遺構については、手持ちのデジタルカメラで撮影した画像を使用して図化させるデジタル計測も実施した。各区とも、調査終了にあわせて、ラジコンヘリコプターによる空中撮影を実施し、真上・俯瞰などの写真撮影、全体図の図化に必要な計測作業をおこなった。

第２節　層序

調査区が分かれているため、統一した層序は設定していないが、C 区では弥生時代の遺物包含層や溶岩が面的に確認できたので､観察した土層を図化した(第３図)。本報告書は用地内の北側と南側と離れた調査区が対象で、土層の堆積も遺構の状態も大きく変わるため、文章にて若干ふれておく。

A 区１は用地内最南端で、奈良・平安時代の住居跡が５軒・掘立柱建物跡３棟が検出できた地域である。隣接する A 区 2-3 からも奈良・平安時代の住居跡が３軒検出され、この２つの調査区は道路で分かれているが、ほぼ同じ堆積状態である。県道 35 号線から A 区２にかけて少しずつ標高が下っていく。部分的に深掘りをして土層観察を行ったが、堆積が一定ではなく火山灰性の土壌というより、川や沼のように水の中の堆積に近く、ローム層に見えても、砂質の堆積が多かった。住居などの遺構もローム層のような黄褐色土中に掘り込まれているが、堅く締まるというより、砂質土で柔らかい層であった。遺構確認面は A 区１・A 区 2-3 で１mほどとなり、平安時代以降の堆積状況は、後世の攪乱が進んでいて確認できなかった。

A 区 2-1・2 は、朝日川の流路であるためか、堆積が安定せず、砂層や礫層が交互に堆積する状態がみられた。

C 区南側は、南から北に向かって緩やかに傾斜する地形であり、最も標高の高い調査区南西端は礫や溶岩の混じる地山が検出された。この地山付近では縄文時代の土坑が数基確認できている。調査区の北側 1/3 ほどには溶岩が部分的に検出される。C 区南側で、溶岩が検出されるのは、最南端の地山付近とこの区域のみで、他の区域では溶岩はほとんど検出されない。C 区南側北部分で確認した第５試掘トレンチでは、地表下 1.5 mほど掘り下げても溶岩は検出されなかった。また、調査区北端では中世の遺構が数基確認されている。調査区のなかでも、平安時代以降の黒色土の堆積が厚い部分で、地表下 0.7 mほどで焼土が点在し、陶器甕片が出土する。この柔らかい黒色土・やや明るくなる黒褐色土が平安時代以降の層と考え、その下層にみえる褐色土が弥生時代の遺物包含層ととらえている。

C 区北側では、平安時代以降と縄文時代早期から前期の遺構が確認される調査区で、調査区のもっとも北側、地表下 1.2 ～ 1.8 mほどで、猿橋溶岩が面的に検出された。C 区南側北端で確認されている黒色土・黒褐色土・褐色土はこの区域でも観察できる。しかし、弥生時代の遺物包含層は、調査区全体で確認されるわけではなく、部分的に見られる状態で、現状では緩やかに傾斜する地形でも、当時は起伏のある地形だったと推測される。

第３節　遺構

本報告書においては、調査区が細かく分かれているため、都留バイパス工事路線の南・県道 35 号側から順に記述していく。

A 区１

本調査区では、縄文時代の土坑 4 基、奈良時代から平安時代にかけての住居跡が 5 軒、掘立柱建物跡が 3 件、柱穴列 1 列と、平安時代以降の土坑 33 基・溝状遺構 18 条、配石 2 基が検出されている。調査区の南側に 1・2・5 住、北側に 3・4 住と掘立柱建物跡が位置する。調査区の中央は、遺構・遺物がほとんど検出されず、黒色土が厚く堆積している。

１．住居跡

１号住居跡（第 8・10 図）

（位置）BB-126 ～ 126 グリッド

（形態）東西約 2.7 m、南北約 3.4 mの隅丸長方形で、西壁中央より北側にカマドがある。周溝は確認されなかった。深さは約 0.3 mである。柱穴は確認できなかった。カマドから住居内中央付近まで、炭化材が集中していた。住居壁付近では炭化材などは検出されず、床面から少し高い位置での検出であった。

（カマド）西カマドで石組みである。東西 0.6 m、南北 1.2 mの掘り方をもつ。煙道は確認できなかった。袖石は南側・北側に平たい河原石が立ち位置で確認されたが、それ以外は、定位置での検出ではなかった。

（遺物）カマドの南側から東駿型といわれる土師器甕の大型の破片が出土している。カマドの周辺から出土した破片数点と接合でき、口縁部から底部まで、全体の 1/2 強の復元となった。（第 62 図 -4）この甕は、胴部が中央から上寄りに最大径をもつもので、径部から口縁までが短く「く」の字状に屈折する。須恵器は坏・蓋・甕の破片が出土している。

（年代）出土した炭化材の分析結果によると 1,265 ± 20yrBP であり、西暦 745 年前後となる。出土した遺物の検証からも、8 世紀後半頃の構築と考えられる。

２号住居跡（第 9・10 図）

（位置）BC-126 ～ 127、BD-126 ～ 127 グリッド

（形態）東西約 5.8 m、南北約 6 mの隅丸方形で、西壁中央付近にカマドがある。周溝は確認されなかった。深さは東側や南側で、0.4m 確認できるが、カマドのある西壁では、0.12 mほどしか掘方が残っていない。柱穴は確認できなかった。住居内中央からカマド周辺には、焼土・炭・灰が混ざる土壌の堆積が広く観察され、これが、住居壁に近い部分まで、薄く堆積している。

（カマド）西カマドで、周囲に散乱した礫から石組みカマドと推測する。東西 3.1m、南北 4.7m の範囲に焼土・灰・炭化材が広く分布している。上層は削れて失われたと考えられる。

（遺物）遺物は、遺物分布図が示すように、住居内全体に遺物が検出される。他の同時代の住居跡に比べてもとても多く出土している。カマドの範囲内では、比較的大きめの駿東型の頸部の短い土師器甕が出土している。出土遺物のなかでも点数が多い（第 63 図 27 ～ 44）。土師器坏は、丸底のものと平底のものが出土している（第 62 図 6 ～ 9）。比較的須恵器の出土が多く底部が高台より突出する坏と、蓋の出土が目立つ。また、長頸瓶・甕の破片も出土している（第 63 図 22 ～ 26）。

（年代）出土した遺物から奈良時代と推定される。

３号住居跡（第 11 図）

（位置）AY-119 グリッド

（形態）4 号住居跡と隣接する。東西約 2 m、南北約 2.2 mの隅丸方形および隅丸長方形と推定される。住居跡

の大半が調査区外である。カマドは不明。調査は南東隅の少ない面積であったが、床面に近い位置から枝状や板状の炭化材が出土した。これが、壁に使われた板材かは判明できなかったが、炭化材の状態が良好だったため、材同定と年代測定をおこなった。
（カマド）住居の大部分が調査区外であるため、不明。しかし、平安時代初頭頃のカマドの傾向をみると、北壁か東壁にある可能性が高い。
（遺物）全体的に出土数は少ないが、土師器坏と須恵器甕の破片が出土している（第 65 図 52 ～ 55）。出土した須恵器甕には、黒色の物質が内側に塗布されていた。この物質が塗布された須恵器甕の破片は、3 号住居跡の周辺から転々と出土しており、その中の 1 点で分析をおこなった。予想では漆のようなものと考えていたが、ガラス質の物質であった（詳細は第 4 章を参照）。
（年代）住居内遺物Ｃ－１とした床面に近い炭化材から年代測定を行った結果、1,200 ± 20 yrBP であり、西暦 810 年前後である。

４号住居跡（第 12 図）
（位置）AY-120 ～ 121・AZ-120 ～ 121 グリッド
（形態）3 号住居跡と隣接する。東西約 3.5 m、南北約 4 mの隅丸方形と推定される。西壁の 2/3 ～北壁の 1/2 強が調査区外であるため、全容は確認出来ていない。調査面積とこの時期のカマドの傾向から、西壁北寄りから北西の角近くにカマドが存在すると推定する。
（カマド）調査した範囲では、確認できなかった。しかし、10 世紀末から 11 世紀には、住居跡のコーナー部分にカマドがつくられる傾向がある。したがって、調査できなかった北西のコーナーに存在する可能性が高い。
（遺物）全体的に出土数は少ないが、土師器坏・甕、須恵器坏・蓋の破片と鉄鏃が出土している（第 66 図 56 ～ 62）。
（年代）住居内出土、炭化物 1 を年代測定にかけたところ、960 ± 20 という年代がでた。西暦 1050 年前後である。

5 号住居跡（第 13 図）
（位置）BA-127 グリッド
（形態）東西約 0.9 m、南北約 3.5 mの隅丸方形および隅丸長方形と推定される。西壁の北西角に近い位置にカマドがある。北西隅のみの調査で、大部分は調査区外であった。
（カマド）石囲いカマド。調査区壁際で確認でき、全貌はあきらかではないが、花崗岩や安山岩を袖石に使っている。天井石らしい真ん中でおれた細長い石が袖石の上にかかるように残っていた。
（遺物）調査区壁際とカマド北側から土師器甕口縁部が出土している。カマド周辺からは駿東型の甕片が出土している。この他、鉄製品が出土しているが用途など不明である。
（年代）1・2 号住居跡に近い奈良時代と推定する。

２．掘立柱建物跡・柱穴列
１号掘立柱建物跡（第 19 図）
（位置）AV-119 ～ 120・AW-119 ～ 120 グリッド
（形態）東西方向に３本、南北方向３本、柱穴が直線的に並ぶ。対角の中央には柱穴が確認出来なかったので８本柱、「口」の字型の方形建物である。主軸はほぼ南北方向で、南西隅と南辺中央の柱穴は、5 号溝によって欠如および完全形跡が残っていない状態である。直径 0.6 ～ 0.7 mほどで、柱穴の深さは 0.3 m～ 0.5 mほどである。柱穴と柱穴の間隔は、北辺 13 土と 20 土・12 土間が 1.9 m・1.85 mで、西辺 13 土・21 土・25 土間が 1.75・1.95 m、東辺 12 土・26 土・27 土間が 2 m ・1.6 m、南辺 25 土と 27 土が 3.7 mとなり、平均 1.8 ～ 1.85 mの間隔であった。1.8 mは畳の長辺と同じ長さで 1 間である。したがって、この建物は 2 間× 2 間の方形の建物となる。

（遺物）東辺中央 26 土中から砥石が 1 点出土した以外は、直接関係する遺物は、確認できなかった。
（年代）5 号溝より古いが、明確な時期は不明である。

２号掘立柱建物跡（第 20・21 図）
（位置）AW-120 ～ 121・AX-120 ～ 121 グリッド
（形態）東西に２本、南北に３本、柱穴が直線的に並ぶ。6 本柱の方形の建物である。主軸はほぼ真北を示す。直径 0.6 m～ 0.7 m、深さ 0.3 m～ 0.5 mである。柱穴と柱穴の間隔は、北辺の 21 ピットと 30 土の間は 3.3m、西辺の 21 ピット・22 ピット・29 ピット間は、1.7m・1.5m、東辺の 30 土・27 ピット・31 ピット間は、1.75m・1.5 m、南辺の 29 ピット・31 ピット間は 3 mとなり、平均 1.65 mの間隔であった。隅となる柱穴を結ぶと 1 辺 3 ～ 3.3 mのほぼ正方形となる。
（遺物）明確な時期を限定する遺物は発見されていない。
（年代）3 号掘立柱建物跡よりは新しいが、明確な時期は不明である。

３号掘立柱建物跡（第 21 図）
（位置）AW-121・AX-121 ～ 122 グリッド
（形態）東西に 3 本、南北に 3 本、柱穴が直線的に並ぶ。南辺の中央および東隅の柱穴は、廃土運搬通路壁面奥で、確認できてはいない。西辺も 3 本目の柱穴以南は壁面となるため、さらに続くのかどうかは確認できていない。主軸は北西方向で、1・2 号掘立柱建物跡とは主軸を異にする。また、3 号掘立柱建物跡は他の 2 棟とは異なり、礎石立ちの建物である。ピットの直径は 0.3m ほどで、深さは 0.3 ～ 0.5 mである。礎石と礎石の間隔は、北辺の 32 ピット・33 ピット、34 ピット間は、2.15 m・2.1 m、西辺の 32 ピット・43 ピット・44 ピット間は、2.5 m・2.45 m、東辺の 34 ピット・64 ピット間は 2.4 m、中央 33 ピット・30 ピット間は 2.4 mであった。1・2 号掘立柱建物跡が正方形であるのに対し、3 号掘立柱建物跡は、東西 4.25 m、南北 5 mの長方形の建物と推定される。34 ピットの東側には、34 ピット・63 ピットと礎石をもつピットがあることから、他にも建物跡が存在する可能性が伺える。
（遺物）明確な時期を限定する遺物は発見されていない。
（年代）2 号掘立柱建物跡の 29 ピットと 3 号掘立柱建物跡の 34 ピットの斬り合いから、2 号掘立柱建物跡より古い。

１号柱穴列（第 21 図）
（位置）AW-120・AX-120
（形態）直径 0.25 ～ 0.3 m、深さ 0.2 mの柱穴が 4 ～ 6 本直線的に並ぶ。3 号掘立柱建物跡の東西の軸に方向をやや同じにする。また、5・6 号溝状遺構の長軸方向にも平行している。柱穴と柱穴の間隔には、南から 58 ピット・56 ピット・12 ピット・50 ピット・51 ピット・52 ピット間で、1.6 m・1.6 m・1.5 m・1.55 m・1.6 mである。
（遺物）58・56 ピットからは平らな石（礎石か？）が検出されている。
（年代）3 号掘立柱建物跡と同時期と推定される。

３．土坑
1 号土坑（第 14 図）
（位置）AV-118 グリッド
（形態）長軸 0.8 m、短軸 0.8 m、深度 0.06 mの円形で、底部は皿状である。
（遺物）特に検出されなかった。
（年代）平安時代以降

2 号土坑（第 14 図）
（位置）AV-118 グリッド
（形態）長軸 1.68 m・短軸 0.88 m、深度 0.5 mの楕円形で、底部は鍋底状で、テラスを持つ。
（遺物）土師器破片が数点出土している。
（年代）平安時代以降

3 号土坑（第 14 図）
（位置）AY-121 グリッド
（形態）長軸 1.5 m、短軸 1.22 m、深度 0.2 mのほぼ円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）土坑中央から短刀と鉄鎌が重なるように出土している（第 67 図 -71・72）。そのほかは、土師器片が出土している。
（年代）平安時代以降

4 号土坑（第 14 図）
（位置）BA-123 ～ BB-123 グリッド
（形態）長軸 1 m、短軸 0.9 m、深度 0.22 mの円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）土師器・須恵器片数点出土している。
（年代）平安時代以降

5 号土坑（第 14 図）
（位置）AZ-124 グリッド
（形態）長軸 1.6 m、短軸 0.86 m、深度 0.1 mの隅丸方形で、底部は皿状である。
（遺物）須恵器片が出土している。
（年代）平安時代以降

6 号土坑（第 14 図）
（位置）BA-124 グリッド
（形態）長軸 1 m、短軸 0.82 m、深度 0.1 mの円形で、底部は皿状である。
（遺物）特に検出されなかった。
（年代）平安時代以降

7 号土坑（第 14 図）
（位置）BA-124 ～ 125 グリッド
（形態）長軸 1.1 m、短軸 0.9 m、深度 0.1 mの円形で、底部は皿状である。
（遺物）特に検出されなかった。
（年代）平安時代以降

8 号土坑（第 14 図）
（位置）AZ-125 ～ BA-125 グリッド
（形態）長軸 1 m、短軸 0.8 m、深度 0.1 mの円形で、底部は皿状である。
（遺物）特に検出されなかった。
（年代）平安時代以降

9 号土坑（第 14 図）
（位置）BA-125 グリッド
（形態）長軸 1.46 m、短軸 1.3 m、深度 0.1 mの円形で、底部は皿状である。
（遺物）須恵器片が出土している。
（年代）平安時代以降

10 号土坑（第 14 図）
（位置）BA-126 ～ BB-126 グリッド
（形態）長軸 1.1 m、短軸 1.1 m、深度 0. 1 mの円形で、底部は皿状である。
（遺物）特に検出されなかった。
（年代）平安時代以降

11 号土坑（第 15 図）
（位置）AW-118 ～ 119 グリッド
（形態）長軸 1.34 m、短軸 1.34 m、深度 0.5 mの円形で、底部は鍋底状である。覆土中に礫が入る。16 溝と重複し、それより古い。 6 ピットと重複し、それより新しい。
（遺物）覆土中に人頭大の礫が詰め込まれたような状態で検出され、その礫の間から焙烙片 1 点が出土した。その他は、土師器片数点が出土している。
（年代）焙烙片が出土したことから、近世以降と推定される。

12 号土坑（第 15 図）
（位置）AV-119 グリッド
（形態）長軸 0.8 m、短軸 0.76 m、深度 0.4 mの円形で、底部は鍋底状である。 1 号掘立柱跡北東隅の柱穴である。
（遺物）土師器片数点が出土している。
（年代）平安時代頃

13 号土坑（第 15 図）
（位置）AW-119 グリッド
（形態）長軸 0.64 m、短軸 0.52 m、深度 0.58 mの円形で、底部は鍋底状である。 4 溝と重複し、それより古い。 1 号掘立柱跡北西隅の柱穴である。
（遺物）須恵器片が出土している。
（年代）平安時代

14 号土坑（第 15 図）
（位置）AW-118 グリッド
（形態）長軸 0.6 m、短軸 0.53 m、深度 0.12 mの円形で、底部は皿状である。16 土と重複し、それより新しい。
（遺物）骨片、土師器片、炭片が出土している。
（年代）平安時代以降

15 号土坑（第 15 図）
（位置）AV-119 ～ A W -119 グリッド
（形態）長軸 1.54 m、短軸 0.5 m、深度 0.38 mの隅丸長方形で、底部は鍋底状である。溝状遺構との可能性高い。

（遺物）土師器片が出土している。
（年代）平安時代以降

16 号土坑（第 15 図）
（位置）AW-118 グリッド
（形態）長軸 0.58 m、短軸 0.44 m、深度 0.1 mの円形で、底部は皿状である。14 土と重複し、それより古い。
（遺物）骨片が出土している。
（年代）平安時代以降

17 号土坑（第 15 図）
（位置）AX-118 グリッド
（形態）長軸 0.9 m、短軸 0.86 m、深度 0.1 mの円形で、底部は皿状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降

18 号土坑（第 15 図）
（位置）AX-118 ～ 119 グリッド
（形態）長軸 1.3 m、短軸 1.26 m、深度 0.46 mの円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）土師器片が出土している。
（年代）平安時代以降

19 号土坑（第 15 図）
（位置）AW-119 グリッド
（形態）長軸 1.38 m、短軸 1.38 m、深度 0.5 mの円形で、底部は鍋底状である。4・9 溝と重複し、それらより新しい。
（遺物）土師器・須恵器片が出土している。
（年代）平安時代以降

20 号土坑（第 15 図）
（位置）AW-119 グリッド
（形態）長軸 0.72 m、短軸 0.6 m、深度 0.58 mの円形で、底部はすり鉢状である。 1 号掘立柱跡北面中央の柱穴である。
（遺物）土師器片が出土している。
（年代）平安時代

21 号土坑（第 15 図）
（位置）AW-119 グリッド
（形態）長軸 0.64 m、短軸 0.56 m、深度 0.34 mの円形で、底部はすり鉢状である。 1 号掘立柱跡西面中央の柱穴である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代

22 号土坑（第 16 図）
（位置）AX-119 グリッド
（形態）長軸 1.6 m、短軸 1.4 m、深度 0.66 mの円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降

23 号土坑（第 16 図）
（位置）AZ-125 グリッド
（形態）長軸 1.1 m、短軸 1.1 m、深度 0.38 mの推定円形で、底部は鍋底状である。遺構半分は調査区外。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降

24 号土坑（第 16 図）
（位置）BC-124 グリッド
（形態）長軸 1.2 m、短軸 1.1 m、深度 0.1 mの円形で、底部は皿状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降

25 号土坑（第 16 図）
（位置）AW-120 グリッド
（形態）長軸 0.9 m、短軸 0.74 m、深度 0.24 mの楕円形で、底部は鍋底状である。1 号掘立柱跡南西隅の柱穴である。5 溝と重複し、それより古い。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代

26 号土坑（第 16 図）
（位置）AV-120 グリッド
（形態）長軸 0.66 m、短軸 0.6 m、深度 0.4 mの円形で、底部はすり鉢状である。1 号掘立柱跡東面中央の柱穴である。
（遺物）覆土中から砥石が出土している（第 84 図 -433）。
（年代）平安時代

27 号土坑（第 16 図）
（位置）AV-120 グリッド
（形態）長軸 0.6 m、短軸 0.58 m、深度 0.36 mの円形で、底部はすり鉢状である。1 号掘立柱跡南東隅の柱穴である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代

28 号土坑（第 16 図）
（位置）AW-119 グリッド
（形態）長軸 1.44 m、短軸 1.34 m、深度 0.48 mの円形で、底部はやや袋状となる。16 溝と重複し、それより古い。
（遺物）土師器・須恵器片が出土している。

（年代）平安時代以降

29 号土坑（第 16 図）
（位置）AV-118 ～ AW-118 グリッド
（形態）長軸 1.34 m、短軸 1.18 m、深度 0.3 mの楕円形で、底部は鍋底状である。３溝と重複それより古い。３号溝調査中にはその延長で、少し伸びるのかと考えたが、結果的にテラス状になったため、新たな土坑番号を設置した。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降

30 号土坑（第 16 図）
（位置）AW-120 ～ 121・AX-120 ～ 121 グリッド
（形態）長軸 1.2 m、短軸 0.7 m、深度 0.36 mの楕円形で、底部はすり鉢状である。15 ピットと重複し、それより古い。他にも重複する遺構があったようで、掘方の南東隅に礎石のような平たい石が検出できている。2 号掘立柱跡北東隅の柱穴である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代

31 号土坑（第 16 図）
（位置）AW-118 グリッド
（形態）長軸 0.84 m、短軸 0.84 m、深度 0.74 mの円形で、底部は鍋底状である。遺構半分は調査区外。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降

33 号土坑（第 16 図）
（位置）AZ-123 ～ BA-123 グリッド
（形態）長軸 1.16 m、短軸 0.9 m、深度 0.1 mの隅丸長方形で、底部はすり鉢状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降

34 号土坑（第 16 図）
（位置）BC-127 ～ 128 グリッド
（形態）長軸 1 m、短軸 0.8 m、深度 0.44 mの円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）縄文時代？

35 号土坑（第 16 図）
（位置）BC-127 グリッド
（形態）長軸 1.16 m、短軸 1.1 m、深度 0.3 mの円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）縄文土器片が出土している。
（年代）縄文時代

36 号土坑（第 16 図）
（位置）BC-127 グリッド
（形態）長軸 1.16 m、短軸 1.02 m、深度 0.28 mの円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）縄文土器片が出土している。
（年代）縄文時代

,37 号土坑（第 16 図）
（位置）BD-127 ～ 128 グリッド
（形態）長軸 1.14 m、短軸 1.14 m、深度 0.28 mの円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）縄文土器片が出土している。
（年代）縄文時代

４．溝状遺構

１号溝状遺構（第 17 図）
（位置）AU-117 ～ 118 グリッド
（形態）長軸 3.2 m、短軸 0.56 m、深度 0.74 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。主軸はほぼ東西である。
（遺物）土師器・須恵器片と鉄製品を出土している。
（年代）平安時代以降

２号溝状遺構（第 17 図）
（位置）AU-118 グリッド
（形態）長軸 1.7 m、短軸 0.56 m、深度 0.35 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。主軸はほぼ東西である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降

３号溝状遺構（第 17 図）
（位置）AV-118 ～ AW-118 グリッド
（形態）長軸 4.2 m、短軸 0.66 m、深度 0.75 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。主軸はほぼ東西である。
（遺物）土師器・須恵器片が出土している。
（年代）平安時代以降

４号溝状遺構（第 15 図）
（位置）AW-119 ～ AX-119 グリッド
（形態）長軸 4.26 m、短軸 0.6 m、深度 0.44 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。19 土と重複し、それより古い。また、1 号掘立柱建物跡の 13 土と重複し、それより新しい。主軸はほぼ東西である。
（遺物）土師器片が出土している。
（年代）1 号掘立柱建物跡より新しいので、平安時代以降と推定する。

５号溝状遺構（第 17 図）
（位置）AW-120 ～ AX-120 グリッド
（形態）長軸 6.2 m、短軸 0.84 m、深度 0.65 m、東西方向に長い溝状遺構である。底部は鍋底状で、６溝と西側端で重複し、それより古い。また、25 号土坑と重複し、それより新しい。

（遺物）土師器・須恵器片と鉄製品 1 点が出土している。
（年代）1 号掘立柱建物跡より新しいので、平安時代以降と推定する。

6 号溝状遺構（第 17 図）
（位置）AX-120 グリッド
（形態）長軸 4.2 m、短軸 1.06 m、深度 0.5 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。5 溝と東端で重複し、それより新しい。主軸はほぼ東西である。
（遺物）土師器・須恵器片を出土している。
（年代）6 号溝より新しい。平安時代以降。

7 号溝状遺構（第 18 図）
（位置）AY-122 グリッド
（形態）長軸 3.6 m、短軸 0.74 m、深度 0.5 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。覆土中に人頭大から拳大ほどの礫が沢山はいる。主軸はほぼ南北である。
（遺物）土師器・須恵器片が出土している。
（年代）平安時代以降。

8 号溝状遺構（第 18 図）
（位置）AZ-124 ～ BA-124 グリッド
（形態）長軸 3.42 m、短軸 0.6 m、深度 0.1 mの溝状遺構で、底部は皿状である。遺構の少ない中間地点に位置する。本来の掘り込みはもう少し深いと思われるが、後世の造成で掘削された可能性がある。主軸はほぼ東西である。
（遺物）土師器破片が出土している。
（年代）平安時代以降

9 号溝状遺構（第 15 図）
（位置）AW-119 ～ AX-119 グリッド
（形態）長軸 3.6 m、短軸 0.64 m、深度 0.3 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。19 土と重複し、それより古い。また、3 ピットと重複し、それより新しい。主軸はほぼ東西である。
（遺物）土師器数点
（年代）平安時代以降

10 号溝状遺構（第 18 図）
（位置）AU-118 ～ AV-118 グリッド
（形態）長軸 1.98 m、短軸 0.46 m、深度 0.46 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。北西隅に別の遺構が重複する可能性あり。主軸はほぼ南北である。
（遺物）特に出土していいない。
（年代）平安時代以降

11 号溝状遺構（第 18 図）
（位置）BB-127 ～ 128・BC-127 ～ 128 グリッド
（形態）長軸 2.78 m、短軸 0.64 m、深度 0.4 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。主軸はほぼ南北である。
（遺物）土師器・須恵器片を出土している。

（年代）平安時代以降

12 号溝状遺構（第 18 図）
（位置）AW-120 ～ 121 グリッド
（形態）長軸 1.35 m、短軸 0.85 m、深度 0.5 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。遺構の半分は調査区外で、主軸はほぼ南北である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降

13 号溝状遺構（第 18 図）
（位置）AZ-121 グリッド
（形態）長軸 1.28 m、短軸 0.48 m、深度 0.08 mの溝状遺構で、底部は皿状である。主軸はほぼ南北である。試掘トレンチで切られていている。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降

14 号溝状遺構（第 18 図）
（位置）ＢＣ -126 ～ 127 グリッド
（形態）長軸 4.2 m、短軸 0.96 m、深度 0.42 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。２号住居跡東壁に重複し、それより新しい。主軸はほぼ南北である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降

15 号溝状遺構（第 18 図）
（位置）AV-118 グリッド
（形態）長軸 1 m、短軸 0.58 m、深度 0.2 mの溝状遺構で、底部は皿状である。主軸はほぼ南北である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降

16 号溝状遺構（第 18 図）
（位置）AW-119 グリッド
（形態）長軸 2.06 m、短軸 0.6 m、深度 0.5 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。11 土・28 土と重複し、それより新しい。主軸はほぼ南北である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降

17 号溝状遺構（第 18 図）
（位置）BC-128 ～ 129・BD-128 グリッド
（形態）長軸 2.36 m、短軸 0.6 m、深度 0.32 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。主軸はほぼ南北である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降

18 号溝状遺構（第 18 図）
（位置）BD-126 グリッド
（形態）長軸 1.9 m、短軸 0.7 m、深度 0.2 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。主軸はほぼ東西である。２号住居跡カマドの付近に重複し、それより新しい。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降

５．配石遺構
１号配石遺構（第 22 図）
（位置）BA-127 グリッド
（形態）長軸 1.8 m、短軸 0.73 m、深さ 0.15 mの土坑に、人頭大の礫が配置されている。断面観察から、厚めの表面平らな石が間隔をそろえて配置されているように見える。主軸は東西方向である。
（遺物）土師器・須恵器数点
（年代）平安時代以降

２号配石遺構（第 22 図）
（位置）BC-129 グリッド
（形態）長軸 1.1 m、短軸 0.7 mに人頭大の礫が配置されている。主軸は東西方向である。人頭大の礫が、円を描くように配置されている。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降

６．ピット群（第 19 ～ 21 図）
ピットの大きさ・深さなどは、ピット計測表にまとめた（第２表）。

●Ａ区２－１(第 24・25 図）
Ａ区２－１はそのほとんどが遺跡の東側を流れる朝日川の氾濫原となる。表土を除去したところ調査区の西壁に沿って河岸段丘の段丘崖を検出した。遺構は、耕作によって削平された段丘崖から土坑を検出し、氾濫原からは溝状遺構や竪穴状遺構、石列、集石を検出しているが、いずれも時期を特定できるような遺物は出土しなかった。調査区北西部の段丘崖から検出した東西方向に走る溝状の掘り込み群については、耕作で自然堆積層を削平された後に掘り込まれたものである可能性が高く、時期としてはかなり新しくなるのではないかと考えられる。
氾濫原の部分では、粘土やシルト、砂礫が幾重にも堆積しており、頻繁に朝日川の氾濫の影響を受けている状況が窺われた。特に段丘崖への変換点周辺には礫の分布が見られ、朝日川のある東側へさらに深く堆積している状況が確認された。氾濫原の中からは段丘崖の縁に平行する石列(AO-107 ～ 109 グリッドと AN-107 グリッド）や集石（AQ-113 グリッド）が検出された。石列・集石ともに 20 ～ 50cm ほどの礫で構成されている。調査区周辺の地元の方に聞いたところ、関東大震災の際に段丘崖の一帯に築かれていた石垣が崩れたという話が伝わっているとのことで、これらの石礫や集石も段丘崖周辺の石垣に関係する礫である可能性が高く、震災以降の新しい時期のものと考えられえる。調査区からの出土遺物のほとんどは氾濫原部分の堆積土中から出土したものであるが、古銭などの時期と出土位置の上下関係が食い違う状況が見られ、氾濫の際に上流や周辺から流れてきたものが多く含まれていると考えられる。氾濫原からの出土遺物としては、古銭（寛永通宝 他)、キセルや釘などの金属製品、縄文時代～近代にかけての土器・陶磁器片などがある。この内、金属製品が調査区ほぼ中央 AP-110 グリッド付近に集中する傾向が見られるが、。猿形土製品も氾濫原の堆積土中である AO-108 グリッドから出土

した。横向きに倒れた状態で出土したが、遺構は確認されなかった。猿形土製品の下層からは、１号竪穴状遺構が検出されているが、猿形土製品は１号竪穴状遺構の確認面よりも上層から出土しており、関係性は見られない。また、段丘崖に近い AP-109 グリッドからは人骨と副葬品と考えられる短刀・寛永通宝が出土したが、土坑などの遺構は確認されなかった。

１．土坑

１号土坑（第 26 図）
（位置）AR-113 グリッド。
（形態）西側が調査区の外側へ延びるため、平面形は不明である。断面は箱形である。深さは 35cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

２号土坑（第 26 図）
（位置）AR-113 グリッド。
（形態）西側の一部が調査区の壁に触れているが、平面形は円形になると考えられる。断面は、底面が平らで、壁面が緩やかに立ち上がる。径約 95cm、遺構確認面からの深さ 12cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

２．溝状遺構

１号溝状遺構（第 26 図）
（位置）AP-110 グリッド。
（形態）長さ 123cm、幅 63cm、深さ 28cm。主軸は北西－南東方向。断面は箱形で、長さが短く、土坑状である。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

２号溝状遺構（第 26 図）
（位置）AO・AP-110 グリッド。
（形態）長さは、東側が砂礫の侵食により失われているため不明。幅 72cm、深さ 33cm。主軸は北西－南東方向。断面は箱形である。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

３．竪穴状遺構

１号竪穴状遺構（第 25 図）
（位置）AO-108 グリッド。
（形態）東側から南東側にかけて砂礫の侵食により失われているため、形状は不明である。確認面から 130cm ほどの深さまで暗褐色土が堆積しているが、東側からは砂礫が入り込み、暗褐色土の下層も砂礫層となるため、底面の形状も不明である。
（遺物）下層の砂礫層からキセルの雁首部が出土した。

●A区２－２

Ａ区２－２調査区は、現地表から遺構確認面までの深さが浅く、調査区内に用地取得前まで土地を区画していた石垣の基部や土地区画の段差が残っている。ＡＪ－97～101に残る石垣基部周辺からは近代（明治期）の陶磁器片や金属片などが大量に廃棄されていた。また、調査区南端部では暗褐色土の混ざる砂礫層となり、南～南東方向へ落ち込む状況が確認された。この砂礫層の中からは石臼が出土した。

１．土坑

１号土坑（第27図）

（位置）AL－100グリッド。

（形態）平面形は東西にやや細長い不整形で、断面は壁面の上部がやや開く箱形である。南側に浅く広がる突出部があり、土層では確認できなかったが、別の土坑が切り合っている可能性も考えられる。長軸173cm、短軸137cm（突出部は除く）、深さ約60cm。遺構確認面では５～40㎝大の礫が土坑上面を覆っていた。この礫を取り除くと、土坑の中心に長さ124cm、幅83cm、厚さ約50cmの巨大な礫を配し、この礫と土坑壁面との隙間を埋めるように５～35㎝大の礫が詰め込まれていた。巨大な礫は人力で取り除くことが不可能であったため、調査終了時に重機を使って取り除き、土坑底部を確認した。礫の直下が土坑底面となっており、遺物や新たな礫などは確認されなかった。

（遺物）土坑上部を覆う礫とともに、土師質土器・陶磁器の破片や鉄鍋と思われる鋳物鉄製品の欠片が出土した。

（時期）近世か。

２号土坑（第27図）

（位置）AK－97グリッド。

（形態）平面形はやや不整な楕円形で、断面は底部から斜めに立ち上がるＶ字形である。長軸65cm、短軸51cm、深さ25cm。

（遺物）遺物は出土しなかった。

（時期）不明

３号土坑（第27図）

（位置）AJ・AK－98グリッド。

（形態）平面形はひょうたん形でくびれがあり、断面は底面が平らである。長軸180cm、短軸137cm。くびれを境に深さが異なるが、どちらも遺構確認面からの深さが５～９cmと浅く、覆土も同じ黒褐色土であり、遺構の切り合いの有無は確認できなかった。遺構確認面よりもさらに上部から掘り込まれていると考えられる。遺構確認面で３～15cm大の礫がまばらに検出された。

（遺物）土坑底部付近やや上層の覆土から碁石（黒）が１点出土した。

（時期）不明（近世～近代か）。

４号土坑（第28図）

（位置）AK－９９グリッド。

（形態）平面形はやや不整な楕円形である。断面は箱形で、北東側を除いて深さ５cmほどの浅い掘り込みが土坑の周囲を廻る。長軸44cm、短軸25cm（周囲の掘り込みは除く）、深さ34cm。

（遺物）遺物は出土しなかった。

（時期）不明。

５号土坑（第 27 図）
（位置）AK － ９８グリッド。
（形態）平面・断面ともに不整形である。南側で１号溝と重複し、１号溝を切っている。北側に平面・断面ともに不整形の深さ３～９㎝ほどの浅い掘り込みが 100cm ほど広がっている。土坑内には上層から底面付近にかけて５～ 20cm 大の礫の集まりが検出された。長軸 88cm、短軸 48cm（北側の掘り込みは除く）、深さ 13cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

６号土坑（第 27 図）
（位置）AK・AL － 98・99 グリッド。
（形態）西側は調査区の西壁に接し、東側は１号溝と重複し、１号溝を切っている。平面形はややいびつな円形になると考えられる。断面は底面が平らで、壁面は開きながら立ち上がる。径約 85cm、深さ 10㎝。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

７号土坑（第 28 図）
（位置）AK － 95 グリッド。
（形態）平面形は不明。北側で３号溝と重複し、３号溝を切っている。西側は試掘トレンチによって失われている。断面は底面が平らで、壁面は開きながら立ち上がる。長軸・短軸ともに不明、深さ 12cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

８号土坑（第 28 図）
（位置）AK － 100 グリッド。
（形態）平面は円形、断面は幅の広いＵ字形である。長軸 86cm、短軸 82cm、深さ 12cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

９号土坑（第 28 図）
（位置）AK － 97 グリッド。
（形態）平面形はやや不整な楕円形で、断面は底面が平らで、壁面が開きながら立ち上がる。長軸 59cm、短軸 51cm、深さ７cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

10 号土坑（第 28 図）
（位置）AL － 101 グリッド。
（形態）４号溝の半截断面で確認したため、平面形は不明。４号溝を切っている（断面図の１～４層が 10 号土坑覆土）。東側の一部が試掘トレンチによって失われている。断面は底部が平らで、壁面がやや開きながら立ち上がる。４号溝の北東側と南西側に一部が残る。土坑の覆土上層から 10 ～ 20cm 大の礫が検出された。深さ 36cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。

（時期）不明。

11 号土坑（第 29 図）
（位置）AM － 101 グリッド。
（形態）平面・断面ともに不整形である。断面は北西側で一段深くなる。長軸 124cm、短軸 77cm、深さ 23cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

12 号土坑（第 29 図）
（位置）AM － 102 グリッド。
（形態）平面形は不整形、断面はU字形である。長軸 180cm、短軸 176cm、深さ 127cm。土坑覆土には炭化物や灰がブロック状に含まれていた。また、10 ～ 30cm ほどの礫に混ざって磨製石斧の欠片も含まれていた。礫とともに土坑の埋土に混入したものと考えられる。以上のような覆土の状況から、土坑の性格は不明であるが、人為的に埋められた状況が窺える。
（遺物）土坑の覆土中から北宋銭の「元豊通寶」が出土した。また、農工具等の留め具とも考えられるリング状の鉄製品が出土した。
（時期）不明。

13 号土坑（第 29 図）
（位置）AN － 103 グリッド。
（形態）西側が調査区の外側に延びているため、平面形は不明である。断面は底面が平らで、壁面がやや開きながら立ち上がる。深さ 23cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

14 号土坑（第 29 図）
（位置）AN － 103 グリッド。
（形態）平面形はやや不整な楕円形で、断面は北側が一段深くなり、南側の壁面が階段状に立ち上がる。長軸 85cm、短軸 59cm、深さ 49cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

15 号土坑（第 29 図）
（位置）AM － 103 グリッド。
（形態）平面形はやや不整な楕円形で、断面はやや凹凸があるものの、底面は平らで、壁面は開きながら立ち上がる。長軸 112cm、短軸 74cm、深さ 12cm（２層は地山）。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

16 号土坑（第 29 図）
（位置）AM － 103 グリッド。
（形態）平面形は不整な楕円形で、断面は底面に凹凸があり、壁面は開きながら立ち上がる。長軸 121cm、短軸

100cm、深さ 38cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

17 号土坑（第 29 図）
（位置）AM － 103 グリッド。
（形態）平面形は不整な円形で、断面は南側の壁面下部が膨らむ。長軸 77cm、短軸 66cm、深さ 36cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

18 号土坑（第 29 図）
（位置）AM・AN － 108 グリッド。
（形態）平面形は検出時にはほぼ円形であったが、半截断面では土坑の壁面上部が北側に広がる状況が観察され、楕円形になると考えられる。断面は底面中央部が窪み、壁面は階段状に立ち上がる。長軸 117cm（半截断面）、短軸 85cm、深さ 49cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

19 号土坑（第 30 図）
（位置）AM － 104 グリッド。
（形態）平面形は不整な円形で、断面は壁面に凹凸がある。長軸 123cm、短軸 104cm、深さ 48cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

20 号土坑（第 30 図）
（位置）AI － 98 グリッド。
（形態）平面形は円形で、断面は幅の広いＵ字形である。長軸 139cm、短軸 133cm、深さ 39cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

21 号土坑（第 27 図）
（位置）AJ・AK － 98 グリッド。
（形態）平面形はやや不整な円形である。断面は底面が平らで南側がやや浅くなり、壁面が開きながら立ち上がる。長軸 123cm、短軸 110cm、深さ 22cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

２．溝状遺構

１号溝状遺構（第 27 図）
（位置）AK － 98 グリッド。
（形態）西側で６号土坑と重複し、切られているため、長さは不明。北側では、部分的に５号土坑と重複し、切られている。断面は箱形である。幅 48cm、深さ 18cm。主軸は東西方向。

（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

２号溝状遺構（第 27 図）
（位置）AL － 99 グリッド。
（形態）西側が調査区の外側に延びている。断面は箱形である。幅 65cm、深さ 57cm。主軸は不明（東西方向か）。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

３号溝状遺構（第 28 図）
（位置）AK － 95 グリッド。
（形態）南側で７号土坑を切っている。また、試掘トレンチによって壁面の上部がわすかに失われている。断面は箱形である。長さ 205cm、幅 65cm、深さ 52cm。主軸は東西方向。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

４号溝状遺構（第 28 図）
（位置）AL・AM － 101 グリッド。
（形態）西側が調査区の外側に延びている。東側の上部が 10 号土坑に切られている。断面はＵ字形である。長さ不明、幅 90 ～ 108cm、深さ 37 ～ 95cm。主軸は東西方向。東側に向かって底面が傾斜し、東側端部では地中を掘り込んでいる。底面付近からは 10 ～ 40cm 大の礫が検出され、東側の地中に掘り込み始める周辺では礫がまとまって検出された。地中に掘り込まれる形態から、地下式土坑の可能性も考えられる。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

５号溝状遺構（第 30 図）
（位置）AM － 101 グリッド。
（形態）西側の調査区壁周辺から一部を検出した。西側の調査区外へ延びていると考えられる。断面は壁面上方がやや開く箱形である。長さ不明、幅 70cm、深さ 34cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

６号溝状遺構（第 30 図）
（位置）AL － 101 グリッド。
（形態）南側で７号溝状遺構と重複しているが、新旧関係は不明である。覆土も同じであることから、ほぼ同時期の遺構と考えられる。断面はＵ字形である。長さ 187cm、幅 45cm、深さ 23cm。主軸は東西方向。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

７号溝状遺構（第 30 図）
（位置）AL － 101 グリッド。
（形態）北側で６号溝状遺構と重複しているが、新旧関係は不明である。断面は、底面が平らで、壁面がやや開

きながら立ち上がる。長さ 133cm、深さ 15cm。主軸は東西方向。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

８号溝状遺構（第 30 図）
（位置）AL － 102 グリッド。
（形態）西側へ約 80cm 離れた地点にある９号溝状遺構と同軸上に存在することから、９号溝状遺構と同一の溝状遺構である可能性が考えられる。断面は、箱形である。長さ 91cm、幅 46cm、深さ 11cm。主軸は東西方向。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

９号溝状遺構（第 30 図）
（位置）AL － 102 グリッド。
（形態）北側に６・７号溝状遺構があり、並んでいる。東側の同軸上には８号溝状遺構があり、同一の溝状遺構である可能性が考えられる。断面は底面がやや平らで壁面が開きながら立ち上がる。長さ 153cm、幅 54cm、深さ 20cm。主軸は東西方向。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

10 号溝状遺構（第 30 図）
（位置）AL・AM － 104 グリッド。
（形態）断面は箱形で、ほぼ垂直に掘り込まれている。長さ 325cm、幅 63cm、深さ 38cm。主軸は東西方向。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

11 号溝状遺構（第 31 図）
（位置）AI － 98・99 グリッド。
（形態）南側で２号竪穴状遺構と重複し、切られている。東側が調査区外へ延びている。南西隅に土坑状の窪みがある。長さ・幅不明、深さ９cm。主軸は東西方向か。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

３．竪穴状遺構

１号竪穴状遺構（第 31 図）
（位置）AI・AJ － 97 グリッド。
（形態）北側が調査区外へ延びている。平面・断面ともに不整な形状で、床面部分は酸化鉄が多く見られ、凸凹に硬化している。長軸・短軸不明。深さ 24cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

２号竪穴状遺構（第 31 図）
（位置）AI － 99 グリッド。

（形態）東側が調査区外へ延びている。調査区東壁付近の北側で 11 号溝状遺構と重複し、切っている。検出された平面形では、長方形になると推測される。断面は底面にやや凹凸のある箱形である。長軸不明、短軸 131cm、深さ 24cm。覆土には約 5 ～ 20cm 大の礫が大量に含まれていた。
（遺物）覆土中から明治期の陶磁器片が出土した。
（時期）近代。

３号竪穴状遺構（第 31 図）
（位置）AJ － 99・100 グリッド。
（形態）平面形はいびつな長方形で、断面は底面が平らで壁面は開きながら立ち上がる。長軸 283cm、短軸 118cm、深さ 10cm。竪穴中央やや北寄りの底面に長軸 69cm、短軸 56cm、深さ 39cm の土坑状の窪みがある。
（遺物）底面から覆土中にかけて近世後半～明治期以降の陶磁器片が一括して廃棄されたような状態で出土した。また、陶磁器片に混ざって弥生土器の口縁部破片が出土した。弥生土器は周辺からの混入と考えられる。
（時期）近代。

４号竪穴状遺構（第 31 図）
（位置）AJ・AK － 99・100 グリッド。
（形態）長軸 139cm、短軸 127cm、深さ 52cm のややいびつな方形竪穴の北東側から東側にかけて一段高い（幅約 40 ～ 50cm、深さ約 15cm）の張り出しを持つ。方形の竪穴が重複しているようにも見えるが、覆土は同じで、全面から 5 ～ 30cm 大の礫が大量に検出された。
（遺物）大量の礫に混ざって、近世後半～明治期の陶磁器片やキセルやリング状等の金属製品が一括廃棄されたような状態で出土した。
（時期）近代。

●A区２－３

１．住居跡

１号住居跡（第 32 図）
（位置）AT － 113・114 グリッド。
（形態）竪穴東壁のカマド左袖部分から住居中央にかけて３号溝状遺構に切られ、北側の床面の一部を２号溝状遺構に切られている。また、北西側を調査区北西壁沿いの表土剥ぎ作業時の深堀りによって失っている。平面形は、やや隅の丸い方形になると考えられ、壁面はやや開きながら立ち上がる。長軸（南北）426cm、短軸（東西）390cm、深さ 14cm。柱穴は検出されなかった。
（カマド）竪穴東壁の南東コーナー寄りに設けられている。右側の袖部に袖石が残る。左側の袖部は重複する３号溝状遺構によって失われている。煙道は竪穴の壁面を 10cm ほど奥に掘り込んで、斜めに立ち上がる。カマドの南側から南壁までの床面で甲斐型土器の坏などの遺物が多く出土した。
（遺物）カマド内部とカマド南側の床面から甲斐型土器の坏や甕の破片が出土した。
（時期）平安時代（９世紀前半）。

２号住居跡（第 33 図）
（位置）AT・AU － 114・115 グリッド。
（形態）竪穴西壁中央の上部で 13 号土坑と重複し、切られている。平面形はやや東西に長い長方形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。長軸（東西）366cm、短軸（南北）309cm、深さ 37cm。柱穴は検出されなかった。
（カマド）竪穴北壁の中央やや東寄りに設けられている。袖部は検出されなかったが、袖部または覆い部の構築

材と考えられる 10 ～ 30cm 大の礫が燃焼部奥側から東側にかけてカマド覆土中に集中していた。煙道は竪穴の壁面を 30cm ほど奥に掘り込んで斜めに立ち上がり、さらにカマド奥壁の上部が浅く掘り広げられて、竪穴の外側へ 70cm ほど広がっている。
（遺物）カマド内部および前面から土師器の球胴甕や丸底の坏の破片が出土した。また、竪穴中央付近の床面からは須恵器の高台坏が出土している。
（時期）古墳時代末～奈良時代（７世紀末～８世紀初頭）。

３号住居跡（第 34・35 図）
（位置）AU・AV － 115･116 グリッド。
（形態）竪穴南壁の中央やや東寄り地点で５号土坑と重複し、切られている。竪穴東壁中央やや南寄りの周辺で６・７号土坑と重複し、切られている。竪穴の北西コーナー付近で 27 号土坑と重複し切られている。竪穴北壁のカマド西側で 30 号土坑と重複し、切られている。平面形はやや隅の丸い方形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がるが、南壁の西側では開きながら立ち上がる。長軸（南北）534cm、短軸（東西）510cm、深さ 46cm。南壁付近の床面に２基（住居内土坑１・２）、南西コーナー寄りの西壁付近の床面に１基の土坑（住居内土坑３）を検出したが、形状が不整で配置も不規則であるため、柱穴とは断定できない。住居内土坑１は、平面が楕円形、断面は底面が平らで、壁面の上部が開きながら立ち上がる。長軸 73cm、短軸 55cm、深さ 22cm。住居内土坑２は、平面が不整形、断面は底面が平らで、壁面の上部が開きながら立ち上がる。長軸 96cm、短軸 64cm、深さ 19cm。住居内土坑３は平面がややいびつな楕円形、断面は底面が平らで、壁面は東側でほぼ垂直に、西側では開きながら立ち上がる。長軸 53cm、短軸 41cm、深さ 29cm。また、竪穴の北壁北東コーナー付近外側から長軸 40cm､短軸 28cm､深さ 14cm のピットを検出したが､他に竪穴の外側を廻るようなピットは確認されなかった。
　３号住居跡の東西セクション中央部で竪穴状の掘り込みを確認した。南北セクションでは掘り込みを確認できなかったが、３号住居跡が埋没した後に竪穴状の遺構（東西 300cm、南北不明、深さ 17㎝ほどの規模）が掘られていた可能性も考えられる。
（カマド）竪穴北壁のほぼ中央部に設けられている。両袖の基底部がわずかに残り、左右の袖からは袖石を検出した。竪穴の壁面を斜めに掘り込んで奥壁が斜めに立ち上がり、奥壁上部から幅 20 ～ 25cm、遺構確認面からの深さ５cm ほどの煙道が 80cm ほど竪穴の外側へ伸びる。
（遺物）カマドの両袖部の外側から須恵器の蓋が裏返しの状態で１点ずつ出土した。また、カマド南西側の床面からは焼土と 10 ～ 40cm 大の礫が検出され、礫の下から須恵器の蓋が出土した。これらは、カマド廃棄時の祭祀行為の痕跡と考えられる。また､カマドの燃焼部からは､堀ノ内原 type の甕底部が出土した。竪穴南壁付近では、床面より 15 ～ 20cm ほど上層で 10 ～ 20cm ほどの礫が集中して検出されたが､角礫で､加工痕は見られなかった。周囲からは焼土と炭化材を検出した。
（時期）奈良時代（８世紀前半）。

２．土坑

１号土坑（第 36 図）
（位置）AV・AW － 116・117 グリッド。
（形態）平面形は不整円で、断面は底面が平らで、壁面はやや開きながら立ち上がる。長軸 154cm、短軸 129cm、深さ 28cm。土坑の中央から長軸 46cm、短軸 41cm、深さ 11cm の窪みを検出した。平面はやや不整な円形で、断面は箱形である。
（遺物）土坑の覆土上層から土師器坏もしくは皿の小破片が出土した。
（時期）不明（奈良・平安時代か）。

２号土坑（第 36 図）
（位置）AV・AW － 116 グリッド。
（形態）西側が調査区の外側に延びているため、平面形は不明。断面は箱形で、壁面上部がやや開く。長軸・短軸不明、深さ 63cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

３号土坑（第 36 図）
（位置）AV － 116 グリッド。
（形態）平面やや不整な円形で、断面は不整形。長軸 65cm、短軸 63cm、深さ 38cm。西側に深さ７cm ほどの浅い掘り込みが広がる。掘り込み部分の広さは、東西 81cm、南北 89cm。２基の土坑が重複している可能性も考えられる。
（遺物）土坑の覆土上層から土師器の坏もしくは皿の小破片が出土した。
（時期）不明（奈良・平安時代か）。

４号土坑（第 36 図）
（位置）AV － 116 グリッド。
（形態）西側が調査区の外側に延びているため、平面形は不明。断面は不整形で、西側が一段深くなる。長軸・短軸不明、深さ 43cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

５号土坑（第 36 図）
（位置）AU － 116 グリッド。３号住居跡の南壁と重複している。
（形態）３号住居跡の南壁と重複し、南壁を切っている。平面形はいびつな楕円形で、断面は底面がやや丸く、壁面は開きながら立ち上がる。長軸 118cm、短軸 61cm、深さ 20cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

６号土坑（第 36 図）
（位置）AU － 116 グリッド。３号住居跡の東壁やや南寄り付近の覆土上層から検出した。
（形態）北東側で７号土坑と重複し、切られているため、平面形は不明。断面は底面が平らで、開きながら立ち上がる。長軸・短軸不明、深さ９cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

７号土坑（第 36 図）
（位置）AU － 115・116 グリッド。
（形態）３号住居跡の東壁やや南寄りの部分で重複し、切っている。南西側では６号土坑と重複し、切っている。平面形はやや不整な楕円形で、断面は底面が丸く、開きながら立ち上がる。長軸 129cm、短軸 109cm、深さ 29cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。

（時期）不明。

８号土坑（第 36 図）
（位置）AS・AT － 116 グリッド。
（形態）北側が表土剥ぎ作業時の深堀りによって失われているため、平面形は不明。断面は底面の広いＵ字形である。長軸・短軸不明、深さ 31cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

９号土坑（第 36 図）
（位置）AT － 116 グリッド。
（形態）南側が表土剥ぎ作業時の深堀りによって失われているため、平面形は不明。断面はややいびつで、東側丸く膨らみ、西側は垂直に立ち上がる。長軸・短軸不明、深さ 42cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

10 号土坑（第 36 図）
（位置）AS － 116 グリッド。
（形態）東側が調査区の外側に延びているため、平面形は不明。断面は不整形で、底面から立ち上がりにかけて凹凸がある。長軸・短軸不明、深さ 14cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

11 号土坑（第 36 図）
（位置）AS － 115 グリッド。
（形態）東側が調査区の外側に延びているため、平面形は不明。断面は不整形で、底面から立ち上がりにかけてやや凹凸がある。長軸・短軸不明、深さ 23cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

12 号土坑（第 37 図）
（位置）AT － 114・115 グリッド。
（形態）北側で６号溝状遺構と重複し、切られているが、平面形はやや不整な円形になると考えられる。断面は底面が平らで、壁面はやや開きながら立ち上がる。長軸 119cm、短軸 113cm、深さ 29cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

13 号土坑（第 37 図）
（位置）AU － 114・115 グリッド。
（形態）東側で２号住居跡と重複し、切っている。平面形はやや不整な楕円形。断面は底面が平らで、壁面は東側がほぼ垂直に立ち上がり、西側は開きながら立ち上がる。長軸 106cm、短軸 91cm、深さ 14cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。

（時期）不明。

14 号土坑（第 37 図）
（位置）AT － 114 グリッド。
（形態）北西側で 15 号土坑と、北東側で 25 号土坑と重複し、２つの土坑を切っている。平面形はやや不整な円形。断面は、底面が平らで、壁面は南側がほぼ垂直に立ち上がり、北側は開きながら立ち上がる。長軸 122cm、短軸 120cm、深さ 27cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

15 号土坑（第 37 図）
（位置）AT － 114 グリッド。
（形態）南東側で 14 号土坑と重複し、切られている。平面形はやや不整な円形になると考えられる。断面は底面が平らで南側にやや傾斜し、壁面は北側でほぼ垂直に立ち上がり、南側ではやや開きながら立ち上がる。長軸・短軸不明（南西－北東方向 73cm）、深さ 40cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

16 号土坑（第 37 図）
（位置）AS － 114 グリッド。
（形態）北西側で土坑壁面の上端が 4 号溝状遺構と接している。平面形は不整な楕円形で、断面は底面が平らで、西側では丸みを帯びながらほぼ垂直に立ち上がり、東側では段差を持ってさらに浅く広がる。長軸 145cm、短軸 91cm、深さ 23cm。土坑の東側は別の土坑と重複し、切られている可能性が高い。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

17 号土坑（第 37 図）
（位置）AS － 114 グリッド。
（形態）北西側で 3 号溝状遺構と、南側で 4 号溝状遺構と重複し、それぞれ切られており、北東側の一部が残る。平面形は不明で、残存する部分の断面は底面が平らで、壁面はほぼ垂直に立ち上がっている。長軸・短軸不明、深さ 45cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

18 号土坑（第 37 図）
（位置）AS － 114 グリッド。
（形態）東側で調査区東壁に接し、南側で 4 号溝状遺構と重複し、切られているが、平面形は円形になると考えられる。断面は底面が平らで、壁面は開きながら立ち上がる。長軸・短軸不明、深さ 10cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

19 号土坑（第 37 図）
（位置）AS － 114 グリッド。４号溝状遺構の底面から検出した。
（形態）土坑上部が４号溝状遺構によって失われている。残存部の断面は、U字形である。北西側で 17 号土坑と重複していた可能性も考えられる。規模は不明。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

20 号土坑（第 38 図）
（位置）AU・AV － 116 グリッド。３号住居跡の西壁中央付近の覆土上層から検出した。
（形態）３号住居跡と重複し、切っている。平面形は不整な楕円形。断面は底面から壁面にかけて丸く緩やかに開きながら立ち上がるが、断面観察において東側では３号住居跡の覆土との境界が判然とせず、立ち上がりが明確に確認できなかった。長軸 171cm、短軸 110cm、深さ 49cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

21 号土坑（第 38 図）
（位置）AS － 113 グリッド。
（形態）東側が調査区の外側に延び、北側は７号溝状遺構と重複し、切っているため、平面形は不明。断面は底面が平らで、壁面はやや開きながら立ち上がる。長軸・短軸不明、深さ 29cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

22 号土坑（第 38 図）
（位置）AS － 111 グリッド。
（形態）西側が調査区の外側に延びているため、平面形は不明。断面は底面が平らで、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。長軸・短軸不明、深さ 48cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

23 号土坑（第 38 図）
（位置）AS － 111 グリッド。
（形態）西側の一部が調査区の外側に延びているが、平面形は不整形になると考えられる。断面は底面から壁面にかけて丸く緩やかに開きながら立ち上がる。長軸・短軸不明、深さ 16cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

24 号土坑（第 38 図）
（位置）AR・AS － 111 グリッド。
（形態）北側と東側が調査区の外側に延びているため、平面形は不明。断面は底面がほぼ平らで、壁面は西側ではほぼ垂直に、南側ではやや開きながら立ち上がる。長軸・短軸不明、深さ 15cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

25 号土坑（第 37 図）
（位置）AT － 114 グリッド。
（形態）南西側で 14 号土坑と、南東側で 6 号溝状遺構と重複し、それぞれ切られている。また、北側で 1 号住居跡と重複し、切っている。平面形は不明で、断面は底面が平らで、壁面が開きながら立ち上がる。長軸・短軸不明（東西方向 128cm）、深さ 15cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

26 号土坑（第 38 図）
（位置）AV － 115 グリッド。
（形態）西側が調査区の外側に延びているため、平面形は不明。東側で 3 号住居跡と重複し、切っている。断面は底面が平らで、壁面は北側でほぼ垂直に立ち上がり、南側で中間部分がやや膨らむ。長軸・短軸不明、深さ 45cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

27 号土坑（第 38 図）
（位置）AV － 115 グリッド。
（形態）平面形はやや不整な楕円形で、断面は底面に凹凸があり、北側が一段深くなる。壁面は開きながら立ち上がる。長軸 73cm、短軸 57㎝、深さ 13cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

28 号土坑（第 38 図）
（位置）AS － 113 グリッド。
（形態）平面形は不整形、断面は西側が底面から丸く立ち上がり、東側では開きながら真っ直ぐ立ち上がる。東側の土坑壁面上部に溝状の浅い掘り込みがあり、東側の調査区外へ延びている。長軸・短軸不明（南北方向 59cm）、深さ 25cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

29 号土坑（第 39 図）
（位置）AV － 116 グリッド。
（形態）西側で 5 号溝状遺構と重複し、切っている。さらに西側で 31 号土坑と重複し、切られている。平面形は不整形で、断面は底面が平らで、壁面はやや開きながら立ち上がる。長軸・短軸不明（南北方向 123cm）、深さ 28cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

30 号土坑（第 39 図）
（位置）AU・AV － 115 グリッド。
（形態）南側で 3 号住居跡と重複し、切っている。平面形は不整形で、断面は北側が一段深くなり、底面から丸

みを帯びて立ち上がる。長軸 122cm、短軸 52cm、深さ 73cm。
（遺物）土坑覆土の上層や３号住居跡と接する地点から土師器甕の破片が出土したが、３号住居跡から流入したものと考えられる。
（時期）不明。

31 号土坑（第 39 図）
（位置）AV － 116 グリッド。
（形態）東側で５号溝状遺構･29 号土坑と重複し、切っている。平面形はやや不整な円形で、断面は底面が丸く、壁面は開きながら立ち上がる。長軸 59cm、短軸 58cm、深さ 68cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

32 号土坑（第 39 図）
（位置）AU － 115 グリッド。
（形態）西側が調査区の外側に延びているため、平面形は不明。断面は底面に凹凸があり、壁面はやや開きながら立ち上がる。長軸・短軸不明、深さ 60cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

33 号土坑（第 39 図）
（位置）AS － 113 グリッド。28 号土坑の下層を精査中に調査区壁面の断面観察により確認した。
（形態）東側が調査区の外側に延びているため、平面形は不明。断面は底面が平らで、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。長軸・短軸不明、深さ 48cm。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

３．溝状遺構
１号溝状遺構（第 39 図）
（位置）AS － 112・113 グリッド。
（形態）断面は箱型で、ほぼ垂直に掘り込まれている。長さ 473cm、幅 58cm、深さ 38cm。主軸は南南東－北北西方向。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

２号溝状遺構（第 39 図）
（位置）AT － 113 グリッド。
（形態）北側が表土剥ぎ作業時の深堀りによって失われている。１号住居跡と重複し、切っている。断面は箱型で、ほぼ垂直に掘り込まれている。長さ不明、幅 56cm、１号住居跡床面からの深さ 14cm。主軸は南南東－北北西。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

３号溝状遺構（第 37 図）
（位置）AS・AT － 114 グリッド。
（形態）西側で 1 号住居跡と、東側で 17 号土坑と重複し、切っている。南東側で 4 号溝状遺構と重複し、切られている。断面は箱形で、ほぼ垂直に掘り込まれている。長さ 298cm、幅 78cm、深さ 23cm。主軸は東西方向。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

４号溝状遺構（第 37 図）
（位置）AS・AT － 114 グリッド。
（形態）北東側で３号溝状遺構と、その東側で 17・18 号土坑と重複し、切っている。東側で調査区外に延びている。断面は箱形で、壁面の上部がやや開きながら立ち上がる。長さ不明、幅 77cm、深さ 36cm。主軸は東西方向。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

５号溝状遺構（第 39 図）
（位置）AV － 116・117 グリッド。
（形態）北側端部で 29・31 号土坑と重複し、それぞれ切られている。南側が調査区の外側に延びている。底面は平らであるが、壁面はやや凹凸が見られる。長さ不明、幅 50 ～ 60cm、深さ 50cm。主軸は南北方向であるが、北側端部で蛇行する。南側で溝の東側に深さ 6 ～ 10cm の突出部があり、別の土坑が重複している可能性も考えられる。
（遺物）土坑の覆土中から土師器の坏や甕、須恵器壺の小破片が出土した。
（時期）不明（奈良・平安時代か）。

６号溝状遺構（第 37 図）
（位置）AT － 114 グリッド。
（形態）北側で 25 号土坑と、南側で 12 号土坑と重複し、切っている。断面は箱形でほぼ垂直に掘り込まれているが、東側壁面の北側上部がやや開きながら立ち上がる。長さ 148cm、幅 68 ～ 73cm、深さ 5 cm。主軸は南南西－北北東方向。
（遺物）遺物は出土しなかった。
（時期）不明。

●Ｃ区北側・南側

本調査区は、水路を挟んで調査区が分かれている。このため、便宜上Ｃ区北・Ｃ区南という名称を用いる。調査の結果、住居跡 4 軒、土坑 118 基、溝状遺構 51 条、集石土坑 6 基、配石遺構 4 基、焼土遺構 24 基、ピット 111 期、遺物集中区などが検出され、縄文時代早期後半～前期、弥生時代、平安時代以降・中世の遺物が発見された。

１．住居跡

１号住居跡（第 40 図）
（位置）U20・V20・U21・V21 グリッド（C 区南）
（形態）東西約 3.5 m、南北約 4 mの隅丸方形と推定される。西壁の 2/3 ～北壁の 1/2 強が調査区外であるため、全容は確認出来ていない。調査面積とこの時期のカマドの傾向から、西壁北寄りから北西の角近くにカマドが存

在すると推定する。住居跡のプランが確認出来る前から、焼土と炭化材が広く確認でき、プラン確認後の掘削中にも、焼土・炭化材が沢山検出できた。
（カマド）検出できていないが、西壁北寄りから北西角に存在すると想定する。
（遺物）土器類はほとんど確認されなかったが、炭化材が多く検出でき、中でも縄が炭化したものや、種などが検出できた。これらの分析を行ったところ､竹のような植物を細く裂いて繊維状にしている可能性が指摘された。
（年代）遺物がほとんど出土しなかったため、土器などから時期を推定することはできない。そこで、炭化材を分析にかけた結果、960 ± 20yrBP、11 世紀前半～ 12 世紀中ごろの暦年代が測定されいる。

２号住居跡（第 40・41 図）
（位置）Y-35 ～ 36・Z-35 ～ 36 グリッド（C 区南）
（形態）東西約 5.4 m、南北約 5.6 m、深さ 0.4 mの隅丸方形である。深さ東南隅にカマドを持つ。東壁の一部に周溝が確認された。住居内には、西南隅に土坑 (118 号土坑) と中央付近に張り床のように堅い焼土の層が検察されている。また、掘り方が浅いが、ピットが２基検出された。
（カマド）東南隅に作られていた。東西 2.1 m、南北 2.6 m、深さ 0.36 m、人頭大や拳大の礫が散乱していることから、もとは、石組カマドであった可能性がたかい。部分的に粘土も検出されている。
（遺物）弥生土器の破片がほとんどで、鉄製品が 1 点出土しているが、用途不明である。
（年代）遺物がほとんど出土しなかったため、土器などから時期を推定することはできない。そこで、炭化材を分析にかけた結果、960 ± 20yrBP、11 世紀前半～ 12 世紀中ごろの暦年代が測定されいる。

３号住居跡（第 41 図）
（位置）O-20 ～ 21 グリッド（C 区北）
（形態）東西 3.34 m、南北 4.1 m、深さ 0.3 mの楕円形である。
（炉）　中央に焼土がレンズ状に堆積する状態が観察できる。その周辺が炉と推測される。
（遺物）床面直上に台石が出土している（第 84 図 -438）。
（年代）遺物がほとんど出土しなかったため、土器などから時期を推定することはできない。そこで、炭化材を分析にかけた結果、6,345 ± 30yrBP、縄文時代早期末～前期後葉頃の暦年代が測定されている。

４号住居跡（第 41 図）
（位置）AB-39 グリッド（C 区南）
（形態）Ｃ区南側の西壁を土層観察するため、精査している段階で発見された。カマドのみ。2 号住居跡と同時期であることから、住居跡のほとんどが調査区外になる。
（カマド）カマドは、2 号住居跡同様、東南コーナーの可能性がある。壁際に人頭大の石が確認できたので、石組みカマドと思われる。
（遺物）カマド袖部分と想定する位置から、須恵器カメ破片 1 点が出土している（第 77 図 -266）。
（年代）遺物がほとんど出土しなかったため、土器などから時期を推定することは難しい。そこで、炭化材を分析にかけた結果、1,000 ± 20yrBP、11 世紀前半～ 12 世紀中ごろの暦年代が測定されいる。

２．土坑
１号土坑（第 42 図）
（位置）N-19 ～ 20 グリッド（C 区北）
（形態）東西 1.36 m、南北約 1.28 m、深度 0.15 mの円形で、底部は皿状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。

（年代）平安以降

２号土坑（第 42 図）
（位置）N-20 グリッド（C 区北）
（形態）東西 1.5 m、南北約 1.6 m、深度 0.3 mの円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）弥生時代前期の条痕文土器の破片６点
（年代）弥生時代前期の可能性あり。

３号土坑（第 42 図）
（位置）M-20 ～ N-20 グリッド（C 区北）
（形態）東西 1.15 m、南北約 1.11 m、深度 0.18 mの円形で、底部は皿状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安以降

４号土坑（第 42 図）
（位置）N-20 グリッド（C 区北）
（形態）東西 1.25 m、南北約 1.34 m、深度 0.18 mの円形で、底部は皿状である。5 土と重複し、それよりも新しい。
（遺物）縄文土器と弥生土器片が出土している。
（年代）平安以降

５号土坑（第 42 図）
（位置）N-20 グリッド（C 区北）
（形態）東西 0.55 m、南北約 0.63 m、深度 0.05 mの円形で、底部は皿状である。4 土と重複し、それよりも古い。
（遺物）縄文土器 1 点出土している。
（年代）平安以降

６号土坑（第 42 図）
（位置）P-19 グリッド（C 区北）
（形態）東西 0.9 m、南北約 0.85 m、深度 0. 1 mの円形で、底部は皿状である。7 土と重複し、それより古い。9 土と近接している。
（遺物）縄文土器と弥生土器片が出土している。
（年代）平安以降

７号土坑（第 42 図）
（位置）O-19 ～ P-19 グリッド（C 区北）
（形態）東西 1.4 m、南北約 1.3 m、深度 0.42 mの円形で、底部は鍋底状である。6・8 土と重複し、それらより新しい。9 土と近接する。
（遺物）縄文土器と弥生土器片が出土している。
（年代）弥生時代前期の可能性あり。

８号土坑（第 42 図）
（位置）O-19 ～ 20 グリッド（C 区北）

（形態）東西 1.23 m、南北約 1.2 m、深度 0.52 mの円形で、底部は鍋底状である。7 土と重複し、それよりも古い。9 土と近接している。
（遺物）縄文土器と弥生土器片が出土している。
（年代）弥生時代前期の可能性あり。

9 号土坑（第 42 図）
（位置）O-19 ～ 20・P-19 ～ 20 グリッド（C 区北）
（形態）東西 1.38 m、南北約 1.36 m、深度 0.35 mの円形で、底部は鍋底状である。6・7・8 土と近接している。
（遺物）縄文土器と弥生土器片が出土している。
（年代）弥生時代前期の可能性あり。

10 号土坑（第 42 図）
（位置）O-20 グリッド（C 区北）
（形態）東西 0.85 m、南北約 0.85 m、深度 0.06 mの円形で、底部は皿状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降

11 号土坑（第 42 図）
（位置）L-19 ～ 20 グリッド（C 区北）
（形態）東西 1.35 m、南北約 1.29 m、深度 0.34 mの円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）縄文土器と弥生土器片が出土している。
（年代）平安時代以降

12 号土坑（第 42 図）
（位置）N-20 グリッド（C 区北）
（形態）東西 1.35 m、南北約 1.29 m、深度 0.34 mの円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）縄文土器と弥生土器片が出土している。
（年代）弥生時代前期の可能性あり。

13 号土坑（第 42 図）
（位置）N-20 グリッド（C 区北）
（形態）東西 0.83 m、南北約 0.8 m、深度 0.29 mの円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）縄文土器 1 点出土している。
（年代）平安時代以降

14 号土坑（第 43 図）
（位置）N-21 グリッド（C 区北）
（形態）東西 0.67 m、南北約 0.65 m、深度 0.15 mの円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）縄文時代

15 号土坑（第 43 図）
（位置）J-17 グリッド（C 区北）
（形態）東西 0.89 m、南北約 0.82 m、深度 0.4 mの円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）縄文時代

16 号土坑（第 43 図）
（位置）J-17 グリッド（C 区北）
（形態）東西 0.84 m、南北約 0.84 m、深度 0.23 mの円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）縄文時代

17 号土坑（第 43 図）
（位置）J-17 グリッド（C 区北）
（形態）東西 0.79 m、南北約 0.83 m、深度 0.25 mの円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）縄文時代

18 号土坑（第 43 図）
（位置）K17 ～ L17 グリッド（C 区北）
（形態）東西 0.8 m、南北約 0.85 m、深度 0.18 mの円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）縄文土器破片
（年代）縄文時代

19 号土坑（第 43 図）
（位置）L-18 グリッド（C 区北）
（形態）東西 0.9 m、南北約 0.85 m、深度 0.6 mの円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）縄文時代

20 号土坑（第 43 図）
（位置）P-21 グリッド（C 区北）
（形態）東西 1 m、南北約 0.53 m、深度 0.25 mの円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）縄文時代

21 号土坑（第 43 図）
（位置）O-21 グリッド（C 区北）
（形態）東西 0.78 m、南北約 0.46 m、深度 0.35 mの円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）縄文土器 1 点
（年代）縄文時代

22 号土坑（第 43 図）
（位置）K-18 グリッド
（形態）東西 0.85 m、南北約 0.7 m、深度 0.1 mの楕円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）縄文時代

23 号土坑（第 43 図）
（位置）L-16 ～ M-16 グリッド（C 区北）
（形態）東西 0.8 m、南北約 0.66 m、深度 0.08 mの楕円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）平面に長軸 0.1 mの平石を中心に、やや平らな礫が 5 点出土。
（年代）縄文時代

24 号土坑（第 43 図）
（位置）L-19 ～ M-19 グリッド（C 区北）
（形態）東西 1.05 m、南北約 1 m、深度 0.55 mの円形で、底部は鍋底状である。調査区のなかでは、大きめで深い土坑。
（遺物）黒曜石の破片
（年代）縄文時代

25 号土坑（第 43 図）
（位置）M-19 グリッド（C 区北）
（形態）東西 1.04 m、南北約 0.9 m、深度 0.45 mの円形で、底部は鍋底状である。24 土同様、他の土坑より大きく深い。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）縄文時代

26 号土坑（第 43 図）
（位置）M-19 グリッド（C 区北）
（形態）東西 0.55 m、南北約 0.55 m、深度 0.22 mの円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）縄文時代

27 号土坑（第 43 図）
（位置）J-17 ～ 18・K-17 ～ 18 グリッド（C 区北）
（形態）東西 1.04 m、南北約 1 m、深度 0.1 mの円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）縄文時代

28 号土坑（第 44 図）
（位置）M-17 グリッド（C 区北）
（形態）東西 1.05 m、南北約 0.46 m、深度 0.25 mの円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。

（年代）縄文時代

29 号土坑（第 44 図）
（位置）L-18 グリッド（C 区北）
（形態）東西 0.9 m、南北約 2.2 m、深度 0.38 mの楕円形で、底部は皿状である。中心が褐色で、周りがドーナツ状に黒褐色土であったため、風倒木痕の可能性もある。
（遺物）縄文土器片
（年代）縄文時代

30 号土坑（第 44 図）（C 区北）
（位置）P-20 ～ 21 グリッド
（形態）東西 1.08 m、南北約 1 m、深度 0.4 mの推定円形で、底部は鍋底状である。調査区壁面から検出された。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降

31 号土坑（第 51 図）
（位置）S-20 グリッド（C 区南）
（形態）東西 0.64 m、南北約 0.4 m、深度 0.23 mの楕円形で、底部はややすり鉢状である。31 号土坑が検出された S-20 グリッド周辺は、焼土が点在する地点で、締まりの欠ける黒色土が観察できた。C 区北側の土層観察では、平安時代以前とした層で、この層からは陶器片がほんの少しだが検出される。この黒色土を少しずつ掘削していく段階で、遺物と骨の一部が確認できた。
（遺物）人骨・歯・短刀。人骨は、頭部とかろうじて分かる位の残存率で、顎にあたる位置で歯が検出された。分析の結果、成年にも満たないがそれに近い年齢との結果であった。短刀は、長さ 27.9㎝。幅 2.8㎝の鉄製で、外側に鞘があったことが、木質部分が残っていたことから推測できる。短刀以外の遺物は確認できなかった。
（年代）中世以降

33 号土坑（第 44 図）
（位置）Q-20 グリッド（C 区南）
（形態）東西 1.05 m、南北約 0.6 m、深度 0.15 mの円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安以降

34 号土坑（第 44 図）
（位置）T-21 グリッド（C 区南）
（形態）東西 0.92 m、南北約 0.98 m、深度 0.09 mの円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安以降

35 号土坑（第 44 図）
（位置）T20 グリッド（C 区南）
（形態）東西 1.06 m、南北約 1.07 m、深度 0.41 mの円形で、底部は鍋底状である。36 土坑と重複している。35 土の方が 36 土より新しい。

（遺物）炭化材が 1 点出土している。
（年代）平安以降

36 号土坑（第 44 図）
（位置）T-20 グリッド（C 区南）
（形態）東西 1.25 m、南北約 1.28 m、深度 0.18 mの円形で、底部は皿状である。35 土と重複している。36 土の方が 35 土より古い。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降

37 号土坑（第 51 図）
（位置）S-22 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 0.72 m、短軸約 0.67 m、深度 0.19 mの円形で、底部は鍋底状である。C 区南側は、平安時代以降の焼土遺構が検出されるため、表土剥ぎを表土から 0.7 mほどで止めていた。この確認時に、すでに甕の上部は存在しておらず、後世の開墾で削られていたものと考える。土壌分析を行ったが、リンの含有量は、周辺の土壌と変わらないとの結果であったため、どのような性格の遺構かは不明である。
（遺物）常滑産のものに類似する陶器甕胴部下から底部が出土している。底部は中央を欠損しているようである。正位の状態で埋められ、内側に重なるように破片が出土していた。
（年代）常滑産の甕に類似していることから、中世に属すると考えている。

38 号土坑（第 51 図）
（位置）S-21 ～ 22 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.06 m、短軸約 0.75 m、深度 0.48 mの半円形で、底部は鍋底状である。試掘トレンチにて東側半分が掘削されているが、39 号土坑に類似する形態と推測する。土坑の覆土中には、人頭大の礫が詰め込まれている。並べたような形跡は見られず、無作為に入れられた感がある。
（遺物）人頭大の礫以外なし。
（年代）平安時代以降と思われる。

39 号土坑（第 44 図）
（位置）S-21 ～ 22・T-21 ～ 22 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.97 m、短軸 0.95 m、深度 0.36 mの隅丸長方形で、底部は鍋底状である。38 号土坑と同じ形態と思われるが、38 土のような礫は入らない。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

40 号土坑（第 44 図）
（位置）T-23 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.18 m、短軸 1.17 m、深度 0.18 mの円形で、底部は皿状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

41 号土坑（第 44 図）
（位置）T-22 ～ U-22 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.58 m、短軸 1.17 m、深度 0.31 mの楕円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

42 号土坑（第 44 図）
（位置）U-21 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 0.67 m、短軸 0.67 m、深度 0.12 mの円形で、底部は皿状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

43 号土坑（第 44 図）
（位置）U-22 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1 m、短軸 0.95 m、深度 0.16 mの円形で、底部は皿状である。10 号溝と重複し、それより新しい。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）10 溝より新しい。平安時代以降と思われる。

44 号土坑（第 44 図）
（位置）U-22 ～ 23 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.03 m、短軸 0.89 m、深度 0.13 mの円形で、底部は皿状である。11・12 溝と重複し、それより新しい。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）11・12 溝より新しい。平安時代以降と思われる。

45 号土坑（第 45 図）
（位置）S-22 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.15 m、短軸 1.12 m、深度 0.2 mの円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

46 号土坑（第 45 図）
（位置）R-23 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.48 m、短軸 0.58 m、深度 0.2 mの隅丸長方形？で、底部は鍋底状である。１７溝と重複し、それより古い。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

47 号土坑（第 45 図）
（位置）S-23 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 0.82 m、短軸 0.77 m、深度 0.07 mの円形で、底部は皿状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。

（年代）平安時代以降と思われる。

48 号土坑（第 45 図）
（位置）R-24 ～ S-24 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.07 m、短軸 1.02 m、深度 0.06 mの円形で、底部は皿状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

49 号土坑 （第 45 図）
（位置）S-24 ～ T-24 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.09 m、短軸 1 m、深度 0.3 mの円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

50 号土坑（第 45 図）
（位置）S-24 ～ 25・T-24 ～ 25 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.23 m、短軸 1.2 m、深度 0.19 mの円形で、底部は皿状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

51 号土坑（第 45 図）
（位置）U-23 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.3 m、短軸 1 m、深度 0.28 mの円形で、底部は鍋底状である。22 溝と重複し、それより古い。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

52 号土坑（第 45 図）
（位置）U-23 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.23 m、短軸 1.07 m、深度 0.28 mの円形で、底部は鍋底状である。22 溝・101 ピットと重複し、それらより新しい。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

53 号土坑（第 45 図）
（位置）U-23 ～ 24 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 2.45 m、短軸 0.7 m、深度 0.18 mの隅丸長方形で、底部は鍋底状である。23 溝と重複し、それより新しい。長軸が 2 mを超えるため、本来は溝状遺構に含まれる。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

54 号土坑（第 45 図）
（位置）S-25 グリッド（C 区南）

（形態）長軸 1.16 m、短軸 1.06 m、深度 0.24 mの楕円形で、底部は鍋底状である。試掘トレンチで切られている。北隅でテラス状の段がある。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

55 号土坑（第 45 図）
（位置）U-24 ～ V-24 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1 m、短軸 0.75 m、深度 0.5 mの円形で、底部は鍋底状である。C 区南西壁の外側に続いている。ほとんどの土坑の掘り方が浅く皿状なのに対し、深度十分な鍋底状である。他の土坑と時期・性格など違うのかもしれない。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

56 号土坑（第 45 図）
（位置）U-25 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 0.95 m、短軸 0.93 m、深度 0.2 mの円形で、底部は鍋底状である。25 溝と重複し、それより新しい。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

57 号土坑（第 46 図）
（位置）T-26 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 0.98 m、短軸 0.93 m・深度 0.2 mの円形で、底部は皿状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

58 号土坑（第 46 図）
（位置）T-26 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 0.85 m、短軸 0.73 m、深度 0.03 mの円形で、底部は皿状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

59 号土坑（第 46 図）
（位置）S-25 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.1 m、短軸 1 m、深度 0.35 mの円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

60 号土坑（第 46 図）
（位置）V-26 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.42 m、短軸 0.65 m、深度 0.05 mの隅丸長方形で、底部は皿状である。61 土と近接する。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

61 号土坑（第 46 図）
（位置）V-26 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 0.42 m、短軸 0.25 m、深度 0.07 mの不正形で、底部は皿状である。
（遺物）礫が数点入る。
（年代）平安時代以降と思われる。

62 号土坑（第 46 図）
（位置）U-29 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.1 m、短軸 1.1 m、深度 0.45 mの円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

63 号土坑（第 46 図）
（位置）V-29 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.04 m、短軸 1.03 m、深度 0.42 mの円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

64 号土坑（第 46 図）
（位置）V-29 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 0.88 m、短軸 0.77 m、深度 0.1 mの円形で、底部は皿状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

65 号土坑（第 46 図）
（位置）T-19 ～ 20 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.85 m、短軸 1.84 m、深度 0.39 mのほぼ円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）縄文土器 2 点と瀬戸産鉄釉の小壺 1 点を出土している。
（年代）１３世紀末から１４世紀頃

66 号土坑（第 46 図）
（位置）T-28 ～ U-28 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 0.95 m、短軸 0.92 m、深度 0.28 mの円形で、底部は鍋底状である。67 土と重複し、それより新しい。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

67 号土坑（第 46 図）
（位置）T-28 ～ U-28 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.13 m、短軸 0.97 m、深度 0.35 mの円形で、底部は鍋底状である。66 土と重複し、それより古い。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

69 号土坑（第 46 図）
（位置）U-28 ～ 29 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.05 m、短軸 1.01 m、深度 0.25 mの円形で、底部は鍋底状である。覆土中に人頭大の礫が沢山入る。89 土と重複し、それより新しい。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

71 号土坑（第 55 図）
（位置）U-28 ～ V-28 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 0.79 m、短軸 0.78 m、深度 0.2 mの円形で、底部は皿状である。35 溝と重複し、それより新しい。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

72 号土坑（第 46 図）
（位置）V-31 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.14 m、短軸 0.9 m、深度 0.1 mの円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

73 号土坑（第 47 図）
（位置）U-26 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.35 m、短軸 1.28 m、深度 0.27 mの円形で、底部は鍋底状である。30 溝と重複し、それより古い。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

74 号土坑（第 47 図）
（位置）W-29 ～ X-29 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.3 m、短軸 1.27 m、深度 0.18 mの円形で、底部は皿状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

75 号土坑（第 47 図）
（位置）X-29 ～ 30 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 0.82 m、短軸 0.7 m、深度 0.1 mの円形で、底部は皿状である。104 土と重複し、それより新しい。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

76 号土坑（第 47 図）
（位置）X-30 ～ Y-30 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.09 m、短軸 0.98 m、深度 0.38 mの円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

77 号土坑（第 47 図）
（位置）Y-30 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.23 m、短軸 1.21 m、深度 0.44 mの円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

78 号土坑（第 46 図）
（位置）X-31 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 0.82 m、短軸 0.81 m、深度 0.1 mの円形で、底部は皿状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

79 号土坑（第 47 図）
（位置）Y-31 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 0.9 m、短軸 0.87 m、深度 0.13 mの円形で、底部は皿状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

81 号土坑（第 47 図）
（位置）U-22 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1 m、短軸 0.81 m、深度 0.2 mの円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

82 号土坑（第 47 図）
（位置）W-32 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.12 m、短軸 0.9 m、深度 0.3 mの円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

83 号土坑（第 47 図）
（位置）Y-31 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.03 m、短軸 1 m、深度 0.2 mの円形で、底部は鍋底状である。42 溝と重複し、それより古い。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

84 号土坑（第 48 図）
（位置）X-31 ～ 32 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.3 m、短軸 1.21 m、深度 0.3 mの円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

85 号土坑（第 48 図）
（位置）X-31 ～ 32 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.17 m、短軸 1.06 m、深度 0.3 mの円形で、底部は鍋底状である。84 土と隣接する。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

86 号土坑（第 48 図）
（位置）Y-32 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 0.77 m、短軸 0.67 m、深度 0.21 mの円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

87 号土坑（第 48 図）
（位置）X-33・Y-33 ～ 34 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.41 m、短軸 1.37 m、深度 0.5 mの円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

88 号土坑（第 48 図）
（位置）Y-33 ～ 34 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.1 m、短軸 1.1 m、深度 0.2 mの円形で、底部は鍋底状である。覆土中に礫が入る。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

89 号土坑（第 46 図）
（位置）U-28 ～ 29 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 2.06 m、短軸 0.92 m、深度 0.19 mの隅丸長方形で、底部は皿状である。69 土と重複し、それより古い。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

90 号土坑（第 55 図）
（位置）V-29 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 0.8 m、短軸 0.78 m、深度 0.32 mの円形で、底部は鍋底状である。45 溝と重複し、それより古い。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

91 号土坑（第 48 図）
（位置）U-28 ～ V-28 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 0.75 m、短軸 0.75 m、深度 0.1 mの円形で、底部は皿状である。112 土と重複し、それより新しい。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

92 号土坑（第 48 図）
（位置）Y-34 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.16 m、短軸 1.14 m、深度 0.39 mの円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

93 号土坑（第 48 図）
（位置）Y-34 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.25 m、短軸 1.19 m、深度 0.17 mの円形で、底部は皿状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

94 号土坑（第 48 図）
（位置）Y-34 ～ Z-34 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.47 m、短軸 1.4 m、深度 0.18 mの円形で、底部は皿状である。覆土に人頭大の礫が沢山入る。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

95 号土坑（第 48 図）
（位置）Y-36 ～ Z-36 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.52 m、短軸 1.25 m、深度 0.42 mの円形で、底部は鍋底状である。 2 号住居跡と重複し、それより新しい。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

96 号土坑（第 48 図）
（位置）Z-36 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.35 m、短軸 1.25 m、深度 0.3 mの円形で、底部は鍋底状である。 2 号住居跡と重複し、それより新しい。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

98 号土坑（第 49 図）
（位置）Z-36 ～ 37 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1 m、短軸 1 m、深度 0.18 mの円形で、底部は皿状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

99 号土坑（第 49 図）
（位置）Z-36 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.45 m、短軸 1.3 m、深度 0.25 mの円形で、底部は皿状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。

（年代）平安時代以降と思われる。

100 号土坑（第 49 図）
（位置）AA-38 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.36 m、短軸 1.22 m、深度 0.24 mの円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

101 号土坑（第 49 図）
（位置）AA-38 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.17 m、短軸 1.17 m、深度 0.5 mの円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

102 号土坑（第 49 図）
（位置）AB-38 ～ 39 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 0.82 m、短軸 0.53、深度 0.15 mのほぼ円形で、底部は皿状である。全体の 1/2 が調査区壁内にある。103 土と重複し、それより新しい。
（遺物）石器が 2 点出土している。S2 は打製石斧である（第 82 図 -405）。
（年代）縄文時代

103 号土坑（第 49 図）（C 区南）
（位置）AB-38 ～ 39 グリッド
（形態）長軸 1.08 m、短軸 1.05、深度 0.13 mの円形で、底部は皿状である。102 土と重複し、それより古い。
（遺物）骨片・炭化材を含む。分析の結果、ニホンジカの骨である可能性を指摘されている。
（年代）縄文時代

104 号土坑（第 47 図）（C 区南）
（位置）X-29 ～ 30・Y-29 グリッド
（形態）長軸 2.34 m、短軸 1 m、深度 0.4 mの隅丸長方形で、底部は鍋底状である。75 土・19 焼土と重複し、それらより古い。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

105 号土坑（第 49 図）
（位置）AB-39 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.07 m、短軸 1.02 m、深度 0. 1 mの円形で、底部は皿状である。106 土と重複し、それより古い。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

106 号土坑（第 49 図）
（位置）AB-39 グリッド（C 区南）

（形態）長軸 0.87 m、短軸 0.82 m、深度 0.2 mの円形で、底部は鍋底状である。105 土と重複し、それより新しい。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。
107 号土坑（第 49 図）
（位置）AA-39 ～ 40 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.7 m、短軸 1.17 m、深度 0.35 mのひょうたん形で、底部は鍋底状である。他の遺構と重複関係の可能性ある。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

108 号土坑（第 49 図）（C 区南）
（位置）AB-40 グリッド
（形態）長軸 0.65 m、短軸 0.5 m、深度 0.13 mの円形で、底部は皿状である。51 溝と重複し、それより古い。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

109 号土坑（第 49 図）
（位置）AB-40 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 0,99 m、短軸 0.98 m、深度 0.09 mの円形で、底部は皿状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

110 号土坑（第 49 図）
（位置）AB-40 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 0.82 m、短軸 0.8 m、深度 0.14 mのほぼ円形で、底部は皿状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

111 号土坑（第 56 図）
（位置）W-29 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 0.88 m、短軸 0.8 m、深度 0.13 mの円形で、底部は皿状である。38 溝と重複し、それより新しい。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

112 号土坑（第 48 図）
（位置）U-27 ～ 28・V-27 ～ 28 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 3.35 m、短軸 0.9 m、深度 0.3 mの隅丸長方形で、底部は鍋底状である。91 土と重複し、それより古い。２９溝と重複し、それよりも古い。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

113 号土坑（第 50 図）
（位置）U-27 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 0.9 m、短軸 0.8 m、深度 0.1 mの円形で、底部は皿状である。18 焼土に隣接する浅い土坑。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

114 号土坑（第 50 図）
（位置）V-28 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.05 m、短軸 1.02 m、深度 0.24 mの円形で、底部は鍋底状である。38 溝に近接する。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）弥生時代以降と思われる。

115 号土坑（第 50 図）
（位置）X-33 ～ Y-33 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.78 m、短軸 1.2 m、深度 0.25 mの楕円形で、底部は鍋底状である。覆土中に礫が沢山はいる。116 号と近接し、87 土の下層から検出された。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）弥生時代以降と思われる。

116 号土坑（第 50 図）
（位置）X33 ～ 34 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1 m、短軸 0.98、深度 0.26 mの円形で、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）弥生時代以降と思われる。

117 号土坑（第 50 図）
（位置）Y-34 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.17 m、短軸 1.17 m、深度 0.26 mの円形で、底部は鍋底状である。92 土の直下であり、同一の可能性がある。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）弥生時代以降と思われる。

118 号土坑（第 50 図）
（位置）Z-36 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 0.92 m、短軸 0.84 m、深度 0.52 mの円形で、底部は鍋底状である。２号住居内から検出されている。住居の床面から掘り込まれているため、住居内土坑の可能性が強い。
（遺物）礫と土師器片が出土している。
（年代）２号住の年代から平安時代末と思われる。

３．集石土坑

１号集石土坑（第 60 図）
（位置）K-18 グリッド（C 区北）

（形態）長軸 0.5 m、短軸 0.3 m、深度 0. 2mの円形で、底部はすり鉢状である。上層に人頭大の大きめの石を置き、その周囲に拳大ほどの礫が集中する。礫は焼けて崩れやすい。
（遺物）炭化物は入るが、土器などは発見されなかった。
（年代）縄文時代前期後半頃。

2 号集石土坑（第 60 図）
（位置）K-18 ～ 19 グリッド（C 区北）
（形態）長軸 1 m、短軸 0.9 m、深度 0.3 mの円形で、底部はすり鉢状である。拳大ほどの礫がびっしり覆土中に含まれる。最下層には、人頭大ほどの平らな石が壁面に四つ敷かれた状態で発見された。
（遺物）覆土中に炭化物が多く検出される。
（年代）出土した炭化材から年代測定を行った結果、縄文時代前期後半の年代が与えられた。

3 号集石土坑（第 61 図）
（位置）M-19 グリッド（C 区北）
（形態）長軸 0.8 m、短軸 0.4 m、深度 0. 1 mの円形で、底部は皿状である。試掘トレンチで掘削されていて、半分の検出である。拳大の礫がほとんどで、床面まで礫が達しない。
（遺物）炭化材は少なめである。
（年代）縄文時代前期後半頃。

4 号集石土坑（第 61 図）
（位置）N-21 グリッド（C 区北）
（形態）長軸 1.82 m、短軸 1.82 m、深度 0.4 mの円形で、底部はすり鉢状である。遺構確認面で確認された礫類は、最下層までは達していない。
（遺物）炭化材以外、出土していない。
（年代）縄文時代前期後半頃。

5 号集石土坑（第 62 図）
（位置）O-21 グリッド（C 区北）
（形態）長軸 1.15 m、短軸 0.8 mの楕円形である。覆土中に礫が沢山入る。
（遺物）炭化材以外、出土していない。
（年代）縄文時代前期後半頃。

6 号集石土坑（第 61 図）
（位置）L-18 グリッド（C 区北）
（形態）長軸 0.8 m、短軸 0.7 m、深度 0.2 mの円形で、底部は鍋底状である。確認時は、三日月状に礫が検出された。覆土中全体に礫が入る。
（遺物）炭化材以外、出土していない。
（年代）縄文時代前期後半頃。

4．溝状遺構

1 号溝状遺構（第 52 図）
（位置）M-19 ～ N-19 グリッド（C 区北）

（形態）長軸 3.7 m、短軸 0.35 m、深度 0.35 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。
（遺物）弥生土器が 5 点検出されている。
（年代）平安時代以降と思われる。

２号溝状遺構（第 52 図）
（位置）N-18 ～ 19 グリッド（C 区北）
（形態）長軸 3.93 m、短軸 0.63 m、深度 0.48 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。
（遺物）弥生時代・縄文時代の土器片数点が出土している。
（年代）平安時代以降と思われる。

3 号溝状遺構（第 52 図）
（位置）N-19 ～ O-19 グリッド（C 区北）
（形態）長軸 1.77 m、短軸 0.48 m、深度 0.13 mの溝状遺構で、底部は皿状である。
（遺物）弥生土器 1 点出土している。
（年代）平安時代以降と思われる。

4 号溝状遺構（第 52 図）
（位置）O-18 ～ 19 グリッド（C 区北）
（形態）長軸 2.08 m、短軸 0.59 m、深度 0.08 mの溝状遺構で、底部は皿状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

5 号溝状遺構（第 52 図）
（位置）O-18 ～ 19 グリッド（C 区北）
（形態）長軸 2.13 m、短軸 0.55 m、深度 0.08 mの溝状遺構で、底部は皿状である。
（遺物）縄文土器 1 点出土している。
（年代）平安時代以降と思われる。

6 号溝状遺構（第 52 図）
（位置）M-19 ～ 20 グリッド（C 区北）
（形態）長軸 4.4 m、短軸 0.65 m、深度 0.16 mの溝状遺構で、底部は皿状である。
（遺物）縄文土器・弥生土器片が出土している。
（年代）平安時代以降と思われる。

7 号溝状遺構
（位置）P-22 グリッド（C 区北）
（形態）長軸 1.47 m、短軸 0.53 mの溝状遺構で、平面図でのみ確認されたもの。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

8 号溝状遺構（第 52 図）
（位置）U-21 ～ 22・V-22 グリッド（C 区南）

（形態）長軸 2.5 m、短軸 0.53 m、深度 0.23 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

9 号溝状遺構（第 52 図）
（位置）V-22 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 2.7 m、短軸 0.7 m、深度 0.36 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

10 号溝状遺構（第 44 図）
（位置）U-22 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.8 m、南北約 0.8 m、深度 0.23 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。43 土と重複し、それより古い。11 溝と近接。
（遺物）特に遺物は出土してない。
（年代）平安時代以降と思われる。

11 号溝状遺構　（第 44 図）
（位置）U-22 グリッド（C 区南）
（形態）東西 0.8 m、南北約 0.8 m、深度 0.23 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。44 土と重複し、それより古い。
（遺物）特に遺物は出土してない。
（年代）平安時代以降と思われる。

12 号溝状遺構（第 44 図）
（位置）T-22 ～ 23・U-22 グリッド（C 区南）
（形態）東西 0.8 m、南北約 0.8 m、深度 0.23 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。44 土と重複し、それより古い。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降

13 号溝状遺構（第 52 図）
（位置）N-17 グリッド（C 区北）
（形態）長軸 0.94 m、短軸 0.7 m、深度 0.15 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。11 号焼土と重複し、それより新しい。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

14 号溝状遺構（第 53 図）
（位置）Q-22 ～ R-22 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 2.2 m、短軸 0.7 m、深度 0.28 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

15 号溝状遺構（第 53 図）
（位置）Q-22 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 2.34 m、短軸 0.48 m、深度 0.36 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。遺構半分は調査区外。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

16 号溝状遺構（第 53 図）
（位置）R-23 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 2.64 m、短軸 0.64 m、深度 0.24 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

17 号溝状遺構（第　　図）
（位置）Q-23 ～ R-23 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 3 m、短軸 0.5 m、深度 0.3 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。46 土と重複して、それより新しい。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

18 号溝状遺構（第 53 図）
（位置）S-20 ～ T-20 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 3.3 m、短軸 0.72 m、深度 0.14 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。33 土に隣接する。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

19 号溝状遺構（第 53 図）
（位置）R-24 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.35 m、短軸 0.9 m、深度 0.68 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。遺構半分は調査区外。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

20 号溝状遺構（第 53 図）
（位置）S-24 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 2.2 m、短軸 0.7 m、深度 0.08 mの溝状遺構で、底部は皿状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

21 号溝状遺構（第 53 図）
（位置）R-24 ～ S-24 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.8 m、短軸 0.7 m、深度 0.23 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。遺構半分は調査区外。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

22 号溝状遺構（第 54 図）
（位置）T-23 ～ U-23 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 6.22 m、短軸 0.7 m、深度 0.18 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。53 土と重複し、それより古い。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

23 号溝状遺構（第 45 図）
（位置）U-23 ～ 24 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 2.2 m、短軸 0.7 m、深度 0.04 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。53 土と重複し、それより古い。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

24 号溝状遺構（第 53 図）
（位置）U-24 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.3 m、短軸 0.52 m、深度 0.1 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

25 号溝状遺構（第 53 図）
（位置）U-24 ～ 25 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.48 m、短軸 0.5 m、深度 0.1 mの溝状遺構で、底部は皿状である。56 土と重複し、それより古い。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

26 号溝状遺構（第 53 図）
（位置）U-24 ～ 25 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 2.6 m、短軸 0.74 m、深度 0.1 mの溝状遺構で、底部は皿状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

27 号溝状遺構（第 54 図）
（位置）V-26 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 3.25 m、短軸 0.7 m、深度 0.1 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。28 溝と近接する。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

28 号溝状遺構（第 54 図）
（位置）U-26 ～ V-26 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.24 m、短軸 0.6 m、深度 0.1 mの溝状遺構で、底部は皿状である。27 溝と近接する。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

29 号溝状遺構（第 54 図）
（位置）U-27 ～ V-27 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 0.3 m、短軸 0.82 m、深度 0.1 mの溝状遺構で、底部は皿状である。112 土と重複し、それより新しい。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

31 号溝状遺構（第 54 図）
（位置）V-30・W-30 ～ 31 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 2.08 m、短軸 0.7 m、深度 0.1 mの溝状遺構で、底部は皿状である。東側半分ほどが試掘トレンチで壊されている。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

32 号溝状遺構（第 54 図）
（位置）W-31 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 2.1 m、短軸 0.84 m、深度 0.18 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

33 号溝状遺構（第 54 図）
（位置）U-28 ～ V-28 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 5.64 m、短軸 1 m、深度 0.22 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。他の溝に比べて長い。34 溝と重複し、それより古い。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

34 号溝状遺構（第 54 図）
（位置）V-28 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 2 m、短軸 1 m、深度 0.1 mの溝状遺構で、底部は皿状である。33 溝と重複し、それより新しい。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

35 号溝状遺構（第 55 図）
（位置）U-28 ～ V-28 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 5.1 m、短軸 0.8 m、深度 0.26 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。69・71・89 土と重複し、それより古い。45 溝と重複し、それより新しい。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

36 号溝状遺構（第 54 図）
（位置）V-27 ～ W-27 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 3.78 m、短軸 0.62 m、深度 0.3 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。

（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

37 号溝状遺構（第 54 図）
（位置）W-28 ～ X-28 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.36 m、短軸 0.54 m、深度 0.1 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

38 号溝状遺構（第 56 図）
（位置）V-27 ～ 29・W-28 ～ 29 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 13 m、短軸 1 m、深度 0.5 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。3･4 mの溝状遺構が南北に 4 本、東西に 1 本重複している可能性が高い。
（遺物）特に遺物は出土していないが、部分的に礫の出土があった。
（年代）平安時代以降と思われる。

39 号溝状遺構（第 55 図）
（位置）W-29 ～ 30 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 2.1 m、短軸 0.7 m、深度 0.1 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

41 号溝状遺構（第 55 図）
（位置）W-31 ～ 32 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 2.2 m、短軸 0.7 m、深度 0.1 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

42 号溝状遺構（第 47 図）
（位置）Y-31 グリッド
（形態）長軸 2.8 m、短軸 0.62 m、深度 0.28 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。83 土と重複し、それより新しい。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

43 号溝状遺構（第 55 図）
（位置）X-32 ～ 33 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.7 m、短軸 0.7 m、深度 0.3 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

44 号溝状遺構 A（第 55 図）
（位置）W-32 ～ 33・X-33 グリッド（C 区南）

（形態）長軸 2.7 m、短軸 0.7 m、深度 0.5 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。44 溝 B と重複し、それより古い。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

44 号溝状遺構 B（第 55 図）
（位置）W-32 ～ 33・X-33 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 2.1 m、短軸 0.46 m、深度 0.54 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。44 溝 A・C と重複し、それらより新しい。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

44 号溝状遺構 C（第 55 図）
（位置）W-32 ～ 33・X-33 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.9 m、短軸 0.54 m、深度 0.34 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。44 溝 B と重複し、それよりも新しい。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

45 号溝状遺構（第 55 図）
（位置）Ｖ -28 ～ 29 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 3.35 m、短軸 0.6 m、深度 0.3 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。90 土と重複し、それよりも新しい。また、35 溝と重複し、それよりも古い。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

46 号溝状遺構（第 55 図）
（位置）Y-36 ～ 37 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 2.15 m、短軸 0.56 m、深度 0.34 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。４７溝と重複し、それよりも新しい。また２号住居跡と重複するが、それより新しい。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

47 号溝状遺構（第 55 図）
位置）Y-36 ～ 37・Z-36 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.8 m、短軸 0.74 m、深度 0.2 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である 46 溝と重複し、それより古い。また、２号住居跡と重複し、それよりは新しい。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

48 号溝状遺構（第 56 図）
（位置）Y-37 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 2.4 m、短軸 0.6 m、深度 0.4 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。２号住居跡と重複し、それ

よりも新しい。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

49 号溝状遺構（第 56 図）
（位置）Z-37 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 3.14 m、短軸 0.7 m、深度 0.35 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

50 号溝状遺構（第 56 図）
（位置）AA-39 ～ 40 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 2.8 m、短軸 0.65 m、深度 0.3 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

51 号溝状遺構（第 49 図）
（位置）AA-40 ～ AB-40 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 3.4 m、短軸 0.6 m、深度 0.28 mの溝状遺構で、底部は鍋底状である。108 土と重複し、それよりも新しい。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

5．配石遺構
1 号配石遺構（第 58・59 図）
（位置）M-17 ～ N-17 グリッド（C 区北）
（形態）東西 2.5 m、南北約 4.5 mの範囲に広がる手のひら半分ほどの小礫と平らな人頭大の礫が広がる。1 面・2 面と掘り下げていくと、ピットが確認でき、中央で焼土が発見された。大きめの平坦な石があることなどから、敷石住居跡の崩れの可能性もある。
（遺物）縄文時代後期の遺物が検出される。
（年代）縄文時代後期

2 号配石遺構（第 59 図）
（位置）M-20・N-20 ～ 21 グリッド（C 区北）
（形態）東西 3 m、南北約 3 mの不整形の範囲に小礫が広がる。掘方はなく礫がまとまっている。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）縄文時代？

3 号配石遺構（第 59 図）
（位置）T-20 グリッド（C 区南）
（形態）東西 1•7 m、南北約 1.1 m、深さ 0.4 mである。人頭大の礫が配置される。
（遺物）特に遺物は出土していない。

（年代）縄文時代？

4 号配石遺構（第 59 図）
（位置）O-19 グリッド（C 区北）
（形態）東西 2.1 m、南北約 1.1 mの範囲に小礫が広がる。掘方はなく礫がまとまっている。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）縄文時代？

6．焼土遺構

1 号焼土遺構（第 57 図）
（位置）J-18 ～ K-18 グリッド（C 区北）
（形態）長軸 0.84 m、短軸 0.64 m、深度 0.15 mで、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）縄文時代早期頃と思われる。

2 号焼土遺構（第 57 図）
（位置）O-18 グリッド（C 区北）
（形態）長軸 0.7 m、短軸 0.64 m、深度 0.15 mで、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降思われる。

3 号焼土遺構（第 57 図）
（位置）Q-20 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 0.7 m、短軸 0.4 m、深度 0.12 mで、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）中世以降と思われる。

4 号焼土遺構（第 57 図）
（位置）Q-20 ～ R-20 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 0.8 m、短軸 0.5 m、深度 0.14 mで、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）中世以降と思われる。

5 号焼土遺構（第 57 図）
（位置）S-19 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 0.86 m、短軸 0.48 m、深度 0.16 mで、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）中世以降と思われる。

6 号焼土遺構（第 57 図）
（位置）S-19 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 0.96 m、短軸 0.54 m、深度 0.14 mで、底部は鍋底状である。

（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）中世以降と思われる。

7 号焼土遺構（第 57 図）
（位置）S-20 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 0.7 m、短軸 0.54 m、深度 0.0.12 mで、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）中世以降と思われる。

10 号焼土遺構（第 57 図）
（位置）T-19 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 0.54 m、短軸 0.5 m、深度 0.24 mで、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）中世以降と思われる。

11 号焼土遺構（第 59 図）
（位置）N-17 グリッド（C 区北）
（形態）長軸 0.8 m、短軸 0.8 m、深度 0.09 mで、底部は鍋底状である。1 号配石内焼土である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）中世以降と思われる。

12 号焼土遺構（第 57 図）
（位置）U-23 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.6 m、短軸 0.23 m、深度 0.07 mで、底部は鍋底状である。22 溝と重複し、それより新しい。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）中世以降と思われる。

13 号焼土遺構（第 57 図）
（位置）V-23 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 0.5 m、短軸 0.4 m、深度 0.3 mで、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）中世以降と思われる。

14 号焼土遺構（第 57 図）
（位置）V-22 ～ 23 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 0.3 m、短軸 0.1 m、深度 0.1 mで、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）中世以降と思われる。

16 号焼土遺構（第 57 図）
（位置）W-28 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 1.1 m、短軸 0.7 m、深度 0.22 mで、底部は鍋底状である。

（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

17 号焼土遺構（第 57 図）
（位置）X-29 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 0.5 m、短軸 0.4 m、深度 0.3 mで、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

18 号焼土遺構（第 57 図）
（位置）U-28 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 2.2 m、短軸 2 m、深度 0.2 mで、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

19 号焼土遺構（第 57 図）
（位置）X-29 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 0.7 m、短軸 0.4 m、深度 0.3 mで、底部は鍋底状である。104 土と重複し、それより新しい。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）平安時代以降と思われる。

20 号焼土遺構（第 57 図）
（位置）X-29 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 0.4 m、短軸 0.3 m、深度 0.3 mで、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）中世以降と思われる。

21 号焼土遺構（第 57 図）
（位置）AB-40 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 0.6 m、短軸 0.5 m、深度 0.3 mで、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）中世以降と思われる。

22 号焼土遺構（第 57 図）
（位置）X-28 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 0.5 m、短軸 0.4 m、深度 0.2 mで、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）中世以降と思われる。

23 号焼土遺構（第 57 図）
（位置）W-28 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 0.2 m、短軸 0.2 m、深度 0.3 mで、底部は鍋底状である。

（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）中世以降と思われる。

24 号焼土遺構（第 57 図）
（位置）W-28 グリッド（C 区南）
（形態）長軸 0.3 m、短軸 0.3 m、深度 0.2 mで、底部は鍋底状である。
（遺物）特に遺物は出土していない。
（年代）中世以降と思われる。

7．その他の遺構

1 号遺物集中区
（位置）L-19 グリッド（C 区北）
（形態）東西 0.8 m、南北約 0.8 mの円形である。
（遺物）縄文土器の大きめの破片が出土している。
（年代）縄文時代早期末～前期頃と思われる。

2 号遺物集中区
（位置）N-20 グリッド（C 区北）
（形態）東西 0.8 m、南北約 0.8 mの円形である。
（遺物）縄文土器が出土している。
（年代）縄文時代早期末～前期頃と思われる。

1 号ピット群（第 50 図）
計測値を一覧表に示した。第 1 表を参照。

●A 区・C 区の石器

美通遺跡 A 及び C 区から出土した計５４点をもとに整理しておきたい。

・縄文時代早期の石器

美通遺跡から出土した縄文時代早期に位置づけられる石器の総点数は２９点であり、石器の器種組成は礫器 8 点（遺構外 8 点）、石匙 1 点（遺構外 1 点）、石鏃 5 点（遺構外 5 点）、台石 1 点（遺構内 1 点）、剥片 7 点である。

礫器　礫器の石材組成は計 8 点のうち、凝灰岩 4 点、（第 85･86 図 439,440,443,447）凝灰角礫岩 1 点、（第 85 図 441）緑色凝灰岩 2 点（第 85･86 図 442,445）、砂岩 1 点（第 86 図 444）。刃部を形態的分類すると平刃、凸刃に分けられ、剥離も片面にのみ施される片刃礫器と両面に施される両刃礫器に分類される。439 は両刃礫器で、440 は片刃礫器で刃部は凸刃である。両端の刃部を敲打による刃潰し加工が施されている。

石匙　石匙は緑色凝灰岩 1 点のみである。刃部は表面と裏面の両面から交互剥離が施された両刃である。また刃部は鋭いが、中央部のみで両端まで作出されていない。

石鏃　石鏃の石材組成は計 5 点の内、黒曜石 3 点（第 83 図 424 は右の脚部が欠損している。）と黄色風化泥岩 1 点は凹基鏃だが、瑪瑙 1 点の第 83 図 419 のみ平基鏃である。

台石　台石の石器組成は花崗岩で 1 点（第 84 図 438）のみである。C 区 3 号住居の床面から出土した。

剥片　剥片は泥岩ホルンフェルス 1 点（第 86 図 446）、緑色凝灰岩 3 点（第 87 図 448,451,453）、砂岩 1 点（第 86 図 449）、黄色風化泥岩 1 点（第 87 図 452）、水晶 1 点（第 87 図 454）である。

・縄文時代の石器

共伴する土器がなかったため、遺構や土層の層位から縄文時代であろうと位置づけた石器の総点数は 22 点であり、打製石斧 6 点（遺構内 1 点・遺構外 5 点）、磨製石斧 2 点（遺構内 1 点・遺構外 1 点）、石匙 1 点（遺構外 1 点）、石鏃欠損品 1 点（遺構外 1 点）、石棒 1 点（遺構内 1 点）、敲き石 2 点（遺構外 2 点）、磨石 5 点（遺構内 1 点・遺構外 4 点）、石錘 1 点（遺構外 1 点）である。

打製石斧　打製石斧の石材組成は、泥岩ホルンフェルス 3 点（第 82 図 400,402,403）、結晶片岩 2 点（第 82 図 401,404）、凝灰岩 1 点（第 82 図 405）である。400 と 405 は完形であり、401 はほぼ完形、402,403,404 は欠損している。405 は片面のみ調整を施して、刃部を作出している。

磨製石斧　磨製石斧の石材組成は緑色凝灰岩 1 点（第 82 図 407）、凝灰岩 1 点（第 82 図 408）。

石匙　石匙はチャート 1 点（第 83 図 427）。

石鏃　石鏃の石材組成は計 8 点（遺構外 3 点）のうち、チャート 2 点（第 83 図 418,423）、黒曜石 6 点石鏃欠損品は黒曜石 1 点（第 83 図 425）。

石棒　石棒は粘板岩 1 点（第 83 図 412）。

敲石　敲石は花崗岩 1 点（第 83 図 413）、凝灰角礫岩 1 点（第 83 図 414）。

磨石　磨石の石材組成は凝灰角礫岩 1 点（第 83 図 406）、軽石 1 点（第 83 図 409）、安山岩 2 点（第 83 図 410,411）、玄武岩 1 点（第 83 図 415）。410 は両面とも磨り面として利用されている。

石錘　石錘は凝灰岩 1 点（第 83 図 416）。

剥片　剥片の石材は水晶 1 点（第 83 図 426）で遺構外から出土している。

・弥生時代の石器

弥生時代及び弥生時代以降に位置づけられる石器の総点数は 1 点（遺構外出土）である。

磨製石鏃　磨製石鏃の石材は粘板岩（第 83 図 428）の 1 点のみ。ほぼ完形の磨製石鏃であるが、脚部が欠損しているため基部の形態的分類はできない。

平安時代以降の石製品

平安時代以降に位置づけられる石製品の総点数は、砥石 1 点（遺構内 2 点・遺構外 1 点）で石材はすべて凝灰岩である。C 区から出土したのが 2 点（第 84 図 429,430）、A 区 2-3 の 3 号住居から出土したのが 1 点（第 84 図 431）、C 区北 I 面から出土したのが 1 点（第 84 図 432）、A 区 1 の 26 号土坑で出土したのが 1 点（第 83 図 433）である。

近世の石製品

近世に位置づけられる石製品の総点数は 3 点であり、碁石 1 点、石臼 2 点である。石材組成は、碁石は黒色頁岩 1 点（第 84 図 434）で A 区 2-2 の 3 号土坑から出土している。石臼は安山岩 2 点（第 84 図 436,437）で 2 点とも遺構外出土）である。

第 4 章　自然化学分析

美通遺跡（A1 区・C 区）の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

山梨県都留市井倉地内に所在する美通遺跡は、桂川右岸に位置し、吉村ほか（1987）よる地形分類図によれば、桂川の支流である朝日川が形成したとみられる谷底平野および河岸段丘面に立地する。本遺跡の A・C 区の各調査区の発掘調査の結果、縄文時代早～中期の竪穴住居跡や集石土坑を含む土坑、古代の竪穴住居跡などが確認されている。また、放射性炭素年代で約 8,500 年前頃（遠藤・村井 ,1978）に発生したとされる猿橋溶岩なども確認されている。

本報告では、美通遺跡 A 区 1･A 区 2・C 区の発掘調査成果から課題とされた遺構の年代、縄文時代および古代頃の植物資源利用の検討、土坑埋積物の化学性による用途推定に関わる資料の作成、須恵器の器面に確認される黒色物質の性状、土坑より出土した骨片の種類、部位の検討を目的として、自然科学分析調査を実施する。

第 1 節　遺構の年代

1. 試料

試料は、A 区 1 および C 区北・南側より検出された住居跡、集石と A 区 2-3-2 号住居跡カマド、A 区 2-3-3 号住居跡礫集中から出土した炭化材 10 点である。試料の観察では、A 区 1-1 号住 炭化物№ 8 が芯持丸木（径約 5cm）、A 区 1-3 号住 C-1 が先端加工とみられる痕跡を有する芯持丸木（径約 6cm）、A 区 1-4 号住 炭化物 1 が板状（接線面 ; 約 4.5cm、放射面 ; 約 2.5cm）を呈する破片、C 区南 1 号住 C23 が板状（接線面 ; 約 3cm、放射面 ; 約 3.5cm）を呈する破片、C 区南 2 号住 炭化物№ 3 が板状（接線面 ; 約 1cm、放射面 ; 約 2.5cm）を呈する破片、C 区北 3 号住 C-1 が最大 1.5cm 角の炭化材が混じる土壌、C 区南 4 号住 C-6 が芯持丸木（横断面 ; 楕円 , 長径約 2.0cm、短径約 1.5cm）、C 区 2 号集石 炭化物 16 が最大 1.5cm 角の炭化材が混じる土壌である。また、A 区 2-3-2 号住居跡カマドが約 1cm 角の炭化材片、A 区 2-3-3 号住居跡が板状を呈する炭化材片である。発掘調査所見によれば、A 区 2-3-2 号住居跡は、奈良時代の竪穴住居跡のカマドの火床面直上に確認された炭化材に相当する。

これらの炭化材のうち、芯持丸木試料は最外年輪を含む部位、板状試料については観察範囲内の外側年輪に相当する部位、炭化材混じり土壌試料は最大の炭化材を抽出し、それぞれ分析試料としている。また、放射性炭素年代測定試料抽出後の炭化材は、試料の履歴（由来）の検討を目的として、後述する樹種同定試料と併せて分析を行っている。

平成 22 年度に分析を追加した試料は、C 区 65 号土坑覆土より採取された土壌 5 点（土壌③～⑦）である。いずれも炭化物が微量混じる土壌であったため、それぞれ試料 500g（湿重）程度について水洗選別を実施し、測定試料の回収を試みた。その結果、土壌⑦を除く試料より炭化したオオムギ（胚乳）、コムギ（胚乳）が検出されたことから、担当者との協議に基づき、土壌③より検出されたコムギ胚乳（7 点 ;0.03g）を測定試料に供した。

2. 分析方法

試料は、超音波煮沸洗浄と酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸 1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸 1.2N）により、不純物を取り除いた後、グラファイトを合成し、測定用試料とする。測定機器は、NEC 製コンパクト AMS･1.5SDH を用いる。C 区 65 号土坑の試料は、 土壌など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、ピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後 HCl による炭酸塩等酸可溶成分の除去、NaOH による腐植酸等アルカリ可溶成分の除去、HCl によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分の除去を行う（酸・アルカリ・酸処理）。試料をバイコール管に入れ、1g の酸化銅（II）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃（30 分）850℃（2 時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素＋エタノールの温度差を利用し、真空ラインにて CO2 を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製した CO2 と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコー

ル管底部のみを 650℃で 10 時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径 1mm の孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV 小型タンデム加速器をベースとした 14C-AMS 専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。AMS 測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX-II）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に 13C/12C の測定も行うため、この値を用いて δ 13C を算出する。放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5,568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0（Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer）を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。

暦年較正とは、大気中の 14C 濃度が一定で半減期が 5,568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の 14C 濃度の変動、及び半減期の違い（14C の半減期 5,730 ± 40 年）を較正することである。暦年較正結果は、測定誤差 σ、2 σ（σ は統計的に真の値が 68% の確率で存在する範囲、2 σ は真の値が 95% の確率で存在する範囲）双方の値を示す。表中の相対比（確率分布）とは、σ、2 σ の範囲をそれぞれ 1 とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

3. 結果

各遺構から出土した炭化材の同位体効果による補正を行った測定結果（補正年代）は、A 区 1-1 号住 炭化物 8 が 1,265 ± 20yrBP、A 区 1-3 号住 C-1 が 1,200 ± 20yrBP、A 区 1-4 号住 炭化物 1 が 960 ± 20yrBP、C 区南 1 号住 C23 が 960 ± 20yrBP、C 区南 2 号住 炭化物№3 が 950 ± 20yrBP、C 区北 3 号住 C-1 が 6,345 ± 30yrBP、C 区南 4 号住 C-6 が 1,000 ± 20yrBP、C 区 2 号集石 炭化物 16 が 4,900 ± 25yrBP、A 区 2-3-2 号住居跡カマドの炭化材が 1,295 ± 20yrBP、A 区 2-3-3 号住居跡礫集中の炭化材が 1,395 ± 20yrBP、C 区 65 号土坑 土壌③から検出された炭化種実（コムギ胚乳）が 630 ± 30yrBP である。

これらの補正年代に基づく暦年較正結果（σ）は、A 区 1-1 号住 炭化物 8 が calAD691-calAD772、A 区 1-3 号住 C-1 が calAD779-calAD869、A 区 1-4 号住 炭化物 1 が calAD1,025-calAD1,148、C 区南 1 号住 C23 が calAD1,026-calAD1,148、C 区南 2 号住 炭化物№3 が calAD1,030-calAD1,150、C 区北 3 号住 C-1 が calBC5,360-calBC5,306、C 区南 4 号住 C-6 が calAD999-calAD1,036、C 区 2 号集石 炭化物 16 が calBC3,695-calBC3,654、A 区 2-3-2 号住居跡カマドの炭化材が calAD671-calAD765、A 区 2-3-3 号住居跡礫集中の炭化材が calAD638-calAD658、C 区 65 号土坑 土壌③から検出された炭化種実（コムギ胚乳）が calAD1,296-calAD1,388 である（表 1・2）。

このうち、C 区北 3 号住および C 区 2 号集石から得られた暦年代は、小林（2008）を参考とすると、それぞれ縄文時代早期末頃および縄文時代前期後葉頃に相当する。また、A 区 1-1 号住、3 号住、4 号住、C 区南 1 号住、2 号住、4 号住、A 区 2-3-2 号住居跡と同区 3 号住居跡は、古代および古代末頃の遺構と推定される。このうち、A 区 1-4 号住、C 区南 1 号住および C 区南 2 号住は、いずれも 11 世紀前半～ 12 世紀中頃の暦年代範囲にあり、同時期の遺構の可能性もある。C 区 65 号土坑の炭化種実より得られた暦年代を参考とすると、当土坑は中世前半（13 世紀末から 14 世紀後半）頃の遺構の可能性がある。なお、測定試料が検出された土壌③は、土坑覆土 1 層下部に相当し、同じ層より鉄釉のかかった小壺が出土している。今回の分析結果については、この出土遺物の考古学的所見等による評価が望まれる。

第 2 節　植物利用

1. 試料

（1）炭化材・炭化物

試料は、放射性炭素年代測定試料とした炭化材 10 点と、A 区 1-3 号住 C-3 および C-10、A 区 1-42pit C-1 の炭

化材 3 点、さらに、C 区南 1 号住から出土した縄状炭化物（C-9）、の計 12 点である。

（2）種実

試料は、C 区南 1 号住より出土した種実 3 試料（22 個）（C21,C6,C5）と、C 区 4 号住より出土した種実 1 試料（13 個）（C5-2）、A 区 2-3-3 号住居跡から出土した炭化種実である。

2. 分析方法

（1）樹種同定

試料を自然乾燥させた後、木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の 3 断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

木材組織の名称と特徴は、島地・伊東（1982）、Wheeler 他（1998）、Richter 他（2006）を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林（1991）や伊東（1995,1996,1997,1998,1999）を参考にする。

（2）種実分析

試料を双眼実体顕微鏡下で観察する。現生標本および石川（1994）、中山ほか（2000）等との対照から、種類と部位を同定し、個数を数えて表示する。分析後は、種類毎に容器に入れて保管する。

3. 結果

（1）樹種同定

A 区 1・C 区の結果を表 3 に、 A 区 2 の結果を表 4 に示す。A 区 1・C 区の炭化材は、広葉樹 7 分類群（クマシデ属イヌシデ節・コナラ属コナラ亜属クヌギ節・コナラ属コナラ亜属コナラ節・クリ・エノキ属・ケヤキ・トネリコ属）に同定された。また、縄状炭化物は、草本類に同定された。A 区 2 の炭化材は、針葉樹 1 分類群（モミ属）と広葉樹 3 分類群（クリ・ヤマグワ・バラ属）に同定された。以下に、各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・クマシデ属イヌシデ節（Carpinus subgen. Euarpinus） カバノキ科

散孔材で、道管は単独または 2-4 個が放射方向に複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は対列状～交互状に配列する。放射組織は異性、1-3 細胞幅、1-40 細胞高のものと集合放射組織とがある。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節（Quercus subgen. Quercus sect. Cerris） ブナ科

環孔材で、孔圏部は 1-2 列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、単独で放射方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20 細胞高のものと複合放射組織とがある。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節（Quercus subgen. Quercus sect. Prinus） ブナ科

環孔材で、孔圏部は 1-2 列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20 細胞高のものと複合放射組織とがある。

・クリ（Castanea crenata Sieb. et Zucc.） ブナ科クリ属

試料はいずれも年輪界で割れており、早材部の多くを欠き、観察できる組織は晩材部が中心である。早材部の終わりから晩材部への移行は緩やか。晩材部の道管は小径で多数が集まって火炎状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15 細胞高。

・エノキ属（Celtis） ニレ科

環孔材で、孔圏部は 3-5 列、孔圏外で急激～やや緩やかに径を減じたのち、塊状に複合して接線・斜方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-6 細胞幅、1-50 細胞高で鞘細胞が認められる。

・ケヤキ（Zelkova serrata (Thunb.) Makino）　ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔圏部は 1 列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、塊状に複合して接線・斜方向に紋様状あるいは帯状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-5 細胞幅、1-50 細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。

・トネリコ属（Fraxinus）　モクセイ科

環孔材で、孔圏部は 1-2 列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、厚壁の道管が単独または 2 個が放射方向に複合して配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、1-3 細胞幅、1-30 細胞高。

・モミ属（Abies）　マツ科

試料は保存状態が悪く脆い。軸方向組織は仮道管のみで構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は比較的緩やかで、晩材部の幅は狭い。放射組織は柔細胞のみで構成される。柔細胞壁は粗く、垂直壁および水平壁にじゅず状の肥厚が認められる。分野壁孔は保存が悪く観察できない。放射組織は単列、1-20 細胞高。

・バラ属（Rosa）　バラ科

環孔材で、孔圏部は 1-2 列、孔圏外でやや急激に径を減じた後、ほぼ単独で散在する。道管は単穿孔を有する。放射組織は異性、単列で 1-10 細胞高前後のものと、10 細胞幅以上、60 ～ 100 細胞高以上の大型のものとがある。

（2）種実分析

A 区 1・C 区の結果を表 5 に、 A 区 2 の結果を表 6 に示す。C 区 1 号住より出土した種実は、栽培種のスモモの核 2 個とモモの核の破片 19 個・種子 1 個（計 1 個体）に同定された。C 区 4 号住より出土した種実は、落葉広葉樹のウルシ属の核 2 個、栽培種のオオムギの胚乳 3 個、コムギの胚乳 6 個、マメ類の種子 1 個に同定され、1 個は不明であった。種実遺体は、全て炭化している。A 区 2-3-3 号住居跡より出土した種実は、炭化した栽培種のモモの核に同定された。　以下に、種実の形態的特徴等を記す。

・スモモ（Prunus salicina Lindley）　バラ科サクラ属

核（内果皮）が検出された。炭化しており黒色。レンズ状広楕円体。大きさは、C 区 1 号住 C21 は長さ 11.16mm、幅 10.05mm、厚さ 6.84+mm（一部欠損）。C 区 1 号住 C6 は長さ 13.17mm、幅 11.12mm、厚さ 8.38mm。基部に丸く臍点がある。1 本の明瞭な縦の縫合線上が発達し、背面正中線上に細い縦隆条が、腹面正中線には浅い縦溝とその両側に幅の狭い帯状部がある。内果皮は厚く硬く、表面にはごく浅い凹みが不規則にみられる。

・モモ（Prunus persica Batsch）　バラ科サクラ属

核（内果皮）の破片と種子が検出された。炭化しており黒色。C 区 1 号住 C5 は核の破片が 19 個と種子の完形 1 個確認され、接合し計 1 個体となる。核は、完形ならばやや偏平な広楕円体。頂部はやや尖り、基部は切形で中央部に湾入した臍がある。1 本の明瞭な縦の縫合線が発達し、背面正中線上に細い縦隆条が、腹面正中線には浅い縦溝とその両側に幅の狭い帯状部がある。

破片の最大個体は、縫合線に沿って割れた半分未満で、長さ 16.68mm。内果皮は厚く硬く、表面は縦に流れる不規則な線状の深い窪みがあり、全体として粗いしわ状にみえる。核の内側表面は平滑で、種子 1 個が入る楕円状の窪みがみられる。種子は長さ 16.73mm、幅 9.48mm、厚さ 4.10mm のやや偏平な非対称楕円体で頂部が尖る。種皮表面には縦方向の微細な皺がある。（A 区 1・C 区試料）

・モモ（Prunus persica Batsch）　バラ科サクラ属

核（内果皮）の破片が検出された。炭化しており黒色。完形ならばやや偏平な広楕円体で頂部はやや尖り、基部は切形で中央部に湾入した臍がある。1 本の明瞭な縦の縫合線が発達し、背面正中線上に細い縦隆条が、腹面正中線には浅い縦溝とその両側に幅の狭い帯状部がある。A2-3 区 3 号住居跡では、核の破片が 44 個確認されたが

1 個体未満と推定される。最大の破片は、縫合線に沿って割れており、長さ 20.93mm、幅 14.73mm を測る。内果皮は厚く硬く、表面は縦に流れる不規則な線状の深い窪みがあり、全体として粗いしわ状にみえる。核の内側表面は平滑で、種子 1 個が入る楕円状の窪みがみられる。（A 区 2 試料）

・ウルシ属（Rhus） ウルシ科

核（内果皮）が検出された。炭化しており黒色。長さ 2.61mm、幅 3.30mm、厚さ 1.92mm と、長さ 2.50mm、幅 3.17mm、厚さ 1.92mm のやや偏平な横楕円体。背腹両面の中央が凹み、繭状。腹面中央に臍がある。内果皮表面はやや平滑。

・オオムギ（Hordeum valgare L.） イネ科オオムギ属

胚乳が検出された。炭化しており黒色、長さ 5.0mm、径 2.2mm 程度のやや偏平な紡錘状長楕円体。両端は尖る。腹面は正中線上にやや太く深い縦溝があり、背面は基部正中線上に胚の痕跡があり丸く窪む。表面には微細な縦筋がある。

・コムギ（Triticum aestivum L.） イネ科コムギ属

胚乳が検出された。炭化しており黒色。長さ 4.0mm、径 3.2mm 程度の楕円体。腹面は正中線上にやや太く深い縦溝があり、背面は基部正中線上に胚の痕跡があり丸く窪む。表面は粗面。

・マメ類（Leguminosae） マメ科

種子が検出された。炭化しており黒色。長さ 6.19mm、幅 4.87mm、厚さ 2.85+mm（一部欠損）のやや偏平な楕円体。腹面の子葉合わせ目上にある長さ 1.8mm、幅 0.5mm 程度の細長い長楕円形の臍が確認される。表面は粗面。

4. 考察

（1）木材

A 区 1 ・C 区について、縄文時代早期末頃の暦年代が得られた C 区北 3 号住の炭化材は落葉広葉樹のクリ、縄文時代前期後葉頃の暦年代が得られた C 区 2 号集石の炭化材は落葉広葉樹のエノキ属であった。

クリは、二次林などに生育し、木材は重硬で強度・耐朽性が高い。都留市域では、中谷遺跡で縄文時代後期の竪穴住居跡からクリの炭化材が確認されている（パリノ・サーヴェイ株式会社 ,1996）。また、周辺では、大月遺跡（大月市）の縄文時代中期の住居跡から出土した炭化材にクリと広葉樹、原・郷原遺跡（上野原町）の縄文時代後期の住居跡から出土した炭化材にクリとオニグルミが確認されている（パリノ・サーヴェイ株式会社 ,2000a,2000b）。今回の分析試料は、炭化材が混じる土壌より抽出していることから用途については今後の課題であるが、当時のクリ材の利用が示唆される。一方、エノキ属は河畔林を構成する分類群である。本遺跡では、B3 区 1 号集石から出土した炭化材にヤマグワとクリが認められており、今回の分析結果からエノキ属も燃料材等として利用されたと考えられる。

古代および古代末頃の暦年代が得られた住居跡出土炭化材からは、イヌシデ節、クヌギ節、コナラ節、エノキ属、クリ、トネリコ属が確認された。炭化材の形状観察等から、これらの試料は住居構築材の一部とみられ、様々な木材が利用されていた状況が看取される。とくに、炭化材 3 点について調査を行った A1 区 3 号住では、少なくとも 3 種類の木材の利用が看取される。また、先端加工とみられる痕跡を有する芯持丸木の炭化材（A1 区 3 号住 C-1）はクリであったことから、重硬で強度・耐朽性が高い木材が柱材等として利用された可能性もある。これらの住居跡出土炭化材に確認された分類群は、河畔林や二次林を構成する種類が多いことから、周辺の沖積地、段丘崖、山地斜面等に生育していた樹木の利用が推定される。

A 区 2 について、各遺構から出土した炭化材試料からは、針葉樹のモミ属と、広葉樹のバラ属が確認された。また、放射性炭素年代測定に供した炭化材と、この他に抽出した炭化材はいずれも同じ分類群が確認された。

奈良時代の竪穴住居跡から出土した炭化材は、A2-3 区 2 号住居跡カマド試料がバラ属、A2-3 区 3 号住居跡礫集中試料がモミ属であった。バラ属は、藤本あるいは低木で、河畔等の林縁部を中心に生育する。棘が多く、木材としての用途はほとんど無いことや、カマド内出土試料であることから、周辺に生育した小径木などを燃料材として利用した可能性がある。針葉樹のモミ属は、木理が通直で割裂性が高く、加工は容易であるが、保存性は低い。モミ

属は、扇状地や山地斜面等に生育することから、周囲の段丘崖や山地斜面等に生育していた可能性がある。本地域では、上野原小学校遺跡の 7 世紀後半とされる住居跡から出土した住居構築材の可能性がある炭化材に、針葉樹のモミ属と広葉樹のクヌギ節が認められた事例がある（パリノ・サーヴェイ株式会社 ,2003）。

（2）縄状炭化物

C 区南 1 号住から出土した縄状炭化物（C-9）は、木繊維や維管束の一部と考えられる道管状の組織が観察されたが、放射組織が全く認められないことから草本類と考えられる。炭化して残存している状況等から、木質化する種類とみられ、横断面が不定形であることや縦断面で繊維の断面が見られることから、タケ亜科等を細く裂いて繊維状としている可能性がある。

（3）種実および微細植物片

A 区 1・C 区について、古代頃の暦年代が得られた住居跡から出土した種実は、C 区 1 号住試料が炭化した栽培種のスモモの核とモモの核・種子、C 区 4 号住居試料が栽培種のオオムギ、コムギの胚乳、マメ類の種子と、炭化した落葉低木～高木のウルシ属の核であった。このうち、モモやスモモ等は、栽培のために持ち込まれた渡来種とされ、観賞用の他、果実や核の中にある種子（仁）などが食用、薬用等に利用される。モモについては、本遺跡の奈良時代と考えられる A2-3 区 3 号住居跡覆土からも出土しており、当該期における利用が窺われる。オオムギ、コムギおよびマメ類は、いずれも可食部位となる胚乳や種子が確認されたことから、植物質食糧としての利用が示唆される。また、C 区 4 号住居から出土したウルシ属は、落葉低木～高木であり、周辺の森林の林縁等に生育していたものと考えられる。ウルシ属には、漆をとるウルシや、ロウをとるハゼノキなどの有用な分類群が含まれるが、当該期におけるウルシの利用状況については今後の課題である。

A 区 2 について、奈良時代の A2-3 区 3 号住居跡から出土した種実は、栽培種のモモの核であった。モモは、古くから栽培のために中国から持ち込まれた渡来種とされ、観賞用の他、果実や核の中にある種子（仁）などが食用、薬用、祭祀等に広く利用される。モモの遺跡出土例は、弥生～古墳時代以降から多数報告されている（南木 ,1991; 粉川 ,1988 など）。発掘調査所見では、住居廃絶後の祭祀行為の可能性が示唆されているが、古代の住居廃絶後の祭祀とモモの関わりについては、今後さらに資料を蓄積する必要がある。

第 3 節　土壌理化学分析

1. 試料

試料は、A1 区および C 区より検出された土坑埋積物より採取された土壌である。以下に、各遺構の概要および試料の詳細を記す。

（1）A1 区 11 号土坑

A1 区 11 号土坑は、平面が直径約 140cm の円形を呈し、深さ約 10cm を測る。土壌試料は、覆土上・中・下層（試料 1 ～ 3）および底面を構成する堆積物（試料 1 ～ 4）が採取されている。分析には、覆土上・下層（試料 1,3）と底部（試料 4）を供する。

（2）A1 区 22 号土坑

A1 区 22 号土坑は、平面が直径約 140 ～ 160cm の円形を呈し、深さ約 65cm を測る。土坑覆土は、1 ～ 5 層までの 5 層に分層されている。土壌試料は、2 層から 5 試料（試料 2-1 ～ 2-5）、3 層から 3 試料（試料 3-1 ～ 3-3）、4 層から 2 試料（試料 4-1,4-2）、5 層から 1 試料（試料 5）の 11 点が採取されている。分析には、2 層と 3 層の最上位試料（試料 2-1,3-1）および 5 層（試料 5）の 3 点を供する。

（3）C 区 37 号土坑

C 区 37 号土坑は、平面が直径約 70cm の円形を呈し、深さ約 10cm を測る。土壌試料は、土坑内から出土した底部が穿孔された甕内埋積土の上・中・下層より採取されている。分析には、甕内より採取された土壌 3 点を供する。

（4）C 区 65 号土坑

C 区 65 号土坑は、1 辺が約 170cm を測る不整方形を呈し、深さ約 40cm を測る。土坑覆土は、I ～ III 層の 3

層に分層されている。土壌試料は、I 層から 3 試料（試料①～③）、II 層から 3 試料（試料④～⑥）、III 層から 1 試料（試料⑦）の 7 点が採取されている。分析には、I 層と II 層の最上位試料（試料①，④）および III 層（試料⑦）の 3 点を供する。また、比較対照試料として採取された、土壌試料 2 点（遺構外北側・南側）も分析に供する。

2. 分析方法

リン酸含量は硝酸・過塩素酸分解－バナドモリブデン酸比色法（土壌標準分析・測定法委員会 ,1986）で行った。以下に操作工程を示す。

（1）分析試料の調製

試料を風乾後、土塊を軽く崩して 2mm の篩でふるい分けをする。この篩通過試料を風乾細土試料とし、分析に供する。また、風乾細土試料の一部を乳鉢で粉砕し、0.5mm 篩を全通させ、粉砕土試料を作成する。風乾細土試料については、105℃で 4 時間乾燥し、分析試料水分を求める。

（2）リン酸含量

粉砕土試料 1.00 g をケルダール分解フラスコに秤量し、はじめに硝酸（HNO3）約 5ml を加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸（HClO4）約 10ml を加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で 100ml に定容してろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸（P2O5）濃度を測定する。測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含量（P2O5mg/g）を求める。

3. 結果

結果を表 4 に示す。以下、遺構別に結果を示す。

（1）A1 区 11 号土坑

試料は、いずれも粘質土であり、国際法区分における野外土性（ペドロジスト懇談会編，1984）は LiC（軽埴土）である。土色は、10YR2/2（黒褐色）と比較的黒色味が強い。リン酸含量は、中心部上（試料 1）で僅かに多い傾向はあるが、5.23 ～ 5.57mg/g の範囲で概ね一定である。

（2）A1 区 22 号土坑

野外土性はいずれも LiC（軽埴土）、土色は 10YR2/2 ～ 2/3（黒褐色）と比較的黒色味が強い。リン酸含量は、2 層（試料 2-1）が 3.72mg/g、3 層（試料 3-1）が 4.66mg/g、5 層（試料 5）が 5.31mg/g である。下位の試料ほどリン酸含量が多い傾向が看取される。

（3）C 区 37 号土坑

野外土性は、CL（埴壌土）～ LiC（軽埴土）、土色は 10YR2/2（黒褐色）と比較的黒色味が強い。リン酸含量は、カメ内上で僅かに多い傾向はあるが、3.03 ～ 3.40mg/g の範囲で概ね一定である。

（4）C 区 65 号土坑

野外土性は CL（埴壌土）～ LiC（軽埴土）、土色は 10YR2/2（黒褐色）と比較的黒色味が強い。リン酸含量は、I 層（試料①）が 8.01mg/g、II 層（試料④）が 7.02mg/g、III 層（試料⑦）が 5.82mg/g であり、上位試料ほどリン酸含量が多い。また、比較対照試料である土坑外試料のリン酸含量は、北側が 2.06mg/g、南側が 3.15mg/g である。

4. 考察

リンは生物にとって主要な構成元素であり、動植物中に普遍的に含まれる元素であるが、特に人や動物の骨や歯には多量に含まれている。生物体内に蓄積されたリンはやがて土壌中に還元され、土壌有機物や土壌中の鉄やアルミニウムと難溶性の化合物を形成する。特に活性アルミニウムの多い火山灰土壌ではリンの保持能力が高いため、遺跡での生物起源残留物の痕跡確認などに有効である。

土壌中に普通に含まれるリン酸量、いわゆる天然賦存量については、いくつかの報告事例がある（Bowen,1983;Bolt・Bruggenwert,1980; 川崎ほか ,1991; 天野ほか ,1991）。これらの事例から推定される天然賦存量の上限

は約 3.0P2O5mg/g 程度である。また、人為的な影響（化学肥料の施用など）を受けた黒ボク土の既耕地では 5.5P2O5mg/g（川崎ほか ,1991）という報告例があり、これまでの調査事例では骨片などの痕跡が認められる土壌では 6.0P2O5mg/g を越える場合が多い。

本遺跡では C 区 65 号土坑の土坑外より採取された土壌（北側・南側）が対照試料として供され、2.06 ～ 3.15P2O5mg/g という値が得られている。また、隣接する調査区の B3 区 13 号土坑の調査では、最もリン酸含量が多い試料で 3.26P2O5mg/g という値が得られているが、腐植含量やカルシウム含量の分析結果から、植物遺体を給源として自然蓄積した可能性が高いことが推定されている。これらの結果を考慮すると、本遺跡におけるリン酸の天然賦存量は少なくとも 3.0P2O5mg/g 以上と推定される。

4 基の土坑埋積物におけるリン酸含量は、C 区 37 号土坑の甕内試料で最もリン酸含量が少なく、3.03 ～ 3.40P2O5mg/g の範囲で概ね一定である。比較対照試料とほぼ同レベルの値であることから、リン酸の富化を想定することはできない。一方、A1 区 11 号土坑は、覆土上・下部および底で 5.0mg/g 以上、A1 区 22 号土坑は覆土下位の試料ほどリン酸含量が多く、5 層（試料 5）で 5.0mg/g 以上であり、C 区 65 号土坑においても 5.0mg/g 以上の値が確認された。これら土坑には、上記した本遺跡の推定天然賦存量を大きく上回るリン酸が含まれていることが推定される。

以上の結果、C 区 37 号土坑を除く 3 基の土坑については、推定される天然賦存量を上回るリン酸含量の高い試料が確認されたことから、リン酸を富化する動植物遺体を含む原因物が存在した可能性がある。ただし、これらの土坑では、リン酸含量の偏在性が異なっており、土坑の埋積過程におけるリン酸の供給、あるいは蓄積（例えば、後世の施肥の影響など）を示唆する可能性もある。また、美通遺跡の A2 区・3 区で行った腐植含量とリン酸含量の調査では、正の相関が確認されている（図 1）。そのため、A1 区 11 号土坑、22 号土坑、C 区 65 号土坑については、リン酸含量の由来の検討を目的とする腐植含量の調査や、動植物遺体の痕跡の確認を目的とする微細物分析等による検証が望まれる。

第 4 章　須恵器片付着黒色物質の材質

1. 試料

試料は、2 号掘立柱建物跡周辺から出土した須恵器片（注記名 ;09 美トオシ A1 区 -PS49）である。須恵器片は、内・外面ともに黒色物質が一様に付着する。黒色物質は、鏡下での観察ではガラス光沢を有したことから、漆や炭化物といった有機物の可能性は低いと予想された。そのため、本調査では須恵器片から微量採取した黒色物質を対象とし、分析走査電子顕微鏡（SEM-EDS）による元素分析を実施した。

2. 分析方法

須恵器片の内面から採取した黒色物質を水平試料載台にカーボン両面テープで固定し、エネルギー分散形 X 線分析装置（JED-2300）を備えた日本電子製可搬形走査電子顕微鏡（JCM-5700）により、元素分析を実施した。試料の観察および分析は、基本的に加速電圧 20kV，低真空モード（30Pa）で行い、分析位置は試料表面を観察し、異物を含まない箇所を選択した。測定条件の詳細は、分析結果とともに図 1 に示す。

得られた特性 X 線スペクトルは元素定性を実施した後、ZAF 補正法を用いたスタンダードレス（簡易定量）分析により定量演算を行い、相対含有率（質量 %）を求めた。なお、算出された結果は、半定量的なものであることに留意されたい。

3. 結果および考察

結果を図 1 に示す。また、試料採取位置を図版 1-1.、採取試料の鏡下での状況を図版 1-2. に示す。黒色物質の偏光顕微鏡下における観察では、無色透光性または褐色～黒褐色を呈するガラスと判断される。ガラスには、発泡組織を示すものや、ガラス中に針状ムライトの晶出も認められた。

元素分析では、電子線照射による汚染元素である炭素（C）を除けば、酸素（O）、ナトリウム（Na）、マグネシウム（Mg）、アルミニウム（Al）、ケイ素（Si）、カリウム（K）、カルシウム（Ca）、チタン（Ti）、鉄（Fe）の 9 元素が認められた。これらの元素を酸化物として演算した結果によれば、黒色物質には SiO2 が 64%、Al2O3 が 19%、Fe2O3 が 7.6% 存在し、この他に CaO、K2O、Na2O、MgO なども 1 ～ 4% 程度含まれる。黒色物質がガラスであることを踏まえれば、ガラスの発色は鉄の作用によると考えられる。なお、黒色物質の由来、例えば釉（この場合、アルカリ釉）、あるいは素地表面が高温焼成による溶解、ガラス化によるものであるかの検討は、薄片観察等の分析調査が望まれる。

第 5 章　遺構内出土骨の分析

1. 試料

試料は、C 区 31 号土坑から出土した歯牙 4 点（試料名 : 歯 1 ～ 4）と、C 区 103 号土坑から出土した骨片 1 点（試料名 : 骨（1））の計 5 点である。C 区 31 号土坑から出土した歯牙は、歯 1 ～ 3 が歯冠部片、歯 4 が歯冠部の極めて小さな破片である。C 区 103 号土坑から出土した骨（1）は、土壌が付着した状態の破片 1 点および微細片である。試料の詳細は、結果とともに表 2 に示す。

2. 分析方法

C 区 31 号土坑の歯 1 ～ 3 は、付着した泥分を水に浸した筆で静かに除去する。C 区 103 号土坑の骨（1）は、乾いたブラシで土壌を除去する。自然乾燥後、試料を肉眼で観察し、その形態的特徴から、種類および部位の特定を行う。

3. 結果および考察

結果を表 2 に示す。C 区 31 号土坑から出土した歯牙は、いずれもヒトの歯牙であり、歯 1 が右上顎第 2 大臼歯、歯 2 が左上顎犬歯、歯 3 が右上顎第 1 小臼歯に同定された。歯 4 もヒトの歯牙片とみられる。

本遺構からは、発掘調査時にヒトの頭蓋骨とともに、小刀が出土している。同定対象の歯牙は、重複する部位がないことや状態などから同一個体に由来すると判断され、発掘調査時に出土した頭蓋骨より遊離した歯牙の可能性がある。なお、出土した歯牙には咬耗が全くみられないことから、萌出直前であったか、萌出して間もない時期であった可能性が高い。第 2 大臼歯は、歯冠部だけ残存するが、歯根が形成されていた痕跡がみられる。以上の状況から、成年（16 ～ 20 歳程度）に達していないものの、それに近い年齢であったことが推定される。

一方、C 区 103 号土坑から出土した骨（1）は、白色を呈し、表面に細かなひび割れが生じるなど焼骨の特徴を示す。最も大きな破片は、ニホンジカの中手骨 / 中足骨の遠位端部片の可能性がある。本遺構は、埋積物中に焼土が混じり、人頭大の礫周囲より炭化材や骨片が出土する状況が確認されている。また、隣接する土坑の検出状況および出土遺物から、縄文時代の遺構と想定されている。出土骨の状態や遺構の性格を考慮すると、当時、食糧等として利用された後の状況を示す資料と考えられる。

引用文献

天野洋司・太田　健・草場　敬・中井　信 ,1991, 中部日本以北の土壌型別蓄積リンの形態別計量 . 土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発 . 農林水産省農林水産技術会議事務局編 ,28-36.

Bowen,H.J.M.,1979,Environmental Cemistry of Elements.［浅見輝男・茅野充男（訳）,1983, 環境無機化学 , 元素の循環と生化学 , 博友社 ,297p.］

Bolt,G.H. & Bruggenwert,M.G.M.,1976,SOILCHEMISTRY.［岩田進午・三輪睿太郎・井上隆弘・陽　捷行（訳）,1980, 土壌の化学 . 学会出版センター ,309p.］

土壌標準分析・測定法委員会編 ,1986, 土壌標準分析・測定法 . 博友社 ,354p.

遠藤邦彦・村井公一 ,1978, 山梨県大月市における猿橋溶岩直下の腐植土の 14C 年代 . 地球科学 ,32,107-108.

林　昭三 ,1991, 日本産木材　顕微鏡写真集 . 京都大学木質科学研究所 .
石川茂雄 ,1994, 原色日本植物種子写真図鑑 . 石川茂雄図鑑刊行委員会 ,328p.
伊東隆夫 ,1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載 I. 木材研究・資料 ,31, 京都大学木質科学研究所 ,81-181.
伊東隆夫 ,1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載 II. 木材研究・資料 ,32, 京都大学木質科学研究所 .66-176.
伊東隆夫 ,1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載 III. 木材研究・資料 ,33, 京都大学木質科学研究所 ,83-201.
伊東隆夫 ,1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載 IV. 木材研究・資料 ,34, 京都大学木質科学研究所 ,30-166.
伊東隆夫 ,1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載 V. 木材研究・資料 ,35, 京都大学木質科学研究所 ,47-216.
川崎　弘・吉田　澪・井上恒久 ,1991, 九州地域の土壌型別蓄積リンの形態別計量 . 土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発 . 農林水産省農林水産技術会議事務局編 ,23-27.
小林謙一 ,2008, 縄文土器の年代 (東日本). 小林達雄編　小林達雄先生古希記念企画　総覧　縄文土器 . 株式会社アム・プロモーション ,896-903.
中山至大・井之口希秀・南谷忠志 ,2000, 日本植物種子図鑑 . 東北大学出版会 ,642p.
農林省農林水産技術会議事務局監修 ,1967, 新版標準土色帖 .
パリノ・サーヴェイ株式会社 ,1996, 中谷遺跡における自然科学分析 . 中谷遺跡　山梨リニア実験線建設に伴う発掘調査報告書 , 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第 116 集 , 山梨県教育委員会・日本鉄道建設公団 ,180-183.
パリノ・サーヴェイ株式会社 ,2000a, 大月遺跡 10 次調査の自然科学調査 . 山梨県大月市　大月遺跡（第 10 次調査）　－県立都留高等学校体育館周辺整備に伴う発掘調査報告書－ , 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第 174 集 , 山梨県教育委員会 ,14-23.
パリノ・サーヴェイ株式会社 ,2000b, 原・郷原遺跡における自然科学分析 . 原・郷原遺跡　県営中山間地域総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 , 上野原町埋蔵文化財調査報告書第 9 集 , 上野原町教育委員会・山梨県都留土地改良事務所 ,58-62.
パリノ・サーヴェイ株式会社 ,2003, 上野原小学校遺跡から出土した炭化材・種実遺体の種類 . 上野原小学校遺跡 II　町立上野原小学校給食施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 , 上野原町埋蔵文化財調査報告書 10 集 , 上野原町教育委員会 ,55-57.
ペドロジスト懇談会 ,1984, 土壌調査ハンドブック ,156p,
Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（編）,2006, 針葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト . 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部　久・内海泰弘（日本語版監修）, 海青社 ,70p.［Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（2004）IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification］.
島地　謙・伊東隆夫 ,1982, 図説木材組織 . 地球社 ,176p.
Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（編）,1998, 広葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト . 伊東隆夫・藤井智之・佐伯　浩（日本語版監修）, 海青社 ,122p.［Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（1989）IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification］.
吉村　稔・平川一臣 ,1987,I　地形分類図 . 土地分類基本調査　都留　5 万分の 1　国土調査 , 山梨県農　務部農村整備課 ,15-23.

表 1. 放射性炭素年代測定結果および暦年較正結果

試料名	補正年代 (yrBP)	δ 13C(‰)	補正年代 (暦年較正用) (yrBP)	暦年較正年代 (cal)			相対比	測定機関 Code No.
A1 区 1 号住 炭化物 8	1,265 ± 20	-24.05 ± 0.24	1,264 ± 21	σ	cal AD 691 - cal AD 730		0.623	PLD-15550
					cal AD 735 - cal AD 750		0.230	
					cal AD 763 - cal AD 772		0.146	
				2 σ	cal AD 674 - cal AD 779		0.996	
					cal AD 795 - cal AD 797		0.004	
A1 区 3 号住 C-1	1,200 ± 20	-24.95 ± 0.30	1,201 ± 22	σ	cal AD 779 - cal AD 794		0.197	PLD-15551
					cal AD 801 - cal AD 831		0.387	
					cal AD 836 - cal AD 869		0.417	
				2 σ	cal AD 772 - cal AD 890		1.000	
A1 区 4 号住 炭化物 1	960 ± 20	-24.13 ± 0.22	962 ± 20	σ	cal AD 1,025 - cal AD 1,046		0.413	PLD-15552
					cal AD 1,093 - cal AD 1,120		0.477	
					cal AD 1,140 - cal AD 1,148		0.110	
				2 σ	cal AD 1,021 - cal AD 1,054		0.359	
					cal AD 1,078 - cal AD 1,154		0.641	
C 区南 1 号住 C23	960 ± 20	-24.95 ± 0.18	960 ± 20	σ	cal AD 1,026 - cal AD 1,046		0.387	PLD-15553
					cal AD 1,092 - cal AD 1,121		0.487	
					cal AD 1,140 - cal AD 1,148		0.125	
				2 σ	cal AD 1,021 - cal AD 1,055		0.341	
					cal AD 1,077 - cal AD 1,154		0.659	
C 区南 2 号住 炭化物№ 3	950 ± 20	-27.29 ± 0.13	951 ± 20	σ	cal AD 1,030 - cal AD 1,048		0.279	PLD-15554
					cal AD 1,087 - cal AD 1,122		0.557	
					cal AD 1,138 - cal AD 1,150		0.164	
				2 σ	cal AD 1,024 - cal AD 1,059		0.283	
					cal AD 1,066 - cal AD 1,072		0.015	
					cal AD 1,075 - cal AD 1,155		0.702	
C 区北 3 号住 C-1	6,345 ± 30	-24.19 ± 0.11	6,346 ± 28	σ	cal BC 5,360 - cal BC 5,306		1.000	PLD-15555
				2 σ	cal BC 5,463 - cal BC 5,446		0.025	
					cal BC 5,419 - cal BC 5,410		0.010	
					cal BC 5,379 - cal BC 5,290		0.863	
					cal BC 5,271 - cal BC 5,224		0.101	
C 区南 4 号住 C-6	1,000 ± 20	-23.17 ± 0.18	999 ± 20	σ	cal AD 999 - cal AD 1,002		0.043	PLD-15556
					cal AD 1,013 - cal AD 1,036		0.957	
				2 σ	cal AD 990 - cal AD 1,044		0.911	
					cal AD 1,098 - cal AD 1,119		0.078	
					cal AD 1,142 - cal AD 1,147		0.011	
C 区 2 号集石 炭化物 16	4,900 ± 25	-25.40 ± 0.18	4,902 ± 26	σ	cal BC 3,695 - cal BC 3,654		1.000	PLD-15557
				2 σ	cal BC 3,747 - cal BC 3,745		0.003	
					cal BC 3,712 - cal BC 3,640		0.997	
A 区 2-3 2 号住 かまど 炭化材サンプル	1,295 ± 20	-24.09 ± 0.16	1,296 ± 19	σ	cal AD 671 - cal AD 695		0.477	PLD-15545
					cal AD 698 - cal AD 708		0.155	
					cal AD 747 - cal AD 765		0.369	
				2 σ	cal AD 665 - cal AD 725		0.642	
					cal AD 738 - cal AD 771		0.358	
A 区 2-3 3 号住 レキ集中 炭化材サンプル	1,395 ± 20	-22.88 ± 0.12	1,397 ± 19	σ	cal AD 638 - cal AD 658		1.000	PLD-15548
				2 σ	cal AD 613 - cal AD 662		1.000	
C 区 65 号土坑 土壌 3 炭化種実 (コムギ胚乳)	630 ± 30	-25.40 ± 0.51	634 ± 25	σ	cal AD 1,296 - cal AD 1,315		0.367	IAAA-101867
					cal AD 1,356 - cal AD 1,388		0.633	
				2 σ	cal AD 1,287 - cal AD 1,328		0.411	
					cal AD 1,341 - cal AD 1,395		0.589	

表 2. 樹種同定結果…A 区 1・C 区

地区	遺構	面	試料名	形状	樹種	備考
A1 区	1 号住		炭化物 8	芯持丸木	エノキ属	＊直径約 5cm
A1 区	3 号住		C-1	芯持丸木	クリ	直径約 6cm
A1 区	3 号住		C-3	芯持丸木	コナラ属コナラ亜属コナラ節	＊直径約 3.5cm
A1 区	3 号住		C-10	芯持材	トネリコ属	半径約 2cm
A1 区	4 号住		炭化物 1	板状	エノキ属	＊
A1 区	42pit		C-1	―	ケヤキ	

地区	遺構	面	試料名	形状	樹種	備考
C 区南	1 号住		C23	板状	エノキ属	＊
C 区南	2 号住		炭化物№ 3	板状	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	＊
C 区北	3 号住		C-1	―	クリ	＊
C 区南	4 号住		C-6	芯持丸木	クマシデ属イヌシデ節	＊径約 2.0 × 1.5cm
C 区	2 号集石	4 面	炭化物 16	―	エノキ属	＊
C 区南	1 号住		C9	―	草本類	縄状炭化物

＊放射性炭素年代測定試料

表 2-2. 樹種実同定結果… A 区 2-3

地区	遺構	地点	樹種	備考
A 区 2-3	2 号住居跡	カマド	バラ属	
			バラ属	年代測定試料
A 区 2-3	3 号住居跡	礫集中	モミ属	
			モミ属	年代測定試料

表 3-1. 種実同定結果（C 区）

試料名	分類群	部位	状態		個数	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	備考
C 区 1 号住 C21 (種)	スモモ	核	完形	炭化	1	11.16	10.05	6.84+	一部欠損
C 区 (南) 1 号住 C6 (種)	スモモ	核	完形	炭化	1	13.17	11.12	8.38	
C 区 (南) 1 号住 C5 (種)	モモ	核	破片	炭化	19	16.68			1 個体
		種子	完形	炭化	1	16.73	9.48	4.10	
C 区南 4 号住 C5-2	ウルシ属	核	完形	炭化	2	2.61	3.30	1.92	
						2.50	3.17	1.92	
	オオムギ	胚乳	完形	炭化	3				2 個穎付着
	コムギ	胚乳	完形	炭化	6				
	マメ類	種子	完形	炭化	1	6.19	4.87	2.85+	一部欠損 , 臍確認
	不明		破片	炭化	1				

表 3-2. 種実分析結果（A 区 2-3）

分類群	部位	状態	A 区 2-3	備考
＜炭化＞				
モモ	核	破片	44	計 1 個体未満

表 4. リン分析結果

地区	遺構	地点・層位	試料名	土性	土色		P_2O_5 (mg/g)	備考
A1 区	11 号土坑	中心部 上	1	LiC	10YR2/2	黒褐	5.57	覆土
		中心部 下	3	LiC	10YR2/2	黒褐	5.24	
		中心部 底	4	LiC	10YR2/2	黒褐	5.23	対照試料
	22 号土坑	2 層	2-1	LiC	10YR2/3	黒褐	3.72	
		3 層	3-1	LiC	10YR2/2	黒褐	4.66	
		5 層	5	LiC	10YR2/2	黒褐	5.31	
C 区	37 号土坑 (南)	カメ内 上		CL	10YR2/2	黒褐	3.40	底部穿孔甕内
		カメ内 中		CL	10YR2/2	黒褐	3.03	
		カメ内 下		LiC	10YR2/2	黒褐	3.08	
	65 号土坑	Ⅰ層	①	LiC	10YR2/2	黒褐	8.01	
		Ⅱ層	④	LiC	10YR2/2	黒褐	7.02	
		Ⅲ層	⑦	CL	10YR2/2	黒褐	5.82	
		土坑外（北側）		CL	10YR2/3	黒褐	2.06	対照試料
		土坑外（南側）		CL	10YR2/2	黒褐	3.15	

1）土色 : マンセル表色系に準じた新版標準土色帖 (農林省農林水産技術会議監修 ,1967) による。
2）土性 : 土壌調査ハンドブック (ペドロジスト懇談会編 ,1984) の野外土性による。
LiC: 軽埴土（粘土 25 ～ 45%、シルト 0 ～ 45%、砂 10 ～ 55%）
HC: 重埴土（粘土 45 ～ 100%、シルト 0 ～ 55%、砂 0 ～ 55%）

表 5. 骨同定結果

調査区	遺構名	試料名	種類	部位	左	右	部分	数量	備考
C 区	31 号土抗	歯 1	ヒト	上顎第 2 大臼歯		右	歯冠部	1	
C 区	31 号土抗	歯 2	ヒト	上顎犬歯	左		歯冠部片	1	
C 区	31 号土抗	歯 3	ヒト	上顎第 1 小臼歯		右	歯冠部	1+	
C 区	31 号土抗	歯 4	ヒト	歯牙片			歯冠部片	9+	
C 区	103 号土抗	骨 (1)	ニホンジカ？	中手骨 / 中足骨			遠位端片	1+	焼骨

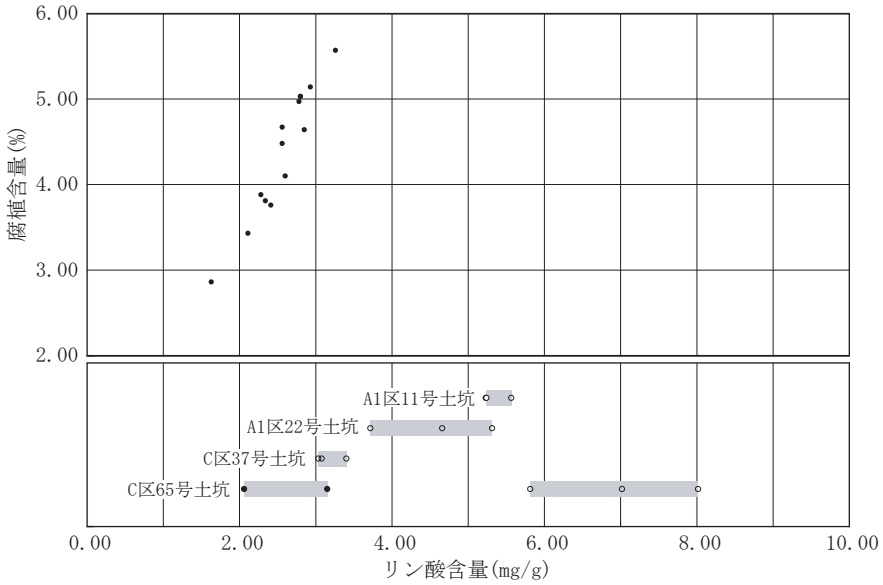
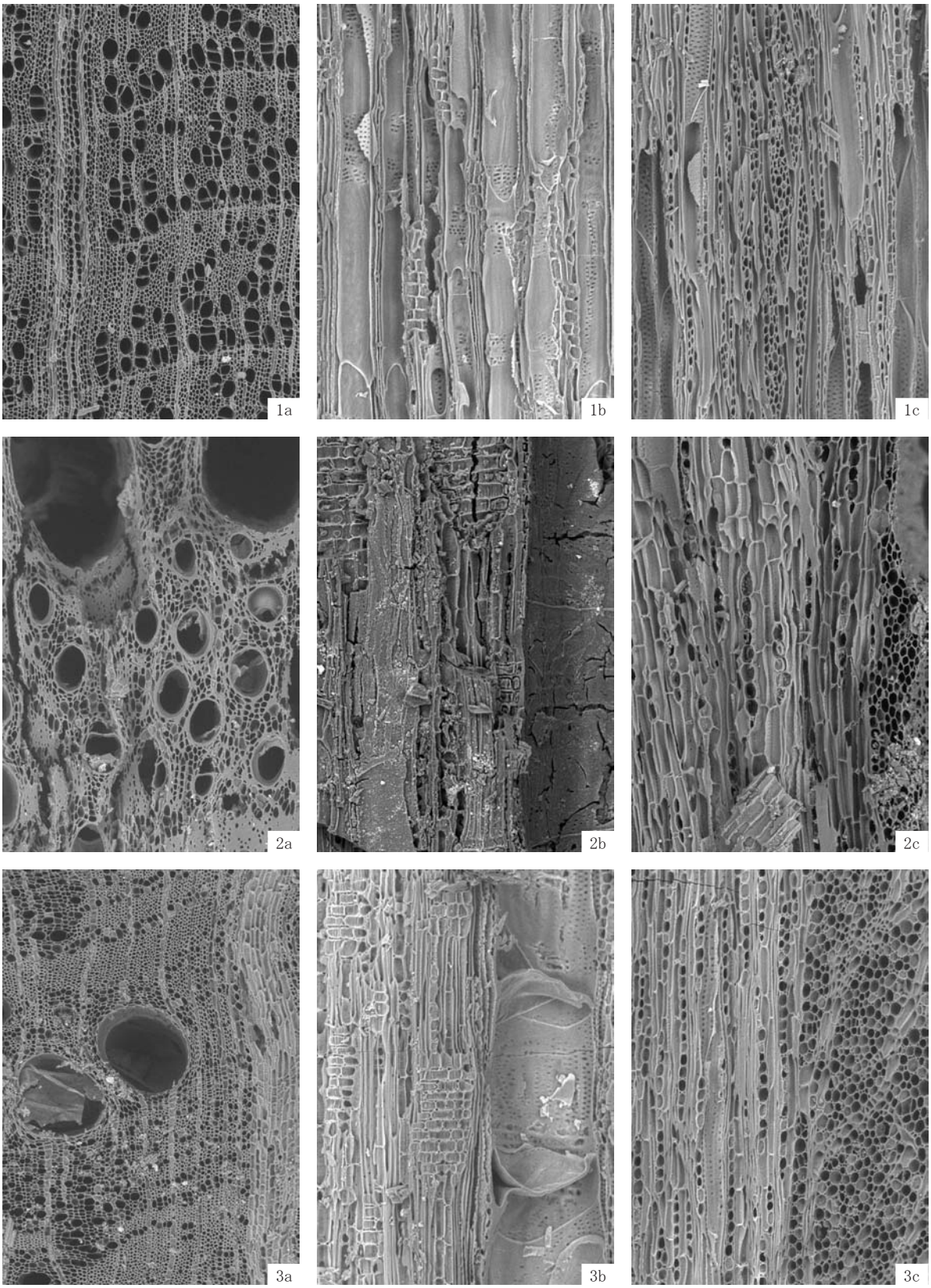


図1. 美通遺跡(A2区, B3区)の腐植含量・リン酸含量の相関(上段)
および美通遺跡(A1区, C区)の各土坑のリン酸含量(下段)

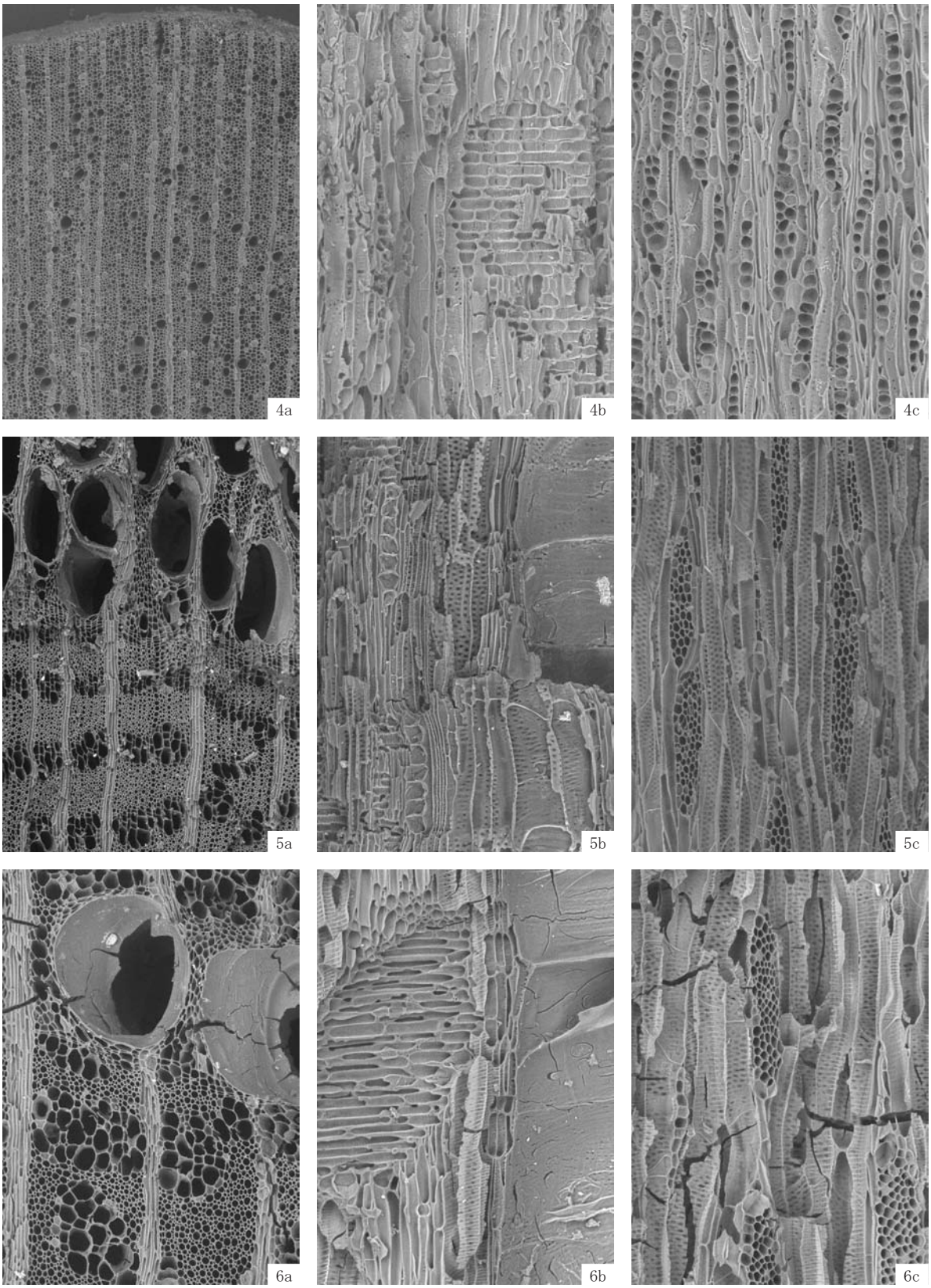
図版1 炭化材(1)



1. クマシデ属イヌシデ節(C区南4号住;C-6)
2. コナラ属コナラ亜属クヌギ節(C区南2号住;炭化物№3)
3. コナラ属コナラ亜属コナラ節(A1区3号住;C-3)
　a:木口,b:柾目,c:板目

200μm:2-3a
200μm:1a,2-3b,c
100μm:1b,c

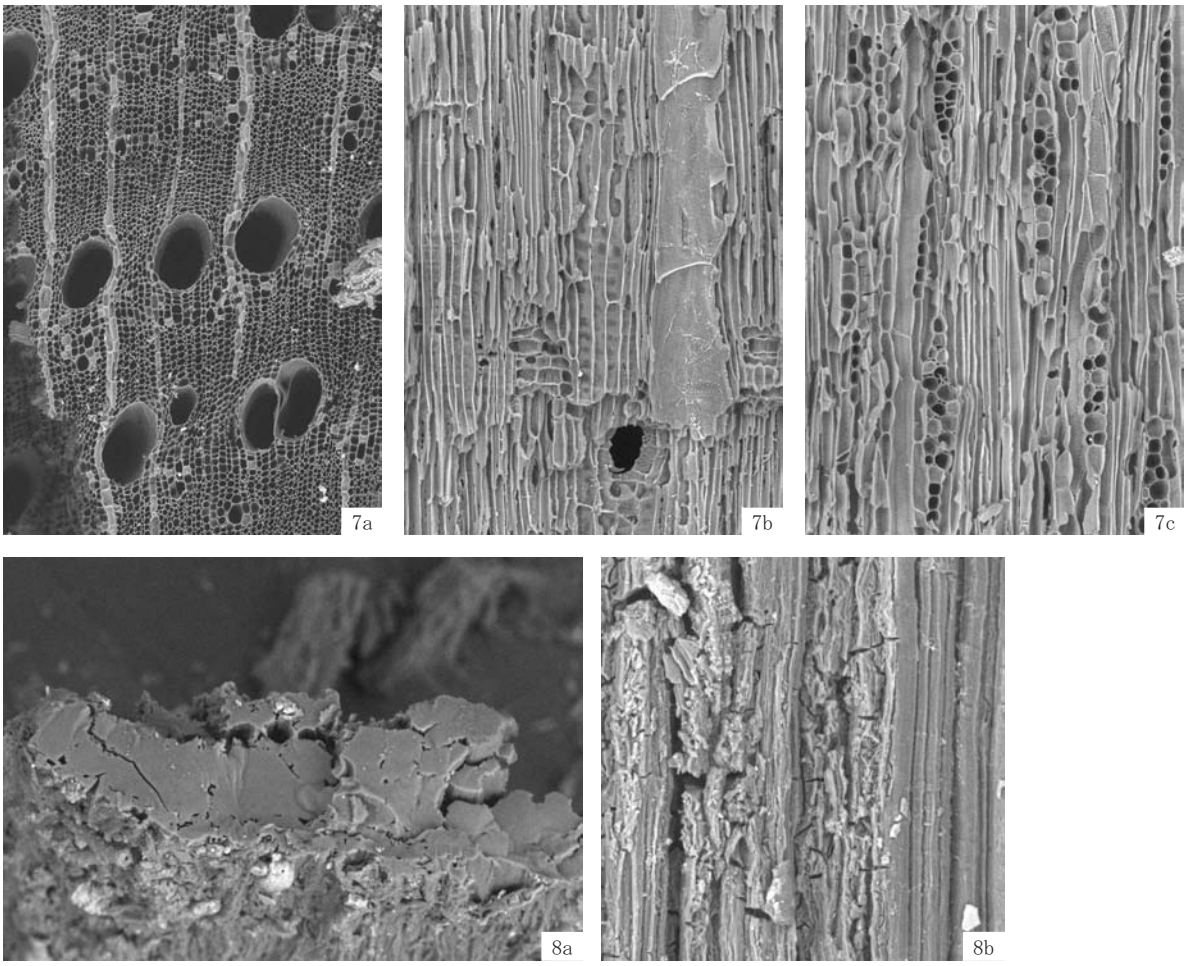
図版2 炭化材(2)



4.クリ(C区北3号住;C-1)
5.エノキ属(A1区1号住;炭化物8)
6.ケヤキ(A1区42pit;C-1)
　a:木口,b:柾目,c:板目

200μm:a
200μm:b,c

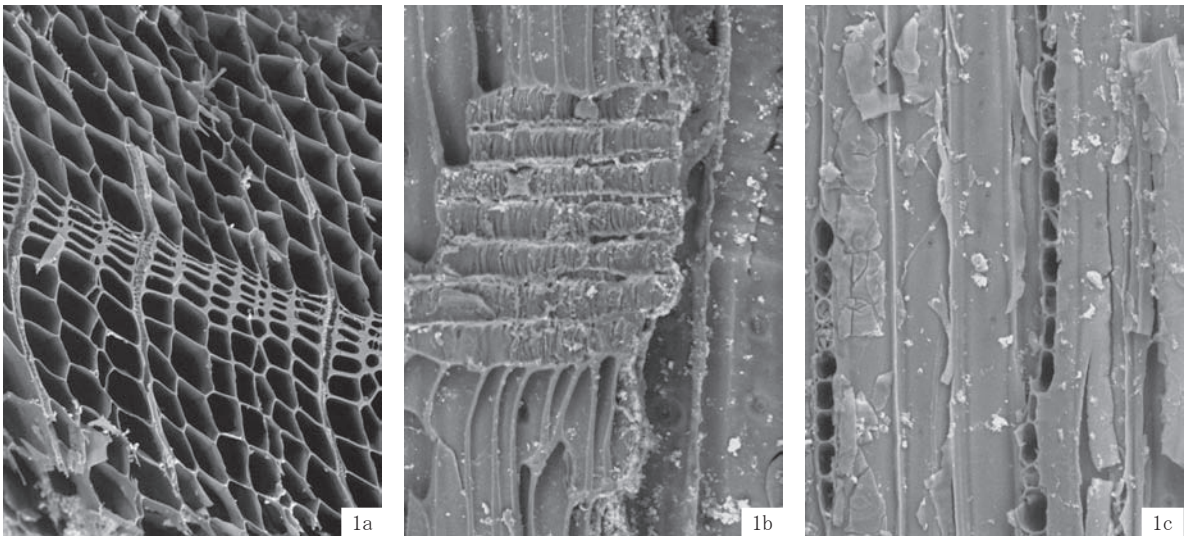
図版3 炭化材(3)・炭化物



7.トネリコ属(A1区3号住;C-10) a:木口,b:柾目,c:板目
8.草本類(C区南1号住;C9) a:横断面,b:縦断面

200μm:7a
200μm:7b,c
100μm:8a,b

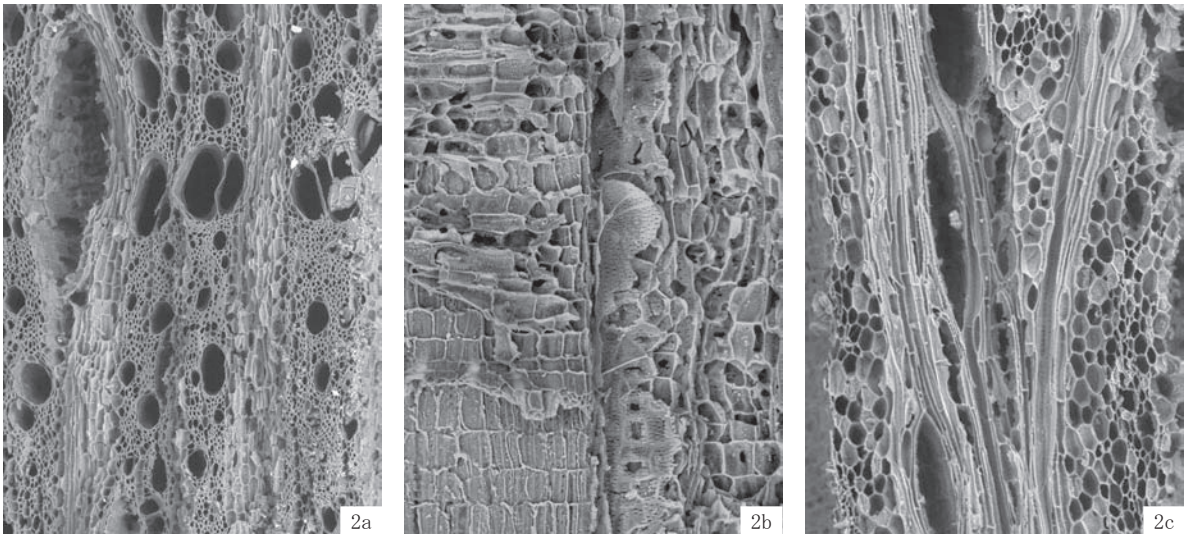
図版4 炭化材(4)



1. モミ属(A区2-3 3号住居跡;礫集中)
a:木口,b:柾目,c:板目

200μm:1a
100μm:1b,c

図版5 炭化材(5)・種実遺体

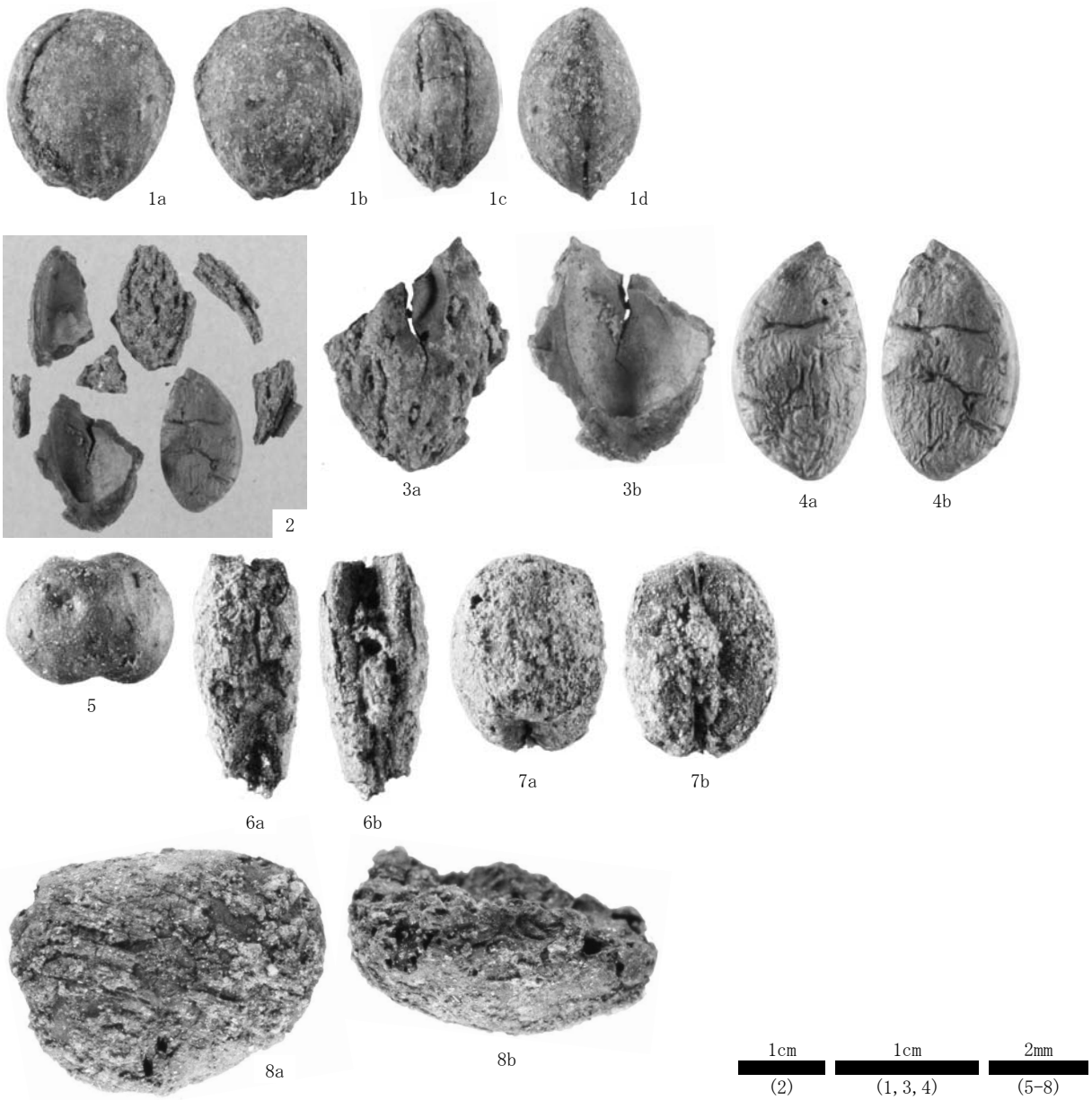


3a 3b

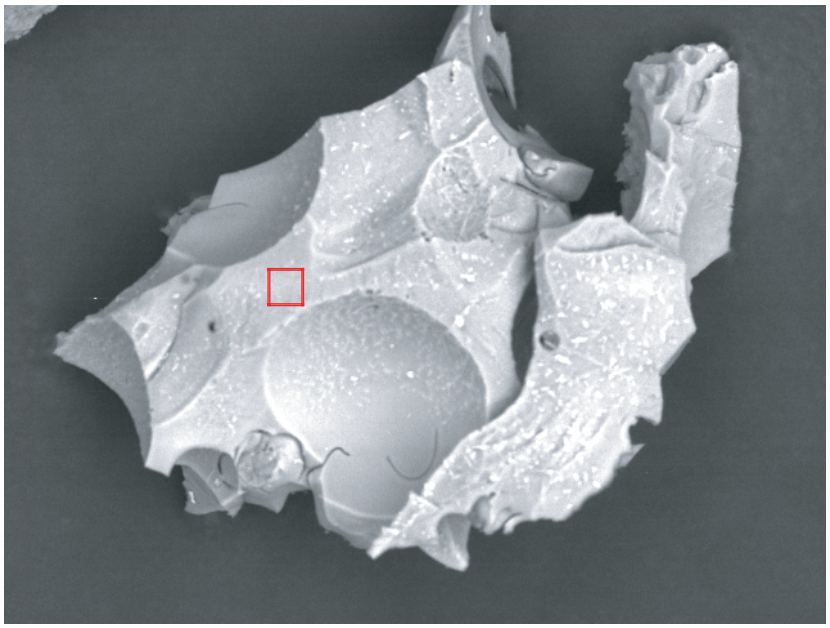
200μm:2a
200μm:2b,c
1cm:3

2. バラ属(A区2-3 2号住;カマド) a:木口,b:柾目,c:板目
3. モモ 核(A区2-3 3号住;種子)

図版6 種実遺体

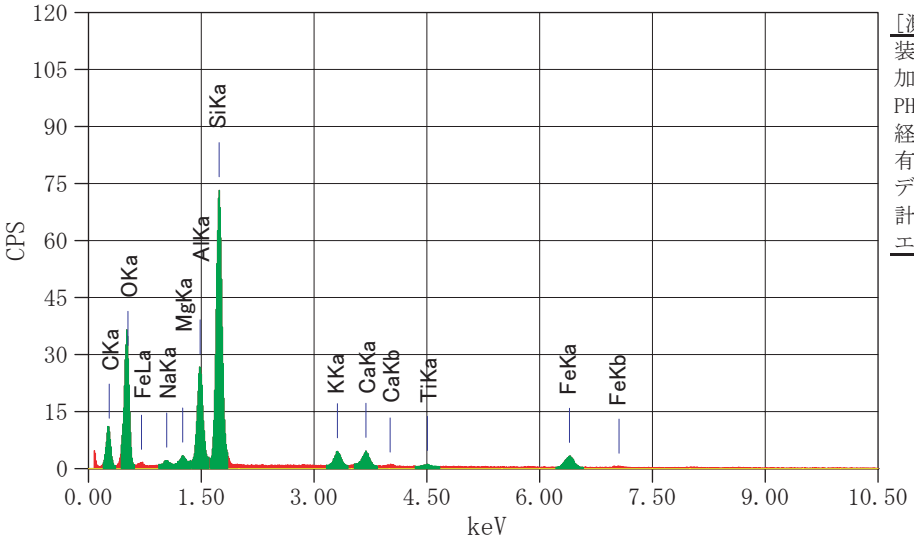


1. スモモ 核(C区(南) 1号住 C6 (種))
2. モモ 核(C区(南) 1号住 C5 (種))
3. モモ 核(C区(南) 1号住 C5 (種))
4. モモ 種子(C区(南) 1号住 C5 (種))
5. ウルシ属 核(C区南 4号住 C-5-②)
6. オオムギ 胚乳(C区南 4号住 C-5-②)
7. コムギ 胚乳(C区南 4号住 C-5-②)
8. マメ類 種子(C区南 4号住 C-5-②)



□ 測定領域　　100μm

タイトル	：	A1区 P549
装置	：	JCM-5700
加速電圧	：	20.00kV
倍率	：	x500
画像	：	BES



[測定条件]

装置名	：	JCM-5700
加速電圧	：	20.0kV
PHAモード	：	T4
経過時間	：	133.12sec
有効時間	：	100.00sec
デッドタイム	：	24%
計数率	：	2896cps
エネルギ範囲	：	0 - 20keV

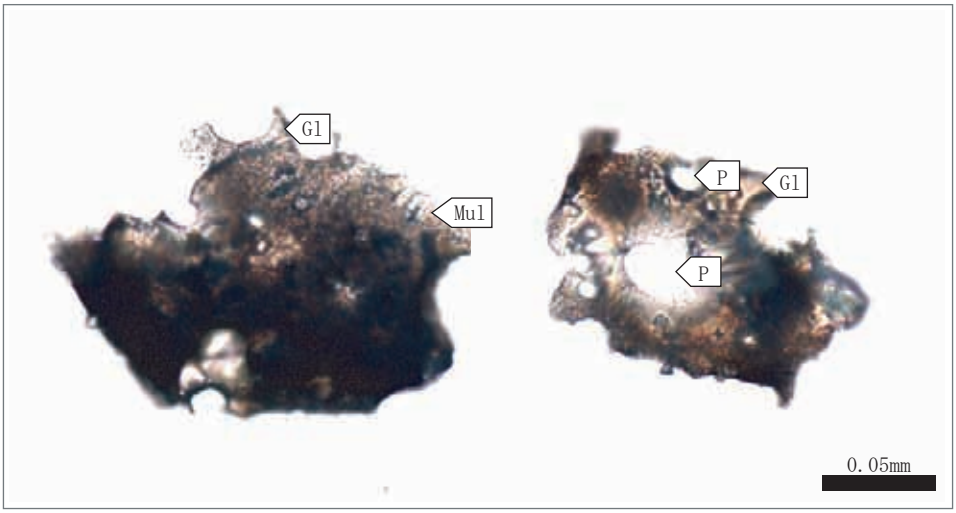
ZAF法 簡易定量分析(酸化物)
フィッティング係数：0.2471
全酸素数:24.0

元素	(KeV)	質量(%)	誤差(%)	モル(%)	化合物	質量(%)	カオチン数	K
C K (禁止)								
O		47.91						
Na K	1.041	0.77	0.30	1.15	Na_2O	1.04	0.27	1.2647
Mg K	1.253	0.90	0.28	2.56	MgO	1.50	0.30	1.3250
Al K	1.486	10.03	0.29	12.80	Al_2O_3	18.96	2.98	17.6012
Si K	1.739	29.93	0.36	73.37	SiO_2	64.02	8.54	55.2037
K K	3.312	2.23	0.24	1.97	K_2O	2.69	0.46	5.3800
Ca K	3.690	2.45	0.32	4.22	CaO	3.43	0.49	6.2695
Ti K	4.508	0.46	0.47	0.66	TiO_2	0.77	0.08	1.0078
Fe K	6.398	5.31	0.71	3.27	Fe_2O_3	7.59	0.76	11.9481
合計		100.00		100.00		100.00	13.87	

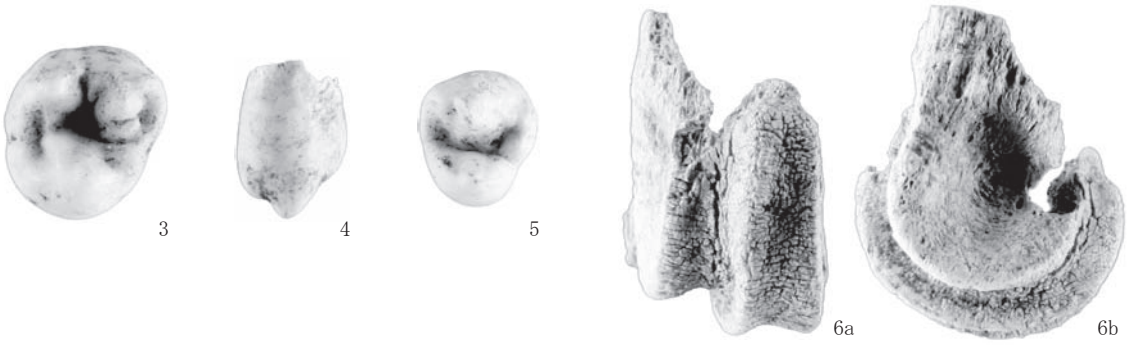
図2. 須恵器片(09美トオシ A1区-PS49)内面黒色物質のSEM-EDS分析結果

図版7 須恵器片・黒色物質・出土骨

1.須恵器片(09美トオシ A1区-PS49)内面および試料採取位置　2cm



2.須恵器片内面付着黒色物質，偏光顕微鏡(下方ポーラー)
Mul:ムライト. Gl:ガラス. P:気泡.



3. ヒト 右上顎 第2大臼歯(歯1;C区31号土抗)
4. ヒト 左上顎 犬歯(歯2;C区31号土抗)
5. ヒト 右上顎 第1小臼歯(歯3;C区31号土抗)
6. ニホンジカ? 中手骨/中足骨(骨(1);C区103号土抗)

第３章　総括

第１節　美通遺跡の成果

美通遺跡の調査では、縄文時代に加えて、弥生時代、奈良～平安時代、中世までの遺構・遺物、そして、それ以降の時期が限定できない遺構や遺物が発見された。各調査区の特徴を示すと、Ａ区１・Ａ区２－３では、奈良時代から平安時代の遺構が中心で、住居跡８軒・掘立柱建物跡３棟など、この地域では新しい発見となった。また、Ａ区 2-1 ～２は、朝日川の影響を受けて遺構の残りは悪かったが、猿形土製品や墓坑に副葬された短刀などの遺物が発見された。Ｃ区では、縄文早期後半から前期にかけての住居跡や集石土坑、弥生時代の遺物包含層、中世の遺物を含む土坑など、様々な時代にわたる遺構・遺物の発見があった。この他にも、全調査区で発見されている時期の確定しにくい円形土坑・溝条遺構などがある。今回の総括では、調査区が細分され遺跡の性格が分かりにくいため、Ａ区・Ｃ区の中から時代を限定して美通遺跡の様子を報告していく。

●縄文時代早期後半から前期末について

この時期の遺構・遺物は、住居跡１軒・集石土坑６基・遺物集中区１ヶ所などであり、Ｃ区北側の調査区のみで発見されている。Ｃ区北側は、都留バイパスの現工事予定地で最も北に位置しており、調査区の北側端から南側にかけて傾斜する地形がみられた。Ｃ区北側の端では、Ｂ区１でも確認されている約 8,000 年前の富士山の噴火で流れ出た猿橋溶岩が検出されている。

縄文時代早期末では、１号遺物集中区が調査区中央よりやや北東の位置 L-19 グリッド、住居跡がそれより南側 O-20・21 グリッドから検出された。その間ほどにある M-20 グリッドからも縄文時代早期後半頃の深鉢形土器が出土している（第 79 図 -305）。１号遺物集中区は、早期末の条痕文が施文された土器片（第 78 図 -295）と緑色凝灰岩の剥片（第 85 ～ 87 図）などが、直径２ｍほどの範囲で検出されたものである。竪穴のような掘り込みは確認出来なかった。３号住居跡は、覆土に焼土と炭化物が混ざり、中央付近に地床炉がある。遺物は少なく､床面近くで確認された台石（第 84 図 -438）のみであった。出土した炭化材から年代測定を試みたところ、6.345 ± 30yrBP の測定結果を得た。出土した遺物などと照合して、これらの遺構は、縄文早期後半から前期初頭のものと考えている。猿橋溶岩が流れた、約 1,500 年後の事である。

縄文時代前期末では、集石土坑６基が検出された。２号集石土坑内で出土した炭化材から年代測定を試みた結果、4,900 ± 25yrBP の測定結果を得た。これは、縄文時代前期末から中期初頭と推定されている。６基の様子は若干異なり、拳大から掌大の礫を詰め込んだようなタイプと、土坑の壁に平石を敷き詰め、その後、礫を詰め込んだようなタイプが存在する。周辺で出土した遺物は、諸磯式土器片が多いため、ほぼ同時期に構築されたものと考えている。

●奈良・平安時代について

この時期の遺構・遺物は、Ａ区１・Ａ区 2-3・Ｃ区から検出されている。遺構から検出された炭化材などの分析によると、Ａ区 2-3 の３号住居跡が奈良時代でも若干古めで、Ａ区１の１号住居跡とＡ区 2-3 の２号住居跡が奈良時代、Ａ区１の３号住居跡が平安時代前半（９世紀代）、Ａ区１の４号住居跡とＣ区１・２・４号住居が、平安時代後半（11 世紀前半～ 12 世紀中頃）との暦年代が出されている。出土した遺物の観察からも指示できる結果である。分析を行っていないＡ区１の２・５号住居跡、Ａ区 2-3 の１号住居跡は、前者が８世紀前半・後者が９世紀前半となる。

８世紀前半の住居跡は、Ａ区１の２号住居跡を中心とするＡ区１の１・５号住居跡グループとＡ区 2-2・３号住居跡のグループに分けられる。前者は西壁の中央にカマドをもつもので、後者は北壁にカマドをもつという、様相が少し異なる状態である。また、Ａ区 2-3 の３号住居では、カマドの両袖にあたる部分の上層から須恵器蓋が内側を上にして出土している。これは、カマドの廃棄に伴う祭祀と考えられ、同様の例が、南アルプス市大

塚遺跡Ｂ区９号住居址で検出されている。このような祭祀は、３号住居跡でしか確認されていない。９世紀前半のＡ区１の３号住居跡はカマドが検出されていないが、Ａ区2-3の１号住居跡では東壁にカマドが作られる。３号住居跡から出土した須恵器甕の内側に塗布された黒色物質の成分分析を行った結果、ガラス質の物質であり、漆のような植物性のものではなかった。11 世紀末～ 12 世紀中頃のＡ区１の４号住居跡、Ｃ区 -1・2・4 号住居跡ではＣ区２・４号住のみカマドが検出され、それは東壁につくられていた。この時期の住居内からは、ほとんど遺物が検出できなかったが、壁際に周溝が作られる傾向にある。また、Ｃ区１号住居跡では、炭化した縄状炭化材が出土し、竹のような繊維を編んだものとの結果がでている。又、県内でも珍しい、スモモの種子が２点検出されている。又、スモモの核が２点検出されている。このことから、果樹利用が明らかとなった。

● 13 世紀～ 14 世紀について

Ｃ区南側の北端南北 20 m、東西 30 mほどの範囲は、調査区のなかで最も黒色土の堆積が厚い。この締まりの欠ける黒色土中から陶器片や礫が点在する様子、焼土遺構６カ所ほどが検出された。31 土・37 土・65 土の周辺部分である。この周辺は、黒色土中では焼土遺構以外の遺構は検出しにくいが、この土を取り除く際には、31 号・３７号土坑が検出された。黒色土が掘削し終わると、38・39・65 号土坑が発見される。この中で、31・65 号は墓坑と考えられる。

31 号土坑は、短刀を副葬品とする墓坑である。確認された時は、すでに土坑の底部に近く、頭骨片・歯牙が出土した。出土した４点の歯牙の種別同定を行った結果、「成年 (16 ～ 20 歳程度) に達していないものの、それに近い年齢」との推定が出された。65 号土坑は、瀬戸産と思われる鉄釉小壺（13 世紀～ 14 世紀頃）を伴う土坑である。ここでは、土坑内の土壌からリン分析と年代測定を行った。その結果、分析した３点の資料とも、対照資料とした土坑外の土壌より、リン酸の含有量が高めであった。また、土壌から水洗選別で検出した炭化種実（コムギ胚乳）の分析は、630 ± yrBP・13 世紀末から 14 世紀後半という結果であった。37 号土坑は、在地産の陶器甕胴部下から底部までが正位の状態で埋められていた。底部は穿孔されていたため、陶器内の土壌をリン分析したが、含有量はそれほど高くないという結果がでた。これらの分析結果や、遺構・遺物の出土状況などから、13 世紀から 14 世紀頃に、この辺りで、墓域としての土地利用があった可能性ができてきた。しかし、後世の開墾などによって掘削され、この辺りだけがかろうじて残ったものであろう。また、65 号土坑が検出される直上には、焼土遺構があった。31 号土坑の周辺でも同じレベルか、それより上層から焼土遺構が検出される状況が見られる。焼土が薄く、長い時間火がたかれたものではないため、その正確が疑問であったが、今回の調査においては、中世の土坑との関連性が指摘出来よう。今後の調査と検討に課題を残すことになった。

参考文献

都留市教育委員会　1986　『都留市史』　資料編　地史・考古

山梨県　1999　『山梨県史』　資料編２　原始・古代２　考古（遺構・遺物）

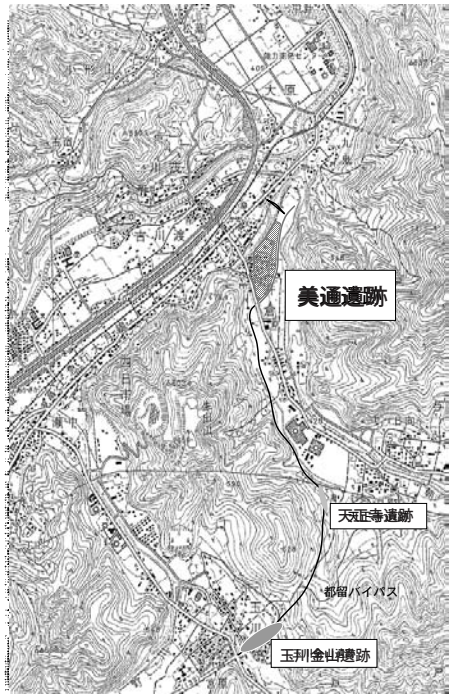
山梨県　2004　『山梨県史』　通史編１　原始・古代１

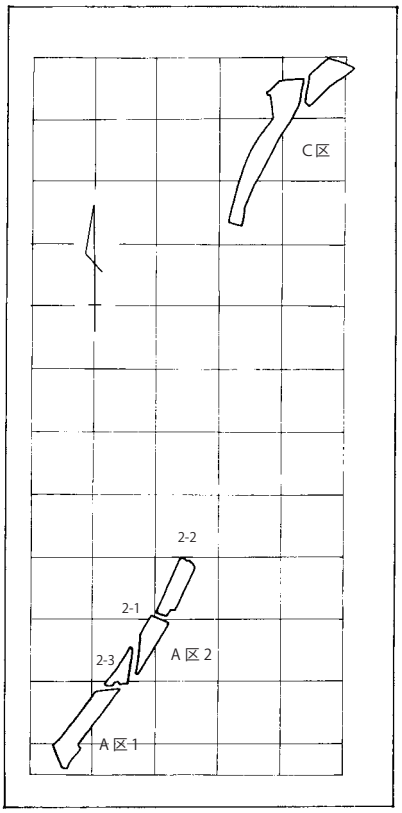
山梨県教育委員会　1996　『九鬼Ⅱ遺跡』　山梨県埋蔵文化財センター調査報告第 118 集

山梨県教育委員会　2007　『天正寺遺跡』　山梨県埋蔵文化財センター調査報告第 248 集

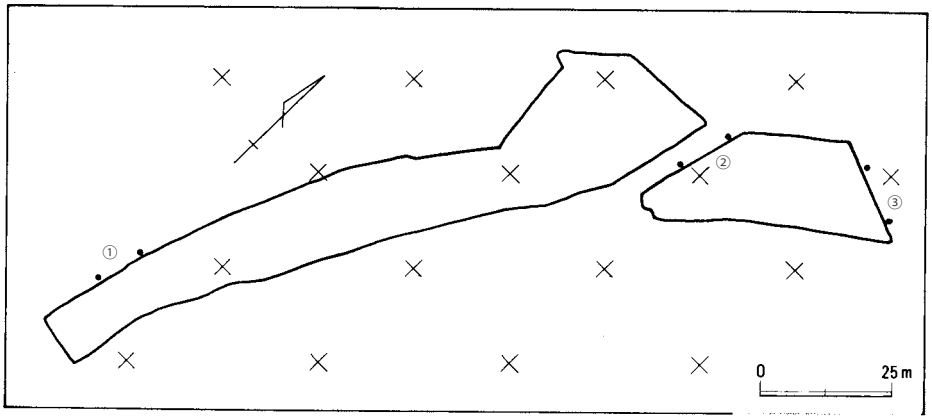
山梨県教育委員会　2009　『玉川金山遺跡』　山梨県埋蔵文化財センター調査報告第 261 集

小学館　1977　『世界陶器全集３　日本中世』

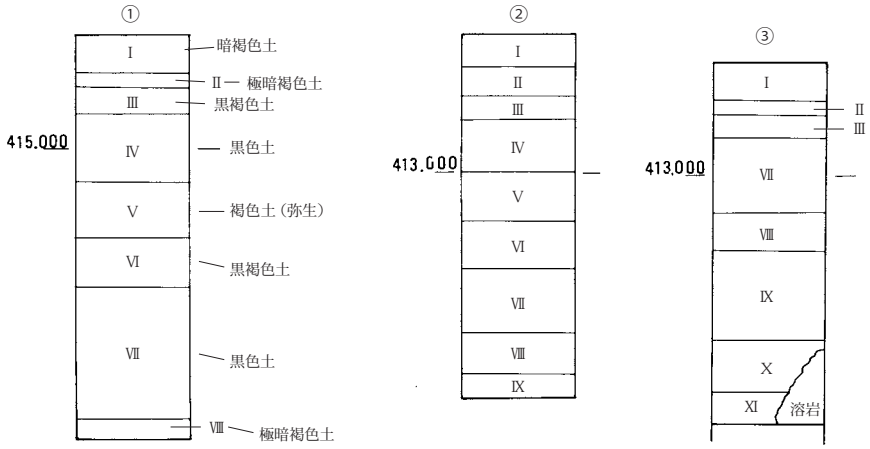


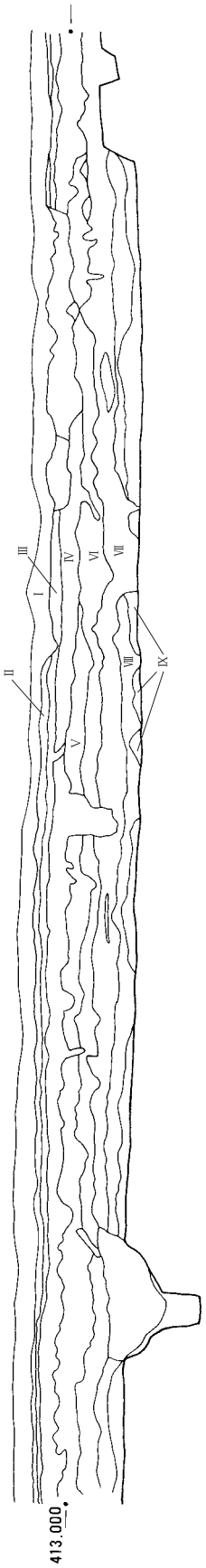


第２図　美通遺跡　配置図

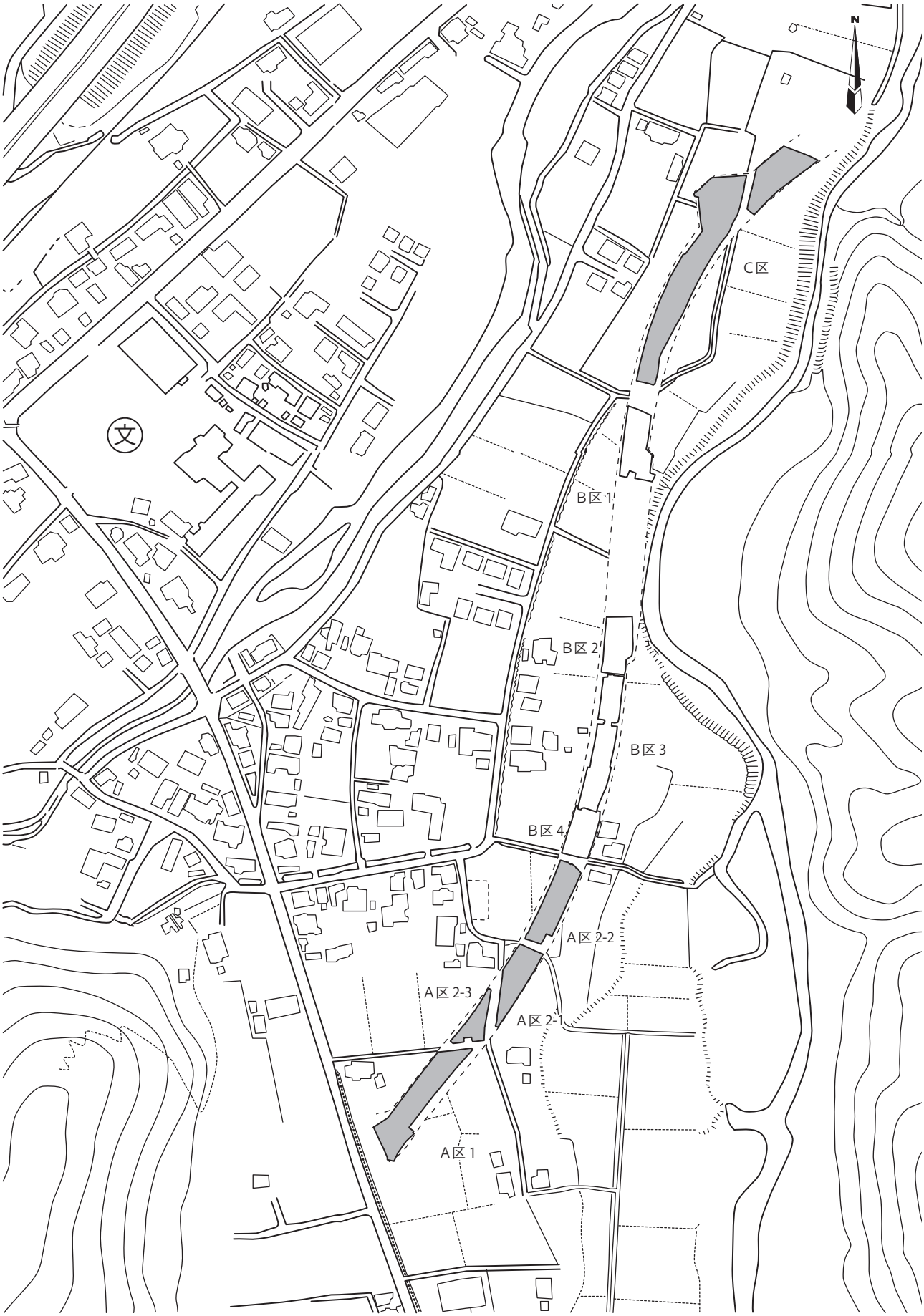


C区　土層観察　位置

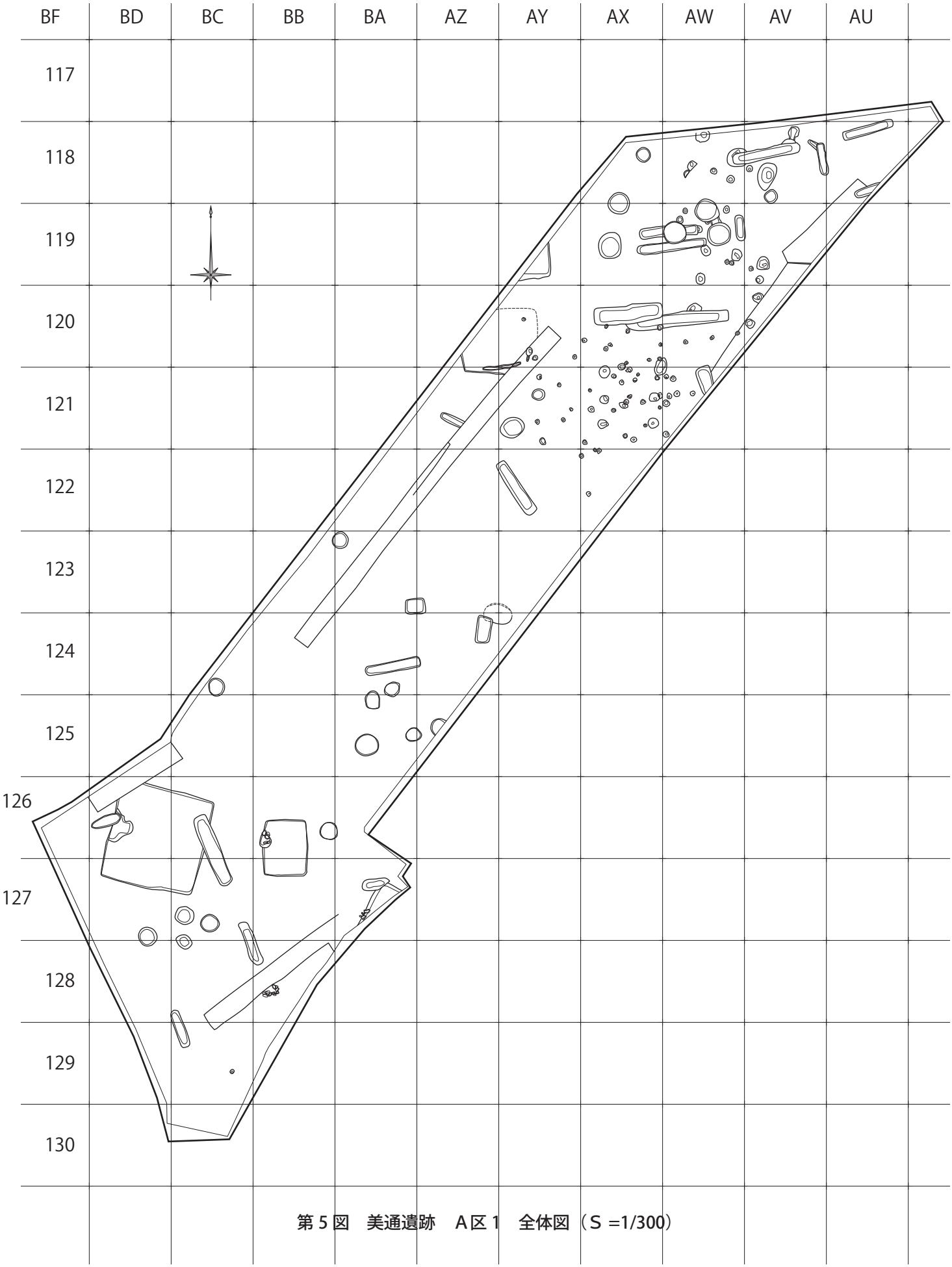




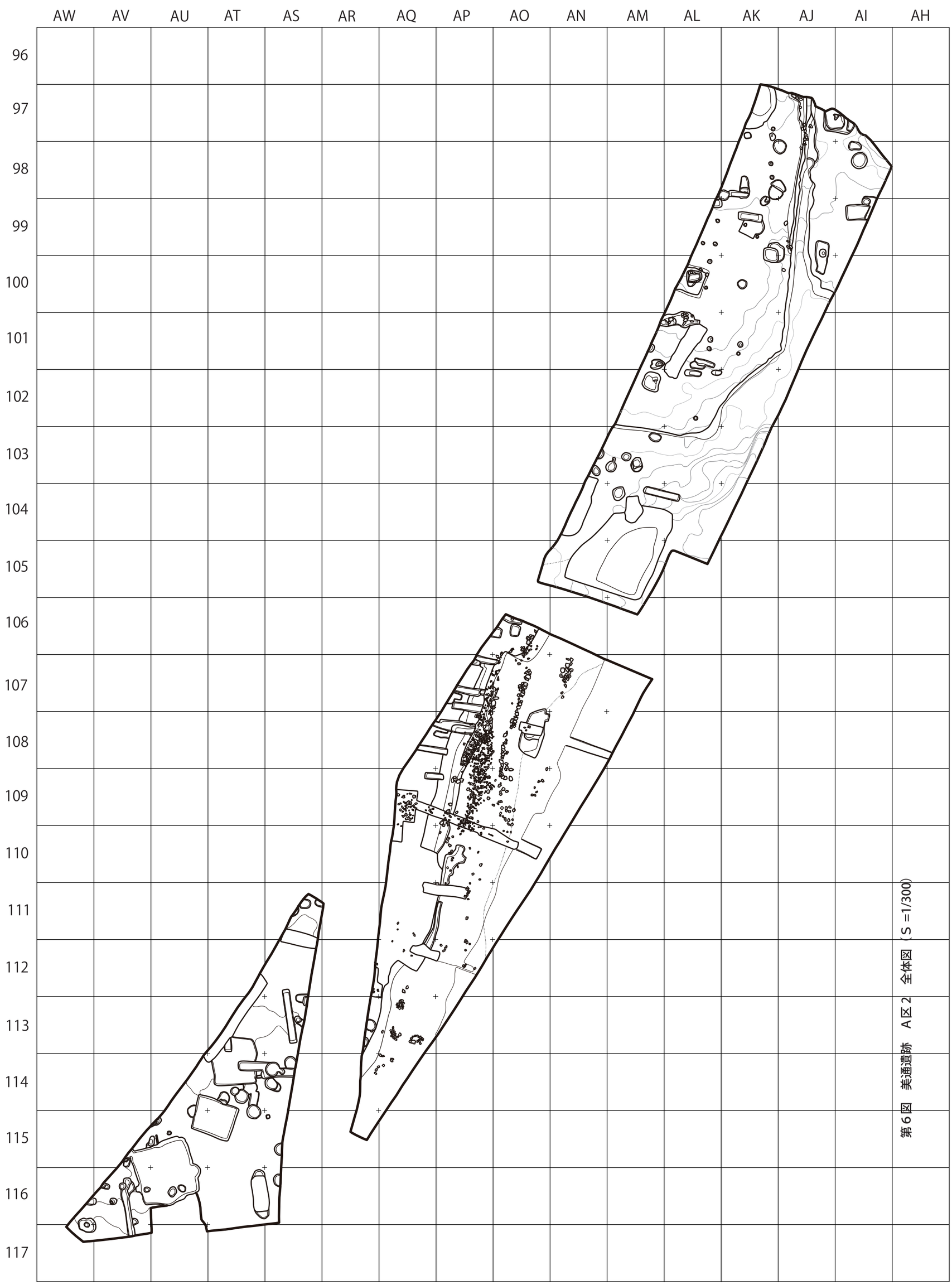
第３図　美通遺跡Ｃ区　土層断面図



第４図　美通遺跡　調査区位置図（S =1/3000）

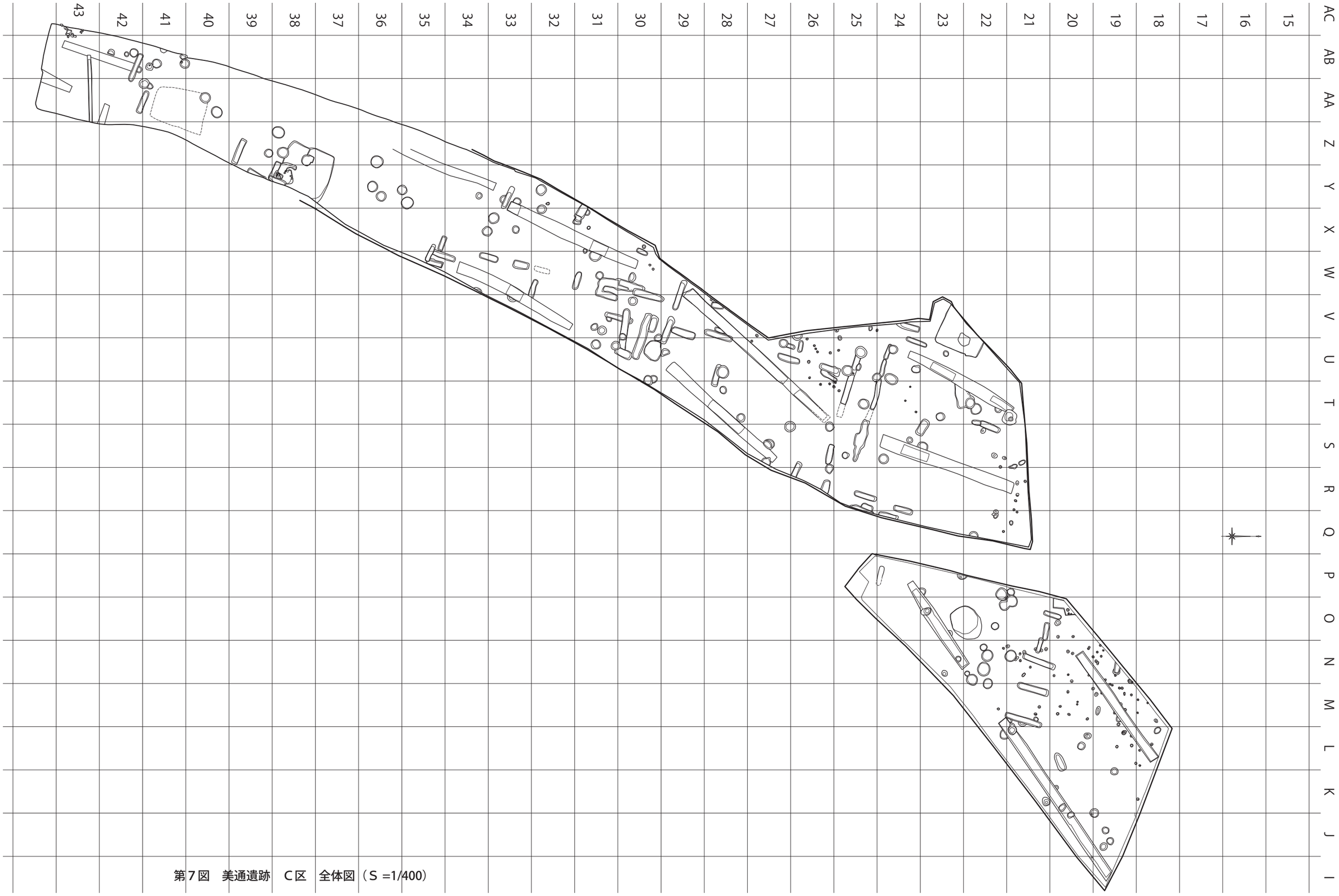


第 5 図　美通遺跡　A 区 1　全体図（S =1/300）

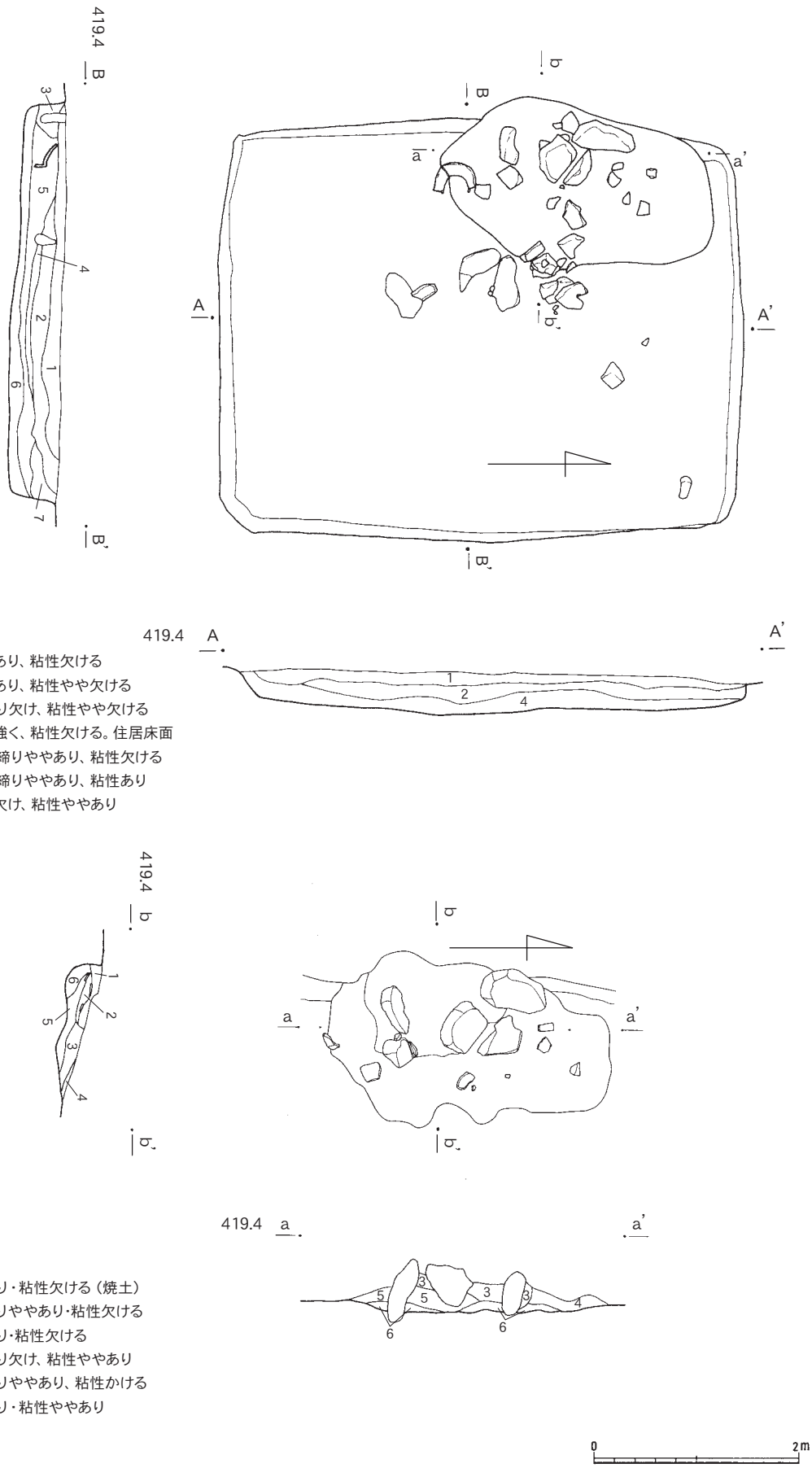


第６図　美通遺跡　Ａ区２　全体図（Ｓ＝1/300）

S=1:300



第７図　美通遺跡　Ｃ区　全体図（Ｓ =1/400）



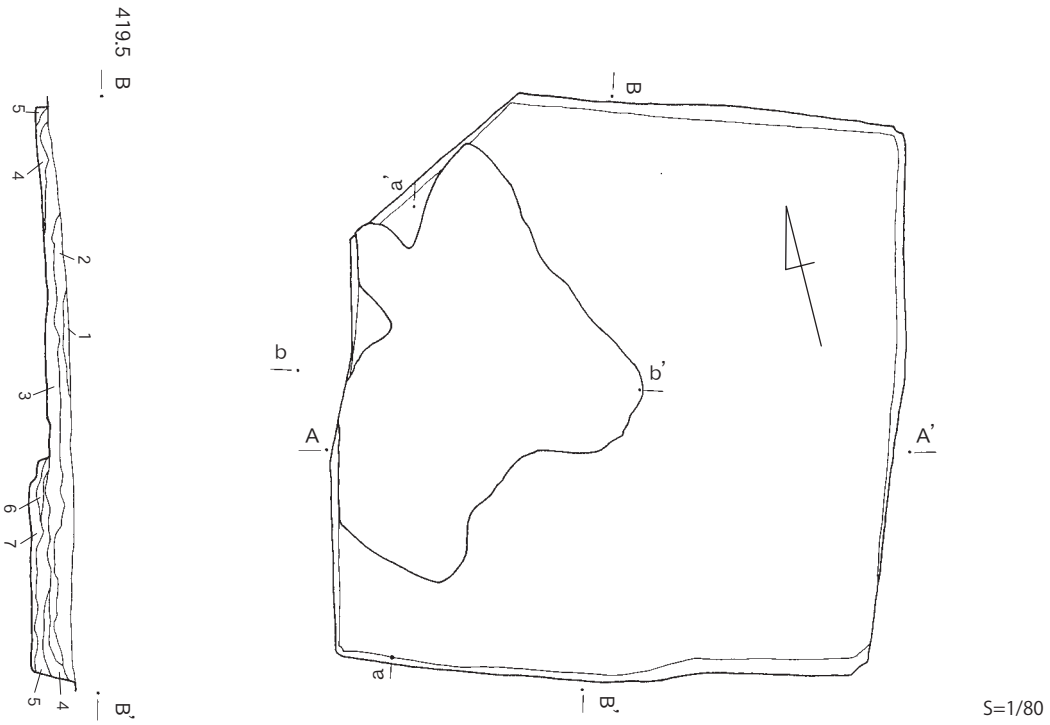
1住

1．黒色土　締りあり、粘性欠ける
2．黒色土　締りあり、粘性やや欠ける
3．黒褐色土　締り欠け、粘性やや欠ける
4．黒色土　締り強く、粘性欠ける。住居床面
5．極暗褐色土　締りややあり、粘性欠ける
6．極暗褐色土　締りややあり、粘性あり
7．黒色土　締り欠け、粘性ややあり

1住カマド

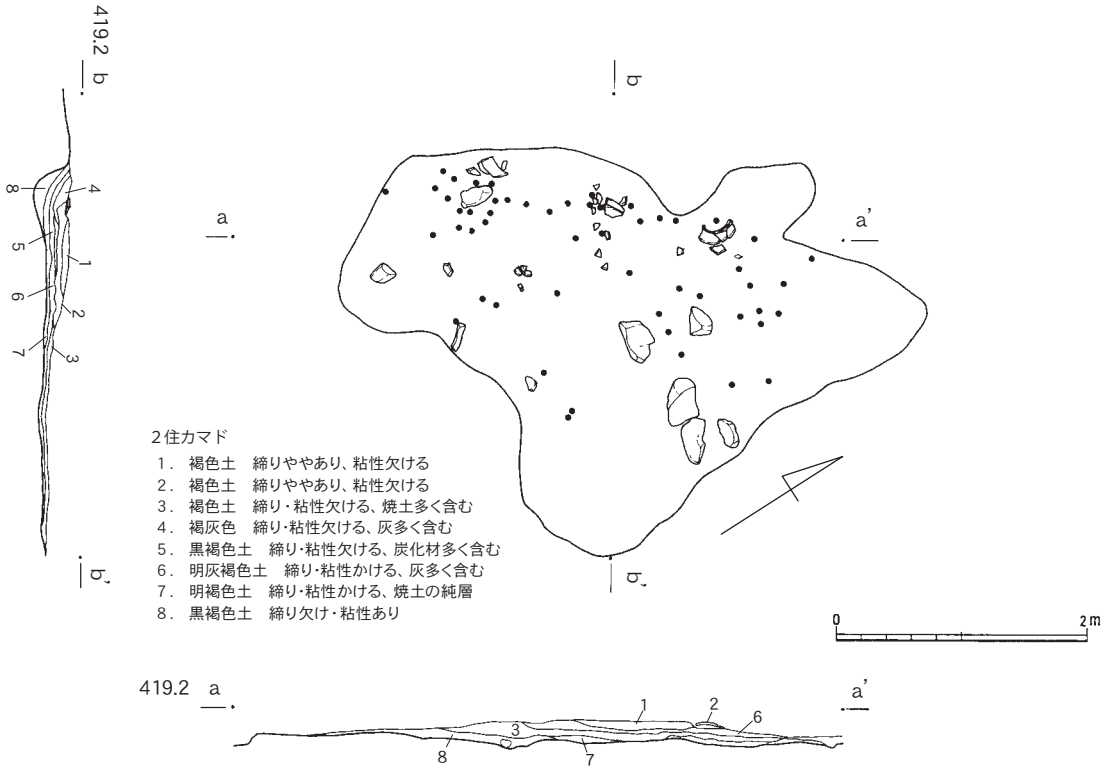
1．暗褐色土　締り・粘性欠ける（焼土）
2．灰褐色土　締りややあり・粘性欠ける
3．暗褐色土　締り・粘性欠ける
4．暗褐色土　締り欠け、粘性ややあり
5．暗褐色土　締りややあり、粘性かける
6．極暗褐色　締り・粘性ややあり

第８図　Ａ区１　遺構平面図及び断面図（１号住居跡）



2住

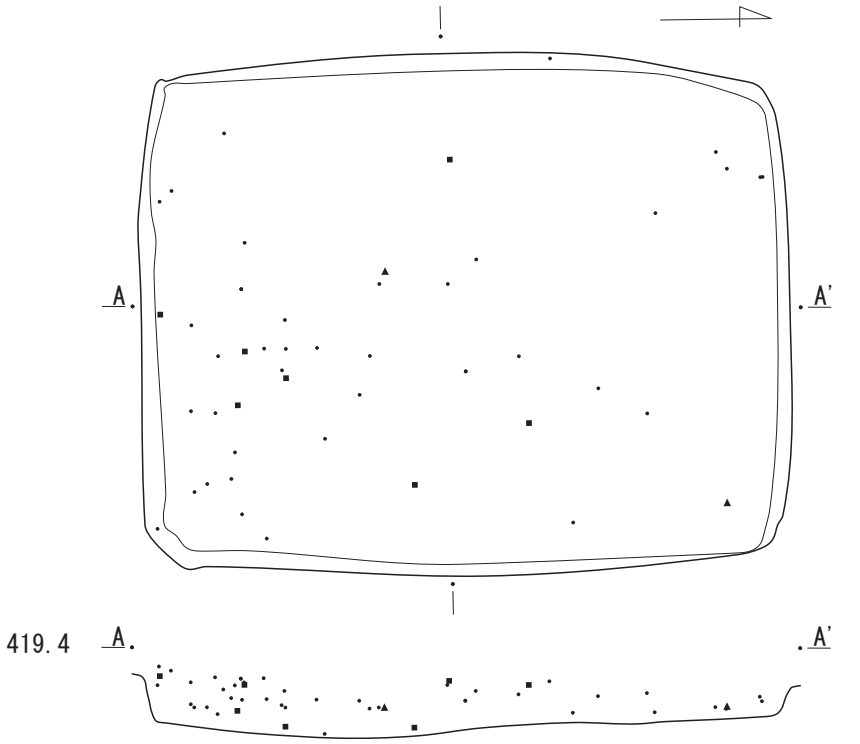
1．黒褐色土　締り欠け、粘性かける。炭含む。
2．黒褐色土　締り欠け、粘性かける。大きめの炭化物少し含む。
3．黒褐色土　締りややあり、粘性少しあり。灰を含む。
4．黒褐色土　締りややあり、粘性かける。
5．黒色土　締り欠け、粘性あり。4層より少し黒い。
6．黒褐色土　締り強い、粘性欠ける。炭・焼土入る。
7．黒褐色土　締りあり、粘性あり。炭少し入る。



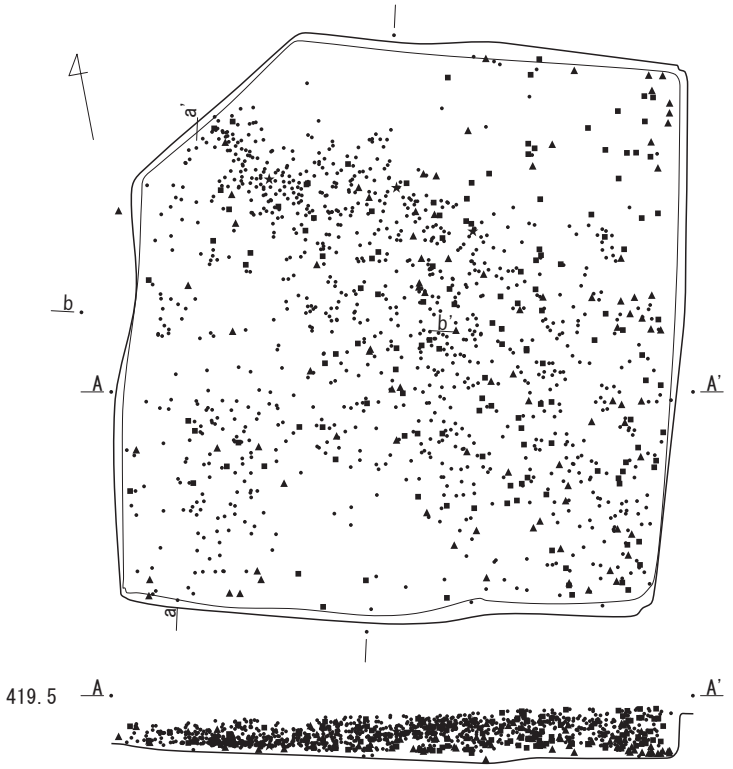
2住カマド

1．褐色土　締りややあり、粘性欠ける
2．褐色土　締りややあり、粘性欠ける
3．褐色土　締り・粘性欠ける、焼土多く含む
4．褐灰色　締り・粘性欠ける、灰多く含む
5．黒褐色土　締り・粘性欠ける、炭化材多く含む
6．明灰褐色土　締り・粘性かける、灰多く含む
7．明褐色土　締り・粘性かける、焼土の純層
8．黒褐色土　締り欠け・粘性あり

第９図　Ａ区１　遺構平面図及び断面図（２号住居跡）

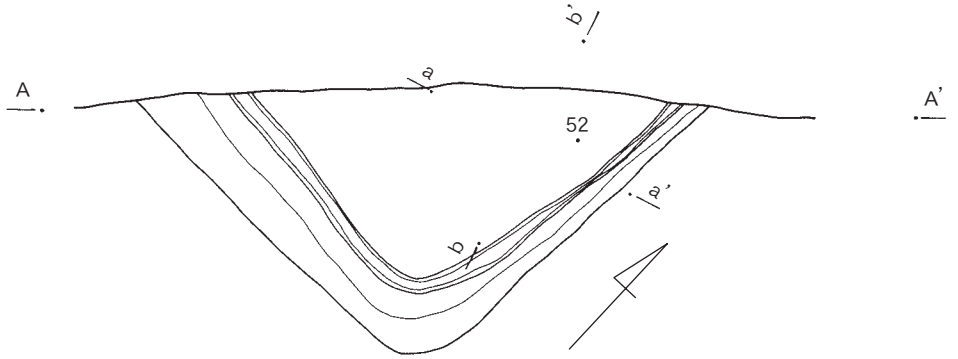


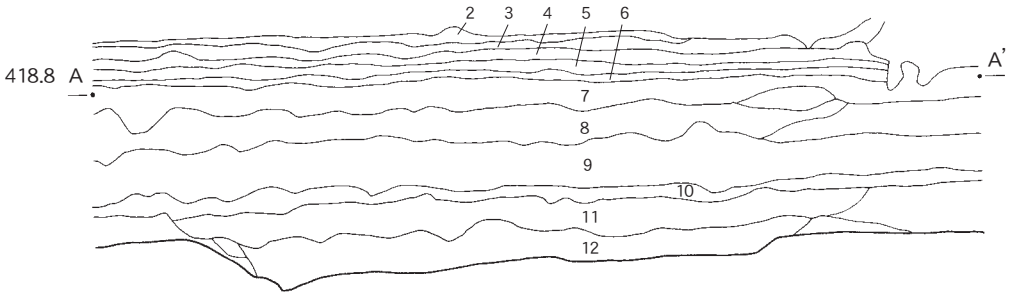
1住



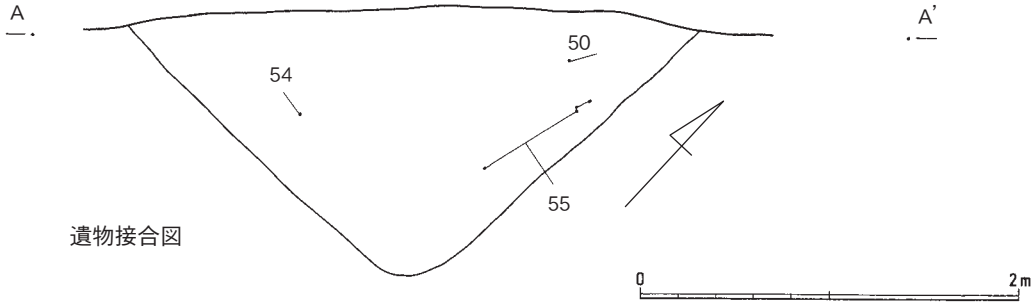
2住

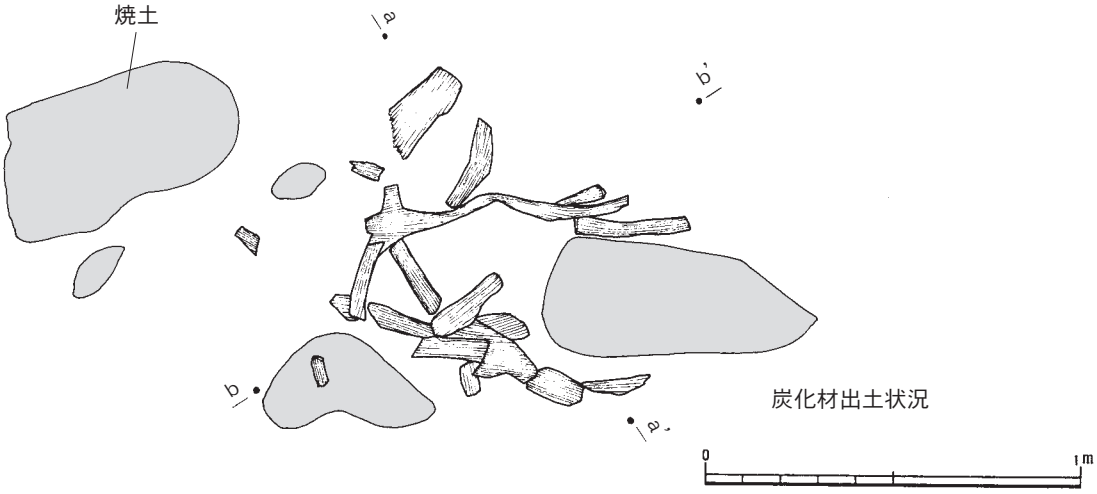
第 10 図　A 区 1　遺構平面図及び断面図（1・2 号住居跡遺物分布図）



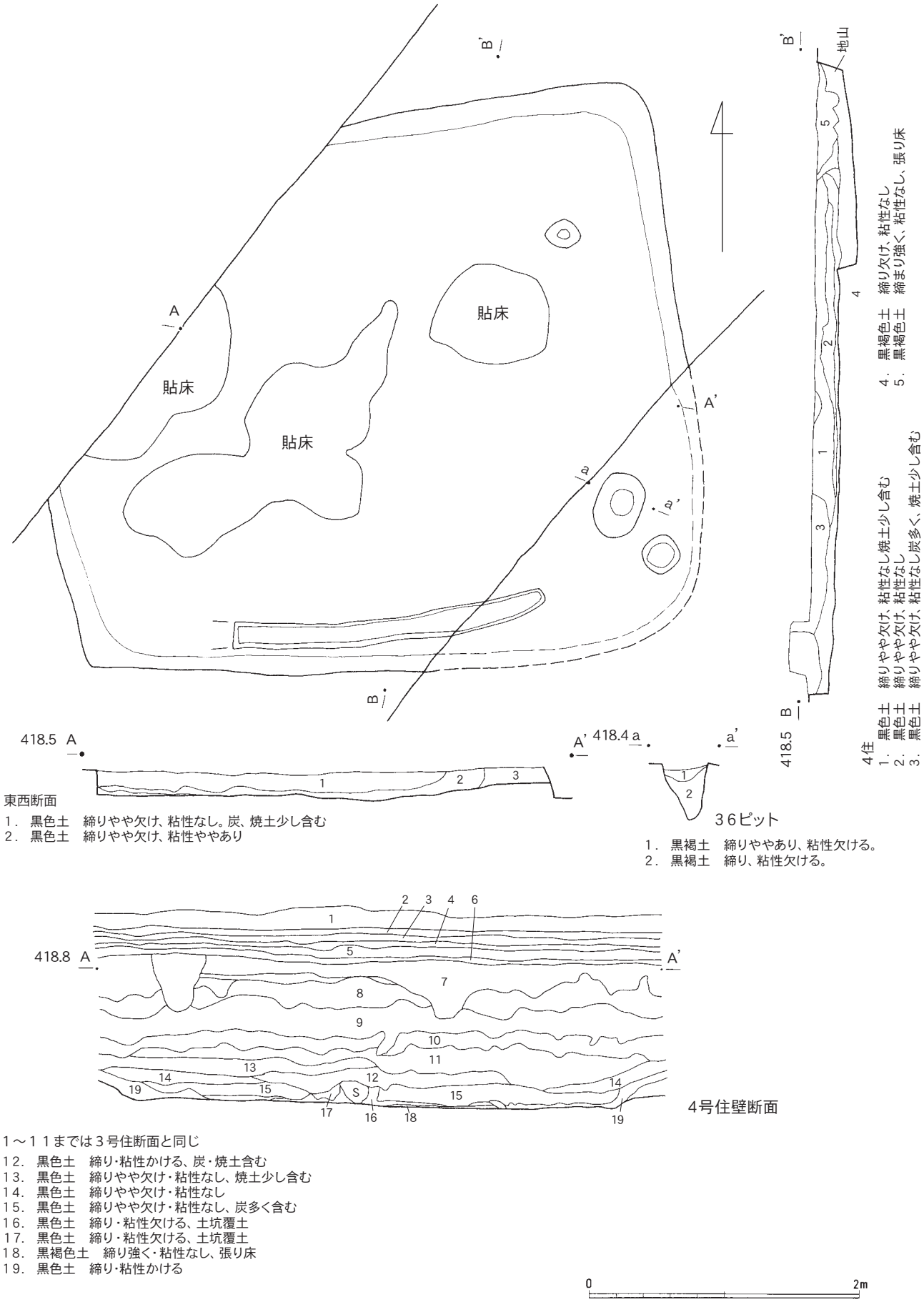


3住
1. 水田
2. 床土
3. 水田
4. 床土
5. 水田
6. 床土の影響が強い堅く締まった層、1～6層は調査区全体に共通する
7. 黒色土　締り欠け、粘性なし
8. 黒色土　締り欠け、粘性なし
9. 黒色土　締り欠け、粘性なし
10. 黒色土　締り欠け、粘性なし。奈良時代の文化層
11. 黒色土　締り欠け、粘性なし
12. 黒色土　炭と焼土を含む層、3住覆土

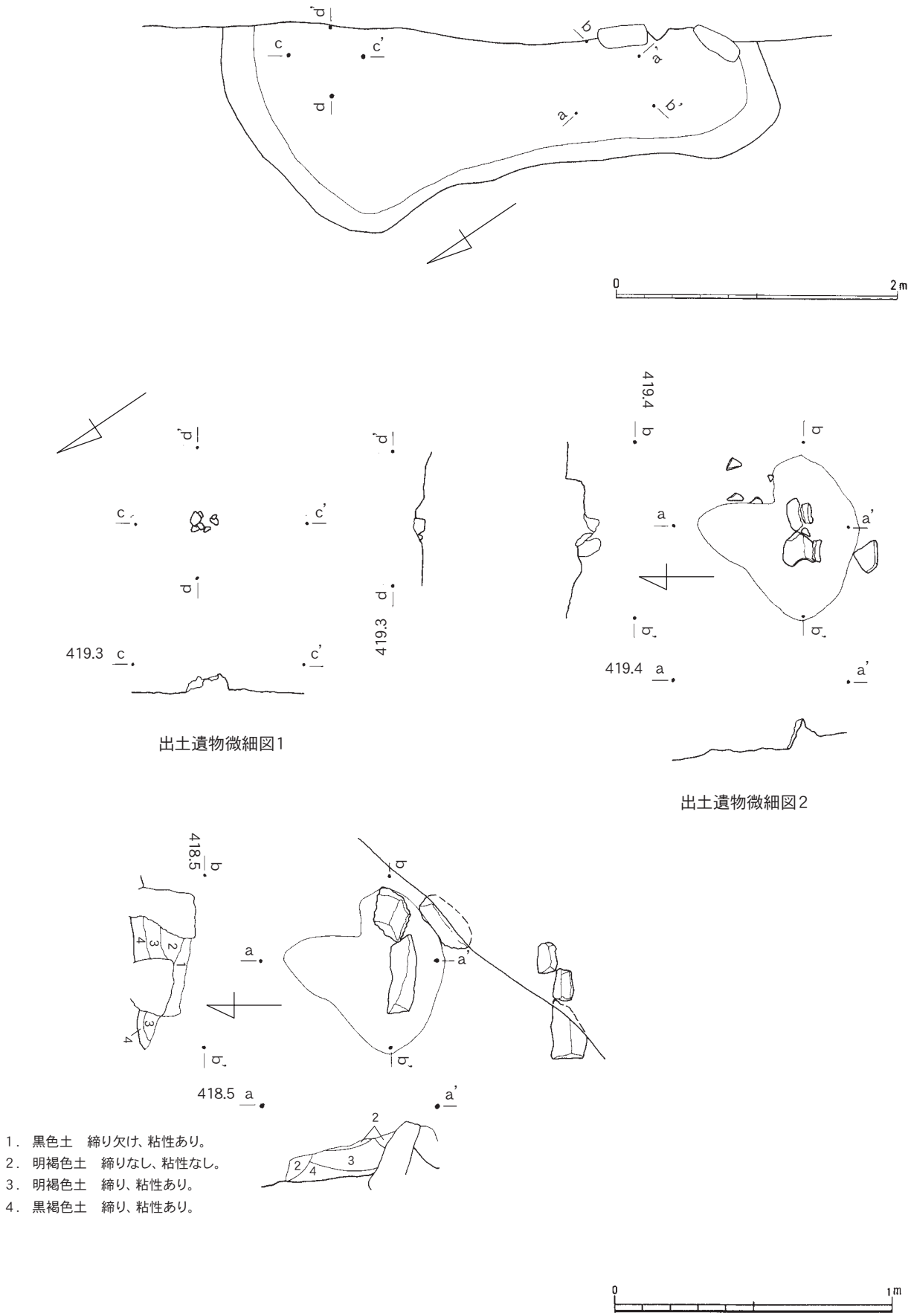




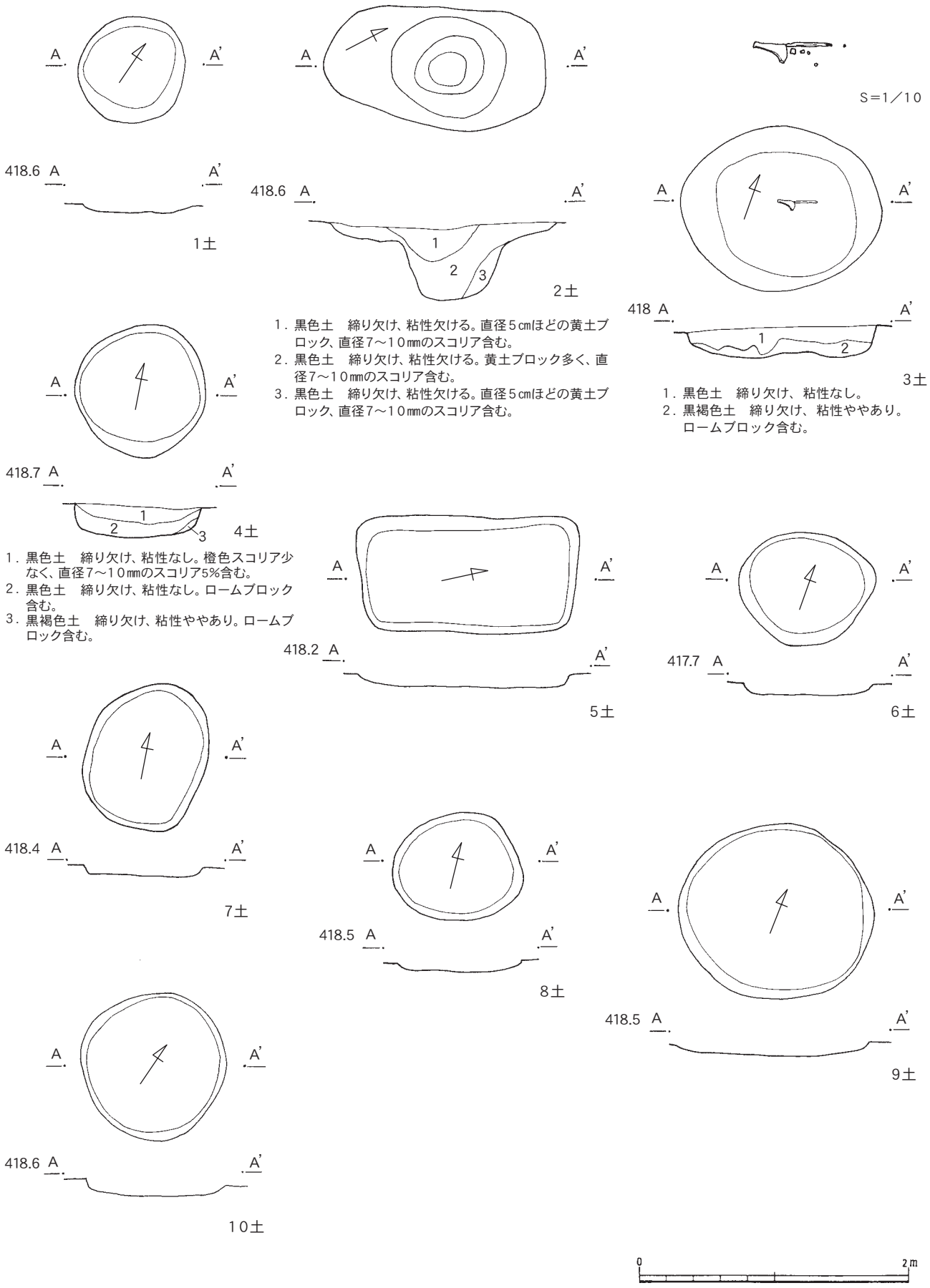
第 11 図　A 区 1　遺構平面図及び断面図（3 号住居跡）



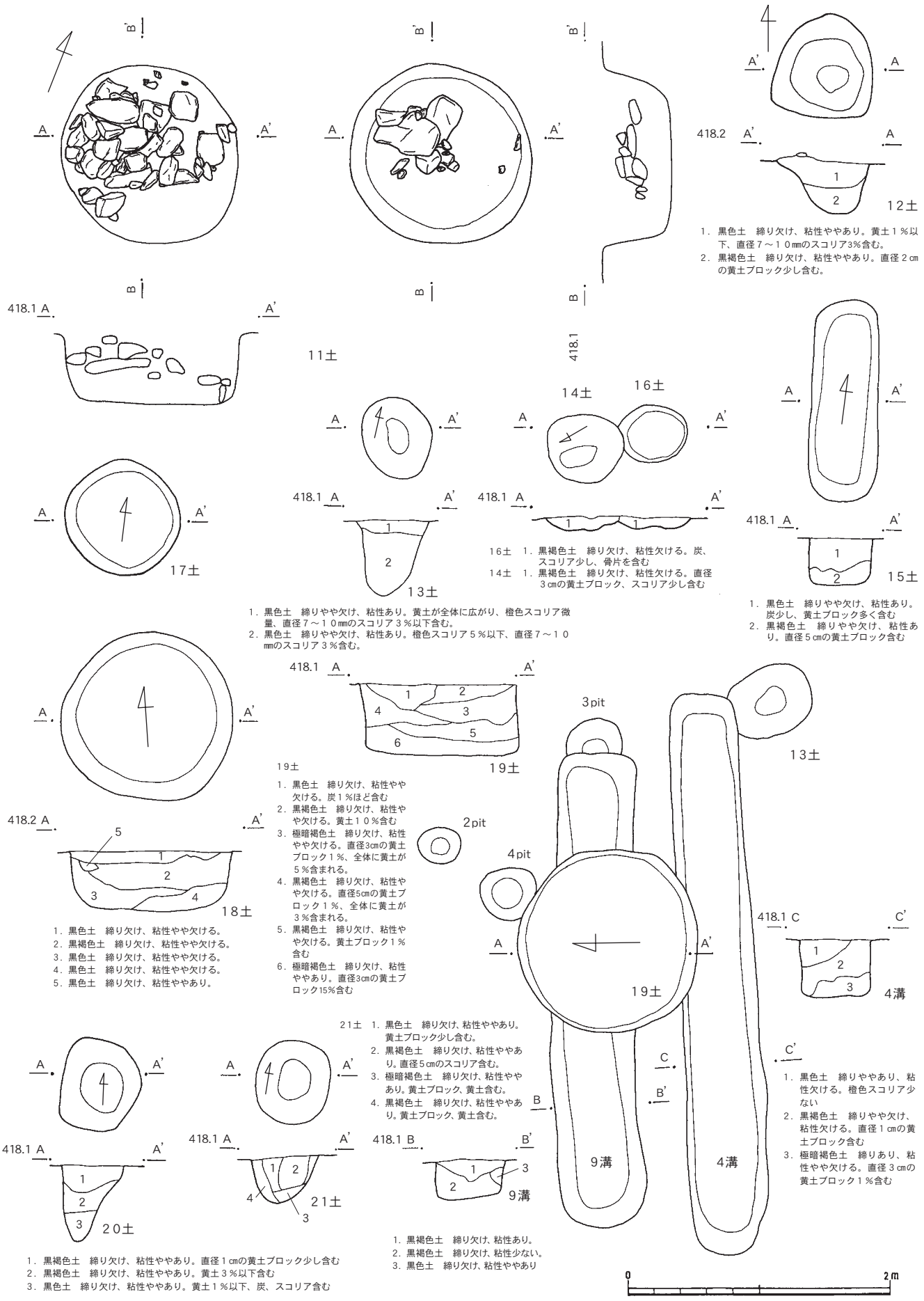
第 12 図　A 区 1　以降平面図及び断面図（4 号住居跡）



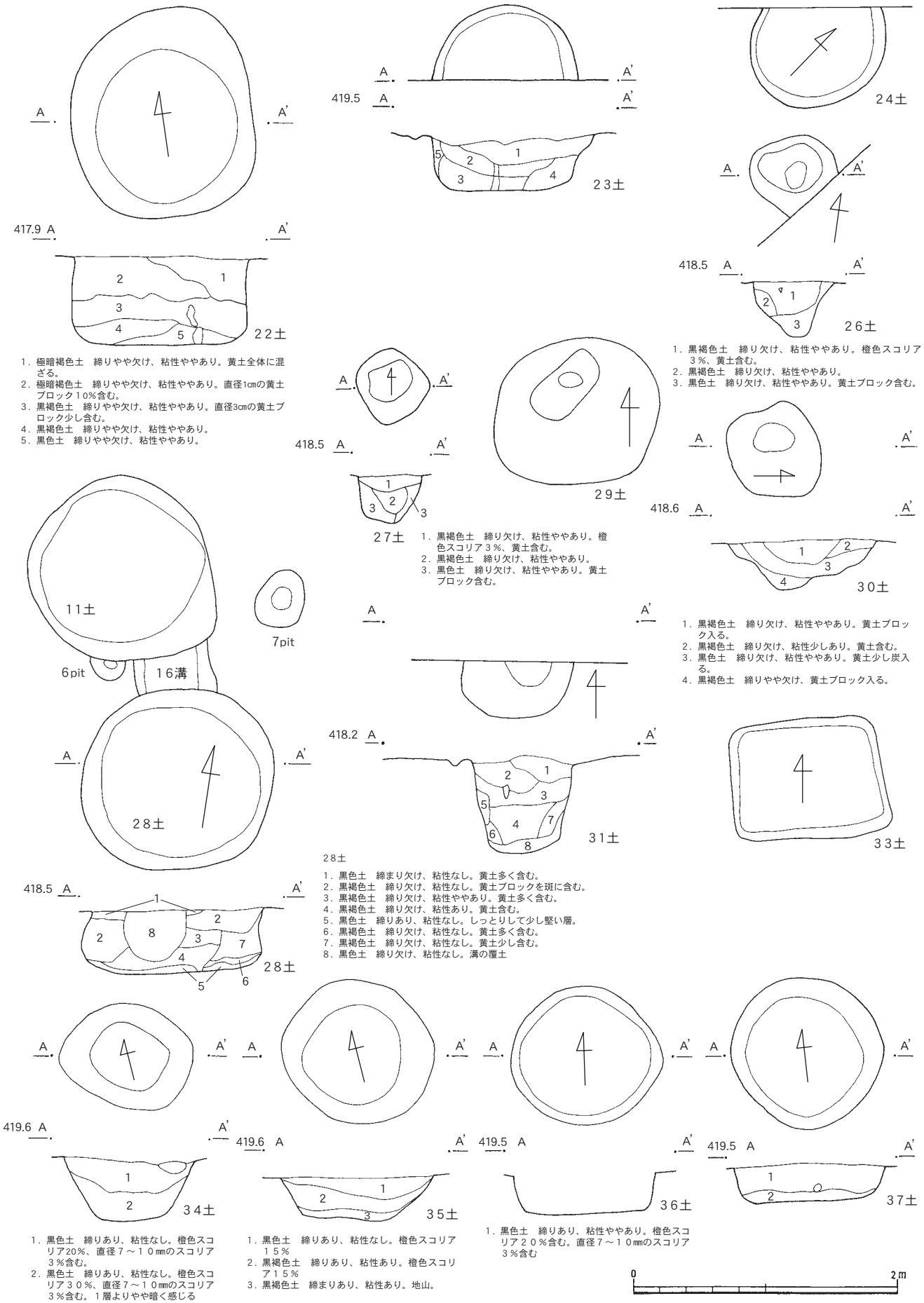
第 13 図　A 区 1　遺構平面図及び断面図（5 号住居跡）



第14図　A区1　遺構平面図及び断面図（1～10号土坑）



第 15 図　A区１　遺構平面図及び断面図（11 ～ 21 号土坑、4・9 号溝状遺構）



1．極暗褐色土　締りやや欠け、粘性ややあり。黄土全体に混ざる。
2．極暗褐色土　締りやや欠け、粘性ややあり。直径1cmの黄土ブロック10%含む。
3．黒褐色土　締りやや欠け、粘性ややあり。直径3cmの黄土ブロック少し含む。
4．黒褐色土　締りやや欠け、粘性ややあり。
5．黒色土　締りやや欠け、粘性ややあり。

1．黒褐色土　締り欠け、粘性ややあり。橙色スコリア３%、黄土含む。
2．黒褐色土　締り欠け、粘性ややあり。
3．黒色土　締り欠け、粘性ややあり。黄土ブロック含む。

1．黒褐色土　締り欠け、粘性ややあり。橙色スコリア３%、黄土含む。
2．黒褐色土　締り欠け、粘性ややあり。
3．黒色土　締り欠け、粘性ややあり。黄土ブロック含む。

1．黒褐色土　締り欠け、粘性ややあり。黄土ブロック入る。
2．黒褐色土　締り欠け、粘性少しあり。黄土含む。
3．黒色土　締り欠け、粘性ややあり。黄土少し炭入る。
4．黒褐色土　締りやや欠け、黄土ブロック入る。

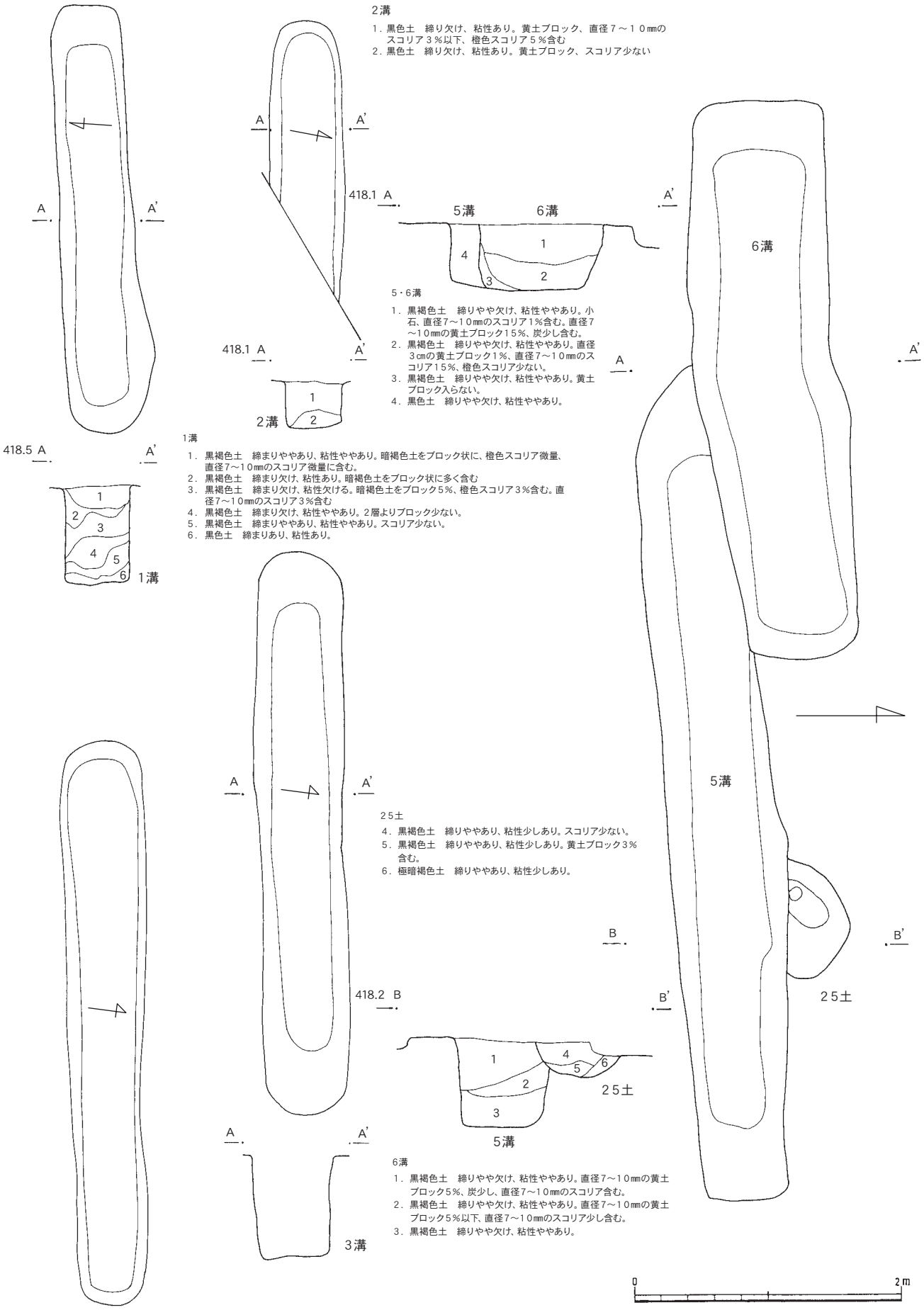
28土
1．黒色土　締まり欠け、粘性なし。黄土多く含む。
2．黒褐色土　締り欠け、粘性なし。黄土ブロックを斑に含む。
3．黒褐色土　締り欠け、粘性ややあり。黄土多く含む。
4．黒褐色土　締り欠け、粘性あり。黄土含む。
5．黒色土　締りあり、粘性なし。しっとりして少し堅い層。
6．黒褐色土　締り欠け、粘性なし。黄土多く含む。
7．黒褐色土　締り欠け、粘性なし。黄土少し含む。
8．黒色土　締り欠け、粘性なし。溝の覆土

1．黒色土　締りあり、粘性なし。橙色スコリア20%、直径７～１０㎜のスコリア３%含む。
2．黒色土　締りあり、粘性なし。橙色スコリア３０%、直径７～１０㎜のスコリア３%含む。１層よりやや暗く感じる

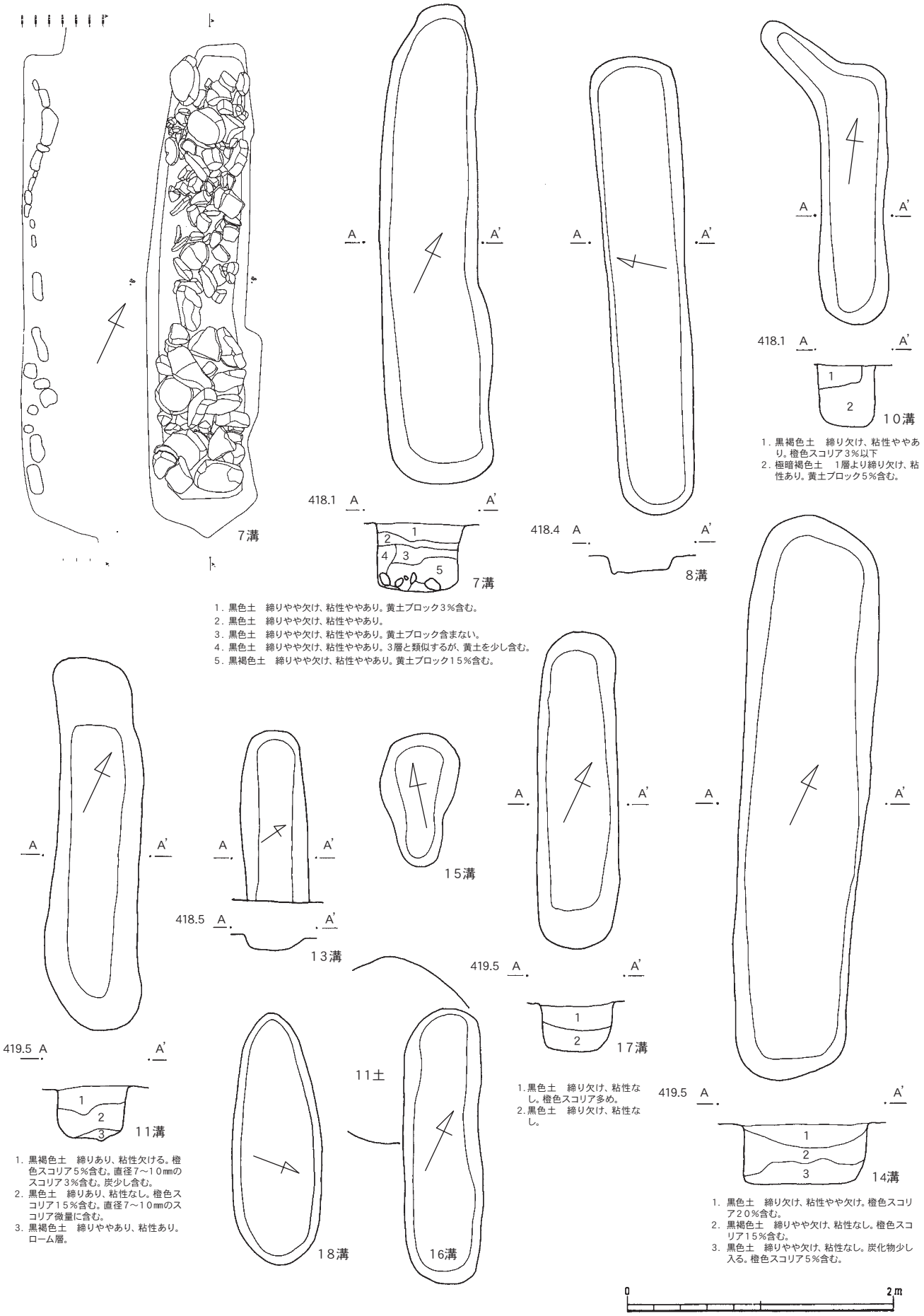
1．黒色土　締りあり、粘性なし。橙色スコリア１５%
2．黒褐色土　締りあり、粘性あり。橙色スコリア１５%
3．黒褐色土　締まりあり、粘性あり。地山。

1．黒色土　締りあり、粘性ややあり。橙色スコリア２０%含む。直径７～１０㎜のスコリア３%含む

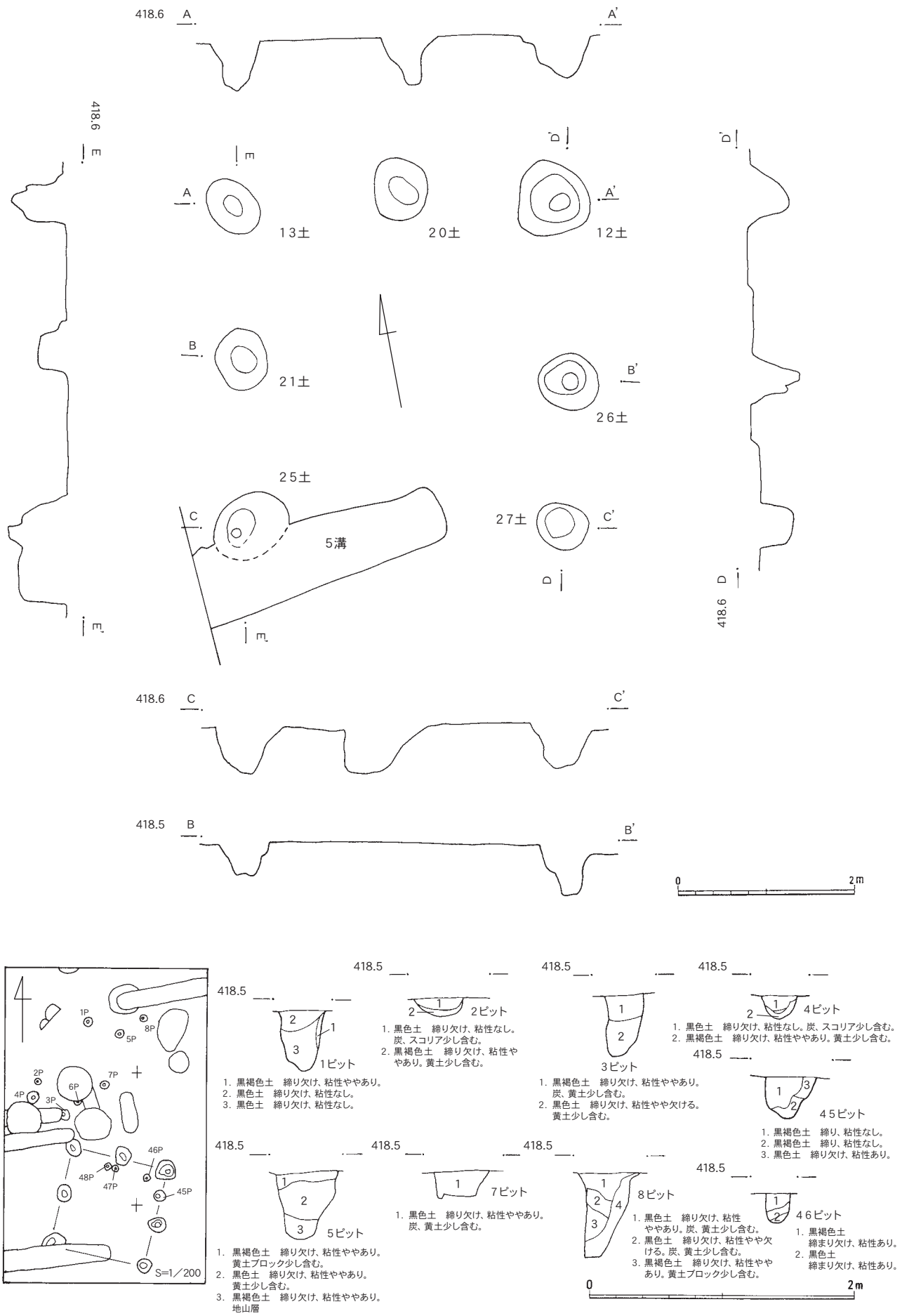
第 16 図　A 区 1　遺構平面図および断面図（22 号～ 37 号土坑）



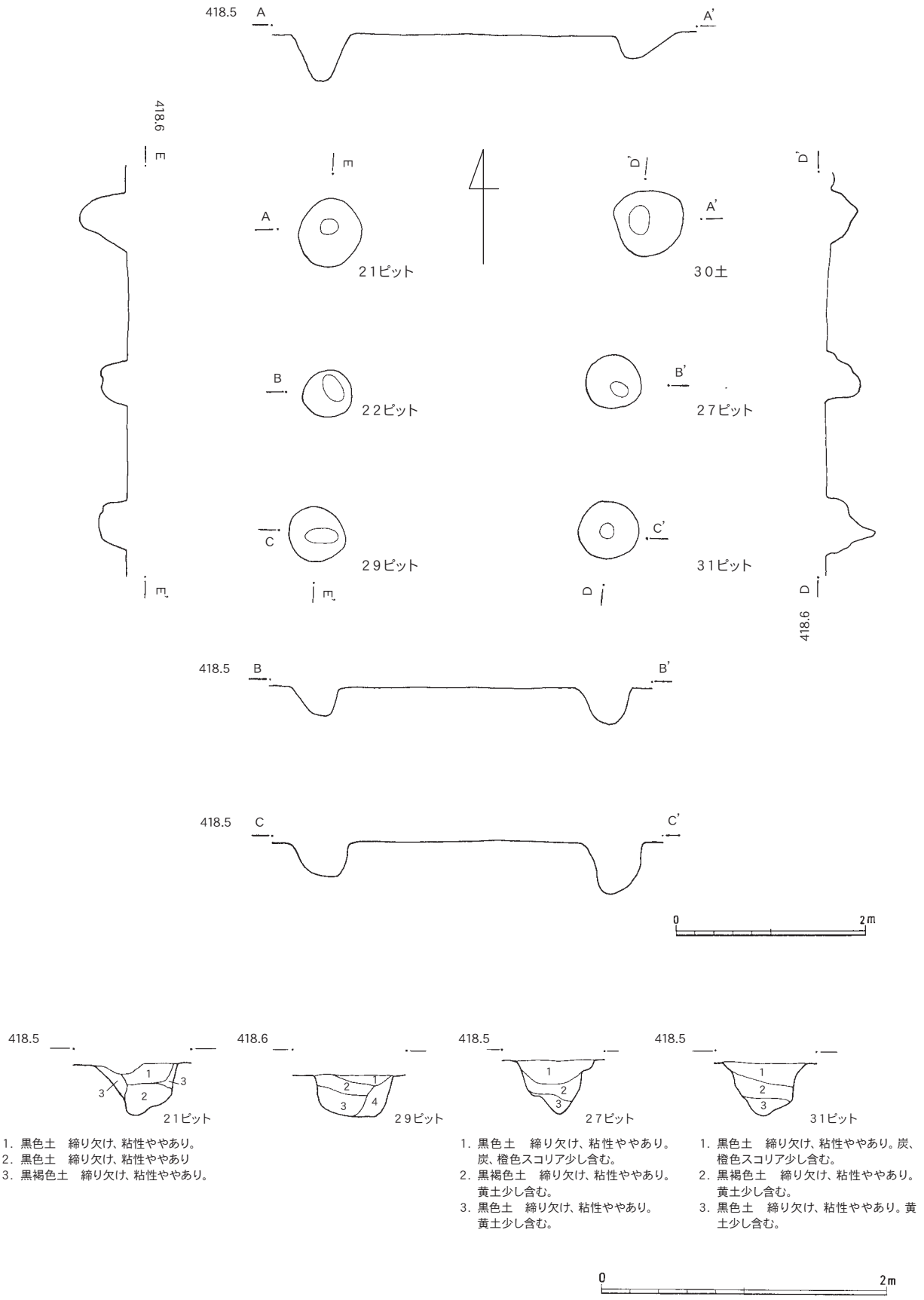
第 17 図　A 区 1　遺構平面図および断面図（1～3・5・6号溝状遺構、25号土坑）



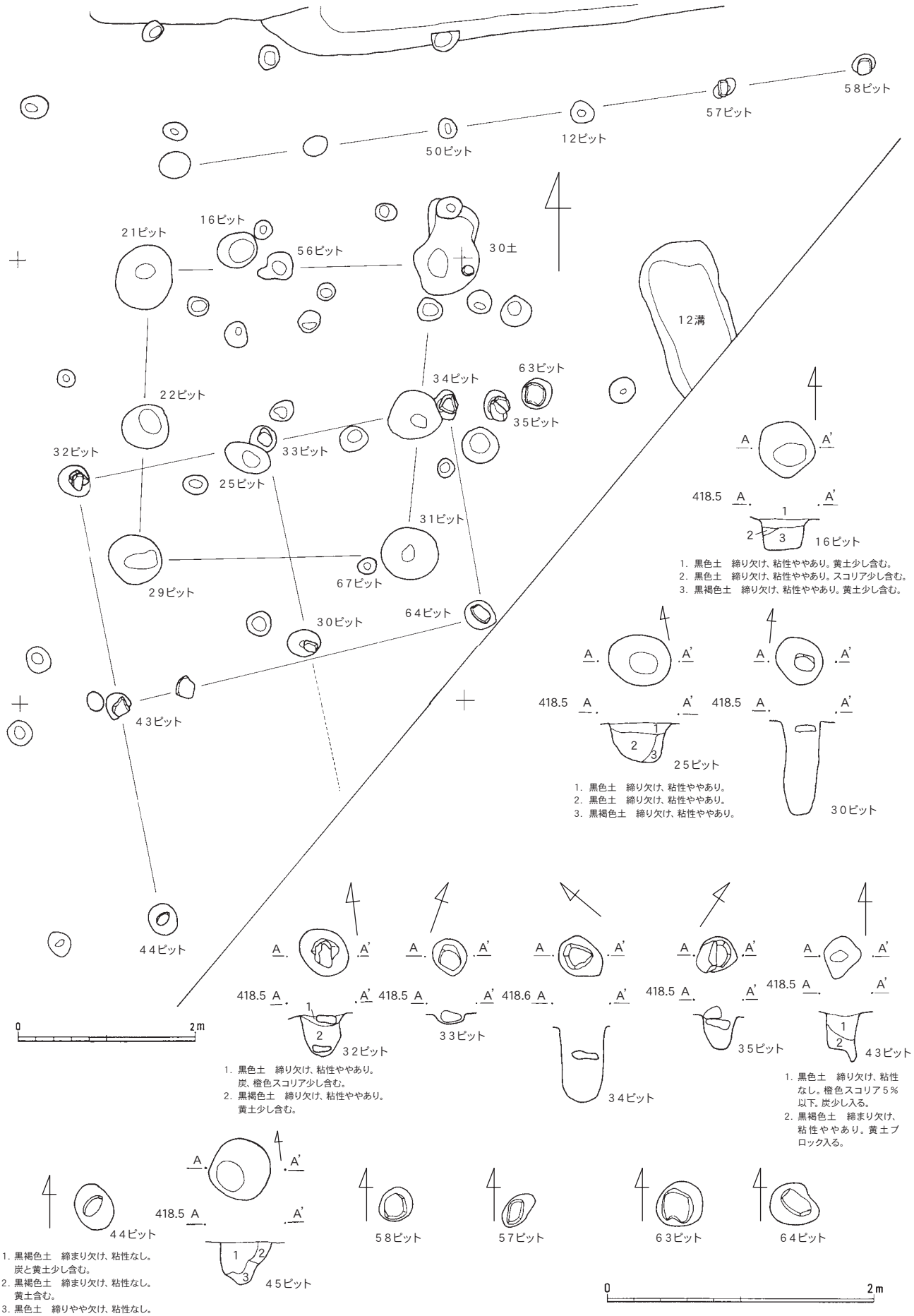
第18図　A区1　遺構平面図および断面図（7・8・10～18溝状遺構）



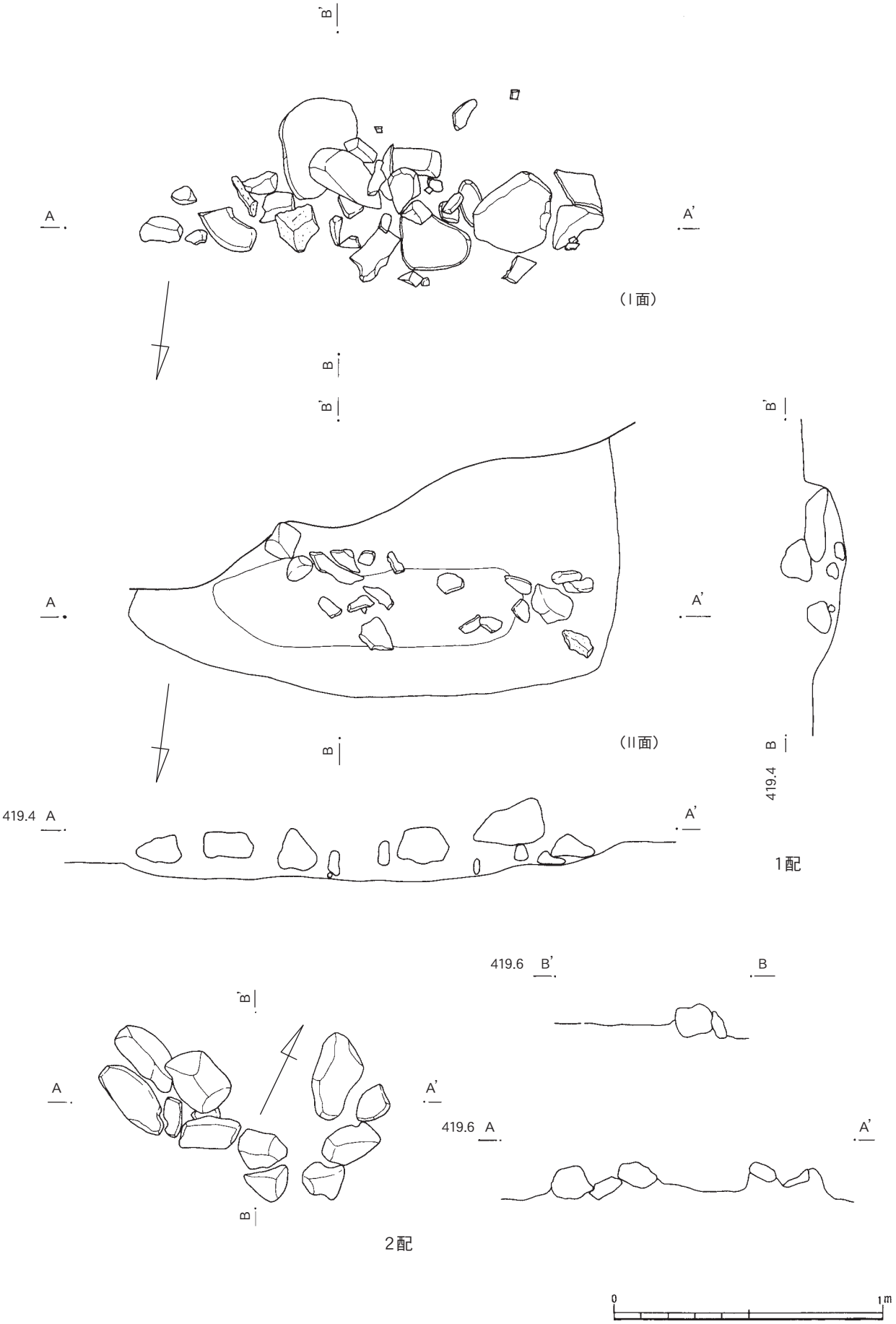
第 19 図　A 区 1　遺構平面図および断面図（1 号掘立柱建物跡とピット群）



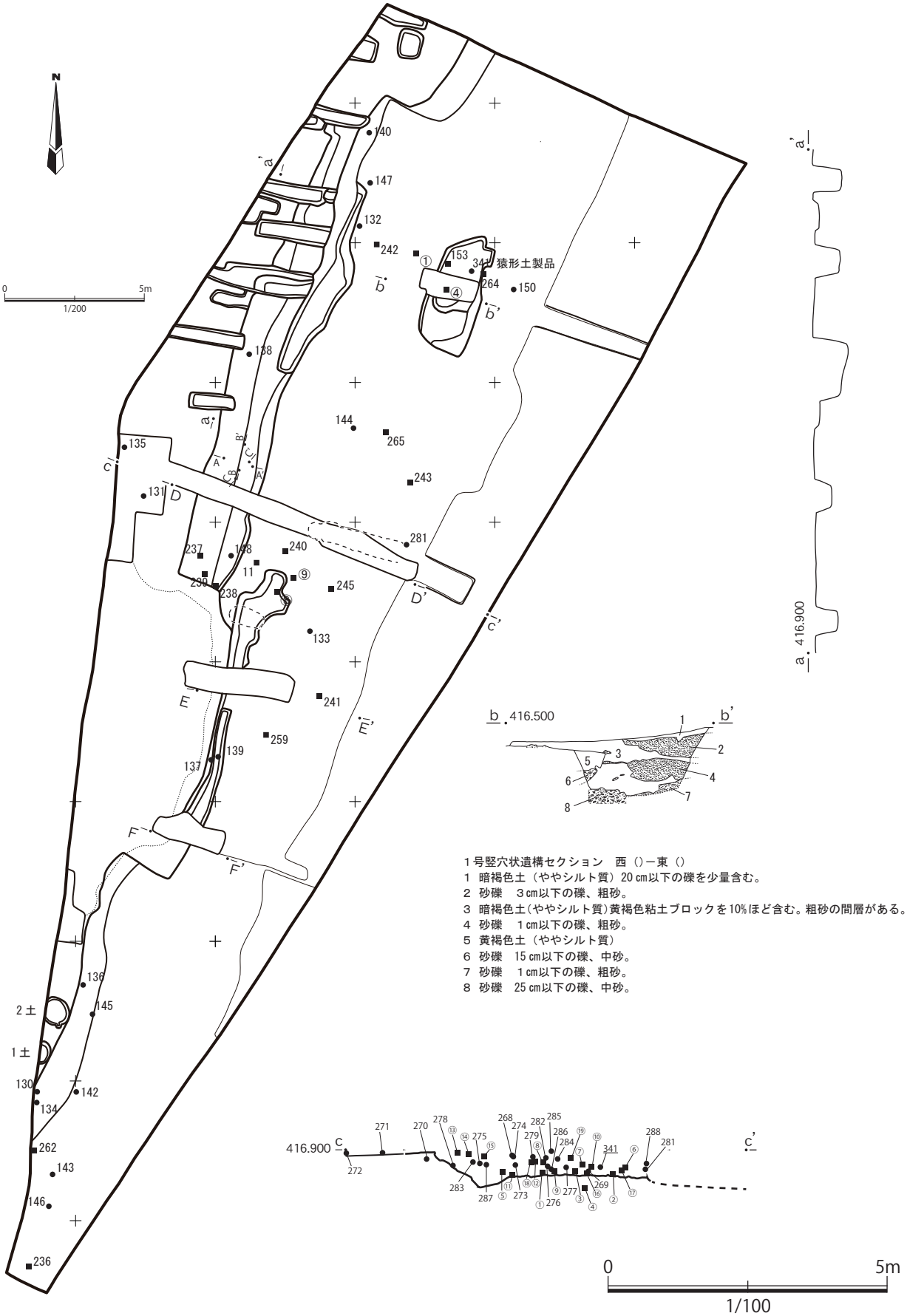
第 20 図　A 区 1　遺構平面図および断面図（2 号掘立柱建物跡）



第21図　A区1　遺構平面図および断面図（2・3号掘立柱建物跡と1号柱穴列）

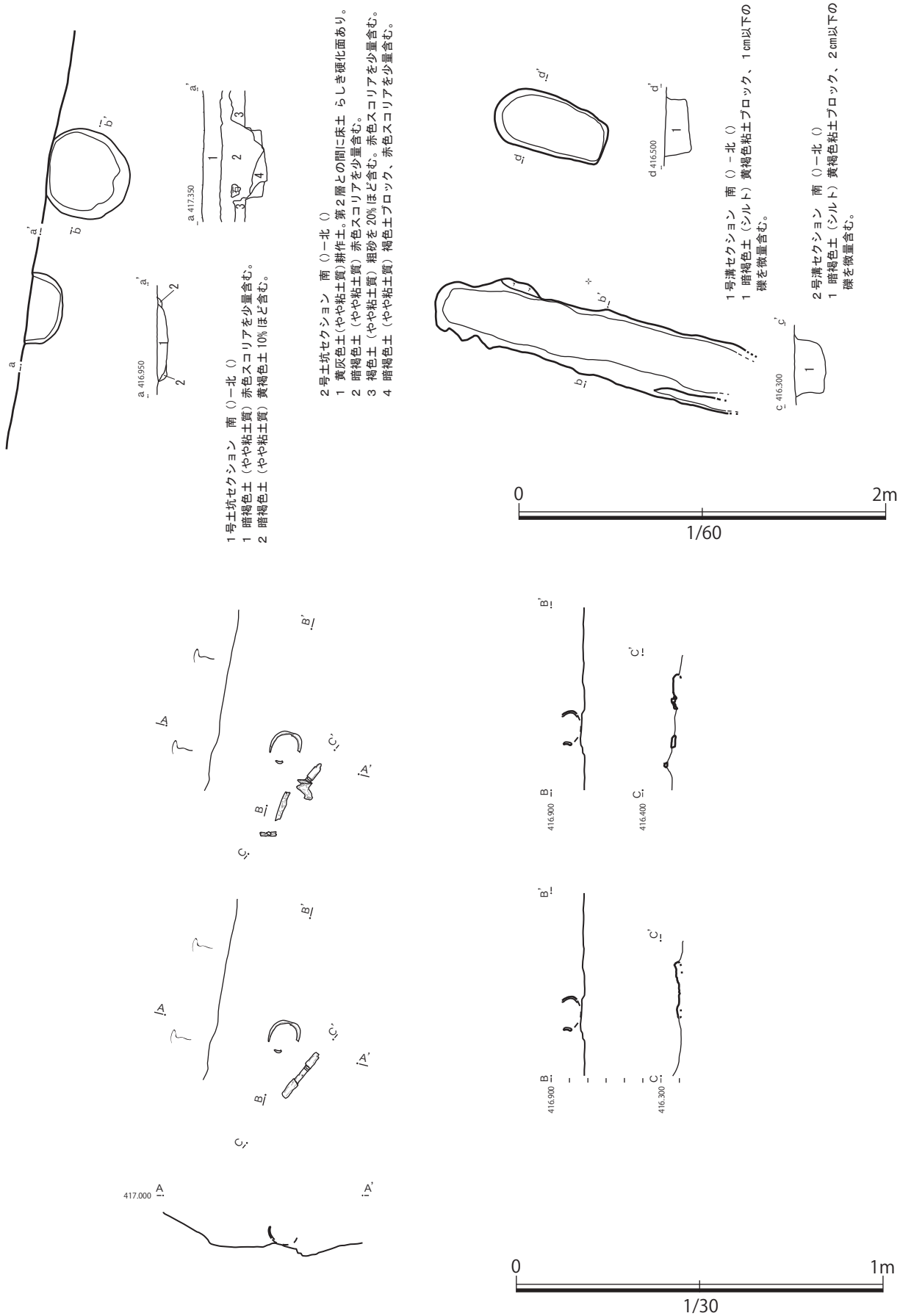


第 22 図　A 区 1　遺構平面図および断面図（1・2 号配石遺構）

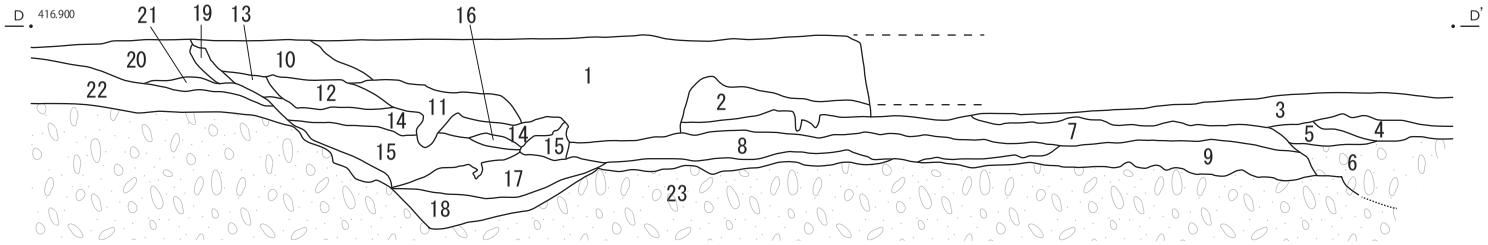


第 23 図　A 区 2-1　遺構平面図および断面図（全体図など）

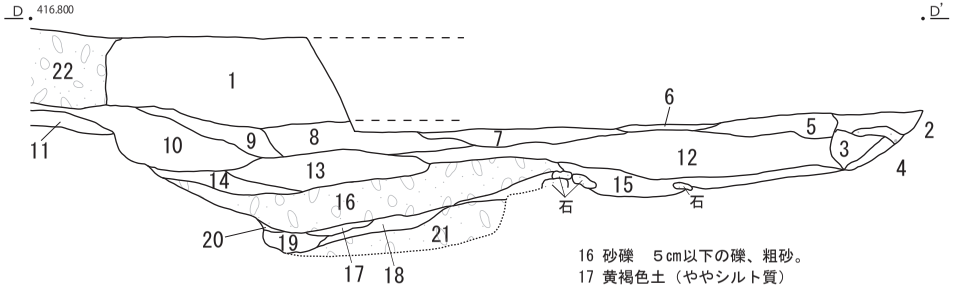
第 24 図　A 区 2-1　遺構平面図および断面図（礫検出状況）



第25図　A区2-1　遺構平面図および断面図（1・2号土坑、1・2号溝、人骨（短刀）検出状況）

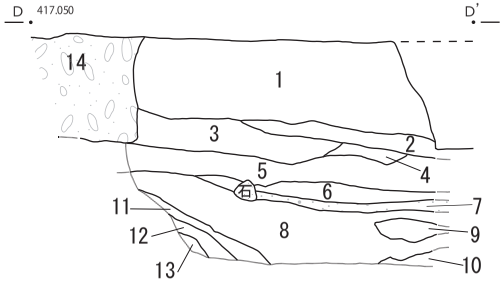


１号サブトレンチセクション　西（）ー東（）
1 暗褐色土（ややシルト質）５㎜以下の礫、赤色スコリアを少量含む。
2 暗褐色土（やや粘土質）黄褐色粘土ブロックを 10% ほど含む。
3 暗褐色土（シルト）５㎜以下の礫を少量含む。
4 暗褐色土（シルト）２cm以下の礫を 20% ほど含む。
5 黒褐色土（シルト）１cm以下の礫を少量含む。
6 砂礫　２cm以下の礫 80%、粗砂 20%。
7 暗黄褐色土（シルト）
8 暗褐色土（やや粘土質）４cm以下の礫を微量含む。
9 暗黄褐色土（やや粘土質）
10 暗褐色土（ややシルト質）５㎜以下の礫、赤色スコリア、褐色土ブロックを少量含む。
11 暗褐色土（やや粘土質）黄褐色粘土ブロックを 20% ほど含む。
12 黒褐色土（ややシルト質）５㎜以下の礫、赤色スコリアを 10% ほど含む。
13 黒褐色土（ややシルト質）褐色土ブロックを 20% ほど含む。５㎜以下の礫を少量含む。
14 暗褐色土（やや粘土質）５㎜以下の礫、赤色スコリアを微量含む。
15 黒褐色土（やや粘土質）黄褐色粘土ブロックを 10% ほど含む。
16 黒褐色土（やや粘土質）５㎜以下の礫、赤色スコリアを微量含む。
17 黄褐色土（シルト）
18 暗黄褐色土（砂質）粗砂を 30% ほど含む。
19 褐色土（ややシルト質）暗褐色土ブロックを 30% ほど含む。
20 褐色土（やや粘土質）
21 褐色土（やや粘土質）粗砂～中砂を 20% ほど含む。
22 暗褐色土（やや粘土質）赤色スコリアを少量含む。
23 砂礫　20 cm以下の礫、粗砂。



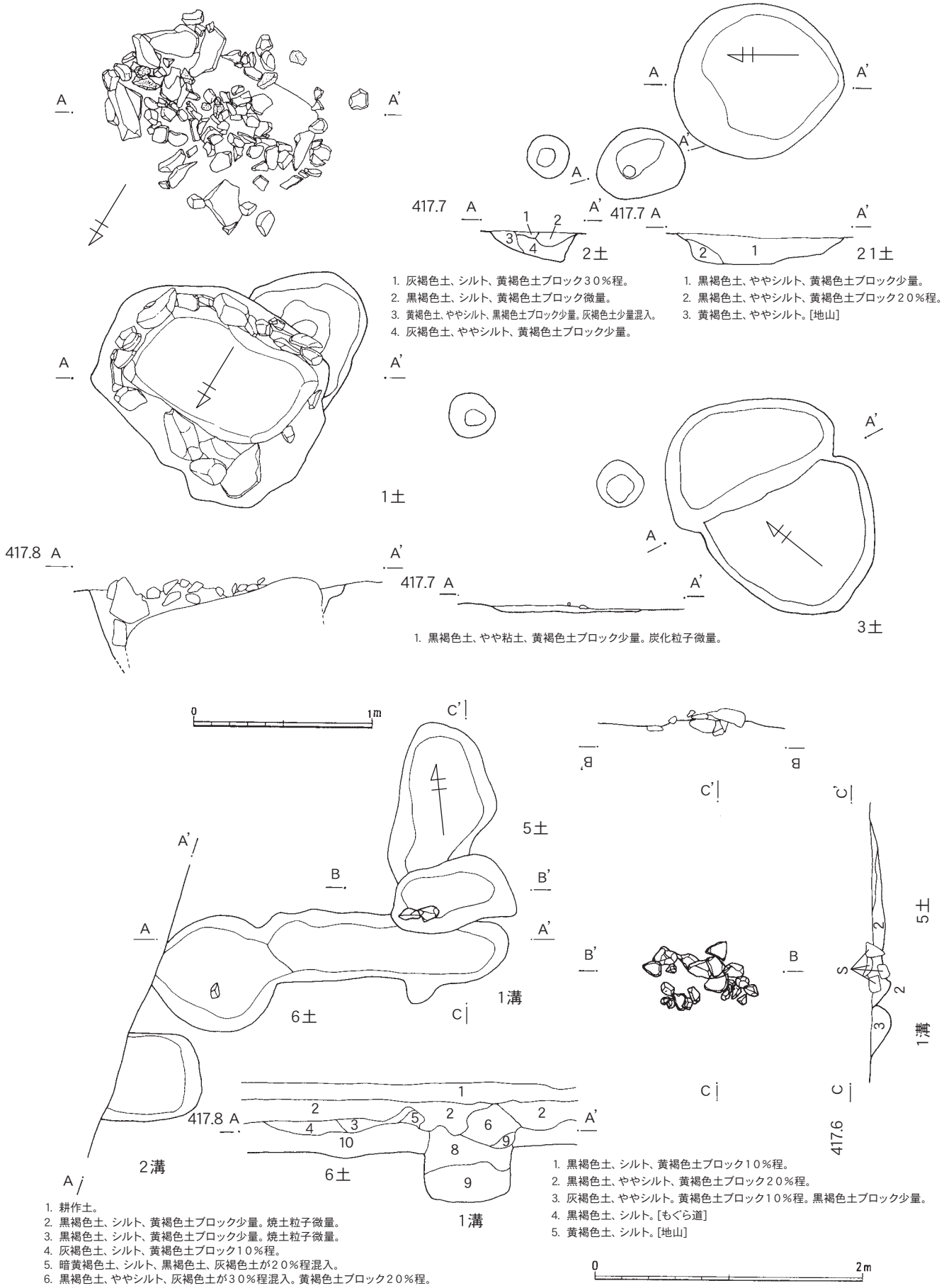
16 砂礫　５cm以下の礫、粗砂。
17 黄褐色土（ややシルト質）
18 黄褐色土（ややシルト質）
19 黒褐色土（やや粘土質）黄褐色土を 10% ほど含む。
20 黒褐色土（ややシルト質）
21 砂礫　10 cm以下の礫、粗砂。
22　砂礫　15 cm以下の礫、粗砂。

２号サブトレンチセクション　西（）ー東（）
1 黒褐色土（やや粘土質）炭化粒子を少量含む。
2 黄褐色土（ややシルト質）赤色スコリアを少量含む。下層に２㎜以下の砂礫が堆積している。
3 黄褐色土（ややシルト質）黒褐色土ブロックを 20% ほど含む。
4 黄褐色土（ややシルト質）赤色スコリアを少量含む。
5 黄褐色土（ややシルト質）黒褐色土、赤色スコリアを少量含む。
6 黄褐色土（ややシルト質）赤色スコリアを少量含む。
7 黄褐色土（ややシルト質）黒褐色土ブロックを 20% ほど含む。
8 黒褐色土（やや粘土質）炭化粒子を少量含む。
9 黒褐色土（やや粘土質）炭化粒子を微量含む。
10 黒褐色土（やや粘土質）黄褐色土ブロックを 20% ほど含む。
11 黄褐色土（シルト）
12 黄褐色土（ややシルト質）赤色スコリアを少量含む。
13 黒褐色土（やや粘土質）炭化粒子を少量含む。
14 黄褐色土（やや粘土質）
15 黄褐色土（ややシルト質）赤色スコリアを少量含む。



３号サブトレンチセクション　西（）ー東（）
1 暗褐色土（やや粘土質）１cm以下の礫、黄褐色土ブロックを少量含む。
2 黄褐色土（やや砂質）暗褐色土ブロックを少量含む。
3 暗褐色土（やや粘土質）黄褐色土ブロックを 20% ほど含む。
4 黄褐色土（砂質）暗褐色土を 30% ほど含む。
5 暗褐色土（ややシルト質）炭化粒子、赤色スコリアを微量含む。
6 黄褐色土（ややシルト質）
7 砂礫　３cm以下の礫、粗砂。
8 黒褐色土（粘土）黄褐色粘土ブロックを少量含む。
9 黄褐色土（砂質）黒褐色土ブロックを 10% ほど含む。
10 黄褐色砂　中砂。
11 黄褐色土（粘土）黒褐色粘土ブロックを 10% ほど含む。
12 黒褐色土（粘土）黄褐色粘土ブロックを 20% ほど含む。
13 黄褐色土（粘土）黒褐色粘土ブロックを少量含む。
14 砂礫　15 cm以下の礫、粗砂。

第26図　A区2-1　遺構平面図および断面図（サブトレンチセクション）



1. 灰褐色土、シルト、黄褐色土ブロック30%程。
2. 黒褐色土、シルト、黄褐色土ブロック微量。
3. 黄褐色土、ややシルト、黒褐色土ブロック少量。灰褐色土少量混入。
4. 灰褐色土、ややシルト、黄褐色土ブロック少量。

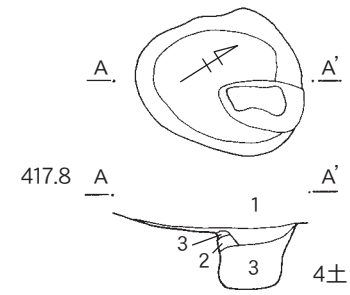
1. 黒褐色土、ややシルト、黄褐色土ブロック少量。
2. 黒褐色土、ややシルト、黄褐色土ブロック20%程。
3. 黄褐色土、ややシルト。[地山]

1. 黒褐色土、やや粘土、黄褐色土ブロック少量。炭化粒子微量。

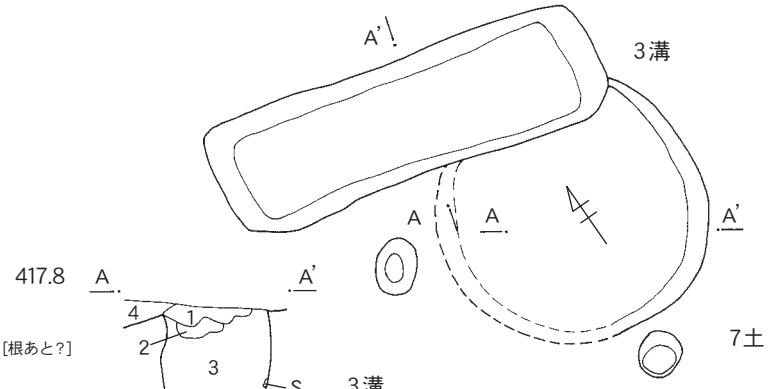
1. 耕作土。
2. 黒褐色土、シルト、黄褐色土ブロック少量。焼土粒子微量。
3. 黒褐色土、シルト、黄褐色土ブロック少量。焼土粒子微量。
4. 灰褐色土、シルト、黄褐色土ブロック10%程。
5. 暗黄褐色土、シルト、黒褐色土、灰褐色土が20%程混入。
6. 黒褐色土、ややシルト、灰褐色土が30%程混入。黄褐色土ブロック20%程。
7. 黒褐色土、シルト、灰褐色土が30%程混入。
8. 黒褐色土、ややシルト、黄褐色土ブロック10%程。
9. 黒褐色土、ややシルト、灰褐色土が20%程混入。黄褐色土ブロック20%。
10. 黄褐色土、シルト。[地山]

1. 黒褐色土、シルト、黄褐色土ブロック10%程。
2. 黒褐色土、ややシルト、黄褐色土ブロック20%程。
3. 灰褐色土、ややシルト。黄褐色土ブロック10%程。黒褐色土ブロック少量。
4. 黒褐色土、シルト。[もぐら道]
5. 黄褐色土、シルト。[地山]

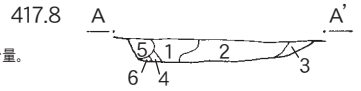
第 27 図　A 区 2-2　遺構平面図および断面図（1～3・5・6・21号土坑、1・2号溝状遺構）



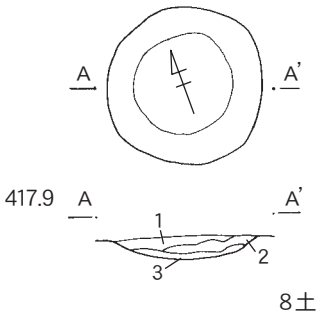
1. 灰褐色土、やや粘土、黄褐色土・黒褐色土ブロック少量。
2. 灰褐色土、やや粘土、黄褐色土・黒褐色土ブロック微量。[根あと?]
3. 黄褐色土、ややシルト。[地山]



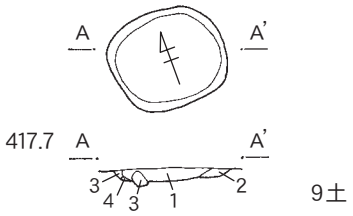
1. 灰褐色土、ややシルト、黄褐色土ブロック10%程。黒褐色土ブロック少量。
2. 黄褐色土、ややシルト、黒褐色土ブロック10%程。焼土粒子微量。
3. 暗褐色土、ややシルト、黒褐色土ブロック・黄褐色土ブロック20%程。
4. 試掘トレンチ埋土。



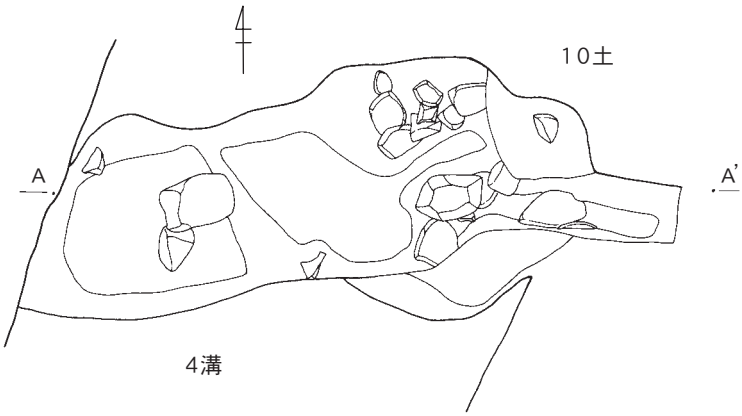
1. 灰褐色土、シルト、黄褐色土・黒褐色土ブロック10%程。
2. 黒褐色土、シルト、黄褐色土ブロック少量。
3. 黒褐色土、シルト、黄褐色土ブロック10%程。
4. 黒褐色土、シルト、黄褐色土ブロック微量。[根あと]or[もぐら道]
5. 試掘トレンチ。
6. 黄褐色土、シルト。[地山]

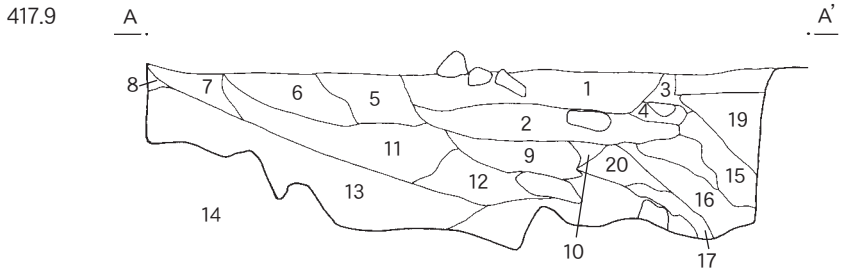


1. 黒褐色土、ややシルト、黄褐色土ブロック微量。
2. 灰褐色土、ややシルト、黒褐色土ブロック少量。
3. 黄褐色土、ややシルト、. [地山]



1. 灰褐色土、シルト、赤スコ粒子少量。
2. 灰褐色土、シルト、黄褐色土ブロック20%。
3. 黒褐色土、シルト、赤スコ粒子微量。[もぐら道]
4. 黒褐色土、シルト、赤スコ粒子微量。[もぐら道]

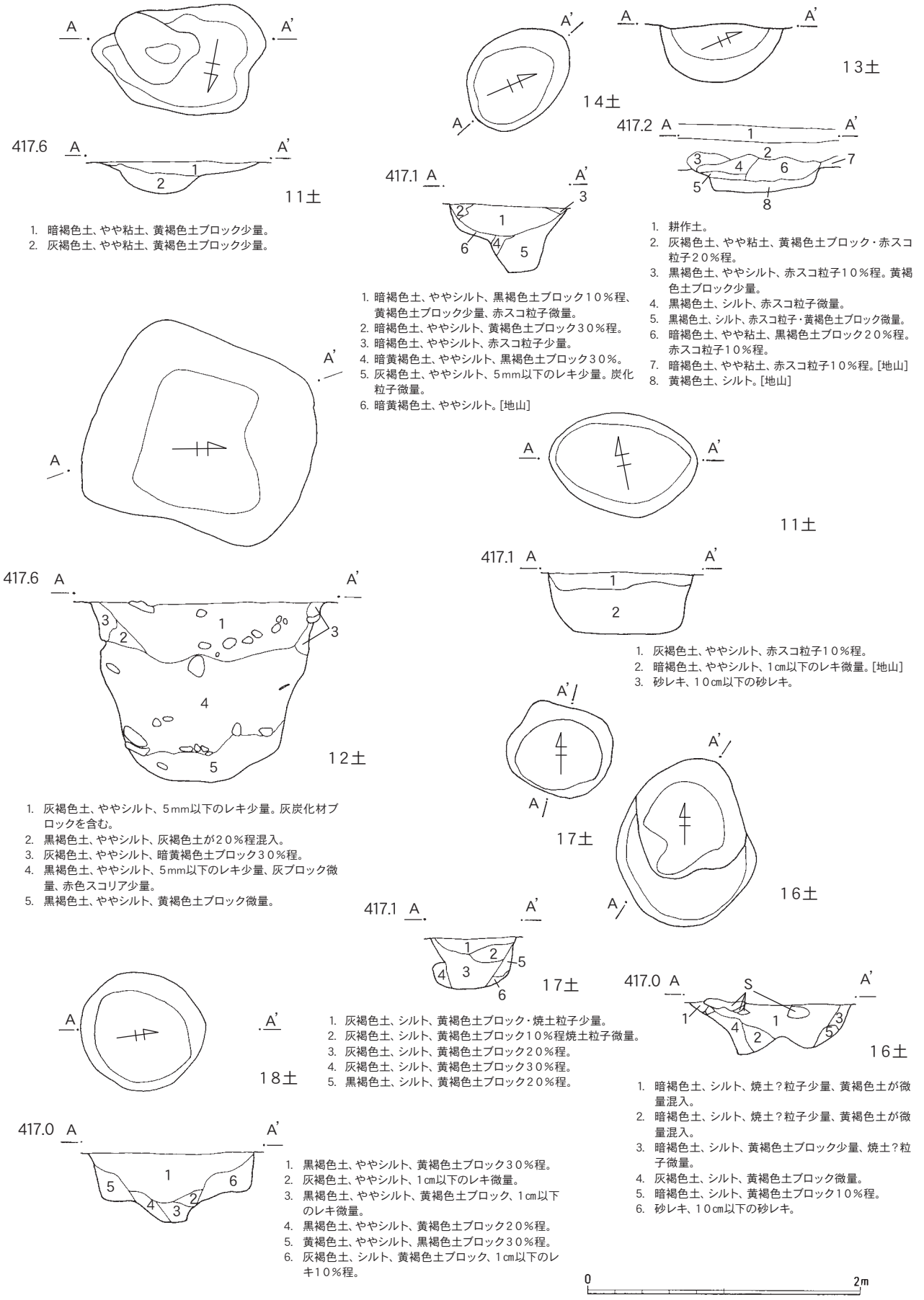




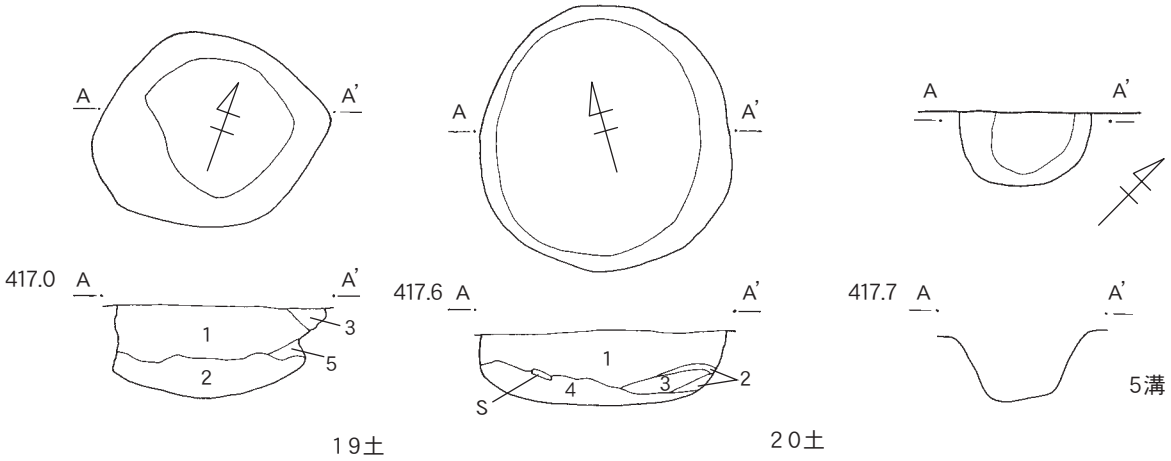
1. 黒褐色土、ややシルト、25cm以下のレキ少量。
2. 黒褐色土、ややシルト、3cm以下のレキ少量。
3. 黒褐色土、ややシルト、黄褐色土ブロック少量。
4. 黒褐色土、ややシルト、黄褐色土ブロック微量。
5. 灰褐色土、ややシルト、焼土粒子少量。
6. 灰褐色土、ややシルト、黄褐色土ブロック少量、焼土粒子微量。
7. 灰褐色土、ややシルト、黄褐色土ブロック・焼土粒子微量。
8. 黄褐色土、ややシルト、暗褐色土ブロック30%程。
9. 黒褐色土、ややシルト、2cm以下のレキ少量。黄褐色土ブロック微量。
10. 黒褐色土、ややシルト、黄褐色土ブロック20%程。
11. 灰褐色土、ややシルト、1cm以下のレキ・黄褐色土ブロック少量。
12. 灰褐色土、ややシルト、1cm以下のレキ・黄褐色土ブロック少量。灰ブロック微量。
13. 黒褐色土、ややシルト、3cm以下のレキ10%程。灰ブロック・炭化材・炭化粒子微量。
14. 黒褐色土、ややシルト、灰ブロック20%程。炭化材・炭化粒子・3cm以下のレキ10%程。
15. 灰褐色土、シルト、2cm以下のレキ・黄褐色土ブロック少量。
16. 灰褐色土、シルト、黄褐色土ブロック30%程。
17. 暗褐色土、シルト、灰褐色土ブロック20%程。
18. 灰褐色土、シルト、1cm以下のレキ微量。
19. 黄褐色土、シルト。[地山]
20. 黄褐色土、シルト、黒褐色土ブロック10%程。[地山]

0　2m

第28図　A区2-2　遺構平面図および断面図（4・7～10号土坑、3・4溝状遺構）

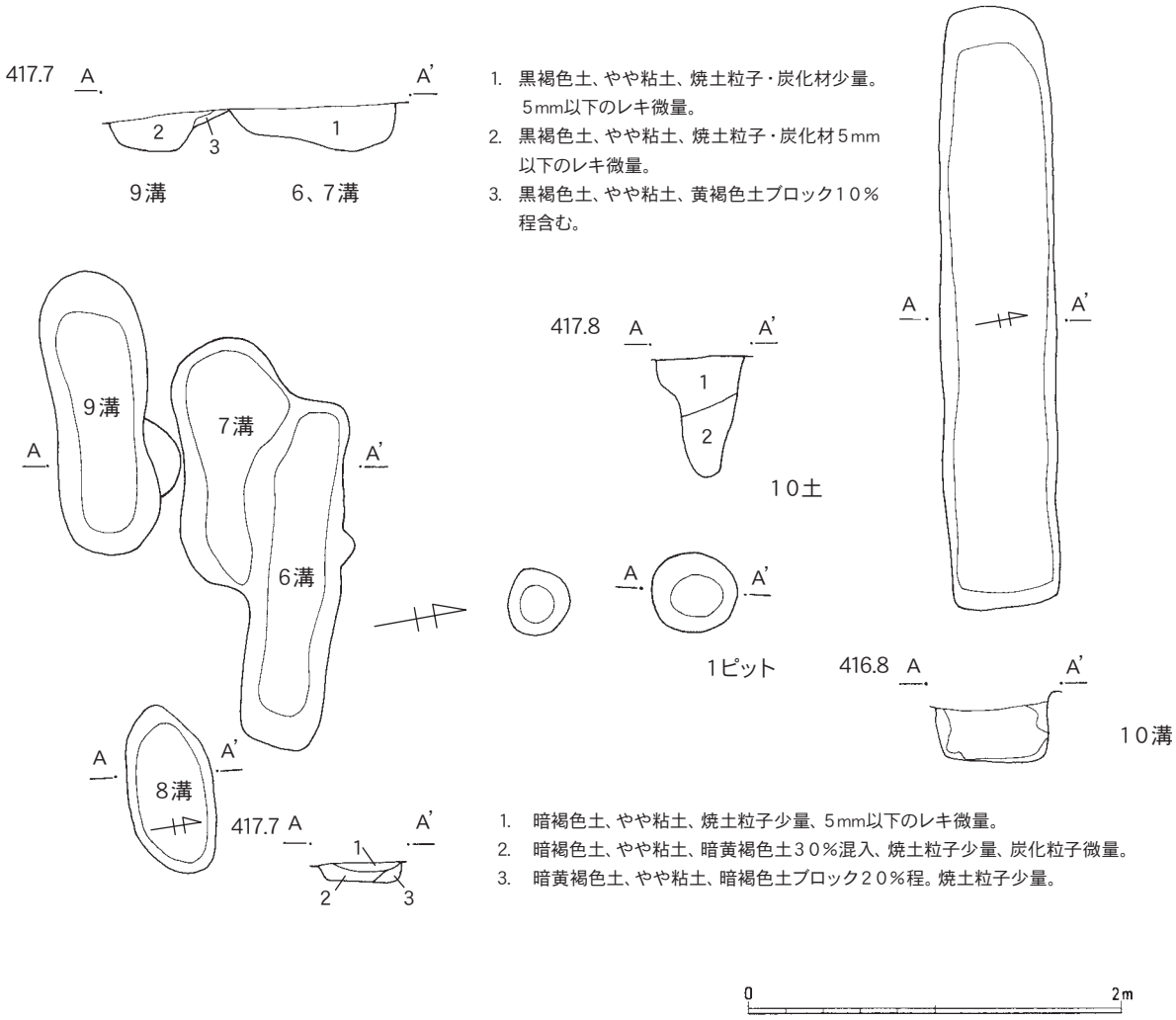


第 29 図　A 区 2-2　遺構平面図および断面図（１１～１８号土坑）



1. 黒褐色土、ややシルト、黄褐色土ブロック10％程。
2. 黒褐色土、ややシルト、黄褐色中砂が少量混入。
3. 黄褐色土、シルト、黒褐色土ブロック20％程。
5. 灰褐色土、シルト、黄褐色土ブロック10％程。

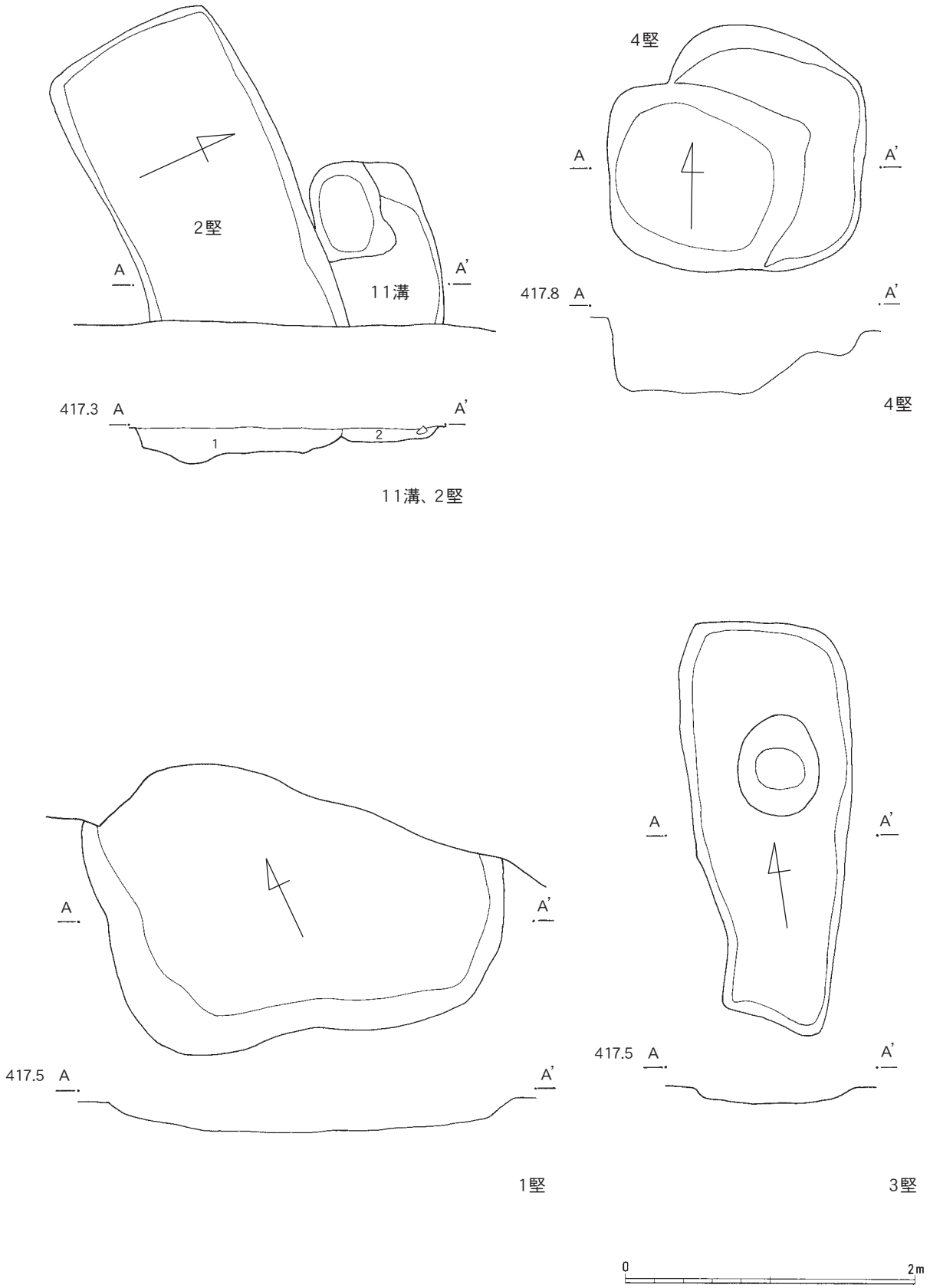
1. 黒褐色土、シルト、黄褐色土ブロック20％程。
2. 黄褐色土、シルト、黒褐色土ブロック10％程。
3. 黒褐色土、シルト、黄褐色土ブロック少量、黒みが強い。
4. 黒褐色土、シルト、黄褐色土ブロック20％程、やや黒みが強い。



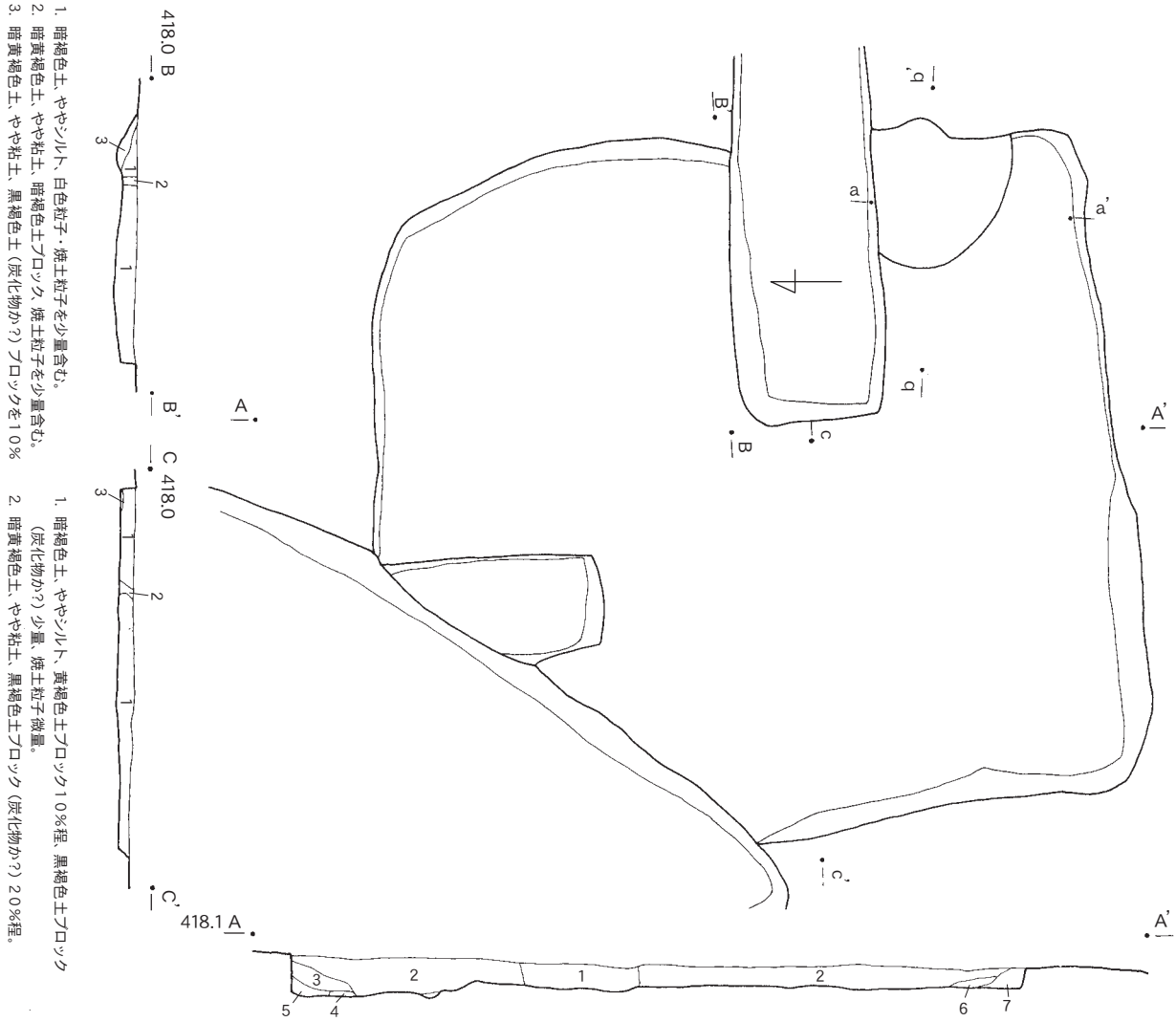
1. 黒褐色土、やや粘土、焼土粒子・炭化材少量。5mm以下のレキ微量。
2. 黒褐色土、やや粘土、焼土粒子・炭化材5mm以下のレキ微量。
3. 黒褐色土、やや粘土、黄褐色土ブロック10％程含む。

1. 暗褐色土、やや粘土、焼土粒子少量、5mm以下のレキ微量。
2. 暗褐色土、やや粘土、暗黄褐色土30％混入、焼土粒子少量、炭化粒子微量。
3. 暗黄褐色土、やや粘土、暗褐色土ブロック20％程。焼土粒子少量。

第30図　A区2-2　遺構平面図および断面図（19・20号土坑、5～10号溝状遺構、1号ピット）



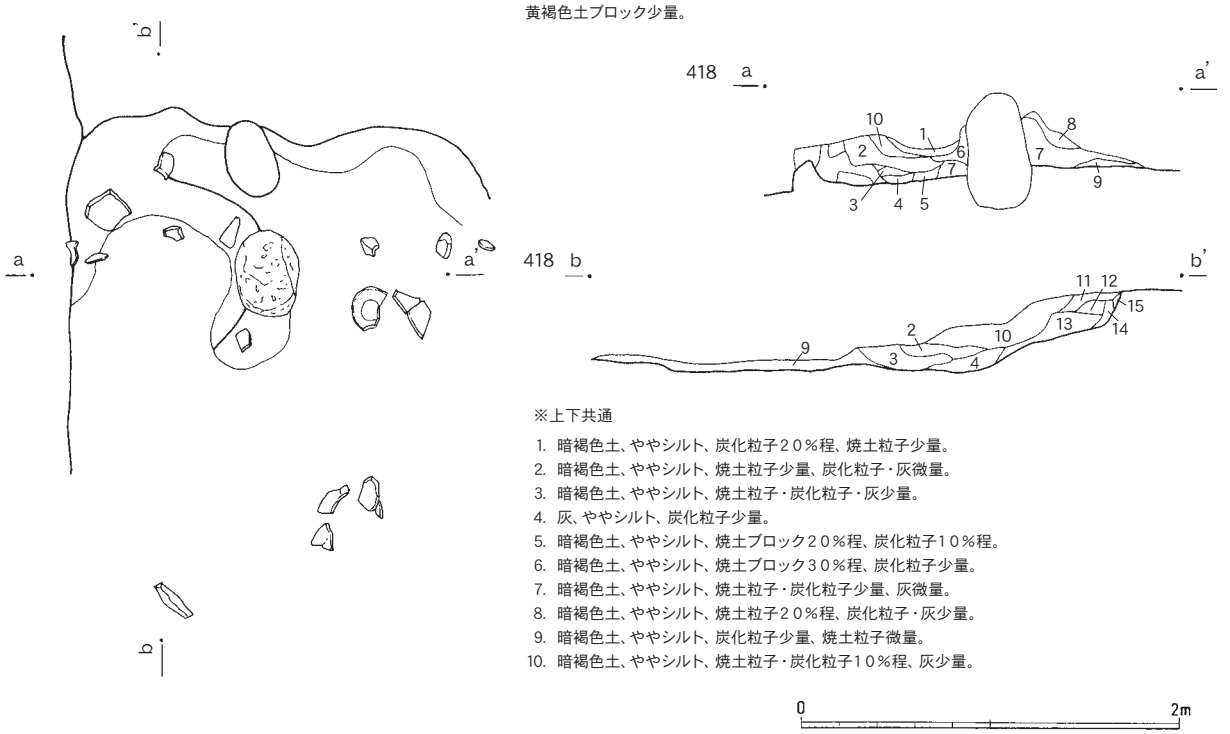
第 31 図　A 区 2-2　遺構平面図および断面図（１１号溝状遺構、１～４号竪穴遺構）



1. 暗褐色土、ややシルト、白色粒子・焼土粒子を少量含む。
2. 暗黄褐色土、やや粘土、暗褐色土ブロック、焼土粒子を少量含む。
3. 暗黄褐色土、やや粘土、黒褐色土（炭化物か？）ブロックを10％程、焼土粒子を微量含む。

1. 暗褐色土、ややシルト、黄褐色土ブロック10％程、黒褐色土ブロック（炭化物か？）少量、焼土粒子微量。
2. 暗黄褐色土、やや粘土、黒褐色土ブロック（炭化物か？）20％程。
3. 暗黄褐色土[地山]、やや粘土。

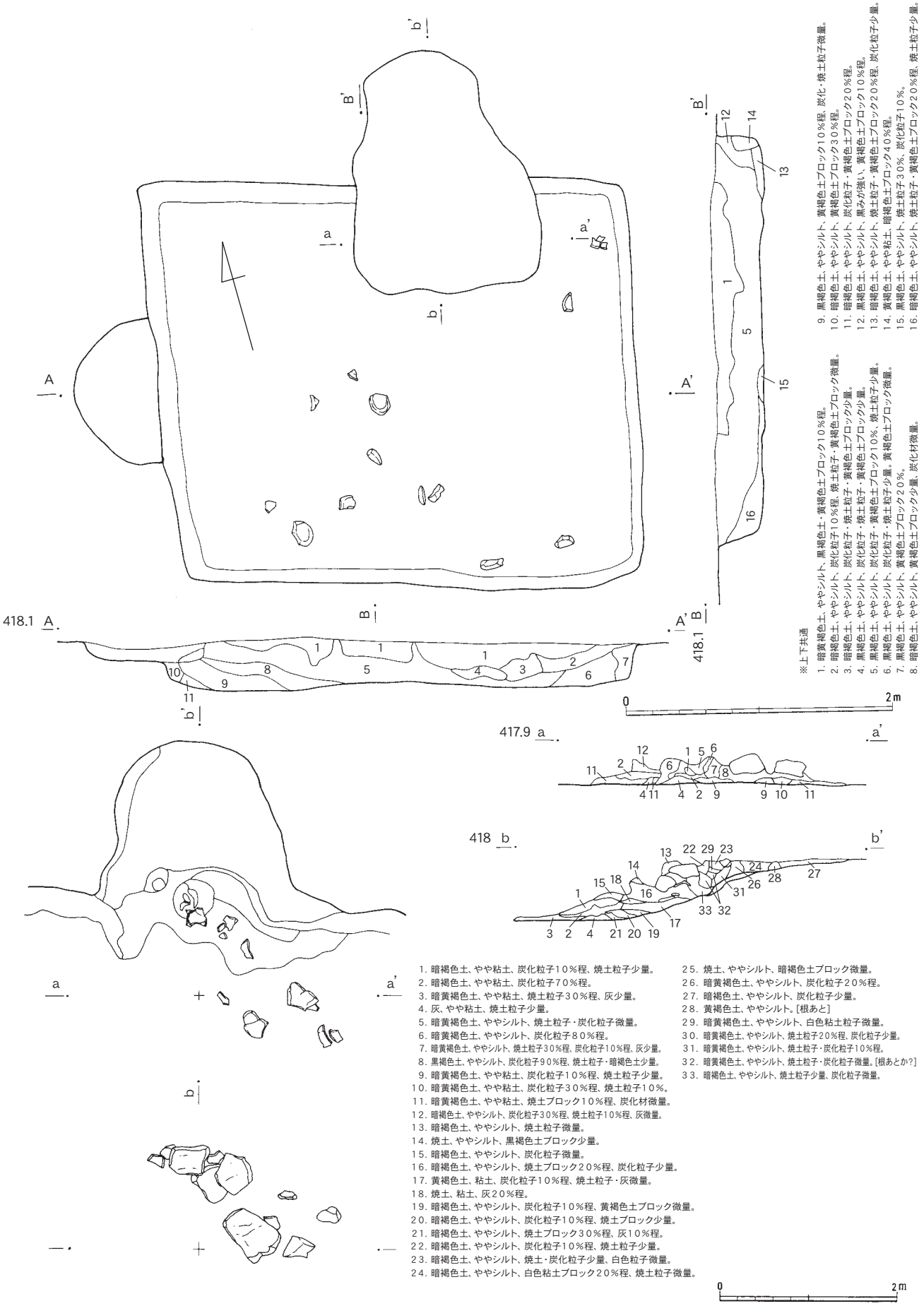
1. 黒褐色土、ややシルト、黄褐色土ブロック少量。
2. 暗褐色土、ややシルト、黄褐色土ブロック、焼土・炭化粒子少量。
3. 黒褐色土、やや粘土、黄褐色土ブロック10％程。
4. 黄褐色土、やや粘土、黒褐色土ブロック30％程。
5. 黒褐色土、やや粘土、黄褐色土ブロック30％程。
6. 暗褐色土、ややシルト、赤色スコリア10％程、黄褐色土ブロック少量。
7. 暗褐色土、ややシルト、赤色スコリア10％[地山]。



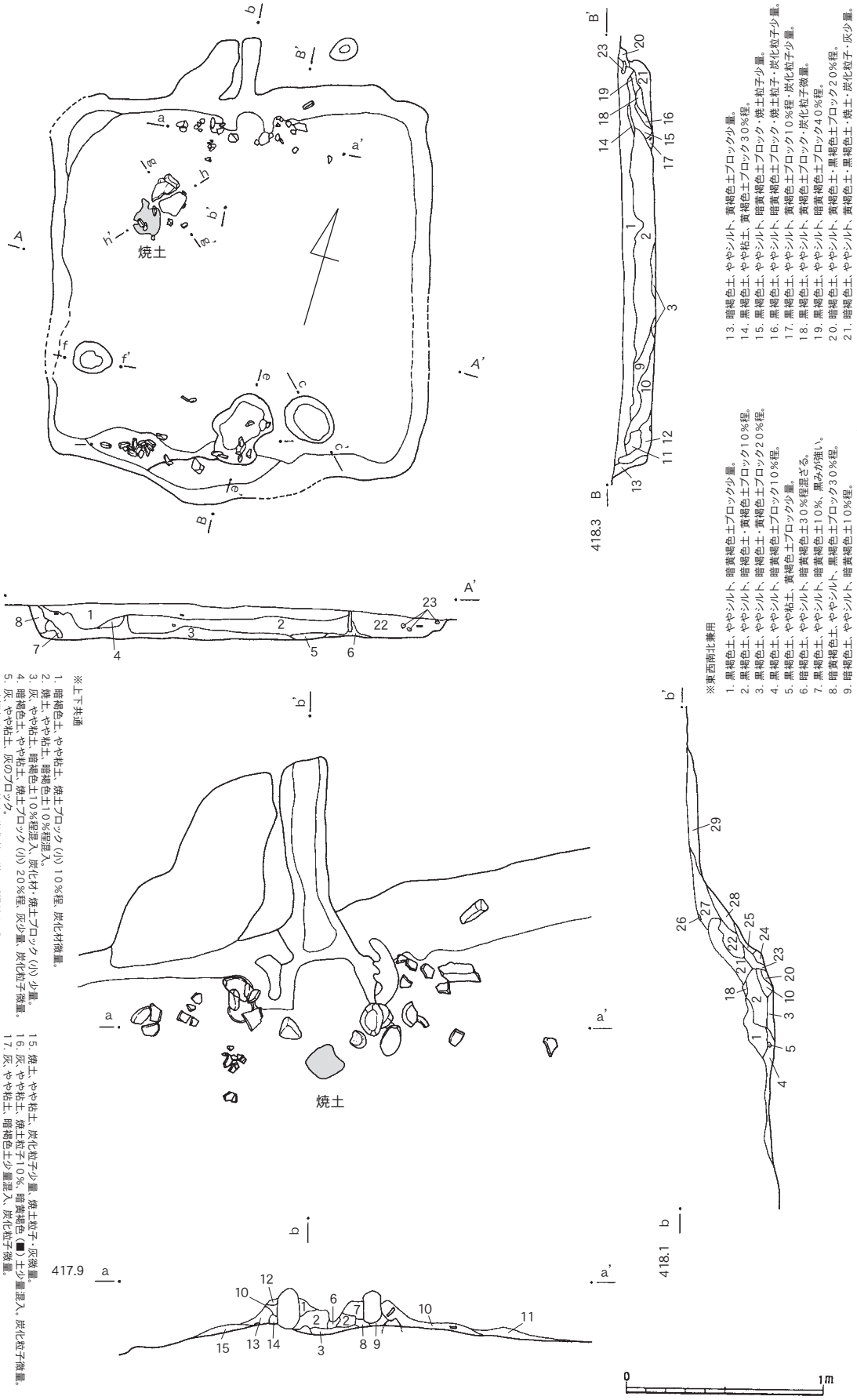
※上下共通

1. 暗褐色土、ややシルト、炭化粒子20％程、焼土粒子少量。
2. 暗褐色土、ややシルト、焼土粒子少量、炭化粒子・灰微量。
3. 暗褐色土、ややシルト、焼土粒子・炭化粒子・灰少量。
4. 灰、ややシルト、炭化粒子少量。
5. 暗褐色土、ややシルト、焼土ブロック20％程、炭化粒子10％程。
6. 暗褐色土、ややシルト、焼土ブロック30％程、炭化粒子少量。
7. 暗褐色土、ややシルト、焼土粒子・炭化粒子少量、灰微量。
8. 暗褐色土、ややシルト、焼土粒子20％程、炭化粒子・灰少量。
9. 暗褐色土、ややシルト、炭化粒子少量、焼土粒子微量。
10. 暗褐色土、ややシルト、焼土粒子・炭化粒子10％程、灰少量。

第 32 図　A 区 2-3　遺構平面図および断面図（１号住居跡）

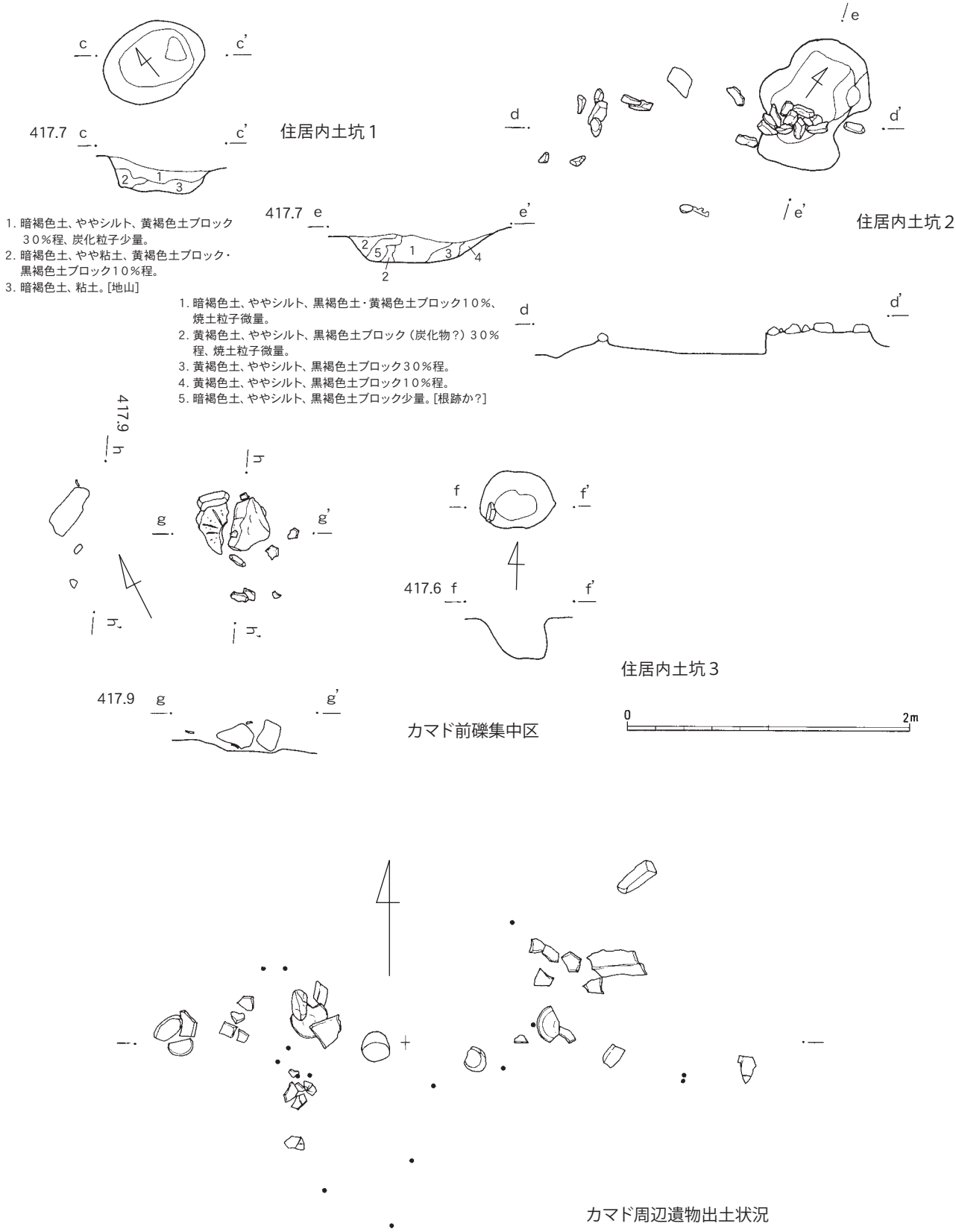


第 33 図　A 区 2-3　遺構平面図および断面図（２号住居跡）

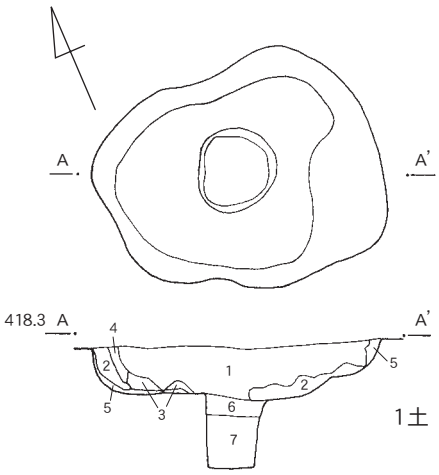


27. 暗褐色土、やや粘土、黄褐色土30%程混入、炭化粒子30%、焼土粒子少量。
28. 暗褐色土、やや粘土、黄褐色土10%程混入、焼土ブロック（小）10%、炭化粒子少量。
29. 暗褐色土、やや粘土、黄褐色土少量混入。焼土ブロック（小）、炭化粒子少量。

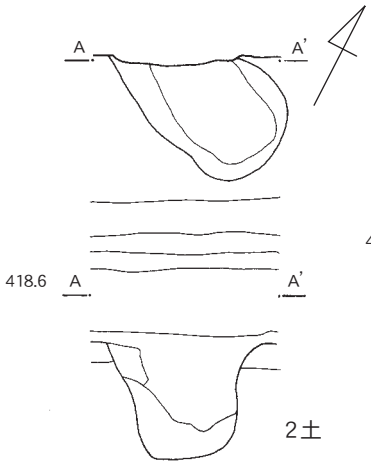
第 34 図　A 区 2-3　遺構平面図および断面図（３号住居跡）

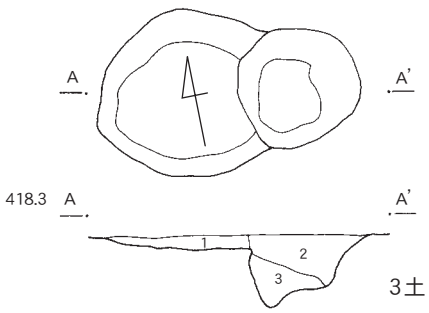


第 35 図　A 区 2-3　遺構平面図および断面図（３号住居跡内土坑・カマド前礫集中・カマド周辺出土遺物）

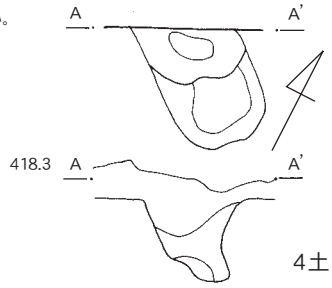


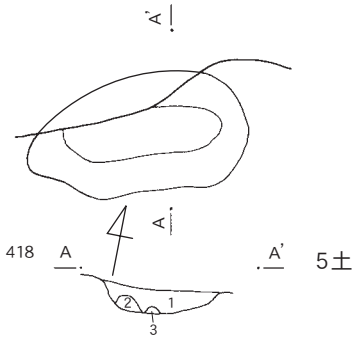
1. 黒褐色土、ややシルト、黄褐色土ブロック10％程。
2. 黒褐色土、ややシルト、黄褐色土ブロック30％程。
3. 黒褐色土、ややシルト、黄褐色土ブロック10％程。黒みが強い。
4. 黒褐色土、ややシルト、黄褐色土ブロック微量。
5. 黄褐色土、やや粘土。[地山]
6. 黒褐色土、ややシルト、黄褐色土ブロック20％程。
7. 暗褐色土[地山]、やや粘土。



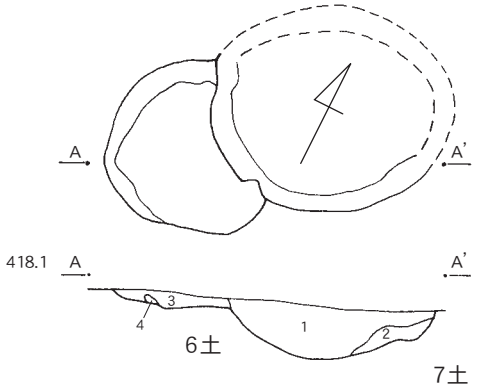


1. 黒褐色土、ややシルト、黄褐色土ブロック少量、焼土粒子微量。
2. 黒褐色土、ややシルト、黄褐色土ブロック10％程。
3. 黒褐色土、やや粘土、黄褐色土ブロック少量、黒みが強い。

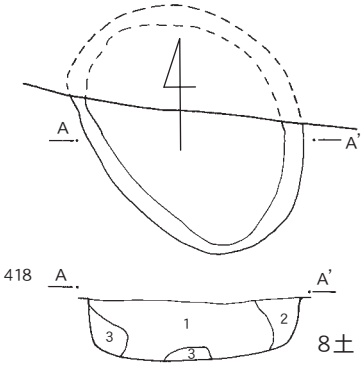


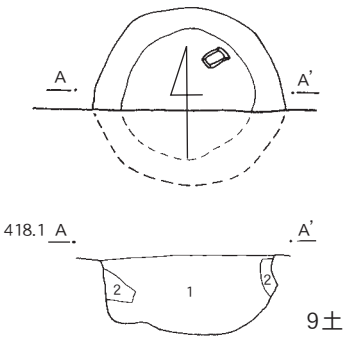


1. 黒褐色土、ややシルト、黄褐色土ブロック10％程。
2. 黒褐色土、やや粘土、黄褐色土ブロック10％程、黒みが強い。
3. 黒褐色土、ややシルト、黄褐色土ブロック微量。

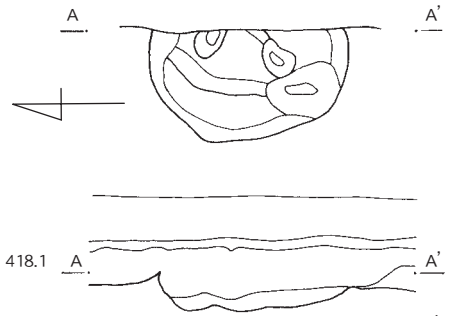


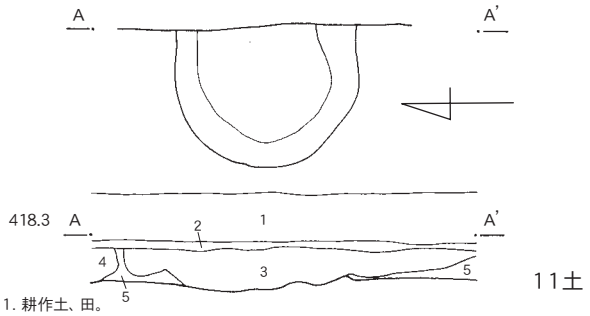
1. 暗褐色土、ややシルト、暗褐色土ブロック微量。
2. 暗褐色土、ややシルト、暗褐色土ブロック10％程。
3. 黒褐色土、やや粘土、暗褐色土ブロック10％程。
4. 暗黄褐色土、やや粘土。





1. 黒褐色土、ややシルト。
2. 黒褐色土、やや粘土、黄褐色土ブロック10％程。
3. 黄褐色土、やや粘土、黒褐色土ブロック30％程。

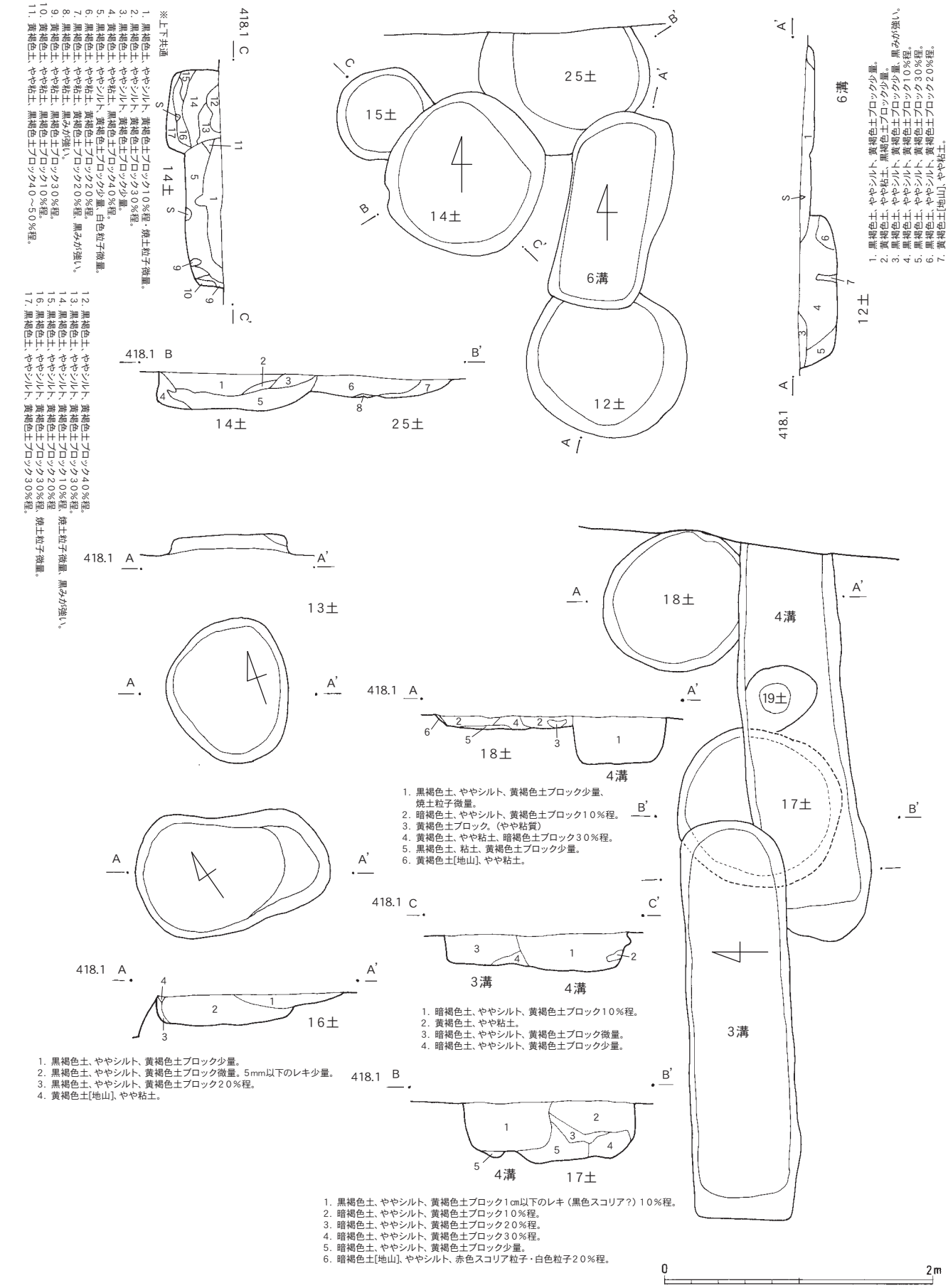




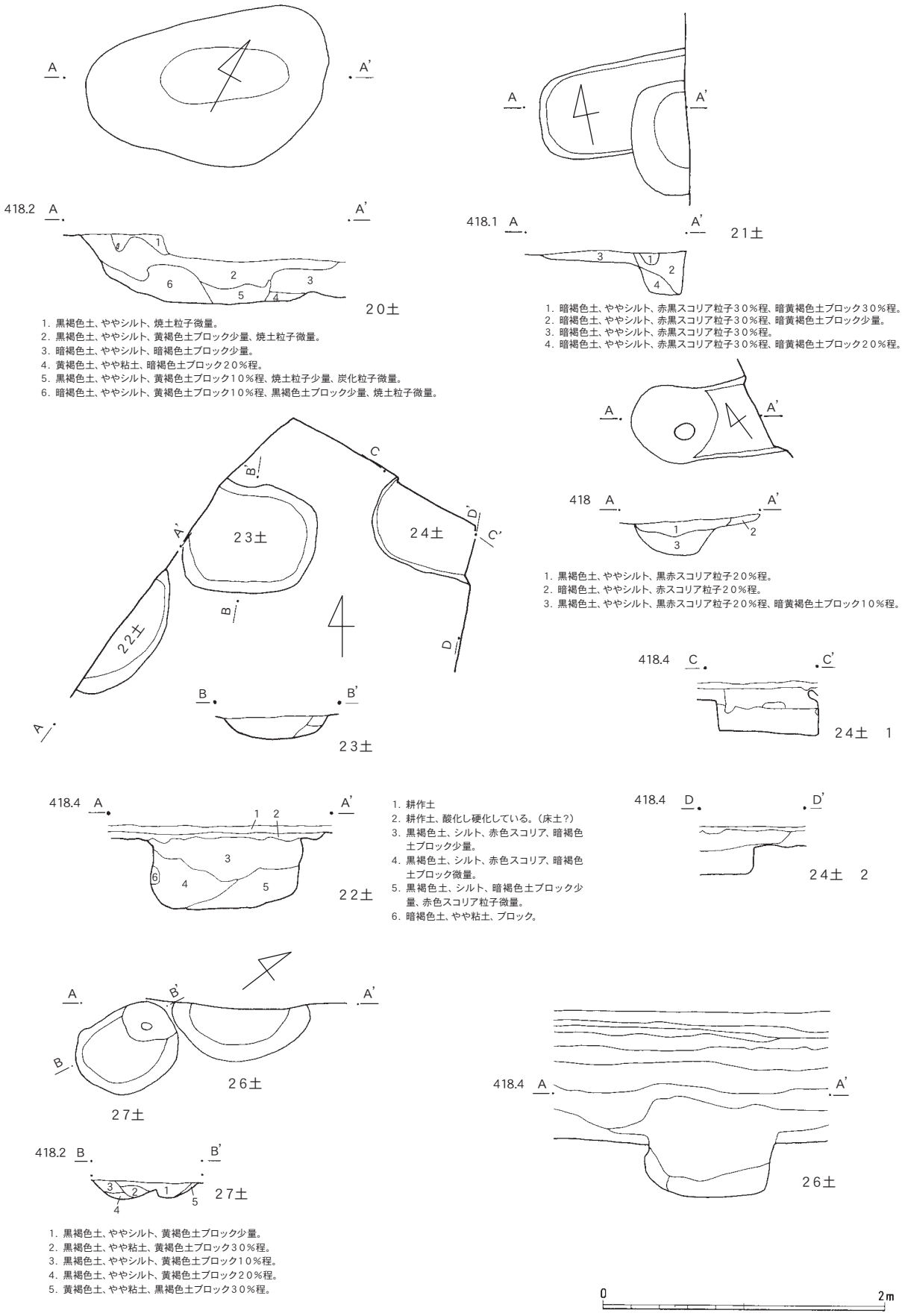
1. 耕作土、田。
2. 酸化層。（床土）
3. 黒褐色土、ややシルト、5mm以下のレキ（黒色スコリアか？）少量含む。黄褐色土ブロック少量含む。
4. 暗褐色土、ややシルト、黒褐色土・黄褐色土ブロックを10％程含む。
5. 黄褐色土[地山]、やや粘土。

0　2m

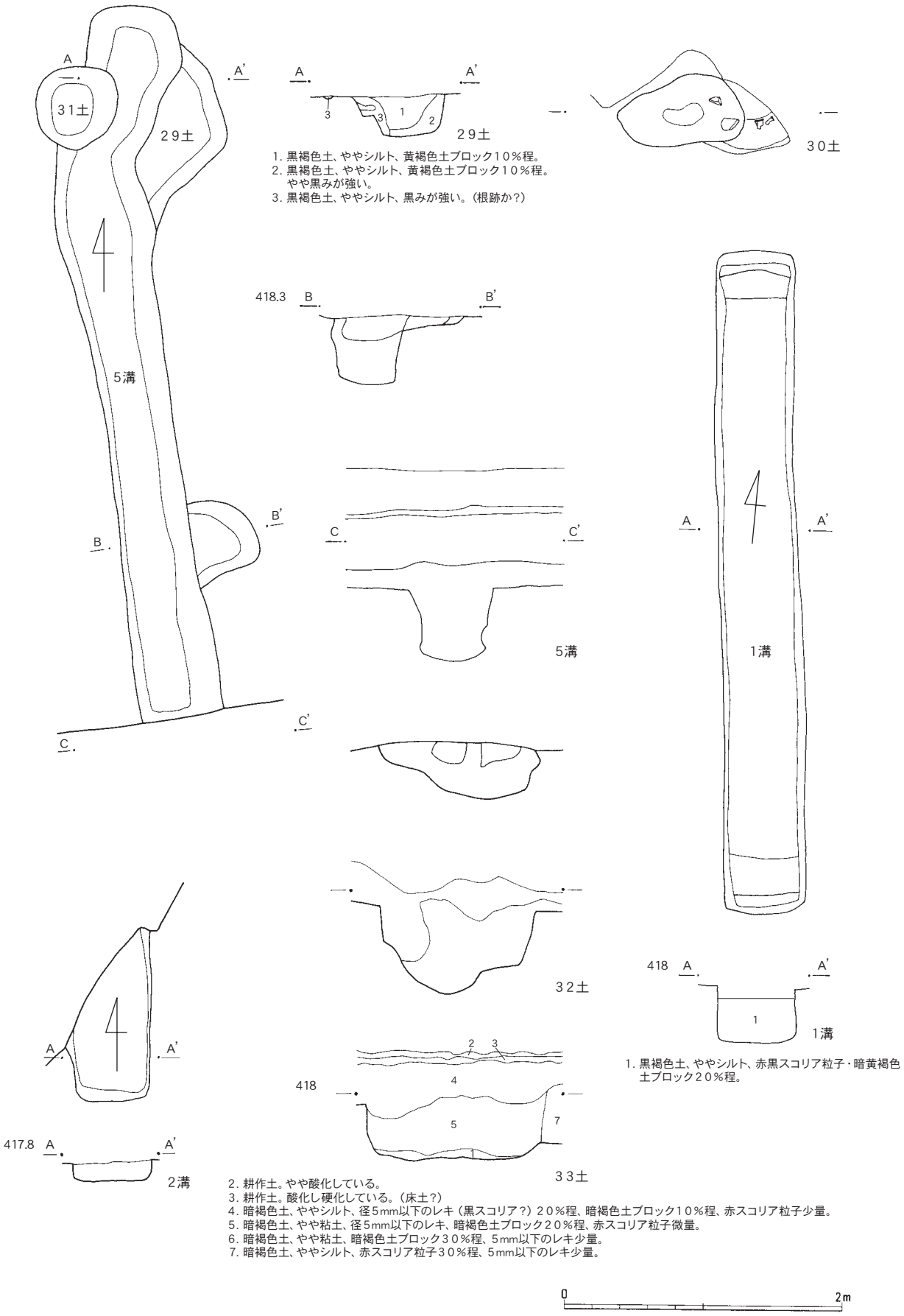
第36図　A区2-3　遺構平面図および断面図（1～11号土坑）



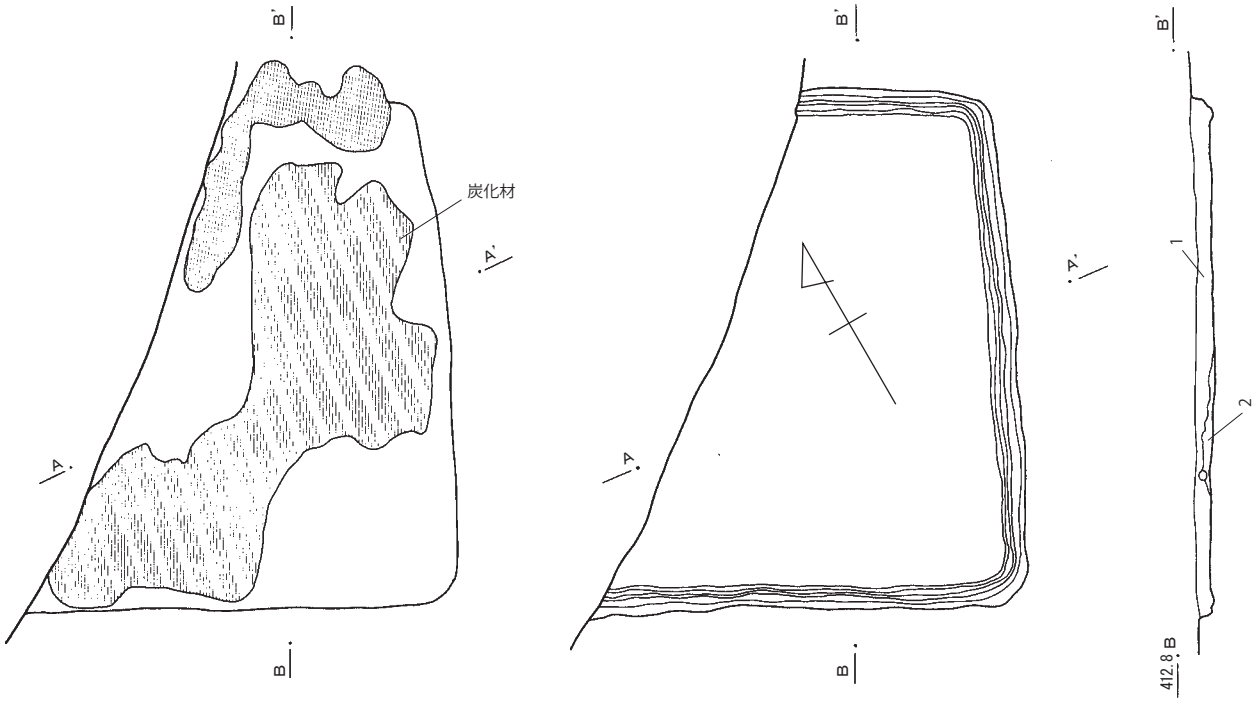
第 37 図　A 区 2-3　遺構平面図および断面図（１２～１８号土坑、３・４・６号溝状遺構）



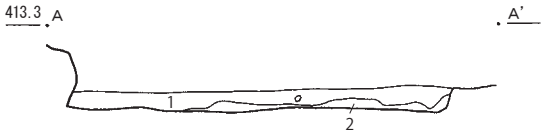
第38図　A区2-3　遺構平面図および断面図（20～24・26～28号土坑）



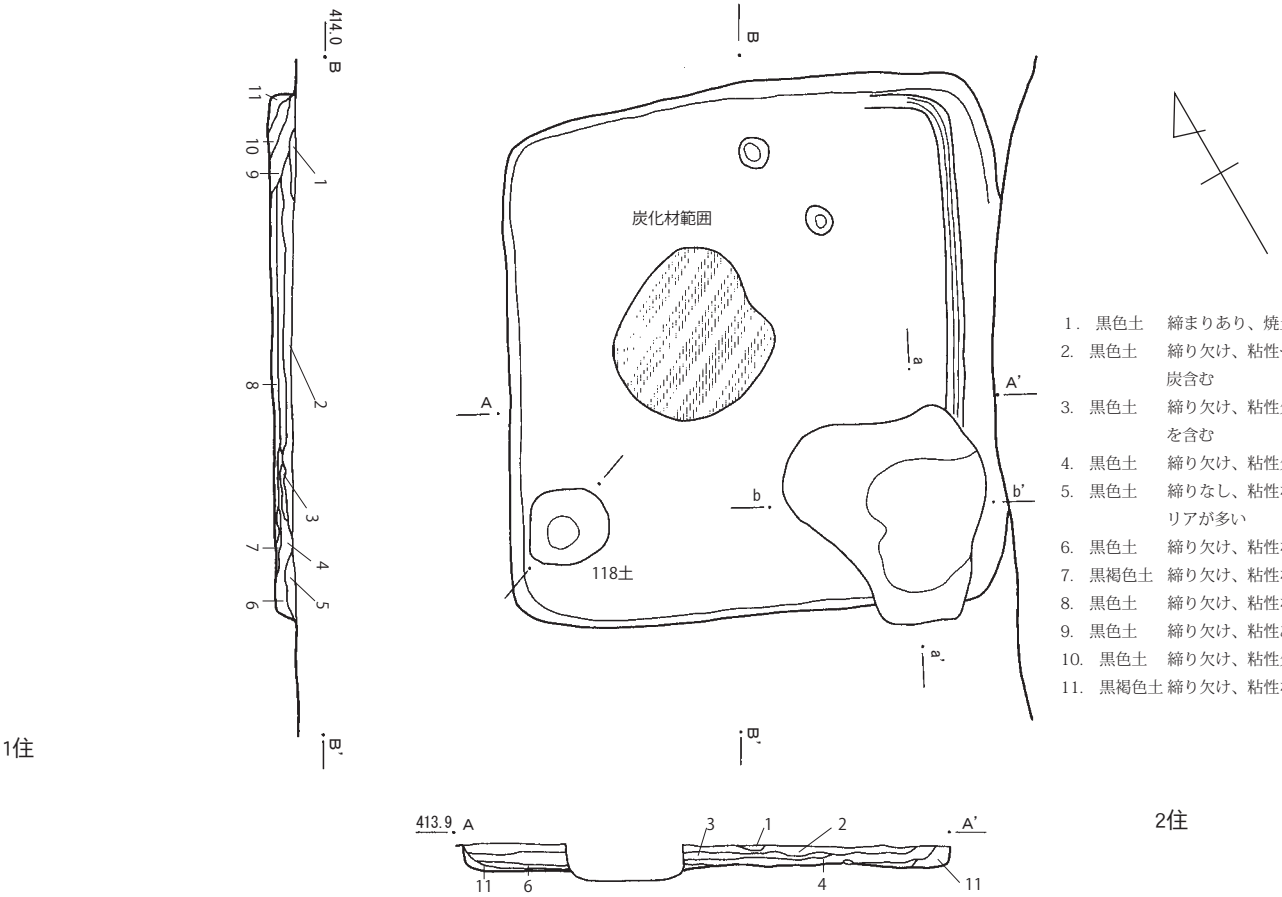
第39図　A区2-3　遺構平面図および断面図（29・30・32号土坑、1・2・5溝状遺構）



1．黒色土　締まり欠け、粘性なし、炭化物がたくさん含まれる。
2．黒色土　締り欠け、粘性なし焼土が少し含まれる。



1住

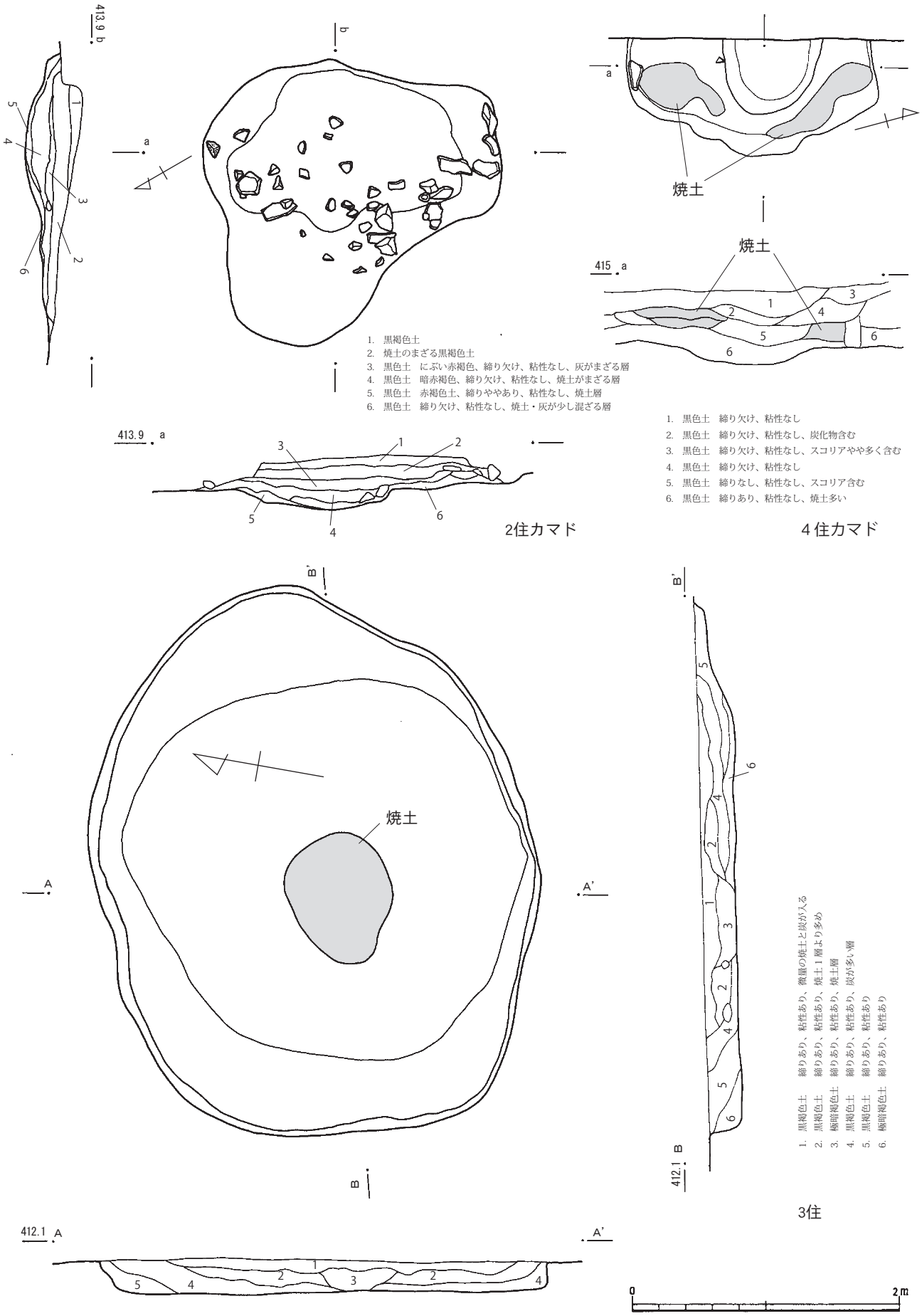


1．黒色土　締まりあり、焼土、炭含む。
2．黒色土　締り欠け、粘性やや欠ける、炭含む
3．黒色土　締り欠け、粘性欠ける、灰を含む
4．黒色土　締り欠け、粘性欠ける
5．黒色土　締りなし、粘性なし、スコリアが多い
6．黒色土　締り欠け、粘性なし
7．黒褐色土　締り欠け、粘性なし
8．黒色土　締り欠け、粘性なし
9．黒色土　締り欠け、粘性あり
10．黒色土　締り欠け、粘性欠ける
11．黒褐色土　締り欠け、粘性なし

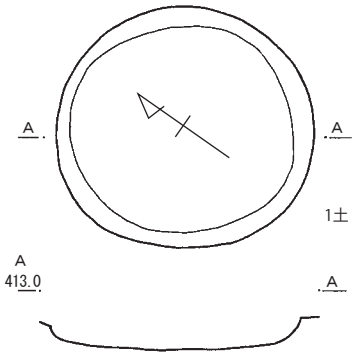
1住

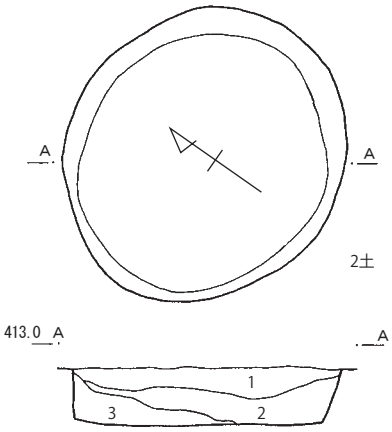
2住

第 39 図　C 区　遺構平面図および断面図（1・2号住居跡）

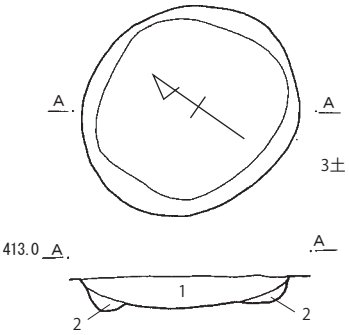


第 41 図　C 区　遺構平面図および断面図（2・4 号住居跡カマド・3 号住居跡）

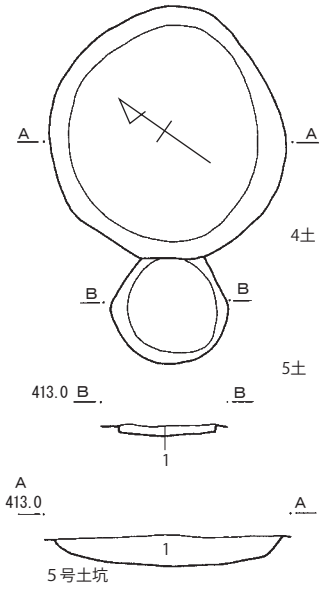




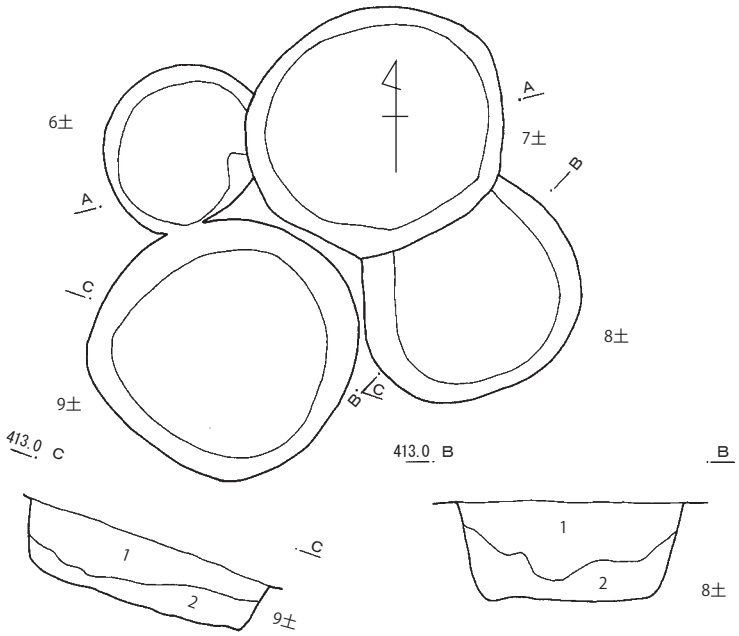
1．黒褐色土　締りあり、粘性欠けるφ1～2㎜の橙色スコリア多く含む
2．黒色土　締り欠け、粘性なしφ7～10㎜のスコリア多く含まれる
3．黒褐色土　締りなし、粘性ややありスコリアが少ない



1．黒褐色土　締りやや欠け、粘性欠けるφ1～2㎜の橙色スコリア多く含む、炭化物を含む
2．暗赤褐色土　締りやや欠け、粘性ありφ1～2㎜のスコリアほんの少し含む

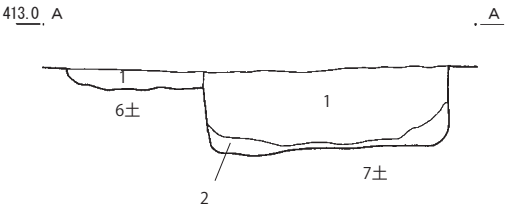


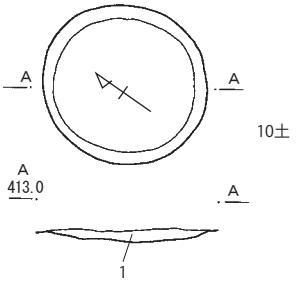
1．黒褐色土　しまりあり　粘性欠ける　直径2㎝橙色スコリア70%　極褐色土のブロック状に斑に入る

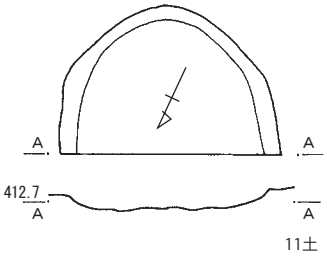


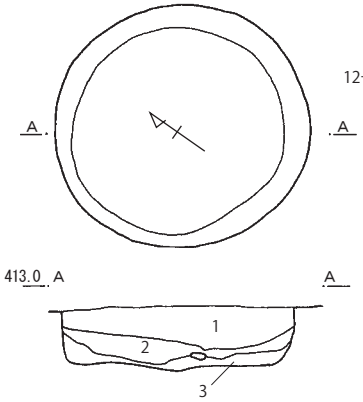
7土～9土

1．黒褐色土　締りややあり、粘性欠けるφ1～2㎜の橙色スコリア多く含む
2．黒色土　締りあり、粘性欠けるφ1～2㎜の橙色スコリアほんの少し含まれる



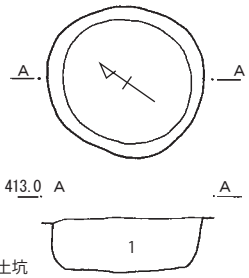






12号土坑

1．黒褐色土　締りあり、粘性欠ける　直径2㎜の橙色スコリア70%　極褐色土のブロック状に斑に入る
2．黒色土　締りなし、粘性欠ける　直径2㎜の橙色スコリア70%　直径7㎜程のスコリア30%
3．黒褐色土　締りなし、粘性ややありスコリア10%程度

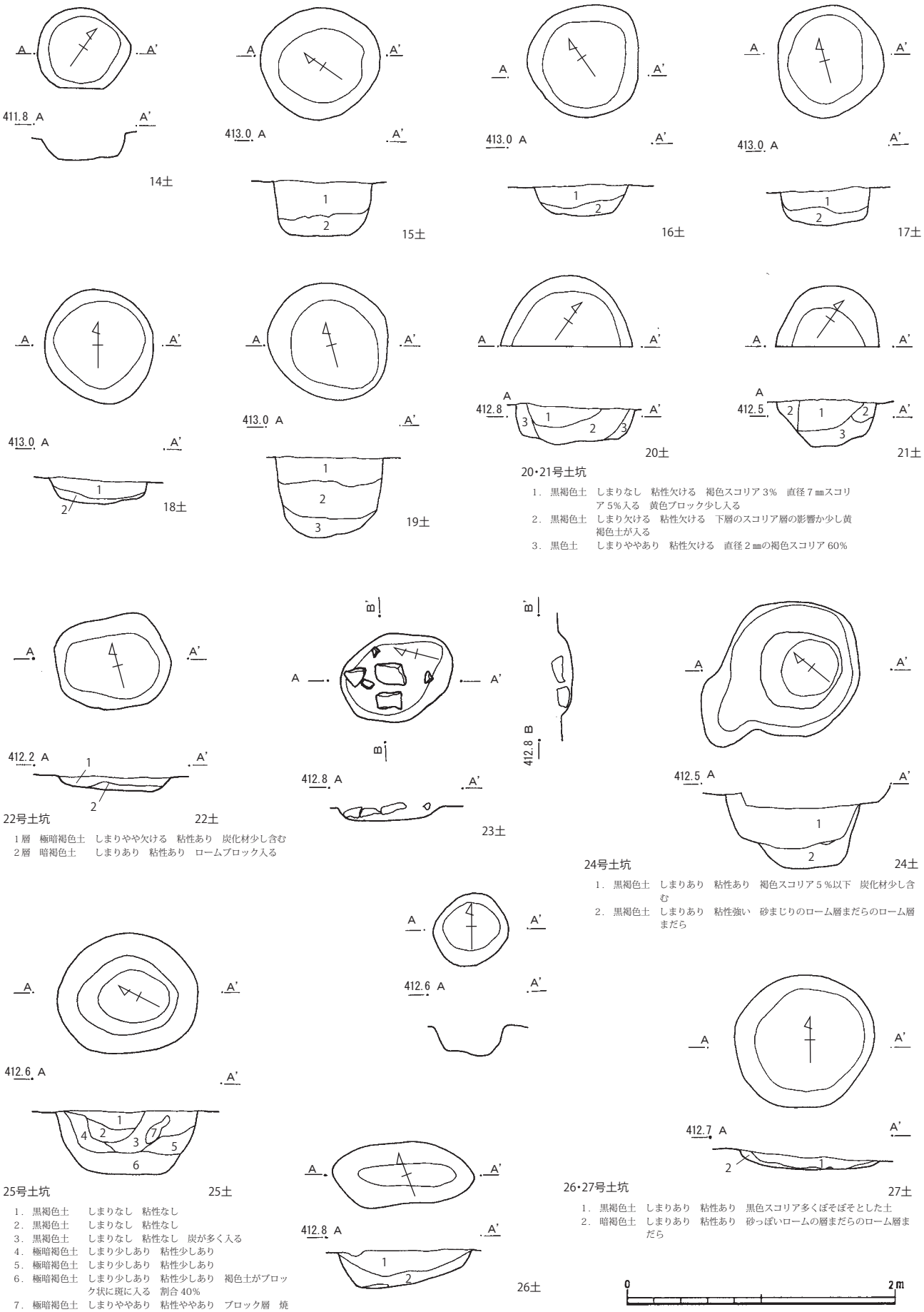


13号土坑

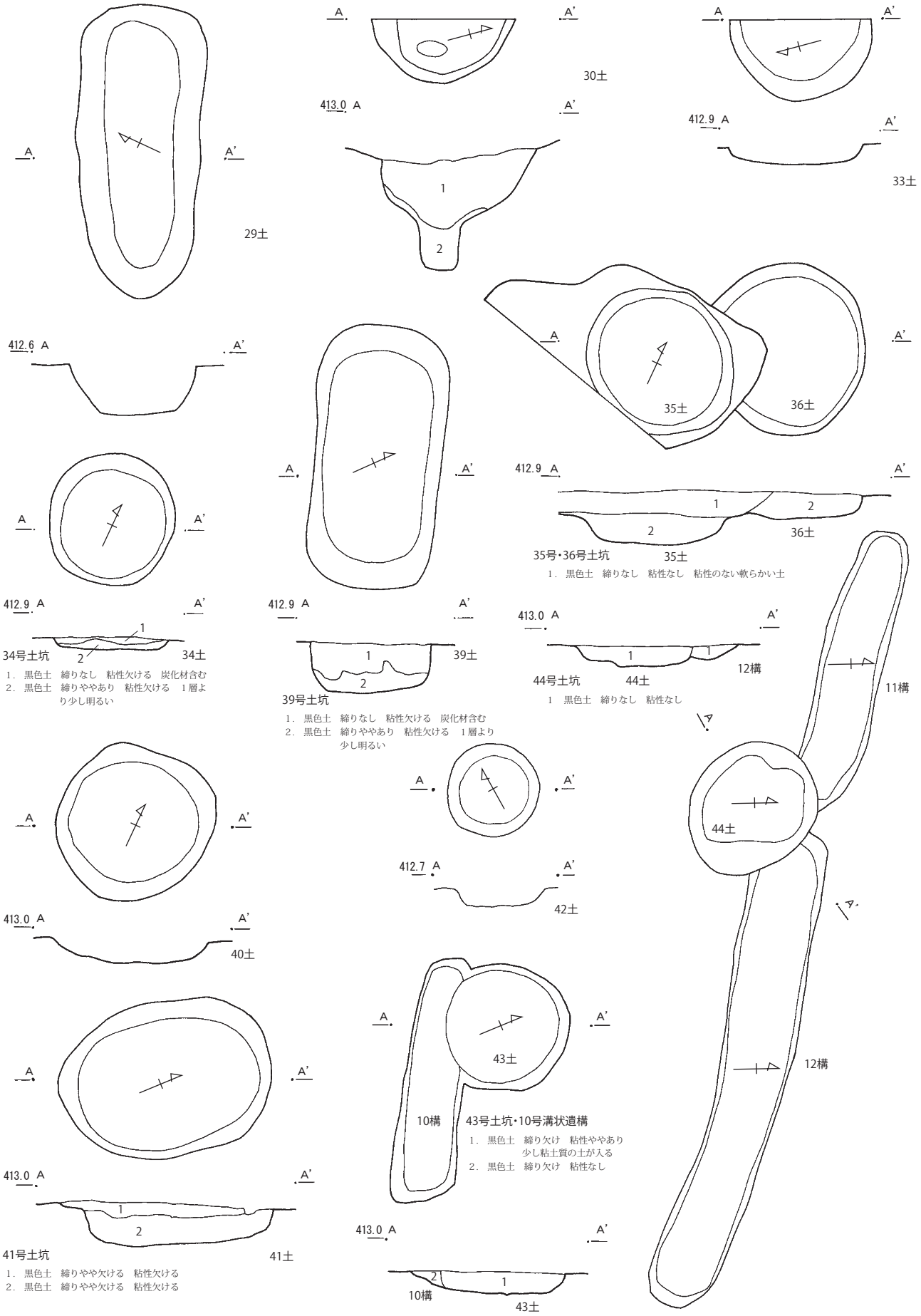
1．黒褐色土　締りあり、粘性欠ける　直径2㎝橙色スコリア70%　極褐色土のブロック状に斑に入る

0　2m

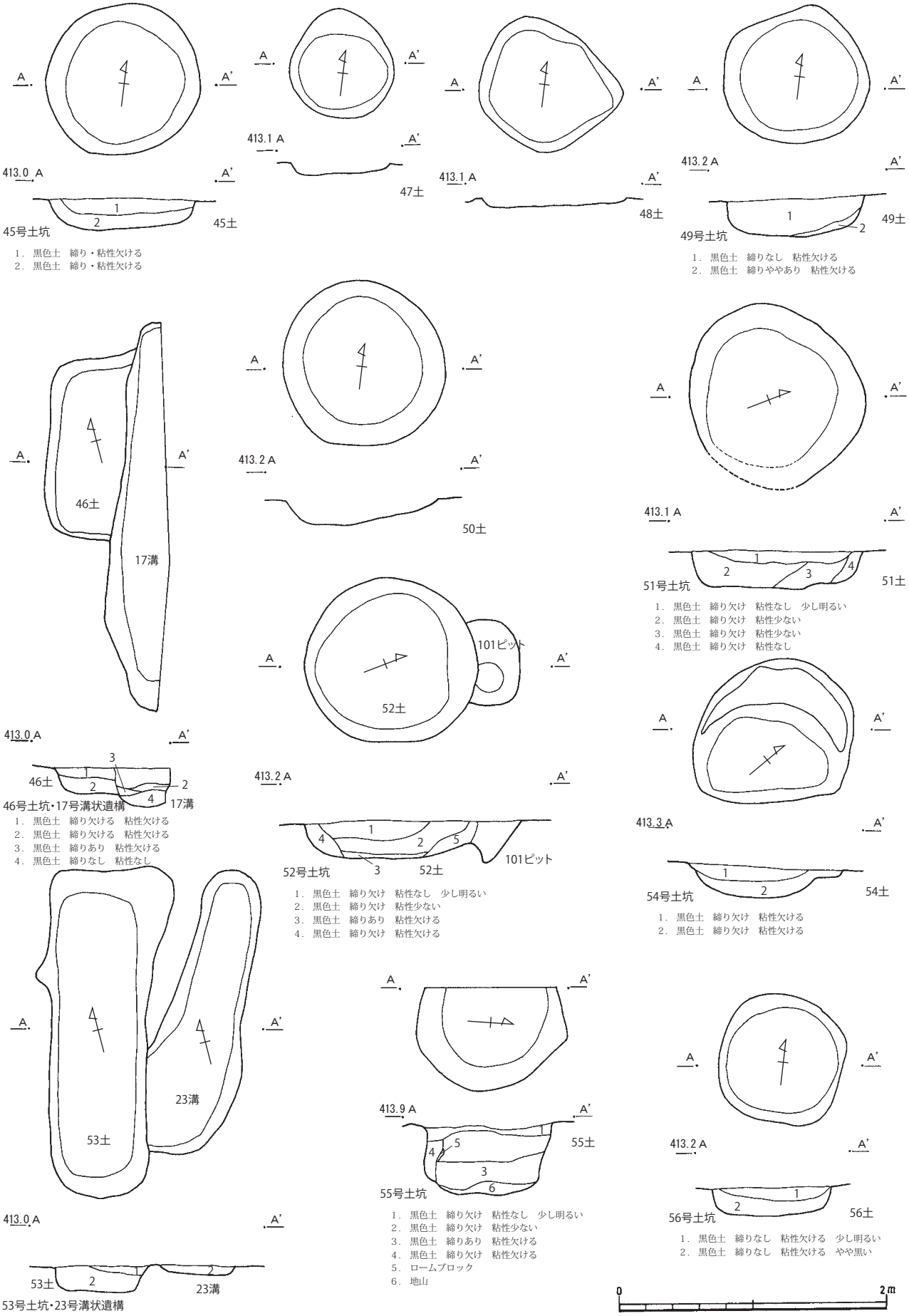
第42図　C区　遺構平面図および断面図（1～13号土坑）



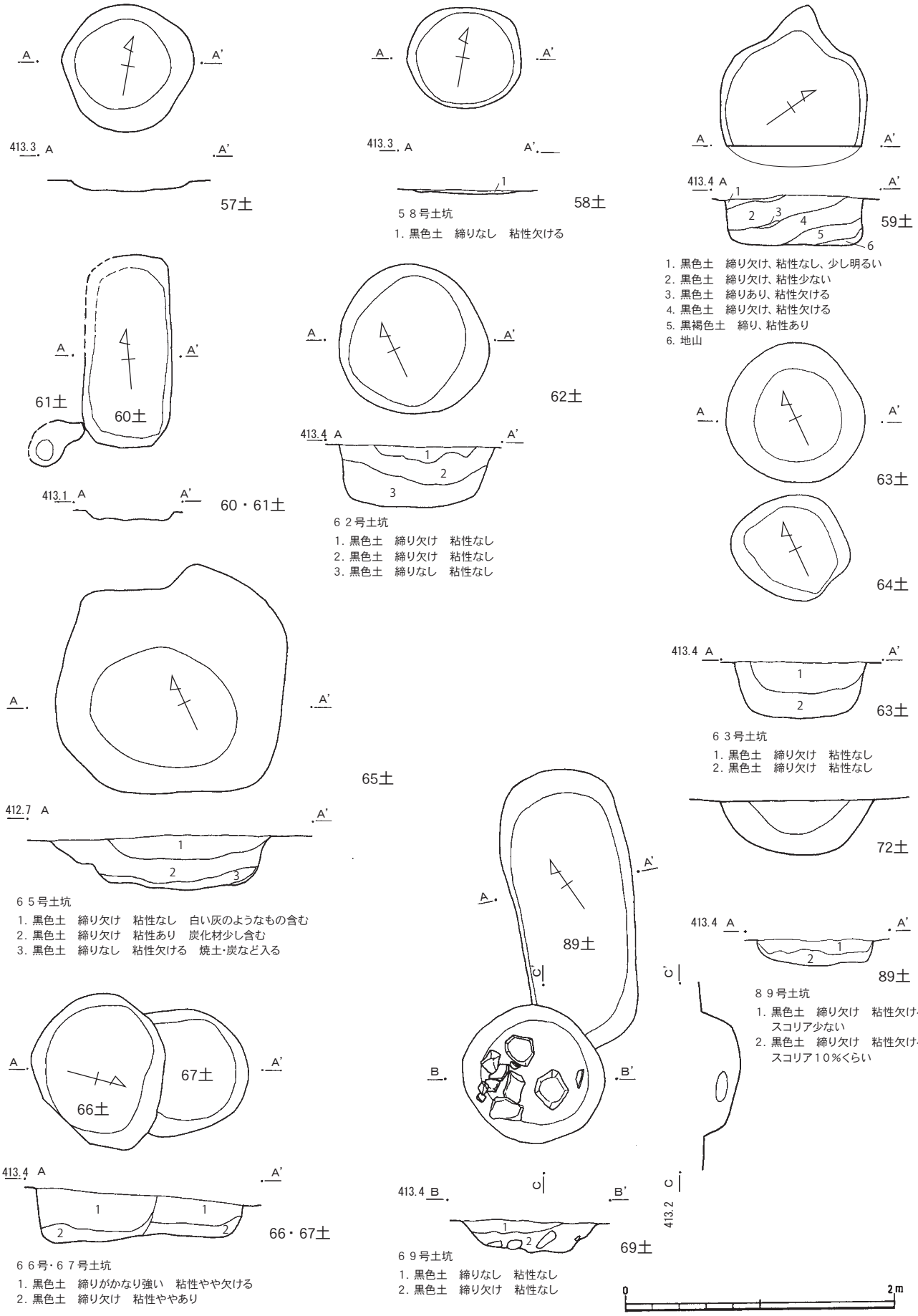
第43図　C区　遺構平面図および断面図（１４～２７号土坑）



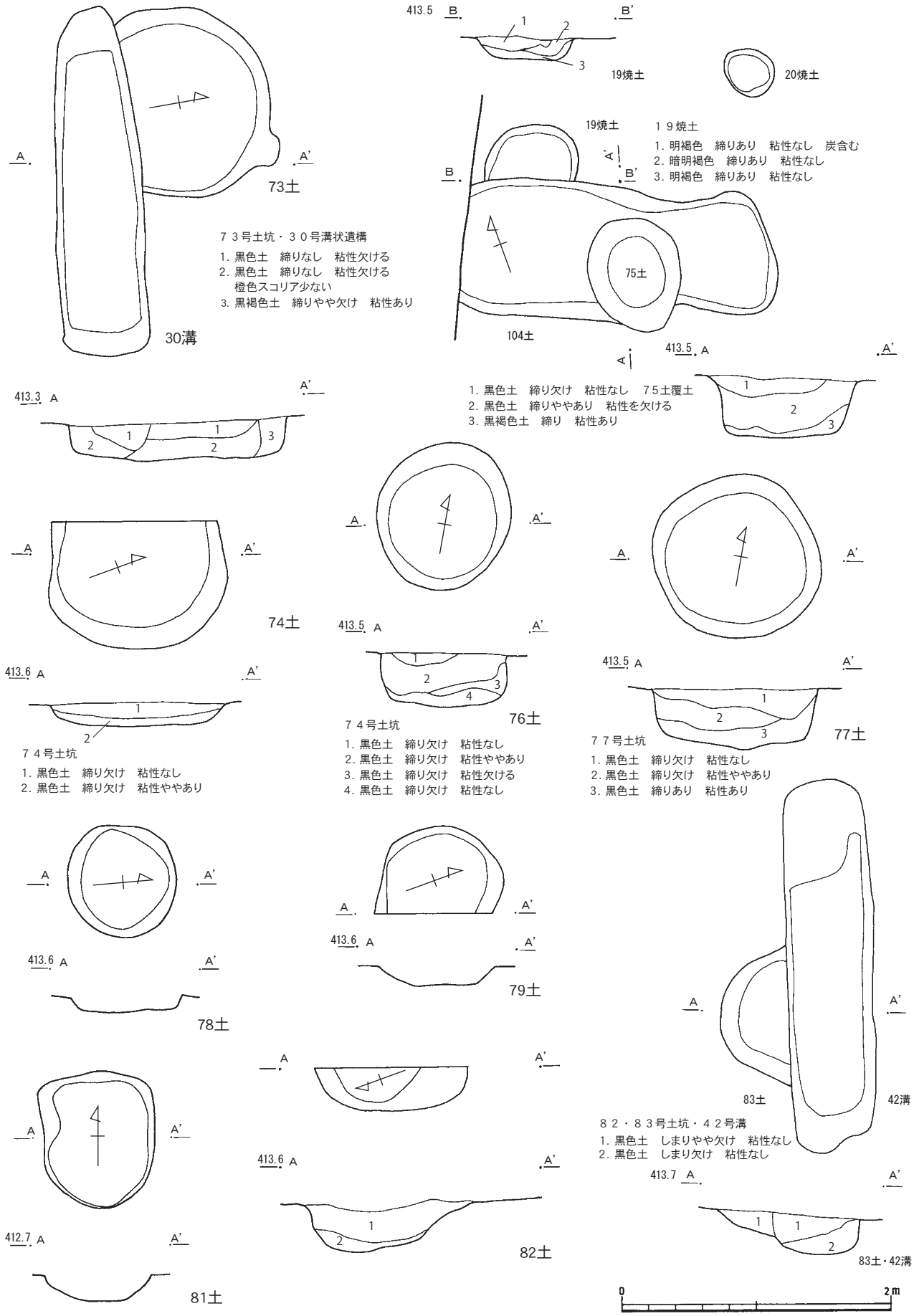
第 44 図　C 区　遺構平面図および断面図（29・30・33 ～ 36・39 ～ 44 号土坑、10・11 号溝状遺構）



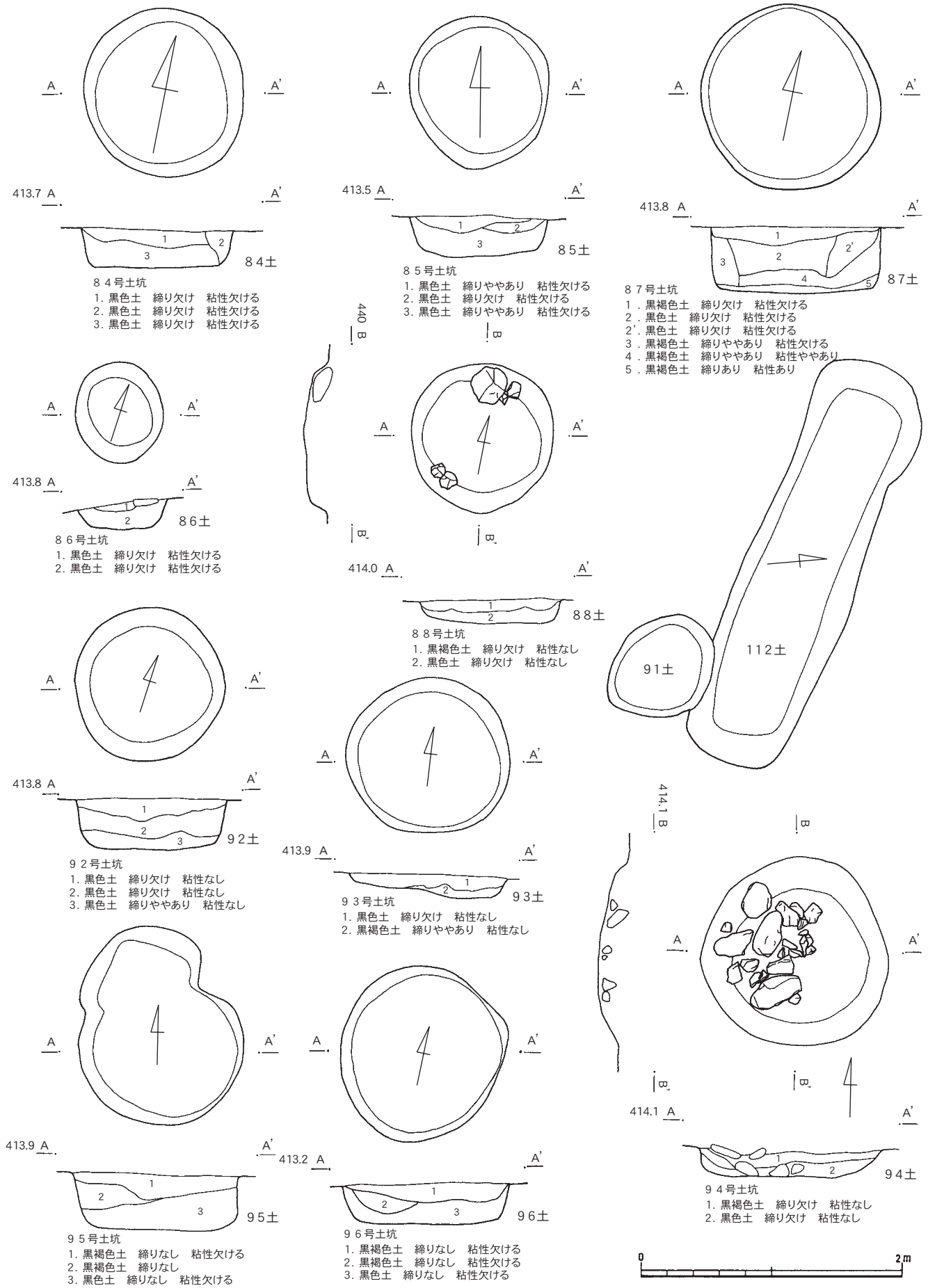
第 45 図　C 区　遺構平面図および断面図（45 号～ 56 号土坑）



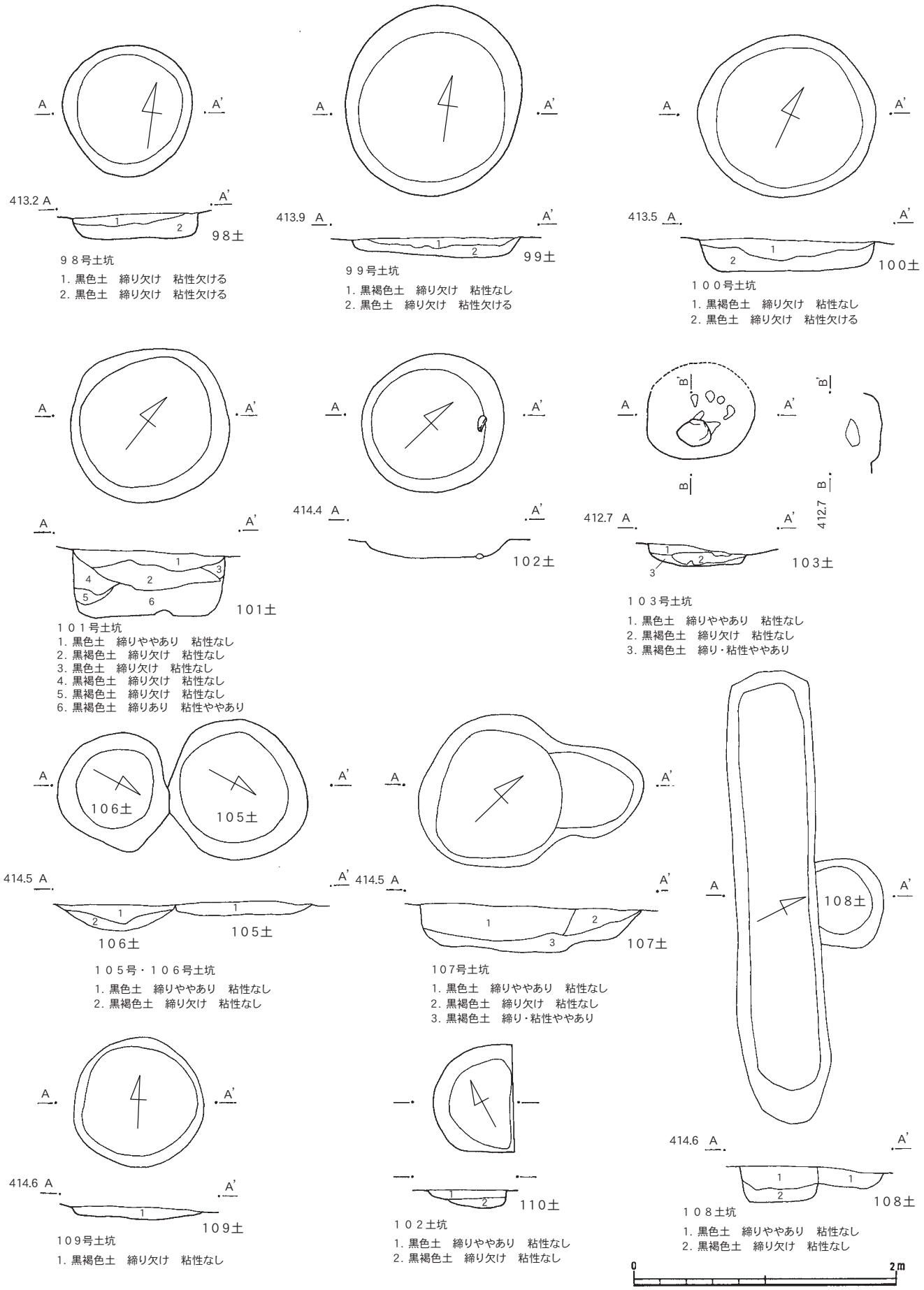
第 46 図　C 区　遺構平面図および断面図（57 号～ 67・69・72・89 号土坑）



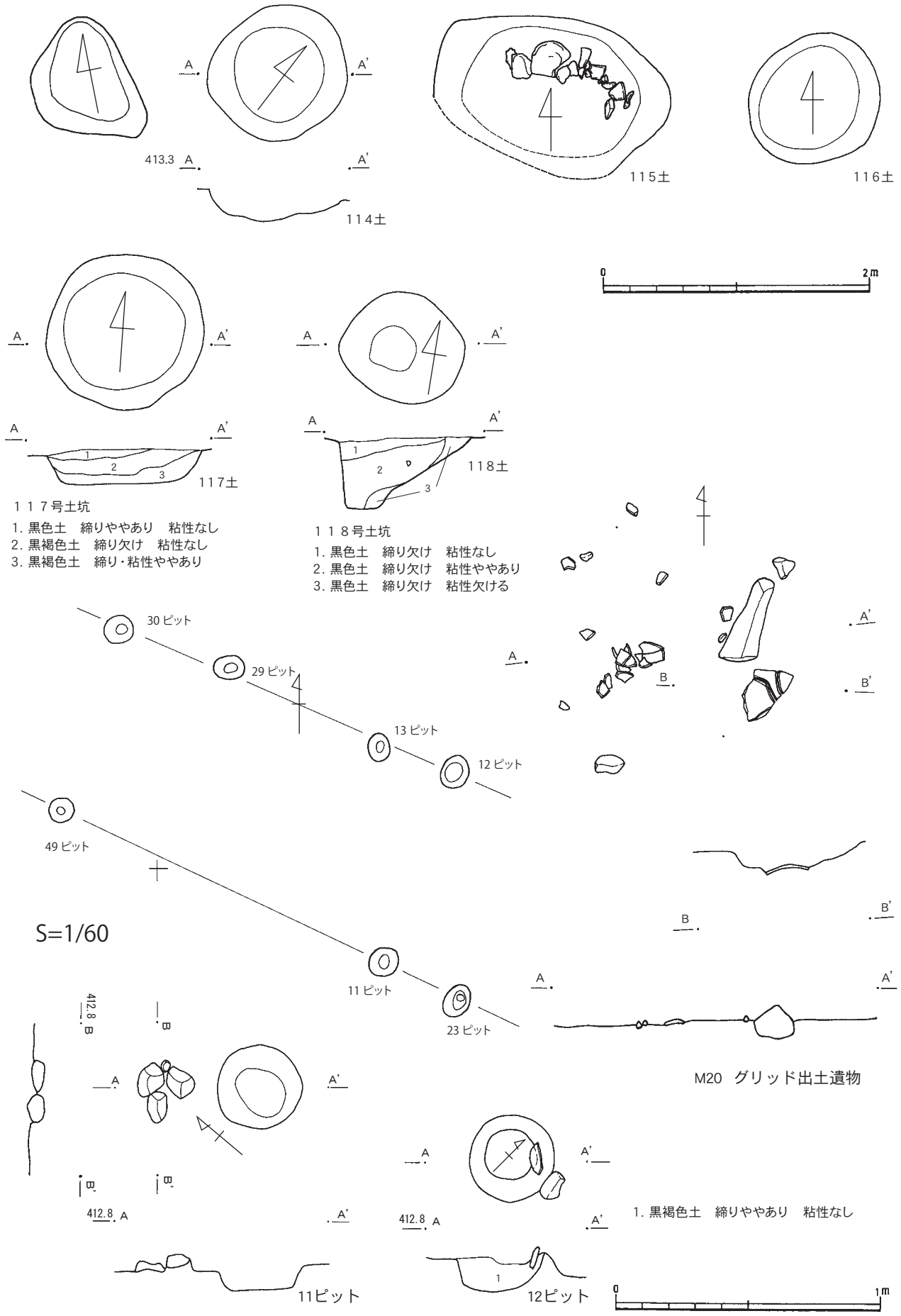
第 47 図　C 区　遺構平面図および断面図（73 号～ 79・81 ～ 83・104 号土坑、30・42 号溝状遺構）



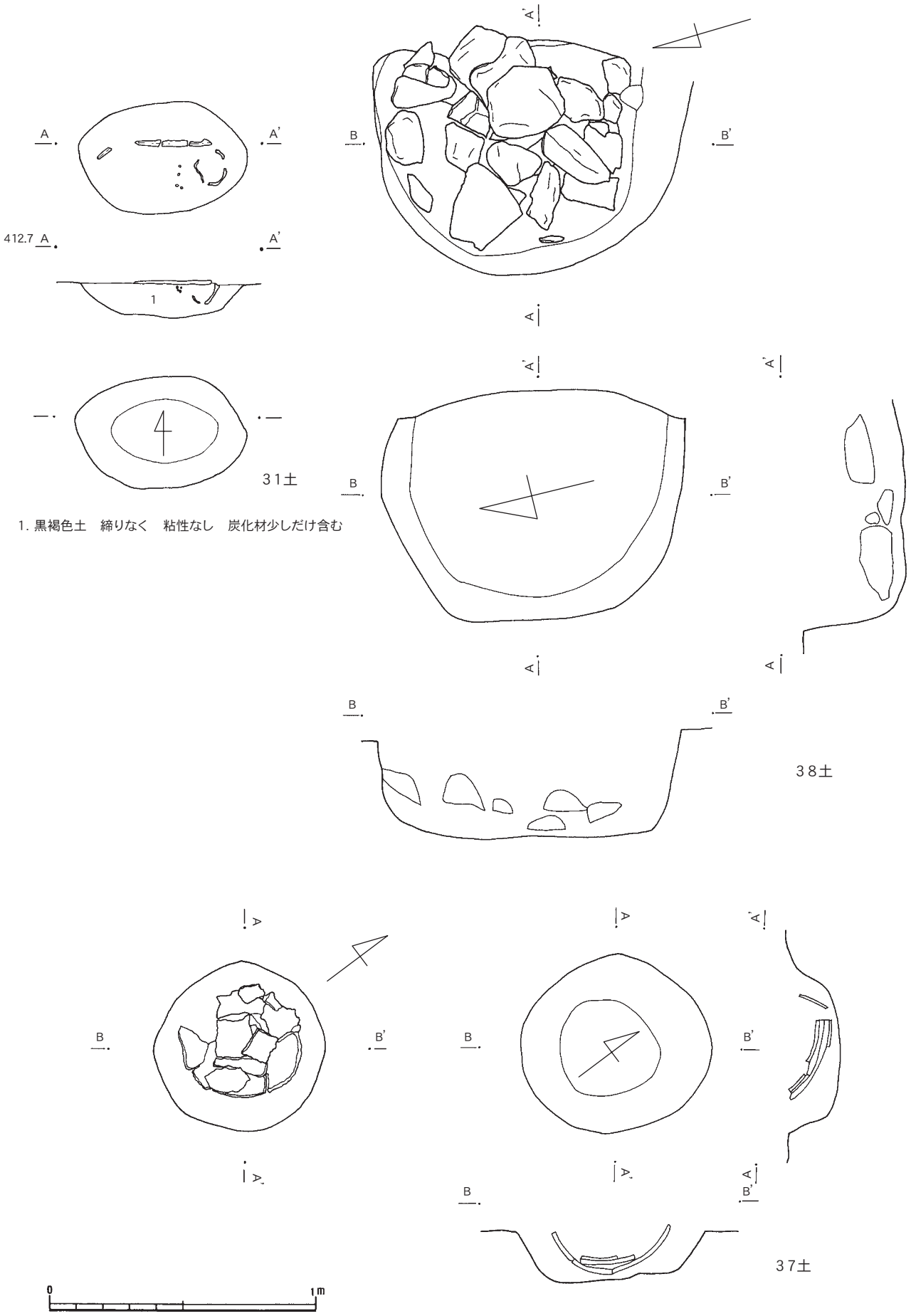
第 48 図　C 区　遺構平面図および断面図（84 号～ 88・91 ～ 96・112 号土坑）



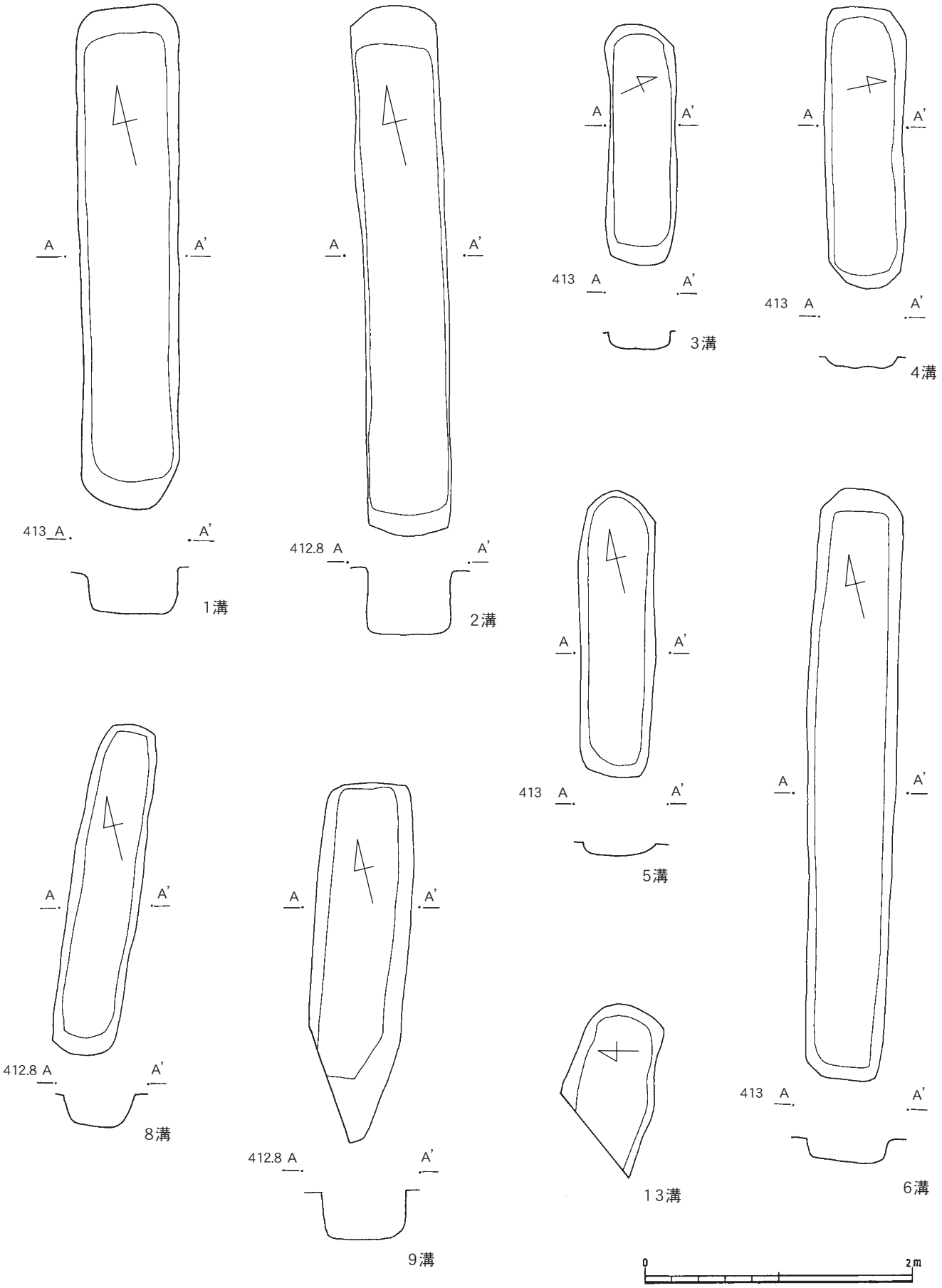
第 49 図　C 区　遺構平面図および断面図（98 号～ 103、105 ～ 110 号土坑、51 号溝状遺構）



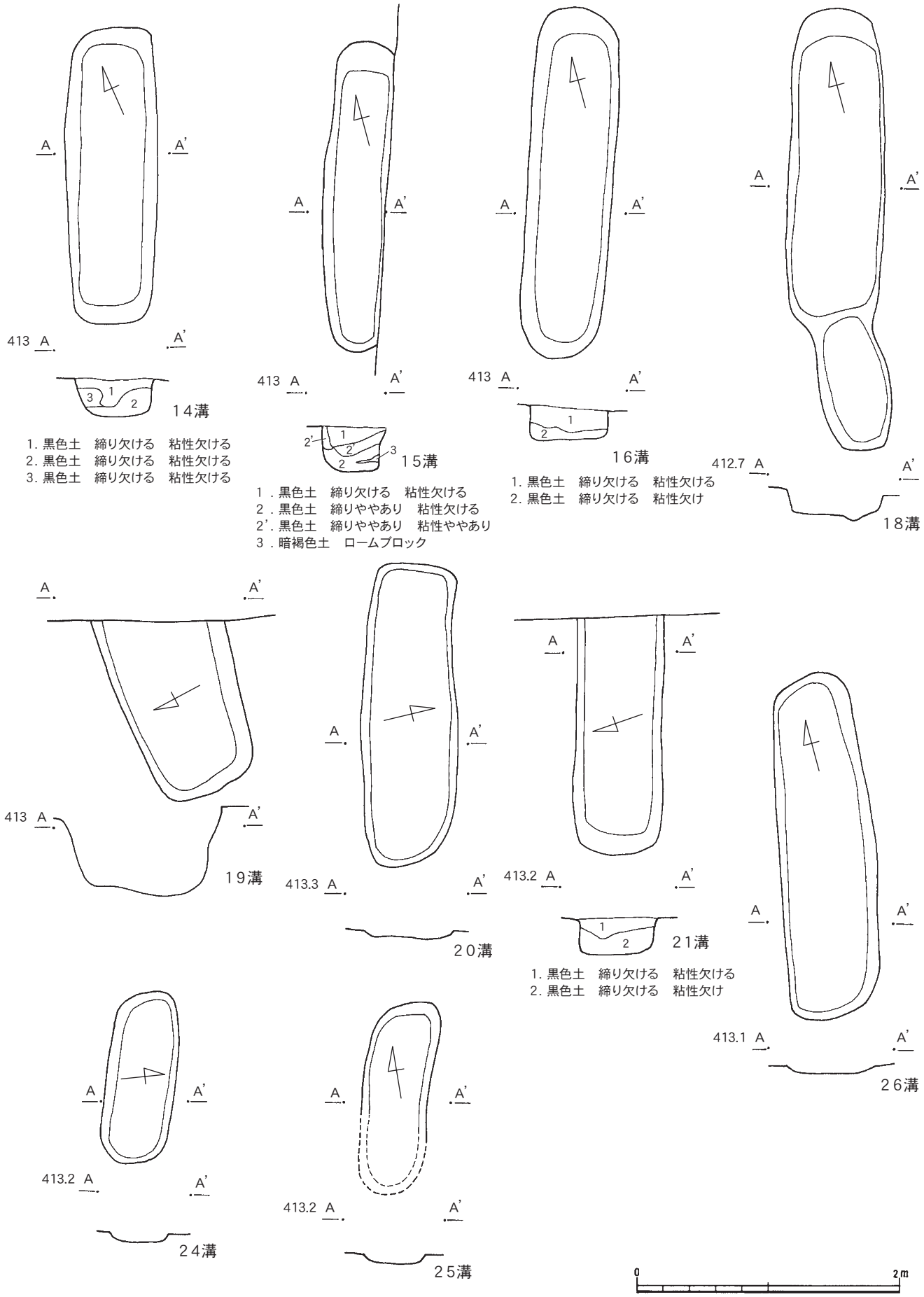
第 50 図　C 区　遺構平面図および断面図（113・114・116 ～ 118 号土坑、ピット群、M20 グリッド遺物）



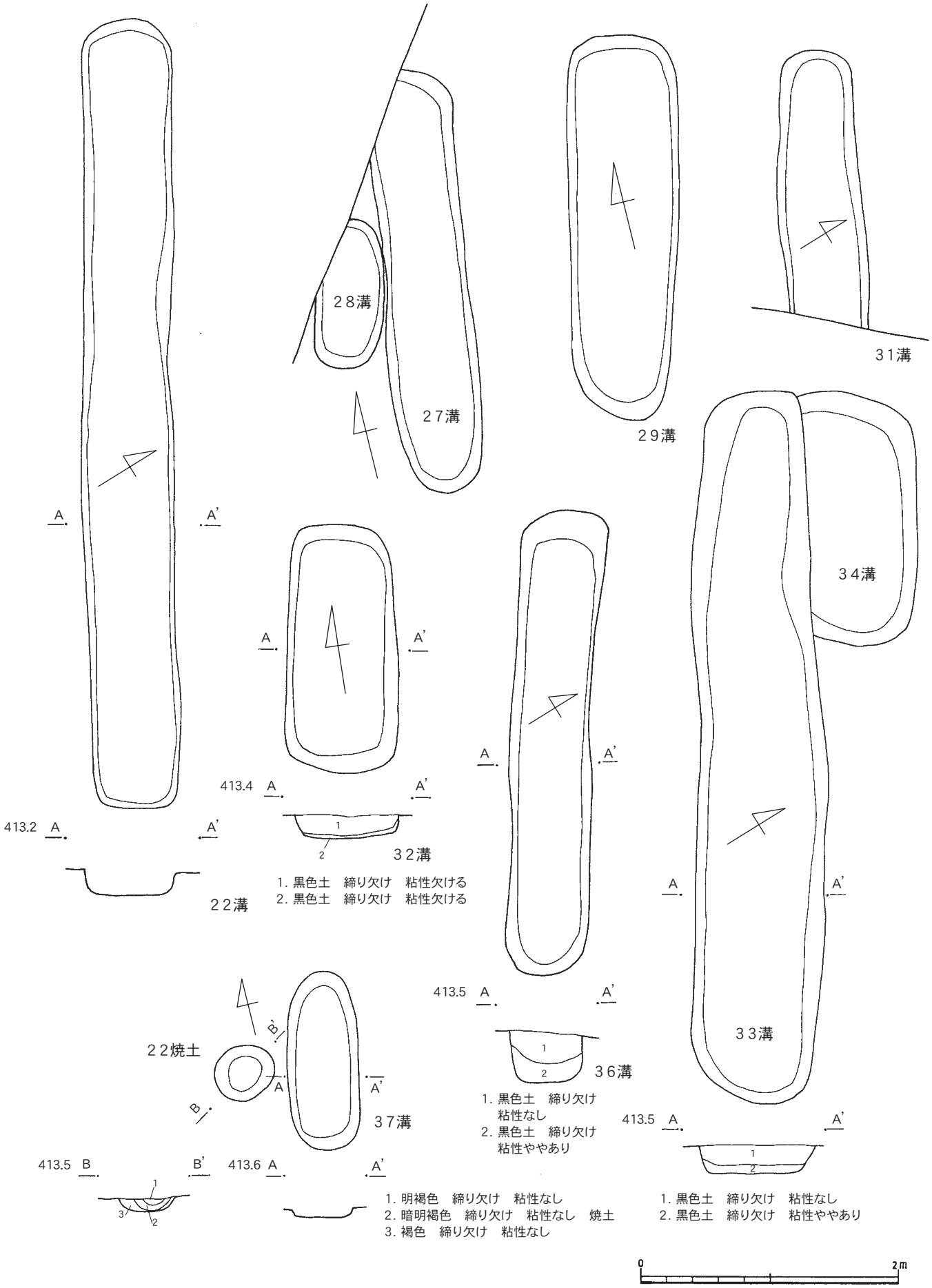
第 51 図　C 区　遺構平面図および断面図（31・37・38 号土坑）



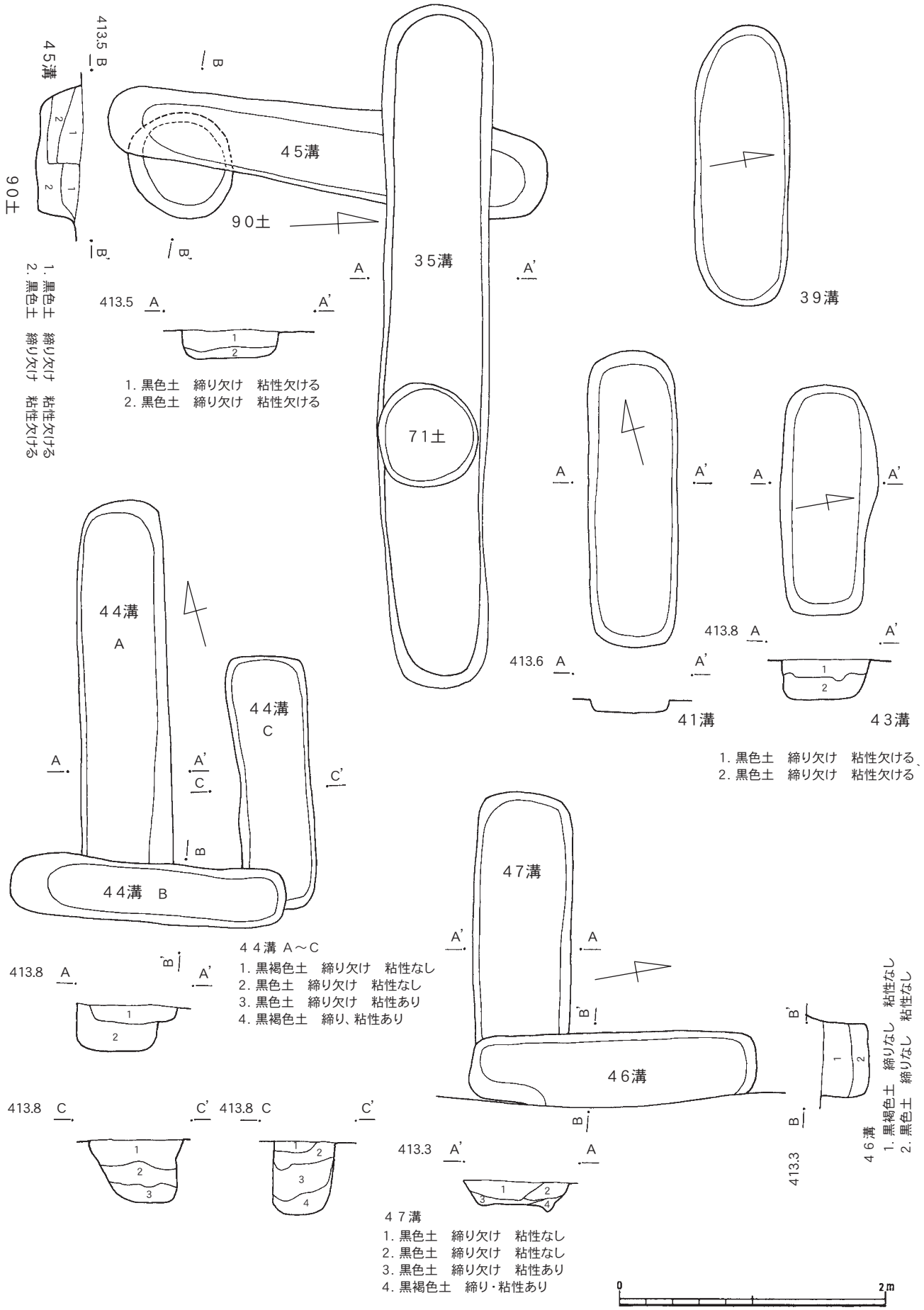
第 52 図　C 区　遺構平面図および断面図（1～6・8・9・13 号溝状遺構）



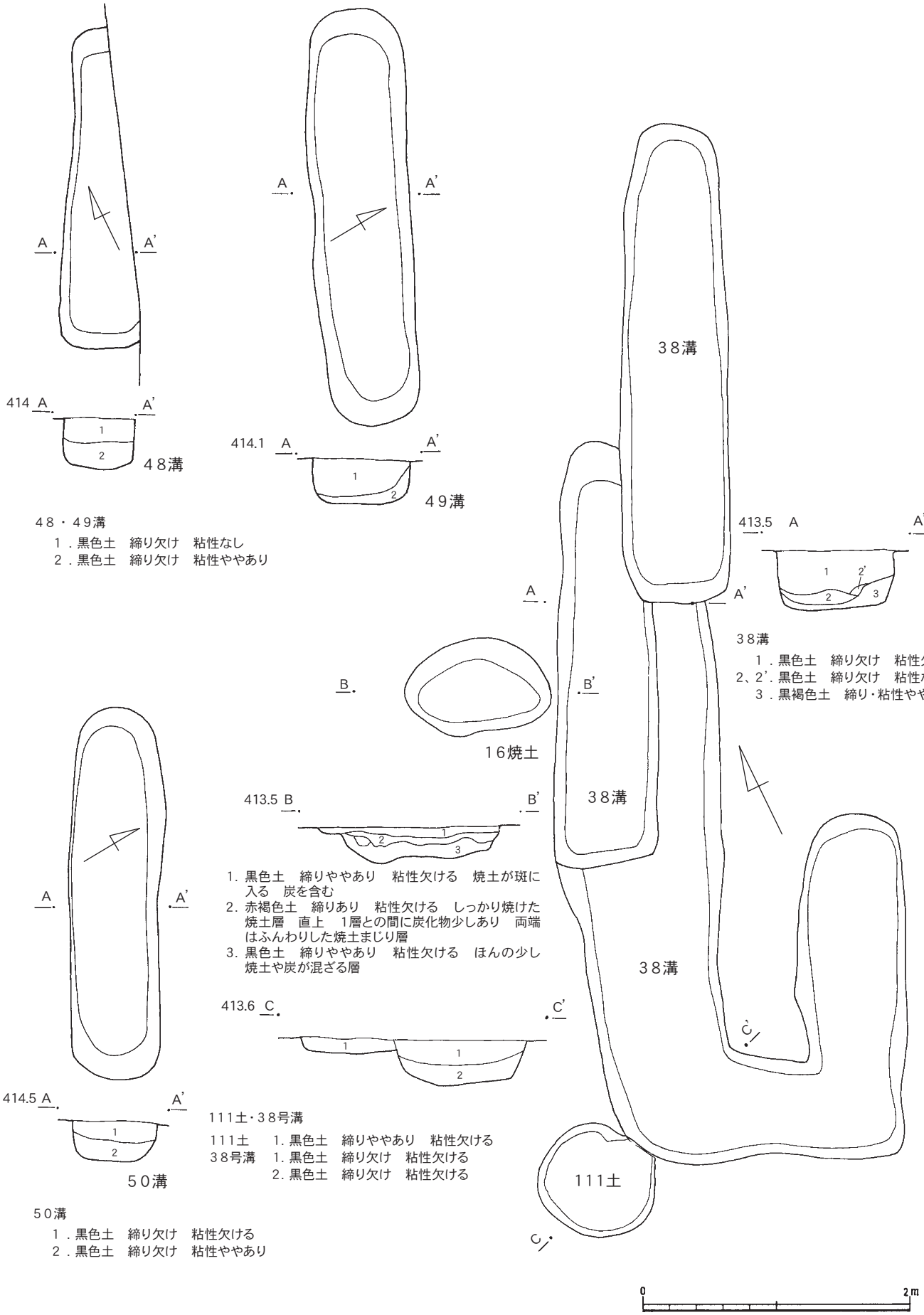
第 53 図　C 区　遺構平面図および断面図（14 ～ 16・18 ～ 21・24 ～ 26 号溝状遺構）



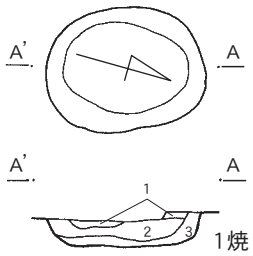
第 54 図　C 区　遺構平面図および断面図（22・27 ～ 29・31 ～ 34・36・37 号溝状遺構、22 号焼土遺構）



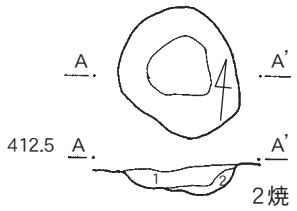
第 55 図　C 区　遺構平面図および断面図（35・39・41・43 ～ 47 号溝状遺構、71・90 号土坑）



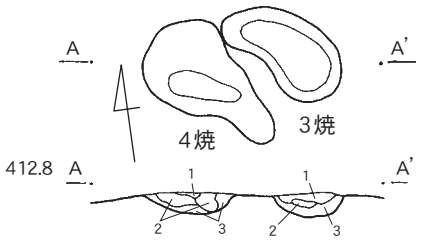
第 56 図　C 区　遺構平面図および断面図（38・48 ～ 50 号溝状遺構、111 号土坑、16 号焼土遺構）



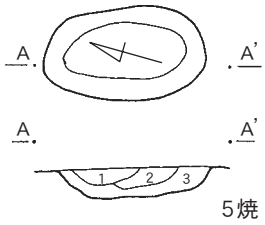
1. 暗赤褐色土　締り欠ける　粘性あり　炭化材少し含む　焼土が斑に入る
2. 赤褐色土　焼土層　締りあり　粘性欠ける
3. 暗褐色土　締りあり　粘性あり　焼土粒子ほんの少し入る



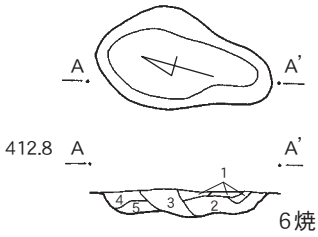
1. 赤褐色土　締り欠け　粘性なし
2. 暗褐色土　締り欠け　粘性ややあり



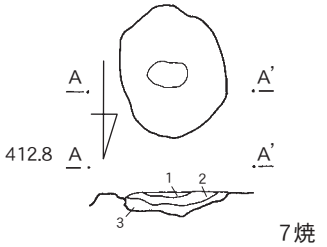
1. 極暗褐色土　締り欠ける　粘性なし　焼土が混ざり炭化材含む
2. 赤褐色土　締り欠ける　粘性なし　焼土層
3. 黒色土　締り欠ける　粘性なし



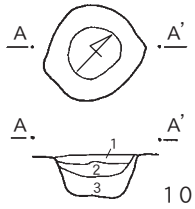
1. 黒色土　締り欠ける　粘性なし
2. 赤褐色土　締り欠ける　粘性なし
3. 黒褐色土　締り欠ける　粘性なし



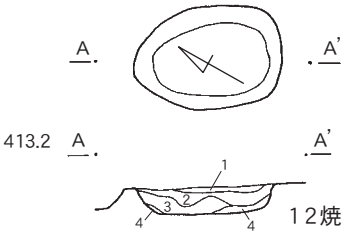
1. 黒色土　締り欠ける　粘性なし
2. 赤褐色土　締り欠ける　粘性なし
3. 黒褐色土　締り欠ける　粘性なし
4. 暗褐色土　締り・粘性ややあり
5. 黒褐色土　締り・粘性やや欠ける



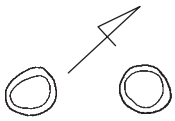
1. 黒色土　締り欠ける　粘性なし
2. 赤褐色土　締り欠ける　粘性なし
3. 黒褐色土　締り欠ける　粘性なし

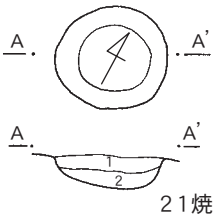


1. 黒褐色土　締り欠ける　粘性なし　焼土まじり
2. 極暗褐色土　締り欠ける　粘性なし　焼土
3. 黒色土　締り欠ける　粘性なし

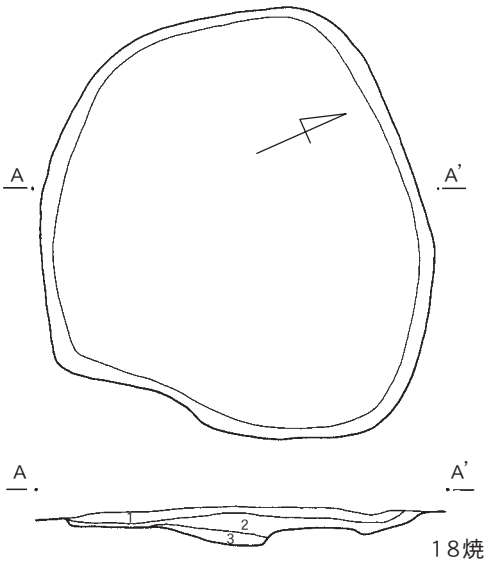


1. 黒色土　締り欠ける　粘性なし
2. 赤褐色土　締り欠ける　粘性なし
3. 黒褐色土　締り欠ける　粘性なし
4. 暗褐色土　締り・粘性ややあり
5. 黒褐色土　締り・粘性やや欠ける



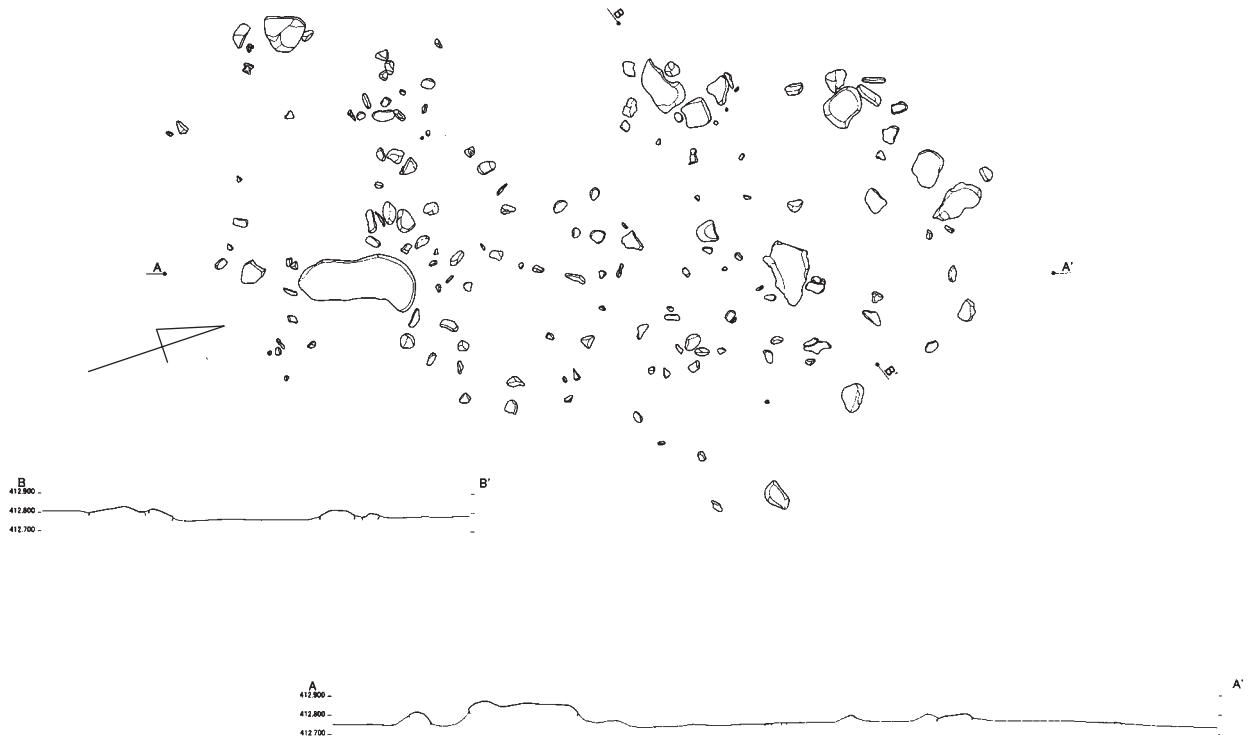


1. 黒色土　締り欠け　粘性欠ける　少し焼土ちる
2. 赤褐色土　締りややあり　粘性欠ける　灰含む

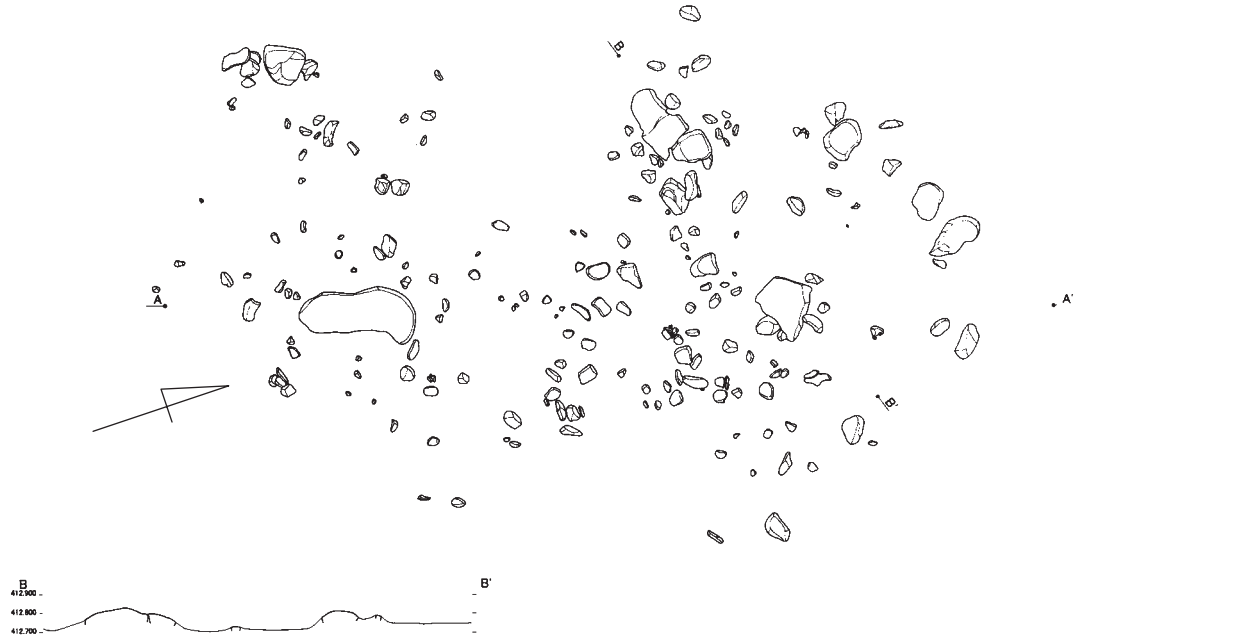


1. 黒色土　締り欠け　粘性なし　焼土・炭化材の混ざる黒色土　1.5㎝～2㎝くらいの炭があったりする　焼けた感じは少ないが焼土が広がる
2. 黒色土　締り欠け　粘性なし　直径2㎜くらいの橙色スコリア15％くらい　弥生の土が少し混ざっているせいか黄色く見えるが炭をほんの少し含む

第57図　C区　遺構平面図および断面図（1～7・10・12～14・17・18・23・24号焼土遺構）

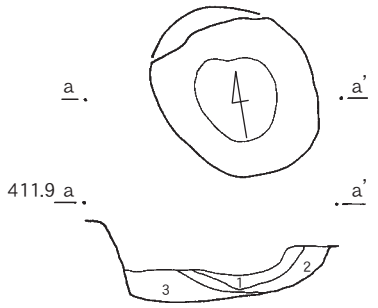


1配石1面



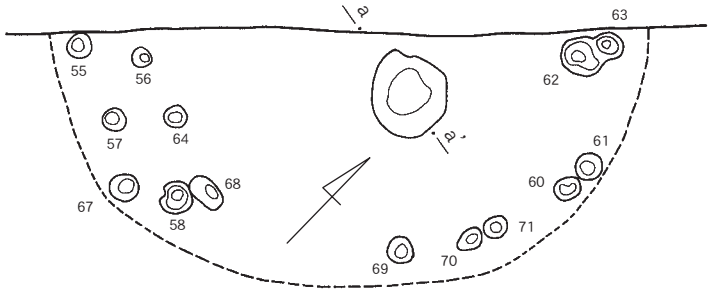
1配石2面

第58図　C区　遺構平面図および断面図（1号配石遺構1面・2面）



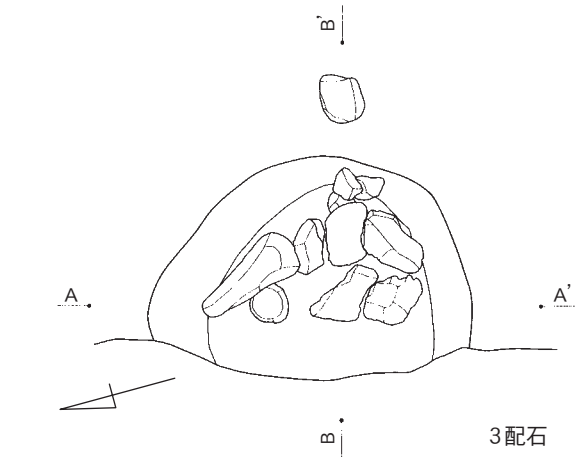
1配石内焼土（11焼土）

1. 暗赤褐色土　締り・粘性欠ける
2. 暗赤褐色土　締り・粘性欠ける
3. 暗褐色土　締り欠け　粘性ややあり

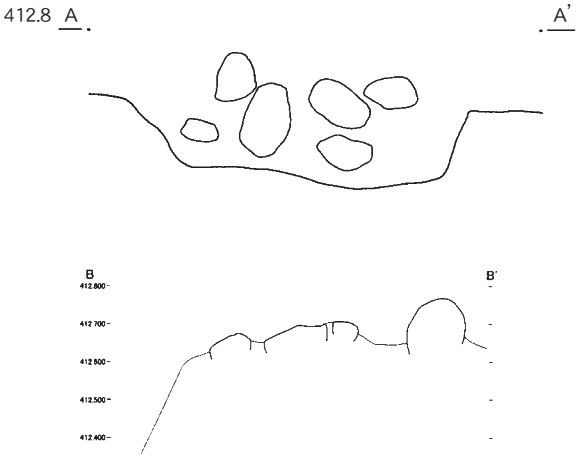


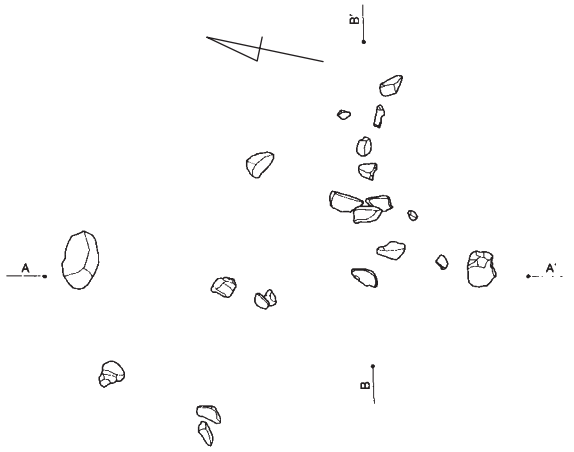
1配石ピット群

2配石

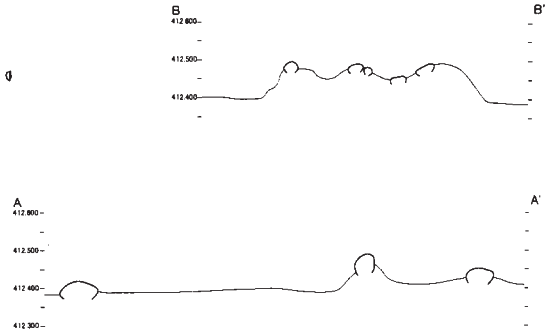


3配石

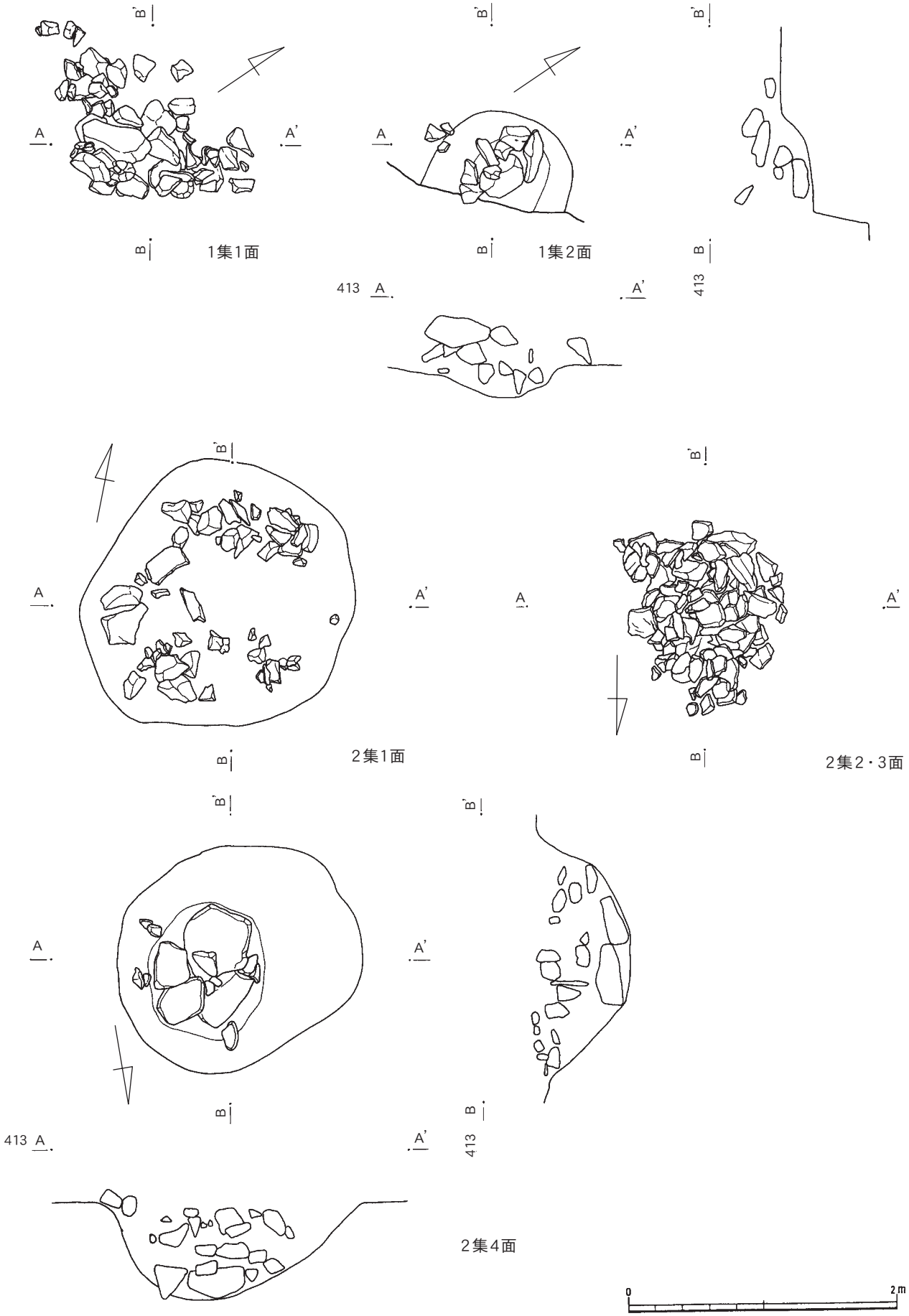




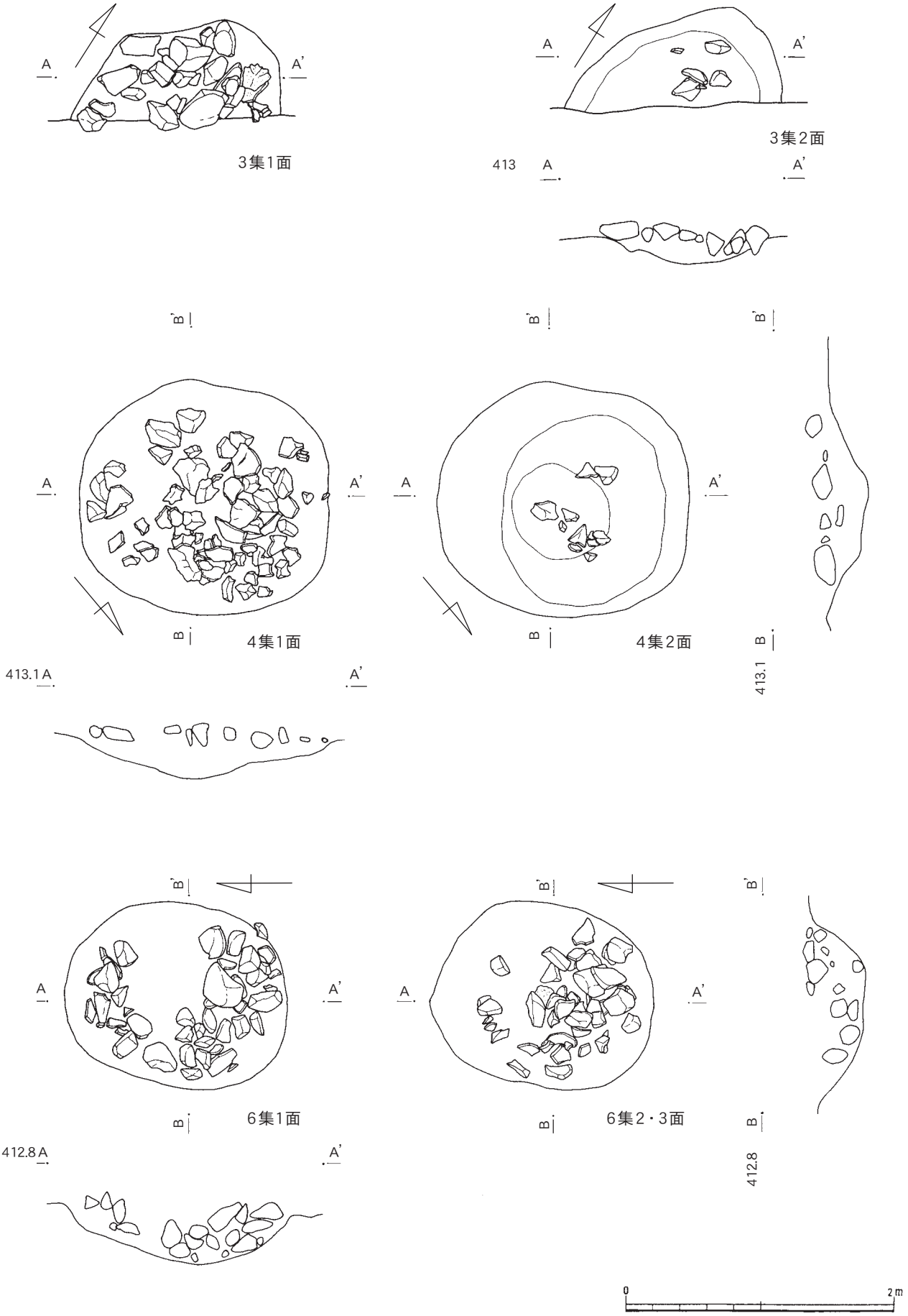
4配石



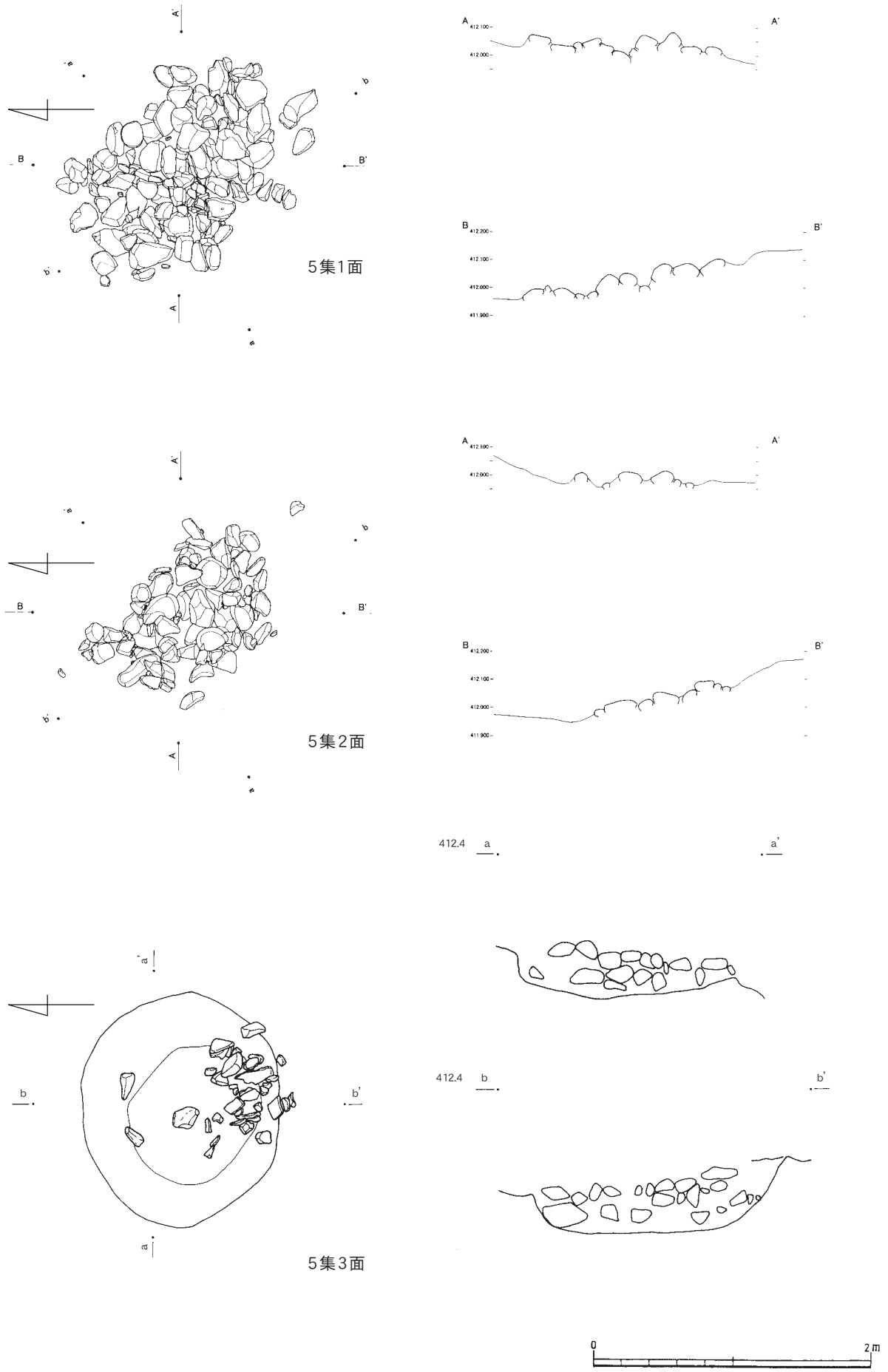
第 59 図　C 区　遺構平面図および断面図（1 号配石遺構 3 面、11 号焼土、2・3・4 号配石遺構）



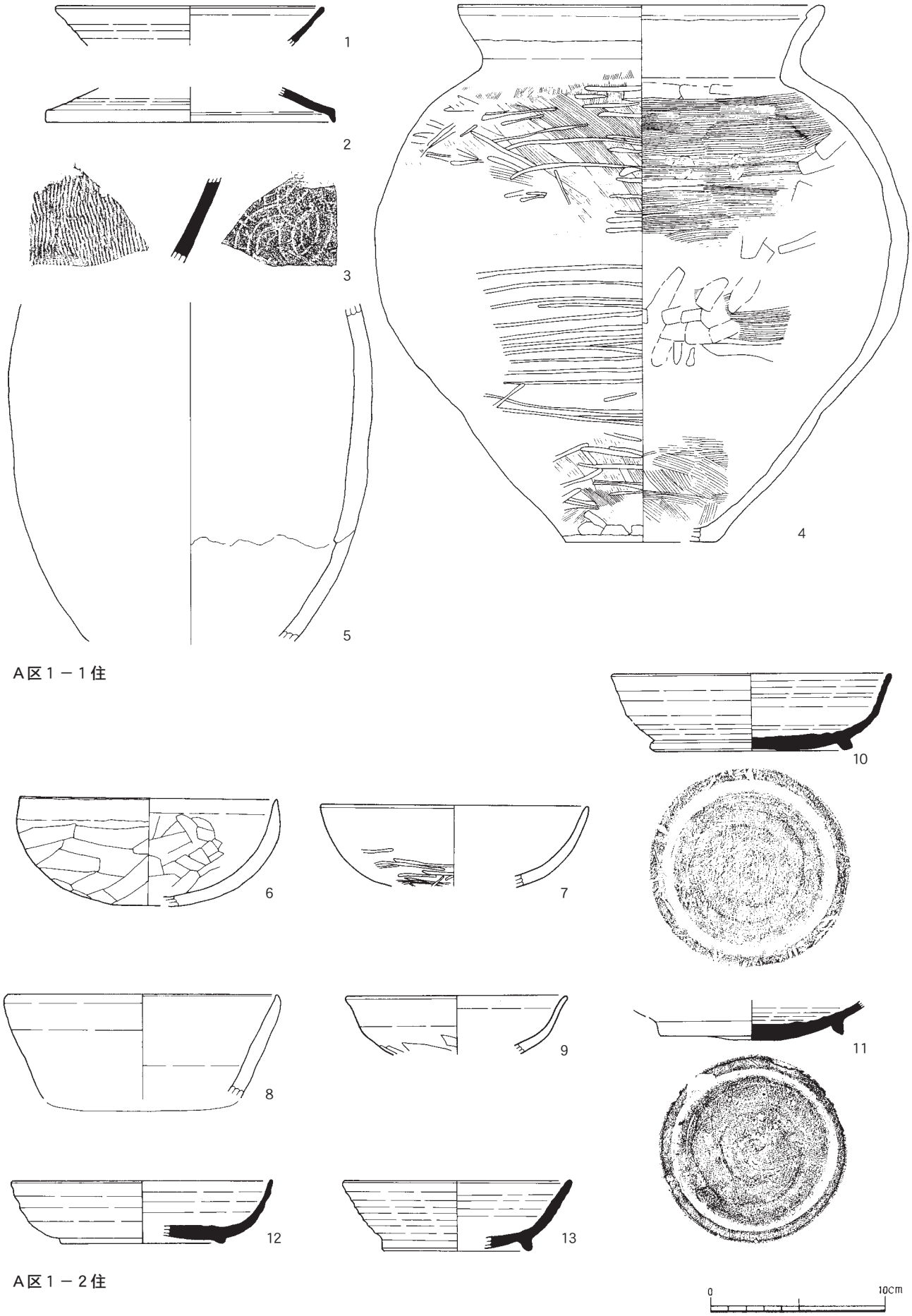
第 60 図　C 区　遺構平面図および断面図（1・2号集石土坑）



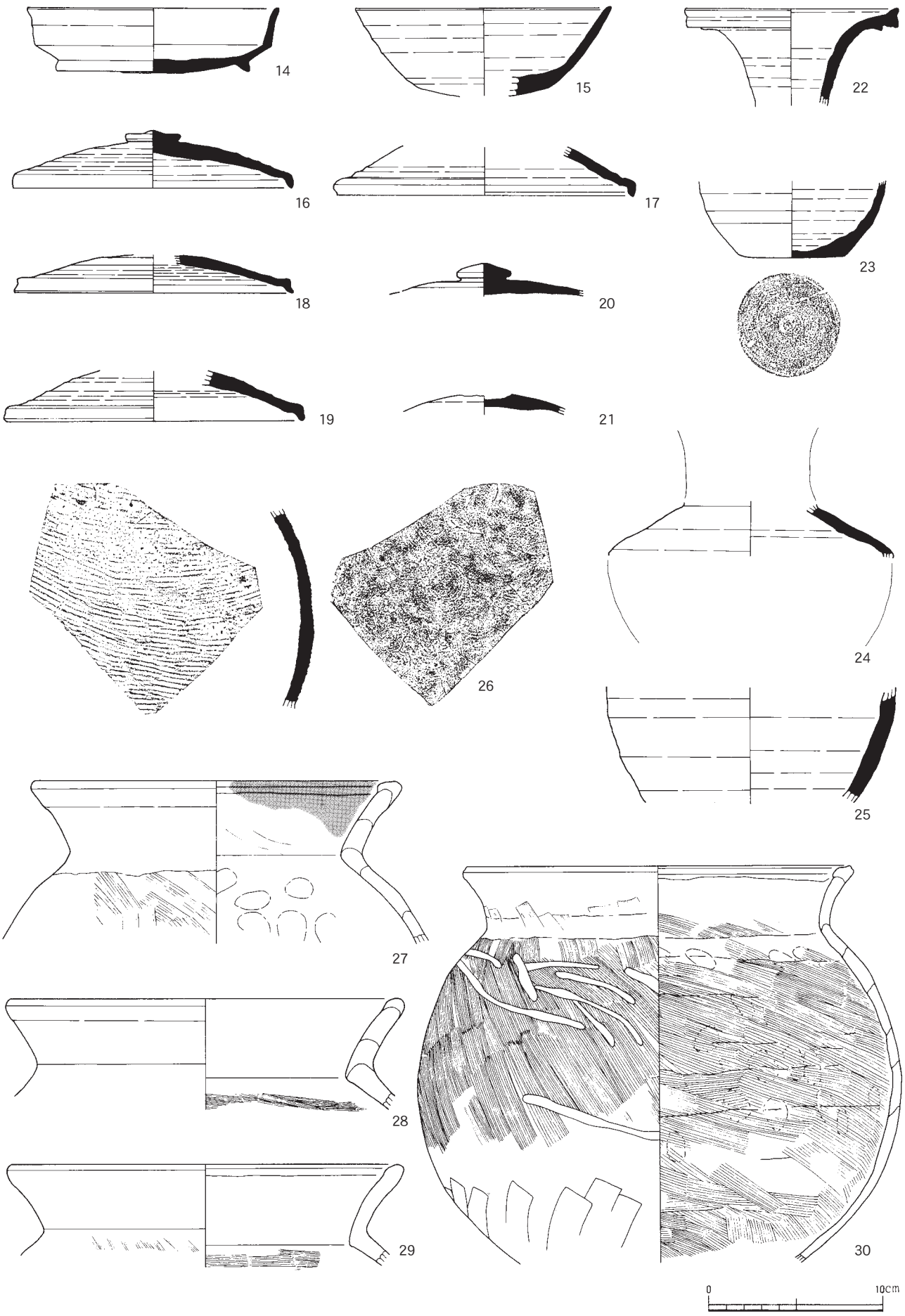
第 61 図　C 区　遺構平面図および断面図（3・4・6号集石土坑）



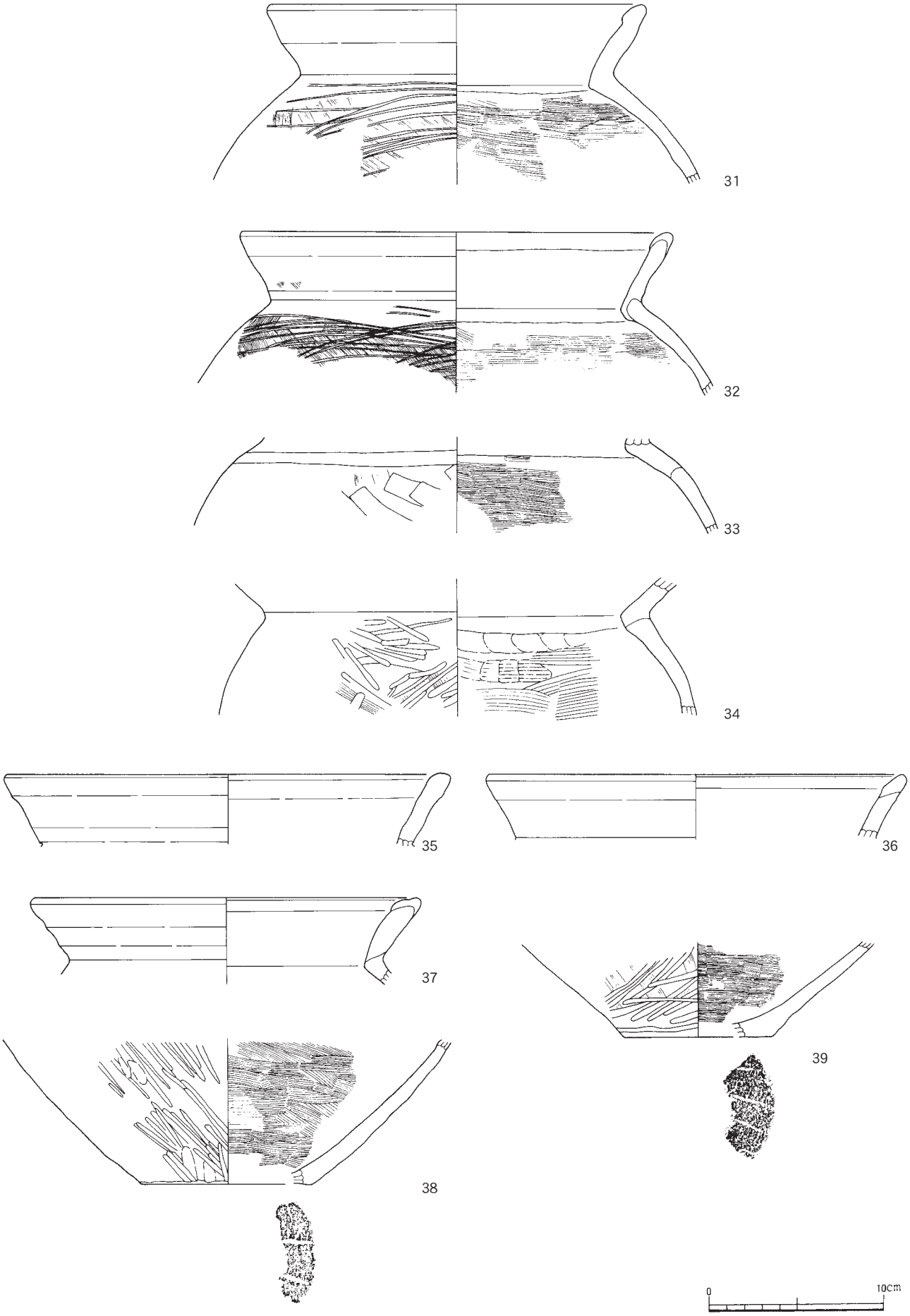
第 62 図　C 区　遺構平面図および断面図（5 号集石土坑）



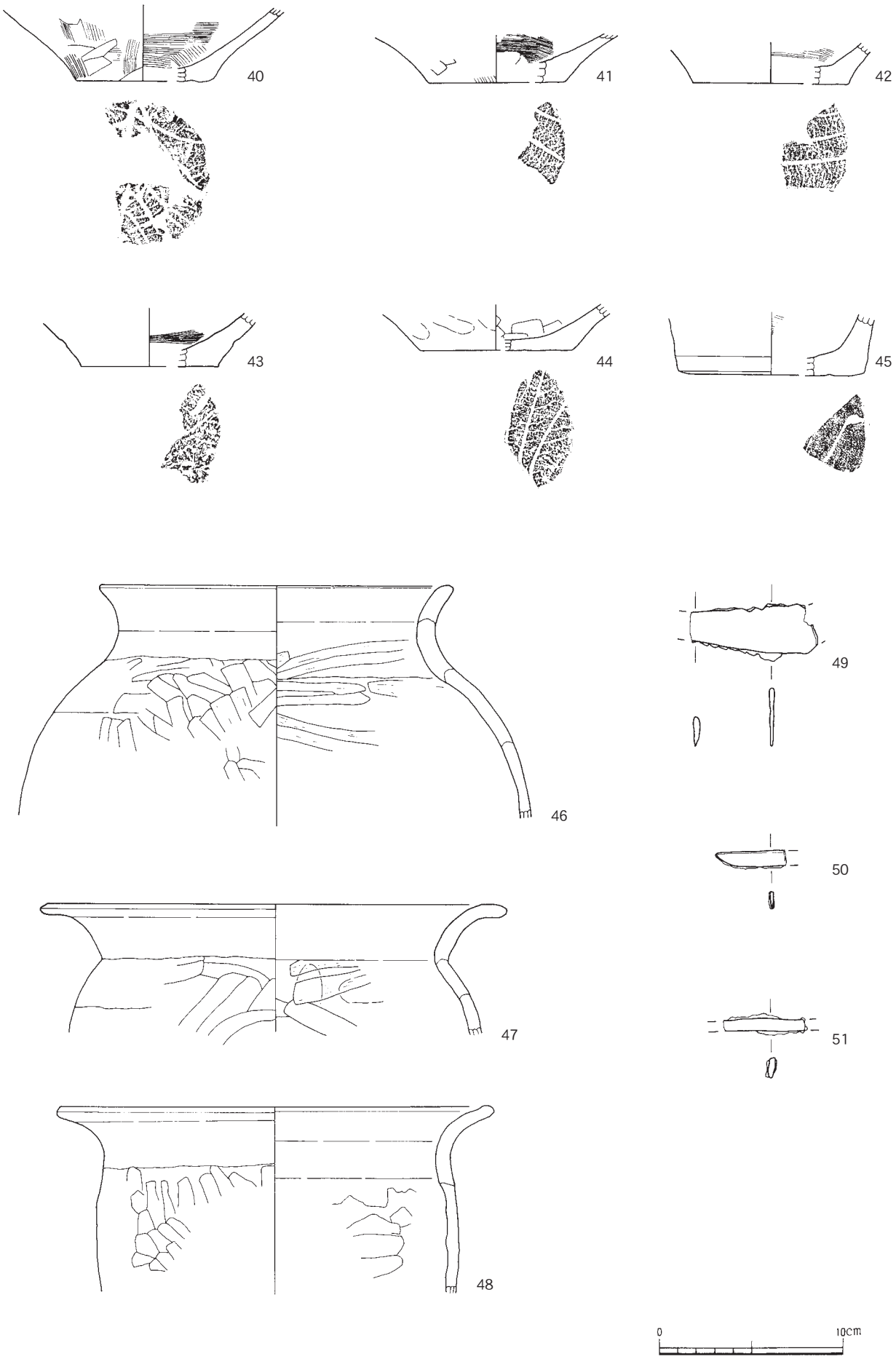
第 63 図　A 区 1　出土遺物（1 号住居跡・2 号住居跡）



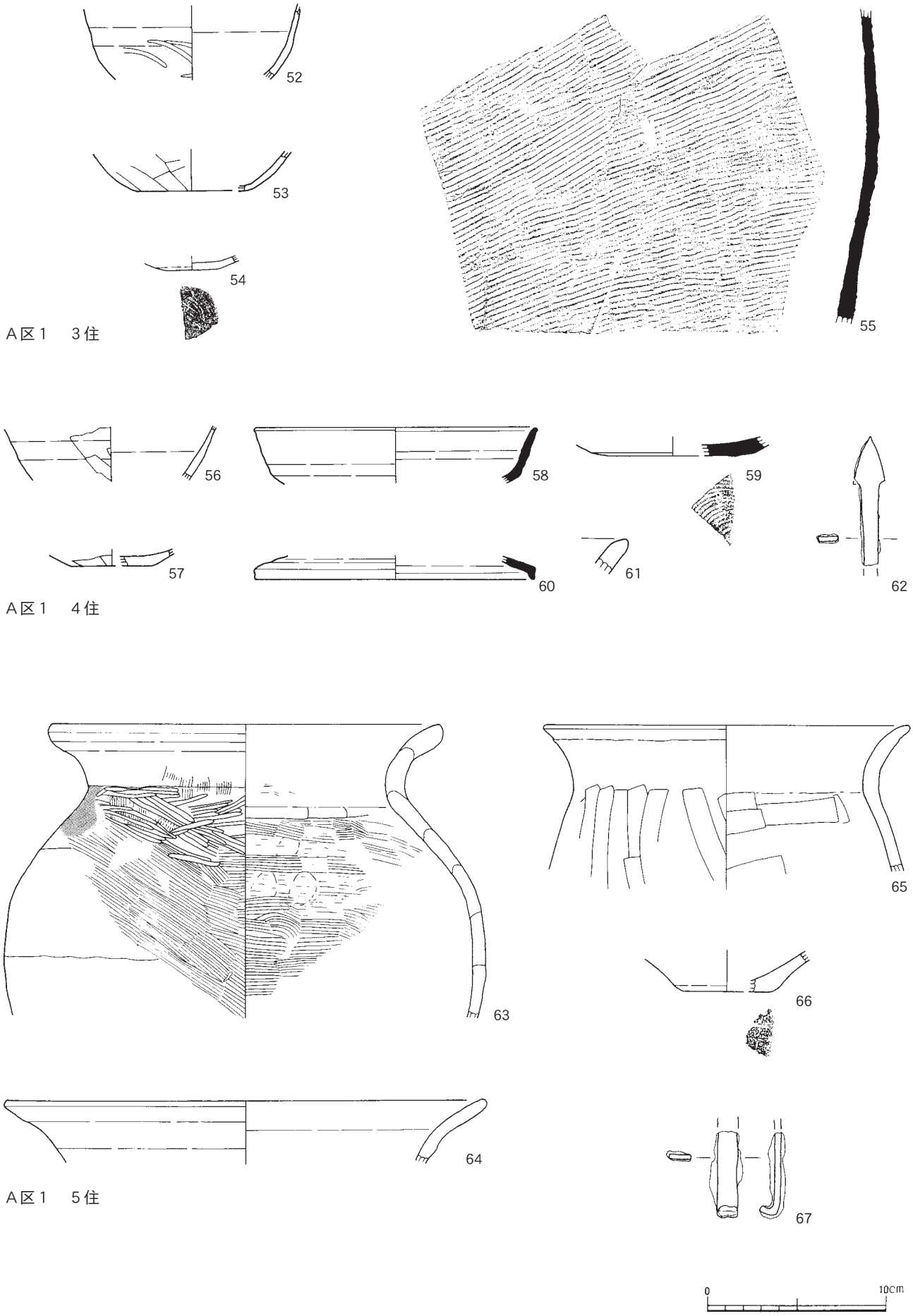
第 64 図　A 区 1　出土遺物（2 号住居跡）



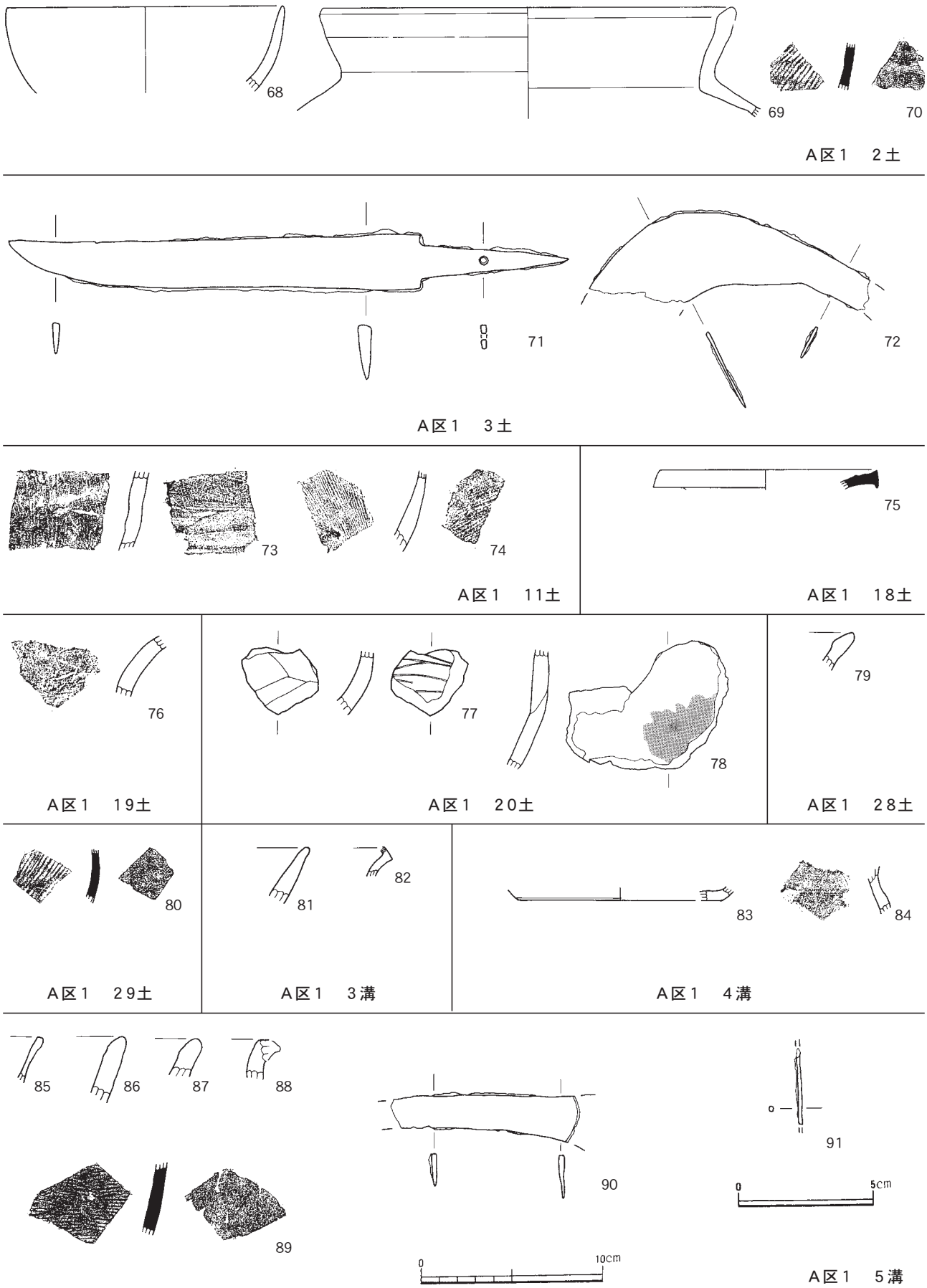
第65図　A区1　出土遺物（2号住居跡）



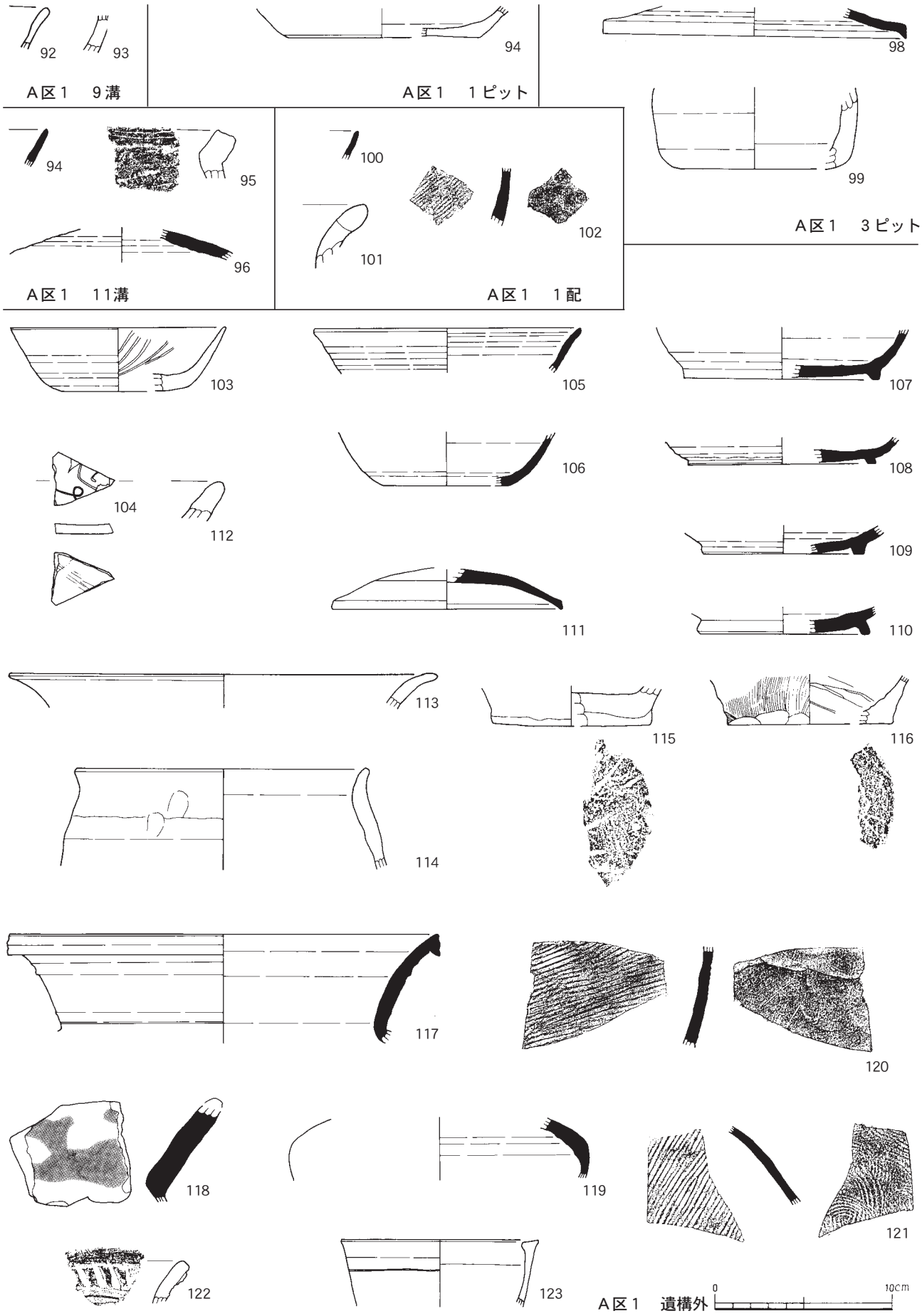
第 66 図　A 区 1　出土遺物（2 号住居跡）



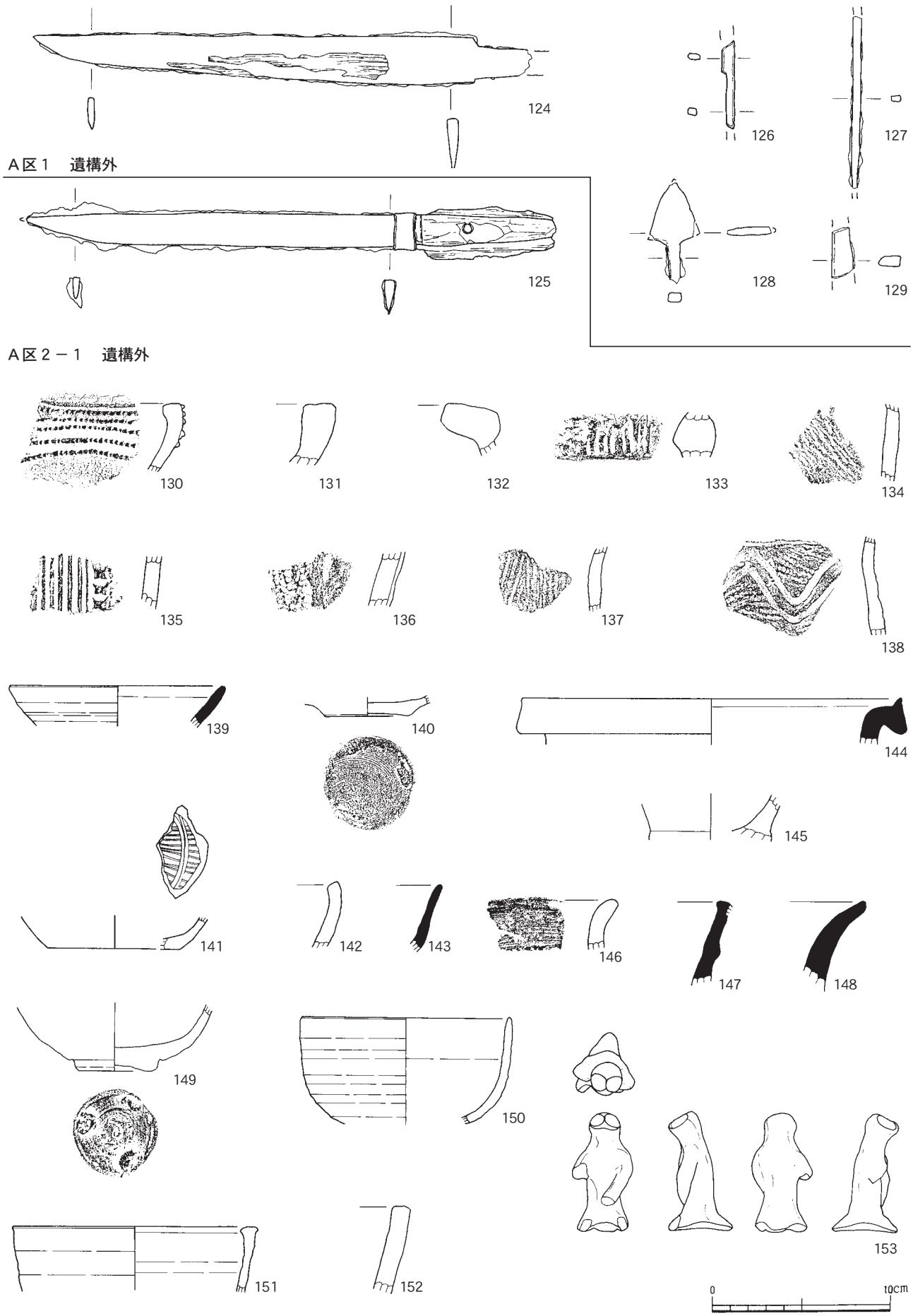
第67図　A区1　出土遺物（3号～5号住居跡）



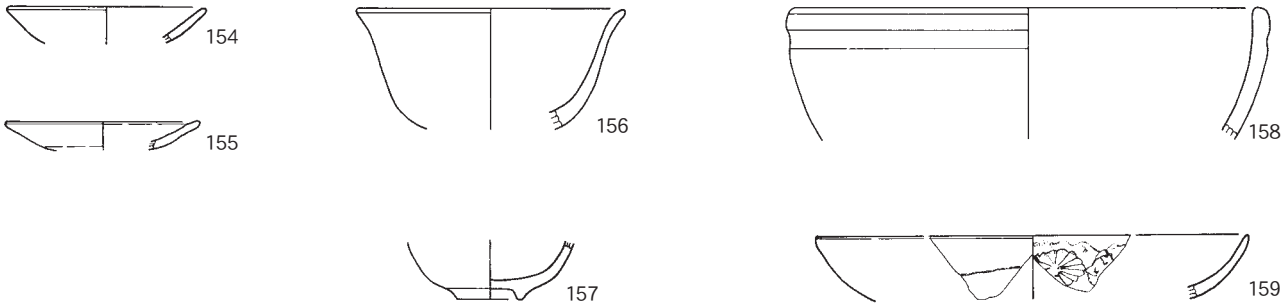
第68図　A区1　出土遺物（2・3・11・18～20・28・29号土坑、3・4・5号溝状遺構）



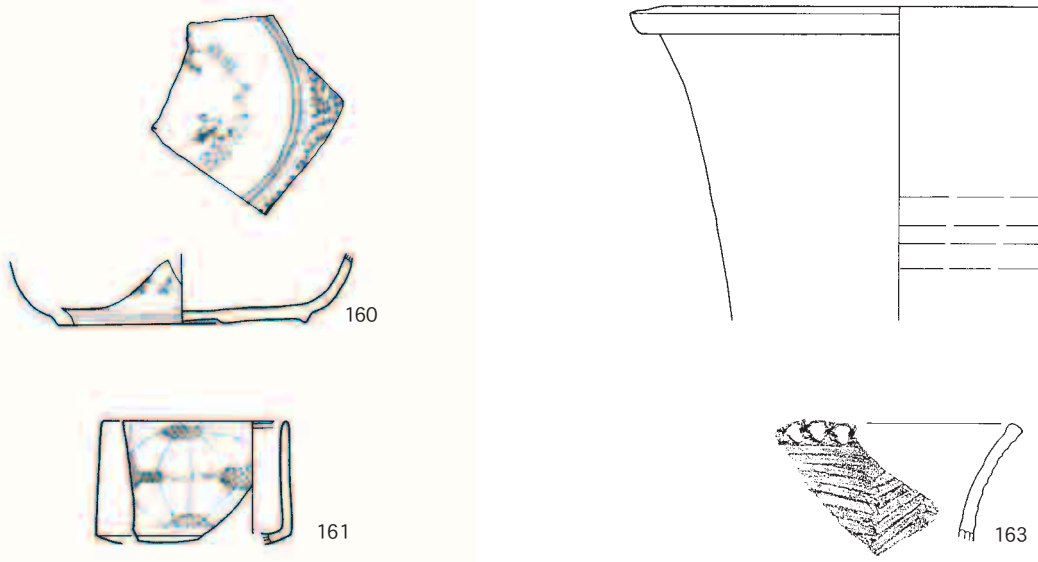
第69図　A区1　出土遺物（9・11号溝状遺構、1・3ピット、1号配石遺構、遺構外）



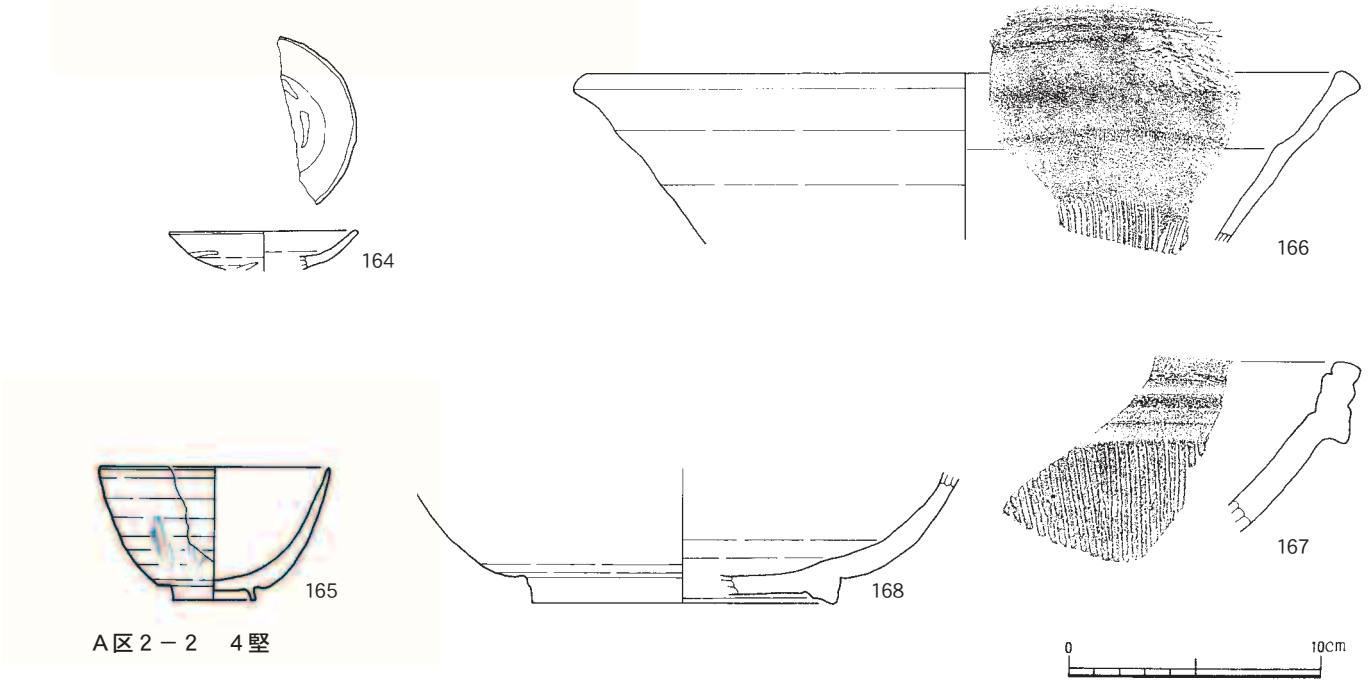
第 70 図　A 区 1・A 区 2-1　出土遺物（遺構外）



A区２－２　１土

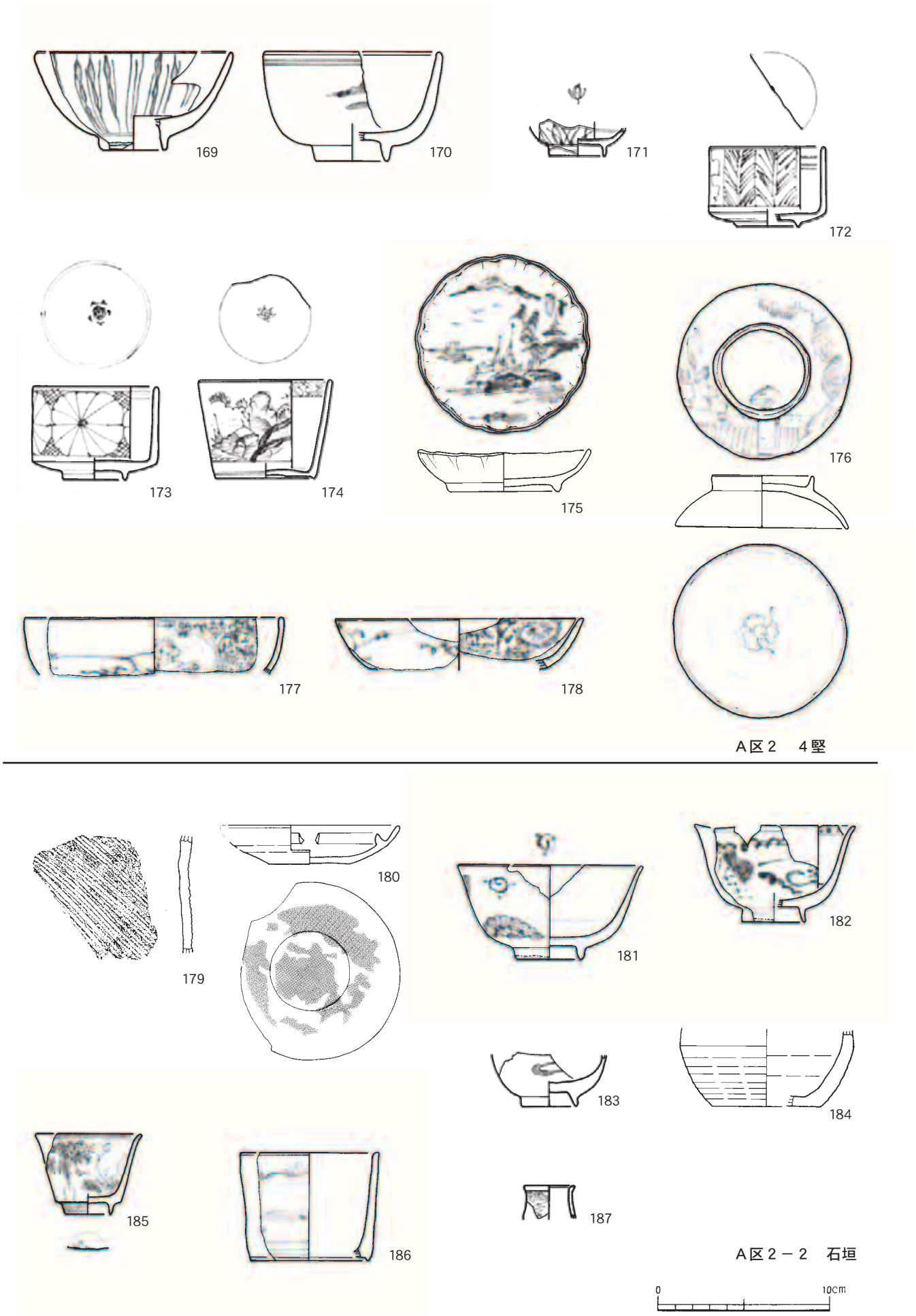


A区２－２　３竪

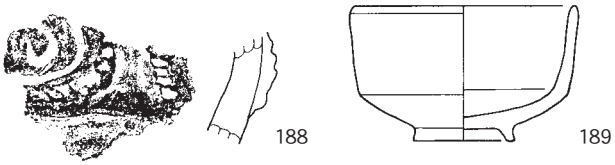


A区２－２　４竪

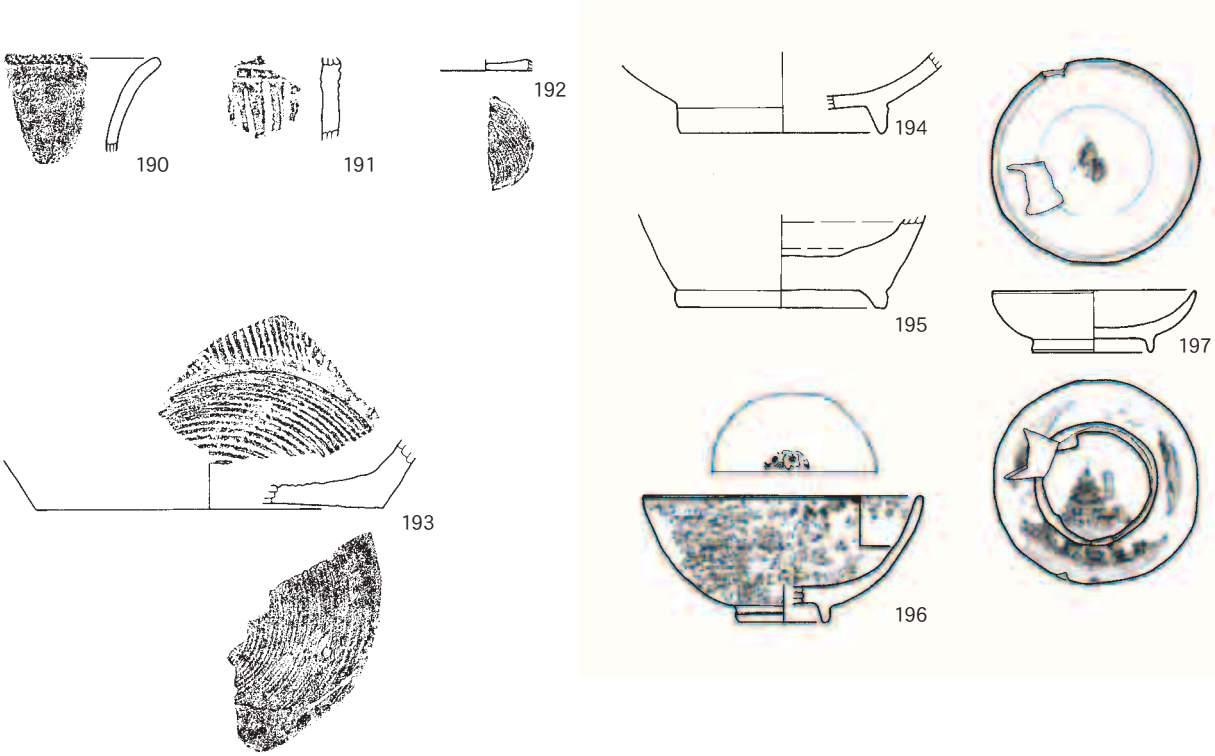
第 71 図　A 区 2-2　出土遺物（１号土坑、３・４号竪穴遺構）



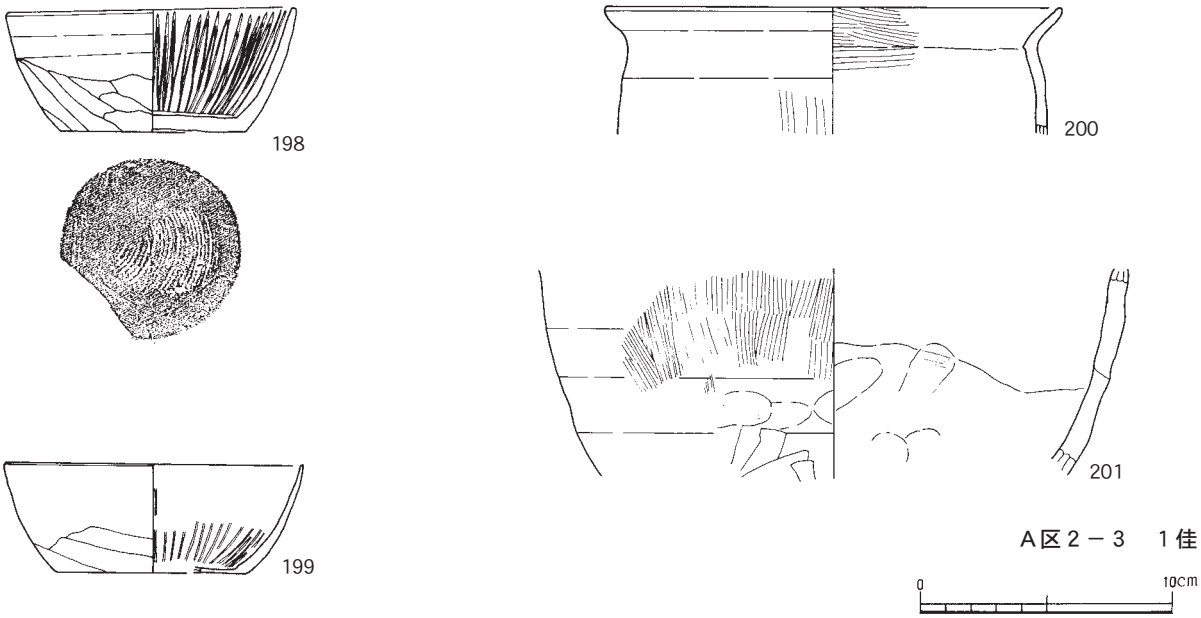
第 72 図　A 区 2-2　出土遺物（4 号竪穴遺構、石垣）



A区２－２　溜池

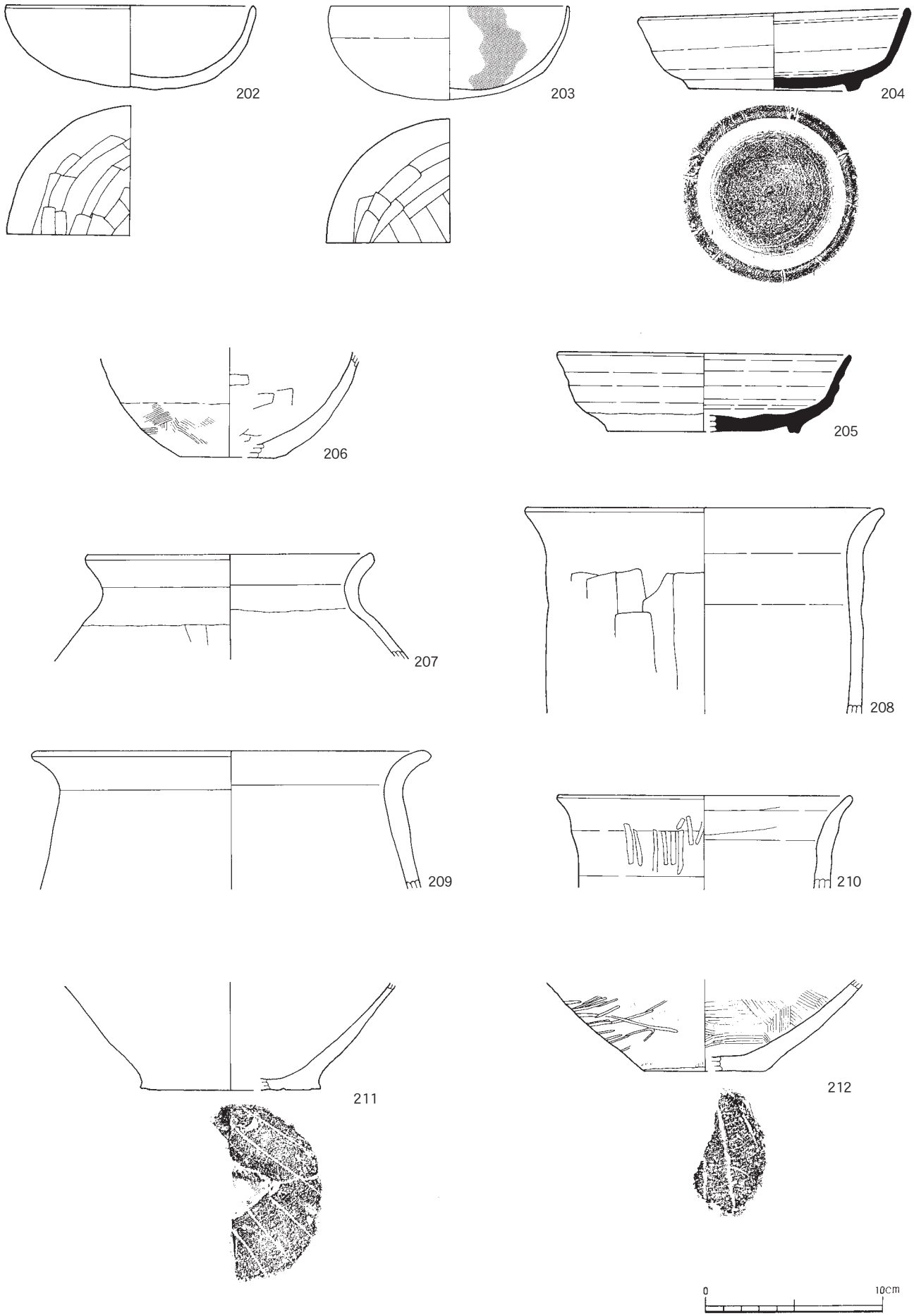


A区２－２　遺構外

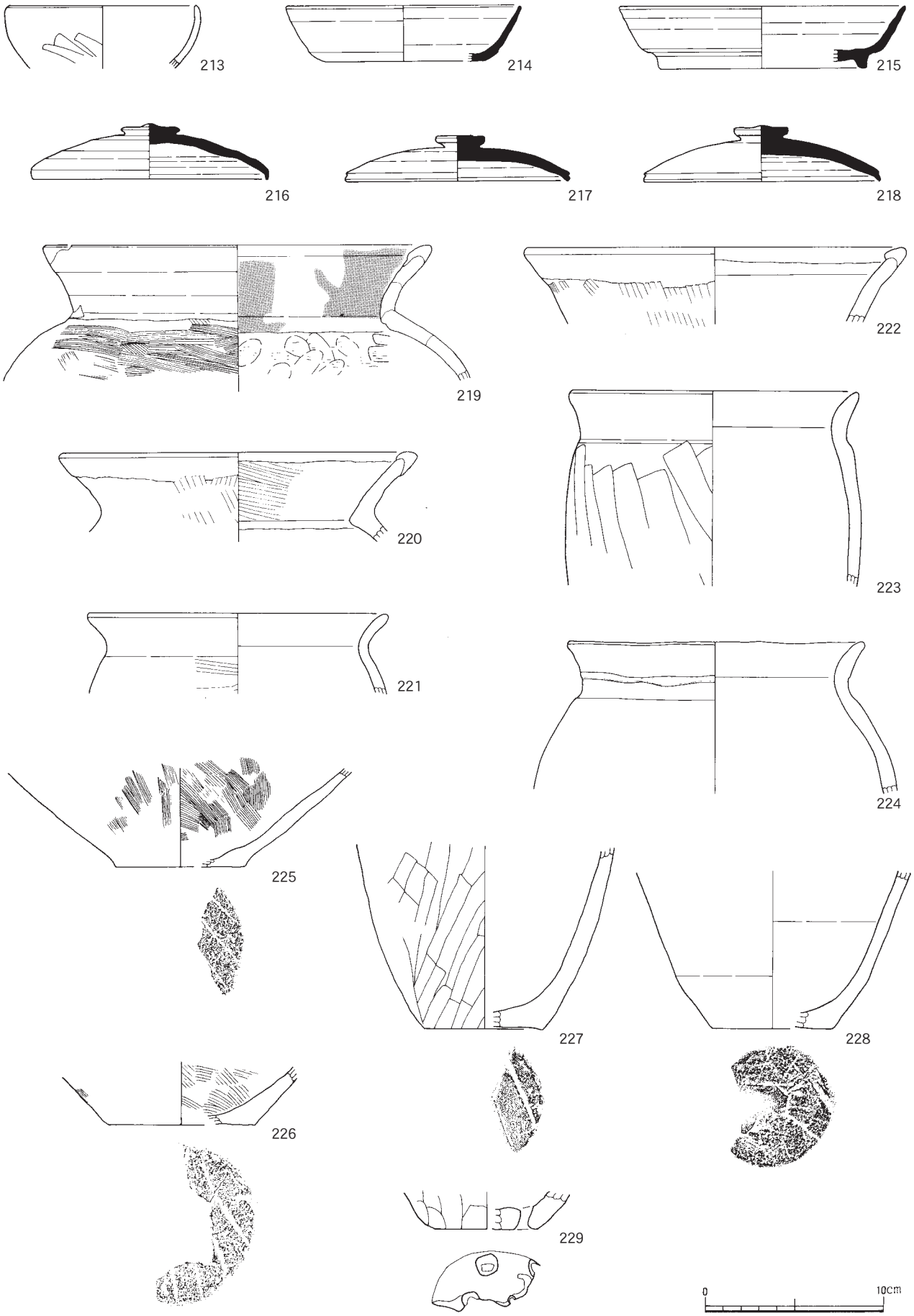


A区２－３　１住

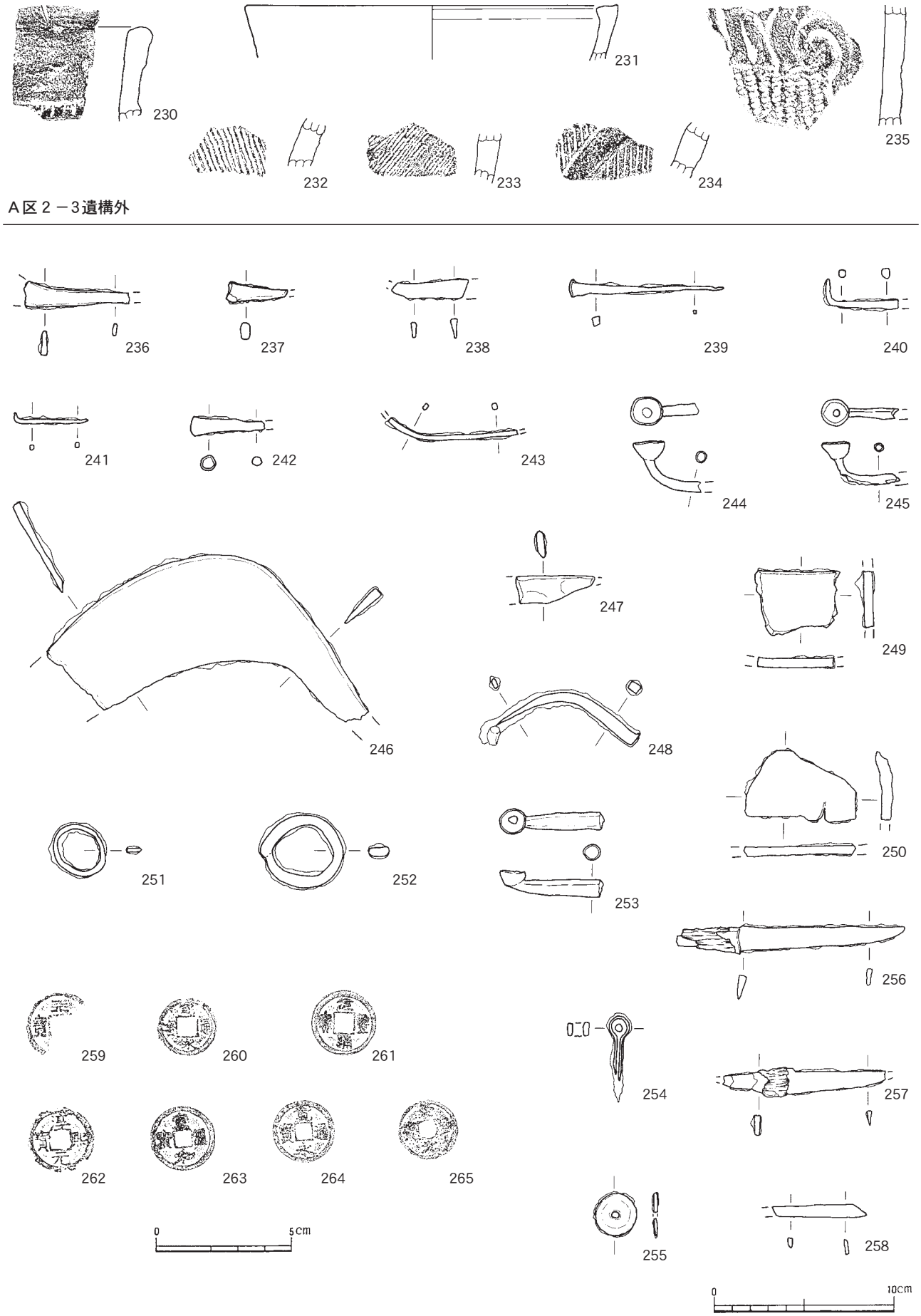
第 73 図　A 区 2-2・A 区 2-3　出土遺物（A 区 2-2 は溜池状遺構、遺構外、A 区 2-3 は 1 号住居跡）



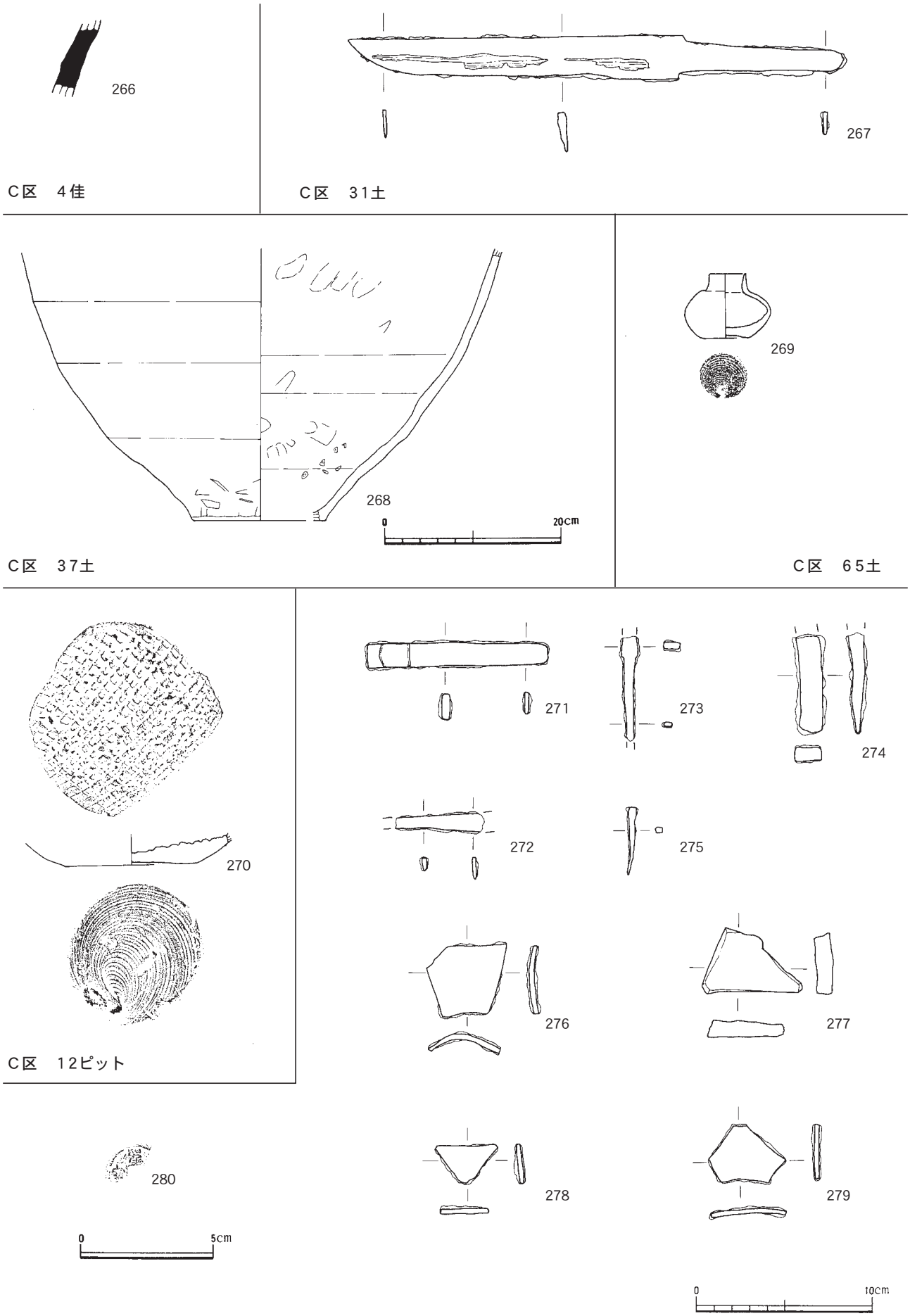
第 74 図　A 区 2-3　出土遺物（2 号住居跡）



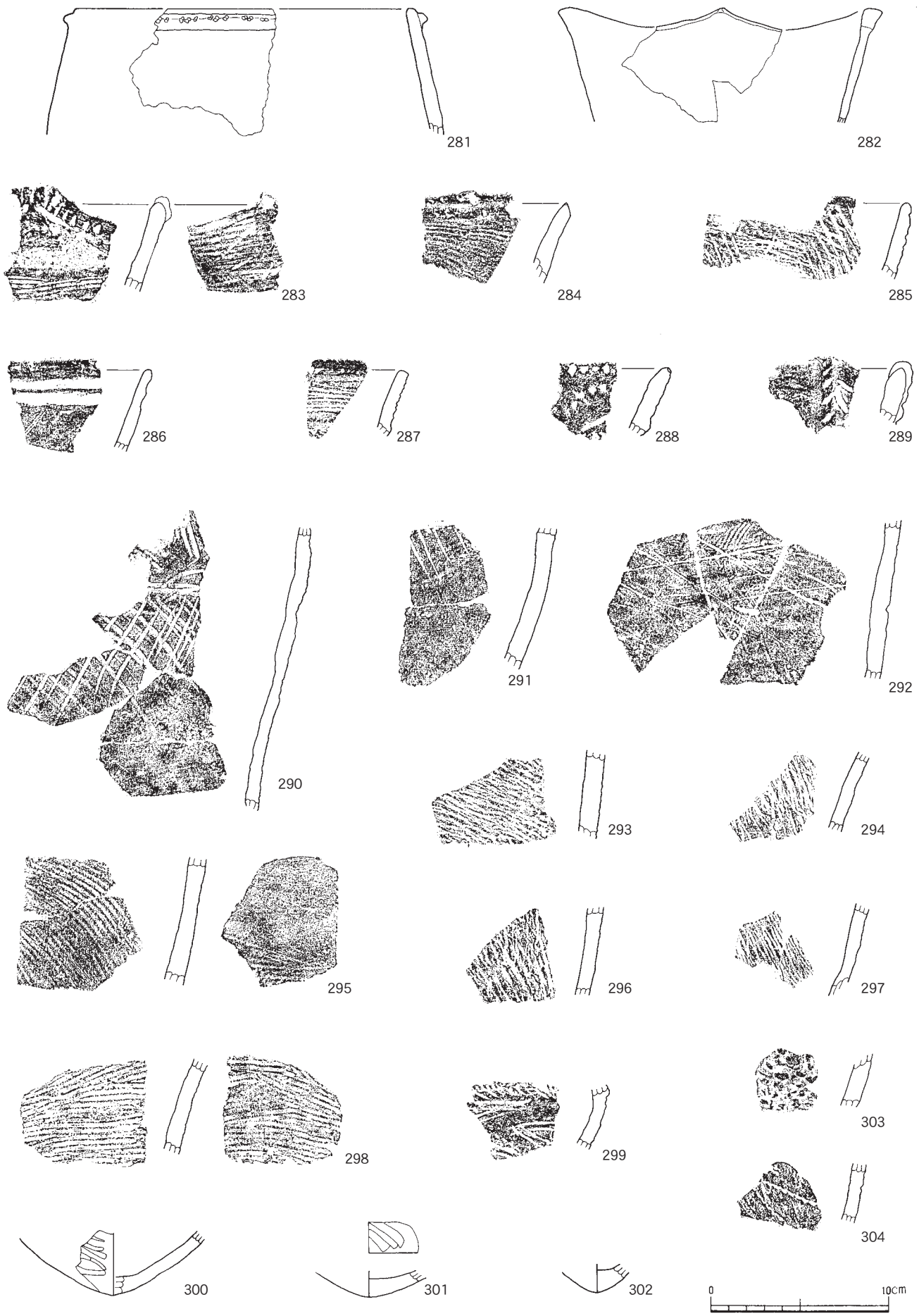
第 75 図　A 区 2-3　出土遺物（3 号住居跡）



第 76 図　A 区 2-3　出土遺物（遺構外、A 区 2 出土金属製品）

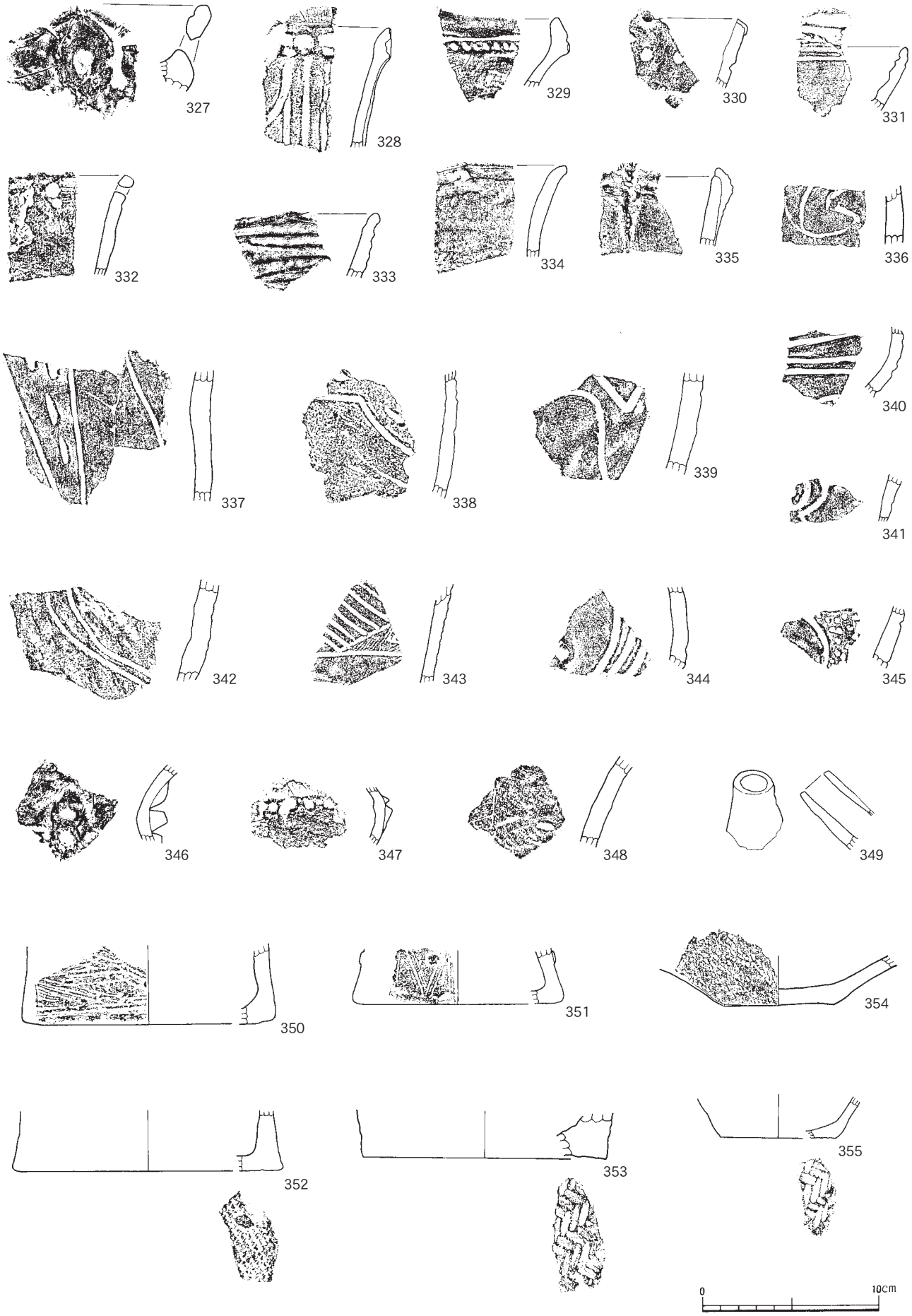


第77図　C区　出土遺物（4号住居跡、31・37・65号土坑、12ピット、遺構外出土金属製品）

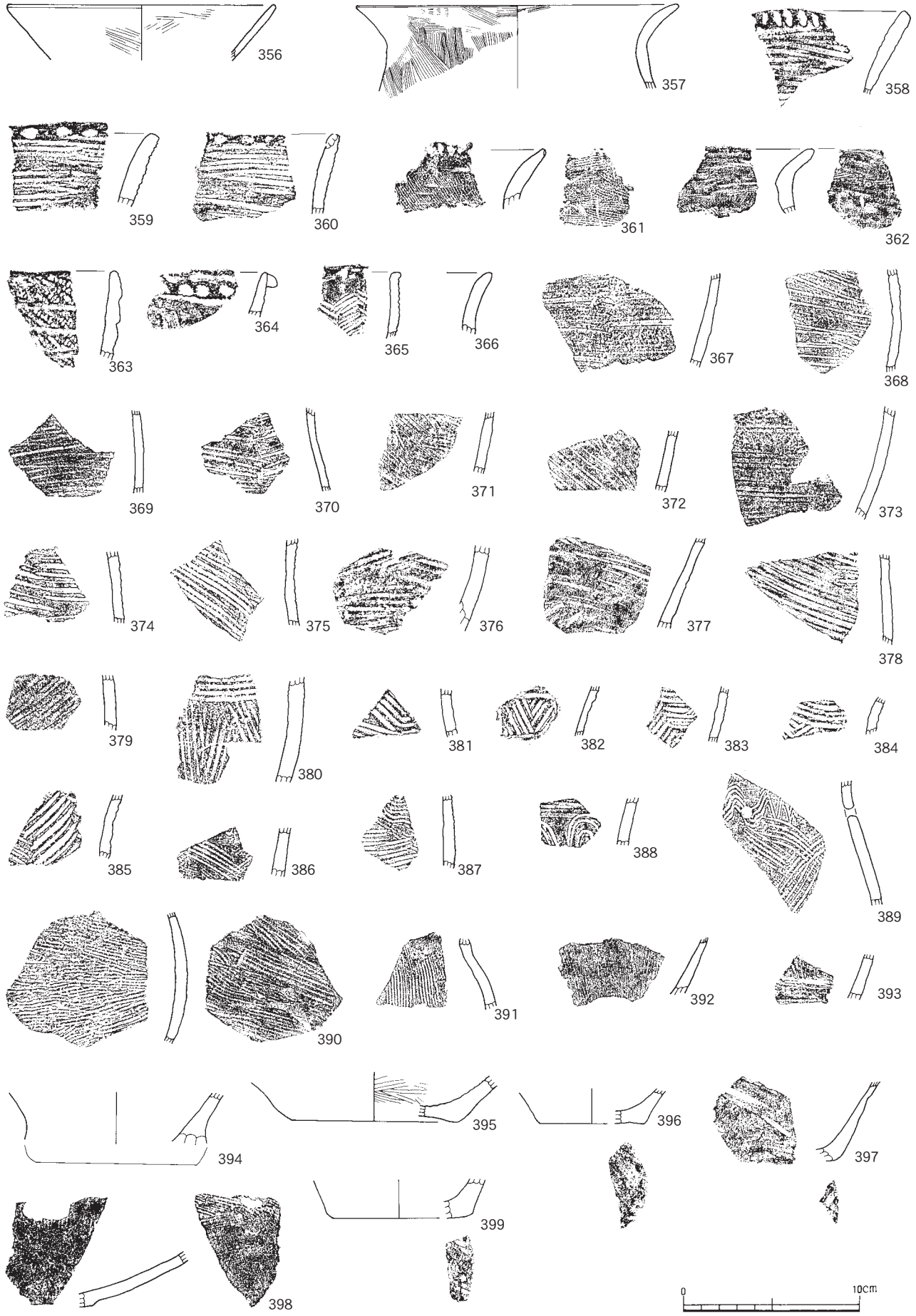


第 78 図　C 区　出土遺物（縄文土器 1）

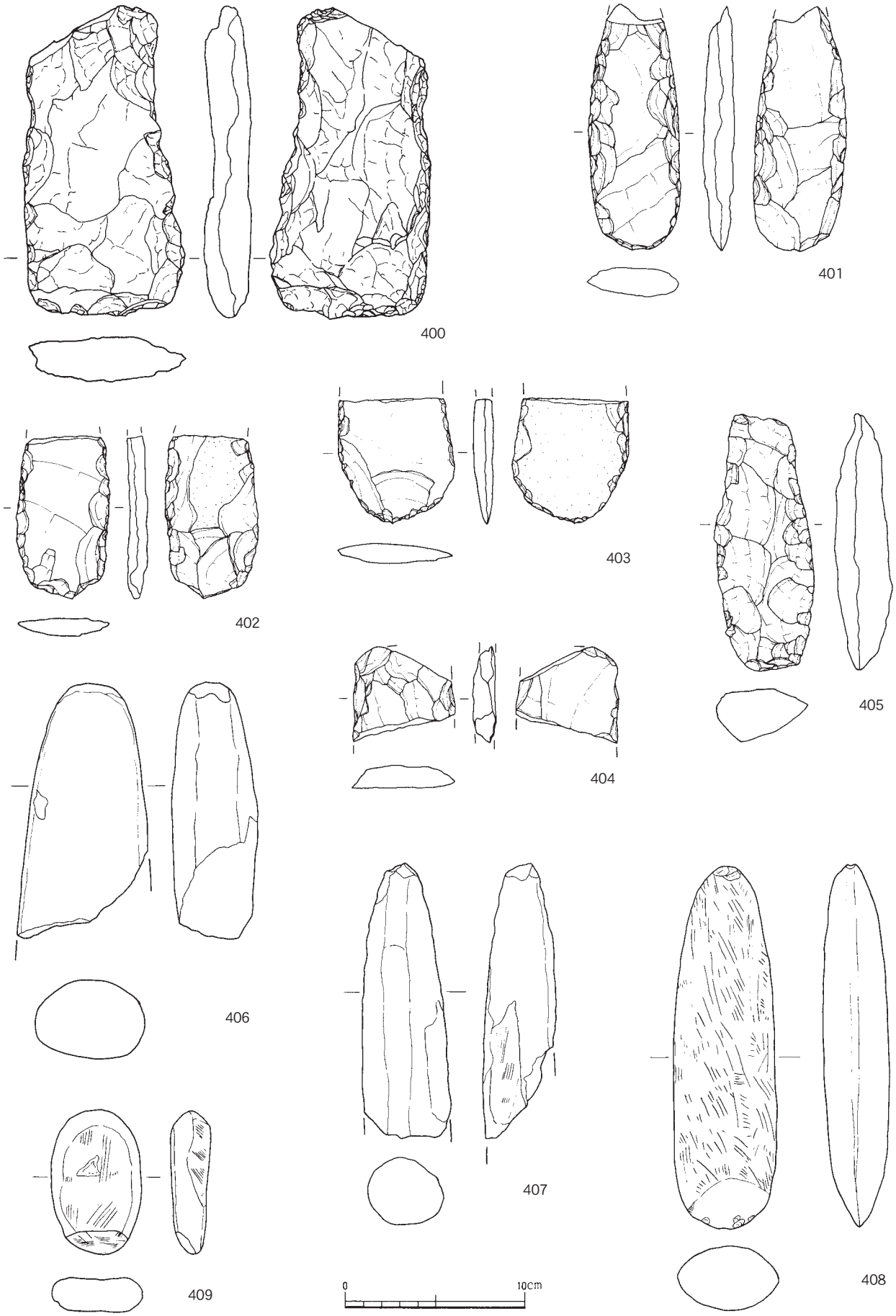
第 79 図　C 区　出土遺物（縄文土器 2）



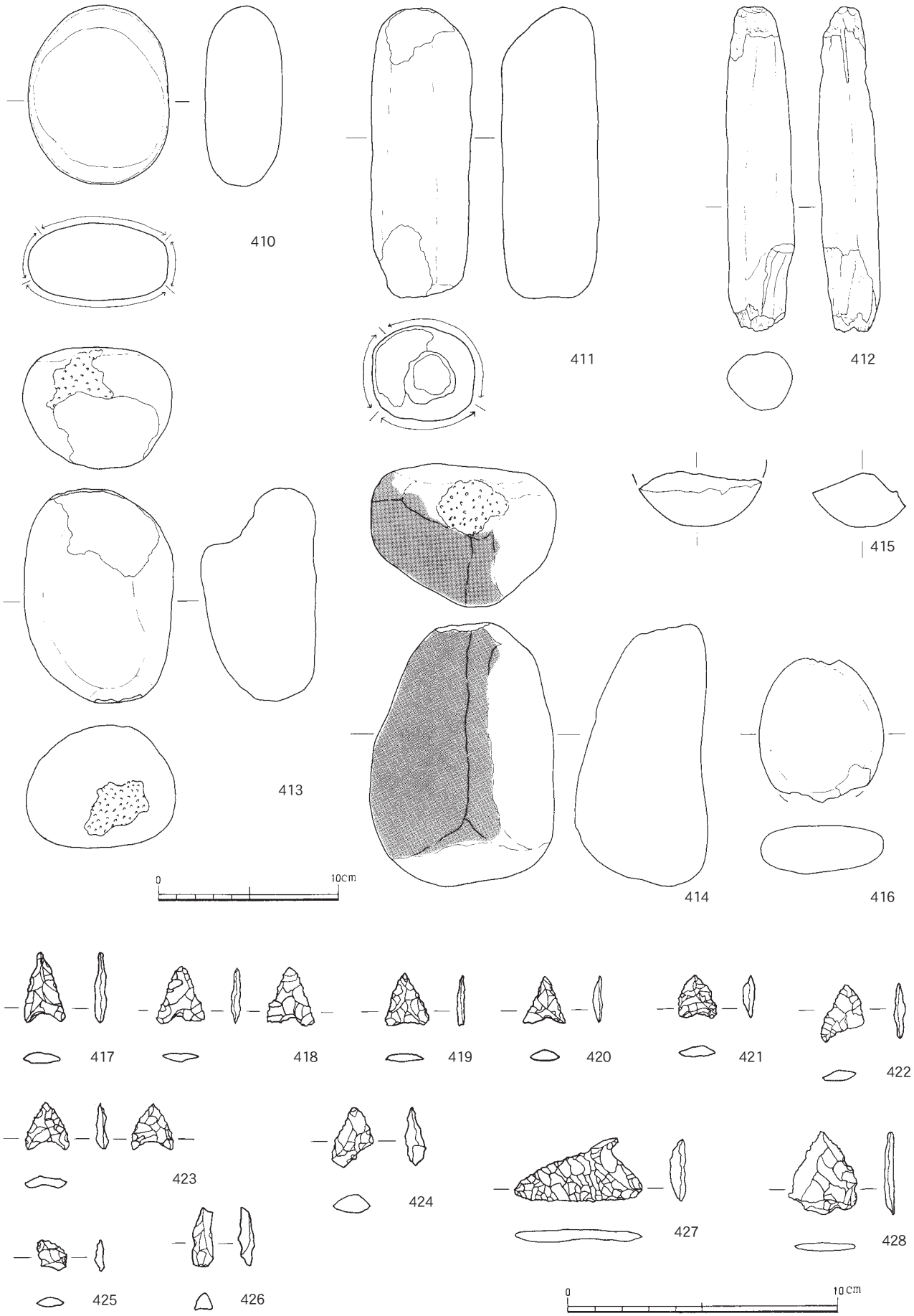
第 80 図　C 区　出土遺物（縄文土器 3）



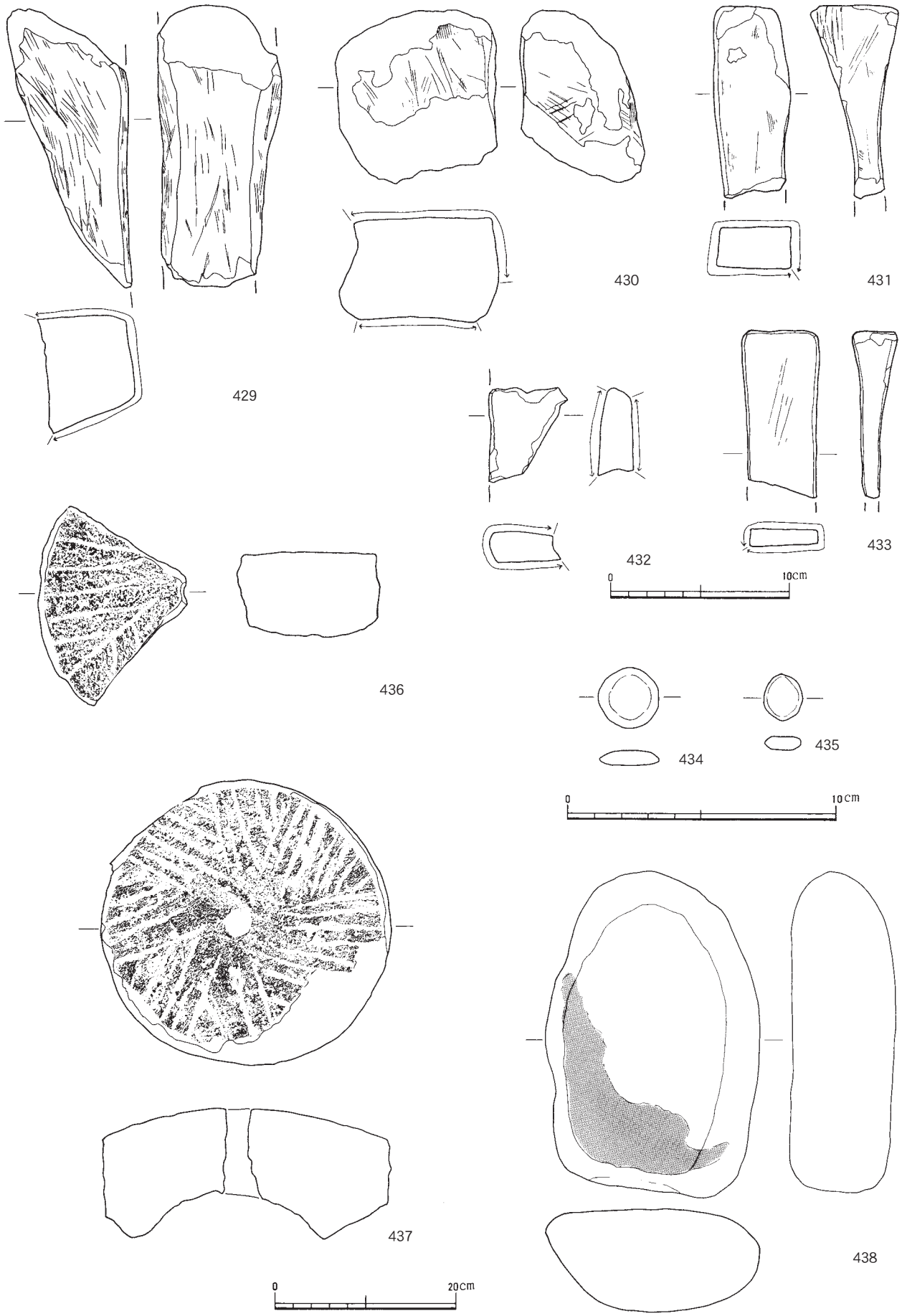
第 81 図　C 区　出土遺物（弥生土器）



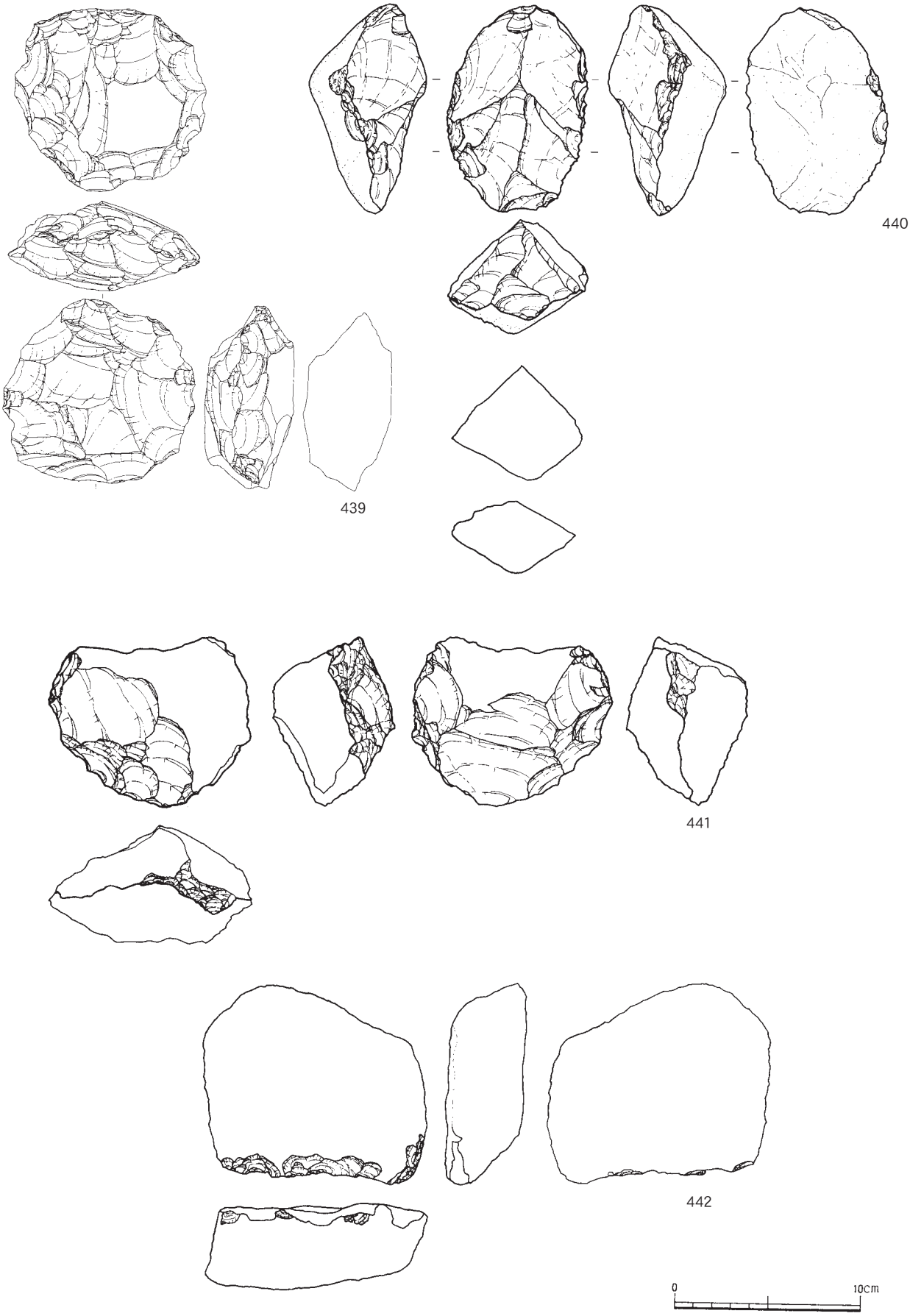
第 82 図　A・C 区　出土遺物（打製石斧・磨製石斧・磨石）



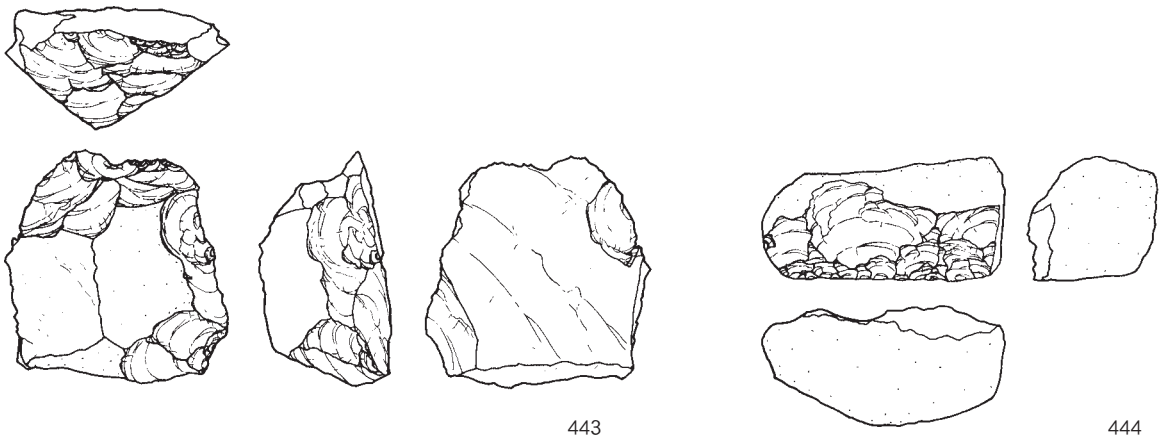
第 83 図　A・C 区　出土遺物（磨石、敲き石、石鏃、石匙、磨製石鏃）

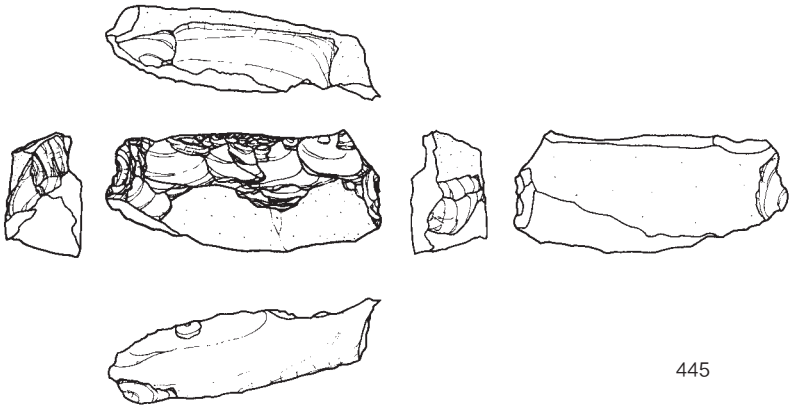


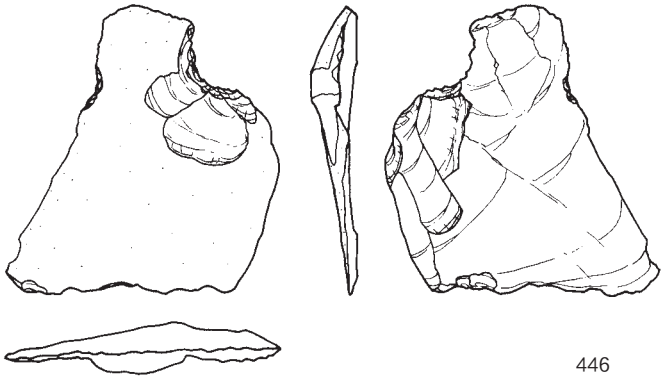
第 84 図　A・C 区　出土遺物（砥石、石臼、台石、碁石、おはじき）



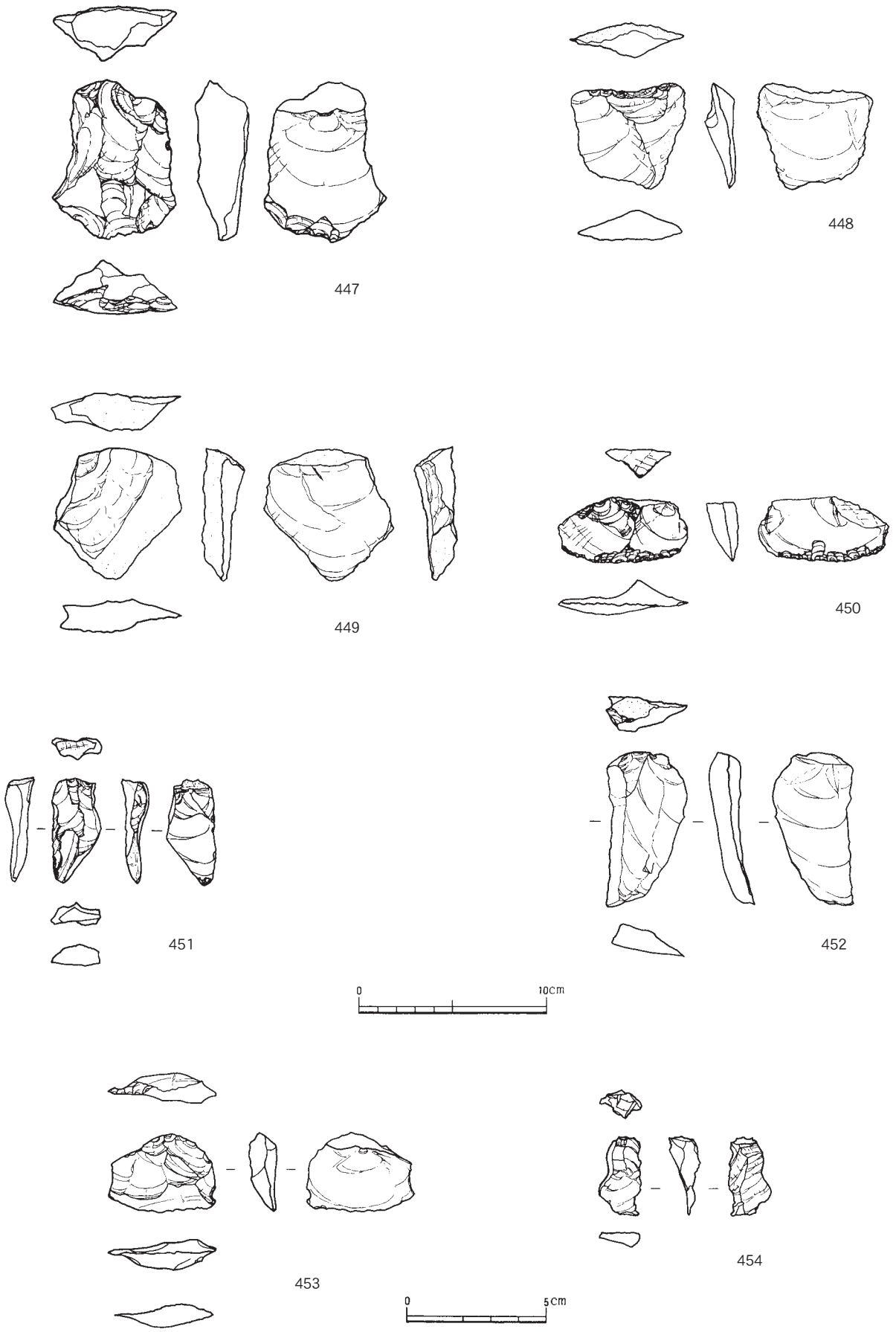
第 85 図　A・C 区　出土石器（礫器）







第 86 図　A・C 区　出土石器（礫器・剥片）



第 87 図　A・C 区　出土石器（礫器・剥片・スクレイパー）

第２表　ピット計測表（Ａ区１）

No.	調査区	グリッド	図版	長軸cm	短軸cm	深度cm	遺物	備考
1	A 区	118-AW	19	30	28	45	あり	
2	A 区	119-AW	19	32	25	15	あり	
3	A 区	119-AW	19	31	30	32	あり	
4	A 区	119-AW	19	32	28	18	あり	
5	A 区	118-AW	19	30	30	28		
6	A 区	119-AW	19	25	28	15		
7	A 区	119-AW	19	28	25	30	あり	
8	A 区	118-AW	19	30	31	64		
9	A 区	120-AX		27	20	13.8		
10	A 区	120-AX		24	21	30.6	あり	
11	A 区	120-AX		(36)	(26)	24.5		
12	A 区	120-AW		26	25	44.5		1 号柱穴列
13	A 区	120-AX		24	22	34.5		
14	A 区	120-AX		23	21	11.3		
15	A 区	120-AX		30	24	22.1	あり	
16	A 区	120-AX 121-AX	21	46	40	28.4		
17	A 区	120-AX		20	19	26.3		
18	A 区	120-AX		26	26	9.0		
19	A 区	120-AX		22	18	13.0		
20	A 区	120-AW		34	32	24.4		
21	A 区	120-AX 121-AX	20	71	64	49.6		2 号堀立柱
22	A 区	121-AX		52	50	31.2		2 号堀立柱
23	A 区	121-AX		27	22	22.2		
24	A 区	121-AX		30	21	25.1		
25	A 区	121-AX		53	34	31.2		
26	A 区	121-AX		34	28	34.7		
27	A 区	121-AX		58	54	37.4		
28	A 区	120-AX 121-AX		42	38	48.8		
29	A 区	121-AX	20	60	54	34.1		2 号堀立柱
30	A 区	121-AX	21	36	33	73.5		3 号堀立柱
31	A 区	121-AX	20	60	60	73.5		2 号堀立柱
32	A 区	121-AX	21	36	32	33.0		3 号堀立柱
33	A 区	121-AX	21	30	25	25.2	あり	3 号堀立柱
34	A 区	121-AX	21	38	28	57.9		3 号堀立柱
35	A 区	120-AW	21	34	28	25.6		礫石あり
36	A 区	120-AY		54	38	56.2		
37	A 区	120-AY		36	32	11.2		
38	A 区	120-AY		35	32	27.5		
39	A 区	120-AY		32	25	10.7		
40	A 区	120-AY		42	32	11.1		
41	A 区	121-AX		30	26	10.4		
42	A 区	120-AX 121-AX		22	18	13.4		
43	A 区	120-AX 121-AX	21	30	28	52.9		3 号堀立柱
44	A 区	121-AY	21	20	17	6.5		3 号堀立柱
45	A 区	119-AV	19・21	48	47	33.1		
46	A 区	119-AV	19	30	28	27.0		
47	A 区	119-AW	19	28	26	16.6		
48	A 区	119-AW	19	31	26	16.6		
49	A 区	120-AX		31	22	21.7		
50	A 区	120-AX		25	26	40		1 号柱穴列
51	A 区	120-AX		27	25	38		1 号柱穴列？
52	A 区	120-AX		25	25	40		1 号柱穴列？
53	A 区	120-AX		28	25	36		
54	A 区	121-AX		20	23	30		
55	A 区	121-AX		20	18	29.4		
56	A 区	120-AX 121-AX		42	32	26.1		
57	A 区	120-AW	21	28	18	18.2		1 号柱穴列
58	A 区	120-AW	21	28	22	16.0		1 号柱穴列
59	A 区	120-AW		28	26	15.3		
60	A 区	121-AX		28	28	13.5		
61	A 区	121-AX		29	29	37.6		礫石あり
62	A 区	121-AW		30	27	30.1		3 号堀立柱
63	A 区	120-AW	21	36	34	31.7		

No.	調査区	グリッド	図版	長軸cm	短軸cm	深度cm	遺物	備考
64	A 区	121-AW	21	35	32	38.8		
65	A 区	121-AX		24	24	6.6		
66	A 区	121-AX		20	17	9.3		
67	A 区	121-AX		20	20	11.2		
68	A 区	121-AX		30	26	10.2		
69	A 区	121-AY		25	22	23.7		
70	A 区	122-AX 122-AY		30	27	21.6		
71	A 区	121-AX		30	24	25.3		
72	A 区	129-BC		30	30	34.3		

ピット計測表（C区）

No.	調査区	グリッド	図版	長軸	短軸	深度	遺物	備考
1	C 区	L-16		22	20	11		
2	C 区	L-17		32	30	8		
3	C 区	17-L		60	46	13		
4	C 区	17-M		32	30	17		
5	C 区	17-M		(78)	(60)	13		
6	C 区	17-L		30	27	16		
7	C 区	16-L 17-L		29	25	8		
8	C 区	16-L		22	20	12		
9	C 区	17-M		(36)	31	18		
10	C 区	17-M		(40)	(37)	46	炭化物	
11	C 区	19-M	50	32	30	13		
12	C 区	18-M	50	32	30	14	第 77 図- 270	
13	C 区	18-M	50	26	22	12		
14	C 区	18-M		34	23	13		
15	C 区	18-O		(22)	16	13		
16	C 区	18-O		22	18	17		
17	C 区	18-O		33	31	5		
18	C 区	16-L		28	27	12		
19	C 区	16-M		48	34	28		
20	C 区	17-L		(32)	29	23		
21	C 区	19-N		50	28	21		
22	C 区	20-M		28	24	16	炭化物	
23	C 区	19-M	50	34	28	37		
24	C 区	18-M		(31)	24	9		
25	C 区	18-M		19	17	10		
26	C 区	18-M		20	17	9		
27	C 区	17-M		44	37	16		
28	C 区	17-M		34	30	16		
29	C 区	18-M	50	32	26	14		
30	C 区	18-N	50	32	30	32		
31	C 区	18-N		22	20	10		
32	C 区	17-M		(35)	30	13		
33	C 区	19-N		26	24	13		
34	C 区	19-N		30	24	14		
35	C 区	19-N		60	30	13		
36	C 区	19-N		29	23	10		
37	C 区	19-N		(56)	38	18		
38	C 区	18-N		29	28	17		
39	C 区	18-N		35	33	20		
40	C 区	19-N		38	32	20		
41	C 区	19-N		34	34	21		
42	C 区	19-N		32	32	18		
43	C 区	20-N		28	23	12		
44	C 区	19-N		42	30	16	土器片	
45	C 区	16-M		22	20	7		
46	C 区	16-M		24	21	17		
47	C 区	17-M		26	23	10		
48	C 区	16-M		24	18	46		
49	C 区	18-N	50	26	23	13		
50	C 区	17-M		(26)	22	9		
51	C 区	17-N		(30)	20	17		
52	C 区	18-O		30	29	9		
53	C 区	18-O		20	27	15		
54	C 区	16-K		33	31	15		
55	C 区	17-N		26	23	13		
56	C 区	17-N		22	18	21		

№.	調査区	グリッド	図版	長軸	短軸	深度	遺物	備考
57	C 区	17-N		24	24	20		
58	C 区	17-N		38	31	23		
59	C 区	17-N		24	24	9		
60	C 区	17-M		29	22	10		
61	C 区	17-M		30	16	11		
62	C 区	17-N		48	40	30		
63	C 区	17-N		30	28	11		
64	C 区	17-N		24	22	7		
65	C 区	18-N		22	22	13		
66	C 区	18-N		24	20	7		
67	C 区	17-N		28	26	9		
68	C 区	17-N		40	23	12		
69	C 区	17-N		(34)	24	7		
70	C 区	17-M 17-N		30	23	9		
71	C 区	17-M 17-N		26	22	9		
72	C 区	17-M		22	20	18		
73	C 区	17-M		18	17	8		
74	C 区	19-R		50	34	78		
75	C 区	23-T 23-U		21	21	53		
76	C 区	23-T 23-T		25	22			
77	C 区	24-T		26	18	41		
78	C 区					22		欠番
79	C 区	24-U		26	20	13		
80	C 区	24-U		36	30	19		
81	C 区	24-U		30	20	31		
82	C 区	24-U		30	28			
83	C 区	23-U		27	25	18		
84	C 区	23-U 24-U		(24)	(24)	32		
85	C 区	23-U 23-V		48	40	32		
86	C 区	23-V		41	33	34		
87	C 区	30-V		42	31	11		
88	C 区							欠番　　図中に無し
89	C 区	20-Q		24	22			
90	C 区	19-Q		50	30			
91	C 区	19-Q 19-R		27	23			
92	C 区	19-R		26	22	15		
93	C 区	19-R		34	24	14		
94	C 区	19-R		40	33	17		
95	C 区	19-R		32	28	12		
96	C 区	20-S		32	31	20		
97	C 区	20-S		47	32	59		
98	C 区	22-T		24	19	29		
99	C 区	22-T		21	18	12		
100	C 区	22-T		20	16	5		
101	C 区	23-U		22	20	32		
102	C 区	23-T		27	24	13		
103	C 区	23-U 24-T		32	28	23		
104	C 区	24-T		22	22	22		
105	C 区	23-U 23-V		54	38	26		
106	C 区	24-U		24	20	35		
107	C 区	24-U		22	20	32		
108	C 区	24-U		27	22	21		
109	C 区	24-U 24-V		28	23	11		
110	C 区	25-U		23	23	6		
111	C 区	25-V		36	30	13		

図版	調査区	遺構	No.	種別	器種	時期	法量			整形			色調		胎土	残存率	焼成	注記	備考
							口径	器高	底径	外面	内面	底面	外面	内面					
第 63 図	A 区 1	1 号住居	1	須恵器	坏	奈良	(15.00)	(2.20)	—	ナデ	削り		黄灰色	褐灰色	白色粒子	破片	良	PS221	実測 NO3
第 63 図	A 区 1	1 号住居	2	須恵器	蓋	奈良	(16.10)	(1.95)	—	ナデ	削り		灰白色	灰黄色	白色粒子	破片	良	PS111	実測 NO4
第 63 図	A 区 1	1 号住居	3	須恵器	甕	奈良	—	—	—	タタキ	タタキ		灰色	灰白色	白色粒子	破片	良	カマド P2	実測 NO5
第 63 図	A 区 1	1 号住居	4	土器	甕駿東型	奈良	20.60	30.00	8.60	ハケ後ミガキ	ハケ 指頭圧痕		褐色		白色・黒色粒子 金雲母	60%	良	カマド P1 5 23 12 17 13 19 18 10 254 14 16 22 21	実測 NO1
第 63 図	A 区 1	1 号住居	5	土器	甕	奈良	—	(18.80)	—	ナデ	ナデ		橙色	にぶい黄褐色	白色・赤色粒子 石英・金雲母	30%	良	1 住 PH1016 PH1017 PH1038 PH1040 1 住カマド P7 P8 P11 P15 P24 1 住カマド一括	実測 NO2
第 63 図	A 区 1	2 号住居	6	土器	坏	奈良	14.40	—	6.00	ヘラ削り	ヘラ削り		橙色	橙色	黒色粒子・金雲母・小石	25%	やや良	PH395 PH924 PH925	実測 NO30・外面スス付着
第 63 図	A 区 1	2 号住居	7	土器	坏	奈良	(14.80)	4.5	—	ミガキ	ミガキ		褐色	にぶい橙色	白色粒子・石英	破片	良	PH730	実測 NO28・外面スス付着
第 63 図	A 区 1	2 号住居	8	土器	坏	奈良	(15.00)	5.75	—	横ナデ	ナデ		橙色	橙色	白色粒子・石英	破片	良	PH1162	実測 NO31
第 63 図	A 区 1	2 号住居	9	土器	坏	奈良	(12.20)	(3.20)	—	ヘラ削り	横ナデ		褐色		白色粒子・石英	破片	良	PH320 755	実測 NO29
第 63 図	A 区 1	2 号住居	10	須恵器	高台坏	奈良	(15.40)	4.35	11.20	ロクロ	ヘラ削り	回転ヘラ削り	灰色		白色粒子	60%	良	PS124 125 152	実測 NO33・貼付高台
第 63 図	A 区 1	2 号住居	11	須恵器	高台坏	奈良	—	(2.20)	(10.10)	ロクロ	横ナデ	回転ヘラ削り	灰色		白色粒子	50%	良	PS288	実測 NO38・貼付高台
第 63 図	A 区 1	2 号住居	12	須恵器	高台坏	奈良	(14.40)	3.50	(9.00)	ロクロ	横ナデ	回転ヘラ削り	灰色		白色・黒色粒子	破片	良	2 住 PS337	実測 NO35・貼付高台
第 63 図	A 区 1	2 号住居	13	須恵器	高台坏	奈良	(12.70)	3.95	(8.20)	ロクロ	横ナデ	回転ヘラ削り	灰白色		白色粒子	25%	やや良	2 住 PS132	実測 NO36・貼付高台
第 64 図	A 区 1	2 号住居	14	須恵器	高台坏	奈良	(14.00)	3.65	(10.70)	ロクロ	横ナデ	回転ヘラ削り	灰白色		石英	40%	不良	2 住 PS186 315 2 住カマド P35	実測 NO37・貼付高台
第 64 図	A 区 1	2 号住居	15	須恵器	坏	奈良	(14.20)	4.95	(8.10)	ロクロ	横ナデ	手持ちヘラ削り	灰色		白色粒子	25%	良	PS314	実測 NO4
第 64 図	A 区 1	2 号住居	16	須恵器	蓋	奈良	—	3.20	(15.60)	ロクロ	ヘラ削り		灰色		白色粒子	30%	良	カマド P43 P46 2 住 PS276	実測 NO42
第 64 図	A 区 1	2 号住居	17	須恵器	蓋	奈良	—	2.75	(16.60)				灰色		白色粒子	破片	良	PS282	実測 NO45
第 64 図	A 区 1	2 号住居	18	須恵器	蓋	奈良	—	(2.10)	(15.50)				灰色		白色粒子	破片	良	PS129	実測 NO46
第 64 図	A 区 1	2 号住居	19	須恵器	蓋	奈良	—	(2.80)	(16.50)	ロクロ	ヘラ削り		灰色		白色粒子	25%	良	カマド P34	実測 NO43
第 64 図	A 区 1	2 号住居	20	須恵器	蓋	奈良	—	(1.80)	—	ロクロ	ヘラ削り		灰色		白色粒子	30%	良	PS263 266 278 295	実測 NO41
第 64 図	A 区 1	2 号住居	21	須恵器	蓋	奈良	—	(1.15)	—	ロクロ	ヘラ削り		灰色		白色粒子	破片	良	PS234?	実測 NO44
第 64 図	A 区 1	2 号住居	22	須恵器	長頸壺	奈良	12.00	(5.50)	—	ロクロ	ヘラ削り		黄灰色		白色・黒色粒子	破片	良	PS283 296 230 247 232 233	実測 NO39
第 64 図	A 区 1	2 号住居	23	須恵器	坏	奈良	—	(4.30)	(5.80)	ロクロ	ヘラ削り	回転ヘラ削り	灰白		白色粒子	40%	良	PS241 319 320	実測 NO32
第 64 図	A 区 1	2 号住居	24	須恵器	長頸壺	奈良	—	—	—	ロクロ	ヘラ削り		灰色		黒色粒子	破片	良	PS253 262 192 259 261 262 298 257	実測 NO40
第 64 図	A 区 1	2 号住居	25	須恵器	壺	奈良	—	—	—	ロクロ	ヘラ削り		灰色		白色・黒色粒子	破片	良	PS284	実測 NO47
第 64 図	A 区 1	2 号住居	26	須恵器	甕	奈良	—	—	—	タタキ	タタキ		灰色		白色・黒色粒子	破片	良	PS293	実測 NO48
第 64 図	A 区 1	2 号住居	27	土器	甕駿東型	奈良	(20.4)	9.10	—	ハケ・ミガキ	指頭圧痕		明褐色		白色粒子・石英	破片	良	PH1310	内面スス付着　実測 NO18
第 64 図	A 区 1	2 号住居	28	土器	甕駿東型	奈良	(22.00)	(6.20)	—	ナデ	横ハケ		にぶい赤褐色		白色粒子・石英	破片	良	PH515	実測 NO8
第 64 図	A 区 1	2 号住居	29	土器	甕駿東型	奈良	—	—	—	ハケ	ハケ・横ナデ		にぶい赤褐色		白色粒子・石英	破片	良	PH537 645	実測 NO9
第 64 図	A 区 1	2 号住居	30	土器	甕駿東型	奈良	(21.50)	(22.20)	—	ハケ後ミガキ ヘラ削り	ハケ 指頭圧痕		橙色		白色・赤色粒子 石英	30%	良	2 住 PH562 762 1198 1279 1280 1281 2 住カマド P2	実測 NO6
第 65 図	A 区 1	2 号住居	31	土器	甕駿東型	奈良	(20.80)	(10.00)	—	ハケ後ミガキ	ハケ目		にぶい赤褐色		白色粒子・石英	破片	良	PH590 702 775 1135	実測 NO11
第 65 図	A 区 1	2 号住居	32	土器	甕駿東型	奈良	(24.00)	(9.00)	—	ハケ後ミガキ	横ハケ		赤褐色		白色粒子・石英	25%	やや良	PH389 514	実測 NO7
第 65 図	A 区 1	2 号住居	33	土器	甕駿東型	奈良	—	(5.00)	—	ヘラナデ	横ハケ		暗褐色		白色粒子・石英	破片	良	PH1230 1288 1503	実測 NO15
第 65 図	A 区 1	2 号住居	34	土器	甕	奈良	(24.80)	(7.40)	—	削り後ミガキ	横ハケ		暗褐色		白色粒子	破片	良	PH1054	実測 NO14
第 65 図	A 区 1	2 号住居	35	土器	甕駿東型	奈良	(24.60)	(3.90)	—	ナデ	ナデ		赤褐色		白色・黒色粒子 金雲母	破片	良	PH917	実測 NO13
第 65 図	A 区 1	2 号住居	36	土器	甕駿東型？	奈良	(23.20)	(3.60)	—	削り後ミガキ	横ナデ		にぶい赤褐色		白色粒子・石英	破片	良	PH642 1177 1187 1184 1418	実測 NO12
第 65 図	A 区 1	2 号住居	37	土器	甕駿東型	奈良	(21.40)	4.80	—	削り後ミガキ	横ナデ		褐色		白色粒子・石英	破片	良	PH1346 1365	実測 NO10
第 65 図	A 区 1	2 号住居	38	土器	甕	奈良	—	(8.10)	9.40	ミガキ	ハケ	木葉痕	赤褐色		白色・黒色粒子	破片	良	カマド P77	実測 NO24
第 65 図	A 区 1	2 号住居	39	土器	甕	奈良	(8.20)	(5.30)	(8.40)	ハケ　ミガキ	横ハケ	木葉痕	赤褐色		白色粒子・石英	破片	良	PH534	実測 NO23
第 66 図	A 区 1	2 号住居	40	土器	甕	奈良	—	(4.00)	7.00	ハケ	横ハケ	木葉痕	にぶい橙色		白色粒子・金雲母・黒色粒子	破片	良	PH1457 1228 カマド P55	実測 NO25
第 66 図	A 区 1	2 号住居	41	土器	甕	奈良	—	(2.60)	(7.40)	ヘラナデ？	横ハケ	木葉痕	橙色	にぶい黄橙色	白色粒子・石英	破片	良	PH312	実測 NO21
第 66 図	A 区 1	2 号住居	42	土器	甕	奈良	—	(2.20)	(8.40)	ヘラナデ？	横ハケ	木葉痕	赤褐色		白色粒子・石英	破片	良	PH829 1120	実測 NO26
第 66 図	A 区 1	2 号住居	43	土器	甕	奈良	—	(2.90)	(7.40)	削り後ミガキ	横ハケ	木葉痕	暗赤褐色		白色・黒色粒子・石英	破片	良	PH907	実測 NO27
第 66 図	A 区 1	2 号住居	44	土器	甕	奈良	—	(2.50)	(8.20)	指頭圧痕	ヘラナデ	木葉痕	橙色		白色粒子・石英	破片	良	PH1482	実測 NO22

第 3 表　美通遺跡 A・C 区　土器類観察表

図版	調査区	遺構	No.	種別	器種	時期	法量			整形			色調		胎土	残存率	焼成	注記	備考
							口径	器高	底径	外面	内面	底面	外面	内面					
第66図	A区1	2号住居	45	土器	甕	奈良	—	(3.40)	(10.00)		ヘラナデ	木葉痕	橙色	橙色	白色粒子・石英	破片	良	PH812?	実測NO20
第66図	A区1	2号住居	46	土器	甕	奈良	(19.00)	(12.50)	—	ヘラナデ	ハケ		橙色		黒色粒子・金雲母	破片	良	カマドP-3	スス付着　実測NO16
第66図	A区1	2号住居	47	土器	甕	奈良	24.80	(7.00)	—	ヘラナデ	指頭圧痕 ヘラナデ		橙色		黒色粒子・金雲母	破片	良	PH467 600	実測NO19
第66図	A区1	2号住居	48	土器	甕	奈良	23.60	(10.20)	—	ハケ・ヘラナデ	ハケ・ヘラ削り		橙色		赤色・黒色粒子	破片	良	PH1308	スス付着　実測NO17
第67図	A区1	3号住居	52	土器	坏	奈良	—	—	—	ミガキ	ナデ		にぶい黄褐色		白色・赤色粒子	破片	良	P-1	実測NO50
第67図	A区1	3号住居	53	土器	坏	奈良	—	—	—	ヘラナデ	スス		にぶい褐色		白色・黒色粒子	破片	良	PH1573	実測NO51
第67図	A区1	3号住居	54	土器	坏	奈良	—	(0.70)	2.60	ヘラナデ	ナデ		明赤褐色		赤色・黒色粒子	破片	良	PH455	実測NO52
第67図	A区1	3号住居	55	須恵器	甕	奈良	—	—	—	タタキ	タタキ		暗赤褐色		白色粒子	破片	良	PS135 136 137 138 PT4	実測NO49・内面黒色
第67図	A区1	4号住居	56	土器	坏	奈良	—	(3.10)	—	ヘラ削り	ナデ		にぶい黄褐色	黒色	白色・赤色粒子	破片	良	PH1586	内黒?　実測NO55
第67図	A区1	4号住居	57	土器	坏	奈良	—	(0.90)	(4.60)	ヘラ削り	ナデ	ヘラ削り	橙色		白色・赤色粒子	破片	良	PH944	実測NO54
第67図	A区1	4号住居	58	須恵器	坏	奈良	(15.60)	3.10	—	ロクロ ヘラ削り	ナデ	削り	灰色		白色粒子	15%	良	PS156	実測NO56
第67図	A区1	4号住居	59	須恵器	坏	奈良	—	(1.10)	(7.00)	ヘラ削り	ナデ	糸切り後に ヘラ削り	灰色		白色粒子	破片	良	PS219	実測NO57
第67図	A区1	4号住居	60	須恵器	蓋	奈良	(15.60)	(1.30)	—	ロクロ	ナデ		灰色		白色粒子	破片	良	PS153	実測NO58
第67図	A区1	4号住居	61	土器	甕	奈良	—	(2.00)	—	ナデ	ナデ		暗赤褐色		白色粒子・石英	破片	良	PH941	実測NO53
第67図	A区1	5号住居	63	土器	甕駿東型	奈良	21.80	(16.30)	—	口縁ナデ ハケ　ミガキ	ハケ 指頭圧痕		赤褐色		白色・黒色粒子 金雲母	20%	良	P1 3 PH1564 1570 一括	スス付着　実測NO59
第67図	A区1	5号住居	64	土器	甕	奈良	(26.80)	(3.60)	—	ナデ	ナデ		橙色		白色・赤色粒子 石英	破片	良	カマド一括	実測NO61
第67図	A区1	5号住居	65	土器	甕	奈良	(20.10)	(9.20)	—	ヘラ削り	ヘラ削り		橙色		白色・小石 石英	20%	良	P-2	実測NO60
第67図	A区1	5号住居	66	土器	甕	奈良		(2.30)	(5.00)	ミガキ	ナデ		赤褐色		白色粒子・石英	破片	軟質	5住カマドP8	実測NO62
第68図	A区1	2号土坑	68	土器	坏	奈良	(15.10)	(4.65)	—		ナデ		橙色		白色粒子・石英	30%	良	P7	実測NO65
第68図	A区1	2号土坑	69	土器	甕	奈良	(22.60)	6.05	—	ミガキ	横ナデ		赤褐色		白色粒子	20%	良	3 10 13	実測NO64
第68図	A区1	2号土坑	70	須恵器	甕	奈良	—	—	—	タタキ	タタキ		灰白色		白色粒子	破片	良	P8	実測NO66
第68図	A区1	11号土坑	73	土器	甕?	近世?	—	—	—	ナデ	ナデ		黒色	黒褐色	石英	破片	良	P1	実測NO67
第68図	A区1	11号土坑	74	土器	甕	奈良	—	—	—	縦ハケ	横ハケ		赤褐色		白色粒子・石英	破片	良	PH505	実測NO68
第68図	A区1	18号土坑	75	須恵器	長頸壺	奈良	11.90	1.05	—	ロクロ	ロクロ		灰色		白色粒子?	破片	良	一括	実測NO69・内面自然釉
第68図	A区1	19号土坑	76	土器	甕	奈良	—	—	—	ハケ	ナデ		橙色		白色粒子・石英	破片	良	PH691	実測NO70
第68図	A区1	20号土坑	77	土器	坏	奈良	—	—	—	ヘラ削り	ミガキ		赤褐色		白色粒子・石英	破片	良	PH870	実測NO73
第68図	A区1	20号土坑	78	土器	甕	奈良	—	—	—	ヘラ削り	ナデ		明褐色		石英・小石?	破片	良	PH507 896	内外スス付着　実測NO72
第68図	A区1	28号土坑	79	土器	甕	奈良	—	—	—		横ナデ		明赤褐色		白色粒子・石英	破片	良	PH983	実測NO74
第68図	A区1	29号土坑	80	須恵器	甕	奈良	—	—	—	タタキ	タタキ		灰色		白色粒子	破片	良	PS227	実測NO75
第68図	A区1	3号溝	81	土器	坏?	奈良・平安	—	—	—	横ナデ	横ナデ		橙色		白色・黒色粒子	破片	良	4	内外スス付着　実測NO77
第68図	A区1	3号溝	82	土器	長頸壺	奈良・平安	—	—	—	ロクロ	ロクロ		灰白色		白色粒子	破片	良	PS137	実測NO76
第68図	A区1	4号溝	83	土器	坏	奈良・平安	—	—	—	ミガキ	ミガキ		明赤褐色		黒色粒子	30%	良	PH226	実測NO79
第68図	A区1	4号溝	84	土器	小型甕	奈良・平安	—	—	—	縦ハケ			橙色		白色・黒色・赤色粒子	破片	良	PH230	実測NO78
第68図	A区1	5号溝	85	土器	坏	奈良・平安	—	—	—	ナデ	ナデ		橙色		白色・黒色・赤色粒子	破片	良	PH69	実測NO83
第68図	A区1	5号溝	86	土器	不明	奈良・平安	—	—	—	ナデ	ナデ		褐色		白色・黒色・赤色粒子	破片	良	P-6	実測NO81
第68図	A区1	5号溝	87	土器	不明	奈良・平安	—	—	—	ナデ	ナデ		褐色		白色・黒色粒子 金雲母	破片	良	PH68	実測NO82
第68図	A区1	5号溝	88	土器	甕	奈良・平安	—	—	—	ナデ	横ハケ		褐色		白色・黒色粒子 金雲母	破片	良	PH67	実測NO80
第68図	A区1	5号溝	89	須恵器	甕	奈良・平安	—	—	—	タタキ	タタキ		灰白色		白色・黒色粒子	破片	良	P-1	実測NO84
第69図	A区1	9号溝	92	土器	坏	奈良・平安	—	(2.30)	—	ナデ	ナデ		橙色		白色・黒色・赤色粒子・金雲母	破片	良	PH221	実測NO109
第69図	A区1	9号溝	93	土器	甕	奈良・平安	—	—	—	削り	ナデ		橙色		白色・黒色粒子 金雲母	破片	良	PH220	外面スス付着　実測NO85
第69図	A区1	11号溝	94	須恵器	坏	奈良・平安	—	—	—	ロクロ	ロクロ		灰色		白色・黒色粒子	破片	良	PS149	実測NO87
第69図	A区1	11号溝	95	土器	甕	奈良・平安	—	—	—	縦ハケ	横ハケ		にぶい赤褐色		白色・黒色粒子 金雲母	破片	良	PH1013	実測NO86

図版	調査区	遺構	No.	種別	器種	時期	法量			整形			色調		胎土	残存率	焼成	注記	備考
							口径	器高	底径	外面	内面	底面	外面	内面					
第69図	A区1	11号溝	96	須恵器	蓋	奈良・平安	—	—	—	ヘラ削り	ロクロ		灰黄色		白色・黒色粒子	破片	良	PS225	実測 NO88
第69図	A区1	1号ピット	97	土器	皿?	奈良・平安	—	(1.70)	10.60		ナデ	ヘラ削り	橙色		白色・黒色粒子	30%	良	PH978	実測 NO92
第69図	A区1	3号ピット	98	須恵器	蓋	奈良・平安	—	(1.60)	(17.00)	ロクロ	ロクロ		灰色		白色粒子	破片	良	PS216	内外スス付着　実測 NO84
第69図	A区1	3号ピット	99	土器	甕	奈良・平安	—	—	—	ヘラナデ	ヨコナデ	ヘラ削り	赤褐色		白色粒子 金雲母	20%	良	PH1318	実測 NO93
第69図	A区1	1号配石	100	須恵器	坏	奈良・平安	—	(1.60)	—	ロクロ	ロクロ		灰色		白色粒子	破片	良	PS2	実測 NO90
第69図	A区1	1号配石	101	土器	甕	奈良・平安	—	—	—	ナデ	ナデ				白色粒子・石英	破片	良	PH1	実測 NO89
第69図	A区1	1号配石	102	須恵器	甕	奈良・平安	—	—	—	タタキ	タタキ		灰色		白色粒子	破片	良	PS1	実測 NO91
第69図	A区1	遺構外	103	土器	坏	奈良・平安	12.00	3.50	6.00	ヨコナデ	暗文	ヘラ成形	橙色		白色・黒色粒子 金雲母	25%	良	PH218	実測 NO111
第69図	A区1	遺構外	104	土師器	皿	奈良・平安	—	(0.55)	—	ミガキ	ミガキ		暗赤褐色		白色粒子	破片	良	PH1233	実測 NO381
第69図	A区1	遺構外	105	須恵器	坏	奈良・平安	(14.9)	(2.5)	—	ロクロ	ロクロ		灰色		白色粒子	破片	良	PS287	実測 NO97
第69図	A区1	遺構外	106	須恵器	坏	奈良・平安	—	(3.95)	(7.00)	ナデ ヘラ削り	ナデ		灰色		白色粒子	20%	良	PS60	実測 NO96
第69図	A区1	遺構外	107	須恵器	高台坏	奈良・平安	—	(2.85)	(11.00)	ヨコナデ	ロクロ	回転ヘラ削り・ 貼付高台	灰色		白色粒子	25%	良	PS4	実測 NO101
第69図	A区1	遺構外	108	須恵器	高台坏	奈良・平安	—	(1.40)	(10.50)	ナデ?	横ナデ	貼付高台	暗オリーブ灰色		白色粒子	25%	良	PS35	実測 NO99
第69図	A区1	遺構外	109	須恵器	高台坏	奈良・平安	—	(1.55)	(9.00)	ナデ	ロクロ	貼付高台	灰色		白色粒子・石英	20%	良	PS17	実測 NO98
第69図	A区1	遺構外	110	須恵器	高台坏	奈良・平安	—	(1.55)	(9.60)	横ナデ	ナデ	削り・貼付高台	灰色		白色粒子・石英	40%	良	PS27	実測 NO100
第69図	A区1	遺構外	111	須恵器	蓋	奈良・平安	—	(2.20)	(12.80)	ロクロ	ロクロ		灰色		白色粒子	40%	良	PS10 37 53 167	実測 NO159・外面自然釉
第69図	A区1	遺構外	112	土器	甕	奈良・平安	—	—	—	ナデ	ナデ		にぶい赤褐色		白色・黒色・赤色粒子	破片	良	PH192	実測 NO63
第69図	A区1	遺構外	113	土器	甕	奈良・平安	(23.80)	(1.90)	—	ナデ	ナデ		橙色		白色粒子・石英	破片	良	PH303	実測 NO108
第69図	A区1	遺構外	114	土器	壺・鉢?	奈良・平安	16.20	(5.70)	—	指頭圧痕	ナデ		にぶい橙色		白色・黒色・赤色粒子	20%	やや良	PH180	内外スス付着　実測 NO107
第69図	A区1	遺構外	115	土器	甕	奈良・平安	—	(1.30)	(8.80)			木葉痕	橙色		白色粒子・石英	40%	良	PJ31	実測 NO63
第69図	A区1	遺構外	116	土器	甕	奈良・平安	—	—	9.20	縦ハケ	ヨコナデ	木葉痕	褐色		白色・赤色粒子	25%	良	PH17	実測 NO110
第69図	A区1	遺構外	117	須恵器	甕?	奈良・平安	(24.00)	(6.05)	—	ロクロ	ロクロ		灰色		白色粒子	15%	良	PS23 101	実測 NO102
第69図	A区1	遺構外	118	須恵器	甕	奈良・平安	—	(5.40)	—	ロクロ	ロクロ		灰色		白色粒子	破片	良	PS84	外スス付着　実測 NO95
第69図	A区1	遺構外	119	須恵器	壺	奈良・平安	—	(2.00)	—	ロクロ	ロクロ		オリーブ黒色	灰色	白色・黒色粒子	20%	良	PS51	外自然釉　実測 NO160
第69図	A区1	遺構外	120	須恵器	甕	奈良・平安	—	—	—	タタキ	タタキ		灰色		白色粒子	破片	良	PS43	実測 NO103
第69図	A区1	遺構外	121	須恵器	甕	奈良	—	—	—	タタキ	タタキ		灰色		白色粒子	破片	良	PS63	実測 No.104
第69図	A区1	遺構外	122	土器	壺	弥生	—	—	—				赤褐色		白色・黒色粒子、金雲母、小石	破片	良	PJ33	実測 No.267
第69図	A区1	遺構外	123	陶器	香炉?	近世	(11.00)	(3.75)	—	ロクロ	ロクロ		灰色	灰白色		破片	良	一括	実測 No.105　外面は全体に灰釉　内面は口縁付近に灰釉
第70図	A区2-1	遺構外	130	土器	深鉢	縄文前期	—	—	—				にぶい褐色		白色・黒色・赤色粒子、金雲母	破片	良	32	実測 No.268
第70図	A区2-1	遺構外	131	土器	深鉢	縄文前期	—	—	—				にぶい褐色		白色・黒色粒子 金雲母、角閃石	破片	良	AR-109　5	実測 No.271
第70図	A区2-1	遺構外	132	土器	深鉢	縄文中期	—	—	—				褐色		白色粒子・石英・角閃石	破片	良	AP-107　8	実測 No.275
第70図	A区2-1	遺構外	133	土器	深鉢	縄文中期	—	—	—				赤褐色		白色粒子・石英・角閃石	破片	良	AQ-110　28	実測 No.269
第70図	A区2-1	遺構外	134	土器	深鉢	縄文中期	—	—	—				明褐色		白色粒子・石英	破片	良	29	実測 No.273
第70図	A区2-1	遺構外	135	土器	深鉢	縄文中期	—	—	—				明褐色		白色・黒色粒子、金雲母、小石	破片	良	AR-109　1	実測 No.272
第70図	A区2-1	遺構外	136	土器	深鉢	縄文中期	—	—	—				明褐色	黒褐色	白色粒子・石英・金雲母	破片	良	10	実測 No.274
第70図	A区2-1	遺構外	137	土器	甕	弥生前期	—	—	—				にぶい黄褐色		白色粒子・石英・金雲母	破片	良	AQ-111　5	実測 No.282
第70図	A区2-1	遺構外	138	土器	壺	弥生中期	—	—	—				灰黄褐色		白色粒子・石英	破片	良	AQ-108　6	実測 No.270
第70図	A区2-1	遺構外	139	須恵器	坏	奈良・平安	12.0	(2.3)	—	ロクロ	ヨコナデ		灰色		白色・赤色粒子、金雲母	10%	良	AQ-111　4	実測 No.285
第70図	A区2-1	遺構外	140	土師器	坏	奈良・平安	—	(1.1)	(5.0)	ナデ	ナデ	回転糸きり	橙色		石英・金雲母	45%	良	AP-107　7	実測 No.278
第70図	A区2-1	遺構外	141	土師器	坏	奈良・平安	—	(1.75)	(7.4)	削り	暗文	みこみ暗文	橙色		白色粒子	10%	良	一括	実測 No.280

図版	調査区	遺構	No.	種別	器種	時期	法量			整形			色調		胎土	残存率	焼成	注記	備考
							口径	器高	底径	外面	内面	底面	外面	内面					
第 70 図	A 区 2-1	遺構外	142	土師器	坏	奈良・平安	—	—	—	ナデ	ナデ		橙色		白色・黒色粒子・石英	破片	良	50	実測 No.276
第 70 図	A 区 2-1	遺構外	143	須恵器	坏	奈良・平安	—	—	—	ロクロ	ロクロ		青灰色		白色・黒色粒子	破片	良	36	実測 No.284
第 70 図	A 区 2-1	遺構外	144	須恵器	甕	奈良・平安	—	—	—	ロクロ	ロクロ		青灰色		白色粒子	破片	良	AQ-109　2	実測 No.286・全面自然釉
第 70 図	A 区 2-1	遺構外	145	土師器	甕	奈良・平安	—	—	—	削り	ナデ		橙色		白色粒子	破片	良	18	実測 No.279
第 70 図	A 区 2-1	遺構外	146	土師器	甕	奈良・平安	—	—	—	ヨコナデ	ナデ		にぶい橙色		白色・赤色粒子、金雲母	破片	良	41	実測 No.277
第 70 図	A 区 2-1	遺構外	147	須恵器	甕	奈良・平安	—	—	—	ロクロ	ロクロ		青灰色		白色・黒色粒子	破片	良	AP-107　3	実測 No.283
第 70 図	A 区 2-1	遺構外	148	須恵器	甕	奈良・平安	—	—	—	ロクロ	ロクロ		オリーブ灰色		白色粒子	破片	良	AQ-110　28	実測 No.287・全面釉
第 70 図	A 区 2-1	遺構外	149	陶器	碗	近世	—	(3.8)	4.0	ロクロ・削り		削り高台	にぶい赤褐色		白色・黒色・赤色粒子、小石	40%	良	AQ-110　3	実測 No.290　鉄釉
第 70 図	A 区 2-1	遺構外	150	陶器	碗	近世	(11.6)	(5.9)	—	ロクロ	ロクロ		暗オリーブ色		白色・黒色粒子	35%	良	56・57	実測 No.288　黄瀬戸
第 70 図	A 区 2-1	遺構外	151	陶器	碗	近世	13.8	(3.7)	—	ロクロ	ロクロ		暗オリーブ色		白色・黒色粒子	破片	良	一括	実測 No.289　黄瀬戸
第 70 図	A 区 2-1	遺構外	152	土器	焙烙	近世	—	—	—	ナデ	ナデ		にぶい褐色		白色・黒色粒子、角閃石	破片	良	AP-110　2	実測 No.281
第 70 図	A 区 2-1	遺構外	153	土製品	猿形	古墳？	—	6.6	—	手づくね			橙色		石英	一部欠損	良	AP-108　1	実測 No.341
第 71 図	A 区 2-2	1 号土坑	154	土師器	カワラケ？	平安以降	(7.7)	(1.4)	—	ナデ	ナデ		橙色		白色・赤色粒子　石英？	30%	良	一括	実測 No.297
第 71 図	A 区 2-2	1 号土坑	155	土師器	カワラケ？	平安以降	(7.5)	(1.1)	—	ナデ	ナデ		橙色		白色・赤色粒子　石英？	30%	良	1 土	実測 No.291
第 71 図	A 区 2-2	1 号土坑	156	陶器	碗	近世	(10.50)	(4.7)	—				にぶい橙色	灰白色	白色粒子	破片	良	1 土	実測 No.294
第 71 図	A 区 2-2	1 号土坑	157	磁器	碗	近世		(2.35)	(2.60)				灰白色		-	破片	良	1 土	実測 No.296　透明釉
第 71 図	A 区 2-2	1 号土坑	158	陶器	鉢	近世	(18.00)	(5.10)	—				暗オリーブ色		-	破片	良	1 土	実測 No.295 内外灰釉　黄瀬戸
第 71 図	A 区 2-2	1 号土坑	159	磁器	皿	近世	(16.90)	(2.50)	—				灰白色		黒色粒子	破片	良	1 土	実測 No.293　手描き　透明釉　内面に菊花文
第 71 図	A 区 2-2	3 号竪穴	160	磁器	皿	近世		(2.7)	(9.7)				灰白色		-	破片	良		実測 No.319　手描き　透明釉　内面にタコ唐草
第 71 図	A 区 2-2	3 号竪穴	161	磁器	碗	近世	(7.2)	(4.8)	—				灰白色		黒色粒子	破片	良		実測 No.318 手描き　透明釉　外面に菊花文
第 71 図	A 区 2-2	3 号竪穴	162	陶器	鉢	近世	(18.20)	(12.35)	—				オリーブ黄色	淡黄色	黒色粒子・石英	破片	良		実測 No.317　内面口唇部に自然釉
第 71 図	A 区 2-2	3 号竪穴	163	土器	壺	弥生	—	—	—				にぶい褐色		白色粒子・石英・雲母	破片	良	3 タテ	実測 No.316
第 71 図	A 区 2-2	4 号竪穴	164	土器	カワラケ	平安以降	7.4	(1.6)	—				にぶい赤褐色		-	40%	良	4 タテ	実測 No.321 内外面重ね焼き痕
第 71 図	A 区 2-2	4 号竪穴	165	陶器	碗	近世	9.00	5.30	3.20				浅黄色		黒色・赤色粒子	65%	良	4 タテ	実測 No.320 透明釉 底部無釉
第 71 図	A 区 2-2	4 号竪穴	166	陶器	摺鉢	近世	(29.9)	(6.7)	—				暗褐色		黒色粒子・石英	破片	良	4 タテ	実測 No.324 鉄釉
第 71 図	A 区 2-2	4 号竪穴	167	陶器	摺鉢	近世	—	—	—				赤褐色		石英	破片	良	4 タテ	実測 No.323
遺物 9	A 区 2-2	4 号竪穴	168	陶器	碗	近世	—	(5.10)	12.00				灰黄色	淡黄色	白色粒子	破片	良	4 タテ	実測 No.322 内外自然釉　底部無釉薬
第 72 図	A 区 2-2	4 号竪穴	169	磁器	碗	近世	11.20	5.70	3.60				灰白色		-	25%	良	4 タテ	実測 No.326　手描き
第 72 図	A 区 2-2	4 号竪穴	170	陶器	碗	近世	(10.00)	6.3	(4.2)				灰色		白色・黒色粒子	30%	良	4 タテ	実測 No.325　内外自然釉
第 72 図	A 区 2-2	4 号竪穴	171	磁器	碗	近世	—	—	(4.2)				灰白色		-	破片	良	4 タテ	実測 No.327 畳付無釉　手描き
第 72 図	A 区 2-2	4 号竪穴	172	磁器	碗	近世	(6.5)	4.5	(3.5)				灰白色		-	45%	良	4 タテ	実測 No.329 手描き
第 72 図	A 区 2-2	4 号竪穴	173	磁器	碗	近世	7.00	5.40	3.6				灰白色		-	ほぼ 100%	良	4 タテ	実測 No.328 畳付無釉　手描き
第 72 図	A 区 2-2	4 号竪穴	174	磁器	猪口	近世	(7.40)	5.7	5.75				灰白色		黒色粒子	70%	良	4 タテ	実測 No.330 外面に松　手描き　透明釉
第 72 図	A 区 2-2	4 号竪穴	175	磁器	皿	近世	9.85	2.45	6.3				灰白色		-	100%	良	4 タテ	実測 No.332 手描き 透明釉
第 72 図	A 区 2-2	4 号竪穴	176	磁器	皿	近世	—	3.00	—				灰白色		-	100%	良	4 タテ	実測 No.331 透明釉　手描き
第 72 図	A 区 2-2	4 号竪穴	177	磁器	皿	近世	(14.70)	(3.30)	—				灰白色		黒色粒子	破片	良	4 タテ	実測 No.333 手描き　透明釉
第 72 図	A 区 2-2	4 号竪穴	178	磁器	碗	近世	14.40	(3.0)	—				灰白色		-	破片	良	4 タテ	実測 No.334　タコ唐草　手描き　透明釉
第 72 図	A 区 2-2	石垣	179	土器	甕	弥生	—	—	—				褐色		白色・赤色粒子・金雲母		良	石垣	実測 No.307
第 72 図	A 区 2-2	石垣	180	陶器	灯明皿	近世	(10.20)	2.25	4.60				暗褐色		-	80%	良	石垣	実測 No.309　外底スス付着　内鉄釉　外面上部鉄釉
第 72 図	A 区 2-2	石垣	181	磁器	碗	近世	(10.50)	5.45	3.80				灰白色		-	40%	良	石垣	実測 No.310　手描き　外面に松
第 72 図	A 区 2-2	石垣	182	磁器	碗	近世	(9.20)	(5.60)	(3.60)				灰白色		-	25%	良	石垣	実測 No.311　端反形　手描き

図版	調査区	遺構	No.	種別	器種	時期	法量			整形			色調		胎土	残存率	焼成	注記	備考
							口径	器高	底径	外面	内面	底面	外面	内面					
第 72 図	A 区 2-2	石垣	183	磁器	碗	近世	—	(3.00)	(3.05)				灰白色		黒色粒子	破片	良	石垣	実測 No.312　手描き　透明釉
第 72 図	A 区 2-2	石垣	184	陶器	徳利？	近世	—	(4.50)	(6.20)			底部糸切り痕	暗褐色	明黄褐色	-	破片	良	石垣	実測 No.308 外鉄釉
第 72 図	A 区 2-2	石垣	185	磁器	碗	近世	(6.00)	4.65	(3.60)				灰白色		-	40%	良	石垣	実測 No.314　手描き
第 72 図	A 区 2-2	石垣	186	磁器	猪口	近世	8.00	6.30	6.80				灰白色		黒色粒子	40%	良	石垣	実測 No.313 口縁部鉄釉　手描き　透明釉
第 72 図	A 区 2-2	石垣	187	磁器	徳利	近世	3.00	(1.90)	—				灰白色		黒色粒子	破片	良	石垣	実測 No.315　首部のみ　手描き　透明釉
第 73 図	A 区 2-2	溜池状遺構	188	土器	深鉢	縄文	—	—	—				暗赤褐色		白色粒子・石英	60%	良	タメ -2	実測 No.298
第 73 図	A 区 2-2	溜池状遺構	189	陶器	碗	近世	(8.70)	5.30	4.00				オリーブ黒色	灰白色	石英	60%	良	タメ	実測 No.299 錆釉
第 73 図	A 区 2-2	遺構外	190	土器	甕	弥生	—	—	—				明赤褐色		白色・黒色・赤色粒子・金雲母	破片	良	一括	実測 No.301
第 73 図	A 区 2-2	遺構外	191	土器	壺	弥生	—	—	—				にぶい黄褐色		白色・黒色・赤色粒子・金雲母	破片	良	一括	実測 No.300
第 73 図	A 区 2-2	1 号土坑	192	土師器	坏	奈良・平安	—	—	—			底部糸きり痕	橙色		白色粒子	破片	良	1 土- 13	実測 No.292
第 73 図	A 区 2-2	遺構外	193	陶器	摺り鉢	近世	—	(2.7)	(13.6)			底部糸きり痕	黒褐色		石英	破片	良	一括	実測 No.304　内外面鉄釉
第 73 図	A 区 2-2	遺構外	194	陶器	皿	近世	—	(3.2)	(8.00)			-	浅黄色	オリーブ	-	破片	良	一括	実測 No.303　外上灰釉　内灰釉　重ね焼きの跡がある
第 73 図	A 区 2-2	遺構外	195	陶器	瓶	近世	—	(3.35)				削出し高台 底部糸きり痕	浅黄色	オリーブ褐色	石英	25%	良	一括	実測 No.302
第 73 図	A 区 2-2	遺構外	196	磁器	碗	近世	11.00	5.00	3.50			-	灰白色		-	50%	良	一括	実測 No.305　透明釉 外面に菊花文
第 73 図	A 区 2-2	遺構外	197	磁器	皿	近世	8.00	2.40	4.60			-	灰白色		-	85%	良	一括	実測 No.306　外三重塔、松、波
第 73 図	A 区 2-3	1 号住居カマド	198	土器	坏	奈良	11.50	4.95	7.20	ヘラ削り	暗文	糸切り後 ヘラ調整	橙色		白色粒子	70%	良	3	実測 NO114
第 73 図	A 区 2-3	1 号住居	199	土器	坏	奈良	(11.60)	4.30	(7.40)	ヘラ削り	暗文	糸切り後 ヘラ調整	橙色		白色粒子	30%	良	9　14?	実測 NO113
第 73 図	A 区 2-3	1 号住居	200	土器	甕	奈良	(18.00)	(5.00)	—	縦ハケ	横ハケ (口縁)	-	明赤褐色		白色粒子・石英	破片	良	5 一括	内スス付着　実測 NO115
第 73 図	A 区 2-3	1 号住居	201	土器	甕	奈良	—	—	—	ハケ	ハケ	指頭圧痕	橙色		白色粒子・金雲母	破片	良	カマド 7　9　10　11	内スス付着　実測 NO112
第 74 図	A 区 2-3	2 号住居	202	土器	坏	奈良	13.80	4.70	—	ヘラナデ	ナデ 暗文 (細かい横方向)	-	明赤褐色		白色・黒色・赤色粒子・金雲母	70%	良	カ　2	外スス付着　内外　剥離有り 実測 NO126
第 74 図	A 区 2-3	2 号住居	203	土器	坏	奈良	13.40	5.20	—	ヘラ削り	ミガキ? (見込)	-	明赤褐色		白色・赤色粒子・石英・雲母	55%	良	19	内スス付着　実測 NO119
第 74 図	A 区 2-3	2 号住居	204	須恵器	高台坏	奈良	14.90	4.65	9.60	ロクロ	ヘラナデ	糸切り後 ヘラ調整	灰色		白色粒子	70%	良	18	貼付高台　実測 NO121
第 74 図	A 区 2-3	2 号住居	205	須恵器	高台坏	奈良	(16.20)	4.40	10.80	ロクロ ヘラ削り	ヘラ削り	糸切り痕	灰白色		白色粒子	50%	良	17　21	内スス付着　実測 NO119 貼付高台
第 74 図	A 区 2-3	2 号住居	206	土器	甕	奈良	—	(5.90)	5.40	ヘラナデ	ハケ	-	浅黄橙色		白色・黒色粒子 金雲母	破片	やや良	4　7　15	外スス付着　実測 NO118 下部剥離
第 74 図	A 区 2-3	2 号住居	207	土器	甕	奈良	15.80	(5.90)		ナデ	ナデ	-	にぶい褐色		白色・黒色粒子	破片	やや良		実測 NO117
第 74 図	A 区 2-3	2 号住居	208	土器	甕	奈良	(19.90)	(11.50)	—	ヘラ削り	ハケ	-	橙色		白色・赤色粒子 石英・雲母	破片	良	11　20　22	実測 NO116
第 74 図	A 区 2-3	2 号住居カマド	209	土器	甕	奈良	(21.50)	(7.70)	—	ヘラ削り	ハケ	-	橙色		白色・赤色粒子	破片	良	16　17	実測 NO123
第 74 図	A 区 2-3	2 号住居	210	土器	甕	奈良	16.20	(5.20)	—		ハケ	-	明赤褐色		白色・黒色・赤色粒子・金雲母	破片	良	カ　13　14	実測 NO122　外剥離
第 74 図	A 区 2-3	2 号住居カマド	211	土器	甕	奈良	—	(6.00)	(10.00)	ヘラ削り	横ナデ	木葉痕	橙色	灰褐色	白色粒子・石英	破片	良	9　10　13　15　18　19	実測 NO124
第 74 図	A 区 2-3	2 号住居	212	土器	甕	奈良	—	—	6.80	縦ハケ後 ミガキ	ハケ	木葉痕	にぶい赤褐色		白色・黒色粒子	破片	良	カ　6　7	内スス付着　実測 NO125
第 75 図	A 区 2-3	3 号住居	213	黒色土器	坏	奈良	10.40	(3.50)	—	ナデ・ミガキ	ナデ	-	にぶい赤褐色		白色・黒色粒子 金雲母	破片	良	158	実測 NO138
第 75 図	A 区 2-3	3 号住居カマド	214	須恵器	坏	奈良	(13.00)	3.10	(8.70)	ロクロ ヘラ削り	ハケ	糸切り痕	灰色		白色粒子	破片	良	12	実測 NO143
第 75 図	A 区 2-3	3 号住居	215	須恵器	高台坏	奈良	(15.90)	3.50	(11.70)	ロクロ ヘラ削り	ハケ	糸切り痕	灰色		白色粒子	破片	良	39	実測 NO142　貼付高台
第 75 図	A 区 2-3	3 号住居カマド	216	須恵器	蓋	奈良	—	3.15	(13.10)	ロクロ ヘラ削り	ヘラナデ	-	灰色		白色粒子	45%	良	33	実測 NO141

図版	調査区	遺構	No.	種別	器種	時期	法量			整形			色調		胎土	残存率	焼成	注記	備考
							口径	器高	底径	外面	内面	底面	外面	内面					
第 75 図	A 区 2-3	3 号住居カマド	217	須恵器	蓋	奈良	—	2.55	12.30	ロクロ ヘラナデ	ヘラナデ	-	灰オリーブ色	白色	白色粒子	90%	良	3 住 640 3 住カマド 40	実測 NO140 外 自然釉
第 75 図	A 区 2-3	3 号住居礫集中	218	須恵器	蓋	奈良	—	3.20	13.20	ロクロ ヘラナデ	ヘラナデ	-	灰オリーブ色	灰色	白色粒子	85%	良	3 住 100 182	実測 NO139 外 自然釉
第 75 図	A 区 2-3	3 号住居	219	土器	甕駿東型	奈良	21.80	(7.60)	—	ハケ	指頭圧痕 ナデ (口縁)	-	明赤褐色		白色・黒色粒子 金雲母	30%	良	2 カ 7 11 19 32 5 17 18 48	内スス付着 実測 NO127
第 75 図	A 区 2-3	3 号住居	220	土器	甕駿東型	奈良	(19.60)	(5.00)	—	縦ハケ	横ハケ	-	赤褐色		白色粒子・石英	破片	良	184	実測 NO131
第 75 図	A 区 2-3	3 号住居	221	土器	甕	奈良	(16.70)	(4.50)	—	ハケ目	-	-	橙色		石英・雲母 小石?	破片	良	53 76 77	実測 NO132
第 75 図	A 区 2-3	3 号住居カマド	222	土器	甕	奈良	(21.10)	(4.20)	—	縦ハケ後 横ナデ	-	-	暗赤褐色		白色粒子・石英	破片	良	111 187 3 住カ 1	実測 NO130
第 75 図	A 区 2-3	3 号住居カマド 前礫集中	223	土器	甕	奈良	(16.00)	(10.90)	—	ヘラ削り ナデ	-	-	橙色		白色粒子・石英	破片	良	3 住 188 3 住カ 39 3 住レキ集 2	実測 NO128
第 75 図	A 区 2-3	3 号住居	224	土器	甕	奈良	(16.40)	(8.50)	—	ヘラ削り	ナデ (口縁) ヘラ削り	-	橙色	橙色	白色粒子・石英	20%	良	8 157	実測 NO129
第 75 図	A 区 2-3	3 号住居	225	土器	甕	奈良	—	(5.50)	7.40	ハケ	ハケ	木葉痕	明赤褐色		白色・黒色粒子	破片	良	106	実測 NO136
第 75 図	A 区 2-3	3 号住居	226	土器	甕	奈良	—	(3.20)	8.20	ハケ	ハケ	木葉痕	にぶい褐色		白色・黒色粒子 金雲母	破片	良	43 107 115 一括	外スス付着 実測 NO135
第 75 図	A 区 2-3	3 号住居	227	土器	甕	奈良	—	(10.20)	6.60	ハケ	ハケ	木葉痕	にぶい褐色		白色・黒色粒子 金雲母	20%	良	カ 9 16 36 一括	外スス付着 実測 NO133
第 75 図	A 区 2-3	3 号住居	228	土器	甕	奈良	—	—	68	ヘラ削り後 横ナデ	ナデ	木葉痕	橙色		白色・赤色粒子 金雲母・小石	20%	やや良	102 121 130 161	スス付着 実測 NO134
第 75 図	A 区 2-3	3 号住居	229	土器	甑	奈良	—	(2.10)	5.80	ヘラナデ	指ナデ	底部穿孔	にぶい黄褐色		白色・黒色・赤 色粒子・石英	破片	良	149	実測 NO137 底部に 4 箇所穿孔有り
第 76 図	A 区 2-3	遺構外	230	土器	深鉢	縄文	—	—	—			-	明褐色	明赤褐色	白色・黒色・赤 色粒子・金雲母	破片	良	遺構外- 8	実測 NO335
第 76 図	A 区 2-3	遺構外	231	土器	深鉢	縄文	—	—	—			-	にぶい橙色	灰黄褐色	白色・黒色粒子 金雲母	破片	良	遺構外- 17	実測 NO336
第 76 図	A 区 2-3	遺構外	232	土器	深鉢	縄文	—	—	—			-	橙色	にぶい黄褐色	白色・黒色粒子 金雲母	破片	良	遺構外- 11	実測 NO338
第 76 図	A 区 2-3	遺構外	233	土器	深鉢	縄文	—	—	—			-	明赤褐色	にぶい黄褐色	白色・黒色粒子 金雲母・石英	破片	良	遺構外- 21	実測 NO339
第 76 図	A 区 2-3	遺構外	234	土器	深鉢	縄文	—	—	—			-	橙色	橙色	白色・黒色粒子 金雲母	破片	良	遺構外- 7	実測 NO337
第 76 図	A 区 2-3	遺構外	235	土器	深鉢	縄文	—	—	—			-	黄褐色	にぶい黄褐色	白色・黒色粒子 金雲母	破片	良	遺構外- 10	実測 NO340
第 77 図	C 区	4 号住居	266	土器	鉢	平安末	—	—	—	ナデ	ナデ	-	にぶい黄橙色		白色粒子・金雲 母	破片	良	P-1	実測 NO144
第 77 図	C 区	37 号土坑	268	土器	深鉢型土器	縄文早期	—	(30.80)	14.60	ヘラナデ	指頭圧痕 ヘラナデ	-	暗赤褐色		白色・赤色粒子 金雲母	45%	良	2 3 4 5 6 7 8 9 10	実測 NO145
第 77 図	C 区	65 号土坑	269	陶器	小壺	中世	1.90	3.60	2.50			回転糸切り痕	暗褐色			100%	良	P-3	実測 NO146 瀬戸鉄釉
第 77 図	C 区	12 号ピット	270	陶器	擂り皿	中世	—	(1.30)	7.20	自然釉		回転糸切り痕	黄灰褐色		-	50%	良	PT11	実測 NO147
第 78 図	C 区	遺構外	281	土器	深鉢型土器	縄文早期	(19.00)	(7.10)	—				赤褐色		白色粒子角閃石	破片	良	PJ235	実測 NO220
第 78 図	C 区	遺構外	282	土器	深鉢型土器	縄文早期	(18.20?)	(6.40)	—				にぶい橙色	黒褐色	白色粒子・石英	破片	良	PJ1057 1059	実測 NO219
第 78 図	C 区	遺構外	283	土器	深鉢型土器	縄文早期	—	—	—				黒褐色		白色・黒色粒子 金雲母	破片	良	PJ624	実測 NO209
第 78 図	C 区	遺構外	284	土器	深鉢型土器	縄文早期	—	—	—				明褐色		赤色粒子・石英	破片	良	PJ81	実測 NO385
第 78 図	C 区	遺構外	285	土器	深鉢型土器	縄文早期	—	—	—				橙色	黄橙色	白色粒子・石英	破片	良	PJ855 946	実測 NO204
第 78 図	C 区	遺構外	286	土器	深鉢型土器	縄文早期	—	—	—				にぶい黄褐色		白色・赤色粒子 石英	破片	良	PJ1058	実測 NO207
第 78 図	C 区	遺構外	287	土器	深鉢型土器	縄文早期	—	—	—				にぶい黄褐色		白色・赤色・黒 色粒子・金雲母	破片	良	PJ867	実測 NO214
第 78 図	C 区	遺構外	288	土器	深鉢型土器	縄文早期	—	—	—				赤褐色		白色・黒色粒子 金雲母	破片	良	PJ496	実測 NO215
第 78 図	C 区	遺構外	289	土器	深鉢型土器	縄文早期	—	—	—				明赤褐色		白色・黒色粒子 金雲母	破片	良	PJ199	実測 NO211
第 78 図	C 区	遺構外	290	土器	深鉢型土器	縄文早期	—	—	—				にぶい赤褐色		白色・黒色粒子 金雲母	破片	良	PJ151 336 85 574 599	実測 NO212

図版	調査区	遺構	No.	種別	器種	時期	法量			整形			色調		胎土	残存率	焼成	注記	備考
							口径	器高	底径	外面	内面	底面	外面	内面					
第 78 図	C 区	遺構外	291	土器	深鉢型土器	縄文早期	—	—	—				明赤褐色		白色・赤色・黒色粒子・金雲母	破片	良	PJ2 516	実測 NO213
第 78 図	C 区	遺構外	292	土器	深鉢型土器	縄文早期	—	—	—				明褐色		白色・黒色粒子金雲母・小石	破片	良	PJ387 694 695 508	実測 NO217
第 78 図	C 区	遺構外	293	土器	深鉢型土器	縄文早期	—	—	—				明褐色	黒褐色	白色粒子・石英	破片	良	PJ853	実測 NO206
第 78 図	C 区	試掘 3 トレ	294	土器	深鉢型土器	縄文早期	—	—	—				灰黄褐色	橙色	白色粒子・石英	破片	良	一括	実測 NO203
第 78 図	C 区	1 号遺物集中	295	土器	深鉢型土器	縄文早期	—	—	—				明褐色		石英・白色粒子	破片	良	PJ322	実測 NO384
第 78 図	C 区	遺構外	296	土器	深鉢型土器	縄文早期	—	—	—				橙色		白色・黒色粒子金雲母	破片	良	PJ761	実測 NO208
第 78 図	C 区	遺構外	297	土器	深鉢型土器	縄文早期	—	—	—				にぶい黄褐色	暗褐色	白色粒子・石英	破片	良	PJ864 865	実測 NO205
第 78 図	C 区	遺構外	298	土器	深鉢型土器	縄文早期	—	—	—				にぶい黄褐色		白色・黒色粒子金雲母	破片	良	表採	実測 NO218
第 78 図	C 区	遺構外	299	土器	深鉢型土器	縄文早期	—	—	—				にぶい褐色		白色・赤色・黒色粒子・金雲母	破片	良	PJ462	実測 NO216
第 78 図	C 区	遺構外	300	土器	尖底土器	縄文早期	—	—	—	条痕文			橙色		白色・黒色粒子	破片	良	PJ847	実測 NO158
第 78 図	C 区	遺構外	301	土器	尖底土器	縄文早期	—	—	—			ヘラ削り	にぶい橙色		白色・黒色粒子	破片	良	PJ72	実測 NO156
第 78 図	C 区	遺構外	302	土器	深鉢型土器	縄文早期	—	—	—				明赤褐色		白色・黒色粒子金雲母	破片	良	PJ728	実測 NO157
第 78 図	C 区	遺構外	303	土器	深鉢型土器	縄文	—	—	—				褐色		石英・金雲母	破片	良	PJ576	実測 NO382
第 78 図	C 区	遺構外	304	土器	深鉢型土器	縄文早期	—	—	—				にぶい黄褐色		白色・黒色粒子金雲母	破片	良	PJ463	実測 NO210
第 79 図	C 区	遺構外	305	土器	深鉢型土器	縄文	—	—	—				褐色		白色粒子・石英	20%	良	IS04-PJ597	実測 NO148
第 79 図	C 区	遺構外	306	土器	深鉢型土器	縄文	—	—	—				にぶい黄褐色		白色粒子・石英	破片	良	PJ887 888 889 232 354 551 581	実測 NO149
第 79 図	C 区	遺構外	307	土器	深鉢型土器	縄文前期	—	—	—				黒色		白色粒子・石英金雲母	破片	良	PJ904	実測 NO189
第 79 図	C 区	遺構外	308	土器	深鉢型土器	縄文前期	—	—	—				暗褐色		白色・赤色粒子金雲母	破片	良	PJ515	実測 NO201
第 79 図	C 区	遺構外	309	土器	深鉢型土器	縄文前期	—	—	—				褐色		白色・赤色・黒色粒子・金雲母	破片	良	PJ868	スス付着　実測 NO200
第 79 図	C 区	遺構外	310	土器	深鉢型土器	縄文前期	—	—	—				明赤褐色		白色・黒色粒子金雲母	破片	良	PJ223	実測 NO195
第 79 図	C 区	遺構外	311	土器	深鉢型土器	縄文前期	—	—	—				にぶい黄褐色		白色・赤色・黒色粒子・金雲母	破片	良	PJ135	実測 NO194
第 79 図	C 区	遺構外	312	土器	深鉢型土器	縄文前期	—	—	—				にぶい黄褐色		白色・黒色粒子金雲母	破片	良	PJ94	実測 NO197
第 79 図	C 区	遺構外	313	土器	深鉢型土器	縄文前期	—	—	—				にぶい黄褐色		白色・黒色粒子金雲母	破片	良	PJ94	実測 NO197
第 79 図	C 区	遺構外	314	土器	深鉢型土器	縄文前期	—	—	—				明赤褐色		白色粒子・金雲母・小石	破片	良	PJ924	実測 NO193
第 79 図	C 区	遺構外	315	土器	深鉢型土器	縄文前期	—	—	—				にぶい黄褐色		白色・赤色・黒色粒子・金雲母	破片	良	PJ891	実測 NO199
第 79 図	C 区	遺構外	316	土器	深鉢型土器	縄文前期	—	—	—				にぶい褐色		雲母・金雲母黒雲母	破片	良	PJ229	実測 NO192
第 79 図	C 区	遺構外	317	土器	深鉢型土器	縄文前期	—	—	—				にぶい黄褐色		白色粒子・黒雲母・石英	破片	良	PJ919	実測 NO191
第 79 図	C 区	遺構外	318	土器	深鉢型土器	縄文前期	—	—	—				にぶい褐色		白色・赤色粒子金雲母	破片	良	PJ519 700 707 806	実測 NO184
第 79 図	C 区	遺構外	319	土器	深鉢型土器	縄文前期	—	—	—				にぶい黄褐色		白色・黒色粒子金雲母	破片	良	PJ134	実測 NO185
第 79 図	C 区	遺構外	320	土器	深鉢型土器	縄文前期	—	—	—				にぶい褐色		白色・赤色・黒色粒子・金雲母	破片	良	PJ981 983 984	実測 NO186
第 79 図	C 区	遺構外	321	土器	深鉢型土器	縄文前期	—	—	—				にぶい黄褐色		白色・黒色粒子金雲母	破片	良	PJ851	実測 NO196
第 79 図	C 区	遺構外	322	土器	深鉢型土器	縄文前期	—	—	—				にぶい褐色		白色・赤色・黒色粒子・金雲母	破片	良	PJ372	実測 NO183
第 79 図	C 区	遺構外	323	土器	深鉢型土器	縄文前期	—	—	—				黒褐色		白色粒子金雲母	破片	良	PJ934	実測 NO202
第 79 図	C 区	遺構外	324	土器	深鉢型土器	縄文前期	—	—	—				明赤褐色		白色粒子金雲母・石英	破片	良	PJ905	実測 NO190

図版	調査区	遺構	No.	種別	器種	時期	法量			整形			色調		胎土	残存率	焼成	注記	備考
							口径	器高	底径	外面	内面	底面	外面	内面					
第 79 図	C 区	遺構外	325	土器	深鉢型土器	縄文前期	—	—	—				暗赤褐色		白色粒子 金雲母・石英	破片	良	PJ620	実測 NO188
第 79 図	C 区	遺構外	326	土器	深鉢型土器	縄文中期	—	—	—				にぶい赤褐色		白色粒子・石英	破片	良	P1	実測 NO229
第 80 図	C 区	遺構外	327	土器	深鉢型土器	縄文後期	—	—	—				赤褐色		白色・赤色粒子 石英	破片	良	一括	実測 NO163
第 80 図	C 区	遺構外	328	土器	深鉢型土器	縄文後期	—	—	—				明赤色		白色・黒色粒子 金雲母	破片	良	PJ354	実測 NO175
第 80 図	C 区	遺構外	329	土器	深鉢型土器	縄文後期	—	—	—				にぶい褐色		白色・黒色粒子 金雲母・白小石	破片	良	PJ1021	実測 NO169
第 80 図	C 区	遺構外	330	土器	深鉢型土器	縄文後期	—	—	—				赤褐色		白色粒子・石英	破片	良	PD192	実測 NO181
第 80 図	C 区	遺構外	331	土器	深鉢型土器		—	—	—				にぶい橙色		白色・黒色粒子 金雲母	破片	良	PY123	実測 NO174
第 80 図	C 区	遺構外	332	土器	深鉢型土器	縄文後期	—	—	—				褐色		白色粒子	破片	良	PJ489	実測 NO180
第 80 図	C 区	遺構外	333	土器	深鉢型土器	縄文晩期	—	—	—				黒褐色		白色・赤色粒子	破片	良	一括	実測 NO164
第 80 図	C 区	遺構外	334	土器	深鉢型土器	縄文後期？	—	—	—				黒色		白色・赤色粒子 石英	破片	良	PJG42	実測 NO162
第 80 図	C 区	遺構外	335	土器	深鉢型土器	縄文後期	—	—	—				赤褐色		白色粒子・石英	破片	良	PJ212	実測 NO179
第 80 図	C 区	遺構外	336	土器	深鉢型土器	縄文後期	—	—	—				橙色		白色・黒色粒子 金雲母	破片	良	PJ363	実測 NO165
第 80 図	C 区	遺構外	337	土器	深鉢型土器	縄文晩期？	—	—	—				明赤褐色		白色・黒色粒子 小石	破片	良	PJ262 369	実測 NO178
第 80 図	C 区	遺構外	338	土器	深鉢型土器	縄文晩期？	—	—	—				暗褐色		白色・黒色粒子 金雲母・小石	破片	良	PJ555	実測 NO168
第 80 図	C 区	遺構外	339	土器	深鉢型土器	縄文晩期？	—	—	—				赤褐色		白色・赤色・黒 色粒子・金雲母	破片	良	PJ372	実測 NO183
第 80 図	C 区	遺構外	340	土器	深鉢型土器	縄文晩期	—	—	—				褐色		白色・赤色・黒 色粒子・金雲母	破片	良	PJ556	実測 NO177
第 80 図	C 区	遺構外	341	土器	深鉢型土器	縄文後期？	—	—	—				褐色		白色粒子	破片	良	PJ233	実測 NO176
第 80 図	C 区	遺構外	342	土器	深鉢型土器	縄文晩期？	—	—	—				橙色		白色・黒色粒子 金雲母・小石	破片	良	PJ794	実測 NO170
第 80 図	C 区	遺構外	343	土器	深鉢型土器	縄文後期	—	—	—				にぶい赤褐色	黒褐色	白色粒子・石英・ 雲母	破片	良	PJ1034	実測 NO226
第 80 図	C 区	遺構外	344	土器	深鉢型土器	縄文晩期？	—	—	—				明褐色		白色粒子・石英	破片	良	PJ586	実測 NO167
第 80 図	C 区	遺構外	345	土器	深鉢型土器	縄文晩期？	—	—	—				暗赤褐色		白色粒子・石英	破片	良	PJ1030	実測 NO172
第 80 図	C 区	1 号配石	346	土器	深鉢型土器	縄文晩期？	—	—	—				明赤褐色		白色粒子・石英	破片	良	PJ469	実測 NO161
第 80 図	C 区	遺構外	347	土器	深鉢型土器	縄文晩期？	—	—	—				黒色	橙色	白色粒子・石英	破片	良	PJ535	実測 NO171
第 80 図	C 区	遺構外	348	土器	深鉢型土器	縄文後期	—	—	—				にぶい褐色		白色・黒色粒子 金雲母	破片	良	PJ527	実測 NO173
第 80 図	C 区	遺構外	349	土器	深鉢型土器	縄文後期	—	—	—				暗赤褐色		白色粒子・石英	破片	良	PJ845	実測 NO182
第 80 図	C 区	遺構外	350	土器	深鉢型土器	縄文	—	—	—				明褐色	黒色	白色・黒色粒子 石英	破片	良	PJ825	実測 NO151
第 80 図	C 区	遺構外	351	土器	深鉢型土器	縄文前期末	—	—	—				明褐色	黒色	石英・金雲母	破片	良	PJ70A	実測 NO152 諸磯 C
第 80 図	C 区	遺構外	352	土器	深鉢型土器	縄文	—	—	—			網代痕	褐色	黒色	白色粒子・石英	破片	良	PJ1045	実測 NO154
第 80 図	C 区	遺構外	353	土器	深鉢型土器	縄文	—	—	—			網代痕	赤褐色		白色粒子 金雲母	破片	良	PJ11 MZ01	実測 NO155
第 80 図	C 区	遺構外	354	土器	深鉢型土器	縄文	—	—	—				にぶい黄褐色		赤色粒子 石英・金雲母	破片	良	PJ150	実測 NO150
第 80 図	C 区	遺構外	355	土器	深鉢型土器	縄文	—	—	—			網代痕	黒褐色		白色粒子・石英	破片	良	PJ1053	実測 NO153
第 81 図	C 区	遺構外	356	土器	坏？	弥生	—	—	—				橙色		白色粒子	破片	良	PY126	実測 NO264
第 81 図	C 区	遺構外	357	土器	甕	弥生	—	—	—				暗褐色	橙色	白色粒子	破片	良	PY28	実測 NO263 外スス付着
第 81 図	C 区	遺構外	358	土器	甕	弥生	—	—	—				にぶい褐色		白色・黒色粒子 金雲母	破片	良	PY87	実測 NO251
第 81 図	C 区	遺構外	359	土器	甕	弥生	—	—	—				にぶい黄褐色		白色・黒色粒子 金雲母	破片	良	PY72	実測 NO247
第 81 図	C 区	遺構外	360	土器	甕	弥生	—	—	—				暗灰黄色		白色・黒色粒子 金雲母・石英	破片	良	PY110	実測 NO252
第 81 図	C 区	遺構外	361	土器	甕	弥生	—	—	—				にぶい褐色		白色粒子	破片	良	PY108	実測 NO255
第 81 図	C 区	118 号土坑	362	土器	甕	弥生	—	—	—				にぶい黄褐色	明赤褐色	白色粒子	破片	良	P1	実測 NO250

図版	調査区	遺構	No.	種別	器種	時期	法量			整形			色調		胎土	残存率	焼成	注記	備考
							口径	器高	底径	外面	内面	底面	外面	内面					
第 81 図	C 区	遺構外	363	土器	壺	弥生	—	—	—				暗赤褐色	橙色	白色・黒色粒子 石英	破片	良	PJ848 Do06PJ361	実測 NO246
第 81 図	C 区	遺構外	364	土器	壺	弥生	—	—	—				明赤褐色	赤褐色	白色粒子 金雲母	破片	良	PJ149	実測 NO249
第 81 図	C 区	11 号土坑	365	土器	壺	弥生	—	—	—				橙色		白色・黒色粒子 金雲母	破片	良	PJ160	実測 NO253
第 81 図	C 区	1 号住居	366	土器	壺	弥生	—	—	—				橙色		白色粒子 金雲母	破片	良	PY166	実測 NO254
第 81 図	C 区	遺構外	367	土器	甕	弥生	—	—	—				黄褐色		白色粒子・石英	破片	良	PY148	実測 NO239
第 81 図	C 区	試掘 3 トレ	368	土器	甕	弥生	—	—	—				橙色		白色粒子 金雲母	破片	良	一括	実測 NO238
第 81 図	C 区	遺構外	369	土器	甕	弥生	—	—	—				橙色		白色粒子・石英	破片	良	PY153	実測 NO241
第 81 図	C 区	遺構外	370	土器	甕	弥生	—	—	—				黒褐色	褐色	白色粒子・雲母	破片	良	PY161	実測 NO256
第 81 図	C 区	遺構外	371	土器	甕	弥生	—	—	—				にぶい褐色	名黄褐色	白色粒子・石英	破片	良	PY140	実測 NO233
第 81 図	C 区	遺構外	372	土器	甕	弥生	—	—	—				橙色		白色粒子・石英	破片	良	PY56 PY57	実測 NO228
第 81 図	C 区	遺構外	373	土器	甕	弥生	—	—	—				橙色		白色粒子・石英	破片	良	PY150	実測 NO232
第 81 図	C 区	遺構外	374	土器	甕	弥生	—	—	—				橙色	明赤褐色	白色粒子・石英	破片	良	PY155	実測 NO242
第 81 図	C 区	12 号土坑	375	土器	甕	弥生	—	—	—				黒褐色	名黄褐色	白色・赤色粒子 金雲母	破片	良	PY14	実測 NO221
第 81 図	C 区	8 号土坑	376	土器	甕	弥生	—	—	—				にぶい黄橙色	名黄褐色	白色・黒色粒子 金雲母・石英	破片	良	PY4	実測 NO240
第 81 図	C 区	遺構外	377	土器	甕	弥生	—	—	—				にぶい黄褐色	黒褐色	白色粒子・石英	破片	良	PY90	実測 NO259　内スス付着
第 81 図	C 区	遺構外	378	土器	甕	弥生	—	—	—				にぶい黄橙色		白色粒子・石英	破片	良	PY109	実測 NO245
第 81 図	C 区	遺構外	379	土器	甕	弥生	—	—	—				橙色		白色・黒色粒子 石英	破片	良	PY103	実測 NO227
第 81 図	C 区	遺構外	380	土器	壺	弥生	—	—	—				橙色		白色粒子・石英	破片	良	PY70 PY73	実測 NO237 外スス付着
第 81 図	C 区	試掘 3 トレ	381	土器	壺	弥生	—	—	—				暗赤褐色		白色粒子・石英 金雲母	破片	良	一括	実測 NO243
第 81 図	C 区	6 号土坑	382	土器	壺	弥生	—	—	—				にぶい橙色	灰褐色	白色粒子・石英	破片	良	PY7	実測 NO230
第 81 図	C 区	2 号住居	383	土器	壺	弥生	—	—	—				橙色	にぶい橙色	白色粒子・石英	破片	良	PY167	実測 NO236
第 81 図	C 区	遺構外	384	土器	壺	弥生	—	—	—				橙色		白色・黒色粒子 金雲母・石英	破片	良	PY62	実測 NO234
第 81 図	C 区	遺構外	385	土器	壺	弥生	—	—	—				橙色		白色粒子・石英	破片	良	PY55	実測 NO235
第 81 図	C 区	遺構外	386	黒色土器	甕	弥生	—	—	—				黒色	にぶい橙色	白色粒子・石英	破片	良	PY31	実測 NO222
第 81 図	C 区	遺構外	387	土器	甕	弥生	—	—	—				橙色	にぶい橙色	白色粒子・石英	破片	良	PY25	実測 NO223
第 81 図	C 区	2 号住居	388	土器	甕	弥生	—	—	—				にぶい橙色	橙色	白色粒子・石英	破片	良	PY163	実測 NO244
第 81 図	C 区	遺構外	389	黒色土器	甕	弥生	—	—	—		ミガキ		黒色	黒褐色	白色粒子 金雲母	破片	良	PY184	実測 NO225 1 箇所穿孔あり
第 81 図	C 区	遺構外	390	土器	甕	弥生	—	—	—				黒褐色	橙色	白色・黒色粒子 金雲母・石英	破片	良	PY121	実測 NO231 外スス付着
第 81 図	C 区	遺構外	391	土器	甕	弥生	—	—	—				にぶい橙色	橙色	白色粒子・石英	破片	良	PY147	実測 NO224
第 81 図	C 区	43 号溝	392	土器	甕	弥生	—	—	—				にぶい黄褐色		白色粒子	破片	良	PY119	実測 NO258
第 81 図	C 区	2 号土坑	393	土器	甕	弥生	—	—	—				にぶい黄褐色		石英	破片	良	PY16	実測 NO260
第 81 図	C 区	2 号住居	394	土器	甕	弥生	—	—	—				にぶい黄橙色		白色粒子・石英	破片	良	PY116	実測 NO266
第 81 図	C 区	遺構外	395	土器	甕	弥生	—	—	—				橙色		白色粒子・石英	破片	良	PY34	実測 NO265
第 81 図	C 区	遺構外	396	土器	甕	弥生	—	(1.95)	(6.0)				にぶい黄褐色	橙色	白色粒子・石英	破片	良	PY89	実測 NO262
第 81 図	C 区	試掘 3 トレ	397	土器	甕	弥生	—	—	—				赤褐色	にぶい褐色	白色粒子・石英	破片	良	一括	実測 NO261
第 81 図	C 区	43 号溝	398	土器	甕	弥生	—	—	—				暗赤褐色	にぶい黄褐色	白色粒子	破片	良	PY118	実測 NO257
第 81 図	C 区	遺構外	399	土器	甕	弥生	—	—	—				赤褐色	にぶい橙色	白色粒子・石英 金雲母	破片	良	PY41	実測 NO248

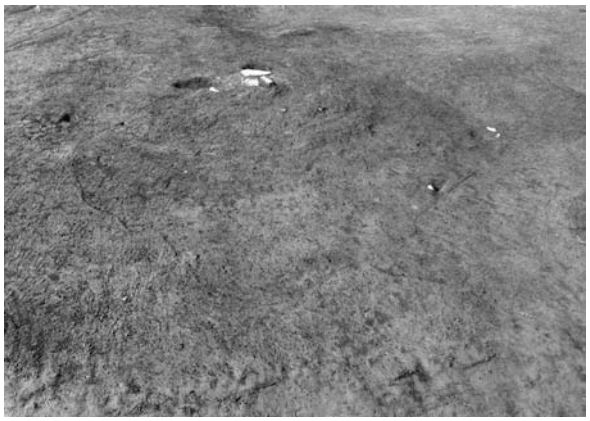
図版	調査区	遺構	№	種別	材質	長さ㎝	幅㎝	厚さ㎝	重さｇ	注記	備考
第 66 図	A 区 1	2 号住居	49	鎌	鉄	7.00	3.15	0.60	11.8	A 区 1　2 住- Fe6	実測 -407
第 66 図	A 区 1	2 号住居	50	刀子	鉄	3.90	1.00	0.45	2.6	A 区 1　2 住- Fe10	実測 -423
第 66 図	A 区 1	2 号住居	51	刀子	鉄	4.60	1.20	0.60	3.1	A 区 1　2 住- Fe4	実測 -420
第 67 図	A 区 1	4 号住居	62	鉄鏃	鉄	7.30	1.70	0.70	12.2	A 区 1　4 住- Fe	実測 -424
第 67 図	A 区 1	5 号住居	67	不明	鉄	4.85	1.80	1.45	12.0	A 区 1　5 住- Fe	実測 -425
第 68 図	A 区 1	3 号土坑	71	短刀	鉄	30.70	3.50	1.10	156.5	A 区 1　3 号土坑人 102	実測 -405
第 68 図	A 区 1	3 号土坑	72	鎌	鉄	15.40	5.20	0.60	50.3	A 区 1　3 号土坑 Fe-1,Fe-2	実測 -408
第 68 図	A 区 1	5 号溝状遺構	90	不明	鉄	10.50	2.70	1.10	24.5	A 区 1　Fe-1	実測 -409
第 68 図	A 区 1	5 号溝状遺構	91	不明	鉄	2.85	0.25	0.25	0.40	A 区 1　5 号溝 120AWFe3	実測 -419
第 70 図	A 区 1	一括	124	短刀	鉄	27.80	3.05	1.25	118.1	A 区 1	実測 -406
第 70 図	A 区 2-1	一括	125	短刀	鉄	27.00	3.15	1.50	133.0	A 区 2-1	実測 -426
第 70 図	A 区 1	一括	126	鉄鏃	鉄	4.85	0.70	0.40	3.20	A 区 1　G Fe8	実測 -411
第 70 図	A 区 1	一括	127	鉄鏃	鉄	9.60	0.80	0.70	8.7	A 区 1　G Fe7	実測 -410
第 70 図	A 区 1	一括	128	鉄鏃？	鉄	5.70	2.60	1.00	9.3	A 区 1　122AY Fe9	実測 -422
第 70 図	A 区 1	一括	129	不明	鉄	2.90	1.35	0.70	7.6	A 区 1　119AW Fe5	実測 -421
第 76 図	A 区 2-1	一括	236	刀子	鉄	5.90	1.60	0.50	9.0	A 区 2-1 034	実測 -436
第 76 図	A 区 2-1	一括	237	刀子？	鉄	3.30	1.20	0.50	5.0	A 区 2-1 AR110g	実測 -432
第 76 図	A 区 2-1	一括	238	刀子？	鉄	4.30	1.30	0.40	5.0	A 区 2-1 AR110g	実測 -434
第 76 図	A 区 2-1	一括	239	釘	鉄	8.60	0.95	0.40	6.0	A 区 2-1 AR110g	実測 -433
第 76 図	A 区 2-1	一括	240	釘？	鉄	4.10	1.90	0.40	4.0	A 区 2-1 AR110g	実測 -431
第 76 図	A 区 2-1	一括	241	刀子	鉄	4.10	0.75	0.30	2.0	A 区 2-1 AQ111g	実測 -435
第 76 図	A 区 2-1	一括	242	?	鉄	4.10	1.10	0.90	6.2	A 区 2-1 AP-108	実測 -427
第 76 図	A 区 2-1	一括	243	釘？		7.45	1.15	0.30	3.0	A 区 2-1 AP-109g	実測 -428
第 76 図	A 区 2-1	一括	244	キセル		3.70	1.55	-	4.0	A 区 2-1 AQ110g	実測 -429
第 76 図	A 区 2-1	一括	245	キセル	鉄	4.40	1.50	-	4.29	A 区 2-1 AQ110	実測 -430
第 76 図	A 区 2-2	石垣跡	246	?	鉄	18.10	6.00	0.70	127.0	A 区 2-2 石垣	実測 -445
第 76 図	A 区 2-2	4 号竪穴	247	刀子？	鉄	4.40	1.65	0.70	6.0	A 区 2-2 4 竪穴	実測 -444
第 76 図	A 区 2-2	石垣跡	248	?	鉄	8.80	3.10	0.70	18.0	A 区 2-2 石垣跡	実測 -446
第 76 図	A 区 2-2	1 号土坑	249	?	鉄	4.70	3.80	1.10	32.0	A 区 2-2 1 土坑 7	実測 -437
第 76 図	A 区 2-2	1 号土坑	250	?	鉄	6.20	4.15	0.70	52.0	A 区 2-2 1 土坑 8	実測 -438
第 76 図	A 区 2-2	12 号土坑	251	?	鉄	3.20	3.10	1.00	8.0	A 区 2-2 12 土坑一括	実測 -439
第 76 図	A 区 2-2	4 号竪穴	252	?	鉄	4.80	4.30	1.60	29.0	A 区 2-2 4 竪穴	実測 -440
第 76 図	A 区 2-2	4 号竪穴	253	キセル	鉄	5.80	1.40	-	6.0	A 区 2-2 4 竪穴	実測 -443
第 76 図	A 区 2-2	4 号竪穴	254	?	鉄	4.80	1.40	-	7.0	A 区 2-2 4 竪穴	実測 -442
第 76 図	A 区 2-2	4 号竪穴	255	古銭？	鉄	2.50	2.30	0.30	3.0	A 区 2-2 4 竪穴一括	実測 -441
第 76 図	A 区 2-3	3 号住居	256	刀子	鉄	12.7	1.60	0.60	19.0	A 区 2-3 3 住	実測 -448
第 76 図	A 区 2-3	3 号住居	257	刀子	鉄	9.10	1.70	0.50	13.0	A 区 2-3 3 住 142	実測 -449
第 76 図	A 区 2-3	3 号住居	258	刀子	鉄	5.25	0.80	0.30	3.0	A 区 2-3 3 住 65	実測 -447
第 76 図	A 区 2-1	一括	259	古銭	銅	2.5	2.5	1	1.0	―	拓本　天聖元寶　残 1/2
第 76 図	B 区	一括	260	古銭	銅	2.1	2.1	1	2.0	―	拓本　寛永通寶
第 76 図	A 区 2-2	12 土	261	古銭	銅	2.4	2.4	0.1	3.0	―	拓本　元豊通寶
第 76 図	A 区 2-1	一括	262	古銭	銅	2.4	2.4	0.1	3.0	―	拓本　淳熙元寶
第 76 図	A 区 2-1	一括	263	古銭	銅	2.4	2.4	0.1	3.0	―	拓本　宣和通寶
第 76 図	A 区 2-1	一括	264	古銭	銅	2.3	2.3	0.1	2.0	―	拓本　寛永通寶
第 76 図	A 区 2-1	一括	265	古銭	銅	2.2	2.2	0.1	2.0	―	拓本　不明
第 77 図	C 区	31 土	267	短刀	鉄	27.90	2.80	1.20	88.4	C 区 31 土坑	実測 -402
第 77 図	C 区	一括	271	刀子？	鉄	10.35	1.60	0.90	32.1	C 区 グリット 2 面 Fe6	実測 -404
第 77 図	C 区	一括	272	不明	鉄	5.05	1.20	0.70	6.2	C 区 1 面 20sFe3	実測 -413
第 77 図	C 区	一括	273	鉄鏃？	鉄	5.85	1.10	0.95	8.4	C 区 1 面 23vFe-5	実測 -415
第 77 図	C 区	一括	274	不明	鉄	5.60	1.90	1.25	34.0	C 区 40AFe9	実測 -418
第 77 図	C 区	一括	275	釘	鉄	3.80	0.90	0.65	1.8	C 区 グリット 5 トレ Fe2	実測 -403
第 77 図	C 区	一括	276	不明	鉄	4.30	4.50	1.30	33.7	C 区 Ⅰ 面 29xFe1	実測 -462
第 77 図	C 区	一括	277	不明	鉄	3.70	5.60	1.00	64.00	C 区 1 面 35xFe8	実測 -417
第 77 図	C 区	一括	278	不明	鉄	2.25	3.55	0.60	8.40	C 区 1 面 xFe7	実測 -416
第 77 図	C 区	一括	279	不明	鉄	3.30	4.30	0.70	17.70	C 区 1 面 20uFe4	実測 -414
第 77 図	C 区	一括	280	古銭	銅	-	-	-	1.0	C 区　col	拓本　不明　残 1/3

第 4 表　美通遺跡 A・C 区　金属類観察表

図版番号	調査区	注記番号	器種	石材	時代	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考 , 実測 No.
400	A2 区	031	打製石斧	泥岩ホルンフェルス	縄文	17	8.9	2.5	475	346
401	A1 区	S13	打製石斧	結晶片岩	縄文	(13.45)	5.1	1.75	140	343
402	C 区	S812	打製石斧	泥岩ホルンフェルス	縄文	(8.95)	5.05	1.15	66	342
403	C 区	S671	打製石斧	泥岩ホルンフェルス	縄文	(6.9)	(6.4)	(1.15)	62	344
404	A1 区	S57	打製石斧	結晶片岩	縄文	(5.2)	(5.6)	(1.3)	43	345
405	C 区 102 土	S-1	打製石斧	凝灰岩	縄文	14	5.5	3.15	272	359
406	A1 区	S14	磨石	凝灰角礫岩	縄文	(13.95)	(7.1)	(4.65)	632	349
407	A2-2 区 12 土	3	磨製石斧	緑色凝灰岩	縄文	15.1	4.9	4.1	395	361
408	C 区	S-583	磨製石斧	凝灰岩	縄文	19.8	5.6	3.5	645	347
409	A2-2 区	一括	軽石	軽石	縄文	7.8	5	2.2	28	355
410	C 区	39	磨石	安山岩	縄文	9.9	7.7	4.3	447	348
411	C 区	S84,S193	磨石	安山岩	縄文	15.95	5.55	5.3	769	358、S84 と S193 が接合
412	A2-2 区	12 号土坑	石棒	粘板岩	縄文	12.9	3.8	3.5	308	354
413	C 区	S-12	叩き石	花崗岩	縄文	(11.75)	(8.2)	(6.2)	1004	363
414	C 区	S-135	叩き石	凝灰角礫岩	縄文	14.55	10.2	7.4	1393	364
415	C 区 NK01	S-376	磨石?	玄武岩	縄文	(3.05)	(6.35)	(5.15)	116	360
416	C 区	S-792	石錘	凝灰岩	縄文	(7.85)	(6.8)	(2.6)	207	362
417	C 区		石鏃	黄色風化泥岩	縄文早期	2.55	1.5	0.4	2	376
418	C 区 1 面	S-712	石鏃	チャート	縄文	2.1	1.7	0.4	1	371
419	C 区		石鏃	瑪瑙	縄文早期	1.9	1.7	0.3	2	378
420	C 区		石鏃	黒曜石	縄文早期	1.7	1.6	0.4	1	374
421	C 区		石鏃	黒曜石	縄文早期	1.1	1.4	0.4	2	377
422	C 区 1 面	S697	石鏃	黒曜石	縄文	(2.1)	(1.55)	(0.4)	1	372
423	C 区 1 面	S347	石鏃	チャート	縄文	2	1.6	0.4	1	370
424	C 区		石鏃	黒曜石	縄文早期	2.2	1.5	0.7	2	375
425	C 区北	301 グリット	石鏃	黒曜石	縄文	1.1	1	0.3	1	373
426	C 区 1 面	S-581	剥片	水晶	縄文	2.2	0.8	0.6	1	369
427	A1 区	S-63	石匙	チャート	縄文	2.3	4.65	5.5	6	368
428	A 1 区		磨製石鏃	粘板岩	弥生	3.05	2.5	0.3	2	379
429	C 区	S-10	砥石	凝灰岩	平安	(15.45)	(6.65)	(6.8)	663	357
430	C 区	S-5	砥石	凝灰岩	平安	(9.5)	(8.55)	(6.8)	640	356
431	A2-3 区 3 住	160	砥石	凝灰岩	平安	(9.6)	(4.2)	4.8	200	351
432	C 区北 I 面	PT-11	砥石	凝灰岩	平安	(3.5)	(2.9)	(1.3)	17	380
433	A1 区 Do26	507	砥石	凝灰岩	平安	(9.1)	4.2	2.45	99	350
434	A2-2 区	3 号土坑	碁石	黒色頁岩	平安	2.3	2.2	0.5	4	353
435	A2-2 区	一括	おはじき	ガラス	近世～明治	1.8	1.4	0.5	2	352
436	A2-3 区	一括	石臼	安山岩	近世	(22.3)	(16.65)	(9.65)	9000	367
437	A2-2 区	一括 (南東砂礫内)	石臼	安山岩	近世	(32)	(32.5)	(14.7)	16000	366
438	C 区 3 住	S-11	台石	花崗岩	縄文早期	36.5	24	11.9	17500	365
439	C 区	S-194	礫器	凝灰岩	縄文早期	9.6	9.9	4.8	523	401
440	C 区	S-739	礫器	凝灰岩	縄文早期	11.2	7.6	6.4	426	386
441	C 区	S-580	礫器	凝灰角礫岩	縄文早期	9.1	10.9	6.6	552	387
442	C 区	R-1	礫器	緑色凝灰岩	縄文早期	10.8	12	4.5	759	388
443	C 区	HS04-S-771	礫器	凝灰岩	縄文早期	19.2	9.8	5.2	400	389
444	C 区	S-287	礫器	砂岩	縄文早期	4.9	9.6	5.1	346	391
445	C 区	S-334	礫器	緑色凝灰岩	縄文早期	4.9	10.9	3	221	390
446	C 区	S-31	剥片	泥岩ホルンフェルス	縄文早期	11.4	10.9	1.9	129	392
447	C 区	S-700	礫器	凝灰岩	縄文早期	8.5	6.6	3.1	136	393
448	C 区	S-741	剥片	緑色凝灰岩	縄文早期	5.6	6.1	1.8	40	394
449	C 区	HS01-S-785	剥片	砂岩	縄文早期	7.1	6.9	2.3	92	395
450	C 区	S-70	スクレイパー	緑色凝灰岩	縄文早期	4.6	6.9	1.9	27	398
451	C 区	S-594	剥片	緑色凝灰岩	縄文早期	5.7	2.6	1.5	18	399、使用痕あり
452	C 区	S-743	剥片	黄色風化泥岩	縄文早期	8.1	4.8	1.6	58	400
453	C 区	S-726	剥片	緑色凝灰岩	縄文早期	2.8	3.8	1.1	8	396
454	C 区	S-206	剥片	水晶	縄文早期	2.9	1.5	1.2	3	397

第 5 表　石器観察表

写　真　図　版


A 区１　１号住居跡検出状況

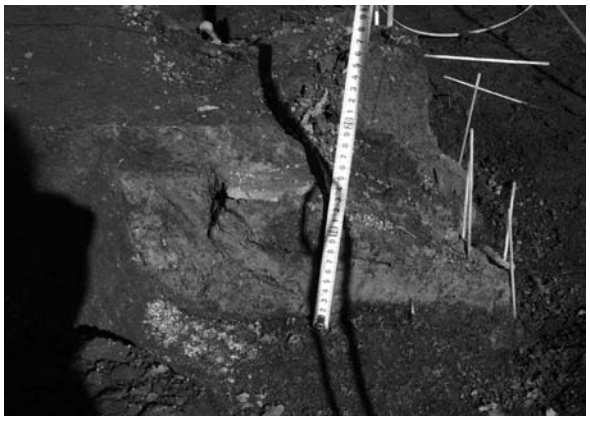
A 区１　１号住居跡断面検出状況

A 区１　１号住居跡土層断面１

A 区１　１号住居跡土層断面２

A 区１　１号住カマド周辺遺物検出状況

A 区１　１号住カマド第２面


A 区１　１号住カマド調査状況

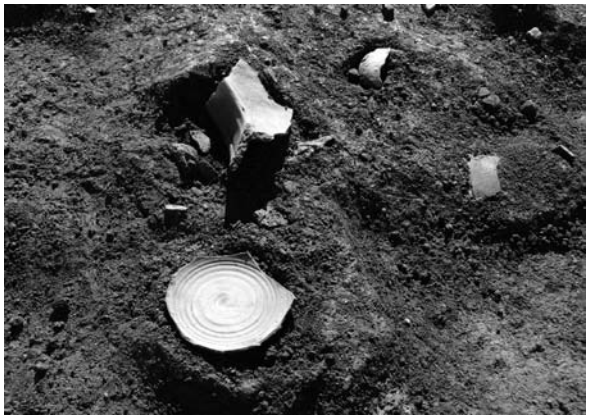
A 区１　１号住カマド調査状況

写真図版２

A 区１　２号住居跡検出状況

A 区１　２号住居跡調査風景

A 区１　２号住居跡遺物検出状況


A 区１　２号住居跡遺物検出状況

A 区１　２号住居跡須恵器検出状況

A 区１　２号住居跡土師器検出状況

A 区１　２号住カマド周辺遺物検出状況

A 区１　２号住カマド周辺遺物検出状況

A 区 1　２号住カマド周辺遺物検出状況

A 区 1　２号住カマド検出状況

A 区 1　２号住断面検出状況

A 区 1　２号住南北断面検出状況

A 区 1　２号住カマド東西断面検出状況

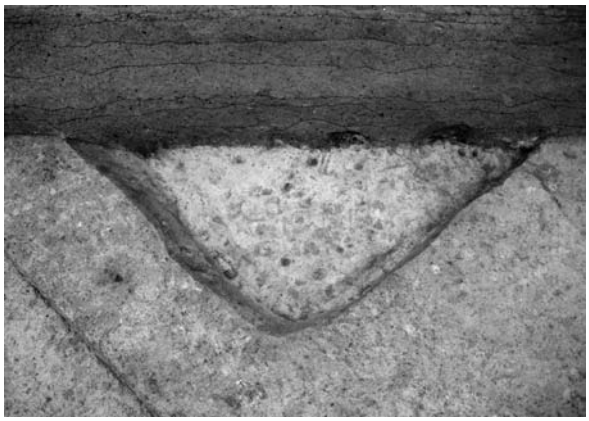
A 区 1　２号住カマド南北断面検出状況

A 区 1　２号住完掘状況

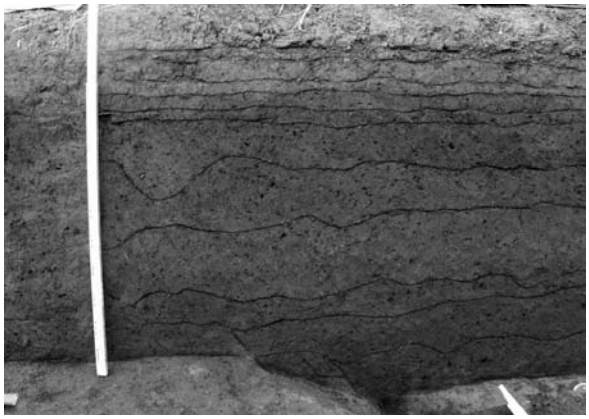
A 区 1　３号住検出状況

写真図版４

A 区１　３号住炭化材検出状況


A 区１　３号住完掘状況

A 区１　３号住土層断面


A 区１　３号住土層断面

A 区１　４号住検出状況

A 区１　４号住南北断面検出状況

A 区１　４号住完掘状況

A 区１　４号住土層断面

A 区 1　5 号住土器 1 検出状況

A 区 1　5 号住土器 1 拡大

A 区 1　5 号住土器 2 検出状況

A 区 1　5 号住カマド検出状況

A 区 1　5 号住カマド調査状況

A 区 1　5 号住カマド調査状況

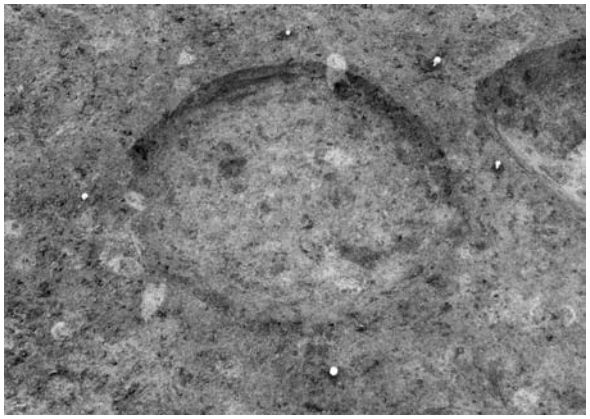
A 区 1　5 号住検出状況

A 区 1　1 号掘立柱建物跡検出状況

写真図版６

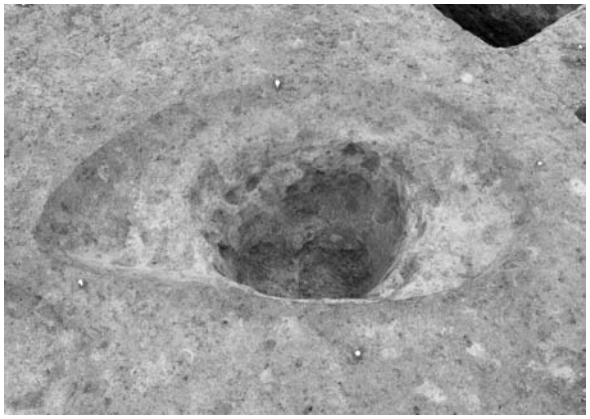
A 区１　２号掘立柱建物跡検出状況

A 区１　３号掘立柱建物跡検出状況



A 区１　１号土坑完掘状況

A 区１　２号土坑断面検出状況

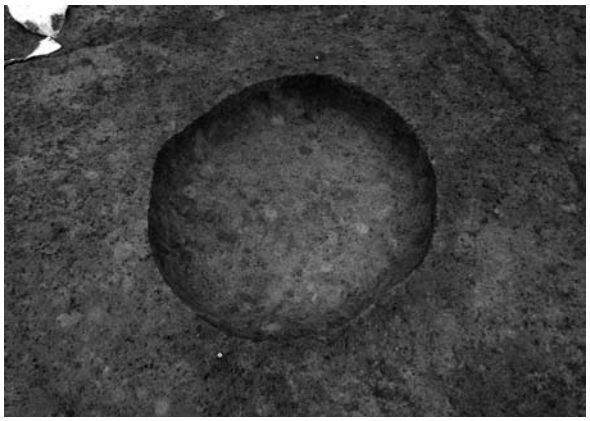


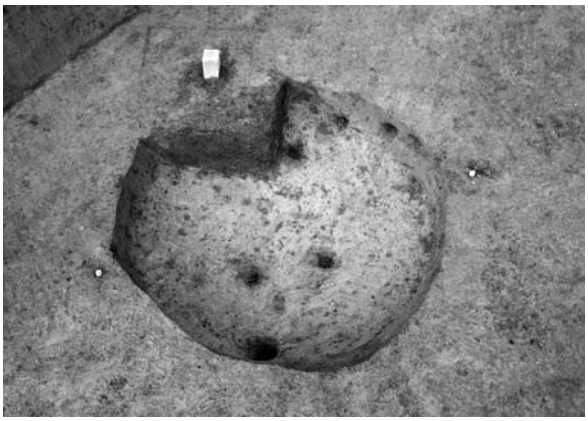
A 区１　２号土坑検出状況

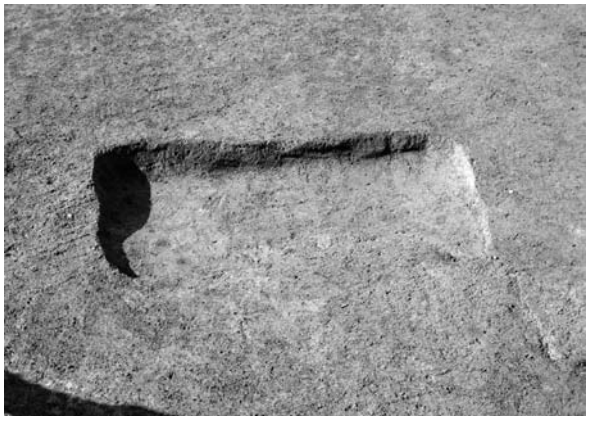
A 区１　３号土坑遺物検出状況

A 区１　３号土坑遺物検出状況

A 区１　３号土坑土層断面


A 区 1　３号土坑完掘状況

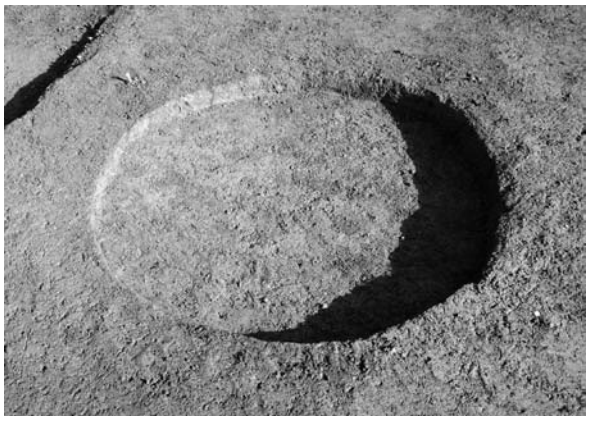

A 区 1　４号土坑完掘状況

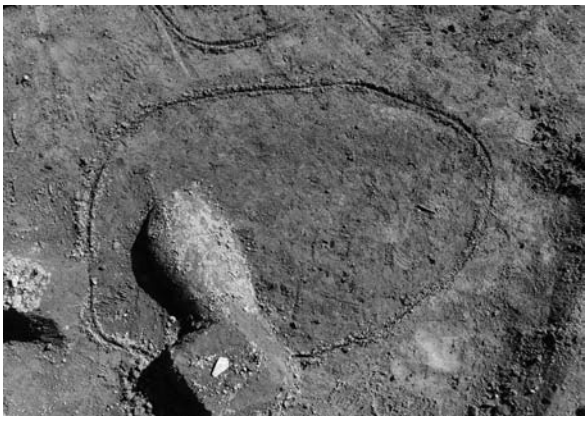

A 区 1　５号土坑検出状況

A 区 1　６～９土・８溝完掘状況

A 区 1　８号土坑検出状況

A 区 1　９号土坑完掘状況


A 区 1　10 号土坑完掘状況

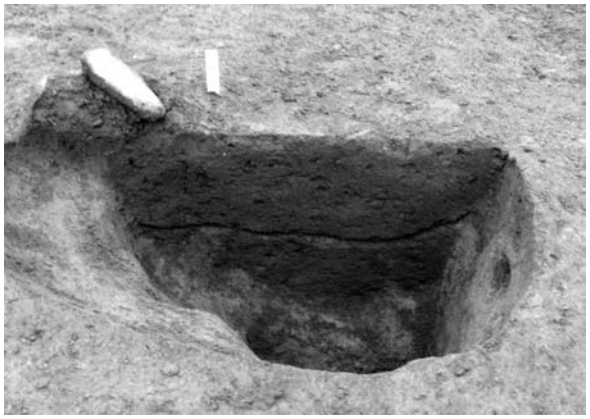

A 区 1　11 号土坑検出状況

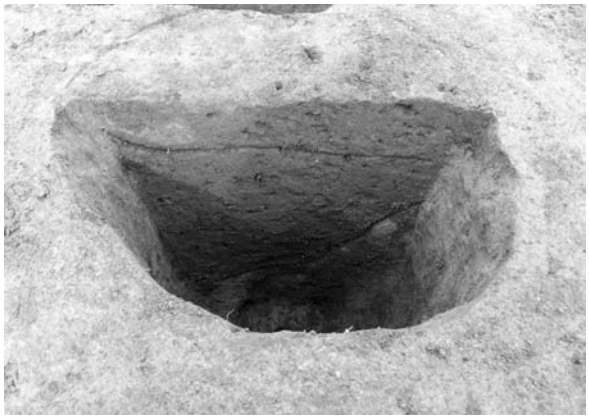
A 区 1　11 号土坑断面検出状況

A 区 1　11 号土坑礫検出状況

A 区 1　11 号土坑遺物検出状況

A 区 1　11 号土坑完掘状況


A 区 1　12 号土坑土層断面

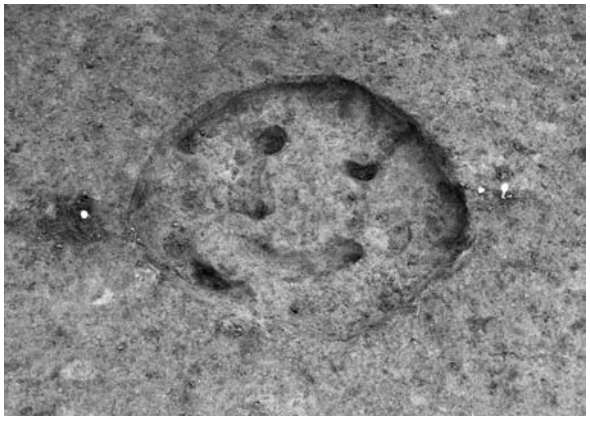

A 区 1　13 号土坑土層断面

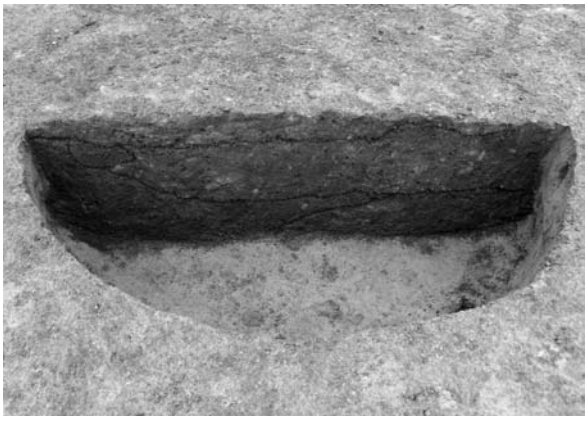
A 区 1　14 号土坑骨片検出状況

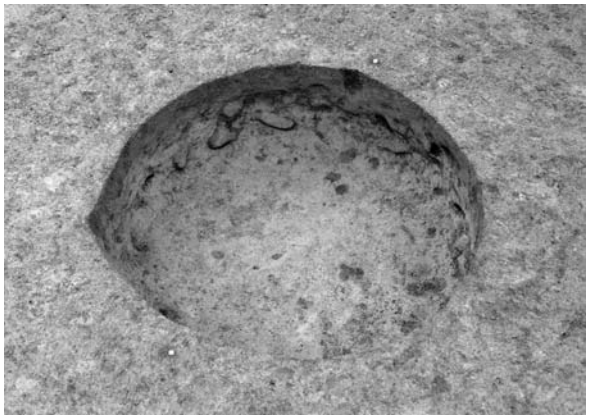
A 区 1　14・16 号土坑土層断面

A 区 1　14・16 号土坑完掘状況

A 区 1　15 号土坑完掘状況

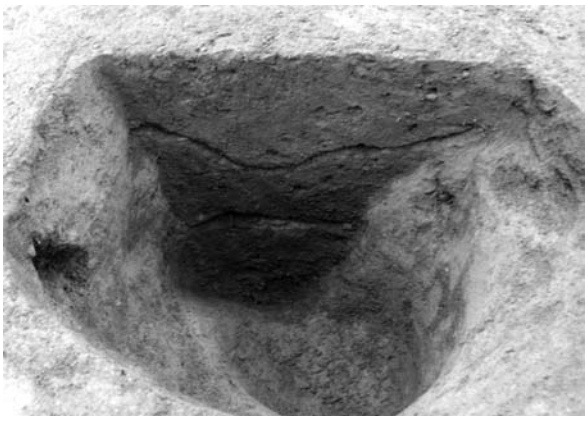

A 区 1　17 号土坑完掘状況


A 区 1　18 号土坑土層断面

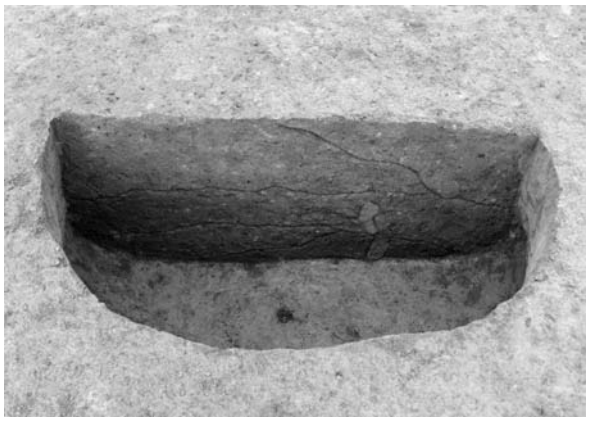

A 区 1　18 号土坑完掘状況

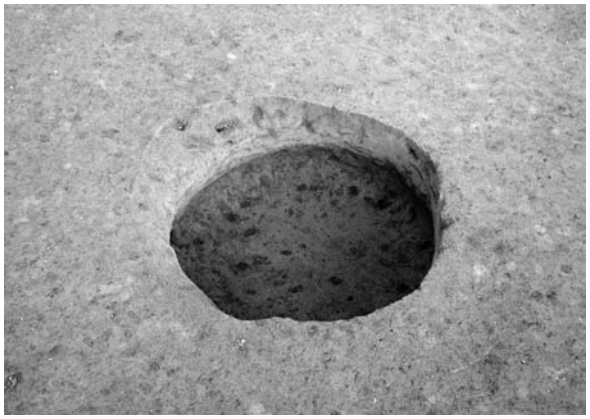
A 区 1　19 号土坑土層断面

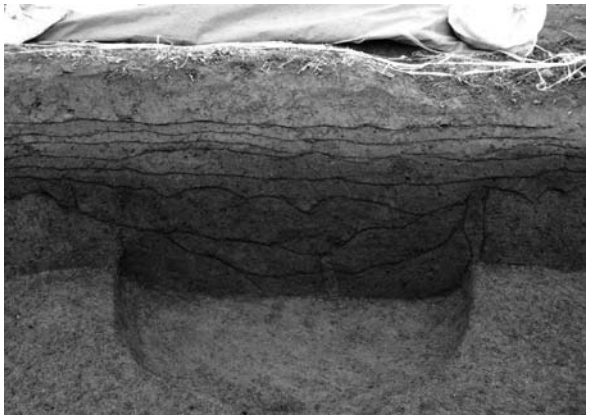
A 区 1　19 号土坑完掘状況


A 区 1　20 号土坑土層断面

A 区 1　21 号土坑土層断面


A 区 1　22 号土坑土層断面

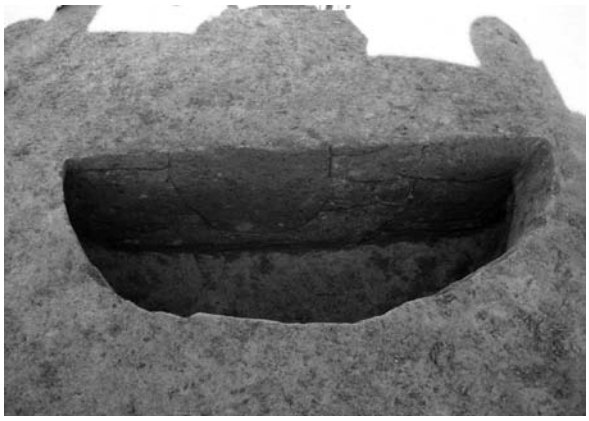

A 区 1　22 号土坑完掘状況


A 区 1　23 号土坑完掘状況

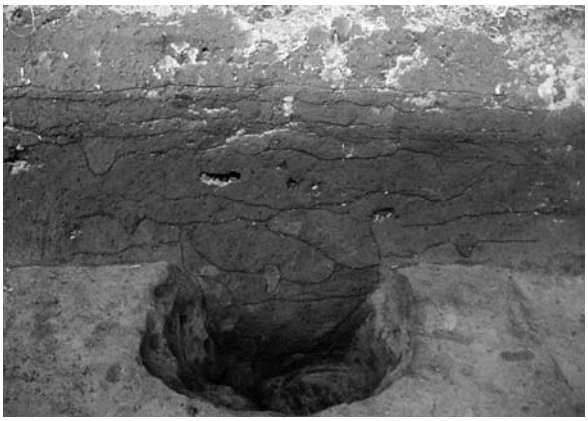
A 区 1　24 号土坑完掘状況

A 区 1　26 号土坑土層断面

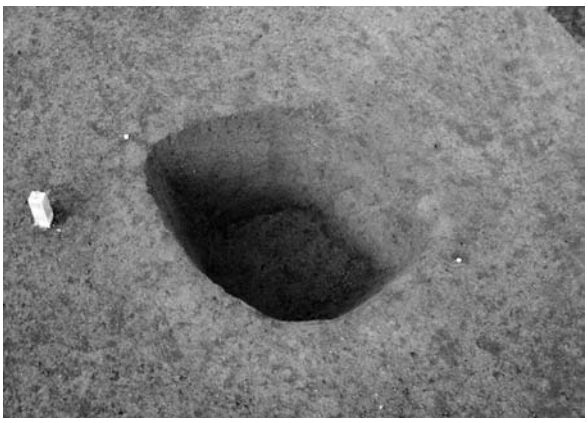
A 区 1　27 号土坑土層断面


A 区 1　28 号土坑土層断面

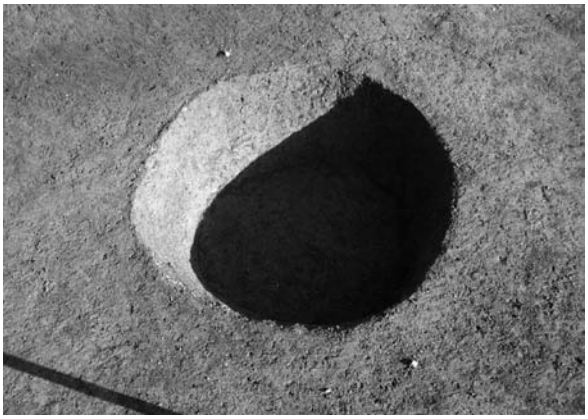
A 区 1　30 号土坑土層断面


A 区 1　31 号土坑完掘状況

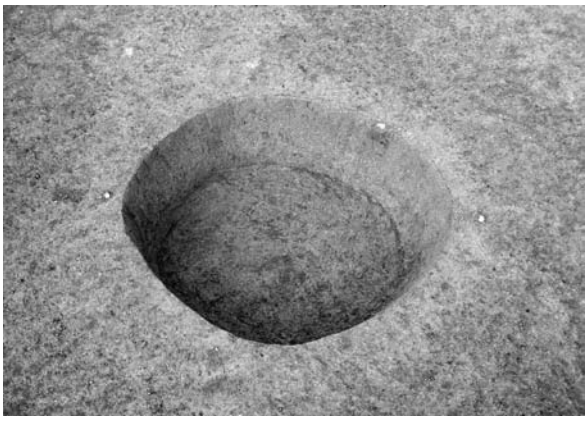
A 区 1　33 号土坑完掘状況


A 区 1　34 号土坑完掘状況

A 区 1　35 号土坑断面検出状況


A 区 1　35 号土坑完掘状況

A 区 1　36 号土坑完掘状況

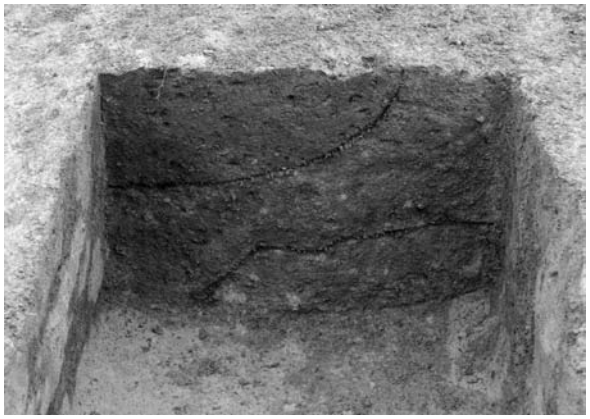

A 区 1　37 号土坑完掘状況

A 区 1　1 号溝土層断面

A 区 1　1 号溝完掘状況

A 区 1　2 号溝完掘状況

A 区 1　3 号溝完掘状況


A 区 1　4 号溝土層断面

A 区 1　4・9 号溝、19 号土坑完掘状況

A 区 1　6 号溝、25 号土坑土層断面

A 区 1　5・6 号溝土層断面

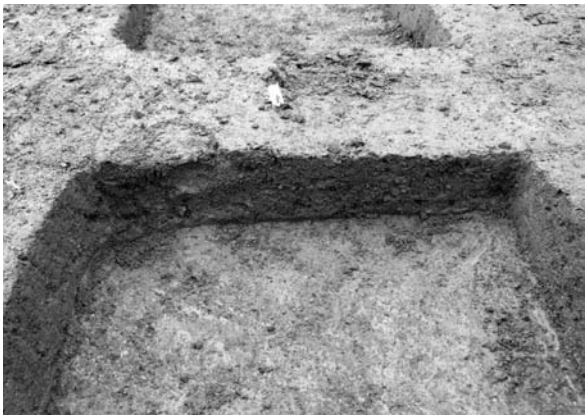
A 区 1　5・6 号溝調査風景

A 区 1　5・6 号溝完掘状況

A 区 1　7 号溝土層断面

A 区 1　7 号溝礫検出状況

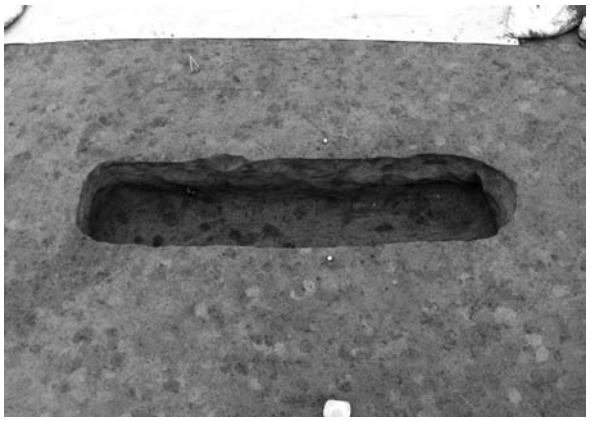
A 区 1　7 号溝完掘状況


A 区 1　8 号溝断面検出状況

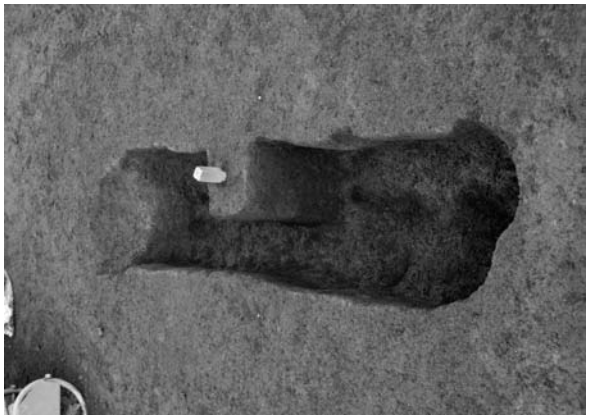
A 区 1　8 号溝完掘状況

A 区 1　9 号溝土層断面

A 区 1　10 号土層断面


A 区 1　10 号溝完掘状況

A 区 1　11 号溝土層断面


A 区 1　11 号溝完掘状況

A 区　12 号溝検出状況

A 区 1　13 号溝土層断面

A 区 1　14 号溝完掘状況

A 区 1　16 号溝土層断面

A 区 1　17 号溝完掘状況

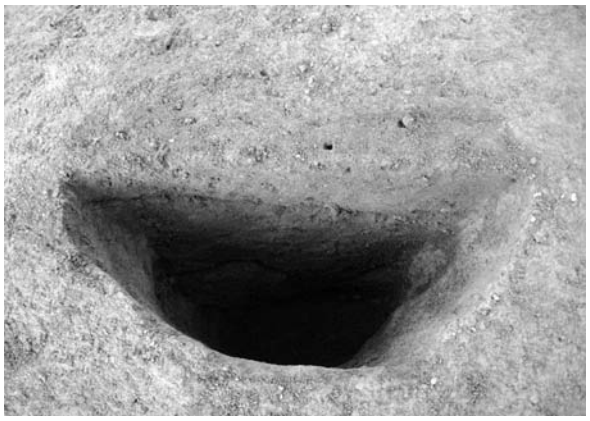
A 区 1　1 号配石検出状況

A 区 1　1 号配石 2 面検出状況

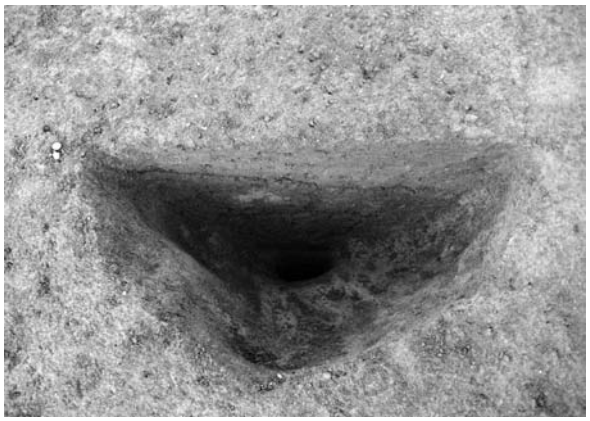
A 区 1　2 号配石検出状況

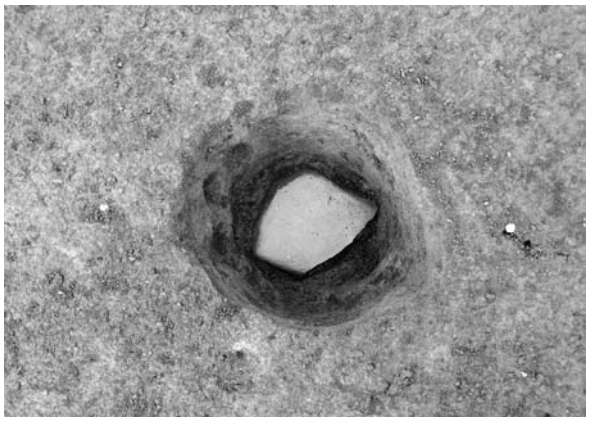
A 区 1　21 号ピット土層断面

A 区 1　27 号ピット土層断面

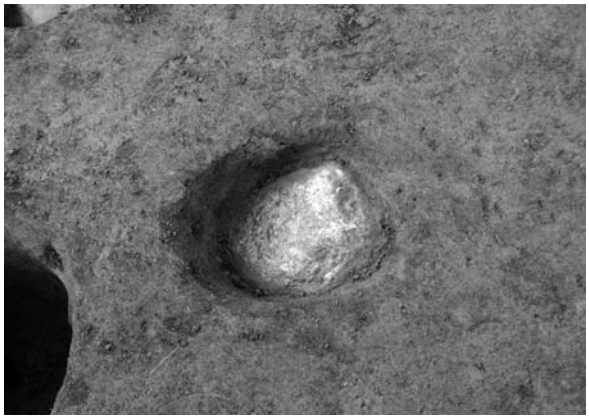

A 区 1　28 号ピット土層断面

A 区 1　30 号ピット土層断面


A 区 1　31 号ピット土層断面


A 区 1　32 号ピット礫石検出状況

A 区 1　34 号ピット礫石検出状況


A 区 1　35 号ピット礫石検出状況

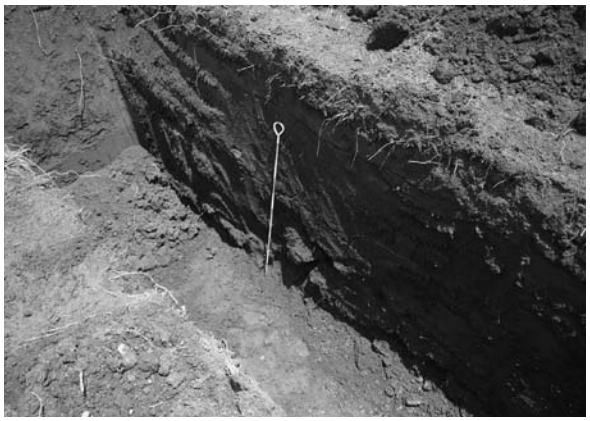
A 区 1　調査風景

A 区 1　調査風景

A 区 1　調査風景

A 区 1　調査風景

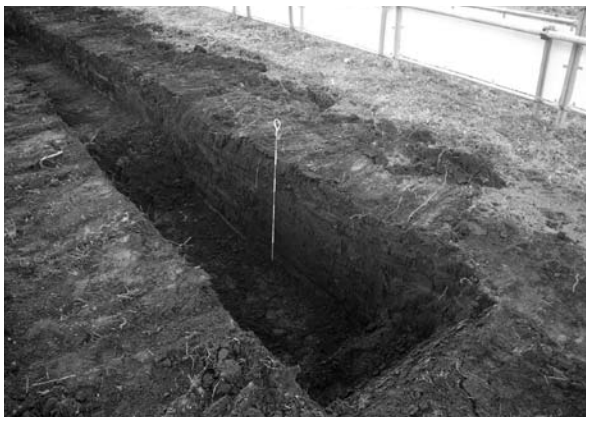
A 区２－１　１号トレンチ全景


A 区２－１　１号トレンチ土層断面

A 区２－１　２号トレンチ全景

A 区２－１　２号トレンチ土層断面

A 区２－１　３号トレンチ全景


A 区２－１　３号トレンチ土層断面

A 区２－１　４号トレンチ全景

A 区２－１　４号トレンチ土層断面

A 区２－１　表土剥ぎ風景

A 区２－１　表土剥ぎ風景

A 区２－１　遺構確認状況

A 区２－１　猿形土製品出土状況

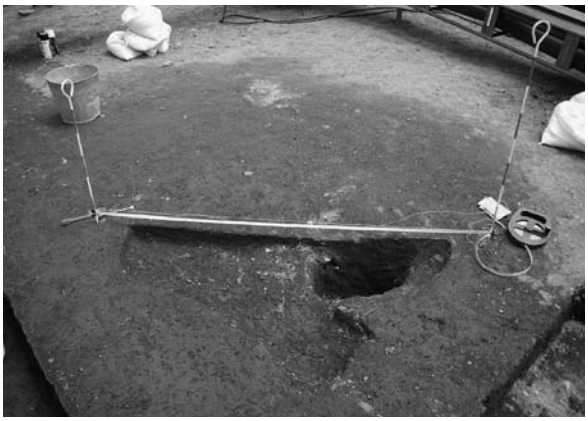
A 区２－１　猿形土製品出土状況

A 区２－１　猿形土製品出土状況

A 区２－１　砂層サブトレンチ

A 区２－１　１号土坑土層断面

A 区２－１　２号土坑完掘状況


A 区２－１　B 面中央くぼみ検出状況

A 区２－１　A 面北壁部溝状遺構検出状況

A 区２－１　１号溝検出状況

A 区２－１　２号溝検出状況

A 区２－１　人骨出土状況その１

A 区２－１　人骨出土状況その２

A 区２－１　人骨・短刀出土状況

A 区２－１　A 面北壁部溝状遺構調査風景

A 区２－１　A 面北壁部溝状遺構調査風景

A 区２－１　砂礫南側調査区西壁断面

A 区２－１　砂礫北側調査区西壁断面

A 区２－１　砂利除去作業風景

A 区２－１　調査区北から

A 区２－１　中央部黒褐色土北側土層断面

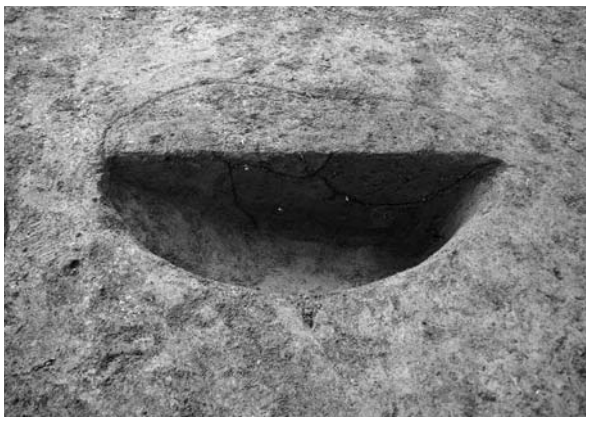
A 区２－１　中央部黒褐色土南側土層断面

A 区２－２　表土剥ぎ

A 区２－２　１号土坑検出状況

A 区２－２　１号土坑検出状況

A 区２－２　１号土坑検出状況


A 区２－２　２号土坑土層断面

A 区２－２　２・21 号土坑完掘状況

A 区２－２　３号土坑検出状況

A 区２－２　３・４号土坑完掘状況

A 区２－２　５号土坑礫検出状況

A 区２－２　５・６号土坑・１溝完掘状況

A 区２－２　７号土坑土層断面

A 区２－２　８号土坑完掘状況

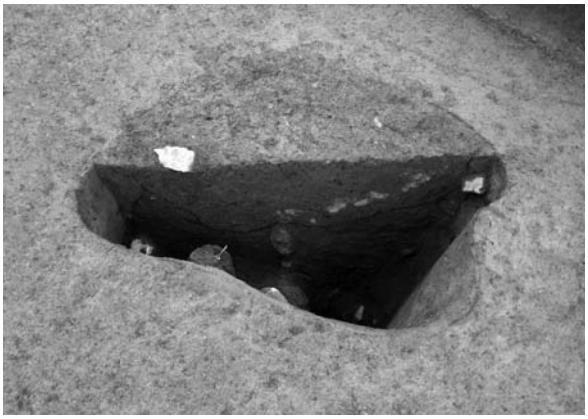
A 区２－２　７号土坑・３溝完掘状況

A 区２－２　９号土坑土層断面

A 区２－２　10 号土坑・４号溝礫検出状況

A 区２－２　11 号土坑完掘状況

A 区 2－2　10 号土坑・4 号溝完掘状況


A 区 2－2　12 号土坑古銭検出状況

A 区 2－2　12 号土坑完掘状況

A 区 2－2　13 号土坑土層断面

A 区 2－2　14 号土坑完掘状況

A 区 2－2　15 号土坑完掘状況

A 区 2－2　16 号土坑土層断面

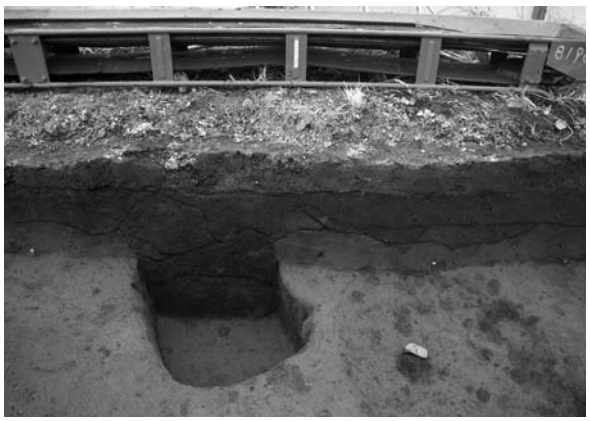
A 区 2－2　17 号土坑土層断面

A 区 2－2　18 号土坑土層断面

A 区 2－2　18 号土坑完掘状況

A 区 2－2　19 号土坑完掘状況

A 区 2－2　20 号土坑完掘状況


A 区 2－2　2 号溝・6 号土坑土層断面

A 区 2－2　5 号溝完掘状況

A 区 2－2　8 号溝土層断面

A 区 2－2　6～9 号溝完掘状況

A 区２－２　10 号溝完掘状況

A 区２－２　11 号溝・２号竪穴土層断面

A 区２－２　２号竪穴遺構完掘状況

A 区２－２　１号竪穴遺構完掘状況

A 区２－２　３号竪穴遺構完掘状況

A 区２－２　４号竪穴遺構完掘状況

A 区２－２　10 土東ピット土層断面

A 区２－２　礎石ピット完掘状況

A 区２－２　ため池状遺構土層断面

A 区２－２　ため池状遺構土層断面

A 区２－３　１号住居東西土層断面

A 区２－３　１号住居南北土層断面

A 区２－３　１号住居カマド遺物検出状況

A 区２－３　１号住居カマド完掘状況

A 区２－３　２号住居東西土層断面

A 区２－３　２号住居南地土層断面

A 区２－３　２号住居カマド検出状況

A 区２－３　２号住居カマド礫検出状況

A 区２－３　２号住居遺物検出状況

A 区２－３　２号住居カマド土層断面

A 区２－３　２号住居カマド遺物検出状況

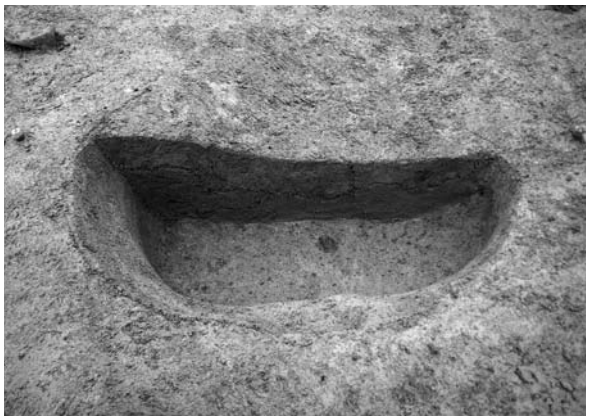
A 区２－３　２号住居完掘状況

A 区２－３　３号住居東西土層断面

A 区２－３　３号住居南北土層断面

A 区２－３　３号住居カマド検出状況

A 区２－３　３号住居遺物検出状況


A 区２－３　３号住居内土坑１土層断面

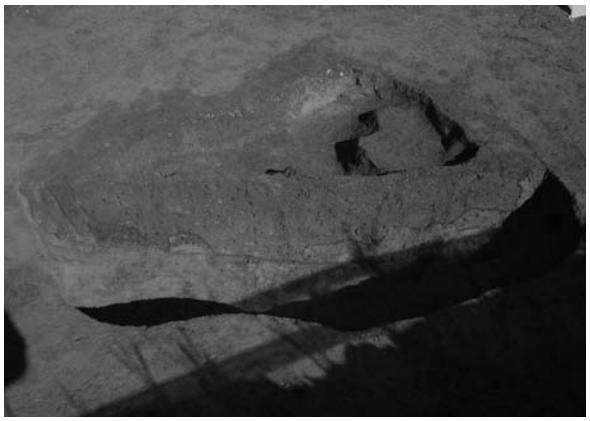
A 区２－３　３号住居内土坑２土層断面

A 区２－３　３号住居内礫検出

A 区２－３　３号住居カマド前礫検出状況

A 区２－３　３号住居カマド完掘状況

A 区２－３　３号住居完掘状況


A 区２－３　１号土坑土層断面

A 区２－３　１号土坑完掘状況

A 区２－３　２・３号土坑土層断面

A 区２－３　３号土坑完掘状況

A 区２－３　４号土坑完掘状況

A 区２－３　５号土坑完掘状況

A 区２－３　６・７号土坑完掘状況

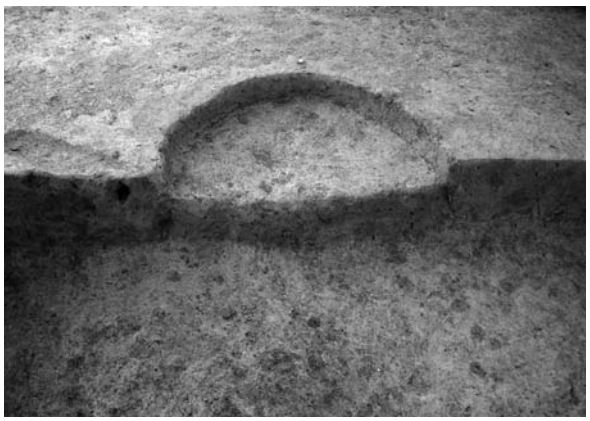
A 区２－３　８号土坑完掘状況

A 区 2－3　9 号土坑完掘状況

A 区 2－3　10 号土坑完掘状況

A 区 2－3　11 号土坑完掘状況

A 区 2－3　12 号土坑完掘状況


A 区 2－3　13 号土坑完掘状況

A 区 2－3　14・15 号土坑完掘状況

A 区 2－3　16 号土坑完掘状況

A 区 2－3　15・25 号土坑土層断面

A 区 2－3　17 号土坑・4 号溝土層断面

A 区 2－3　18 号土坑・4 号溝土層断面

A 区 2－3　20 号土坑土層断面

A 区 2－3　21 号土坑土層断面

A 区 2－3　22 号土坑土層断面

A 区 2－3　23 号土坑完掘状況

A 区 2－3　24 号土坑土層断面

A 区 2－3　24 号土坑完掘状況

A 区 2－3　25 号土坑土層断面

A 区 2－3　26 号土坑完掘状況

A 区 2－3　27 号土坑完掘状況

A 区 2－3　28 号土坑完掘状況

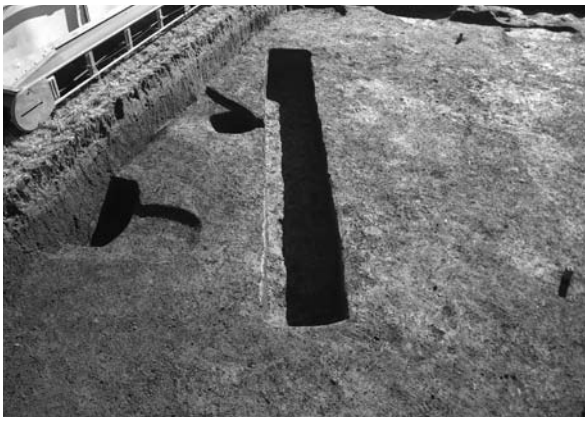
A 区 2－3　29 号土坑土層断面

A 区 2－3　29・31 号土坑、5 号溝完掘状況

A 区 2－3　30 号土坑完掘状況

A 区 2－3　32 号土坑完掘状況

A 区２－３　33 号土坑土層断面

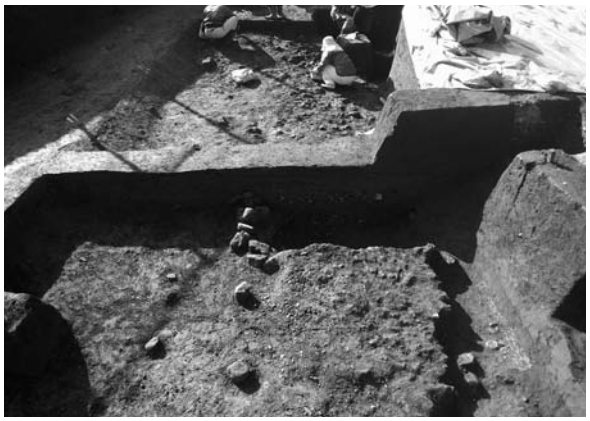

A 区２－３　１号溝検出状況

A 区２－３　２号溝土層断面

A 区２－３　３・４号溝検出状況

A 区２－３　５号溝土層断面

A 区２－３　作業風景


A 区２－１　調査区東西土層断面

A 区２－１　遺物出土状況

C 区　1 号住居跡検出状況

C 区　1 号住居跡調査風景

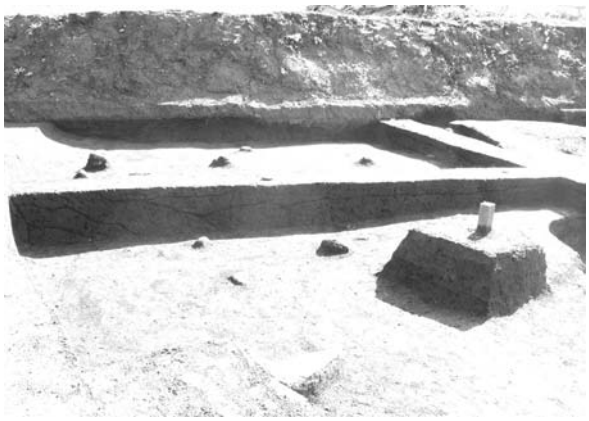
C 区　1 号住居跡セクション

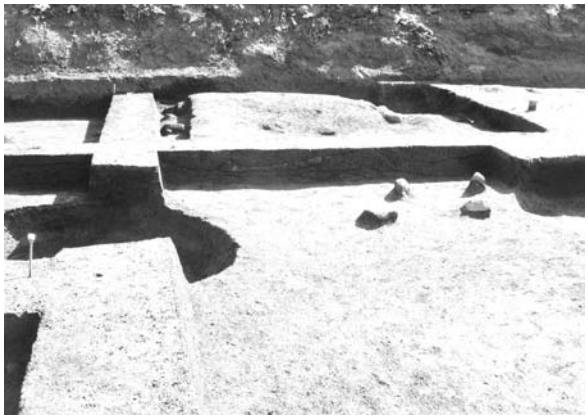
C 区　1 号住居跡完掘状況

C 区　2 号住居跡検出状況

C 区　2 号住居跡検出状況

C 区　2 号住居跡カマド検出状況


C 区　2 号住居跡セクション


C 区　２号住居跡セクション

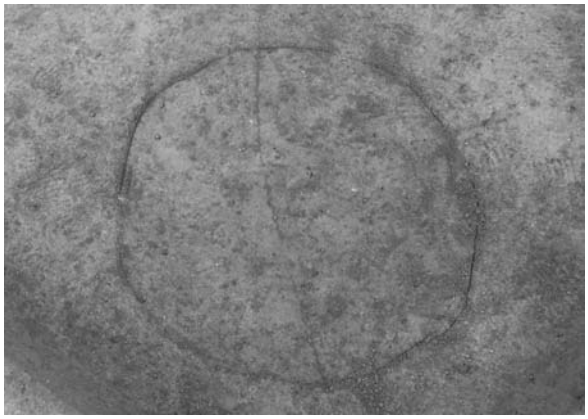
C 区　２号住居跡カマド２面検出状況

C 区　２号住居跡カマドセクション

C 区　２号住居跡カマドセクション

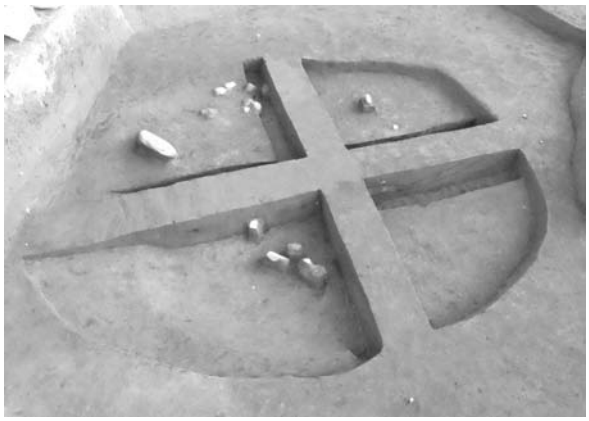
C 区　２号住居跡カマド完掘状況

C 区　２号住居跡内焼土検出状況


C 区　２号住居跡内土坑検出状況

C 区　２号住居跡完掘状況

C 区　３号住居跡検出状況

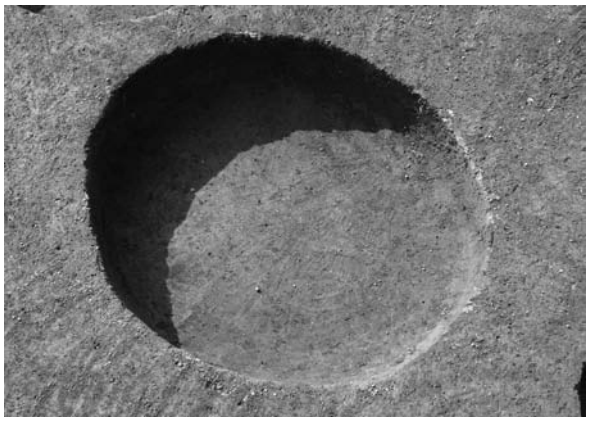

C 区　３号住居跡セクション

C 区　３号住居跡セクション

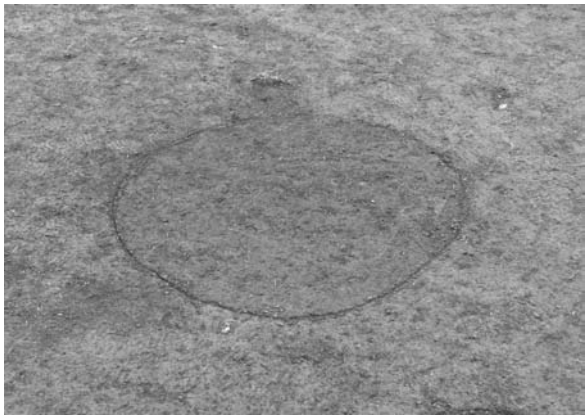
C 区　３号住居跡完掘状況

C 区　４号住居跡カマド検出状況

C 区　４号住居跡カマド検出状況


C 区　１号土坑完掘状況

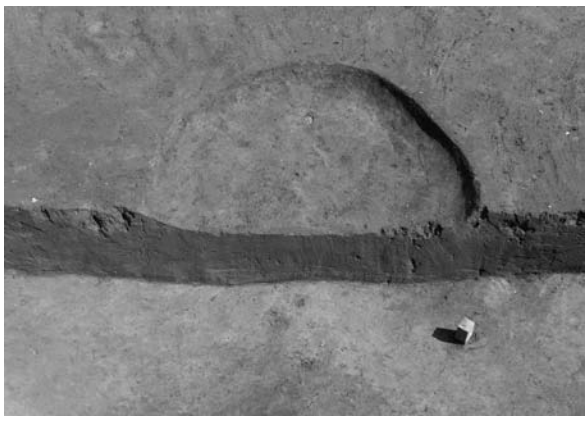
C 区　２号土坑完掘状況

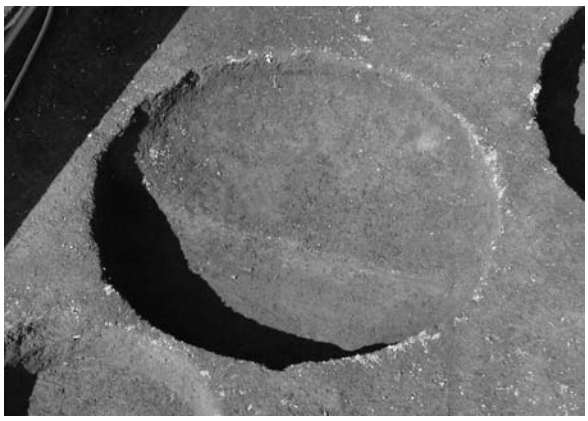

C 区　3 号土坑検出状況

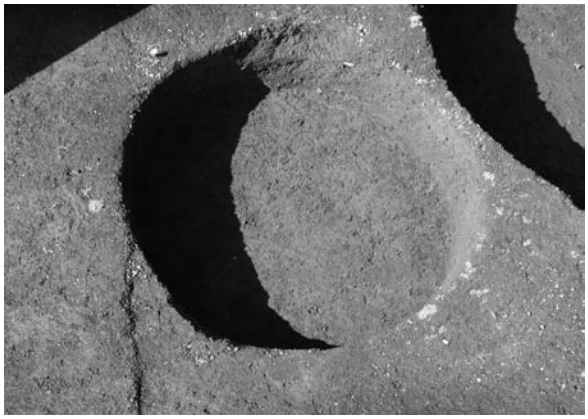
C 区　4・5 号土坑完掘状況

C 区　6・7・8・9 号土坑検出状況

C 区　10 号土坑検出状況


C 区　11 号土坑完掘状況

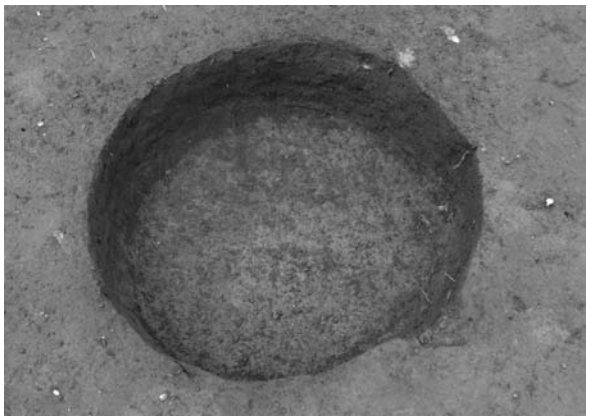

C 区　12 号土坑完掘状況

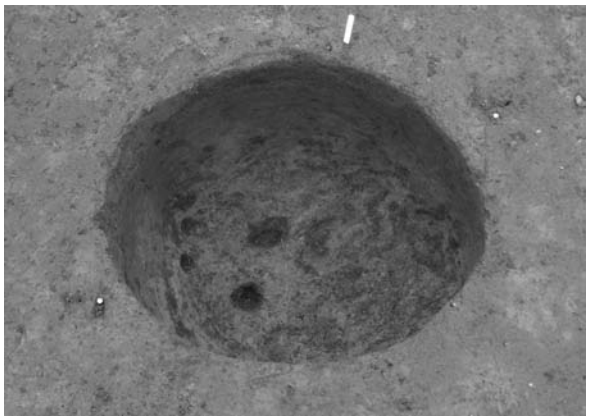

C 区　13 号土坑完掘状況

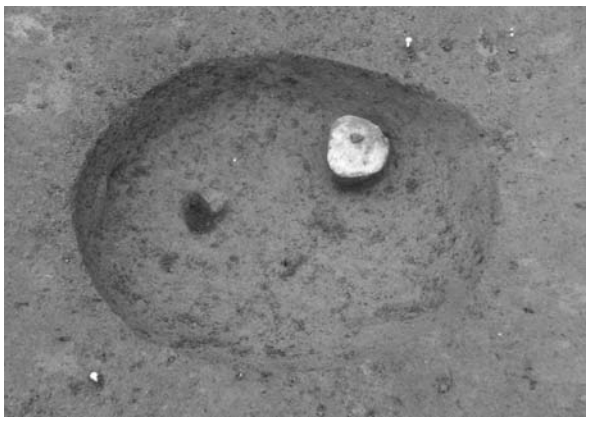
C 区　14 号土坑検出状況

C 区　15 号土坑完掘状況

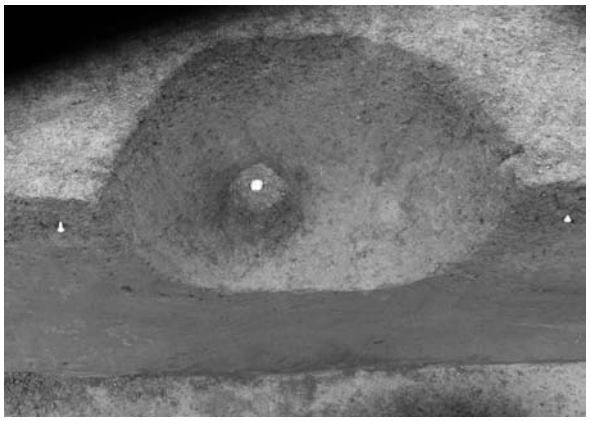
C 区　16 号土坑完掘状況


C 区　17 号土坑完掘状況

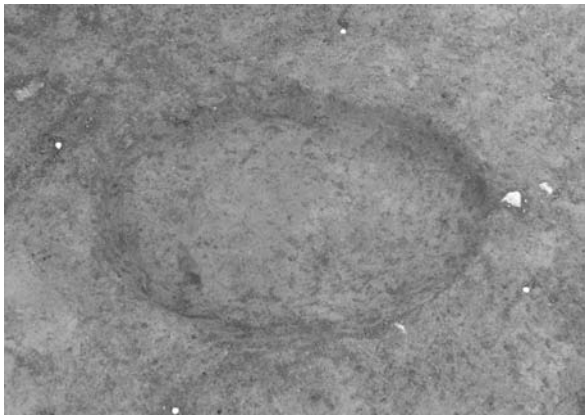

C 区　18 号土坑完掘状況

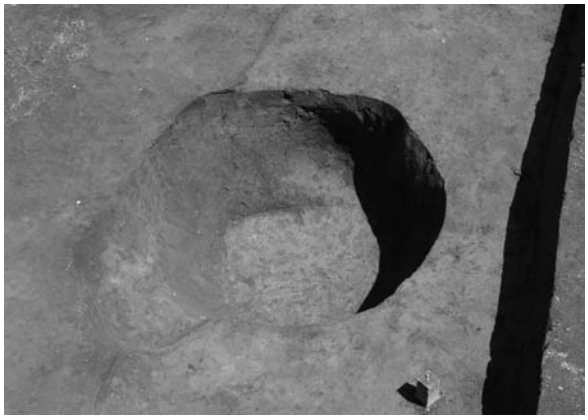

C 区　19 号土坑完掘状況

C 区　20 号土坑完掘状


C 区　21 号土坑完掘状況

C 区　22 号土坑完掘状

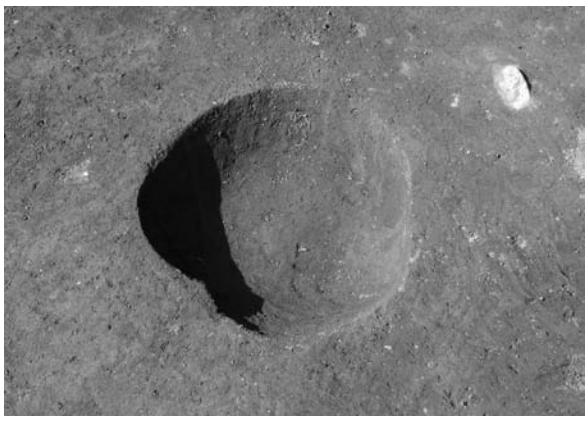

C 区　23 号土坑完掘状況


C 区　24 号土坑完掘状況

C 区　25 号土坑断面検出状況

C 区　26 号土坑完掘状況

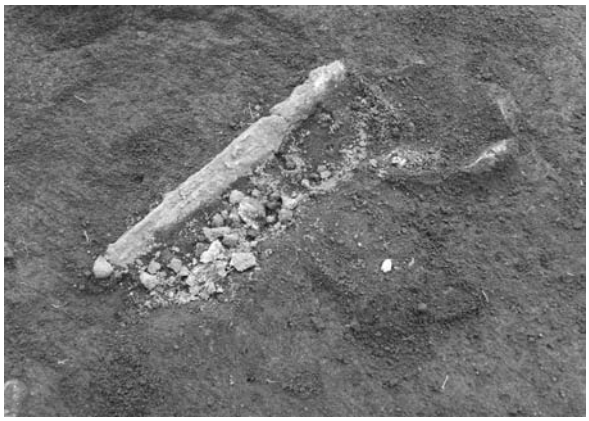
C 区　27 号土坑完掘状況

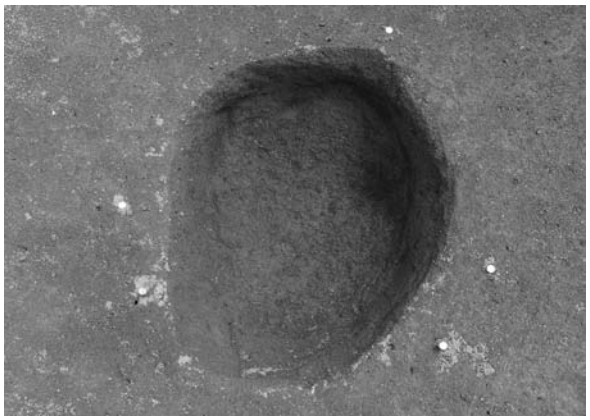

C 区　28 号土坑完掘状況

C 区　29 号土坑完掘状況

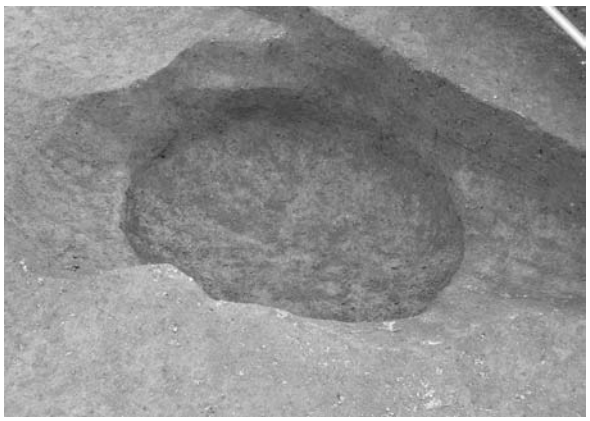
C 区　30 号土坑完掘状況

C 区　31 号土坑遺物検出状況

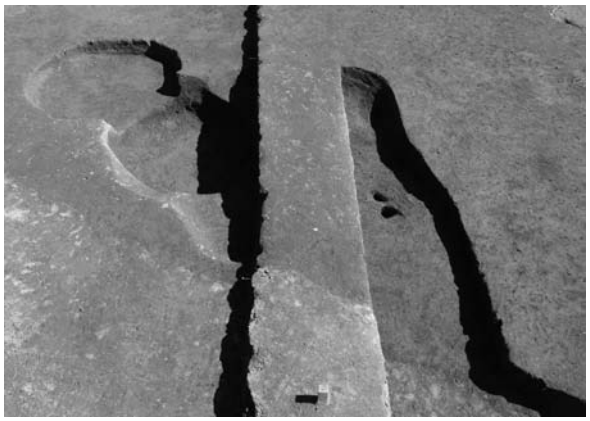

C 区　31 号土坑小刀と人骨出土状況

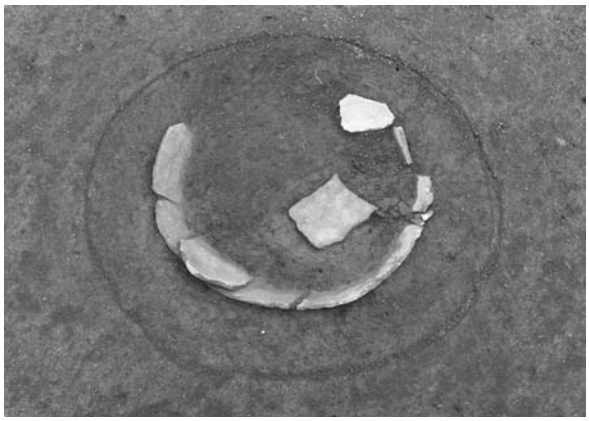

C 区　31 号土坑完掘状況

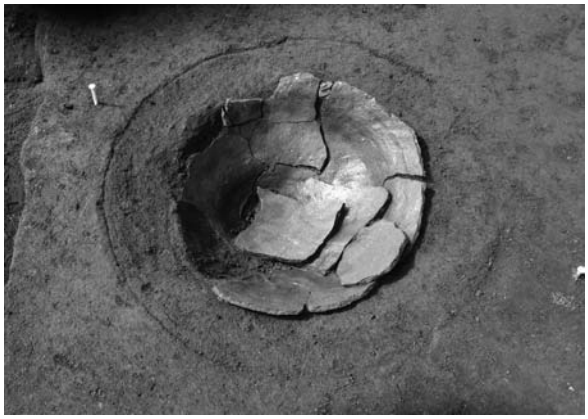
C 区　33 号土坑完掘状況

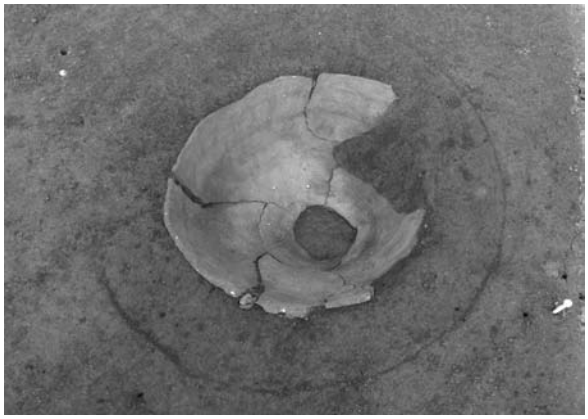

C 区　35 号土坑完掘状況

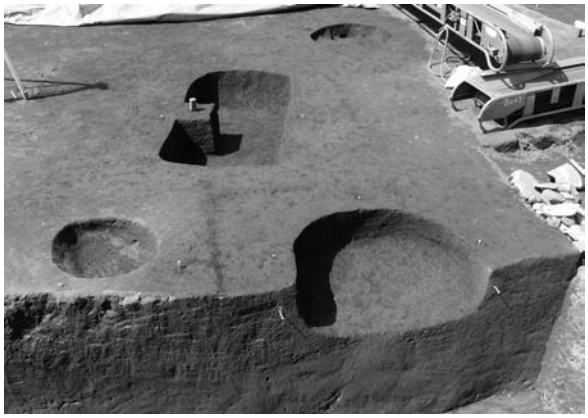
C 区　35・36 号土坑完掘状況


C 区　35・36・80 号土坑完掘状況


C 区　37 号土坑遺物検出状況


C 区　37 号土坑遺物出土状況

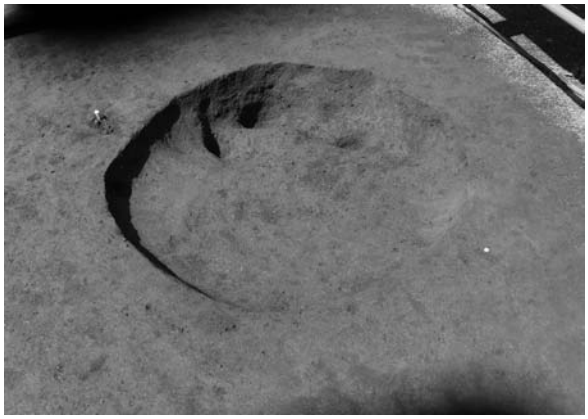

C 区　37 号土坑遺物出土状況

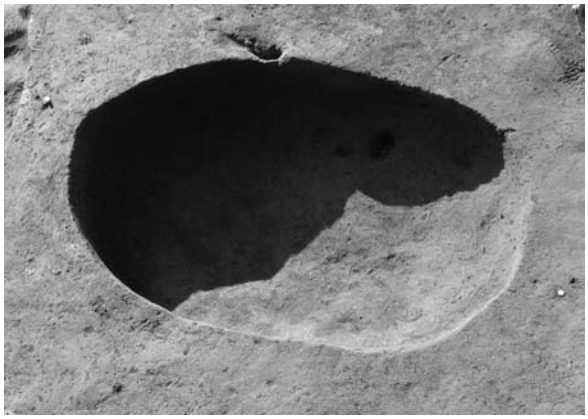

C 区　37 ～ 40 号土坑完掘状況

C 区　38 号土坑礫検出状況

C 区　38 号土坑完掘状況

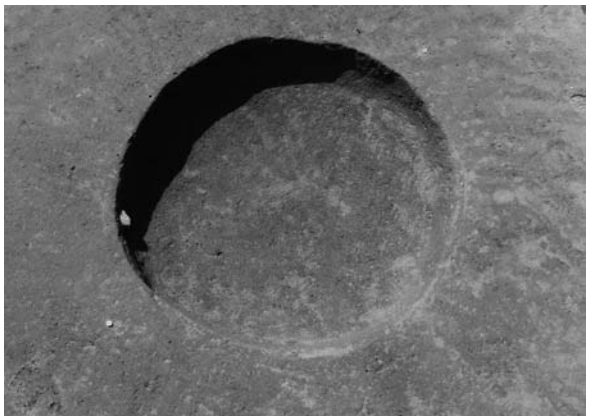
C 区　39 号土坑完掘状況


C 区　40 号土坑完掘状況

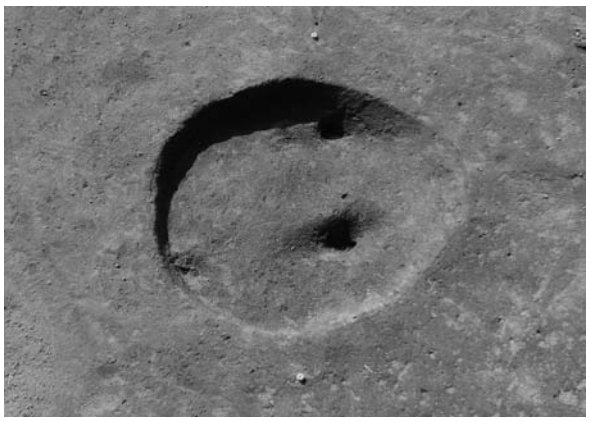

C 区　41 号土坑完掘状況

C 区　43 号土坑・10 号溝完掘状況

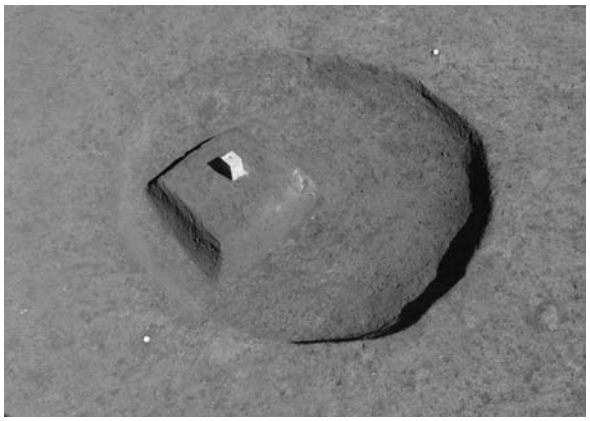
C 区　44 号土坑・11 号溝完掘状況

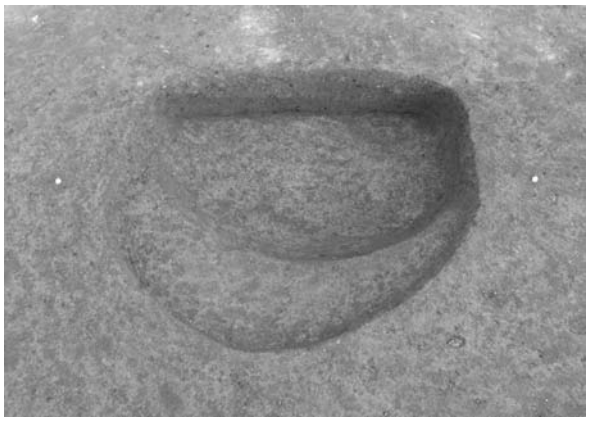

C 区　45 号土坑完掘状況

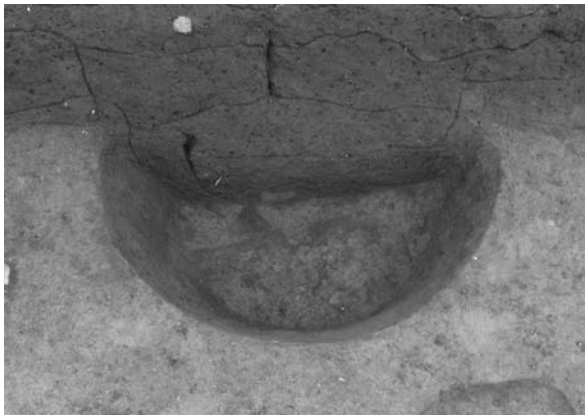
C 区　46 号土坑・1 7 号溝完掘状況

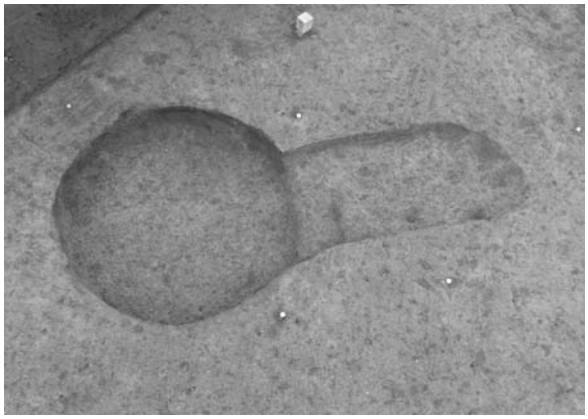

C 区　47 号土坑完掘状況

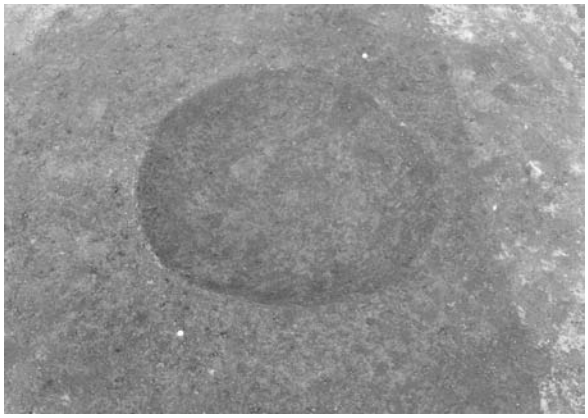
C 区　49 号土坑完掘状況

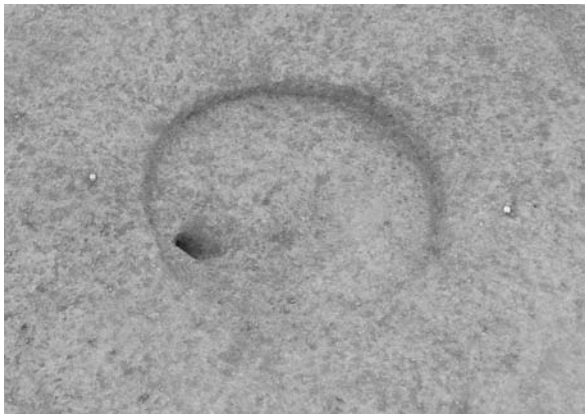

C 区　50 号土坑完掘状況

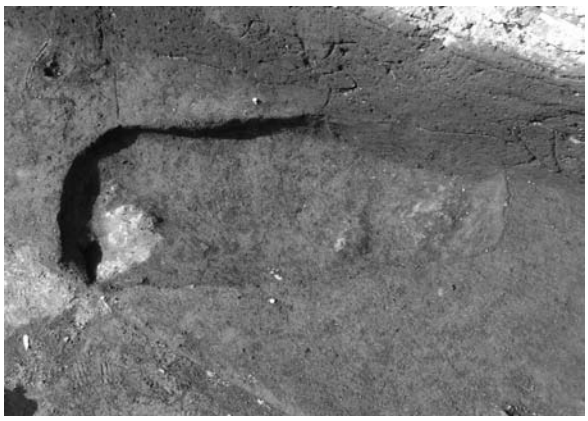

C 区　54 号土坑完掘状況

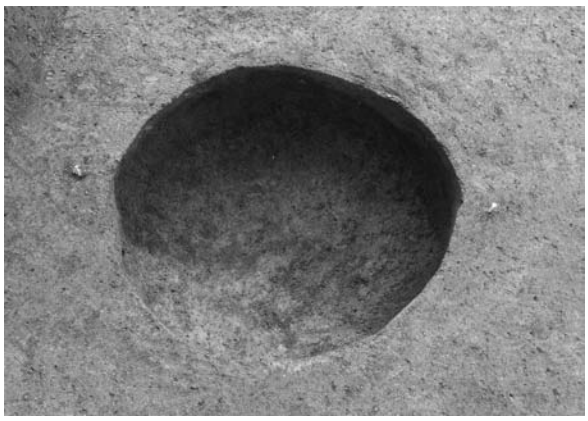

C 区　55 号土坑完掘状況

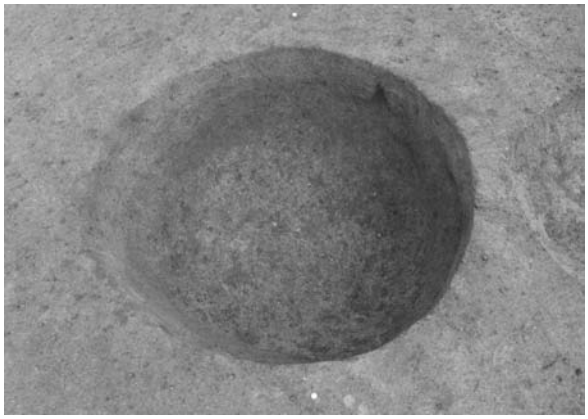

C 区　56 号土坑・25 号溝完掘状況

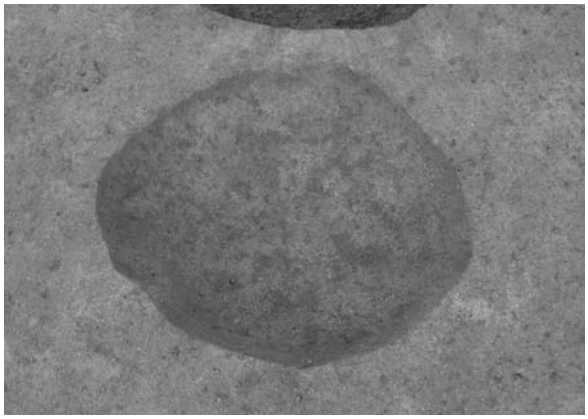

C 区　57 号土坑完掘状況


C 区　58 号土坑完掘状況


C 区　60 号土坑完掘状況


C 区　62 号土坑完掘状況

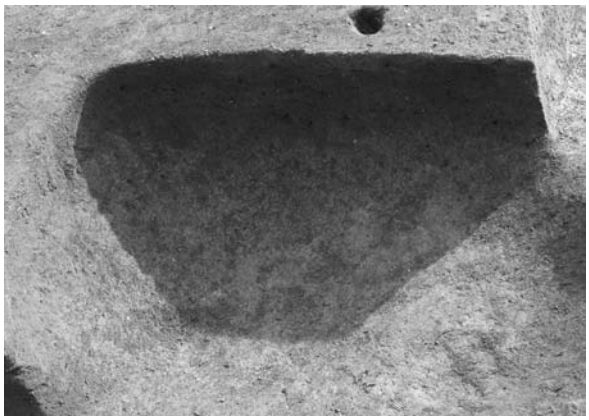

C 区　63 号土坑完掘状況


C 区　64 号土坑完掘状況

C 区　65 号土坑断面検出状況

C 区　65 号土坑遺物検出状況

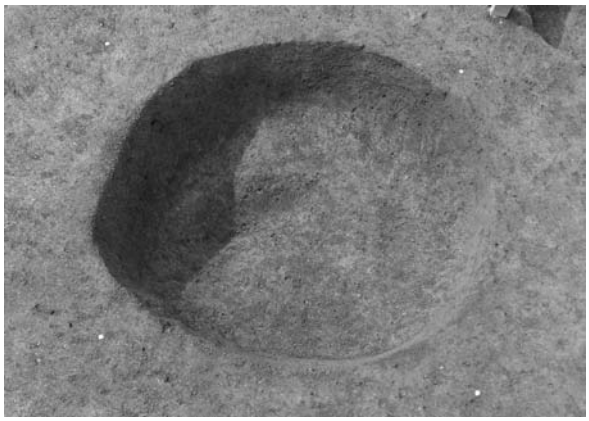
C 区　65 号土坑遺物検出状況


C 区　65 号土坑完掘状況

C 区　66・67 号土坑完掘状況

C 区　69 号土坑断面検出状況

C 区　69 号土坑礫検出状況

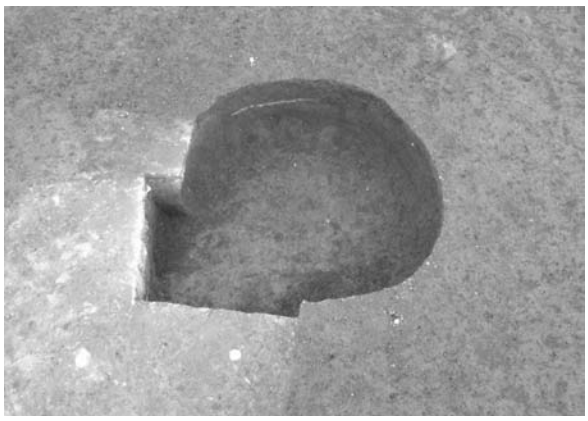

C 区　69 号土坑完掘状況

C 区　71 号土坑完掘状況

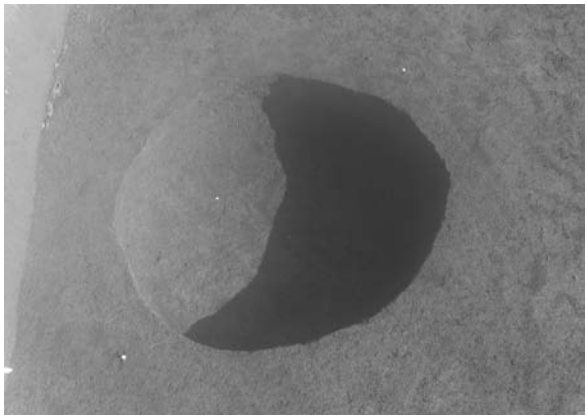
C 区　72 号土坑完掘状況

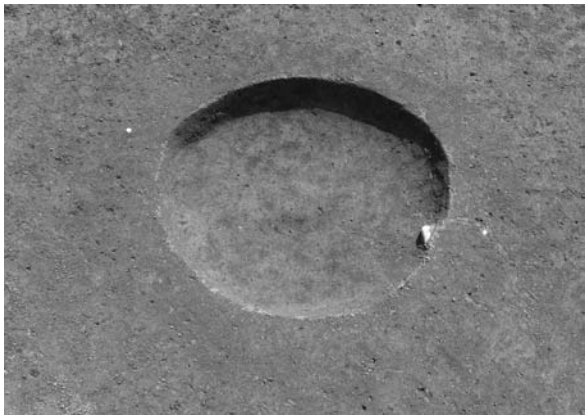
C 区　73 号土坑・30 溝完掘状況

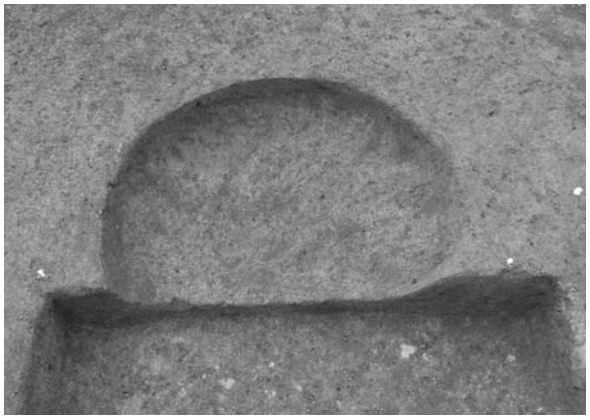
C 区　74 号土坑完掘状況

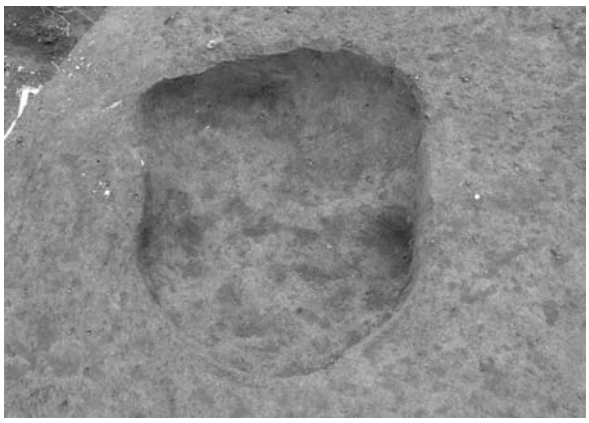

C 区　75 号土坑完掘状況

C 区　76 号土坑完掘状況

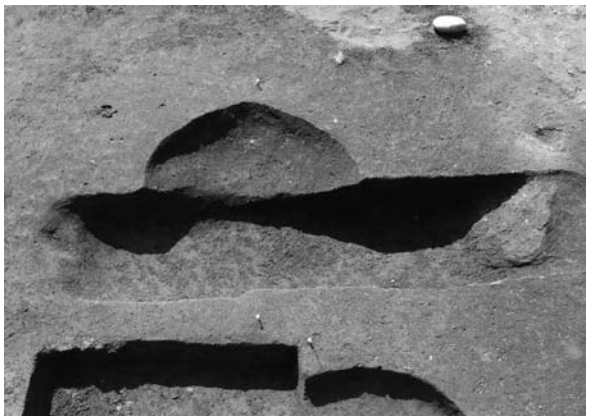

C 区　77 号土坑完掘状況

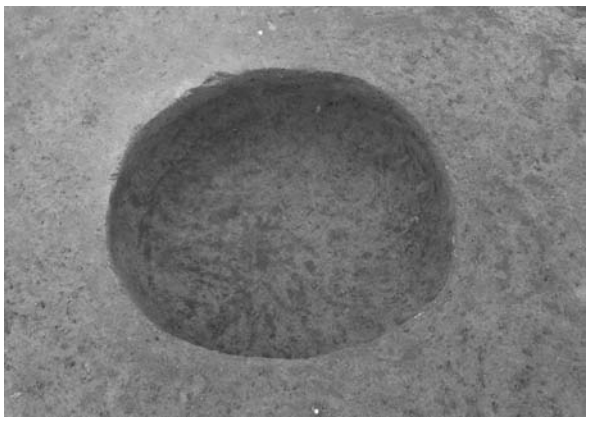

C 区　78 号土坑完掘状況


C 区　79 号土坑完掘状況

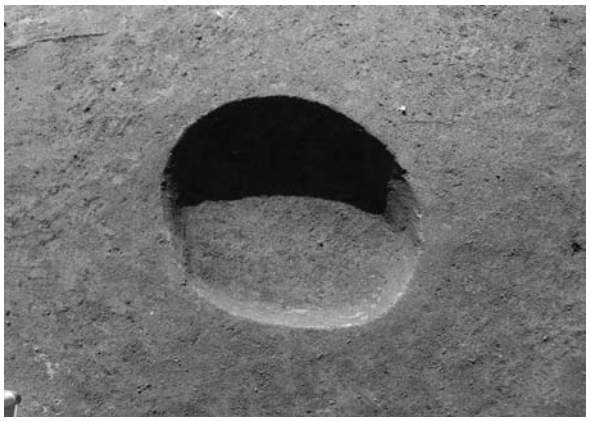

C 区　81 号土坑完掘状況

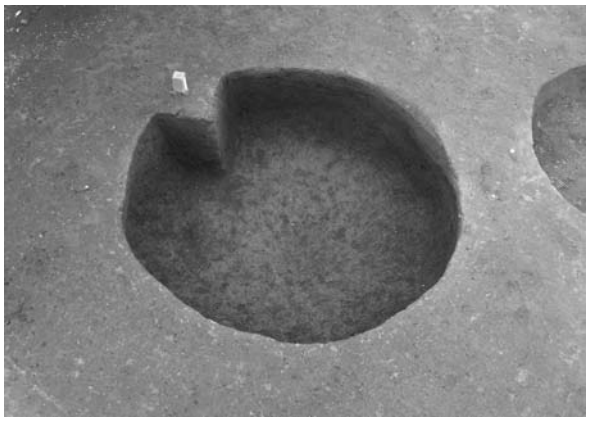
C 区　82 号土坑土層断面


C 区　83 号土坑・42 号溝完掘状況


C 区　84 号土坑完掘状況

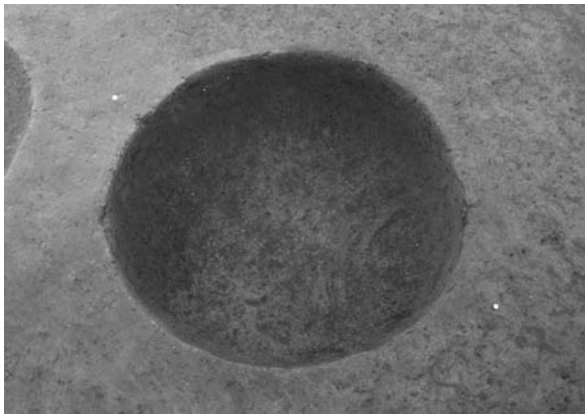
C 区　85 号土坑完掘状況

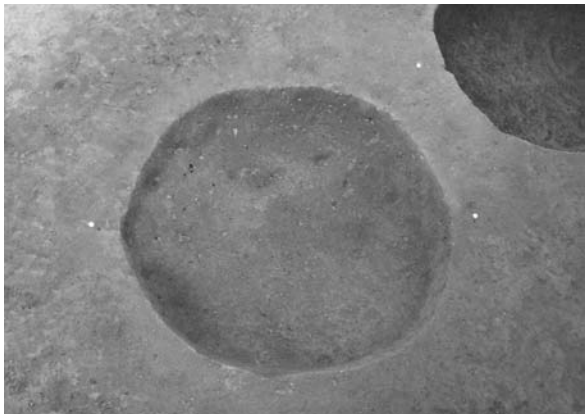

C 区　86 号土坑完掘状況


C 区　87 号土坑完掘状況

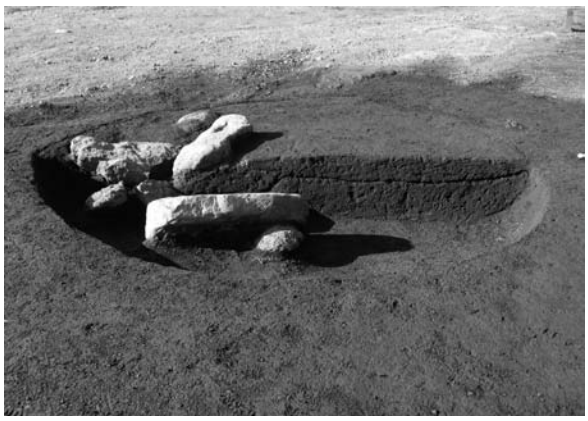
C 区　88 号土坑完掘状況

C 区　91 号土坑完掘状況

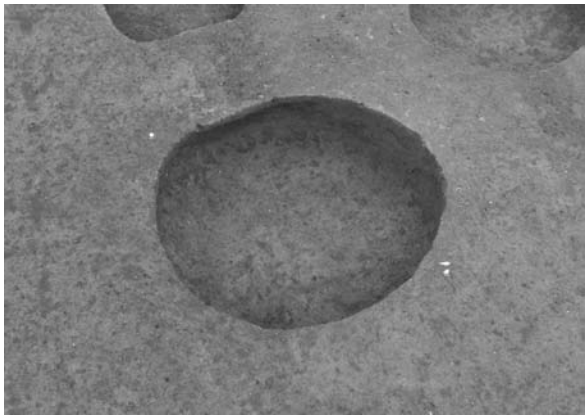

C 区　92 号土坑完掘状況

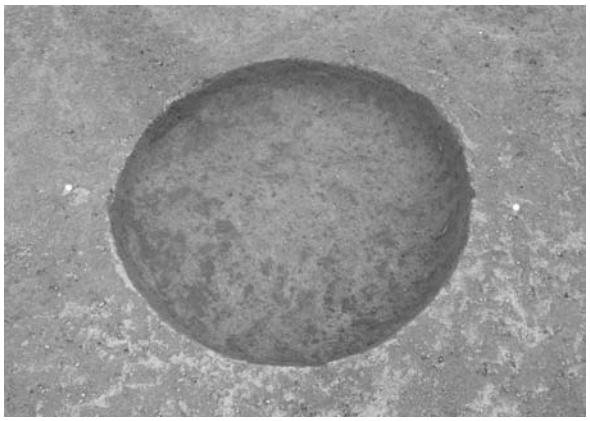

C 区　93 号土坑完掘状況

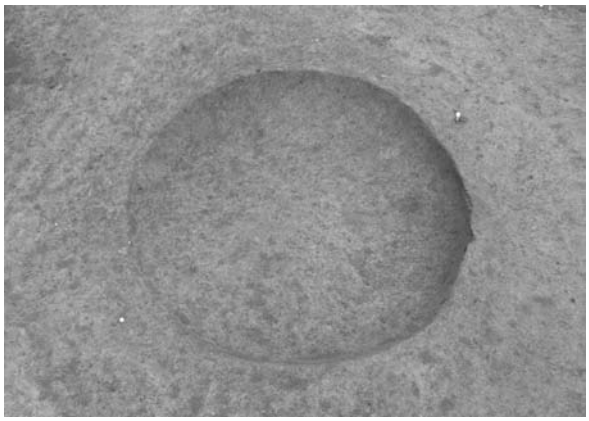
C 区　94 号土坑検出状況

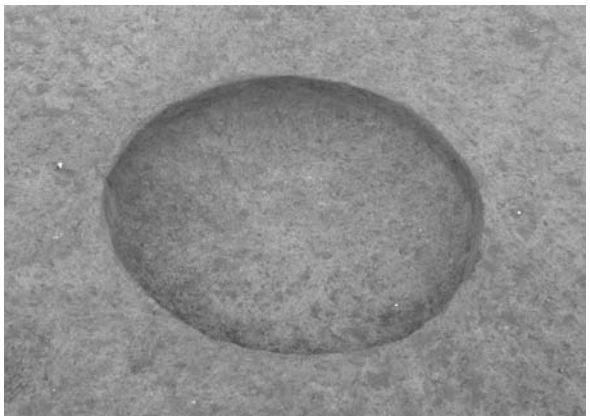

C 区　94 号土坑土層断面

C 区　94 号土坑完掘状況

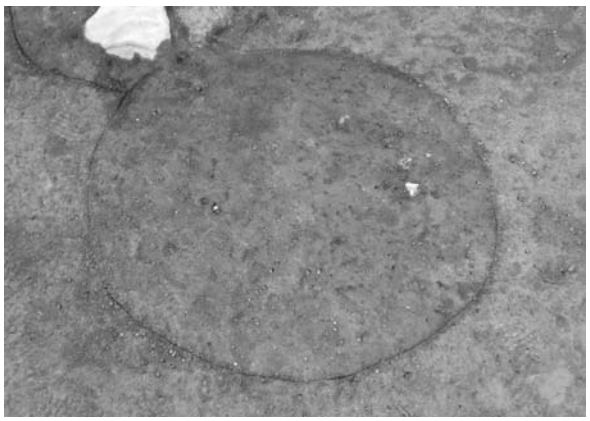

C 区　96 号土坑完掘状況

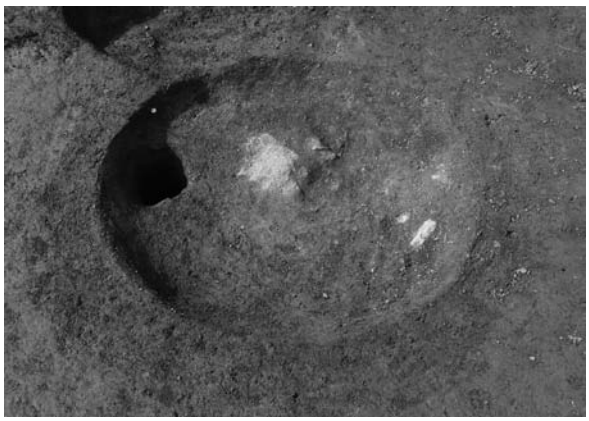

C 区　98 号土坑完掘状況


C 区　99 号土坑完掘状況


C 区　100 号土坑完掘状況

C 区　101 号土坑完掘状況


C 区　102 号土坑検出状況

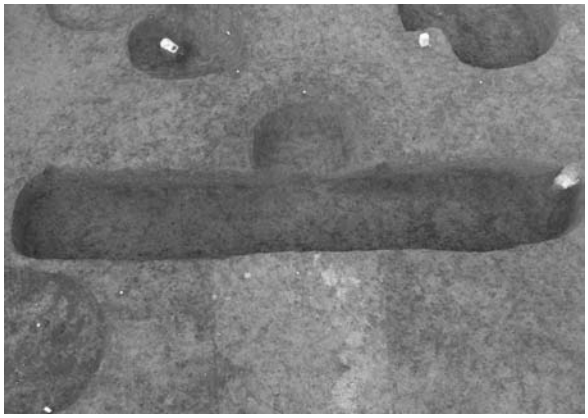

C 区　102 号土坑完掘状況

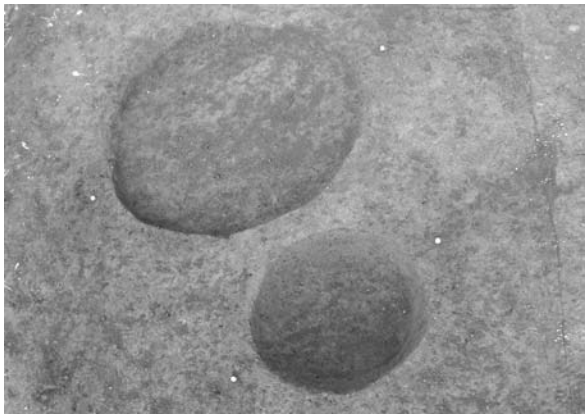
C 区　102・103 号土坑検出状況

C 区　103 号土坑検出状況

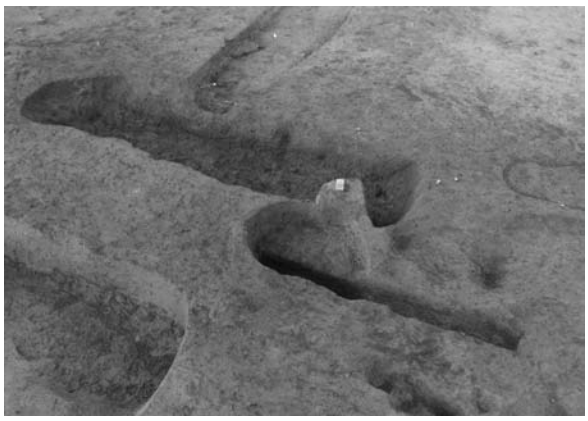
C 区　105・106 号土坑完掘状況

C 区　107 号土坑完掘状況


C 区　108 号土坑・51 号溝完掘状況

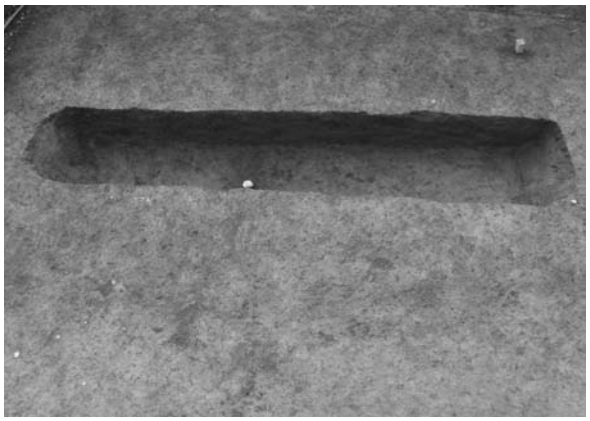

C 区　109 号土坑・21 号焼土完掘状況

C 区　110 号土坑完掘状況


C 区　112 号土坑完掘状況

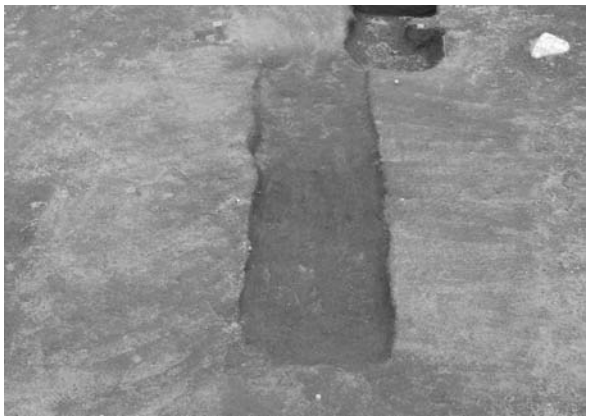
C 区　114 号土坑検出状況

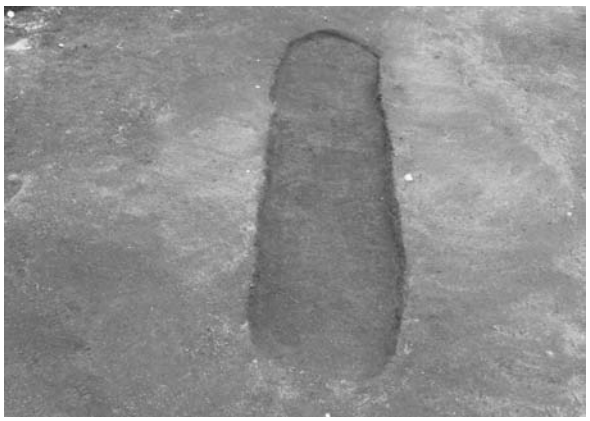
C 区　114 号土坑完掘状況

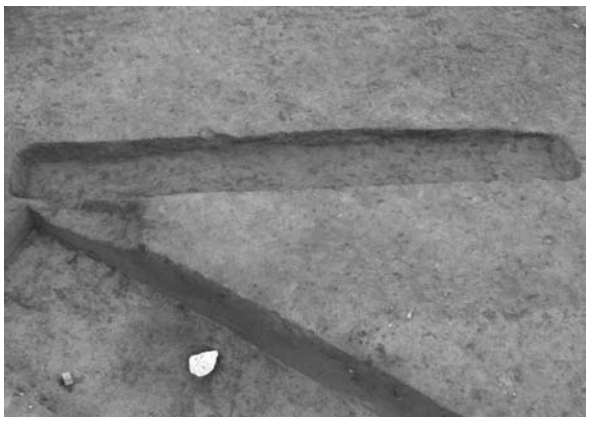

C 区　1 号溝完掘状況

C 区　2 号溝完掘状況

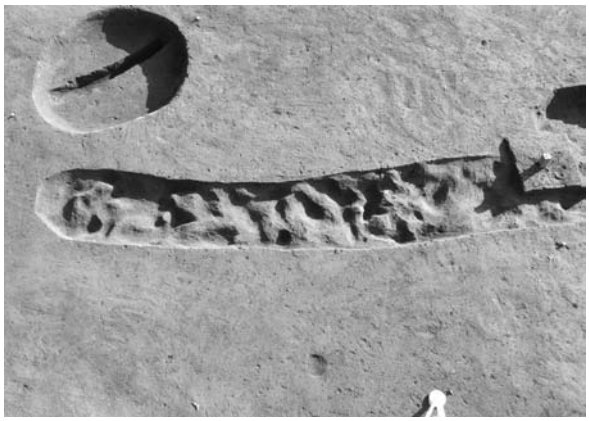
C 区　3 号溝完掘状況

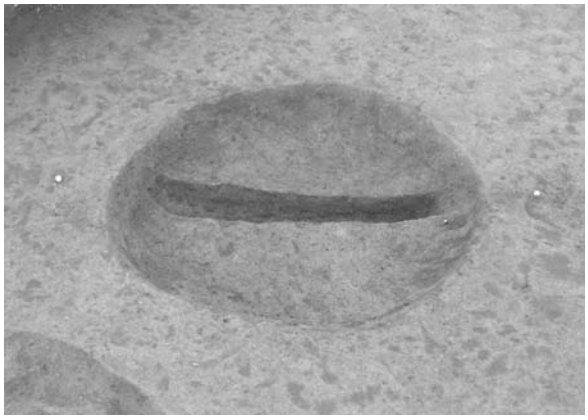

C 区　4 号溝完掘状況

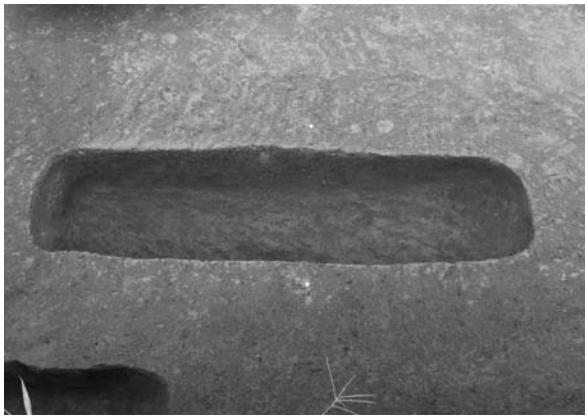

C 区　5 号溝完掘状況


C 区　6 号溝完掘状況

C 区　9 溝完掘状況

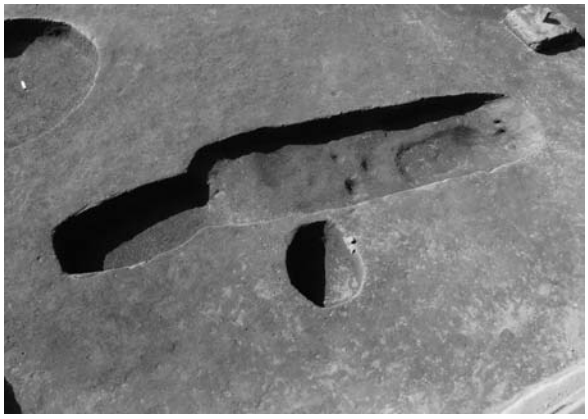

C 区　12 号溝完掘状況


C 区　42 号土坑完掘状況


C 区　14 号溝完掘状況

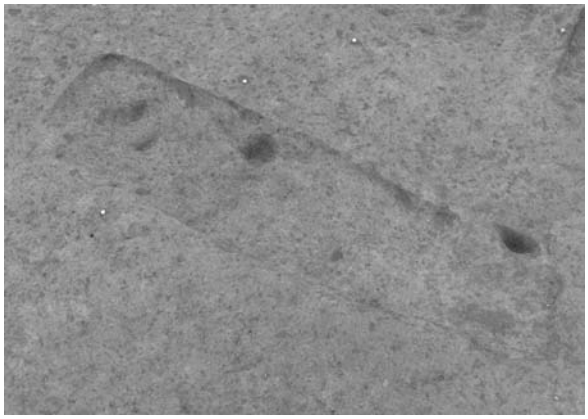
C 区　15 号溝完掘状況

C 区　16 号溝完掘状況

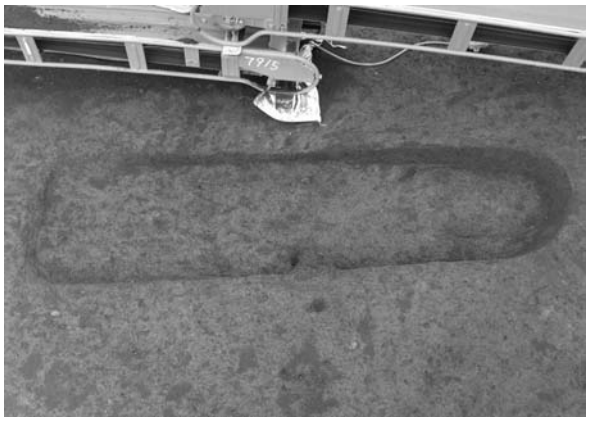

C 区　18 号溝完掘状況

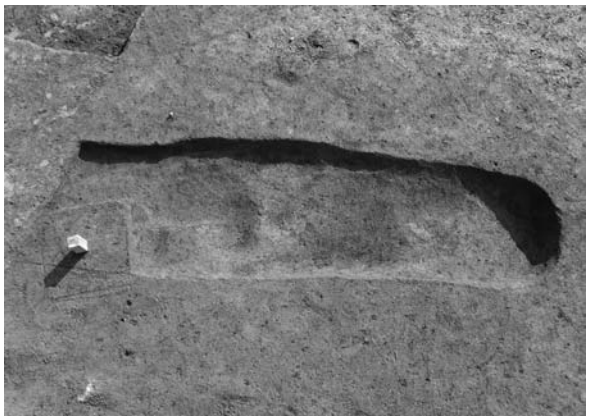
C 区　20 号溝・48 号土坑完掘状況

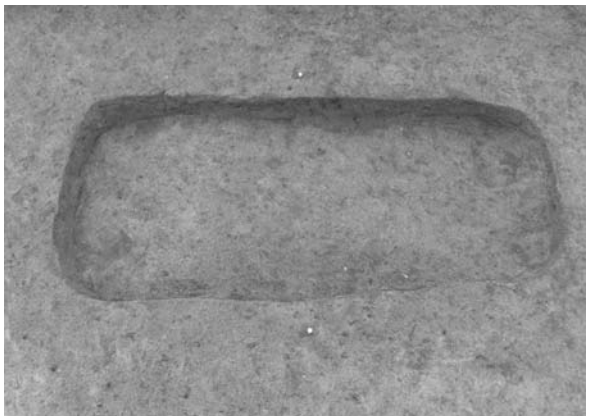
C 区　21 号溝完掘状況


C 区　26 号溝完掘状況

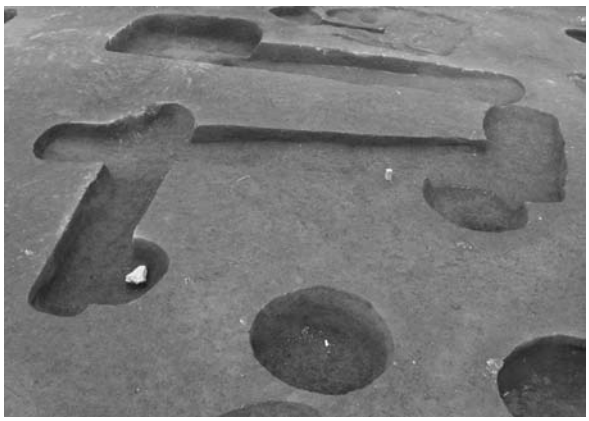
C 区　27・28 号溝完掘状況


C 区　29 号溝完掘状況

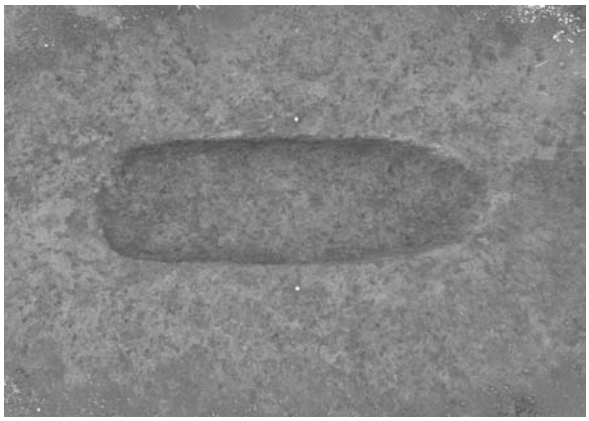

C 区　31 号溝完掘状況


C 区　32 号溝完掘状況

C 区　34 号溝完掘状況


C 区　35 号溝完掘状況

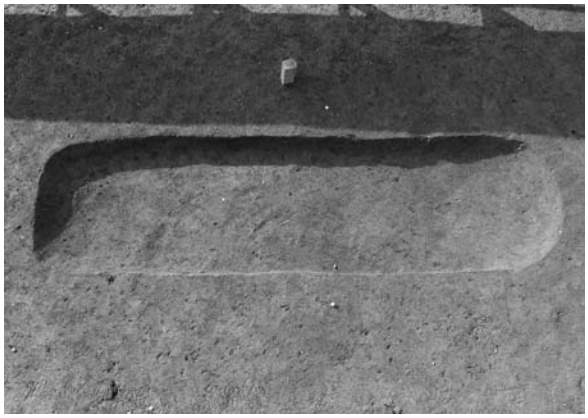
C 区　36 号溝完掘状況


C 区　37 号溝完掘状況

C 区　38 号溝・16 焼土土層断面

C 区　38 号溝完掘状況

C 区　39 号溝完掘状況

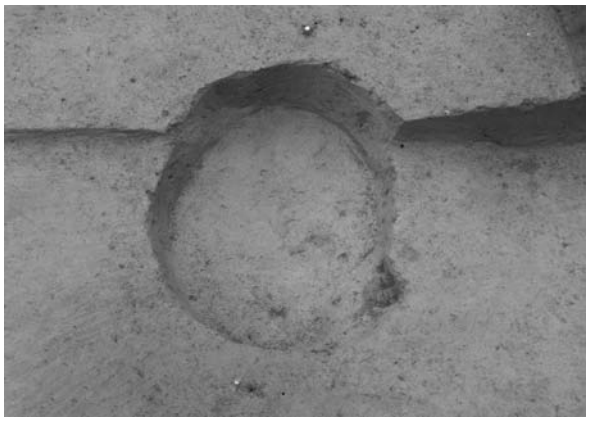

C 区　41 号溝完掘状況

C 区　43 号溝完掘状況

C 区　46・47 号溝完掘状況

C 区　50 号溝完掘状況

C 区　1 号焼土土層断面

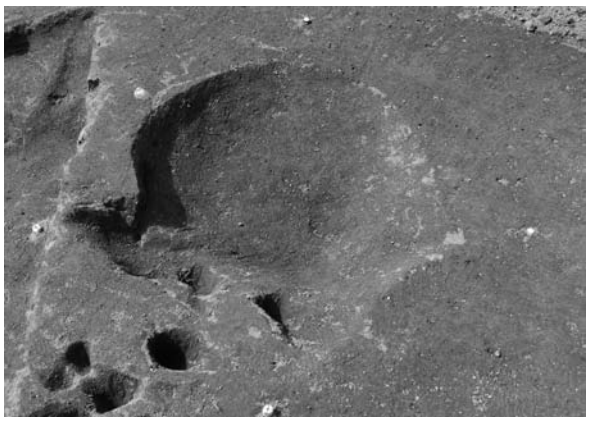

C 区　1 号焼土完掘状況

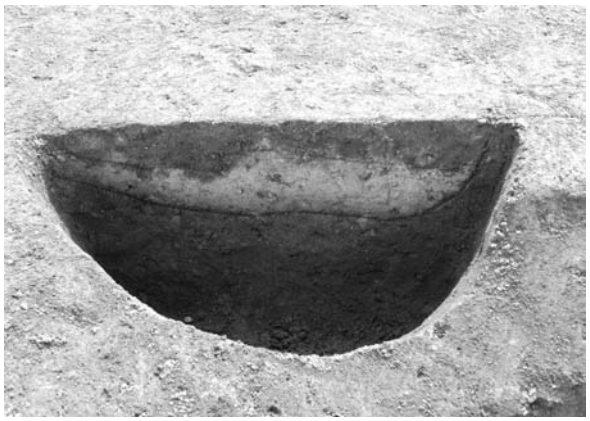
C 区　3・4 号焼土土層断面

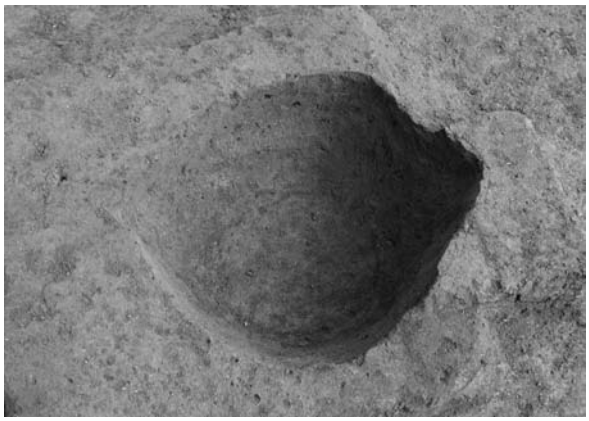
C 区　3・4 号焼土完掘状況

C 区　5 号焼土土層断面

C 区　6 号焼土土層断面


C 区　7 号焼土完掘状況


C 区　10 号焼土土層断面


C 区　10 号焼土完掘状況

C 区　15 号焼土完掘状況

C 区　16 焼土土層断面

C 区　18 号焼土検出状況

C 区　19 焼土土層断面

C 区　19 号焼土完掘状況

C 区　1 号集石検出状況

C 区　1 号集石 2 面検出状況

C 区　1 号集石 3 面検出状況

C 区　1 号集石完掘状況

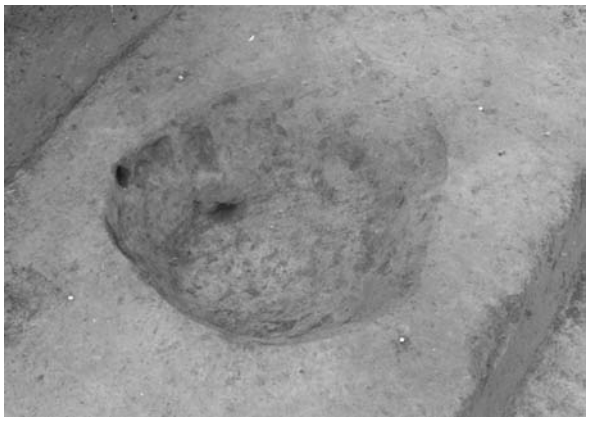
C 区　2 号集石検出状況

C 区　2 号集石 2 面検出状況

C 区　2 号集石 3 面検出状

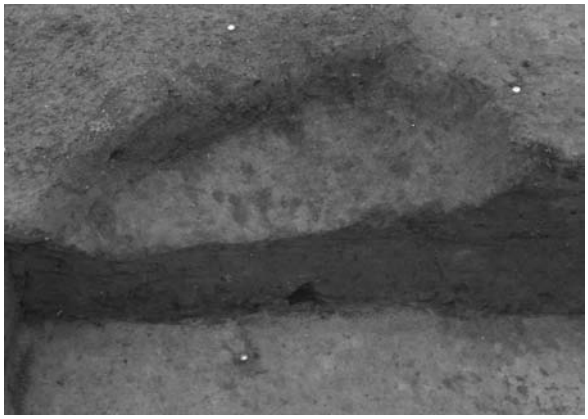
C 区　2 号集石 4 面検出状況

C 区　2 号集石 5 面検出状況


C 区　2 号集石完掘状況

C 区　3 号集石検出状況

C 区　3 号集石 2 面検出状況


C 区　3 号集石完掘状況

C 区　4 号集石検出状況

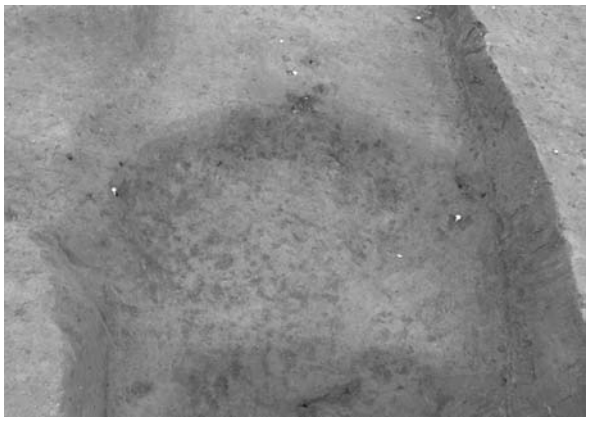
C 区　4 号集石 2 面検出状況

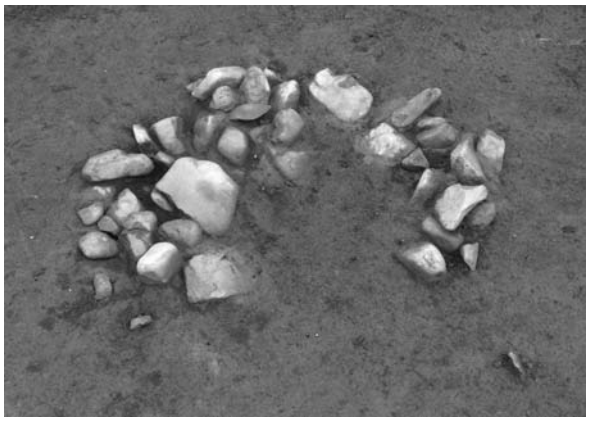
C 区　5 号集石検出状況

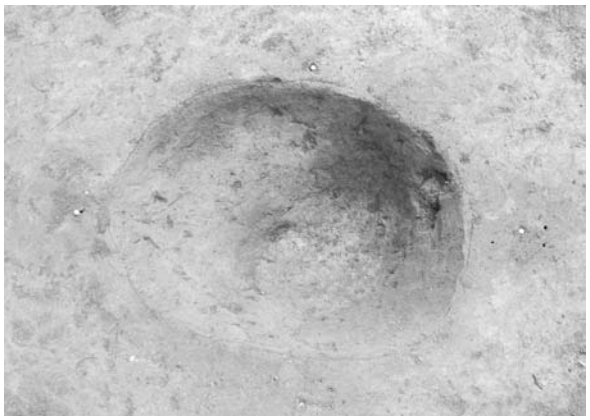
C 区　5 号集石 2 面検出状況

C 区　5 号集石 3 面検出状況

C 区　5 号集石 4 面検出状況


C 区　5 号集石完掘状況


C 区　6 号集石検出状況


C 区　6 号集石完掘状況

C 区　1 号配石検出状況

C 区　1 号配石 2 面検出状況

C 区　1 号配石 3 面検出状況

C 区　1 号配石 4 面検出状況

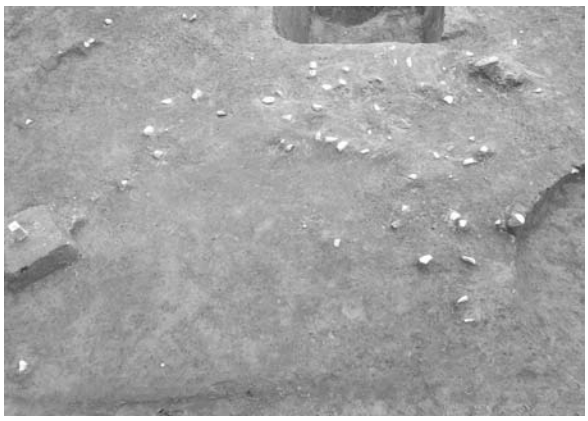
C 区　1 号配石内焼土検出状況

C 区　1 号配石焼土検出状況

C 区　1 号配石焼土土層断面

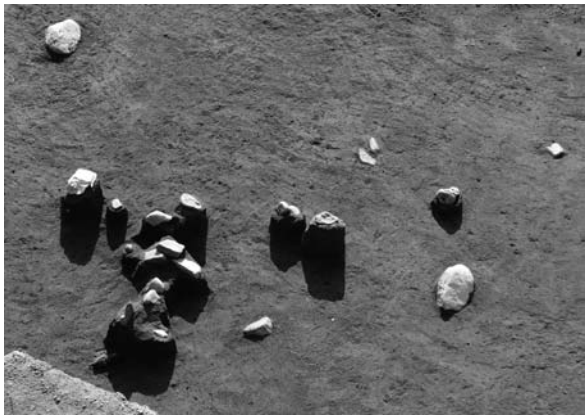
C 区　1 号配石完掘状況

C 区　2 号配石検出状況

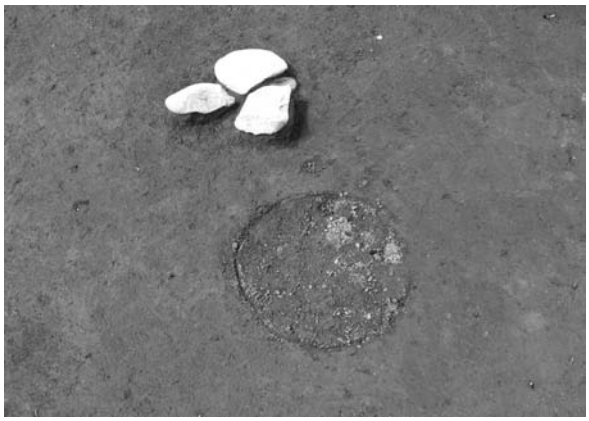

C 区　2 号配石 2 面検出状況

C 区　3 号配石検出状況

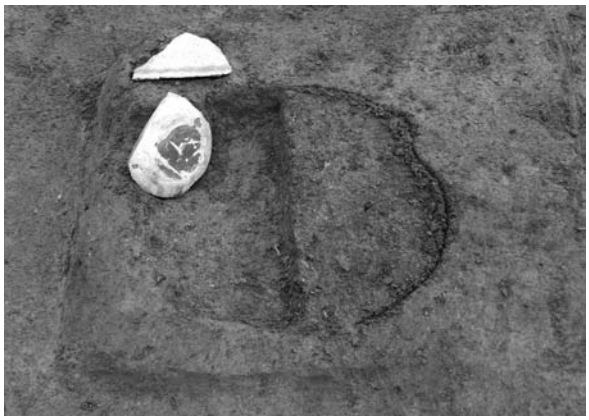
C 区　3 号配石断面検出状況


C 区　4 号配石検出状況

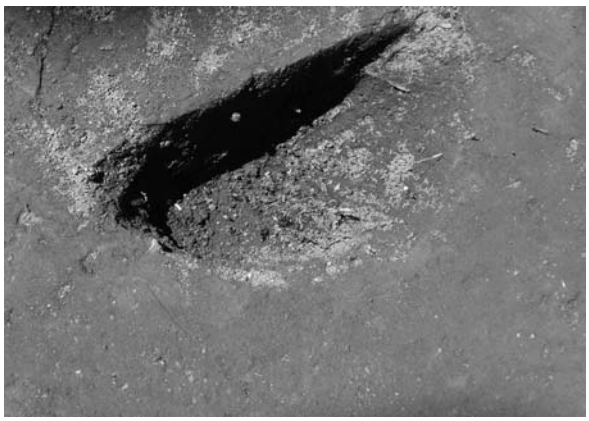
C 区　1 ～ 10 号ピット検出状況


C 区　11 号ピット検出状況

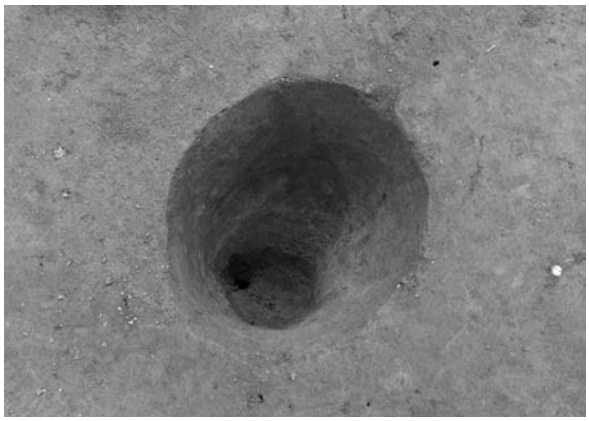
C 区　11 号ピット完掘状況


C 区　12 号ピット検出状況

C 区　12 号ピット遺物検出状況

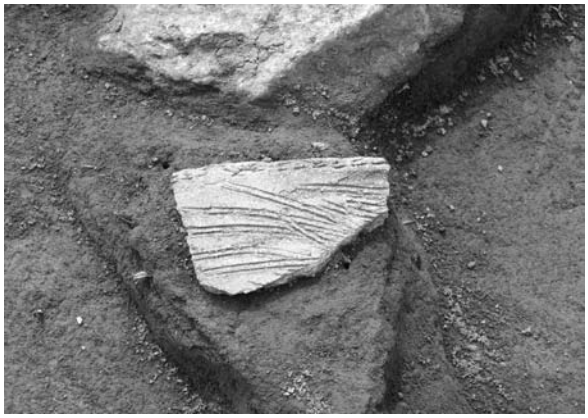

C 区　22 号ピット炭化物検出状況

C 区　22 号ピット完掘状況


C 区　23 号ピット検出状況

C 区　物集中区検出状況

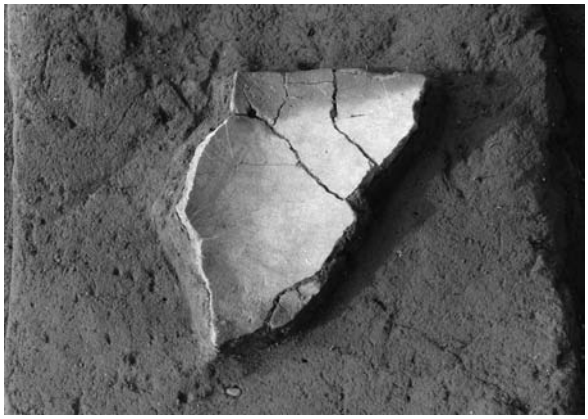
K16・K17 グリッド溶岩検出状況


K16・K17 グリッド溶岩付近遺物検出状況

K16・K17 グリッド溶岩検出状況 2

M20 グリッド遺物検出状況

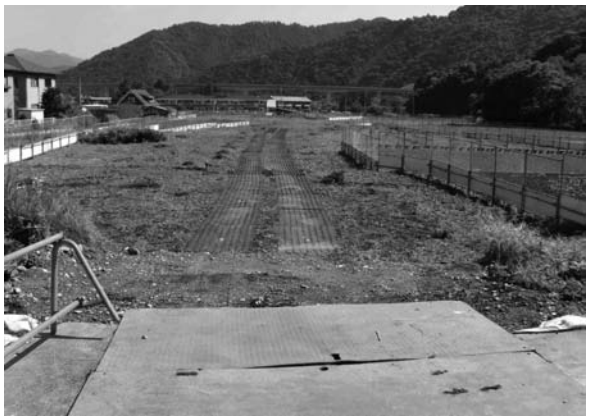
M20 グリッド遺物検出状況 2


M20 グリッド遺物検出状況 3

グリッド出土遺物（磨製石斧）

C 区　立石検出状況

C 区　立石検出状況 2


C 区　調査前南から

C 区調査前北から

C 区　水路付設還管

C 区　水路付設管（接続状況）

C 区　水路付設管（設置状況）

C 区　水路付設管養生

C 区　水路付設管養生完成

C 区　表土剥ぎ開始

C 区　表土剥ぎ風景

C 区　弥生時代遺物包含層確認状況

C 区　縄文時代の火山灰検出状況

C 区　遺構確認状況

C 区　調査風景北東から

C 区調査風景

第 63 図- 4（A 区 1　1 住）

第 63 図- 5（A 区 1　1 住）

第 63 図- 6（A 区 1　2 住）

第 63 図- 9（A 区 1　2 住）

第 64 図- 14（A 区 1　2 住）

第 63 図- 10（A 区 1　2 住）

第 64 図- 16（A 区 1　2 住）

第 64 図- 22（A 区 1　2 住）

第 64 図- 23（A 区 1　 2 住）

第 64 図- 30（A 区 1　 2 住）

第 65 図- 31（A 区 1　 2 住）

第 65 図- 32（A 区 1　 2 住）

第 66 図- 46（A 区 1　 2 住）

第 66 図- 48（A 区 1　 2 住）

第 67 図- 55（A 区 1　 3 住）

第 67 図- 63（A 区 1　 5 住）

第 67 図- 65（A 区 1　5 住）

第 73 図- 198（A 区 2-3　1 住）

第 73 図- 199（A 区 2-3　1 住）

第 74 図- 202（A 区 2-3　2 住）

第 74 図- 203（A 区 2-3　2 住）

第 74 図- 204（A 区 2-3　2 住）

第 74 図- 205（A 区 2-3　2 住）

第 74 図- 210（A 区 2-3　2 住）

第 74 図- 211（A 区 2-3　2 住）

第 75 図- 215（A 区 2-3　3 住）

第 75 図- 216（A 区 2-3　3 住）

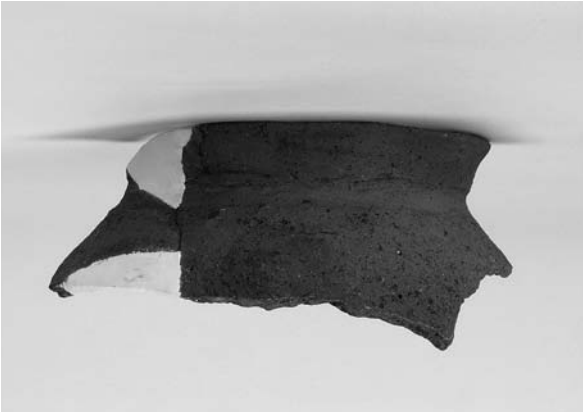
第 75 図- 217（A 区 2-3　3 住）

第 75 図- 218（A 区 2-3　3 住）

第 75 図- 219（A 区 2-3　3 住）

第 75 図- 222（A 区 2-3　3 住）

第 75 図- 223（A 区 2-3　3 住）



第 75 図- 224（A 区 2-3　3 住）

第 75 図- 227（A 区 2-3　3 住）

第 75 図- 229（A 区 2-3　3 住）

第 77 図- 268（C 区　37 土）

第 77 図- 270（C 区　12 ピット）

第 77 図- 270（C 区　12 ピット）

第 77 図- 269（C 区　65 土）

第 71 図- 165（A 区 2-2　4 竪）

第 72 図- 172（A 区 2-2　4 竪）

第 72 図- 173（A 区 2-2　4 竪）

第 72 図- 174（A 区 2-2　4 竪）

第 72 図- 180（A 区 2-2　石垣）

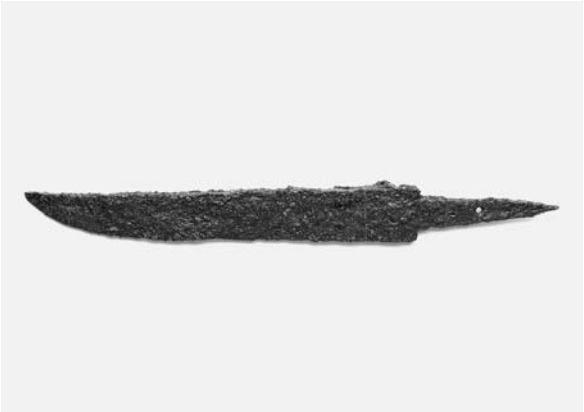
第 72 図- 181（A 区 2-2　石垣）　状況

第 73 図- 196（A 区 2-2　）

第 73 図- 197（A 区 2-2）

第 67 図- 62（A 区 1）　4 住

写真図版 70



第 68 図- 71（A 区 1　3 土）

第 68 図- 71（A 区 1　3 土）

第 68 図- 72（A 区 1　3 土）

第 68 図- 90（A 区 1　5 溝）

第 70 図- 124（A 区 1）

第 70 図- 124（A 区 1）

第 70 図- 124（A 区 2 - 1 ）

第 70 図- 124（A 区 2 - 1 ）

第 70 図- 126（A 区 1）

第 70 図- 128（A 区 1）

第 76 図- 239（A 区 2 - 1 ）

第 76 図- 241（A 区 2 - 1 ）

第 76 図- 246（A 区 2 - 2　石垣）

第 76 図- 256（A 区 2 - 3　 3 住）

第 76 図- 257（A 区 2 - 3　 3 住）

第 76 図- 258（A 区 2 - 3　 3 住）

第 77 図- 267（C 区 31 土）

第 77 図- 267（C 区 31 土）

第 78 図- 300（C 区）

第 78 図- 301（C 区）

第 79 図- 305（C 区）

第 79 図- 306（C 区）

第 82 図- 400（C 区）

第 82 図- 406（A 区 1 ）

第 82 図- 408（C 区）

第 83 図- 416（C 区）

第 85 図- 440（C 区）

第 86 図- 444（C 区）

第 85 図- 442（C 区）

第 87 図- 450（C 区）

第 87 図- 451（C 区）

第 87 図- 453（C 区）

第 82 図- 407・401 ～ 405

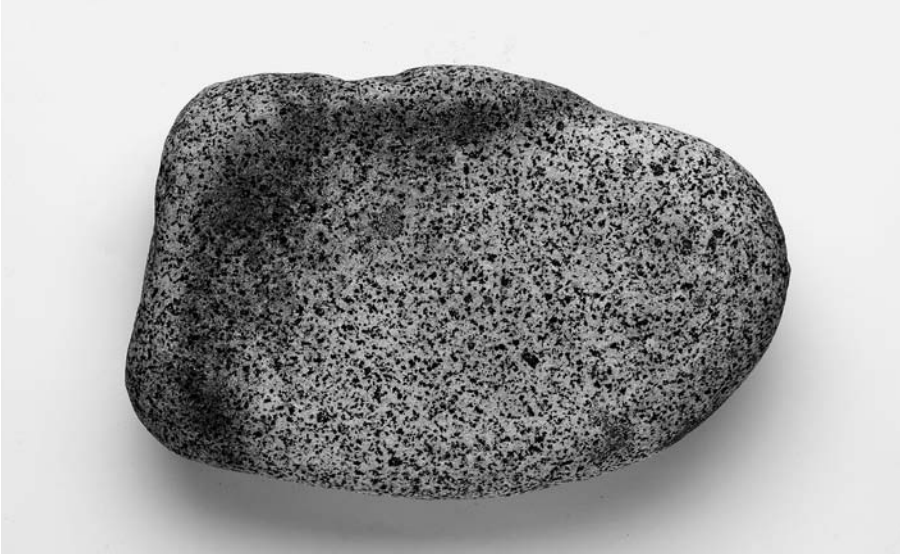
第 82 図- 409、第 83 図- 410 ～ 414

第 84 図- 429 ～ 433

第 83 図- 417 ～ 428

第 84 図- 436（A 区 2-3）

第 84 図- 437（A 区 2-3）



第 84 図- 438（C 区）

A2 区　出土鉄製品

A2 区　出土鉄製品

A2 区　出土銭・キセル

第 78 図- 281 ～ 302（C 区縄文土器 1）

第 79 図- 307 ～ 326 ～ 302（C 区縄文土器 2）

第 80 図- 327 ～ 355（C 区縄文土器 3）

第 81 図- 356 ～ 399（C 区弥生土器）

報　告　書　抄　録

ふ　り　が　な	みとおしいせきえー・しーく
書　　名	美通遺跡Ａ・Ｃ区
副　書　名	国道 139 号（都留バイパス）建設に伴う発掘調査報告書
シ リ ー ズ 名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書
シ リ ー ズ 番 号	第 274 集
編　著　者　名	笠原みゆき、依田幸浩、塩谷風季、パリノ・サーヴェイ株式会社
編　集　機　関	山梨県埋蔵文化財センター
所　在　地	〒 400-1508　山梨県甲府市下曽根町 923　TEL055-266-3016
発　行　者	山梨県教育委員会、国土交通省 関東地方整備局
発 行 年 月 日	2011 年３月 25 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯（新）	東経（新）	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
みとおしいせきえー・しーく 美通遺跡Ａ・Ｃ区	やまなしけんつるしいぐら 山梨県都留市井倉地内	19204	都留 31	35° 34′ 22″	138° 55′ 59″	20090629 ～ 20091225	6,180	国道 139 号 （都留バイパス） 建設工事

種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
集落跡	縄文時代早期～前期	竪穴住居跡１軒 集石土坑６基 焼土遺構１基 土坑１０基 遺物集中区２	縄文土器、石器	遺物集中区から、早期後半の土器と石器が出土。 住居の床直から台石が出土した。
集落跡	縄文時代後期	配石遺構４基	縄文土器、石器	１号配石からは、縄文時代後期の遺物片が出土。
散布	弥生時代前期から中期		弥生土器、石器	Ａ区１では、磨製石鏃が出土。
集落跡	奈良時代～平安時代	竪穴住居跡 11 軒 掘立柱建物跡３軒 柱穴列１列	土師器・須恵器・石器 鉄製品など	竪穴住居跡から土師器・須恵器が多く出土するが、 駿東型の甕の破片が目立つ。Ａ区２－３　３住ではカマド廃棄に関わるマツリの様子がうかがえる。
集落跡・ 墓域	１３世紀から１４世紀	土坑３基	陶器・鉄製品・人骨	瀬戸産鉄釉薬小壺や在地産の甕が出土。
	時期不明	土坑　約 200 期 溝状遺構　約 80 条 焼土遺構　23 期 ピット　約 190 期		人頭大の礫が入るものが、時々みられる。

要約

美通遺跡は山梨県都留市井倉地内に位置する遺跡で、本書はそのＡ・Ｃ区の調査報告書である。調査の結果、Ａ区１・Ａ区２－３からは、奈良時代～平安時代の住居跡と掘立柱建物跡、平安時代以降の土坑・溝状遺構多数が発見された。遺物は土師器・須恵器が大半で、特に駿東型の甕の破片が多い。また、弥生時代の磨製石鏃などの石器・短刀などの金属製品も出土している。Ａ区２－１・２からは、土坑・溝状遺構が発見された。遺物は、遺構外ではあるが、猿形土製品や金属製品、陶磁器類多く出土している。Ｃ区からは、縄文時代早期後半～前期にかけての住居跡・集石土坑、平安時代末頃の住居跡、１３世紀から１４世紀頃の土坑、平安時代以降の土坑・溝状坑遺構多数・焼土遺構などが発見された。

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第 274 集

美通遺跡Ａ・Ｃ区

国道 139 号（都留バイパス）建設工事に伴う発掘調査報告書

印刷日　2011 年（平成 23 年３月 22 日）
発行日　2011 年（平成 23 年３月 25 日）
編　集　山梨県埋蔵文化財センター
　　山梨県甲府市下曽根町 923
　　TEL 055-266-3016
発　行　山梨県教育委員会
　　国土交通省 関東地方整備局
印　刷　株式会社峡南堂印刷所